

高松東道路建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊

# 太田下・須川遺跡

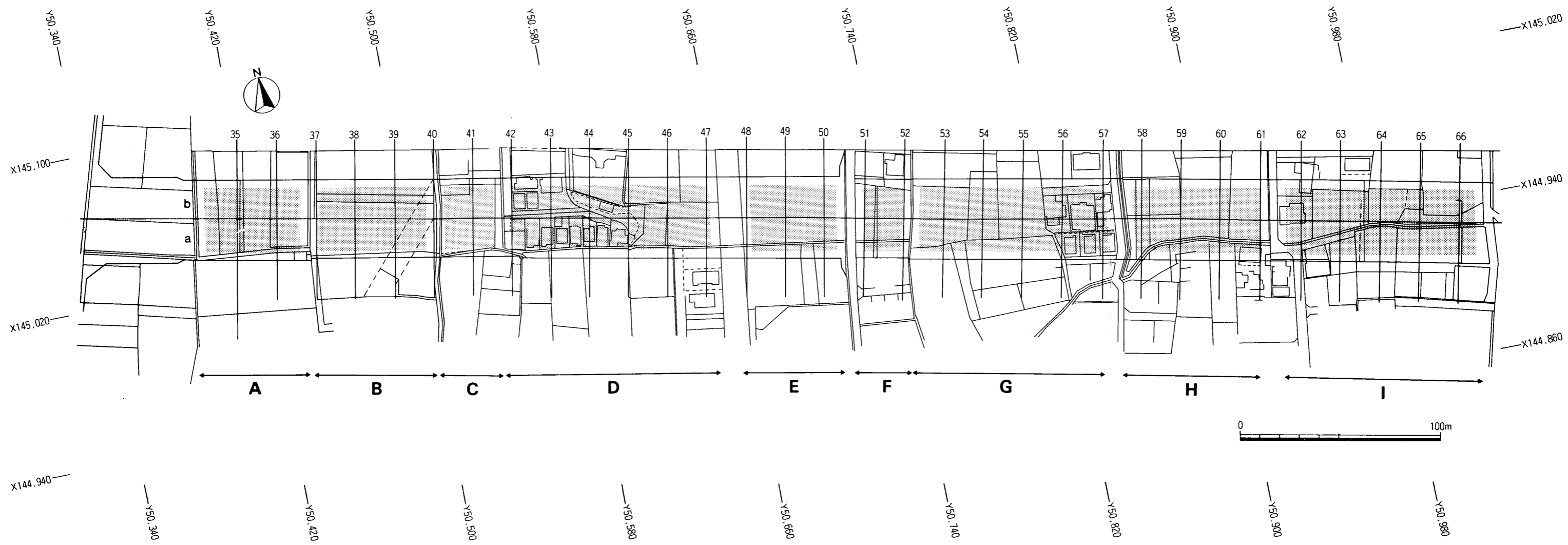
1995.3

香川県教育委員会  
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
建設省四国地方建設局

「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 太田下・須川遺跡」正誤表

頁	行	誤	正
107	24	507～511は器台である。	507～511は器台・高杯である。
	30	518・519	517～519
109	23	519は磨石である。	520は磨石である。
116		第113図 包含装出土	第113図 包含層出土
121	26	635～650	635～652
122	21	曲物の蓋である	曲物の底板である
132	17	723～729	722～729
136	16	763～772	762～772
154	11	927～930	927・929・930
172	23	1009～1011	1009～1012
186	18	1069・1070・1072～1076	1069・1070・1072～1075
	20	(1075・1076)	(1075)
342	796	製塩土器	脚付鉢
348	870	鉢または鉢	甕または鉢
363	1071	(体部)	(頸部)
374	673	不明	打製石斧

※3～4頁の第1図グリッド配置図は別刷第1図と差し替え方、お願いいたします。



第1図 調査グリッド配置図

高松東道路建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊

# 太田下・須川遺跡

1995. 3

香 川 県 教 育 委 員 会  
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
建設省四国地方建設局



(1) 遺跡遠景 (東から)



(2) SR02出土線刻土器 (154)



(3) 同線刻部分



(4) SD14出土樽形甕 (822)



(5) 堅穴住居跡出土装身具 (981.1014)

# 序 文

香川県では、昭和63年4月の瀬戸大橋の開通、平成元年12月の新高松空港の開港、平成4年5月の四国横断自動車道（高松～善通寺間）の開通など、高速交通網の整備が精力的に進められております。

県東部の重要な幹線道路であります高松東道路の建設に伴い香川県教育委員会では、埋蔵文化財の発掘調査と調査報告書の作成・刊行を、昭和63年度から財団法人香川県埋蔵文化調査センターに委託して実施してまいりましたが、香川県における先人の営みを明らかにする多くの資料を得ることができました。

今回「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第四冊」として刊行いたしますのは、高松市太田下町ほかに所在します太田下・須川遺跡についてであります。

太田下・須川遺跡の調査では、鹿と思われる動物の絵を刻んだ弥生土器が自然河川跡から出土いたしました。豊猟を願う先人たちの祈りが伝わってくるようです。また、古墳時代中期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、溝状遺構などがまとまって発見され、さらに我国に伝わって間もないころの須恵器が出土するなど、時代の先取性に富んだ生活の一端を垣間見ることができました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が深められる一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告書の刊行にいたるまでの間、建設省四国地方建設局及び関係諸機関並びに地元関係各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともよろしく御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成7年3月

香川県教育委員会

教育長 田中壮一郎

# 例 言

1. 本報告書は、高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第4冊で、香川県高松市太田下町に所在する太田下・須川遺跡（おおたしも・すがわいせき）の報告を収録した。

2. 発掘調査は、香川県教育委員会が建設省四国地方建設局から委託され、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3. 発掘調査は、試掘調査を香川県教育委員会事務局文化行政課が昭和63年6月20日～29日、7月11日～20日まで実施し、本調査のうちA地区からI地区までを平成元年4月1日～平成2年3月31日まで、I地区の一部を平成2年4月1日から同年4月28日まで実施した。発掘調査の担当は以下のとおりである。

試掘調査 香川県教育委員会事務局文化行政課 安藤清和

本調査 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

廣瀬常雄・鍋井一視・森下友子（旧姓嶋村）・北山健一郎・  
森格也・稲田美穂子・秋山成人・山元敏裕・西中一伸・  
多田政弘・間瀬香

4. 発掘調査および整理作業にあたっては、下記の機関ならびに下記の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

建設省四国地方建設局、同香川工事事務所、高松市教育委員会、高松市歴史資料館、笹川龍一、山本英之、山元敏裕、地元自治会

5. 本遺跡の報告にあたっては、下記に鑑定を依頼し、玉稿をいただいた。

赤色顔料分析 安田博幸（武庫川女子大学）

胎土分析 三辻利一（奈良教育大学）

奥田 尚（八尾市立曙川小学校）



6. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第IV系の北であり、標高はT. P. を基準としている。

7. 調査はA～I地区の9調査区に分けて行なった。また、各調査区の調査面を第○面とする。

8. 遺構は下記の略号により表示しており、遺構番号は各調査区ごとの番号とした。

SA	柵列	SB	掘立柱建物跡	SD	溝状遺構
SH	竪穴住居跡	SK	土坑	SP	柱穴・小穴
SR	自然河川	ST	墓	SX	不明遺構

9. 遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。

縄文土器・弥生土器・土師器・土師質土器・黒色土器……白  
須恵器・須恵質土器・陶磁器……………黒

10. 本報告書は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが作成した。

本書の執筆分担は下記のとおりである。編集は、主として北山が担当し、森下の補佐を得た。

第1章，第2章，第3章，第5章第3節……………北山  
第3章，第5章第1節・第2節……………森下

# 目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
1. 発掘調査の経過	2
2. 整理作業の経過	9
第2章 立地と環境	11
第1節 地理的環境	11
第2節 歴史的環境	12
第3章 調査の成果	22
第1節 土層序	22
第2節 遺構・遺物	33
1. 弥生時代以前の遺構・遺物	33
2. 弥生時代～古墳時代の遺構・遺物	121
3. 古墳時代の遺構・遺物	157
4. 古代の遺構・遺物	191
5. 中世の遺構・遺物	204
6. 近世の遺構・遺物	221
第4章 自然科学的分析	225
第1節 太田下・須川遺跡におけるプラント・オパール分析	225
第2節 太田下・須川遺跡から出土した木製品の樹種	232
第3節 太田下・須川遺跡の出土土器にかかわる赤色顔料物質の微量化学分析	239
第4節 太田下・須川遺跡出土初期須恵器の蛍光X線分析	244
第5節 太田下・須川遺跡の土器の砂礫	249
第5章 考察およびまとめ	271
第1節 胎土 1類土器について	271
第2節 古墳時代の土器について	283
第3節 まとめ	289

# 挿図目次

第1図	グリッド配置図	3	第29図	S K07平・断面図	44
第2図	太田下・須川遺跡位置図	11	第30図	S K08平・断面図	45
第3図	周辺の遺跡図	13	第31図	S K09平・断面図	45
第4図	南壁土層断面図	23	第32図	S K13平・断面図	46
第5図	南壁土層断面模式図	25	第33図	S K13出土遺物実測図	47
第6図	弥生時代以前遺構配置図	29	第34図	S K14平面図	47
第7図	弥生時代遺構配置図	31	第35図	S K14出土遺物実測図	47
第8図	S H01平・断面図	34	第36図	S K15平・断面図	48
第9図	S H01内土坑遺物出土状況平・断面図	34	第37図	S K15出土遺物実測図	48
第10図	S H01出土遺物実測図(1)	35	第38図	S K16・17平・断面図	49
第11図	S H01出土遺物実測図(2)	36	第39図	S K18平・断面図	49
第12図	S B01平・断面図	36	第40図	S K19平・断面図	49
第13図	S B02平・断面図	37	第41図	S K20平・断面図	50
第14図	S B03平・断面図	37	第42図	S K20出土遺物実測図	50
第15図	S B03出土遺物実測図	38	第43図	S K21平・断面図	50
第16図	S B04平・断面図	39	第44図	S K22平・断面図	51
第17図	S B04出土遺物実測図	39	第45図	S K22出土遺物実測図	51
第18図	S B05平・断面図	39	第46図	S K23平・断面図	51
第19図	S B05出土遺物実測図	39	第47図	S K23出土遺物実測図	51
第20図	S B06平・断面図	40	第48図	S T01平・断面図	52
第21図	S B07平・断面図	40	第49図	S T01出土遺物実測図	52
第22図	S B07出土遺物実測図	40	第50図	S T02平・断面図	53
第23図	S B08平・断面図	41	第51図	S T02出土遺物実測図	53
第24図	S B09平・断面図	42	第52図	S D02土層断面図	54
第25図	S B09出土遺物実測図	42	第53図	S D03土層断面図	55
第26図	S P01出土遺物実測図	43	第54図	S D03出土遺物実測図	55
第27図	S K04平・断面図	44	第55図	S D04出土遺物実測図	56
第28図	S K05平・断面図	44	第56図	S D04平・断面図	57

第57図	S D 05土層断面図……………	58	第87図	S R 02出土遺物実測図(18)……	87
第58図	S D 05出土遺物実測図……………	58	第88図	S R 02出土遺物実測図(19)……	88
第59図	S D 07出土遺物実測図……………	59	第89図	S R 03土層断面図……………	90
第60図	S D 08土層断面図……………	60	第90図	S R 03遺物出土状況平面図……	91
第61図	S D 08出土遺物実測図……………	60	第91図	S R 03出土遺物実測図(1)……	92
第62図	S D 10土層断面図……………	61	第92図	S R 03出土遺物実測図(2)……	93
第63図	S D 11遺物出土状況平・断面図	61	第93図	S R 03出土遺物実測図(3)……	94
第64図	S D 11出土遺物実測図……………	62	第94図	S R 03出土遺物実測図(4)……	95
第65図	S D 12土層断面図……………	62	第95図	S R 03出土遺物実測図(5)……	95
第66図	S D 12出土遺物実測図……………	62	第96図	S R 03出土遺物実測図(6)……	96
第67図	S R 01出土遺物実測図……………	63	第97図	S R 03・04土層断面図……………	98
第68図	S R 01北壁土層断面図……………	64	第98図	S R 03・04遺物出土状況平面図	99
第69図	S R 02平・断面図……………	65	第99図	S R 04階段状遺構平・断面図…	100
第70図	S R 02出土遺物実測図(1)……	70	第100図	S R 04出土遺物実測図(1)……	101
第71図	S R 02出土遺物実測図(2)……	71	第101図	S R 04出土遺物実測図(2)……	102
第72図	S R 02出土遺物実測図(3)……	72	第102図	S R 04出土遺物実測図(3)……	103
第73図	S R 02出土遺物実測図(4)……	73	第103図	S R 04出土遺物実測図(4)……	104
第74図	S R 02出土遺物実測図(5)……	74	第104図	S R 04出土遺物実測図(5)……	105
第75図	S R 02出土遺物実測図(6)……	75	第105図	S R 04出土遺物実測図(6)……	106
第76図	S R 02出土遺物実測図(7)……	76	第106図	S R 04出土遺物実測図(7)……	107
第77図	S R 02出土遺物実測図(8)……	77	第107図	S R 04出土遺物実測図(8)……	108
第78図	S R 02出土遺物実測図(9)……	78	第108図	S R 04出土遺物実測図(9)……	109
第79図	S R 02出土遺物実測図(10)……	79	第109図	S R 04出土遺物実測図(10)……	111
第80図	S R 02出土遺物実測図(11)……	80	第110図	包含層出土遺物実測図(1)……	113
第81図	S R 02出土遺物実測図(12)……	81	第111図	包含層出土遺物実測図(2)……	114
第82図	S R 02出土遺物実測図(13)……	82	第112図	包含層出土遺物実測図(3)……	115
第83図	S R 02出土遺物実測図(14)……	83	第113図	包含層出土遺物実測図(4)……	116
第84図	S R 02出土遺物実測図(15)……	84	第114図	包含層出土遺物実測図(5)……	117
第85図	S R 02出土遺物実測図(16)……	85	第115図	包含層出土遺物実測図(6)……	118
第86図	S R 02出土遺物実測図(17)……	86	第116図	弥生～古墳時代遺構配置図……	119

第117図	S X02出土遺物実測図(1)……123	第147図	S D17出土遺物実測図(2)……148
第118図	S X02出土遺物実測図(2)……124	第148図	S D17出土遺物実測図(3)……149
第119図	S X02出土遺物実測図(3)……125	第149図	S D14・15・18・19土層断面図 ……150
第120図	S X02出土遺物実測図(4)……126	第150図	S D18出土遺物実測図(1)……150
第121図	S X02出土遺物実測図(5)……127	第151図	S D14・15・18・19 木樋出土状況平面図 ……151
第122図	S X02出土遺物実測図(6)……128	第152図	S D18出土遺物実測図(2)……152
第123図	S X02出土遺物実測図(7)……129	第153図	S D15・19土層断面図………153
第124図	S X02出土遺物実測図(8)……129	第154図	S D19出土遺物実測図………153
第125図	S X02出土遺物実測図(9)……130	第155図	S D20土層断面図………154
第126図	S X02出土遺物実測図(10)……131	第156図	S D20出土遺物実測図………154
第127図	S X02出土遺物実測図(11)……132	第157図	古墳時代遺構配置図………155
第128図	S X02出土遺物実測図(12)……133	第158図	S H02遺物出土状況平面図……157
第129図	S X02出土遺物実測図(13)……134	第159図	S H02平・断面図………158
第130図	S D13土層断面図………134	第160図	S H02出土遺物実測図(1)……160
第131図	S D13出土遺物実測図………135	第161図	S H02出土遺物実測図(2)……161
第132図	S D13・14土層断面図………136	第162図	S H02出土遺物実測図(3)……162
第133図	S D14土層断面図………136	第163図	S H03平・断面図………164
第134図	S D14出土遺物実測図(1)……137	第164図	S H03出土遺物実測図………164
第135図	S D14出土遺物実測図(2)……138	第165図	S H04遺物出土状況平面図……165
第136図	S D14出土遺物実測図(3)……139	第166図	S H04平・断面図………166
第137図	S D15・16・17土層断面図……141	第167図	S H04出土遺物実測図………167
第138図	S D15・17土層断面図………141	第168図	S H05平・断面図………169
第139図	S D15・16・17遺物出土分布図142	第169図	S H05柱穴出土柱材実測図……169
第140図	S D15出土遺物実測図(1)……143	第170図	S H05出土遺物実測図(1)……170
第141図	S D15出土遺物実測図(2)……144	第171図	S H05出土遺物実測図(2)……170
第142図	S D15出土遺物実測図(3)……145	第172図	S H06遺物出土状況平面図……171
第143図	S D15出土遺物実測図(4)……146	第173図	S H06平・断面図………172
第144図	S D15出土遺物実測図(5)……146	第174図	S H06出土遺物実測図(1)……172
第145図	S D16出土遺物実測図………146	第175図	S H06出土遺物実測図(2)……173
第146図	S D17出土遺物実測図(1)……147		

第176図	S B 10平・断面図	173	第206図	S D 34土層断面図	194
第177図	S B 10出土遺物実測図	173	第207図	S D 34出土遺物実測図(1)	194
第178図	S B 11平・断面図	174	第208図	S D 34出土遺物実測図(2)	194
第179図	S B 12平・断面図	175	第209図	S D 35土層断面図	194
第180図	S B 12柱穴出土柱材実測図	176	第210図	S R 05平・断面図	196
第181図	S B 13平・断面図	177	第211図	S R 05出土遺物実測図(1)	197
第182図	S B 14平・断面図	177	第212図	S R 05出土遺物実測図(2)	198
第183図	S B 15平・断面図	178	第213図	S R 05出土遺物実測図(3)	199
第184図	S B 16平・断面図	179	第214図	S R 05出土遺物実測図(4)	200
第185図	S B 17平・断面図	180	第215図	S R 05出土遺物実測図(5)	201
第186図	S B 18平・断面図	181	第216図	包含層出土遺物実測図	203
第187図	S B 19平・断面図	181	第217図	S B 20平・断面図	204
第188図	S K 24平・断面図	182	第218図	中世遺構配置図	205
第189図	S K 24出土遺物実測図	182	第219図	S B 21平・断面図	207
第190図	S X 01平・断面図	183	第220図	S B 21出土遺物実測図	207
第191図	S X 01出土遺物実測図	183	第221図	S B 22平・断面図	208
第192図	S D 21土層断面図	183	第222図	S B 23平・断面図	208
第193図	S D 21出土遺物実測図	184	第223図	S B 24平・断面図	209
第194図	S D 22出土遺物実測図	185	第224図	S B 25平・断面図	210
第195図	S D 23土層断面図	185	第225図	S B 26平・断面図	210
第196図	S D 24土層断面図	185	第226図	S B 27平・断面図	211
第197図	包含層出土遺物実測図(1)	187	第227図	S B 28平・断面図	211
第198図	包含層出土遺物実測図(2)	188	第228図	S B 28出土遺物実測図	211
第199図	古代遺構配置図	189	第229図	S B 29平・断面図	212
第200図	S D 26出土遺物実測図	191	第230図	S B 30平・断面図	213
第201図	S D 27出土遺物実測図	191	第231図	S B 31平・断面図	213
第202図	S D 28出土遺物実測図	192	第232図	S P 02出土遺物実測図	214
第203図	S D 31出土遺物実測図	193	第233図	S P 03出土遺物実測図	214
第204図	S D 32出土遺物実測図	193	第234図	S K 25平・断面図	215
第205図	S D 33出土遺物実測図	193	第235図	S K 26平・断面図	215

第236図	S K 27平・断面図	216	第253図	S R 01プラント・オパール採取地点	228
第237図	S K 27出土遺物実測図	216	第254図	主な植物の推定生産量と変遷	229
第238図	S D 群出土遺物実測図	217	第255図	三谷三郎池窯と宮山窯の須恵器の相互 識別(K・Ca・Rb・Sn因子使用)	244
第239図	包含層出土遺物実測図	218	第256図	太田下・須川遺跡出土初期須恵器の Rb—Sr分布図	246
第240図	近世遺構配置図	219	第257図	高松平野の地質と砂礫採取地点	250
第241図	S K 29平・断面図	221	第258図	砂礫種構成区分による各類型の土器(1)	277
第242図	S K 29出土遺物実測図	221	第259図	砂礫種構成区分による各類型の土器(2)	278
第243図	S K 31平面図	222	第260図	砂礫種構成区分による各類型の土器(3)	279
第244図	S K 31出土遺物実測図	222	第261図	砂礫種構成区分による各類型の土器(4)	280
第245図	S K 32平面図	222	第262図	砂礫種構成区分による各類型の土器(5)	281
第246図	S K 32出土遺物実測図	222	第263図	砂礫種構成区分による各類型の土器(6)	282
第247図	S K 33平面図	223	第264図	三谷三郎池西岸窯跡出土須恵器実測図	284
第248図	S K 33出土遺物実測図	223	第265図	下川津遺跡S H II 33出土土器実測図	286
第249図	S K 34平面図	223	第266図	空港跡地遺跡S H 79出土土器実測図	286
第250図	S K 34出土遺物実測図	223			
第251図	S K 35平面図	223			
第252図	包含層出土遺物実測図	224			

## 表 目 次

第1表	整理作業工程表	10	第9表	太田下・須川遺跡出土初期須恵器の 分析値	247
第2表	周辺の遺跡一覧表①	14	第10表	産地推定の結果	248
第3表	周辺の遺跡一覧表②	15	第11表	砂礫種構成表	257
第4表	周辺の遺跡一覧表③	16	第12表	土器・陶磁器観察表	291
第5表	プラント・オパール分析結果	229	第13表	石器観察表	372
第6表	樹種同定結果	233	第14表	木器観察表	376
第7表	ジフェニルカルバジドによる呈色 スポットのR f 値と色調	241			
第8表	ジチゾンによる呈色スポットのR f 値と色調	242			

## 付 図 目 次

付図1	A・B地区遺構配置図
付図2	C・D地区遺構配置図
付図3	E地区遺構配置図
付図4	F・G地区遺構配置図
付図5	H地区遺構配置図
付図6	I地区遺構配置図

# 写真・図版目次

巻頭図版 (1) 遺跡遠景 (東から)	(10) B地区第1面C地区第2面
(2) S R02出土線刻土器	全景 (北より)
(3) 同線刻部分	図版6 (11) B地区第2面C地区全景
(4) S D14出土樽形甕	(北より)
(5) 竪穴住居跡出土装身具	(12) B地区第2面全景 (南より)
	図版7 (13) B地区第2面全景 (東より)
写真1 プラント・オパール顕微鏡写真(1) …230	(14) B地区第1面ピット列
写真2 プラント・オパール顕微鏡写真(2) …231	(東より)
写真3 材の顕微鏡写真(1) ……………237	図版8 (15) B地区南壁土層断面
写真4 材の顕微鏡写真(2) ……………238	(北東より)
写真5 弥生土器胎土(1) ……………263	(16) B地区南壁土層断面(北より)
写真6 弥生土器胎土(2) ……………264	図版9 (17) C地区第1面全景 (東より)
写真7 弥生土器胎土(3) ……………265	(18) C地区第2面全景 (東より)
写真8 弥生土器胎土(4) ……………266	図版10 (19) C地区南拡張区全景(東より)
写真9 弥生土器胎土(5) ……………267	(20) C地区南拡張区南壁土層断面
写真10 弥生土器胎土(6) ……………268	(北より)
写真11 弥生土器胎土(7) ……………269	図版11 (21) D地区全景 (南より)
写真12 弥生土器胎土(8) ……………270	(22) D地区東半分全景 (南より)
	図版12 (23) D地区北半部全景(南西より)
図版1 (1) A地区全景 (南より)	(24) D地区全景 (西より)
(2) A地区全景 (南より)	図版13 (25) D-1トレンチ全景(東より)
図版2 (3) A地区全景 (東より)	(26) D-2トレンチ全景(東より)
(4) A地区南壁土層断面(北東より)	図版14 (27) D地区南壁土層断面
図版3 (5) A地区南壁土層断面(北西より)	(北東より)
(6) B地区第1面全景 (西より)	(28) D-2トレンチ南壁土層断面
図版4 (7) B地区第1面全景 (南より)	(北より)
(8) B地区第1面全景 (南より)	図版15 (29) D地区遺構面下土層堆積状況
図版5 (9) B地区第2面全景 (北より)	(南より)



- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 図版15 (30) D地区南壁土層断面(北西より)    | 図版29 (57) S B03・04 (北より)    |
| 図版16 (31) E～G地区全景 (北より)      | (58) S B03・04 (南西より)        |
| (32) E地区南壁土層断面 (北より)         | 図版30 (59) S B04 (南より)       |
| 図版17 (33) F・G地区南半部全景(南より)    | (60) S B05 (北より)            |
| (34) F・G地区南半部全景(西より)         | 図版31 (61) S B06 (北より)       |
| 図版18 (35) F地区北半部全景 (西より)     | (62) S B07 (北より)            |
| (36) F地区西壁土層断面 (東より)         | 図版32 (63) S B09ピット内遺物出土状況   |
| 図版19 (37) F・G地区北半部全景(東より)    | (64) S B09ピット内遺物出土状況        |
| (38) G地区北半部全景 (西より)          | 図版33 (65) S B09 (北東より)      |
| 図版20 (39) G地区南半部全景 (西より)     | (66) S K13土層断面 (南より)        |
| (40) G地区東壁土層断面 (西より)         | 図版34 (67) S K15 (北より)       |
| 図版21 (41) H地区北半部全景 (南より)     | (68) S K16・17 (東より)         |
| (42) H地区北半部全景 (東より)          | 図版35 (69) S K18土層断面 (南より)   |
| 図版22 (43) H地区南半部全景 (西より)     | (70) S K19土層断面 (南より)        |
| (44) H-1 トレンチ全景(西より)         | 図版36 (71) S K20土層断面         |
| 図版23 (45) I地区北半部全景 (北より)     | (72) S K23遺物出土状況            |
| (46) I地区南半部全景 (南より)          | 図版37 (73) S T01検出状況 (西より)   |
| 図版24 (47) I地区北半部 (b-65) 全景   | (74) S T01土層断面 (南より)        |
| (南より)                        | 図版38 (75) S T02遺物出土状況       |
| (48) S H01完掘状況 (北より)         | (76) S D04集石部分 (北より)        |
| 図版25 (49) S H01遺物出土状況 (東より)  | 図版39 (77) S D11遺物出土状況 (東より) |
| (50) S H01内土坑遺物出土状況          | (78) S D12・20 (北より)         |
| (南より)                        | 図版40 (79) S R02遺物出土状況 (1)   |
| 図版26 (51) S H01内土坑遺物出土状況     | (80) S R02遺物出土状況 (2)        |
| (北より)                        | 図版41 (81) S R02遺物出土状況 (3)   |
| (52) S H01内遺物 (5) 出土状況       | (82) S R02遺物出土状況 (4)        |
| 図版27 (53) S H01内遺物 (16) 出土状況 | 図版42 (83) S R02遺物出土状況 (5)   |
| (54) S H01及びその周辺(南西より)       | (84) S R02遺物出土状況 (6)        |
| 図版28 (55) S B01 (南より)        | 図版43 (85) S R02遺物出土状況 (7)   |
| (56) S B02 (北より)             | (86) S R02遺物出土状況 (8)        |

- |                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 図版44 (87) S R02遺物出土状況 (9)   | 図版59 (117) S R04土層断面 (西より)    |
| (88) S R02遺物出土状況 (10)       | (118) S X02遺物出土状況             |
| 図版45 (89) S R02遺物出土状況 (11)  | 図版60 (119) S X02遺物出土状況        |
| (90) S R02遺物出土状況 (12)       | (120) S X02遺物出土状況             |
| 図版46 (91) S R02土層断面 (西より)   | 図版61 (121) G地区南半部全景 (北より)     |
| (92) S R02全景 (西より)          | (122) S D13土層断面 (南より)         |
| 図版47 (93) S R02全景 (東より)     | 図版62 (123) S D13土層断面 (南より)    |
| (94) S R02全景 (南西より)         | (124) S D13~19合流部土層断面(1)      |
| 図版48 (95) S R03遺物出土状況 (東より) | 図版63 (125) S D13~19合流部土層断面(2) |
| (96) S R03遺物出土状況 (北より)      | (126) S D13~19合流部土層断面(3)      |
| 図版49 (97) S R03 (東より)       | 図版64 (127) S D13~19合流部土層断面(4) |
| (98) S R03土層断面 (東より)        | (128) S D13~19合流部土層断面(5)      |
| 図版50 (99) S R03土層断面 (南西より)  | 図版65 (129) S D13~19合流部土層断面(6) |
| (100) S R03・04全景 (西より)      | (130) S D13~19合流部木樋出土         |
| 図版51 (101) S R03・04 (東より)   | 状況 (1)                        |
| (102) S R03・04 (西より)        | 図版66 (131) S D13~19合流部木樋出土    |
| 図版52 (103) S R03遺物出土状況      | 状況 (2)                        |
| (104) S R03土層断面 (東より)       | (132) S D14遺物出土状況             |
| 図版53 (105) S R03土層断面 (東より)  | 図版67 (133) S D18土層断面 (北より)    |
| (106) S R03土層断面 (東より)       | (134) S H02遺物出土状況(南より)        |
| 図版54 (107) S R03土層断面 (東より)  | 図版68 (135) S H02土層断面 (南西より)   |
| (108) S R03土層断面 (北より)       | (136) S H02遺物出土状況             |
| 図版55 (109) S R03土層断面 (東より)  | 図版69 (137) S H02 (南より)        |
| (110) S R03土層断面             | (138) S H02柱材出土状況             |
| 図版56 (111) S R03 (西より)      | 図版70 (139) S H03土層断面          |
| (112) S R04遺物出土状況           | (140) S H03 (南東より)            |
| 図版57 (113) S R04階段状遺構 (北より) | 図版71 (141) S H04遺物出土状況(北西より)  |
| (114) S R04土層断面 (東より)       | (142) S H04土層断面 (東より)         |
| 図版58 (115) S R04土層断面 (東より)  | 図版72 (143) S H04遺物出土状況        |
| (116) S R04土層断面 (東より)       | (144) S H04 (西より)             |

- 図版73 (145) S H05 S B15~17(北より) 図版88 (175) S B26 (北より)  
 (146) S H05 (東より) (176) S B28 (南東より)
- 図版74 (147) S H05柱材出土状況 図版89 (177) S B29 (北より)  
 (148) S H06遺物出土状況 (178) S B30 (北より)
- 図版75 (149) S H06遺物出土状況(南より) 図版90 (179) S B31 (北より)  
 (150) S H06柱穴土層断面 (180) S K31遺物出土状況(東より)
- 図版76 (151) S H06 (西より) 図版91 S H01出土遺物 (1)  
 (152) S B11 (東より) 図版92 S H01出土遺物 (2)
- 図版77 (153) S B12柱穴土層断面 図版93 S B03・04・05・07出土遺物  
 (154) S B12 (東より) S B09出土遺物
- 図版78 (155) S B13 (北西より) 図版94 S K13・14・15・20出土遺物  
 (156) S B15 (南より) 図版95 S T01出土遺物
- 図版79 (157) S B18・19 (南西より) 図版96 S K22出土遺物  
 (158) S D23土層断面 S T02出土遺物
- 図版80 (159) S R05遺物出土状況 (1) 図版97 S D03出土遺物  
 (160) S R05遺物出土状況 (2) 図版98 S D04・05・07・08出土遺物
- 図版81 (161) S R05遺物出土状況 (3) 図版99 S D11出土遺物  
 (162) S R05遺物出土状況 (4) S R02出土遺物 (1)
- 図版82 (163) S R05遺物出土状況 (5) 図版100 S R02出土遺物 (2)  
 (164) S R05遺物出土状況 (6) 図版101 S R02出土遺物 (3)
- 図版83 (165) S R05遺物出土状況 (7) 図版102 S R02出土遺物 (4)  
 (166) S R05遺物出土状況 (8) 図版103 S R02出土遺物 (5)
- 図版84 (167) S R05遺物出土状況 (9) 図版104 S R02出土遺物 (6)  
 (168) S R05遺物出土状況 (10) 図版105 S R02出土遺物 (7)
- 図版85 (169) S R05土層断面 (北西より) 図版106 S R02出土遺物 (8)  
 (170) S R05土層断面 (東より) 図版107 S R02出土遺物 (9)
- 図版86 (171) S R05 (南より) 図版108 S R02出土遺物 (10)  
 (172) S R05 (西より) 図版109 S R02出土遺物 (11)
- 図版87 (173) S B20~24 (南より) 図版110 S R03出土遺物 (1)  
 (174) S B20~24 (西より) 図版111 S R03出土遺物 (2)

- 函版112 S R04出土遺物 (1) S D18出土遺物
- 函版113 S R04出土遺物 (2) 函版141 S D20出土遺物
- 函版114 S R04出土遺物 (3) S H02出土遺物 (1)
- 函版115 S R04出土遺物 (4) 函版142 S H02出土遺物 (2)
- 函版116 S R04出土遺物 (5) 函版143 S H02出土遺物 (3)
- 函版117 S R04出土遺物 (6) 函版144 S H02出土遺物 (4)
- 函版118 包含層出土弥生時代遺物 (1) 函版145 S H03出土遺物
- 函版119 包含層出土弥生時代遺物 (2) S H04出土遺物
- 函版120 包含層出土弥生時代遺物 (3) 函版146 S H04・05・06出土遺物
- 函版121 包含層出土弥生時代遺物 (4) 函版147 S B12出土柱材
- 函版122 包含層出土弥生時代遺物 (5) S D21出土遺物
- 函版123 包含層出土弥生時代遺物 (6) 函版148 包含層出土古墳時代遺物 (1)
- 函版124 包含層出土弥生時代遺物 (7) 函版149 包含層出土古墳時代遺物 (2)
- 函版125 S X02出土遺物 (1) 函版150 S D34出土遺物
- 函版126 S X02出土遺物 (2) S R05出土遺物 (1)
- 函版127 S X02出土遺物 (3) 函版151 S R05出土遺物 (2)
- 函版128 S X02出土遺物 (4) 函版152 S R05出土遺物 (3)
- 函版129 S X02出土遺物 (5) 函版153 包含層出土古代遺物
- 函版130 S X02出土遺物 (6) S P03出土遺物
- 函版131 S X02出土遺物 (7) 包含層出土中世遺物
- 函版132 S D13出土遺物
- S D14出土遺物 (1) 函版154 S K32・33・34出土遺物
- 函版133 S D14出土遺物 (2) 函版155 S K31出土遺物
- 函版134 S D14出土遺物 (3) 包含層出土近世遺物 (1)
- 函版135 S D14出土遺物 (4) 函版156 包含層出土近世遺物 (2)
- 函版136 S D14出土遺物 (5)
- 函版137 S D15出土遺物 (1)
- 函版138 S D15出土遺物 (2)
- 函版139 S D17出土遺物 (1)
- 函版140 S D17出土遺物 (2)

報告書名	高松東道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告 第4冊				
編集	財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター				
発行	香川県教育委員会・建設省四国地方建設局・(財)香川県埋蔵文化財調査センター				
刊行年月日	平成7年3月31日				
遺跡名	太田下・須川遺跡	おおたしも・すがわいせき			
遺跡略号	N O S				
所在地	香川県高松市太田下町ほか	かがわけんたかまつしおおたしもまち			
	目次等	15頁	総頁 549頁	挿図枚数	266枚
	本文	289頁		付図	6枚
	観察表	87頁		写真枚数	705枚
	図版	158頁			
時代	遺構	遺物	その他		
弥生時代以前	溝状遺構 自然河川	縄文土器			
弥生時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 ピット 土坑 壺棺墓 溝状遺構 自然河川	弥生土器 石器(石庖丁・石鏃・ 石斧・石鎌・石鍬等) 木器(横槌・梯子・杭 ・茄子形木製品等)			
弥生時代～ 古墳時代	湿地状遺構 溝状遺構	弥生土器 土師器・須恵器 石器(石庖丁・石鏃・ 石斧) 木器(木槌・不明木製 品)			
古墳時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 ピット 土坑 不明遺構 溝状遺構	土師器・須恵器 石器(勾玉・紡錘車) 木器(柱材)			
古代 (奈良・平安)	掘立柱建物跡 土坑 溝状遺構 自然河川	土師器・須恵器 黒色土器 緑釉陶器			
中世 (鎌倉・室町)	掘立柱建物跡 土坑 溝状遺構	土師器・須恵器 陶磁器			
近世	掘立柱建物跡 土坑	土師器 陶磁器			
注目される遺構	古墳時代中・後期の竪穴住居跡				
注目される遺物	弥生土器(鹿の線刻のある壺形土器)須恵器(古墳時代後期の樽形甕, 滑石製の勾玉, 琥珀製の勾玉)				

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

昭和53年、一般国道11号「高松東道路」の建設が都市計画決定された。これに伴い、建設省四国地方建設局香川工事事務所より昭和62年5月29日付建四香第806号で、香川県教育委員会教育長あてに工事予定地内の埋蔵文化財発掘調査についての協力依頼がなされた。

香川県教育委員会では、これを受けて昭和63年3月7日付62教文発第427号で、埋蔵文化財の所在の確認調査が必要な地区とその面積（約18万㎡）を示し、用地買収の進捗に合わせて確認調査を実施し、本調査面積の確定を行う旨の回答を行った。

第1次の確認調査は、昭和61年12月17日～25日まで、高松市上天神町・三条町において実施され、上天神遺跡の所在と範囲を確定した。その後の協議の結果、昭和62年度に上天神遺跡の一部（約5,000㎡）の調査を実施した。

第2次の確認調査は、昭和62年10月5日～31日の期間で、高松市林町・六条町において実施され、林・坊城遺跡と六条・上所遺跡の範囲を確定した。

この結果をもとに、香川県教育委員会と建設省四国地方建設局香川工事事務所との協議により、昭和63年度以降の本調査は、香川県教育委員会を調査主体として、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当として実施することとなり、昭和63年度には、前年度までに面積の確定していた上天神遺跡、林・坊城遺跡、六条・上所遺跡（一部未退去家屋あり）の発掘調査を実施した。

本調査と並行して香川県教育委員会では、昭和63年6月20日～7月20日、平成元年1月19日～31日に第3次の確認調査を高松市太田下町、東山崎町、前田東町において実施し、太田下・須川遺跡、東山崎・水田遺跡、前田東・中村遺跡の調査対象面積を確定した。

このうち、東山崎・水田遺跡と前田東・中村遺跡については、昭和63年度に追加して調査を実施した。

その後の協議の結果、平成元年4月1日付け「埋蔵文化財調査委託契約書」を締結し、平成元年4月1日から平成2年3月31日の期間で、太田下・須川遺跡の本調査（調査対象面積25,000㎡）が実施された。しかし、一部未退去家屋（830㎡）があったため、この部分

については、平成2年度に本調査を実施することにし、平成2年4月1日から同28日の期間で本調査を実施した。

## 第2節 調査の経過

### 1. 発掘調査の経過

太田下・須川遺跡は、高松市太田下町・伏石町・三条町に所在する。発掘調査は平成元年4月1日に開始され、平成2年4月28日に終了した。

調査体制は、以下のとおりである。

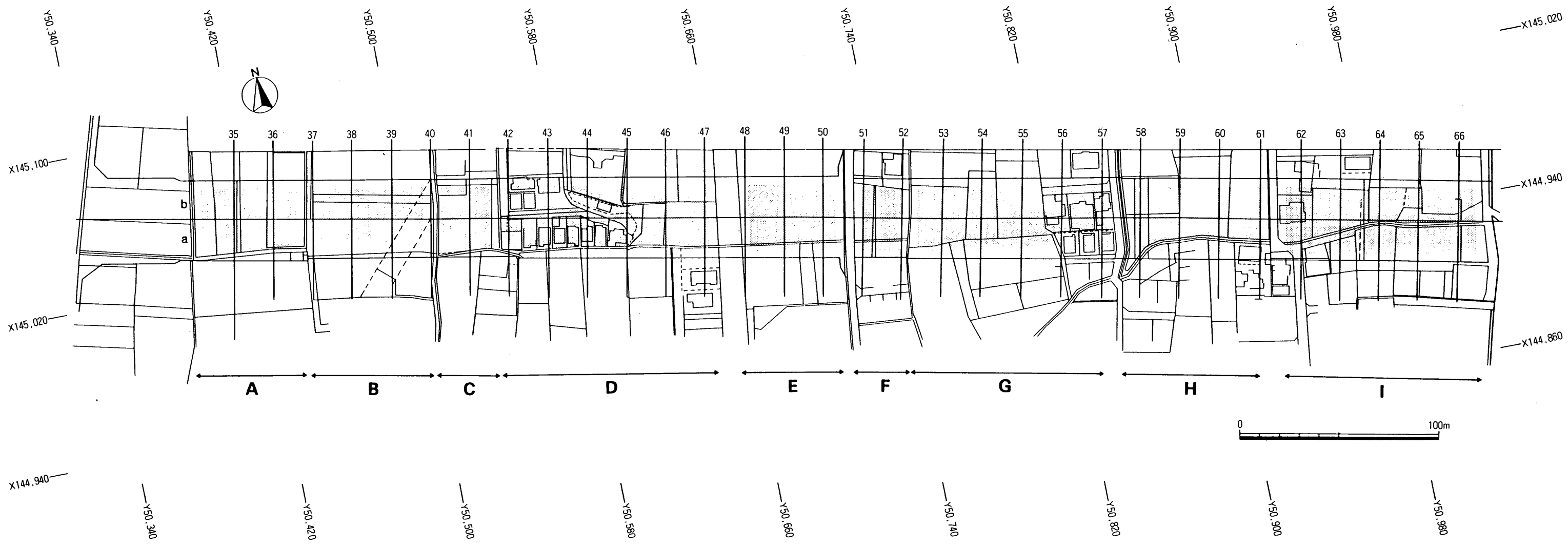
#### ・平成元年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

総括	課長	太田彰一
	課長補佐	高木 尚
	副主幹	野網朝二郎
総務	係長	宮内憲生
	主事	横田秀幸
	主事	水本久美子
埋蔵文化財係長		大山真充
	技師	岩橋 孝
	技師	國木健司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	十川 泉
	次長	安藤道雄
総務	係長	加藤正司
	主査	山地 修
	主事	黒田晃郎
	参事	前田輝夫
調査	係長	廣瀬常雄
	主任技師	鍋井一視 (12.4～)
	技師	森下友子 (旧姓嶋村)
	技師	北山健一郎
	技師	稲田美穂子
	調査技術員	秋山成人 (～12.31)
	調査技術員	山元敏裕 (～2.1.31)
	調査技術員	西中一伸 (12.4～)
	調査補助員	田村久雄 (12.4～)



第1図 調査グリッド配置図



・平成2年度

香川県教育委員会事務局文化行政課

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	課長	太田彰一	総括	所長	十川 泉
	課長補佐	菅原良弘		次長	安藤道雄
	副主幹	野網朝二郎	総務	係長	加藤正司
総務	係長	宮内憲生		主査	山地 修
	主任主事	横田秀幸		主任主事	黒田晃郎
	主任主事	水本久美子（～5.31）	参事		前田輝夫
	主事	石川恵三子（6.1～）	調査	係長	廣瀬常雄
埋蔵文化財係長		大山真充		技師	森 格也
	主任技師	岩橋 孝		技師	稲田美穂子
	技師	北山健一郎		調査技術員	多田政弘
				調査技術員	間瀬 香

調査区の設定は、複数の道路が調査対象地を南北に横切り、また用水路や出水などの保守の必要性から、南北方向は路線幅、東西方向は道路や用水路を境とするA～Iの調査区を設定した。（第1図）

調査の基準となる杭は、国道建設予定地のセンターライン上に20m間隔で打設した。さらに航空測量の際に同時に基準点測量を行い、国土座標との対応を図った。

遺構番号は、調査時に設定した番号を破棄し、整理段階で時代を特定し、時代ごとに新たに振り直した。

以下に調査日誌抄を掲げて、調査の詳細について報告する。

調査日誌（抄）

（平成元年4月）

- 11日 A・B地区より重機による表土剥ぎを開始する。
- 13日 作業員就労開始。本格的に現場が展開する。
- 17日 B地区第1遺構面を実測。溝状遺構を数条検出した。

（平成元年5月）

- 全体的に雨が多く、調査がはかどらない。
- 20日 雨のため、遺構が水没。電源が切れ、復旧に手間取る。

29日 2度の延期の後、今年度第1回目の航空測量実施。

(平成元年6月)

2日 B地区で自然河川検出。古代の土師器・須恵器を包含している。

15日 C地区で竪穴住居跡と思われる遺構やピット・土坑を多数検出。

19日 B地区で検出した旧河道の最下層より、縄文時代晩期の突帯文土器が出土。

30日 B地区の旧河道東側で上下2層の自然河川を検出。上層は古代、下層は弥生時代のものと思われる。

(平成元年7月)

6日 B地区の下層自然河川(S R02)に多量の弥生土器が包含されていることが判明。

18日 B地区上層の自然河川(S R05)より斎串・人形等が出土。

24日 B地区S R05より斎串・人形のほかに櫛が出土。

(平成元年8月)

1日 B地区自然河川S R01の南壁においてプラント・オパール分析用試料採取。(古環境研究所)

9日 第3回航空測量実施。B・C地区ほぼ完掘、竪穴住居跡(S H01)・掘立柱建物跡等全景写真撮影。

11日 B地区S R02より多量の弥生土器出土。加飾高杯等が含まれる。

18日 B地区S R02より鹿と思われる四本足の動物を刻んだ弥生土器片が出土。

28日 台風17号の影響で調査区が冠水、復旧に手間取る。

(平成元年9月)

前半は雨が多く、作業がはかどらない。調査区が琴電線路を挟み、東西に分かれたため、能率が悪い。

20日 B地区S R02出土の鹿線刻土器についての記者発表。午後より現場にて遺跡・遺物をマスコミに説明。

27日 現場事務所を琴電線路より東側に移設、引越し。

(平成元年10月)

E～G地区で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構等を多数検出し、調査はヤマ場を迎えた。

2日 E地区で機械掘削中に壺棺墓(S T01)検出。

G地区上面精査中に滑石製紡錘車が出土。

16日 E・F・G地区で竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出した。

25日 第8回航空測量実施。

26日 E地区北部で柱穴群出土のため、北側へ拡張する。

(平成元年11月)

6日 G地区で溝状遺構群検出。埋土から弥生～須恵器が出土する。

22日 E地区、S B09ピット中より弥生土器出土。

(平成元年12月)

今月より、調査員2名・作業員38名が増え、大所帯になる。

秋山調査員、今月末で退職。

18日 F・G地区で相次いで竪穴住居跡を検出、G地区の竪穴住居跡(S H06)から琥珀製の勾玉が出土。

19日 G地区S D14北部より樽形甕が出土する。

20日 G地区S D群合流部より巨大な木製品が出土、詳細は不明。

22日 G地区S D群合流部の木製品は木樋であることが判明。

27日 G地区S D群合流部の木製品を発泡ウレタンで固めて取り上げる。

(平成2年1月)

山元調査員、今月末で退職。

11日 F地区S H04より土師器甑出土。

17日 H地区S R03より木製の横槌出土。

24日 降雪のため現場作業中止。予定していた航空測量延期。

(平成2年2月)

1日 降雪のため現場作業中止。(5cmの積雪を記録)

6日 I地区S R04掘削。多量の弥生土器を包含している。

7日 I地区S R03・04より建築部材のような木製品が出土。

19日 I地区S R04より鋤先状の木製品が出土。

(平成2年3月)

最後の追込み、I地区のS R03・04の掘削を続ける。

3日 I地区S R04木器出土状況平面実測。

13日 H地区埋戻し。

16日 現場作業終了、調査事務所へ引越し。

(平成2年4月)

9日 本日より作業員就労開始。

16日 I地区SX02より木製品(柄?)出土。

27日 現場作業終了,埋戻し。

発掘調査に従事した方々

入谷 勇	岩田 明	上田政善	植田三良	大森正智
乙武孝男	柏原 巧	柏原義明	樫村光春	加藤直雄
亀井正博	国宗敏一	久保茂雄	久保重男	見藤信雄
河野敏文	小竹 進	小松定一	篠原密夫	十河英徳
田岡秀一	高木繁夫	谷 繁雄	西尾 馨	西山正平
東原数一	福田秋一	藤井 清	藤沢 功	細川敏好
細谷祐義	本田昌男	松原秀直	松本 勇	松本照雄
三好俊二	森 敏雄	山下静雄	山地秋雄	山田芳之
山本登美雄	吉峰 茂	井口夫美子	出石真里子	上野キミ子
植松美知子	太巻房子	内海花子	大川玲子	大西君子
大山敏子	乙武文江	川西鈴子	櫛田英子	楠原ひとみ
久保キミ子	久保トリ子	桑島アキ子	歙島美智子	黒川陽子
酒井俊子	佐々木由美子	篠原亀子	柴原スミエ	十河恵子
高橋三千代	高橋光子	竹林弘子	田中キヨ	谷 寿子
谷本イシノ	種子田千津子	富永育代	中原重子	中原トヨ子
中村サダ子	中村芳子	永峰幸美	那須幸子	西谷政江
新田昭子	萩本登志子	畑田静江	華岡利子	林テル子
萬城貴子	樋口ヤス子	平田圭子	平田ツヤ子	福家タミ
藤井サヨ子	本田貞子	米谷昭子	松上初子	松本和子
松元ハルミ	真鍋シズエ	溝渕フミヨ	湊トシミ	三好ちずる
村川照美	森 当子	森口すえの	森本シゲ子	矢野嵯峨
山田君子	横田敦子	吉田絹代	吉本みどり	脇千代枝

岡田佳代子(徳島文理大学学生) 神保美智子(徳島文理大学学生)

畠山志穂(愛知学院大学学生) 茨田千恵(徳島文理大学学生)

## 2. 整理作業の経過

整理作業は、平成5年4月1日より平成6年3月31日まで実施した。整理作業は、森下友子がA～D地区の遺構・遺物を、北山がその他のE～I地区の遺構・遺物の整理を分担して担当した。

平成5年度の整理体制は、以下のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	課長	中村 仁	総括	所長	松本豊胤
	主幹	菅原良弘		次長	真鍋隆幸
	主幹	小原克己	総務	係長	土井茂樹
総務	係長	源田和幸		主査	大西健司
	主任主事	櫻木新士	整理担当	係長	廣瀬常雄
	主事	石川恵三子 (～5.31)	国道担当	文化財専門員	西村尋文
	主事	藤原和子 (6.1～)		主任技師	森下友子
埋蔵文化財係長		藤好史郎		主任技師	北山健一郎
	主任技師	國木健司			
	主任技師	森下英治			

### －整理作業に従事した方々－

赤熊久子	荒木美千子	石原まり子	磯崎泰子
猪木原美恵子	大田和子	大原江里子	岡崎江伊子
小畑三千代	新出容子	谷井裕子	徳井敦子
三谷和子	森 訓子 (旧姓塩崎)	若山淳子	

第1表 整理作業工程表

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
注記	=====											
接合・復元		=====										
遺物実測			=====									
遺構図レイアウト							=====					
遺構図トレース									=====			
遺物レイアウト							=====					
遺物トレース									=====			
観察表作成												=====
遺物写真撮影					=====				=====			
写真レイアウト												=====
原稿執筆							=====					=====
編集												=====

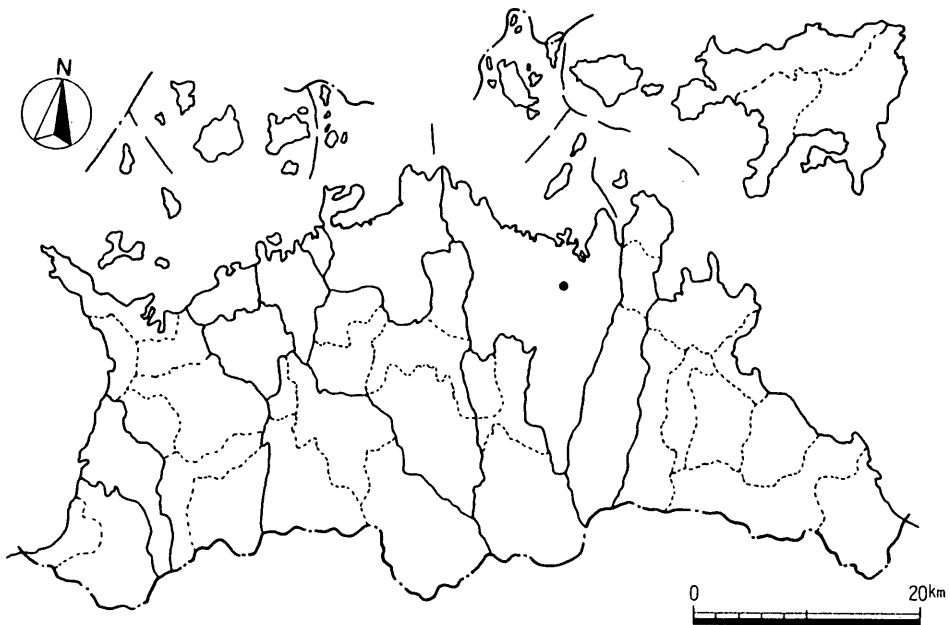
## 第2章 立地と環境

### 第1節 地理的環境

太田下・須川遺跡は高松平野の中央部やや北東よりに所在する遺跡で、行政区域としては、高松市太田下町、同市三条町、同市伏石町に属する。

高松平野は、南側を標高800～1,000mの讃岐山脈（阿讃山地）に、西側が南の堂山から五色台へと続く山地に、東側を立石山・雲附山・五瀬山山地に取り囲まれた平野で、東西約12km、南北約10kmの広がりをもっている。讃岐山脈は、和泉層群と花崗岩層から成っており、北側に洪積台地が続いている。高松平野を囲む山地はいずれも基盤となる花崗岩の上に侵食を受けにくい安山岩が被っており、台状の平坦部を有するメサ台地もしくは孤立した丘陵のビュートとなっている。メサ台地は特に西側の五色台や東側の屋島などに顕著である。東側の山地は他と違い、開析が進んでおり、白山・由良山などの多数のビュートが見られる。

沖積世に入ると、平野西部の本津川・香東川、平野東部の春日川・新川等の堆積作用により本格的に高松平野が形成される。これらの河川はいずれも近世に大規模な改修を受け、



第2図 太田下・須川遺跡位置図

特に香東川は現在では開析溶岩台地の石清尾山山塊の西側を流れるが、これは寛永2～16（1625～1639）年に高松藩の西島八兵衛により、現在の香川町浅野付近で付け替えられたもので、本来は東側を流れていたものである<sup>(1)</sup>。

香東川の堆積力は主要河川の中でも最も大きく、香川町川東の西部付近を扇頂、紫雲山・浄願寺山付近を扇端とし、春日川の西側約500m付近まで及ぶ、凹凸が少なく南から北に向かって緩やかに傾斜する扇状地を形成している。このため、古くから開発が盛んで、現存する最古の田図である「弘福寺領讃岐国山田郡田図」<sup>(2)</sup>（天平7年）に見られるような条里地割による方格地割が現在も残っている。

太田下・須川遺跡もこの扇状地に属し、標高15～17mを測る。

(1) 『香川県史』第13巻近世Ⅰ 香川県 1988

(2) 『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会 1992

#### 参考文献

(1) 『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅰ』高松市教育委員会 1988

(2) 『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅱ』高松市教育委員会 1989

(3) 『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅲ』高松市教育委員会 1990

(4) 『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会 1992

## 第2節 歴史的環境

本遺跡の立地する高松平野は、古くから遺跡の多い地域として知られてきた。周知の遺跡が分布するのは、高松平野東部から南部にかけての平野と丘陵が接する部分の丘陵上と、高松平野北西部に位置する石清尾山塊に集中しており、また、そのほとんどが古墳であり、高松平野の中央部については遺跡の分布はほとんど知られていなかった。しかし、当センターや高松市教育委員会によって平野の中央部で発掘調査が実施された結果、平野中央部にも多くの遺跡が存在することが確認された。特に、国道11号線のバイパスである高松東道路建設に伴う発掘調査と、旧高松空港跡地の開発に伴う発掘調査は、高松平野中央部に





高松市

高松港



第3図 周辺の遺跡図

第2表 周辺の遺跡一覧表①

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	参考文献
1	鷺ヶ峰遺跡	高松市女木町			製塩土器		
2	女木丸山古墳	高松市女木町	古墳	円墳 直径15m 組合式箱式石棺	純金製鎖式耳飾り・鉄刀・鉄鎌	1964年調査	10・18
3	高松城跡	高松市玉藻町	近世			1985年調査	13・27
4	下ノ山遺跡	高松市西宝町	弥生	(青銅器埋納地)	広形銅矛 2口	1982・83年 出土	11
5	摺鉢谷 9号墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳 全長27m 列石		積石塚	5・16・23
6	北大塚古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳 全長40m 石積み	土師器細片	積石塚	5・16・23
7	鏡塚古墳	高松市峰山町	古墳	双方中円墳 全長70m 竪穴式石椁?		積石塚 盗掘	5・16・23
8	石船塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳 全長57m 刳抜式石棺	変形神獸鏡 円筒埴輪	積石塚 棺身に造り付けの石枕	5・16・23
9	猫塚古墳	高松市鶴町	古墳	双方中円墳(双方中方墳) 全長96m	内行花文鏡・獸帯鏡・四獸鏡・三角縁神獸鏡・筒形銅器・銅鎌・石釧・土師器壺	積石塚 大盗掘	5・16・23
10	姫塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳 全長43m		積石塚	5・16・23
11	鶴尾神社 4号墳	高松市西春日町	古墳	前方後円墳 全長47m 竪穴式石椁	方格規矩鏡・土師器片	積石塚1970・81年調査	9・10・23
12	稲荷山姫塚古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳 全長58m	土師器片	積石塚 盗掘	5・16・23
13	浄願寺山古墳群	高松市西春日町	古墳	小円墳		50基程度	10
14	南山浦古墳群	高松市西春日町	古墳	小円墳 横穴式石室	須恵器・土師器・鉄器・ガラス玉・金環	13基程度	10・12
15	ガメ塚古墳	高松市飯田町	古墳	前方後円墳			
16	長崎鼻古墳	高松市屋島東町	古墳	前方後円墳 全長33m 竪穴式石椁			10・23
17	浦生遺跡	高松市屋島西町	古墳			製塩遺跡	
18	屋島城跡	高松市屋島西町	古代	石塁・水門跡		1980年調査	23・25
19	浜北古墳群	高松市屋島西町	古墳			1号墳は前方後円墳	
20	中筋北古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳 組合式石棺			
21	屋島中央東古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳 横穴式石室		1968年消滅	
22	屋島中央西古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳 横穴式石室			
23	湯の谷古墳群	高松市屋島東町	古墳	円墳			
24	丸山遺跡	木田郡庵治町	弥生		中細形銅銚 1口		
25	大空遺跡	高松市高松町	弥生	土坑	弥生土器・製塩土器	1951年調査	10・17
26	スベリ山南遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器	1955年出土	
27	南谷古墳	高松市高松町	古墳	円墳	須恵器平瓶	消滅	
28	南谷遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器・製塩土器	1976・1987年 出土	10・21
29	長尾古墳群	高松市高松町	古墳	円墳 横穴式石室			
30	小山・南谷遺跡	高松市高松町、新田町	弥生	竪穴住居跡	弥生土器・製塩土器	1993~1995年 調査予定	
31	小山古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室 (複式構造)	須恵器長頸壺	1950年消滅	21
32	石塚古墳	高松市新田町	古墳	円墳 横穴式石室	円筒埴輪	消滅	
33	山下古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室		1987年調査	7・10・23
34	岡山小古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳		15基程度	
35	岡山古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳 横穴式石室		1号墳は前方後円墳 3基	
36	丸山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
37	大谷山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
38	久本古墳	高松市新田町	古墳	円墳? 横穴式石室 石	土師質陶棺・承盤付銅	1975年調査	10・22・23

第3表 周辺の遺跡一覧表②

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	参考文献
				棚	椀・須恵器		
39	久本山東峯古墳	高松市新田町	古墳	円墳 組合式石棺			
40	諏訪神社古墳	高松市東山崎町	弥生～古墳	竪穴式石槨3基	碧玉製管玉・土器枕	1990年調査	32
41	久米山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		6基程度	
42	久米池南遺跡	高松市新田町	弥生		弥生中期土器・石器・ 絵画土器・鉄器	1987～88年調査	15
43	高松市茶白山古墳	高松市前田西町	古墳	前方後円墳 全長75m 竪穴式石槨2基 箱式石棺 土壇墓	画文帯重列神獸鏡・鉄形石・玉類・鉄剣鉄刀 ・土師器壺・鉄鏃・鉄斧	1969年調査	4・10・23
44	茶白山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		5基程度	
45	北山古墳	高松市新田町	古墳	古墳 直径20m 粘土槨 舟形木器		1972年調査 消滅	
46	滝本神社古墳	高松市前田西町	古墳	横穴式石室(T字形)		小型石棺が出土したという	
47	田楽古墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
48	金石山1号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 箱式石棺			
49	金石山2号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
50	平尾1号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
51	平尾2号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
52	宝寿寺跡	高松市前田西町	白鳳	礎石	瓦		
53	平尾3号墳	高松市前田東町	古墳	円墳 横穴式石室			
54	平尾4号墳	高松市前田東町	古墳	円墳 横穴式石室			
55	平尾小古墳群	高松市前田東町	古墳	小円墳 横穴式石室		10基程度	
56	山本古墳	高松市前田東町	古墳	円墳			
57	白山神社古墳	高松市木太町	古墳	円墳		1985年調査	
58	天満・宮西遺跡	高松市松縄町	弥生～近世	竪穴住居・掘立柱建物・ 溝状遺構・土坑	弥生土器・石庖丁・紡 錘車・舟形木器	1989年調査	24・31
59	松縄下所遺跡	高松市松縄町	古代	掘立柱建物・道路状遺構 ・溝状遺構	須恵器	1991年調査	24
60	大池遺跡	高松市木太町	旧石器		有舌尖頭器	採集	
61	上天神遺跡	高松市上天神町	弥生	掘立柱建物・溝状遺構・ 土坑・自然河川	弥生土器・石器(石庖 丁・石鏃)	1987・88・91・ 92年調査	29・30・37
62	太田下・須川遺跡	高松市太田下町	弥生～古代	竪穴住居・掘立柱建物・ 溝状遺構・土坑	弥生土器・絵画土器・ 須恵器・木器	1989・90年調査	31・32・38
63	蛙股遺跡	高松市伏石町	弥生				
64	居石遺跡	高松市伏石町	縄文～近世	溝状遺構・自然河川・土 坑	縄文土器・弥生土器・ 小型仿製鏡3面	1991年調査	24
65	井手東I遺跡	高松市伏石町	縄文～近世	溝状遺構	縄文土器・弥生土器・ 木器	1991年調査	24
66	浴・長池II遺跡	高松市伏石町	弥生～近世	水田跡・竪穴住居・溝状 遺構・土坑	弥生土器	1991年調査	24
67	浴・長池遺跡	高松市林町	縄文～中世	竪穴住居・掘立柱建物・ 水田跡	縄文土器・弥生土器・ 木器	1989・90年調査	31
68	浴・松ノ木遺跡	高松市林町	弥生～近世	溝状遺構・自然河川・水 田跡	弥生土器	1990年調査	32
69	林・坊城遺跡	高松市林町	縄文～中世	掘立柱建物・溝状遺構・ 土坑・自然河川・円形周 溝状遺構	縄文土器・弥生土器・ 石器・木器(鉄・小型 鋤状木製品・柄付半截 木製品・えぶり)	1988年調査	30・37
70	六条・上所遺跡	高松市六条町	弥生～近世	掘立柱建物・溝状遺構・ 土坑・竪穴住居	弥生土器・陶質土器・ 韓式土器・須恵器	1989・90年調査	30・37・40
71	東山崎・水田遺跡	高松市東山崎町	中・近世	掘立柱建物・井戸・溝状 遺構・土坑	土師器・須恵器・瓦器 ・陶磁器・木器	1988年調査	30・37・42
72	前田東・中村遺跡	高松市前田東町	縄文～中世	掘立柱建物・自然河川・	縄文土器・古式土師器	1988・89・90・	30～32・37

第4表 周辺の遺跡一覧表③

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	参考文献
				方形周溝墓・土坑・溝状遺構・平窯	・緑釉陶器・墨書土器 ・輸入青白磁・木器	91年調査	～40
73	権八原遺跡	木田郡三木町	弥生・古墳	溝状遺構・台状墓・円墳	弥生土器・土師器・須恵器	1980・81年調査	10
74	凹原遺跡	高松市多肥下町	弥生～中世	竪穴住居・溝状遺構・土坑・噴砂	弥生土器・古式土師器	1990・91年調査	24・32
75	日暮遺跡	高松市多肥上町					
76	多肥松林遺跡	高松市多肥上町	弥生				
77	空港跡地遺跡	高松市林町	弥生～近世	竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・円形周溝墓・方形周溝墓・水田跡	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・瓦器・緑釉陶器・石器・呪符木簡・北宋銭	1991～調査継続中	32・35・39・40
78	拝師廃寺	高松市上林町	奈良				
79	田村神社遺跡	高松市一宮町	弥生		弥生土器	採取	2
80	舟岡山古墳	香川郡香川町	古墳	前方後円墳		1977年調査	8・10・23
81	舟岡古墳	香川郡香川町	古墳	円墳？竪穴式石槨？		半壊 主体部が一部露出	
82	若宮神社古墳	高松市川部町	古墳	横穴式石室			
83	佐賀神社古墳	香川郡香南町	古墳	横穴式石室			
84	横岡山古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	須恵器・鉄剣・銅環	半壊	3
85	東赤坂古墳	香川郡香川町	古墳	円墳 径30m 横穴式石室	須恵器		
86	八王子古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	土師器・須恵器・鉄鏃・切子玉・馬具	1973年調査消滅	20
87	万塚古墳群	香川郡香川町	古墳	横穴式石室（万塚古墳）	鉄刀・馬具・金環・ガラス玉	1971年調査消滅	19
88	雨山南古墳	高松市三谷町	古墳	円墳 径10m 横穴式石室	馬具		
89	加摩羅神社古墳	高松市三谷町	古墳				
90	平石上1号墳	高松市三谷町	古墳	円墳 直径20m		前方後円墳の可能性	
91	平石上2号墳	高松市三谷町	古墳			1986年調査	
92	瘤山1号墳	高松市三谷町	古墳	前方後円墳 全長27m 竪穴式石槨	鏡・家形埴輪が出土したという		1
93	瘤山2号墳	高松市三谷町	古墳	円墳 径10m			
94	矢野面古墳	高松市三谷町	古墳	横穴式石室		半壊	
95	三谷三郎池遺跡	高松市三谷町	縄文		縄文土器	採取	
96	三谷三郎池西岸竪穴	高松市三谷町	古墳	登り窯	須恵器	1983年調査	26
97	三谷石船池古墳群	高松市三谷町	古墳	円墳 横穴式石室	須恵器・鉄鏃・ガラス小玉	1989年～調査継続中	24
98	三谷石船古墳	高松市三谷町	古墳	前方後円墳 全長90m 割抜式石槨	玉類・埴輪が出土したという		10・23
99	高野丸山古墳	高松市川島本町	古墳	円墳 直径60m 集濠	円筒埴輪	前方後円墳の可能性	1
100	高野南古墳群	高松市川島本町	古墳				
101	光専寺遺跡	高松市池田町	弥生	環濠？	弥生土器・石器	1983年調査	10・23
102	中山田遺跡	高松市西植田町	弥生	竪穴住居・掘立柱建物・テラス状遺構	弥生土器・石器・分銅形土製品	1977年調査	10・23
103	中山田古墳群	高松市西植田町	古墳	円墳 横穴式石室	鉄器・馬具・銀環・須恵器・玉類	1977年調査	10
104	三谷通谷遺跡	高松市三谷町	弥生	円形周溝・壺棺墓	壺棺	1974年調査	6
105	西尾遺跡	高松市十川西町					
106	香川大学農学部遺跡	木田郡三木町	弥生		弥生土器		14

おける初めての大規模な発掘調査である。高松東道路建設に伴う発掘調査は平野を東西に横断する大きなトレンチのような線的なもので、遺跡の立地のみならず高松平野の形成と変遷にまで迫るものであるといえる。これらの発掘調査は、いくつもの新知見をもたらしているが、高松平野中央部の研究はまだまだ緒についたばかりである。本節では、太田下・須川遺跡で検出した遺構の時期を中心として、時代別に概観してみる。

## 1. 縄文時代以前

旧石器時代および縄文時代の遺跡は極端に少なく、旧石器時代の遺跡としては、久米池南遺跡や雨山南遺跡で国府型ナイフ形石器が採集されており、平野中央部の大池遺跡では有舌尖頭器が採集されている。また、四国横断自動車道（高松～善通寺間）建設に伴う発掘調査により高松平野西部の中間・西井坪遺跡から旧石器のユニットが出土している。高松東道路関連の発掘調査では東山崎・水田遺跡で有舌尖頭器が出土している。

縄文時代は前期の下司遺跡、後期の三谷三郎池遺跡、晩期末と考えられる光専寺山遺跡など、高松平野南部の山麓地帯の遺跡が知られているが、当センターが調査した前田東・中村遺跡で注口土器を含んだ後期の土器が多量に自然河川から出土し、さらに晩期の土坑から凸帯文土器がわずかに出土しているが、この遺跡も高松東部の山麓地帯に位置している。平野中央部には自然河川から多量の晩期末の凸帯文土器とともに木製農耕具が出土した林・坊城遺跡や、やはり自然河川より原下層式併行の土器が出土している居石遺跡等が知られており、今後も高松平野中央部で該期の時期の遺跡が発見される可能性は高い。

## 2. 弥生時代

弥生時代の遺跡には、前期・中期に属する遺跡は少なく、後期に属する遺跡が圧倒的に多い傾向を示している。

前期の遺跡は平野中央部に位置する天満・宮西遺跡や浴・長池II遺跡、山麓部に位置する諏訪神社遺跡、光専寺山遺跡などがあげられる。天満・宮西遺跡では環濠が検出され、浴・長池II遺跡では前期と考えられる小区画水田が検出されている。諏訪神社遺跡でも環濠と考えられる溝状遺構が検出されている。

中期の遺跡はこれまでほとんど知られておらず、わずかに石清尾山山頂の摺鉢谷遺跡、平野東部の低丘陵上の久米池南遺跡、平野南部山麓地帯の中山田遺跡などがあるにすぎなかった。しかしながら、近年の高松市教育委員会による調査で平野中央部に位置する凹原遺跡、浴・長池II遺跡、井手東I遺跡、当センターが調査した前田東・中村遺跡で、中期の遺構が検出されている。凹原遺跡では中期中頃の竪穴住居跡が1棟検出されており、石

器製作の場に利用されていたことが判明している。浴・長池II遺跡でも竪穴住居跡が検出されており、井手東I遺跡では溝状遺構から櫛描文を中心とする土器群と共に鍬・鋤といった農耕具、弓、琴などの木製品が出土している。前田東・中村遺跡では中期後半の方形周溝墓を1基検出している。中期の遺跡の動向については、今後の平野部での調査に期待されるところが大きい。

後期に入ると遺跡の数ははるかに増加する。山麓部に位置する遺跡としては大空遺跡、南谷遺跡、葛谷遺跡、三谷三郎池遺跡、三谷通谷遺跡、円養寺遺跡などがあげられるが、発掘調査が実施された遺跡は少なく、内容の不明な遺跡が多い。大空遺跡は一辺1m程の土坑から40点余りの完形土器が出土しており、北四国における弥生時代後期初頭の標識遺跡として著名な遺跡である。南谷遺跡では後期の土器と共に多量の製塩土器片が採集されている。三谷通谷遺跡と円養寺遺跡は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての墳墓が確認されている遺跡である。平野中央部でも、当センターと高松市教育委員会による発掘調査で後期の遺跡の存在が確認されてきている。上天神遺跡は竪穴住居跡を中心とする遺構群を検出しており、拠点集落の一つである可能性が高い遺跡である。居石遺跡では自然河川の川岸から弥生時代終末の3面の小型仿製鏡が出土しており、水辺の祭祀との関連が想定されている。凹原遺跡では微高地上に14棟の竪穴住居跡が検出されている。前田東・中村遺跡では「周溝墓」と考えられる溝状遺構を検出しており、自然河川から多量の土器が出土している。林・坊城遺跡でも陸橋部を持った後期後半の円形周溝状遺構を1基検出している。空港跡地遺跡では竪穴住居跡をはじめとして、円形・方形や前方後方形などの周溝状遺構を検出している。また、当遺跡でも竪穴住居跡を数棟検出しており、自然河川から鹿の線刻のある土器片が出土しており注目に値する。

### 3. 古墳時代

古墳時代では、積石塚で著名な石清尾山古墳群をはじめとする古墳が多く知られているのに対して、集落遺跡はほとんど知られていない。この点、当遺跡で該期の竪穴住居跡等を検出していることは重要である。今後、平野中央部での調査が進むにつれて集落遺跡も検出されるものと思われる。

前期から中期にかけての古墳は平野の縁辺部の丘陵上に立地する。平野北西部の石清尾山山塊上には2基の双方中円墳（猫塚・鏡塚）・9基の前方後円墳（北大塚・石船塚・稲荷山姫塚・姫塚・鶴尾神社4号墳・摺鉢谷9号墳など）の積石塚に10数基の円墳・方墳を加えた大古墳群である石清尾山古墳群が所在し、平野東部では前方後円墳である高松市茶臼

山古墳が低丘陵の頂部に立地している。平野南部においては丘陵上に船岡山古墳や三谷石船古墳が築かれている。他にも円墳をはじめとする多数の古墳が築かれているが、いずれも丘陵上や山麓部に立地している。このような傾向を示す中で、平野の中央部の海岸近くに1基のみで所在する、小規模な円墳の白山神社古墳は特異な存在といえよう。

後期になると横穴式石室を主体部にもつ小型の円墳が群集して出現してくる。前述の石清尾山古墳群のうち大半は横穴式石室墳で、山麓から山頂にかけての各所に見ることができ。これらの小規模な横穴式石室墳は南山浦古墳群・浄願寺山古墳群というようにいくつかの支群に分かれる。数では他の古墳群を圧倒する石清尾山古墳群ではあるが、小規模な横穴式石室をもつものも多く、巨大な石室を主体部とする古墳は見られない。平野の東縁部には山下古墳・久本古墳・小山古墳といった巨大な横穴式石室をもつ古墳が集中している。これらの巨大な石室墳は古墳時代終末期に築かれたものであろう。また、滝本神社古墳は平面形態がT字形の石室を持っており注目される。この地域にも古墳群は存在しているが数基単位で古墳群を形成しており、大規模なものはみられない。平野南部にも大型の横穴式石室をもつ矢野面古墳をはじめとして、いくつかの古墳の存在が知られているが、数基単位の小さな古墳群が散在しているにすぎない。

次に集落遺跡であるが、古墳の数に比べると圧倒的に少ない。当センターが調査した平野中央部の六条・上所遺跡では5世紀の竪穴住居跡から陶質土器とともに韓式土器が出土しており、集落がこの辺りに広がっている可能性を示唆している。また、前田東・中村遺跡では自然河川から古墳時代前期の土器とともに木槌・弓・斧柄・木錘などの多量の木製品が出土していることから、周囲に集落の存在が想定される。当遺跡でも中期の竪穴住居跡が検出されており、他にも高松市教育委員会が発掘調査した天満・宮西遺跡や凹原遺跡などでも集落遺構が検出されていることから、今後発掘調査が進むにつれて多くの集落遺跡が検出されるであろう。

#### 4. 古代

古代の遺跡では前田東・中村遺跡で大きな規模をもつ掘立柱建物跡群を検出しており、さらに帯金具・墨書土器・緑釉陶器などといった出土遺物から官衙的な役割を有していた可能性が指摘されている。高松市教育委員会が調査した松縄・下所遺跡では7世紀中頃～8世紀後半までの幹線道路状遺構を検出している。高松平野の条里制施行に何らかの形で関わっているものであろう。高松平野の土地利用については、天平7年(735)に描かれた「弘福寺領讃岐国山田郡田図」が残されており奈良時代の村落の状況をうかがうことができる。

この田図に描かれた地域は当遺跡の東方一帯に比定されると考えられており、高松市教育委員会によって発掘調査を含めた総合的な調査が進められ、貴重な成果が得られている。高松平野は現在でもほぼ全域に方格地割が認められる地域であり、今後の研究に大きな期待が寄せられている。

## 5. 中世・近世

中世・近世の遺跡としては、城跡や城館跡などが知られているが、集落遺跡としては当センターが調査した東山崎・水田遺跡がある。掘立柱建物跡群や井戸などを検出したが、なかでも掘立柱建物跡を囲むように検出した溝状遺構は、近世の屋敷跡の可能性がある。その他、六条・上所遺跡や前田東・中村遺跡でも掘立柱建物跡を検出している。

城跡等としては、天正16年（1588）に生駒親正によって築城された高松城跡（国指定史跡）が天守閣は消失しているものの典型的な水城としての縄張を今に伝えている。

## 参考文献

- (1) 『木田郡史』1940
- (2) 『一宮村史』1965
- (3) 『香川郡史』1970
- (4) 『高松市茶臼山古墳緊急発掘調査概報』香川県教育委員会 1970
- (5) 『石清尾山塊古墳群調査報告』高松市教育委員会 1973
- (6) 『高松市三谷通谷遺跡調査概報』高松市教育委員会 1974
- (7) 『高松市・山下古墳調査報告』香川県教育委員会 1980
- (8) 『香川町・船岡山古墳調査報告』香川県教育委員会 1980
- (9) 『鶴尾神社4号墳調査報告書』高松市教育委員会 1983
- (10) 『新篇・香川叢書考古篇』香川県教育委員会 1983
- (11) 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館 1983
- (12) 『南山浦古墳群調査報告書』高松市教育委員会 1985
- (13) 『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』香川県教育委員会 1987
- (14) 『香川県史』第1巻 原始・古代 1988
- (15) 『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会 1989
- (16) 梅原未治『讃岐高松石清尾山石塚の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第12冊 1933
- (17) 竺林徳 『高松市高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』 1955



- (18) 森井 正「高松市女木島丸山古墳」『香川県文化財調査報告第8』香川県教育委員会 1966
- (19) 中原耕男「万塚古墳発掘調査報告」『文化財協会報 特別号』第10号香川県文化財保護協会 1971
- (20) 井上勝之「香川町浅野八王子古墳調査報告」『文化財協会報』第58号香川県文化財保護協会 1973
- (21) 小竹一郎他『古高松郷土誌』古高松郷土誌編集委員会 1977
- (22) 松本敏三「久本古墳・横穴式石室の一例」『教育香川』 1977
- (23) 廣瀬常雄『日本の古代遺跡8香川』保育社 1983
- (24) 山元敏裕・山本英之「香川県埋蔵文化財研究会発表資料」 1992
- (25) 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和55年度』香川県教育委員会 1981
- (26) 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和56年度』香川県教育委員会 1982
- (27) 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和57年度』香川県教育委員会 1983
- (28) 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度』香川県教育委員会 1984
- (29) 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和59～62年度』香川県教育委員会 1988
- (30) 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和63年度』香川県教育委員会 1989
- (31) 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成元年度』香川県教育委員会 1990
- (32) 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成2年度』香川県教育委員会 1991
- (33) 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成3年度』香川県教育委員会 1992
- (34) 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成4年度』香川県教育委員会 1993
- (35) 『空港跡地遺跡発掘調査概報 平成3年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1992
- (36) 『空港跡地遺跡発掘調査概報 平成4年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1993
- (37) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 昭和63年度』 1989
- (38) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成元年度』 1990
- (39) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成2年度』 1991
- (40) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成3年度』 1992
- (41) 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成4年度』 1993
- (42) 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1992
- (43) 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 林・坊城遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1993

# 第3章 調査の成果

## 第1節 土層序

本遺跡においては調査区の周囲の四辺の壁と20mグリッドの南壁と東壁について土層観察を行なった。特に調査区の南壁では深掘りトレンチを設定して遺構面下の土層の観察に努めた。深掘りトレンチの深さは各調査区で異なるが、現地表から0.5～2.0m掘削した。なお、調査区の長さはおよそ625mにも及ぶため、土層は多様に変化している。ここでは南壁の観察をもとに各調査区の遺構面の高さや土層堆積の比較を行なった（第4・5図）。

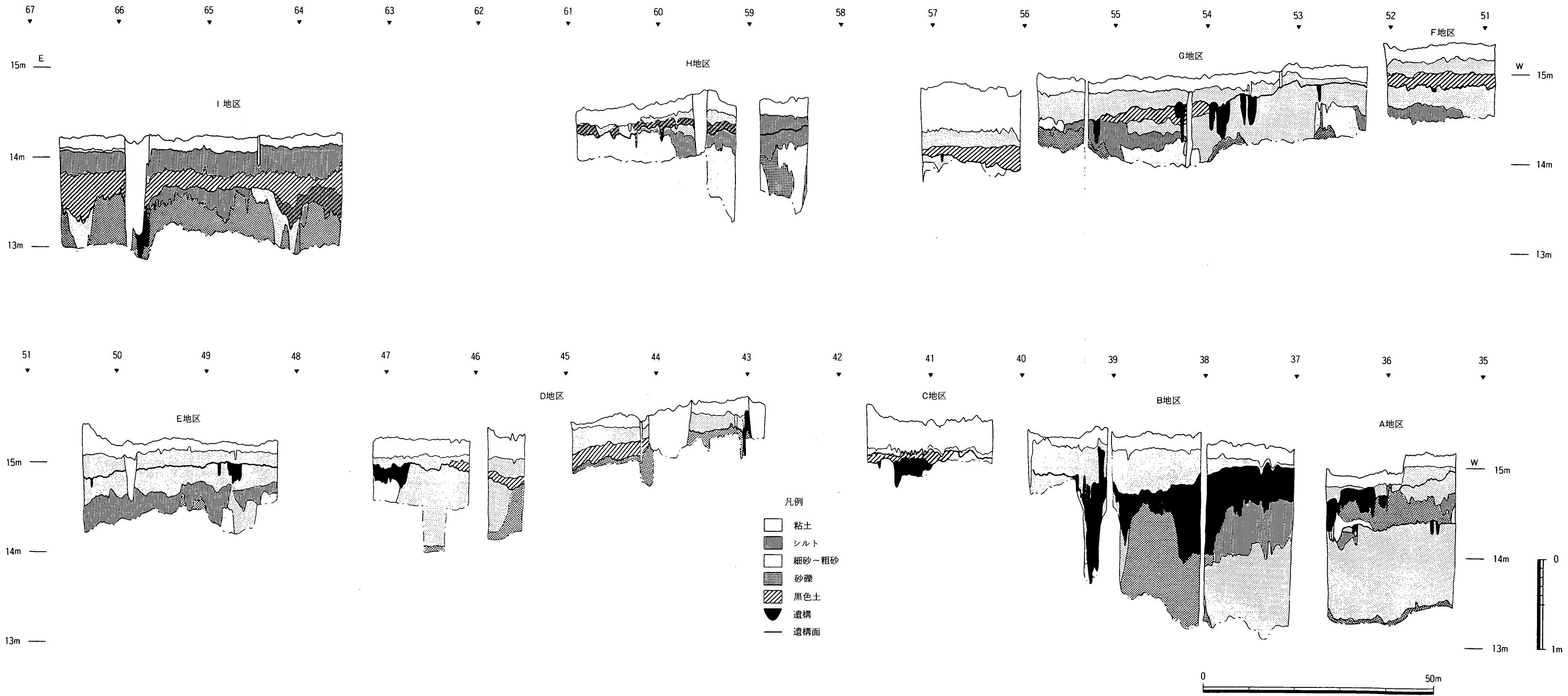
調査以前にはD地区の西部（42～44区）、G地区の東部（56区）、I地区の東部（61・62区）は宅地で、その他は水田であった。調査以前の標高はD地区の西部が最も高く15.8mを測り、D地区を頂点として東西の調査区の標高は徐々に下がり、西側のA地区では14.9mを測る。また、最東部に位置するI地区では14.2mと、調査以前の地表面は本遺跡中最も低い。以下、A地区より順次、土層の堆積状況を記す。

A地区では調査以前の標高は14.9～15.2mを測る。遺構面の高さは14.6～15.0mを測り、中世の掘立柱建物跡と弥生時代以前の旧河川が検出された。また、その下層からは溝が検出された。遺構面下には黄色系の粘土層が0.4mの厚さで水平に堆積しており、その下に0.5～0.7mの厚さで暗灰色粘土・黒色粘土がほぼ水平に堆積する。これらの下層には礫層がみられた。

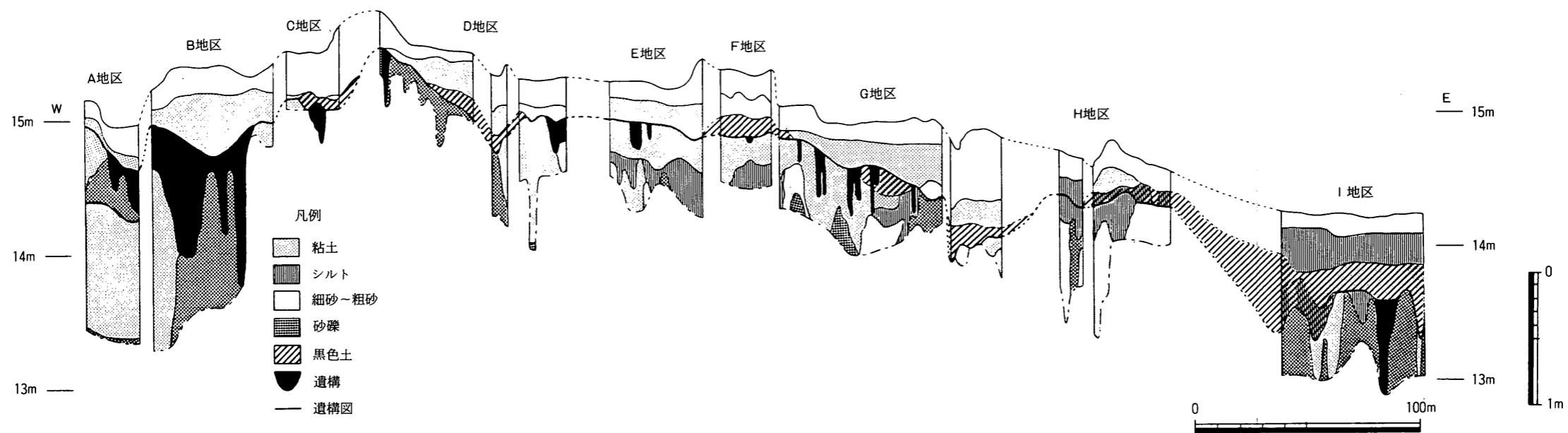
B地区では調査以前の標高は15.2～15.4mを測る。遺構面の標高は14.7～15.0mを測り、弥生時代の河川（S R01・S R02）、古墳時代から室町時代の溝・土坑、平安時代の河川（S R05）が検出された。なお、S R01の埋土最上層の土からはイネのプラント・オパールが<sup>(1)</sup>多量に検出されたことから、<sup>(1)</sup>水田耕作土であったと考えられる。また、38区では遺構面下に礫層が堆積していた。しかし、西部の37区、東部の39区においてはこの礫層の堆積は急激に低くなっており、37区においてはA地区と同様、厚さ0.6mの黄色系シルト・粘土、厚さ0.8m以上の暗灰色・黒色粘土がこの礫層の上に堆積していた。

C地区では調査以前の標高は15.5～15.7mを測る。遺構面は2面存在した。第1面は標高15.1～15.2mを測り、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物跡や溝が検出された。第2面は標高15.1mを測り、弥生時代中期～後期の掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝など弥生時代の居住域が検出された。

D地区の西部（42～44区）は宅地として利用されており、本調査区の南壁付近は本遺跡



第4図 南壁土層断面図



第5図 南壁土層断面模式図

中でも最も高く、15.8mを測る。東部は徐々に下がっており、15.3mと低い。遺構面も現地表同様西部は高く、東部は低いが、中央部はやや凹んでおり、黒色粘土が堆積していた。この凹みの中央付近にはいわゆる出水<sup>(2)</sup>が掘られており、現在も道路下に存在し、田畑に用水を供給している。D地区の遺構面は礫層であるが、この礫層は東部にいくにしたがって低くなり、礫層の上には黄色系粘土層・細砂層が堆積していた。

E～G地区は調査以前には水田として利用されていた。D地区の東部からE・F・G地区にかけて調査以前の標高は徐々に下がっており、E地区では15.2～15.4mを測る。同様に遺構面の標高も西部から東部にかけて下がっており、西部では15.0m、東部では14.8mを測る。遺構は西部では中世の掘立柱建物跡、東部では古墳時代の竪穴住居跡が検出された。E地区の遺構面の下には黄色系粘土・シルトが堆積する。

F地区の現地表の標高は15.3mとE地区とほぼ同じ高さである。遺構面の標高もE地区の東部と同様14.8～14.9mである。ここでも古墳時代の掘立柱建物跡・竪穴住居跡が検出されていることから、居住地として利用されていたことがうかがわれる。E地区同様、遺構面下には黄色系粘土・シルトが堆積する。

G地区の現地表の標高は西部では西側に位置するF地区より0.2m低く、15.1mを測るが、G地区のほぼ中央部ではもう一段下がり、14.9～15.0mを測る。G地区の中でも最東部の56～57区ではさらにもう一段下がり、14.8～14.9mを測る。遺構面は55区までは西部から東部に向かって緩く傾斜するが、最東部の56～57区では13.9～14.1mと急激に低くなっていた。西部ではF地区同様掘立柱建物跡や竪穴住居跡が検出され、居住地として利用されていた。G地区の遺構面下には暗灰黄色・黄色系粘土が堆積するが、東部の55区付近においては遺構面を形成する黄色系粘土・シルトの上層に厚さ0.2mの暗灰色粘土が堆積していた。この暗灰色粘土は花粉・珪藻分析を行ない、堆積の成因や植性を調査したが、花粉や珪藻化石は殆ど検出されなかった。

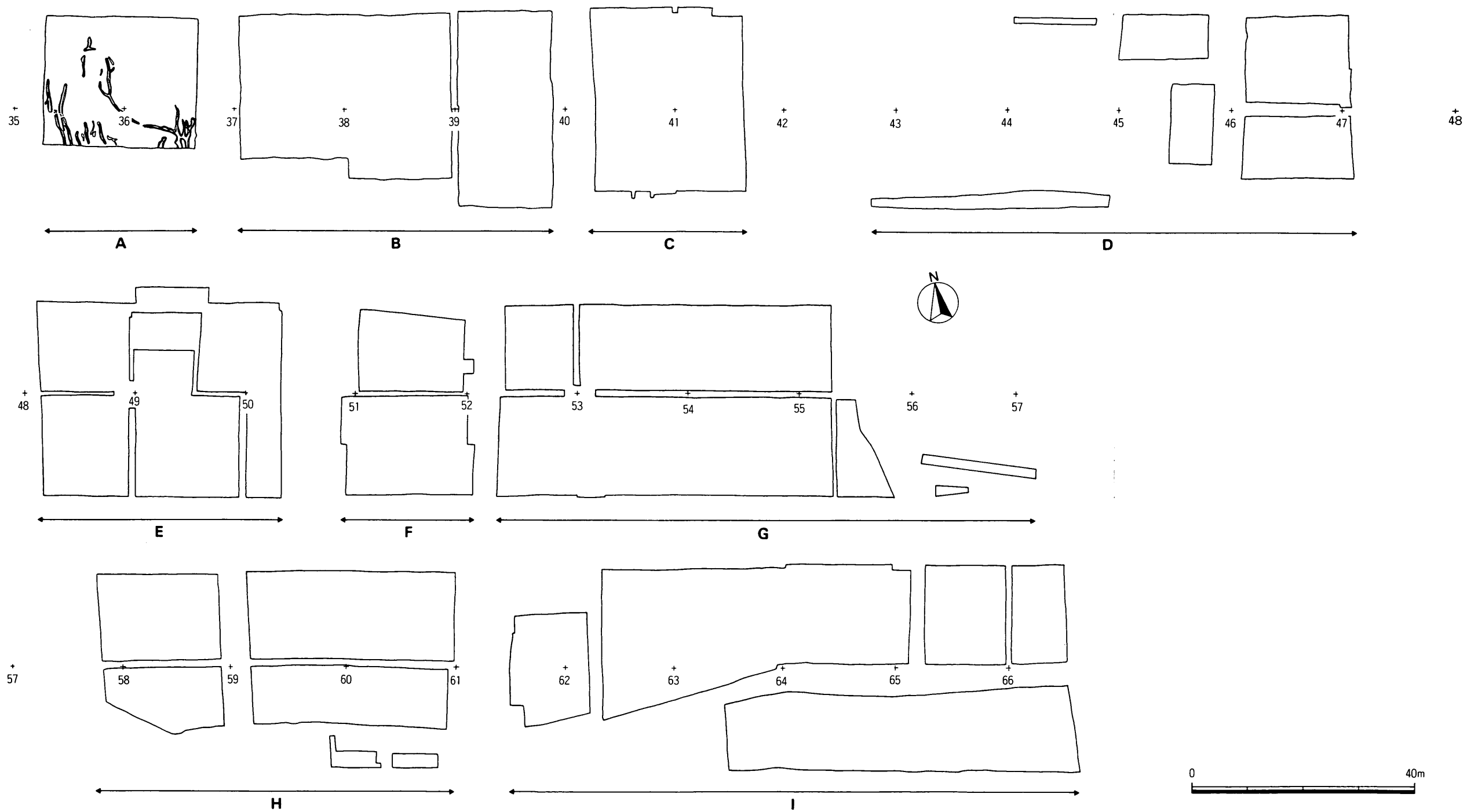
H地区も調査以前は水田であった。現地表の標高は14.6～14.8mとG地区よりさらに低くなっているが、遺構面の標高はG地区の東部に比べやや高くなっており、14.3～14.4mを測る。西部では後世の耕作が深く、灰色シルトが分厚く堆積しているが、東部は耕作土の下に厚さ0.1mの黒色粘土が堆積していた。黒色粘土の下からは弥生時代から古墳時代の河川が検出された。また、東部の遺構面下には細砂が堆積するが、この細砂の堆積層は西部では低くなっており、その上には灰色系のシルトが堆積していた。

I地区の現地表の標高は14.2～14.3mと本遺跡の中では最も低い。ここでもH地区と同

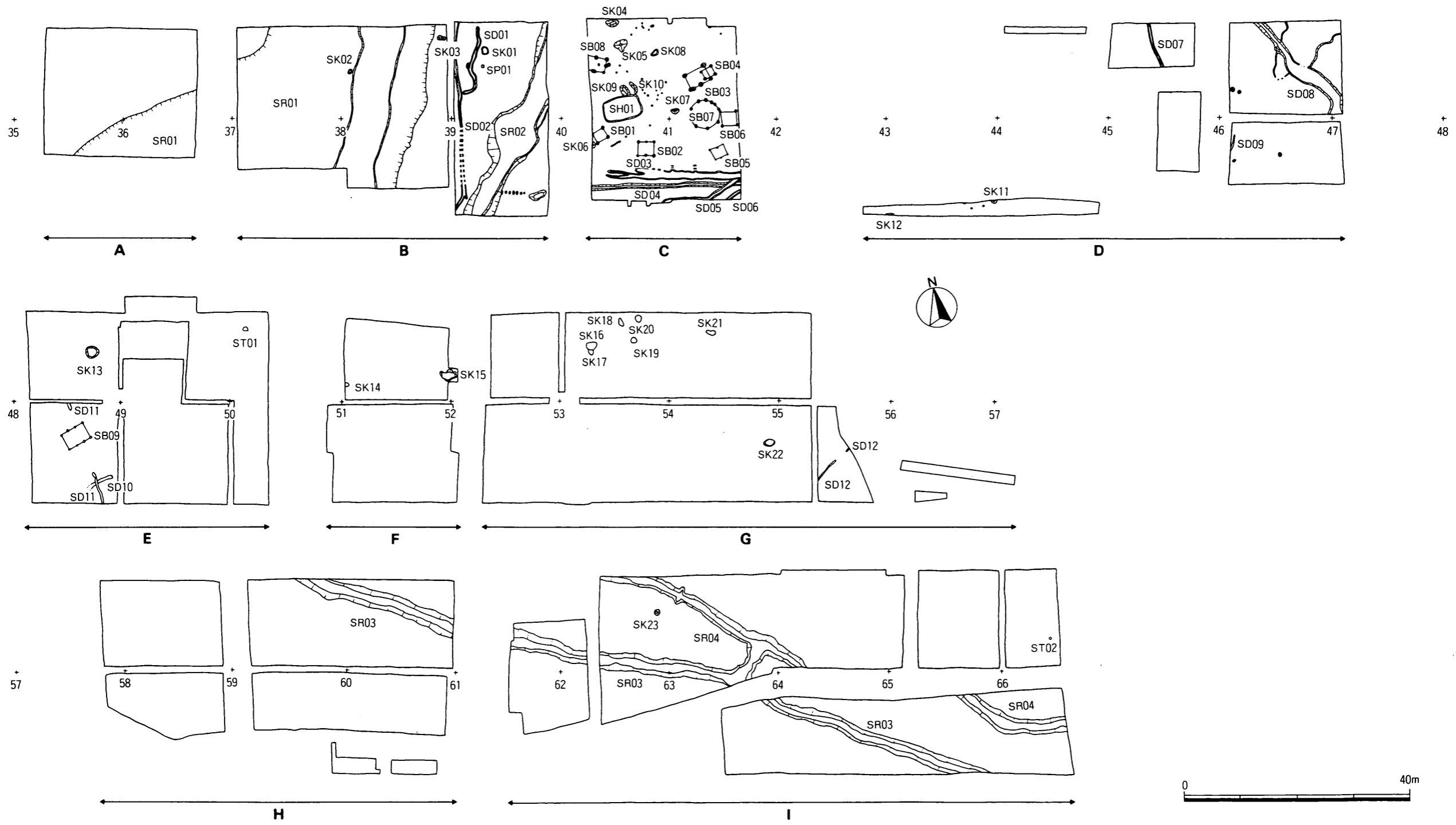
様黑色粘土層の堆積が0.2～0.5mと分厚く、黑色粘土層の下からはH地区から連続する弥生時代から古墳時代の河川が検出された。遺構面下には礫層が堆積しており、一部礫層が凹んでいるところには上層に灰色粘土・シルトが堆積していた。

各調査区における土層の堆積は以上の様であった。弥生時代から古墳時代の住居跡は最も高い場所に位置するD地区から少し下がった位置にあるC地区と、E地区からG地区の西部にかけて検出された。また、D地区では遺構が希薄であった。現在、D地区の中央部には出水が掘られている。出水の掘削時期は不明であるが、掘削深度は数メートルとかなり深い。したがって、深く掘削が及べば湧水は可能だが、太田下・須川遺跡で集落が展開した弥生時代から古墳時代・中世の井戸はD地区では検出されていないことから、当時は水の得にくい場所であったものと考えられる。最も高いD地区では遺構は希薄であり、少し下がった場所に弥生時代から古墳時代の集落がみられるのはおそらく生活水の得易さのためであったと考えられる。

- (1) 本書第4章第1節「太田下・須川遺跡におけるプラント・オパール分析」古環境研究所
- (2) 河川水量の少ない香川県では、出水と呼ばれる井戸を掘削し、この湧水を利用して田畑に配水する。



第6図 弥生時代以前遺構配置図(時期不明のものを含む)



第7図 弥生時代遺構配置図



## 第2節 遺構・遺物

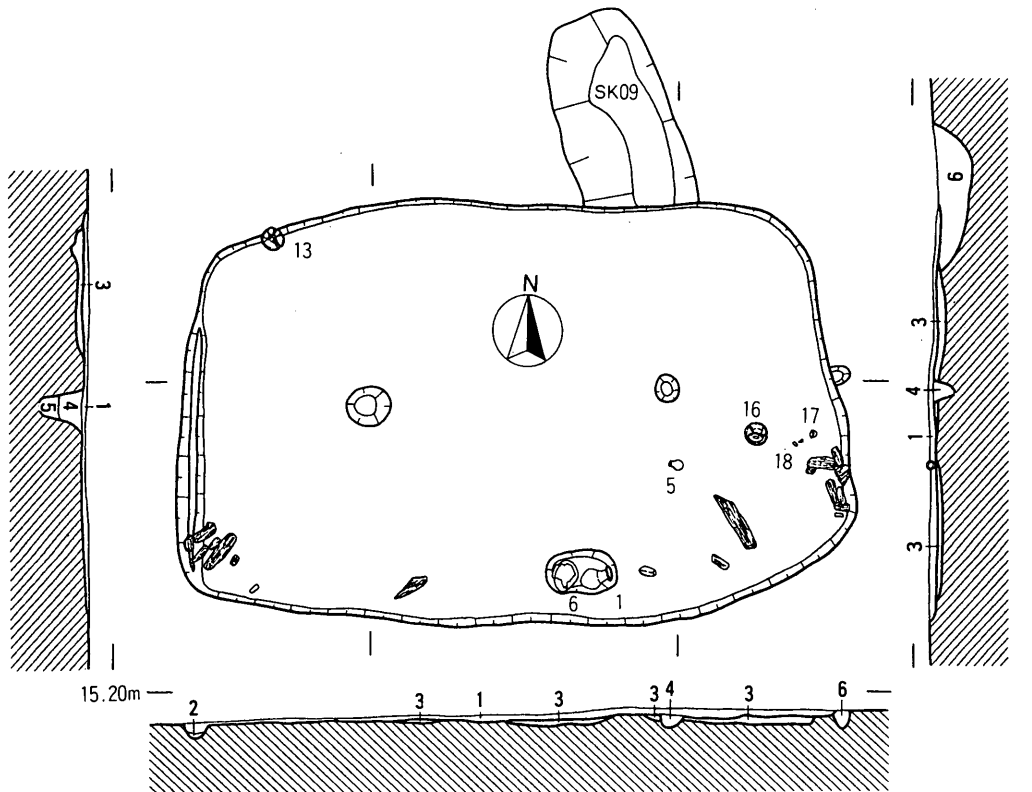
### 1. 弥生時代以前の遺構・遺物（弥生時代も含む）

#### A地区溝群

A地区の西部・南部で検出された。いずれも北から南に向かって流れる溝で、幅0.2～0.8m、深さ0.5mを測る。埋土は灰黄色または暗黄灰色シルト混じり細砂である。遺物は出土しなかったが、B地区から連続するSR01の埋土の下から検出されたことから、SR01以前のものであると考えられる。

#### SH01（第8～11図）

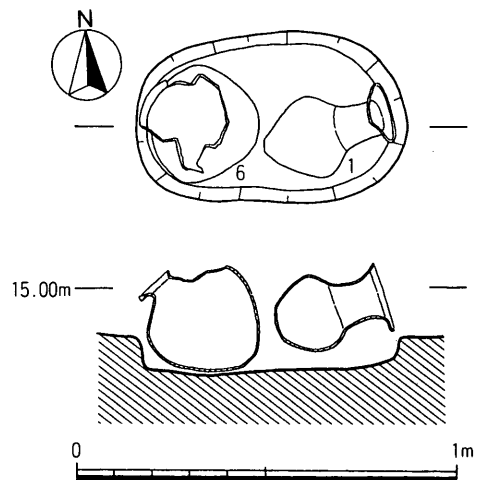
C地区の西部で検出された竪穴住居跡である。SK09と重複するが、埋土の観察より、SH01のほうが新しいことがうかがわれる。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸7.1m、短軸4.3m、深さ0.1m、棟方向はほぼ東西方向で、床面積は25.2㎡を測る。SH01内では柱穴は合計6個検出された。しかし、周辺には数棟の掘立柱建物跡が存在し、SH01内の柱穴の中でも埋土が2種類みられることから、SH01に伴う柱穴は東西に並ぶ2個だけで、他は掘立柱建物跡に伴う柱穴であると考えられる。また、残りの4個の柱穴は埋土からSH01よりも先に掘られたものであると考えられる。埋土から住居の床には、柱穴などの凸凹を埋めるため、茶褐色粘土を薄く貼っていたことがうかがわれる。住居の西側の壁沿いには壁溝がみられる。壁溝の幅は0.3m、深さは0.1mを測る。住居の床面には炭化物や焼土が一面に分布しており、床面からは壺（5）、高杯（13）、器台（16）、ミニチュア甕（17）、石鏃（18）などほぼ完形に近い遺物が出土したことから、焼失によって廃絶した可能性が高いものと考えられる。南部には長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.1mの土坑が存在する。土坑内には壺（1）、甕（6）が口縁部を斜め上にした状態で出土した。おそらく、もとは口縁部を上にした状態で土坑に置かれていたものと考えられる。その他、埋土から壺（2～4）、甕（7～10）、高杯（11・12・14）、鉢（15）、石庖丁（19）が出土した。壺（1～4）はいずれも長頸壺である。口縁端部を肥厚させ、退化凹線文を巡らすものと口縁端部を肥厚させないものの2種類がみられる。1・2は口縁端部を僅かに拡張し、退化凹線文を巡らし、竹管文を施す。また、1は頸部にヘラミガキのような浅い斜めの刻み目、2はヘラ状工具によるやや深い刻み目を巡らす。3～5はいずれも口縁端部を肥厚させず、頸部の刻み目



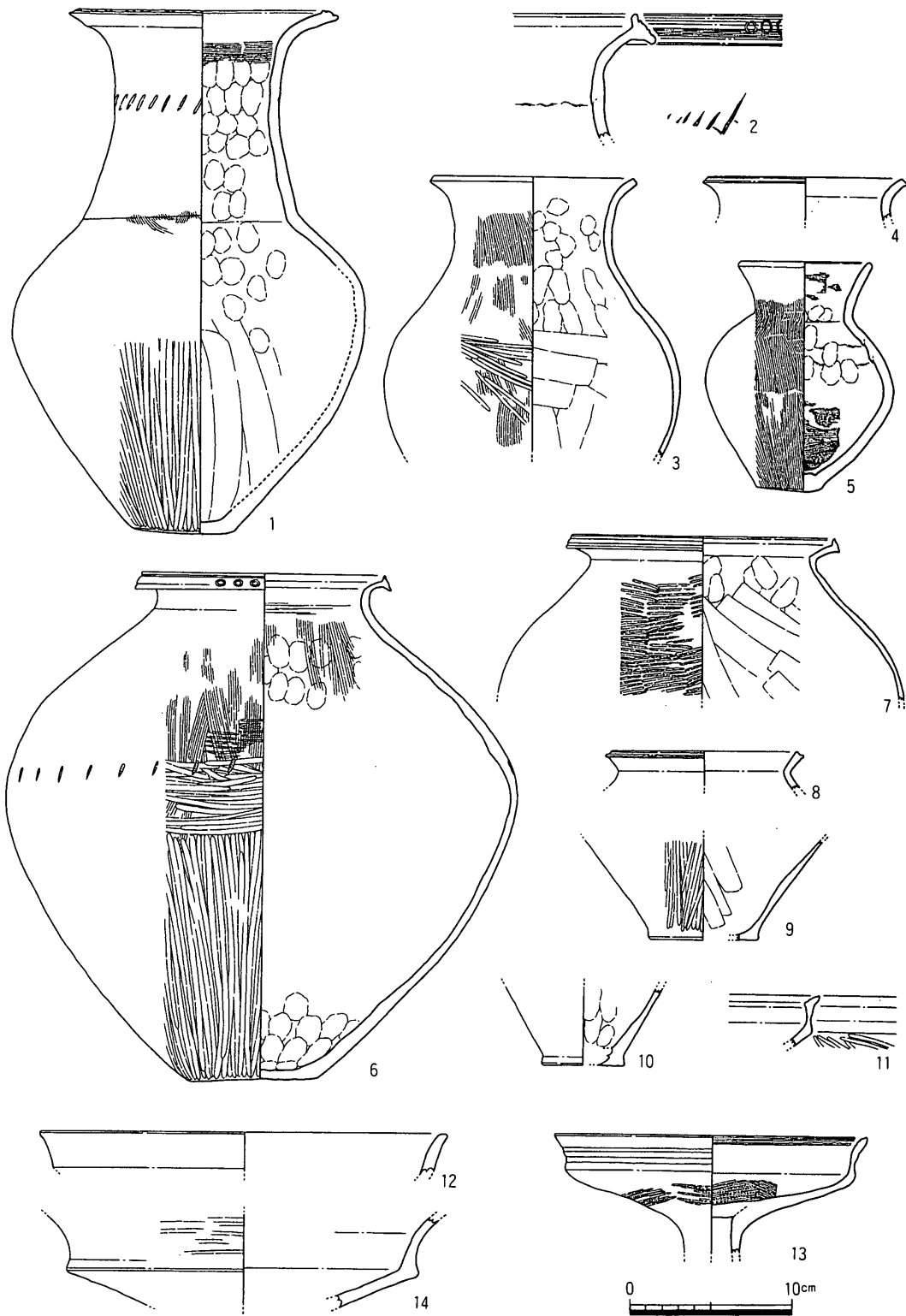
1. 暗茶褐色粘土（炭化物・焼土を少量含む）
2. 暗茶褐色粘土（炭化物を微量含む）
3. 黄灰色粘土ブロック混じり茶褐色粘土（炭化物・焼土を含まない、貼り床）
4. 黄灰色粘土ブロック混じり暗茶褐色粘土（上部に焼土少量含む）
5. 黒灰色粘土（焼土を微量含む）
6. 暗茶褐色粘土（炭化物・焼土を含まない）

第8図 SH01平・断面図

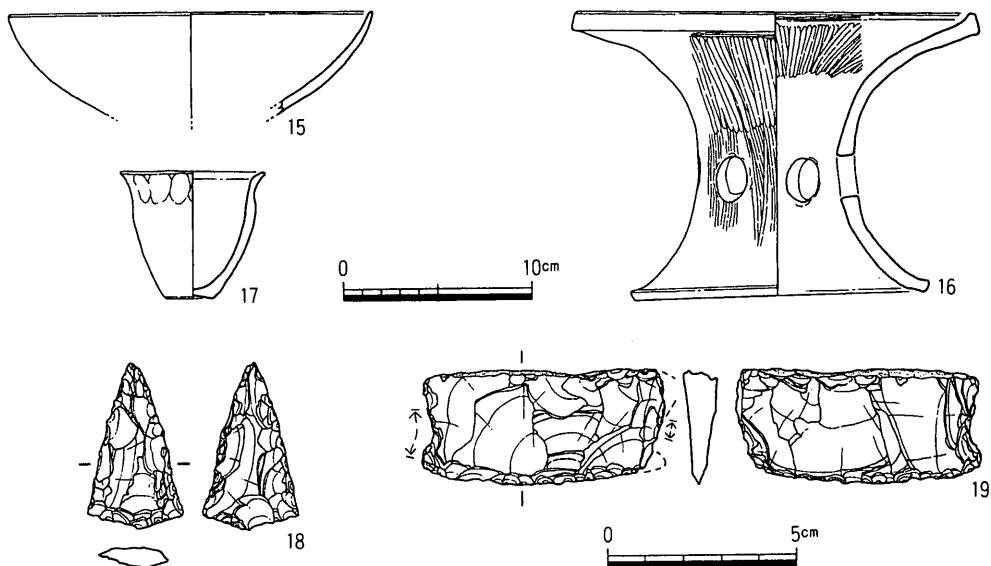
ももたない。甕はいずれも口縁端部を僅かに肥厚させ、退化凹線文を巡らす。6は退化凹線文を施したのち、竹管文を施す。高杯は口縁端部を肥厚させるもの（11）と肥厚させないもの（12・13）の2種類がみられる。13は口縁部内面にごく浅い退化凹線文を巡らす。土器の胎土はいずれも黒色砂粒を多量に含み、茶褐色系統の色調を呈する。これらの土器は弥生時代後期前半に比定されるものと考えられる。石器はいずれもサヌカイト製である。



第9図 SH01内土坑遺物出土状況平・断面図



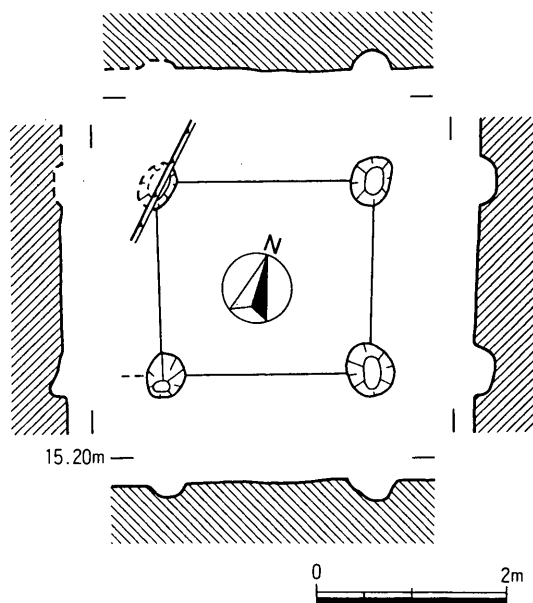
第10图 SH01出土遺物実測図(1)



第11図 SH01出土遺物実測図(2)

SB 01 (第12図)

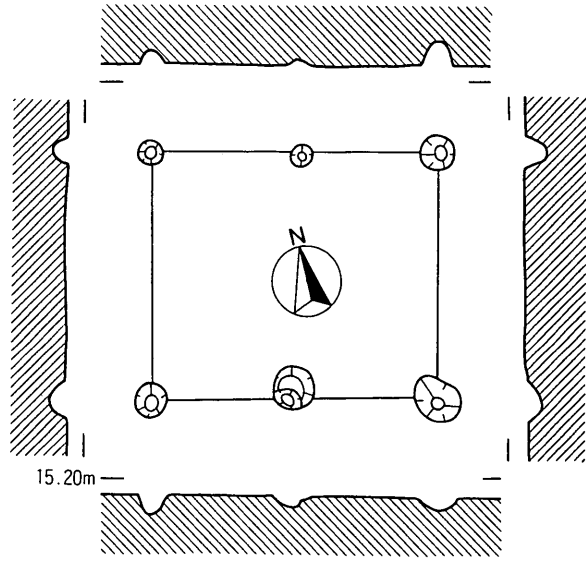
C地区の西部, SH01の南西部で検出された掘立柱建物跡である。調査区の端で検出されたため、建物は西に延びる可能性もあり、建物規模は桁行1間(2.3m)以上、梁間1間(2.0m)、棟方向はN71°E、床面積は4.6㎡以上を測る。柱穴の平面形は円形を呈し、径0.4~0.6m、深さ0.1~0.2mを測る。埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は出土しなかった。



第12図 SB01平・断面図

**SB 02** (第13図)

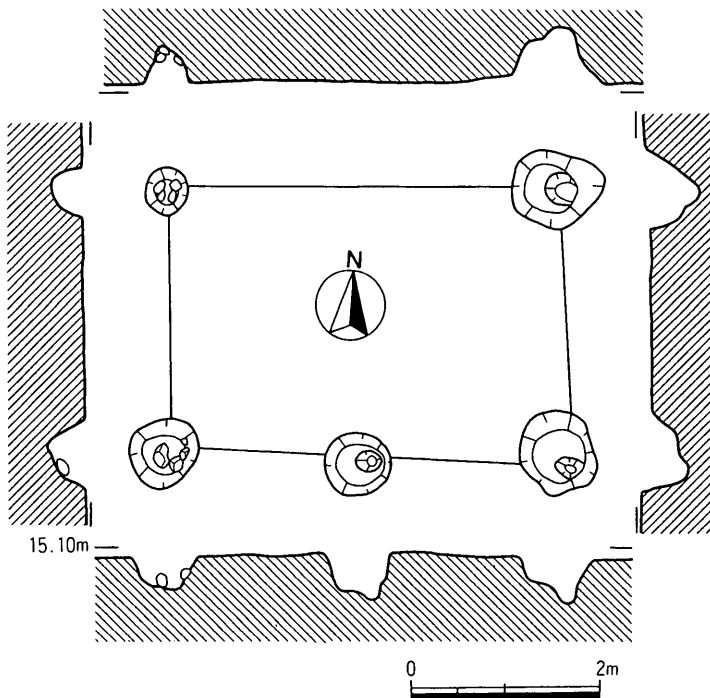
C地区の南部SH01の南側で検出された。桁行2間(3.0m)、梁間1間(2.6m)、棟方向はN77°W、床面積は7.9m<sup>2</sup>を測る。柱穴の平面形は円形を呈し、径0.2~0.5m、深さ0.1~0.3mを測る。埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は柱穴から弥生土器底部片が1片出土しただけである。



第13図 SB02平・断面図

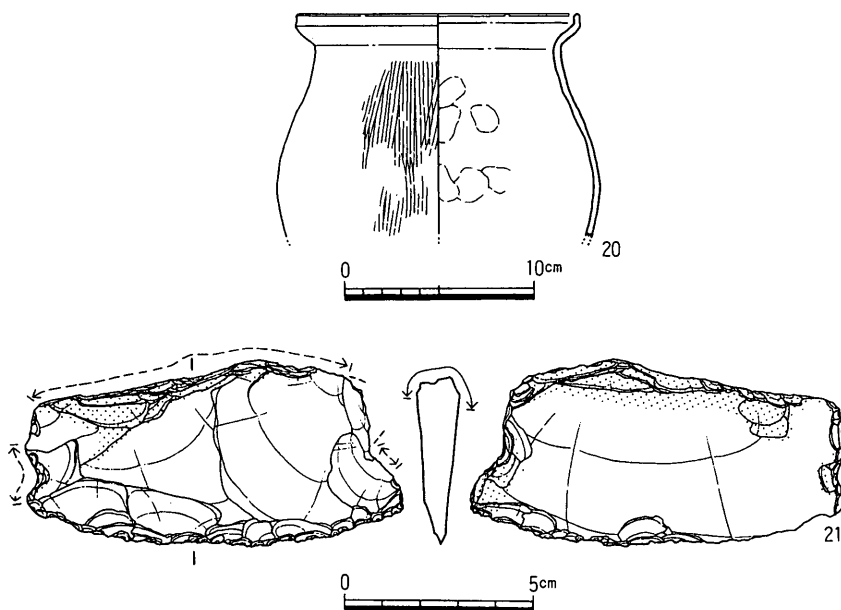
**SB 03** (第14・15図)

C地区の北西部で検出された掘立柱建物跡である。SB04と重複するが、柱穴が重複しないため前後関係は不明である。桁行2間(4.2m)、梁間1間(2.8m)、棟方向N86°E、床面積12.1m<sup>2</sup>を測る。柱穴の平面形はいずれも円形を呈し、二段掘りである。西側の2個



第14図 SB03平・断面図

の柱穴からは柱を支える詰め石が検出された。柱穴の規模は付近の掘立柱建物跡の中でも大きく、径0.5～0.9m、深さ0.3～0.6mを測る。埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は柱穴から弥生土器甕（20）、石庖丁（21）のほか、弥生土器片が少量出土した。

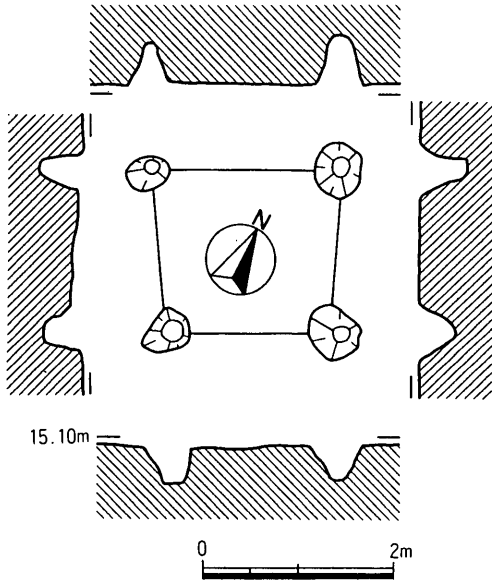


第15図 SB03出土遺物実測図

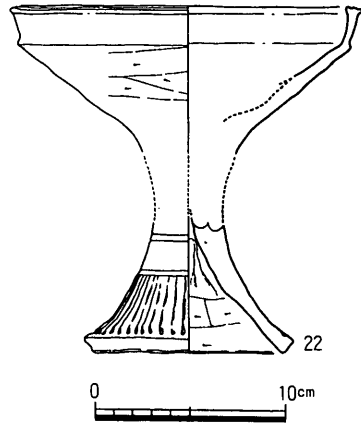
#### SB 04 （第16・17図）

C地区の北西部で検出された。SB03と重複するが、柱穴が重複しないため前後関係は不明である。桁行1間(1.8m)、梁間1間(1.7m)、棟方向はN65°E、床面積は3.2m<sup>2</sup>を測る。柱穴の平面形はほぼ円形を呈し、径0.5～0.6m、深さ0.4～0.5mを測る。埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は柱穴から弥生土器高杯（22）のほか弥生土器片が少量出土した。

22は口縁部がほぼ真っすぐ立ち上がり、口縁端部に面をもつ。杯部外面はヘラケズリを施す。脚部は上部を欠損するが、2本1単位の沈線を2単位以上巡らす。また、その下部にはヘラ状工具による縦方向の沈線と三角形の線刻がみられる。このような形態から弥生時代中期後半に属するものと考えられる。また、22は白色を呈し、本遺跡の弥生時代中期後半から後期土器の大半を占める茶褐色の土器とは明らかに異なる土器胎土をもつ。



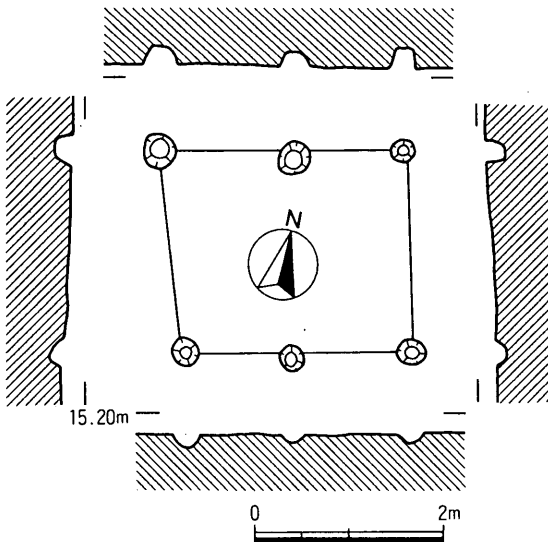
第16図 SB04平・断面図



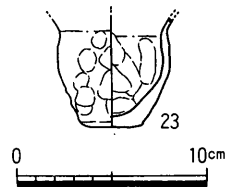
第17図 SB04出土遺物実測図

**SB 05** (第18・19図)

C地区の南東部で検出された掘立柱建物跡である。桁行2間(2.4~2.6m)、梁間1間(2.1m)、棟方向N77°E、床面積は5.4m<sup>2</sup>を測る。柱穴の平面形はほぼ円形を呈し、径0.3~0.4m、深さ0.1~0.2mを測る。埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は弥生土器ミニチュア甕(23)のほか、弥生土器片が少量出土した。



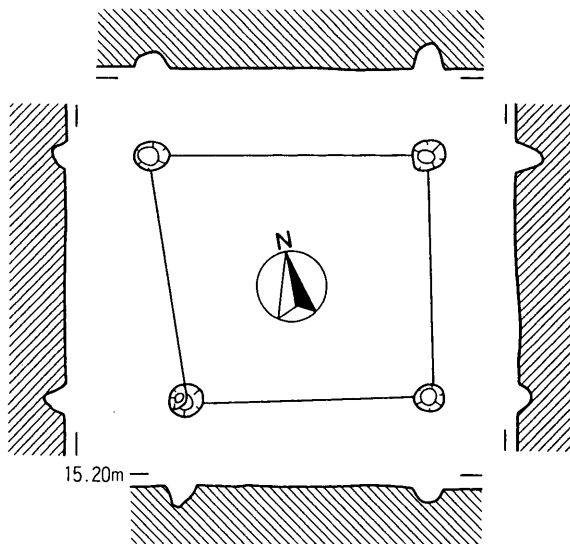
第18図 SB05平・断面図



第19図 SB05出土遺物実測図

**SB 06** (第20図)

C地区の東部で検出された掘立柱建物跡である。調査区の端で検出されたため建物は東に連続する可能性も考えられる。桁行1間(2.6~3.0m)、梁間1間(2.5~2.6m)、棟方向N82°W、床面積は7.2m<sup>2</sup>を測る。柱穴の埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

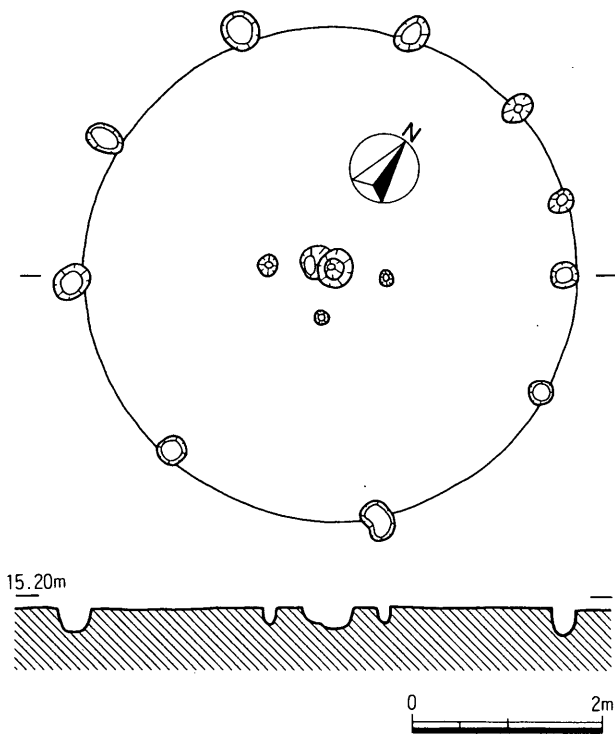


第20図 SB06平・断面図

**SB 07** (第21・22図)

C地区の東部で検出された円形の建物である。掘り込みは検出できなかったことから掘立柱建物跡として報告するが、遺構面は当時の生活面からかなり下がっていると考えられることから、竪穴住居跡の上部が削平された可能性も考えられる。中央には中心となる柱穴がみられ、その周囲に3個、また、その外側には10個の柱穴が円形に並ぶ。

たことから掘立柱建物跡として報告するが、遺構面は当時の生活面からかなり下がっていると考えられることから、竪穴住居跡の上部が削平された可能性も考えられる。中央には中心となる柱穴がみられ、その周囲に3個、また、その外側には10個の柱穴が円形に並ぶ。



第21図 SB07平・断面図



第22図 SB07出土遺物実測図

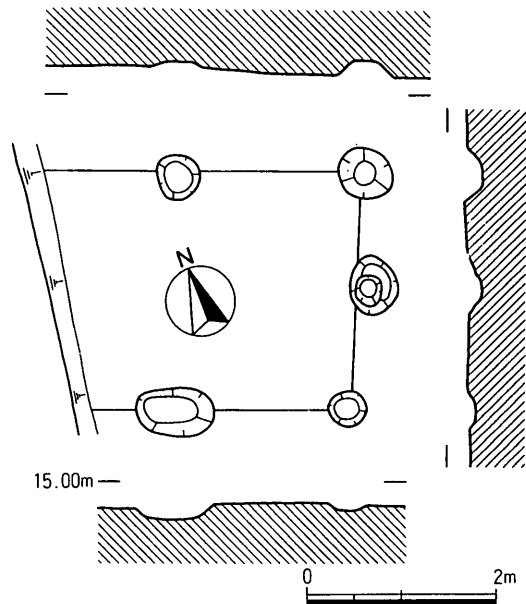


中心となる柱穴は2個重複しており、建て替えられたことがうかがわれる。したがって、外側に円形に巡る柱穴も同時期に存在したものではないと考えられる。柱穴の平面形はほぼ円形を呈し、径0.2～0.4m、深さ0.2～0.4mを測る。柱穴の埋土は暗茶褐色粘土で、遺物は弥生土器高杯（24）、削器（25）のほか弥生土器片、サヌカイト剥片が数点出土した。

24は高杯の脚部である。脚端部に面をもつが、脚端部をあまり拡張しておらず、弥生時代後期に属するものと考えられる。25は削器で、サヌカイト製である。

### SB 08 （第23図）

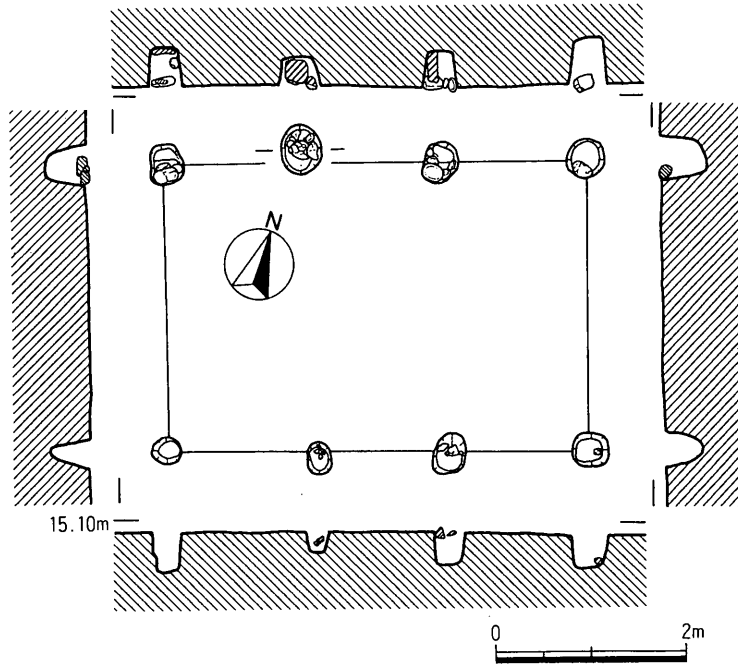
C地区の北西部で検出された掘立柱建物跡である。調査区の端で検出されたため建物が西に連続する可能性も考えられる。少なくとも桁行1間以上（1.9m）、梁間2間（2.5m）、棟方向N20°W、床面積は7.7m<sup>2</sup>以上を測る。柱穴の平面形はいずれも円形を呈し、径0.4～0.8m、深さ0.1～0.2mを測る。埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は出土しなかった。



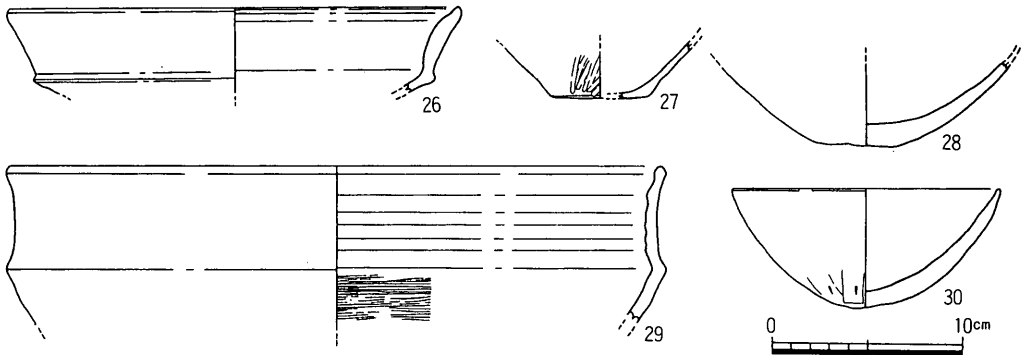
第23図 SB08平・断面図

### SB 09 （第24・25図）

E地区 a-48中央部やや東よりで検出した1間（3.0m）×3間（4.5m）の掘立柱建物跡である。柱穴間の距離は桁行約2.9m、梁間約1.4mで、主軸方向はN70°E、ピットの埋土は黒褐色粘質土である。柱穴の大きさは直径約0.2mで、深さは約0.3mである。8つのピットのうち、7つに石が入っており、おそらく柱を支えるためのものであろう。石の入ったピットのうち1つから弥生時代後期の鉢形土器の口縁部が石の上に置かれた状態で出土した。このことより、この建物を放棄する際に何らかの祭祀（例えば、地鎮等）を行っていた可能性が考えられる。



第24図 SB09平・断面図



第25図 SB09出土遺物実測図

出土遺物は少ないが、ピット中から出土したものを5点図化した(第25図)。

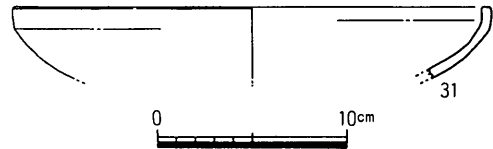
26は、高杯の口縁部である。杯部から外反しながら朝顔形に広がり、口縁内側をやや肥厚させている。27・28は甕形もしくは壺形土器の底部である。27は平らな底部から直線的に立ち上がる底部であり、外面に細いヘラミガキが見られる。28は小さな平底から緩やかに弧を描くように立ち上がる底部であり、おそらく壺形土器の底部であろう。29は大型の鉢形土器の口縁部である。体部から屈曲してやや外反しながら、直線的に上方へ立ち上がり、端部は丸くおさめる。直線的に立ち上がる部分の内面には4条の凹線が施されており、体部内面には横方向のハケ目が見られる。30は、小型の鉢形土器である。厚手の丸底から

やや内湾気味に立ち上がり、端部は細く丸く仕上げている。内面に若干ヘラケズリが見られる。

高杯の口縁部の立ち上がりや鉢形土器の形態から見て、弥生時代後期前半の所産であり、したがって、この掘立柱建物跡の埋没年代もそのころに比定できよう。

#### SP 01 (第26図)

B地区の東部b-39で検出された小穴である。径0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は暗茶褐色シルトである。埋土から弥生土器高杯(31)が出土した。



第26図 SP01出土遺物実測図

31は口縁部がほぼ直立し、口縁端部に面をもつことから、弥生時代中期後半の高杯であると考えられる。土器胎土は茶褐色系統の色調を呈し、黒色砂粒を含む。

#### SK 01

B地区の東部SR02・SR05の西側で検出された土坑である。平面形はややいびつな円形を呈する。径1.2m、深さ0.2mを測る。埋土は暗茶褐色砂質シルトの単層である。遺物は弥生土器片が少量出土したが、小片のため詳細な時期は不明である。

#### SK 02

B地区の中央部SR01中で検出された土坑である。埋土からSR01と同時併存したものであると考えられる。平面形は隅丸長方形、断面形は逆台形を呈する。長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.3mを測る。埋土は黒紫褐色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

#### SK 03

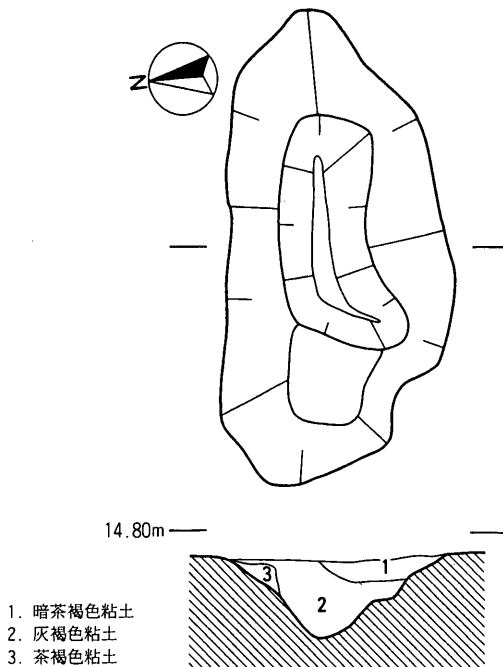
B地区の中央北部で検出された土坑である。平面形は達磨形を呈し、断面形は逆台形を呈する。長軸1.5m、短軸0.7m、深さ0.2mを測る。埋土は黒紫褐色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

**SK 04** (第27図)

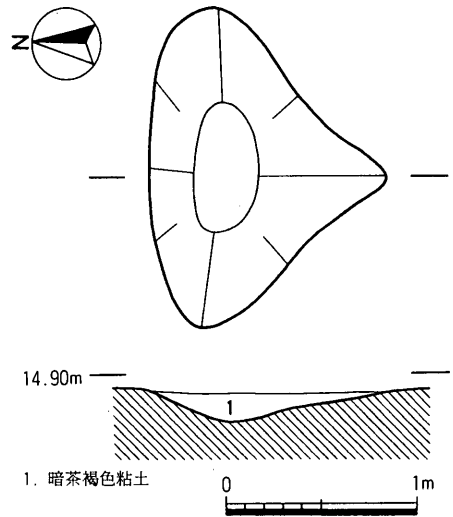
C地区の北端で検出された土坑である。平面形はややいびつな楕円形を呈する。長軸2.4m、短軸1.2m、深さ0.4mを測る。遺物は出土しなかった。

**SK 05** (第28図)

SK04の南側で検出された土坑である。平面形はやや丸みを帯びた三角形を呈する。長径1.6m、深さ0.2mを呈する。遺物は出土しなかった。



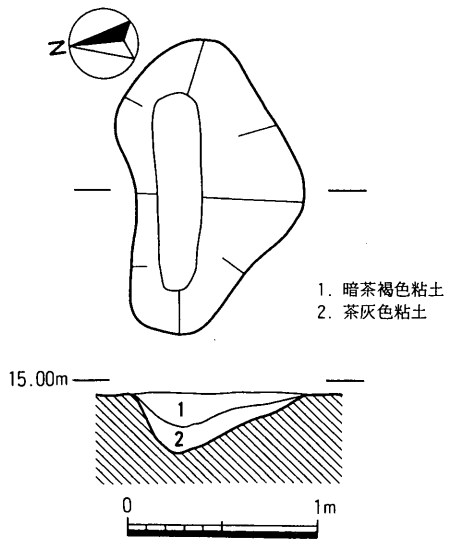
第27図 SK04平・断面図



第28図 SK05平・断面図

**SK 06**

C地区の西端で検出された土坑である。西部は調査区外に連続するため全体は不明であるが、円形を呈するものと考えられる。推定径は1.0m、深さ0.5mを測る。埋土は暗茶褐色粘土である。遺物は出土しなかった。



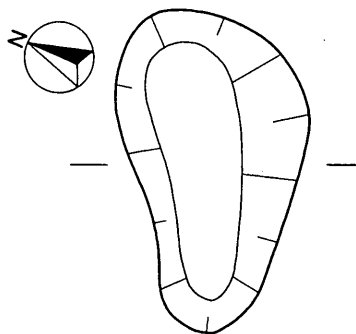
第29図 SK07平・断面図

SK 07 (第29図)

C地区のほぼ中央部で検出された土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈する。長軸1.6m、短軸0.9m、深さ0.3mを測る。遺物は出土しなかった。

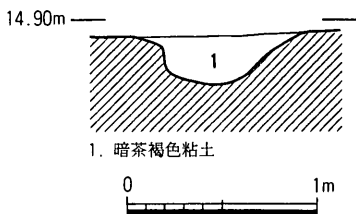
SK 08 (第30図)

C地区の北部で検出された土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈する。長軸1.7m、短軸0.9m、深さ0.3mを測る。遺物は出土しなかった。

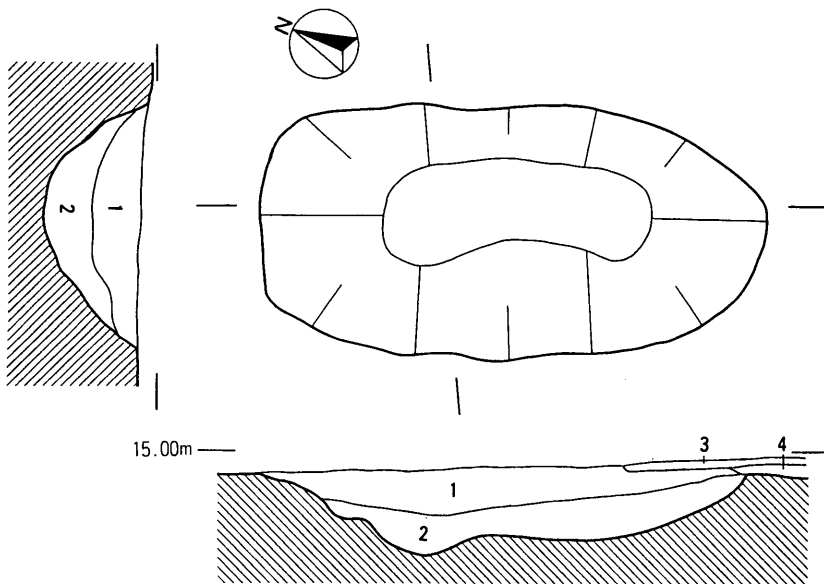


SK 09 (第31図)

C地区の西部、SH01の北側で、SH01と重複して検出された。埋土から、SK09の埋没後、SH01が掘削されたことがうかがわれる。平面形はほぼ楕円形を呈し、長軸2.7m、短軸1.3m、深さ0.5mを測る。遺物は出土しなかった。



第30図 SK08平・断面図



1. 暗茶褐色粘土
2. 茶褐色粘土
3. 暗茶褐色粘土  
(炭化物・焼土を少量含む。SH01埋土)
4. 黄灰色粘土ブロック混じり茶褐色粘土  
(炭化物・焼土を含まない。SH01貼り床)

第31図 SK09平・断面図

### SK 10

C地区の西部，SK09の東側で検出された土坑である。平面形はいびつな楕円形を呈し，長軸2.4m，短軸0.6m，深さ0.4mを測る。遺物は出土しなかった。

### SK 11

D地区の南西部の調査区a-42・43・44のほぼ中央で検出された土坑である。遺構の北部は調査区外に連続するため全体は不明である。平面形はほぼ円形を呈するものと考えられ，推定径1.0m，深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

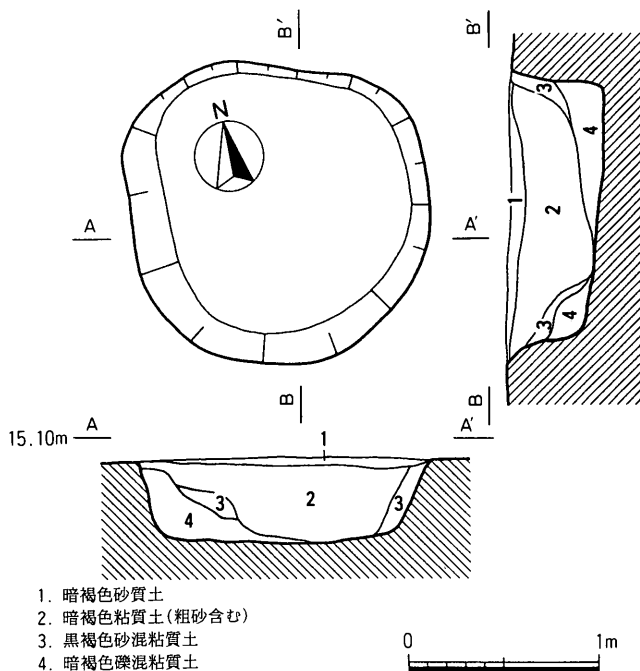
### SK 12

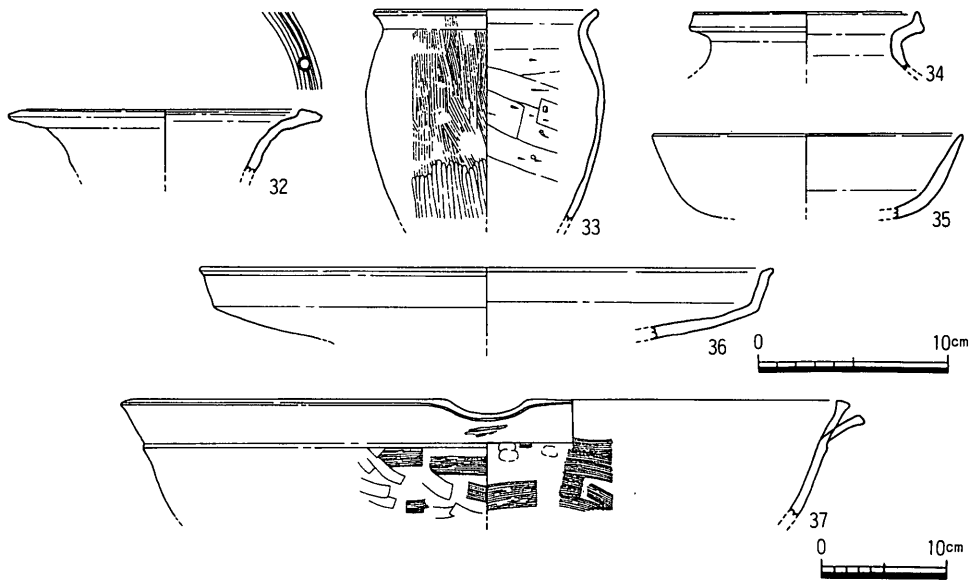
D地区の南西部の調査区a-42・43・44のほぼ西部で検出された土坑である。南部は調査区外に連続するが，平面形は楕円形を呈するものと考えられ，長軸1.3m，短軸0.3m，深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

### SK 13 (第32・33図)

E地区中央部やや西よりの部分で検出した直径1.5m，深さ約0.5mの不整形円形を呈する土坑である。埋土は，ほとんどが暗褐色粘質土で占められるが底の周囲に黒褐色粘質土が堆積しており，まずこの土が堆積し，その後一度に暗褐色粘質土が堆積したものであると思われる。土坑の底は現在も湧水量が多く，井戸であった可能性が高い。

出土遺物はすべて弥生土器である(第33図)。32は壺の口縁部である。細い頸部から斜め上方





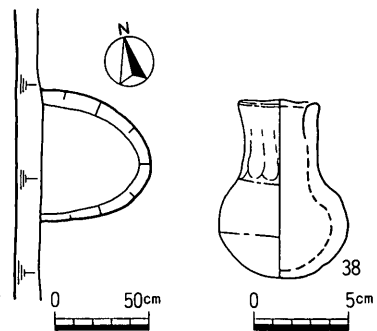
第33図 SK13出土遺物実測図

へ立ち上がり、さらに横方向へ拡張する。端部は若干肥厚させ凹線数条と竹管文を施す。33・34は甕である。33は小型の甕でわずかに外反する短い口縁部をもつ。内面はヘラケズリ調整を、外面は胴部下半部にはミガキ調整、上半部には斜め方向のハケ目がみられる。34は頸部から外方へ屈曲し、端部を上方へ拡張する口縁部である。35は鉢である。36は大型の高杯である。口縁部は屈曲して立ち上がり、端部はわずかに外方へつまみ出す。37は大型の片口鉢である。擂鉢のような器形をもち、口縁部と胴部の境に段をもつ。

甕の内面のヘラケズリ調整が頸部まで及んでいることよりこの土坑は弥生時代後期後半に埋没したものと思われる。

#### SK 14 (第34・35図)

F地区b-51西端で検出した半円形の土坑である。西半分は調査区外のため形状は不明である。検出した部分で、長さ・幅ともに約1.0mを測る。埋土は黒褐色粘質土の単一層で、ミニチュアの壺が1点出土している(第35図・38)。長頸壺のミニチュアで器高9cmを測る。弥生時代後期後半頃のものと思われる。



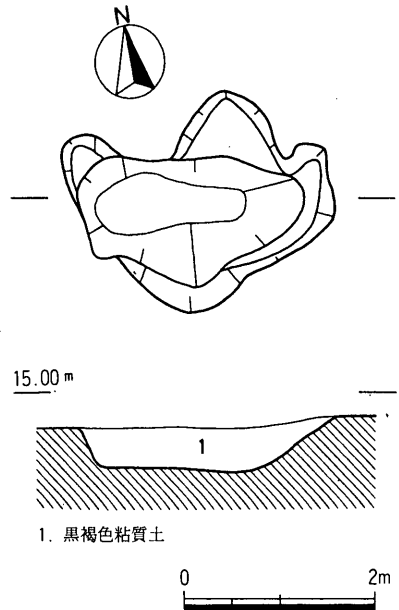
第34図 SK14平面図

第35図 SK14出土遺物実測図

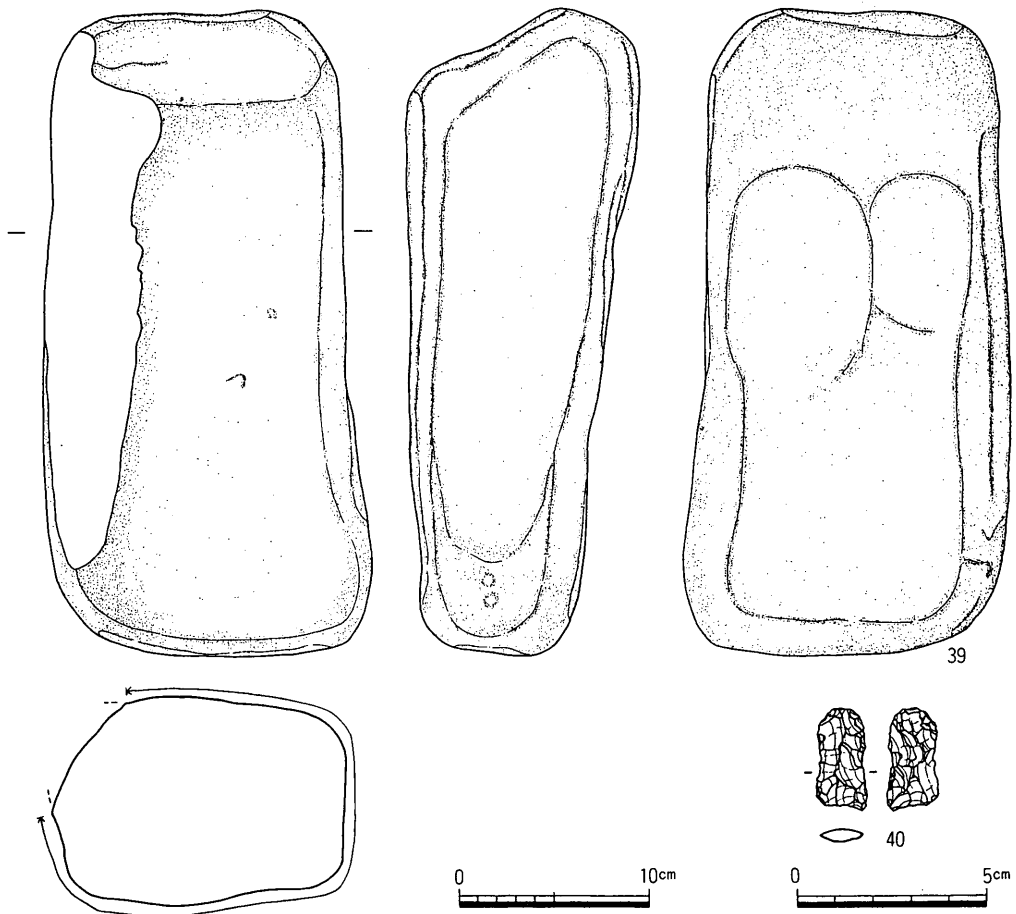
SK 15 (第36・37図)

F地区b-51・52にまたがって検出した不定形の土坑である。平面形は非常にいびつで八つ手状を呈する。掘り方は2段になっており、下段は長楕円形を呈する。平面形の長径は約2.8m、短径は約2.2mで、深さは約0.6mである。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。

遺物は石器が2点出土している(第37図)。39は砥石である。砂岩製で表も裏も使用した痕跡が認められる。40は平基式の石鏃である。先端が丸いため、あるいは未製品であるかもしれない。弥生時代後期後半のものと思われる。



第36図 SK15平・断面図



第37図 SK15出土遺物実測図

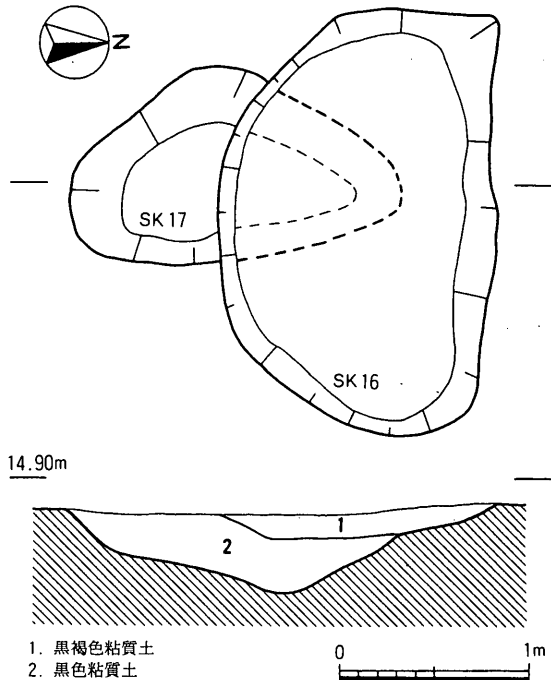


SK 16・17 (第38図)

G地区b-53で検出したSD13に接する不定形の遺構である。SK16は長軸2.3m、深さ約0.1mの東西方向の長楕円形を呈し、SK17の埋没後に形成されていた。埋土は、地山の黄褐色土を多量に含む黒褐色粘質土の単一層で遺物は出土しなかった。

SK17は、長軸1.5m、短軸0.9mの南北方向の長楕円形を呈し、北側半分を若干SK16に破壊されている。深さは約0.3mで、埋土は黒色粘質土の単一層である。やはり、遺物は出土しなかった。

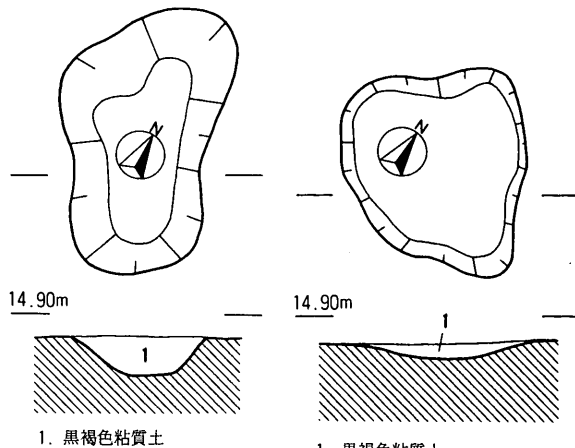
埋土の特徴などからみて、弥生時代のものであると思われる。



第38図 SK16・17平・断面図

SK 18 (第39図)

G地区b-53中央北部で検出したややいびつな長方形を呈する遺構である。長軸は1.5m、短軸0.7mで深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色粘質土の単一層であり、遺物は全く出土しなかった。



第39図 SK18平・断面図

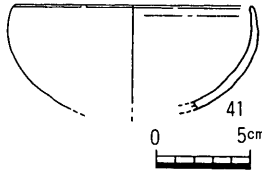
第40図 SK19平・断面図

SK 19 (第40図)

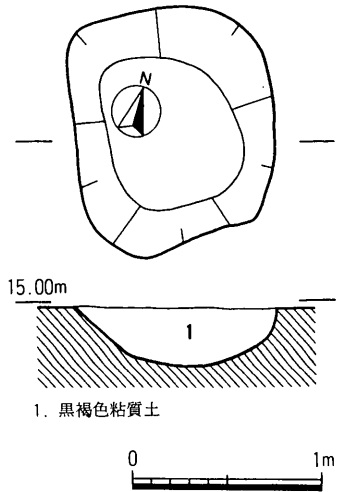
SK18より南へ約4.0mのところ検出した不定形の遺構である。約1.0m四方のややいびつな四角形を呈する。深さは約0.1mで、埋土は黒褐色粘質土の単一層であり、遺物は出土しなかった。

**SK 20** (第41・42図)

G地区b-53中央北部やや東よりのSD34西側部分で検出した1.2m四方の土坑である。深さは約0.3mで、埋土は礫を多量に含む黒褐色粘質土の単一層である。遺物は弥生土器がほとんどであるが、細片ばかりで図化し得なかった。その他、混入によるものと思われる土師器があり、そのうち1点を図化した(第42図・41)。41は鉢である。球状を呈する底部から内彎しながら口縁部に至る。精製された良質の胎土を用いている。古墳時代中期から後期のものと思われる。



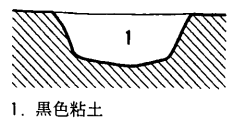
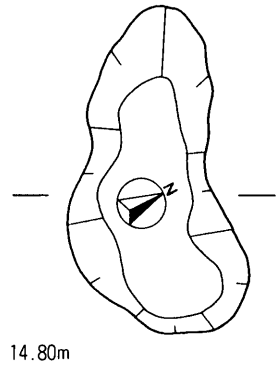
第42図 SK20出土遺物実測図



第41図 SK20平・断面図

**SK 21** (第43図)

G地区b-54中央部やや西よりで検出した東西方向に長いヒョウタン状を呈する土坑である。長軸1.8m, 短軸0.9mで深さは約0.3m, 埋土は黒色粘土の単一層である。遺物は全く出土しなかったが、埋土の特徴等から弥生時代後期のものと思われる。

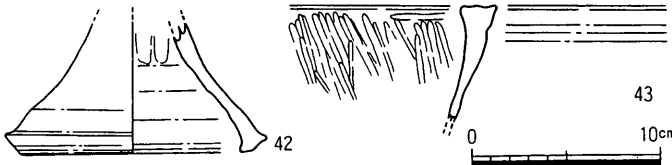


第43図 SK21平・断面図

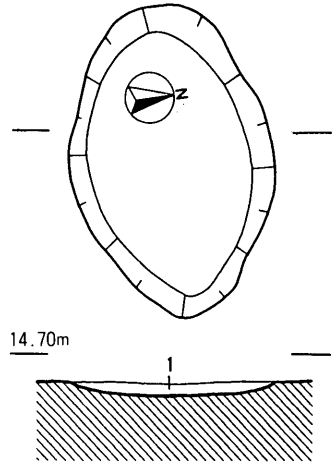
**SK 22** (第44・45図)

G地区a-52の南東部で検出された不正楕円形の土坑である。東西方向1.6m, 南北方向1.1mを測り、深さは約0.1mである。埋土は黒褐色細砂混粘質土で緩やかに傾斜する。

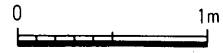
遺物はすべて弥生土器である(第45図)。42は高杯の脚部である。端部は内面が若干内彎し、外方へつまみ出し、段を形成する。43は鉢の口縁部である。端部になるほど肥厚し、上面に強いナデによる面をもつ。外面に強いナデによる凹線状の凹みがみられ、内面には縦方向の下からのヘラ磨きが顕著である。



第45図 SK22出土遺物実測図



1. 黒褐色細砂混粘質土

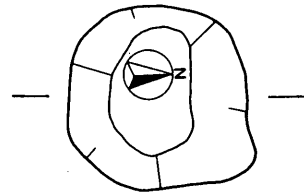


第44図 SK22平・断面図

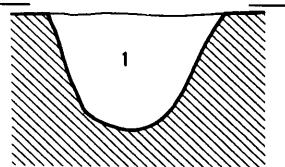
### SK 23 (第46・47図)

I 地区 b-62 ほぼ中央部で検出した直径約0.9mの土坑である。深さは約0.6mで中には河原石が多量に含まれていた。埋土は黒色礫混粘土の単一層である。本土坑を検出した面はSR03・SR04の上位を被っていた大規模な湿地層(SX02)を除去した面であり、この2本の流路が機能していた時期、つまり弥生時代後期後半に掘込まれたものであると思われる。

出土した土器は全て弥生土器であり、細片ばかりであった。そのうち、わずかに復原できる1点のみについて図化した(第47図・44)。44は壺もしくは甕の底部である。器壁が薄く、内面はヘラ削り調整を、外面は指頭圧痕の後ハケ目調整を施している。SR03・SR04と同じく弥生時代後期後半のものと思われる。



13.60m



1. 黒色礫混粘土

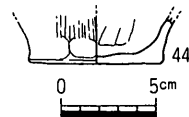


第46図 SK23平・断面図

### ST 01 (第48・49図)

E 地区北東隅で検出した壺棺墓である。表土直下で検出され、上部1/3ほどが削平されていた。検出時の掘方は直径約1.1mの円形で棺の内部には土器や土が埋まっていた。棺は、ほぼ東西

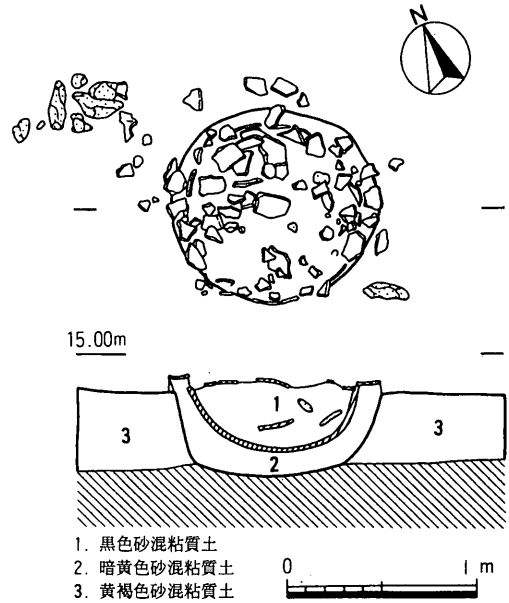
に底部を約30度ほど下げた状態で置かれていたものと推測される。また、埋土中より蓋形土器が出土しており、埋葬時には蓋をかぶせていたものと思われる。棺内部の埋土は、黒色砂混粘質土で、掘方と棺の間の埋土は暗黄色砂混粘質土である。



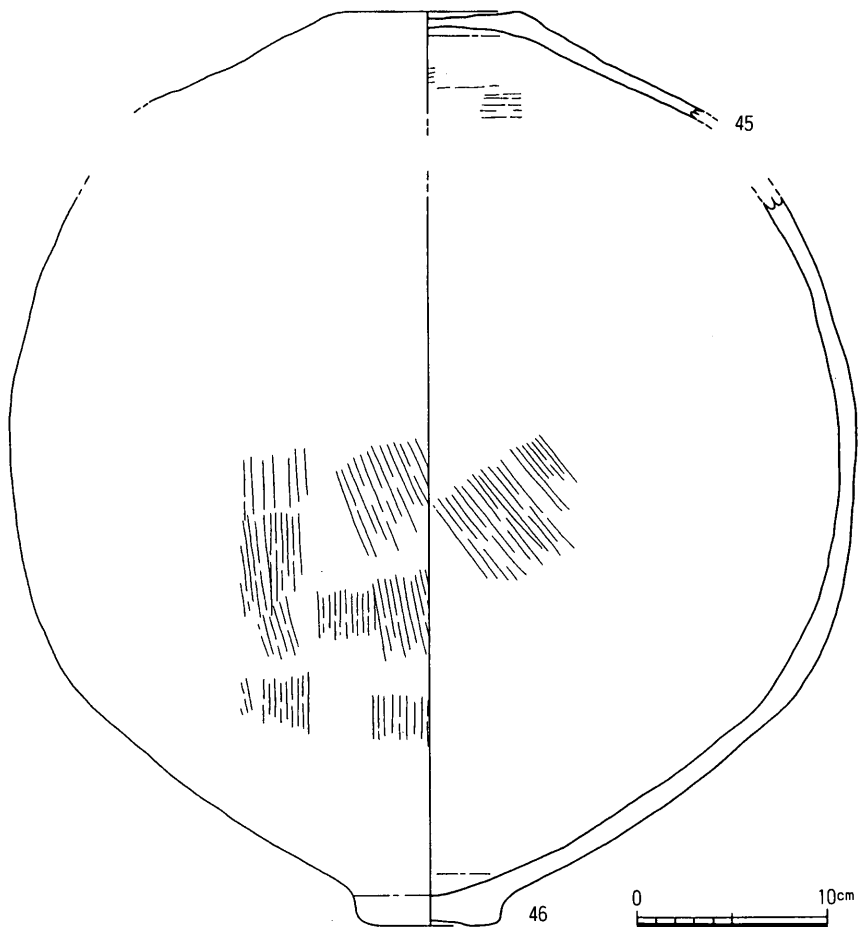
第47図 SK23出土遺物実測図

46は出土した壺形土器である(第49図)。残存器高38cm, 最大径41cmを測る。大きく球状に張った胴部をもち、直径8cmの円盤状の底部がつく。上半部は削平により、欠損している。内外面ともに斜め方向のハケ目調整がみられる。45は蓋形土器である。端部はきちんと成形しておらず、大型の甕形土器の底部を転用しているものと思われる。内面に横方向のハケ目調整がみられる。

これらの遺物の特徴からみて弥生時代後期後半の所産であると思われる。



第48図 ST01平・断面図

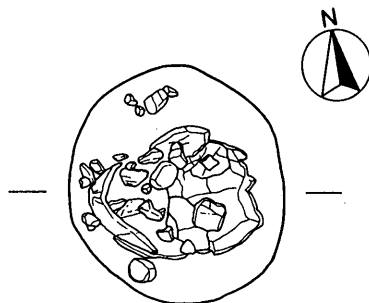


第49図 ST01出土遺物実測図

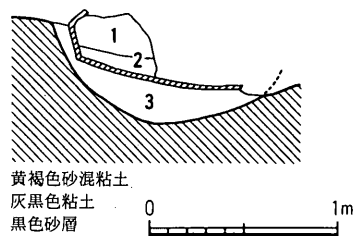
ST 02 (第50・51図)

I 地区 b-66 北東部で検出した直径約1.1mの遺構である。中には平底の壺と思われる土器の底部から体部にかけての部分がかほぼ真横に置かれた状態で出土した。このことからこの遺構は壺棺墓の可能性が高い。掘方と土器の間には黒色砂層が、土器の中には灰黒色粘土が堆積していた。ST 02は試掘調査時にすでに検出されていたもので掘方の上部はかなり重機によって破壊されていた。

出土した土器は、壺形土器の体部から底部にかけての部分で全体の約1/2が残存していた(第51図・47)。平底で直線的に斜め上方へ立ち上がる。内面には若干の指頭圧痕と縦方向のハケ目が、外面には縦方向のハケ目がみられる。弥生時代後期後半のものであると思われる。

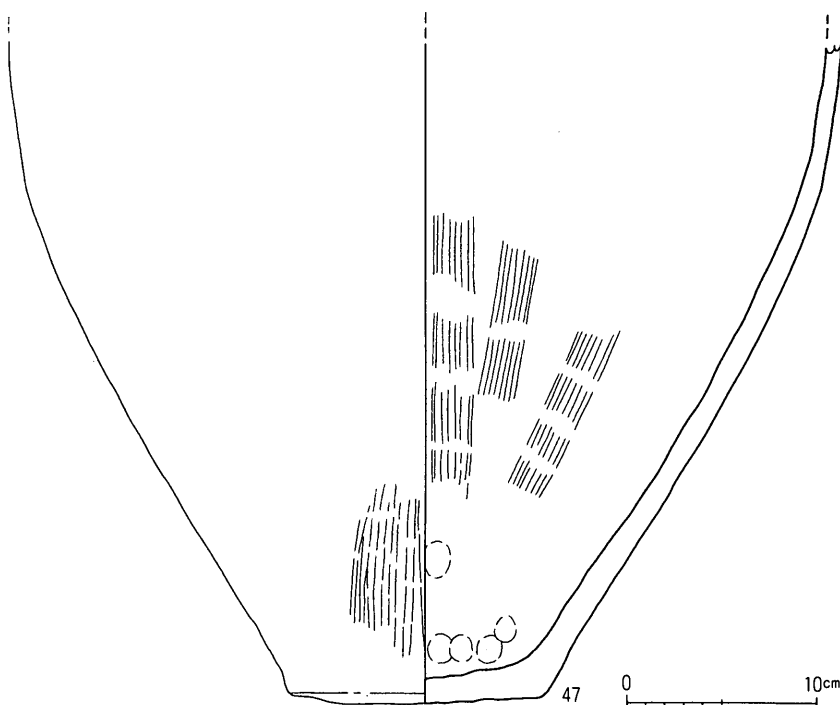


13.80m



- 1. 黄褐色砂混粘土
- 2. 灰黒色粘土
- 3. 黒色砂層

第50図 ST02平・断面図



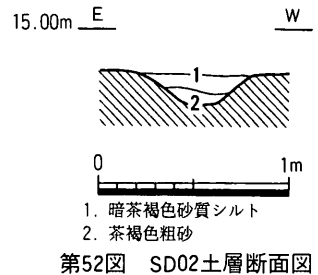
第51図 ST02出土遺物実測図

### SD 01

B地区の東部で検出された溝である。やや蛇行しながら南北に走る。幅0.5～0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は暗茶褐色砂質シルトである。遺物は出土しなかった。

### SD 02 (第52図)

B地区の東部で検出された溝である。南北に走る。中央部は平安時代の河川SR05と重複する。幅0.4～0.6m、深さ0.1～0.2mを測る。埋土は上層に暗茶褐色砂質シルト、下層に茶褐色粗砂が堆積する。遺物は弥生土器が数点出土したが、小片のため詳細な時期は不明である。



### SD 03 (第53・54図)

C地区の南部を東西に走る溝である。幅1.1～1.2m、深さ0.2mを測る。埋土からは弥生土器壺(48・49)・甕(50～52)・鉢(53)・高杯(54～58)、須恵器杯蓋(59)・杯(60)・甕(61)、石鏃(62)・打製石斧(63)・石小刀(64)・剥片(65・66)のほか、弥生土器甕片、須恵器甕・杯片、サヌカイト剥片など整理用コンテナ半分程度の遺物が出土した。

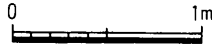
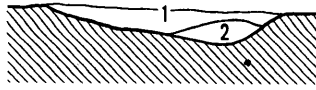
弥生土器は壺・甕・高杯がみられる。壺は口縁端部を僅かに拡張させるもの(48)と肥厚させないもの(49)の2種類がみられる。いずれも口縁部破片であるため全体は不明であるが、長頸壺になるものと考えられる。甕(50・51)はいずれも口縁端部を僅かに肥厚させ、面をもつ。鉢(53)は口縁端部を肥厚させ、外面に突出させる。高杯は脚端部を肥厚させ、面をもち退化凹線文を巡らすもの(55)と、面をもつが、退化凹線文は巡らさないもの(56～58)の2種類がみられる。これらの形態から弥生時代後期前半に属するものと考えられる。59は須恵器杯蓋で、僅かにかえりをもつ。7世紀中葉のものである。60は須恵器杯で、貼り付け高台をもつ。8世紀末のものである。61は須恵器甕で、7～8世紀のものである。石器はいずれもサヌカイト製である。

弥生土器に混じって須恵器も少量出土したが、埋土上層から出土したことや、出土土器の大半は弥生後期前半のものであることから、溝は弥生時代後期前半に掘られたものと考えられる。

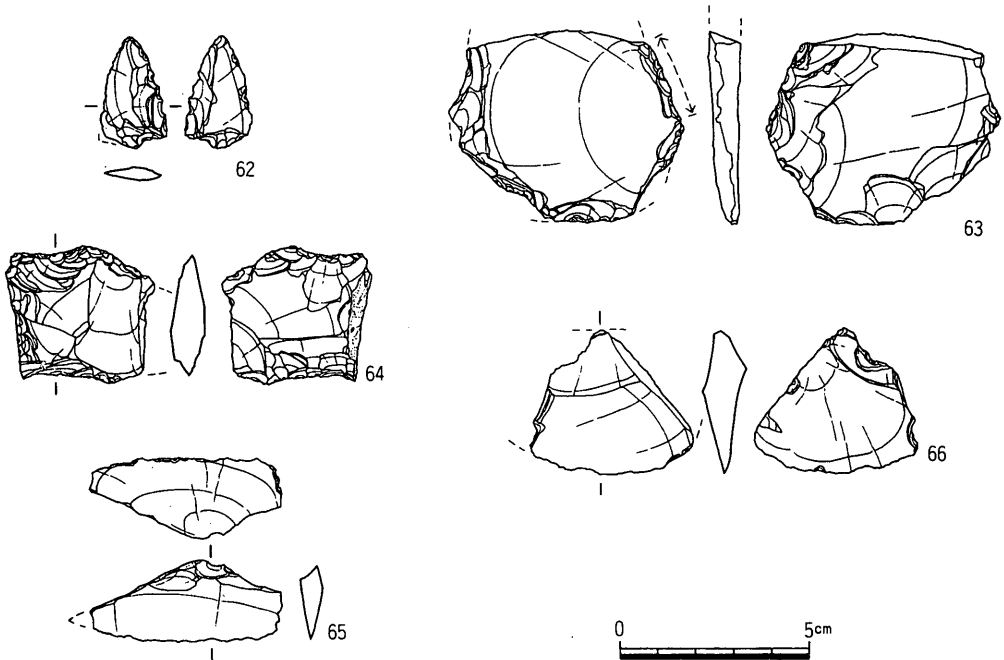
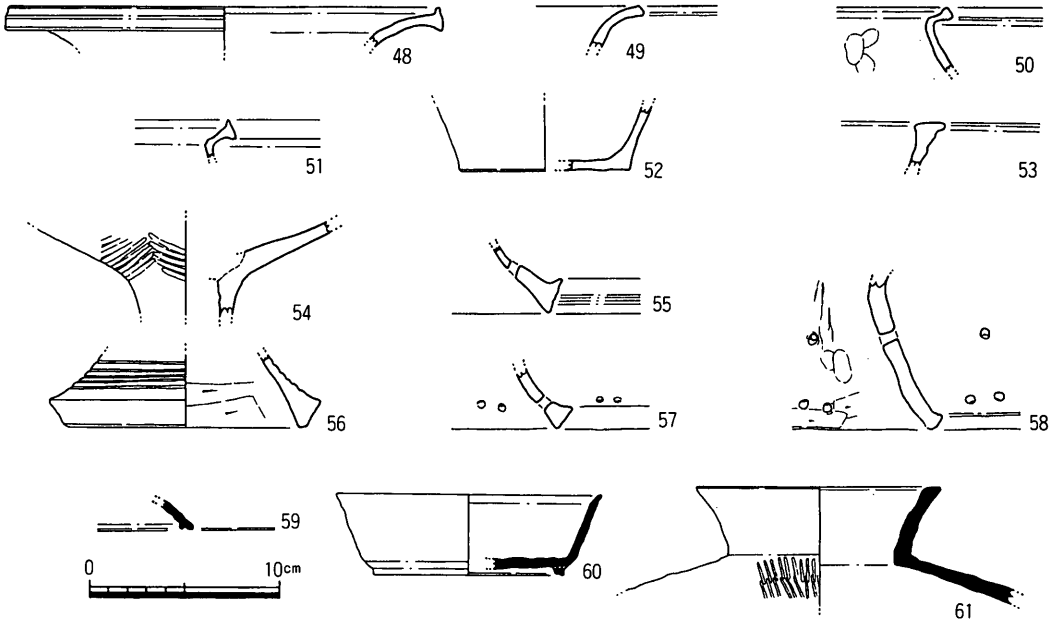
15.30m S

N

- 1. 灰黄褐色粘質シルト
- 2. 暗灰褐色粘質シルト



第53図 SD03土層断面図



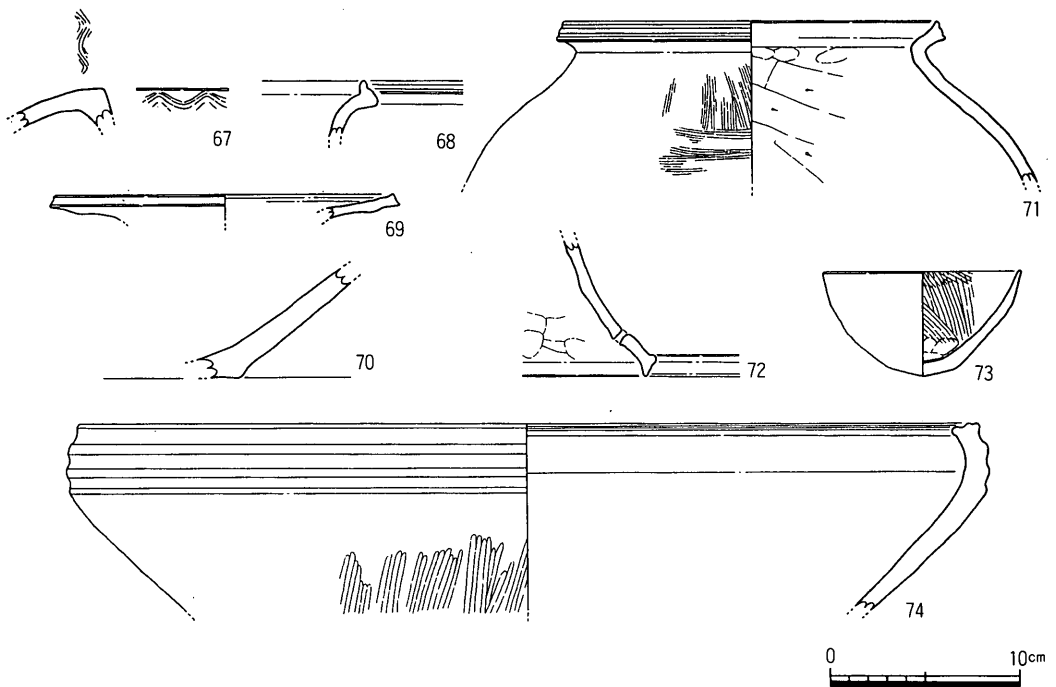
第54図 SD03出土遺物実測図

SD 04 (第55・56図)

C地区の南部を東西に走る溝である。東部でSD05と重複する。埋土の観察からSD04のほうが古いことがうかがわれる。SD04は幅0.6m、深さ0.3mを測る。溝の東部では溝の埋土の中位から上位にかけて径0.1m前後の礫が2.5mにわたってぎっしり詰まった状態であった。遺物は特に集石の間から多く出土し、弥生土器壺(67~70)、甕(71)、高杯(72)、鉢(73・74)のほか弥生土器片、サヌカイト剥片などがみられた。

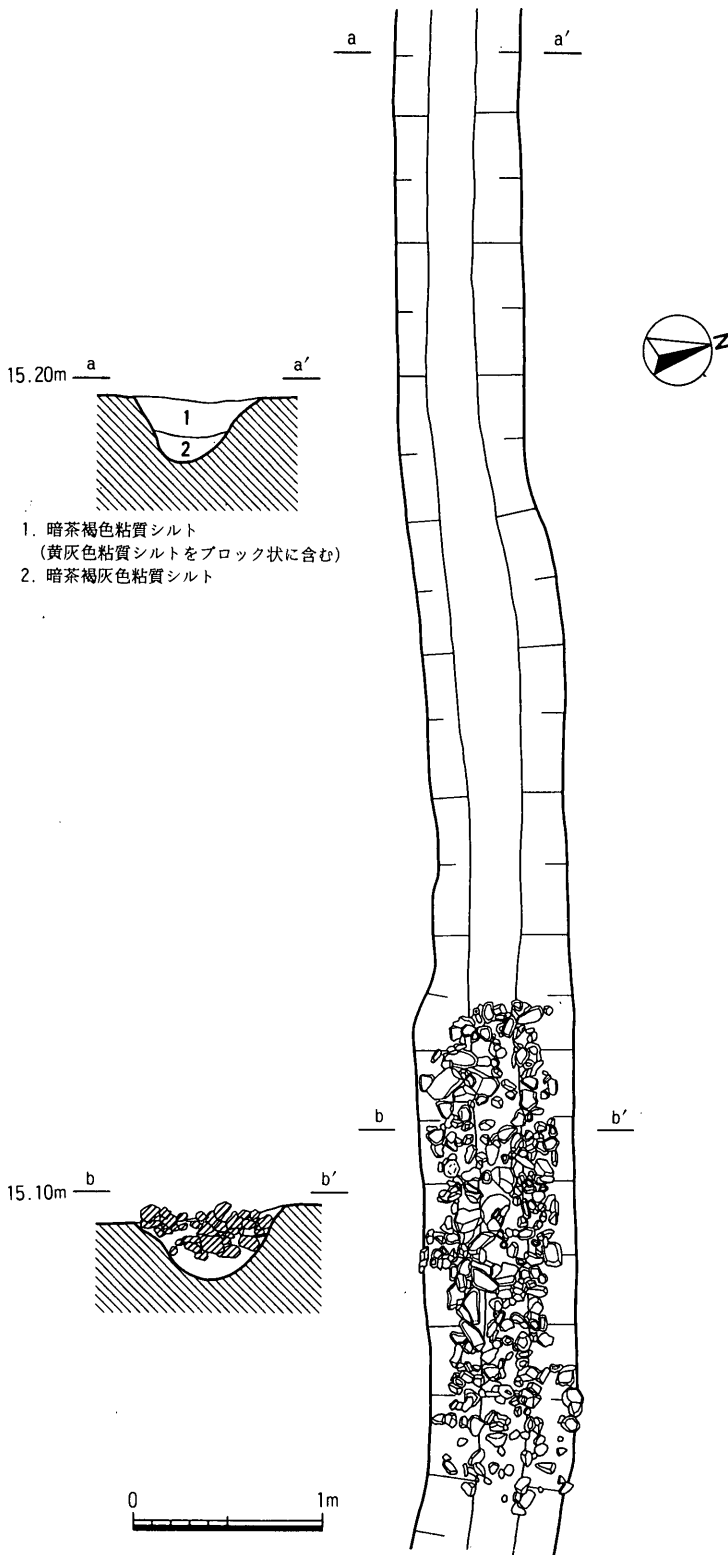
67は口縁部を下部に拡張し、拡張部と内面に櫛描波状文を施す。68は口縁端部を上部に拡張し、退化凹線文を巡らす。69は口縁端部を殆ど拡張しておらず、断面方形を呈する。67は弥生時代中期後半、68は中期末から後期前半の様相を呈する。71は口縁端部をやや拡張し、退化凹線文を巡らす。72は脚端部を拡張するが、凹線を巡らさないことから、弥生時代後期初頭に属するものと考えられる。また、73は底部が丸底であることから、弥生時代後期後半の様相を呈する。74は大型の鉢である。口縁端部、口縁部外面に凹線文を巡らすことから、弥生時代中期後半に属するものと考えられる。土器の胎土は70以外は黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器である。

出土土器は弥生時代中期後半から後期後半の様相を呈するが、いずれも小破片のため、廃棄されたものと考えられる。これらの土器のうち最も土器量の多いのは後期前半である



第55図 SD04出土遺物実測図



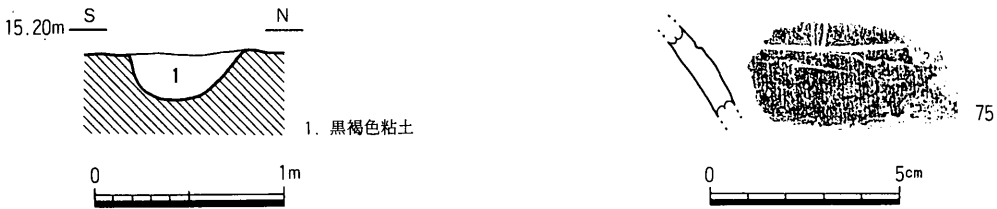


ことから、掘削年代は弥生時代後期前半頃であると考えられる。

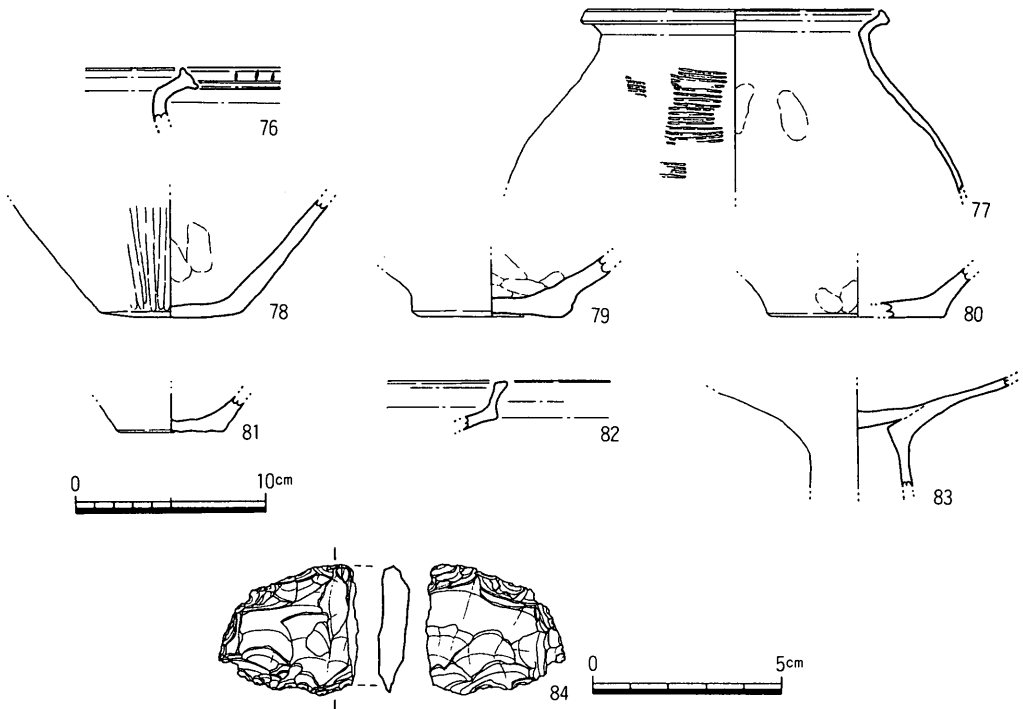
**SD 05** (第57・58図)

C地区の南部で検出された溝である。溝は西から東に走り、C地区の東部で鈍角に斜めに屈曲し、南西から北東に走る。東部でSD04と重複するが、埋土の差異からSD05のほうが新しいことがうかがわれる。溝幅は0.6m、深さ0.2mを測る。弥生土器壺(75・76)、甕(77)、壺あるいは甕の底部(78~81)、高杯(82・83)、楔形石器(84)のほか弥生前期土器片、中期末から後期土器片、サヌカイト剥片が整理用コンテナ半分程度出土した。

75は外面にヘラで文様を描く壺の体部破片である。弥生時代前期中葉に属するものと考えられる。76は口縁端部を上下に拡張し、端部に退化凹線文をめぐらし、ヘラ状工具によ



第57図 SD05土層断面図



第58図 SD05出土遺物実測図

る刻み目を施す。77は口縁端部を若干上下に拡張し、外面にタタキが施される。82は口縁端部を少し外側に拡張する。76・77・82は口縁部の形態から、弥生時代後期前半に属するものと考えられる。75・78～80以外は黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器である。84はサヌカイト製である。

これらの土器は弥生時代前期のものと弥生時代後期前半のもの二者がみられるが、弥生後期土器が出土土器の大部分を占めることから、溝の掘削時期は弥生時代後期前半であると考えられる。

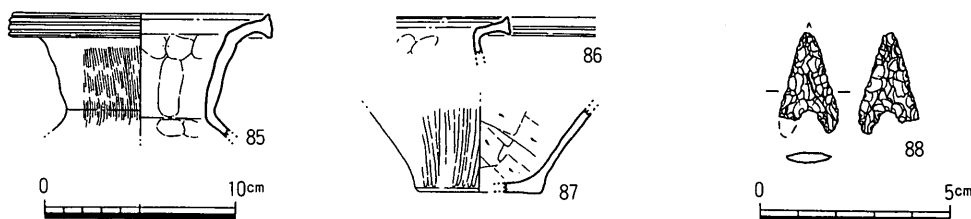
#### SD 06

C地区の南東隅で検出された溝である。幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

#### SD 07 (第59図)

D地区の中央部の調査区b-45区のほぼ中央部で検出された溝である。多少蛇行しながらほぼ南北に流れる。幅0.2～0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は黒茶色粘土である。遺物は弥生土器壺(85)、甕(86・87)、石鏃(88)のほか弥生土器片が少量出土した。

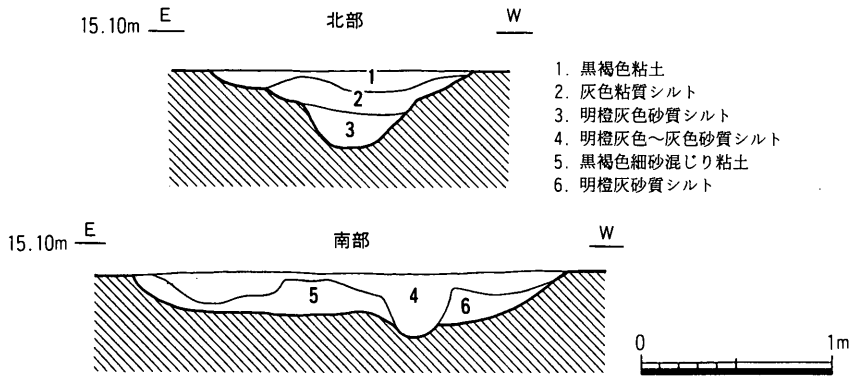
85は口縁端部を上下に拡張し、退化凹線文を巡らす。弥生時代中期後半に属するものと考えられる。85～87はいずれも黒色砂粒を多量に含む茶褐色を呈する土器である。



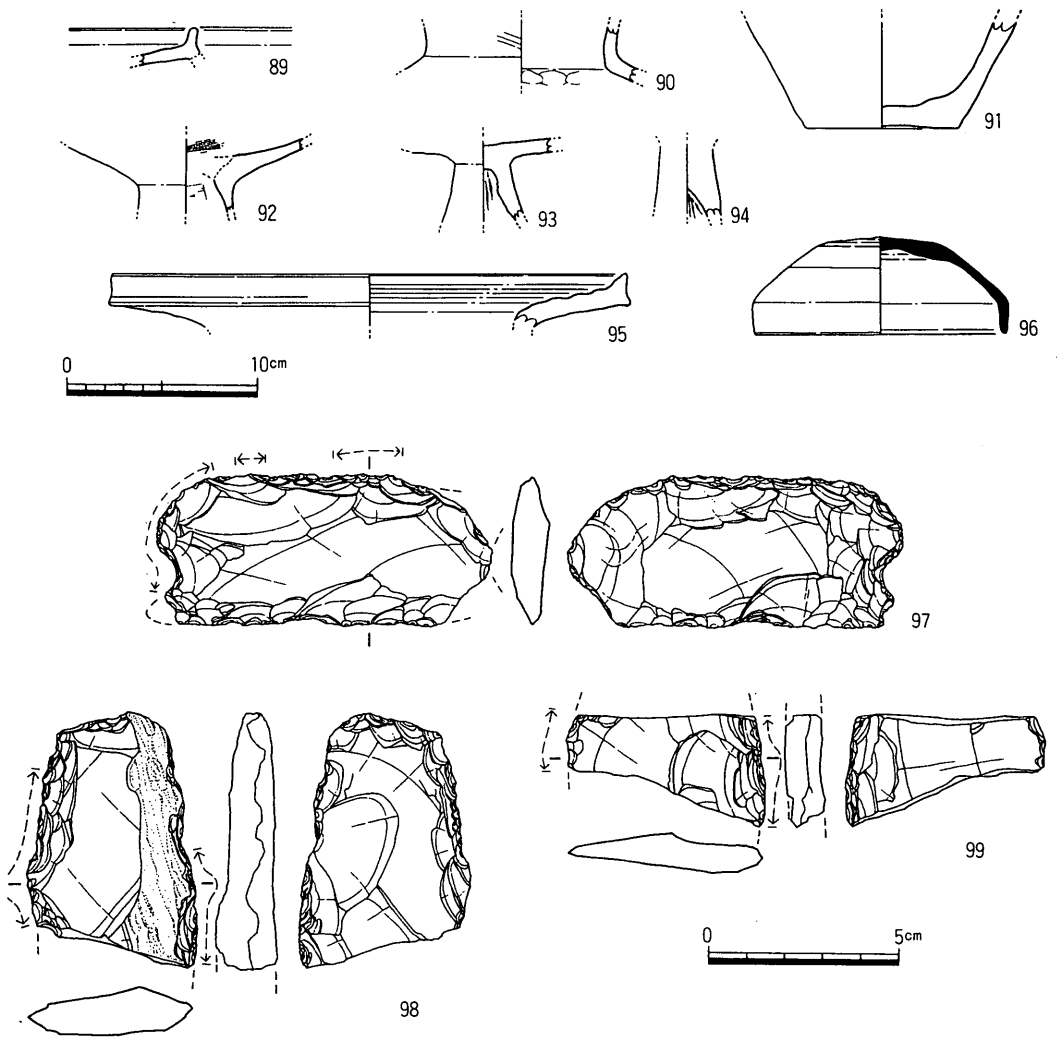
第59図 SD07出土遺物実測図

#### SD 08 (第60・61図)

D地区の北東部の調査区b-46区で検出された溝である。南東から北西に向かって走る。幅1.3～3.2m、深さ0.3～0.4mを測る。遺物は弥生土器壺(89～91)・高杯(92～94)・器台(95)、須恵器杯蓋(96)、石庖丁(97)、石斧(98・99)のほか弥生土器片、サヌカイト



第60図 SD08土層断面図



第61図 SD08出土遺物実測図

剥片，結晶片岩が整理用コンテナ2箱出土した。

89～95は小破片のため詳細な時期は不明であるが，弥生時代後期に属するものと考えられる。96は体部の形態から，7世紀前後のものであると考えられる。

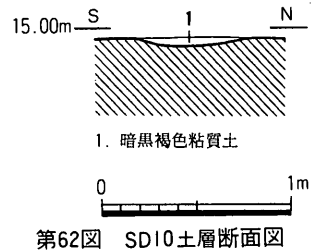
遺物の時期は弥生時代後期と7世紀の二時期のものがみられるが，圧倒的に多いのが，弥生土器であることから，SD08は弥生時代後期に機能した溝であると考えられる。

### SD 09

D地区の東部の調査区a-46区で検出された溝である。南西から北東に向かって走る溝である。埋土は黒色粘土である。幅0.2～0.3m，深さ0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

### SD 10 (第62図)

a-48南東隅で検出した溝状遺構である。南西部はSD34によって，また，SD11によっても切られているが，南西から東北東に向かって弧状に流れる溝状遺構である。a-48東部で削平を受けたため，収束している。幅は0.6m，深さは約0.1mで断面は緩やかなU字形を呈する。埋土はSD11とよく似た暗黒褐色粘質土であるが，地山である黄褐色粘質土をブロック状に含んでいる。

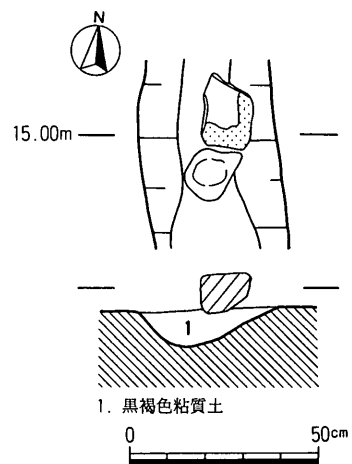


遺物は出土しなかったが，埋土や切り合い関係からみて弥生時代後期ごろのものでSD11以前のものであると思われる。

### SD 11 (第63・64図)

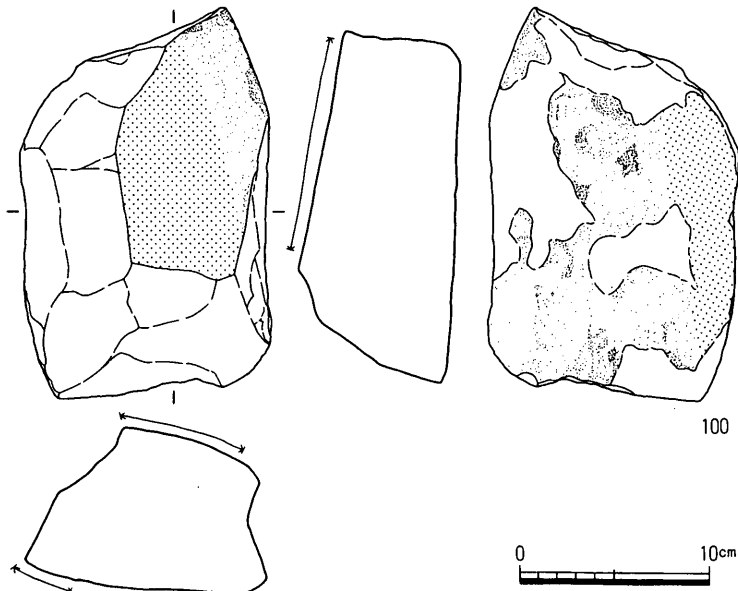
E地区南西部で検出した幅約0.3m，深さ0.1mの断面U字形を呈する溝状遺構である。SD34に破壊されるが，SD10を破壊している。埋土は黒褐色粘質土の単一層で最上部から砥石が出土している(第64図・100)。

砥石は16cm×13cm×8cmの不整長方形を呈しており，砂岩製であると思われる。使用面にかかなりの剝落が認められるが，残存状況は概ね良好である。



第63図  
SD11遺物出土状況平・断面図

溝状遺構の切り合い関係や出土遺物からみて弥生時代後期後半のものであると思われる。



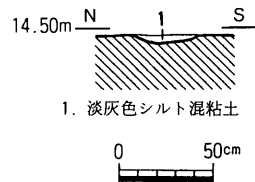
第64図 SD11出土遺物実測図

**SD 12 (第65・66図)**

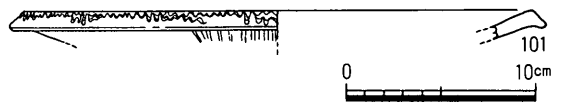
G地区 a-54から a-55にかけて検出したSD20の東側を南西から北東へ流れる溝状遺構である。幅約0.4m、深さ約0.1mで埋土は淡灰色シルト混粘土の単一層である。

遺物は弥生土器が1点出土した(第66図・101)。

101は壺の口縁部である。頸部からラッパ状に開くタイプのものであろう。端部はやや下方につまみ出し、波状文を施す。やはり、弥生時代後期後半のものと思われる。



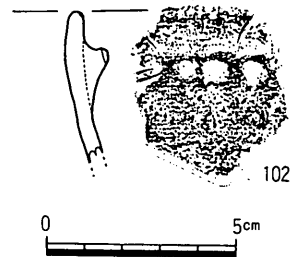
第65図 SD12土層断面図



第66図 SD12出土遺物実測図

### S R 01 (第67・68図)

A地区の南東部からB地区の西部を南西から北東に向かって流れる河川である。A地区の南部では調査区外に及ぶため河川の幅は不明であるが、B地区では17.0～28.0mを測る。深さは最も深いところで0.6mを測る。埋土の下層には灰茶褐色粗砂、黒褐色シルト、上層には茶褐色細砂混じり粘質シルト・



第67図 SR01出土遺物実測図

暗茶褐色粘質シルトなどが堆積する。また、S R 01のB地区南端部の西壁の埋土を採取してプラント・オパール分析を行なった<sup>(3)</sup>。その結果、S R 01の埋土の最上層には稲のプラント・オパールのピーク層がみられたことから、S R 01の埋没後は水田として利用されていたことがうかがわれる。埋土の下部に堆積する砂層からは縄文土器深鉢(102)のほか縄文土器と考えられる土器片が2点出土した。

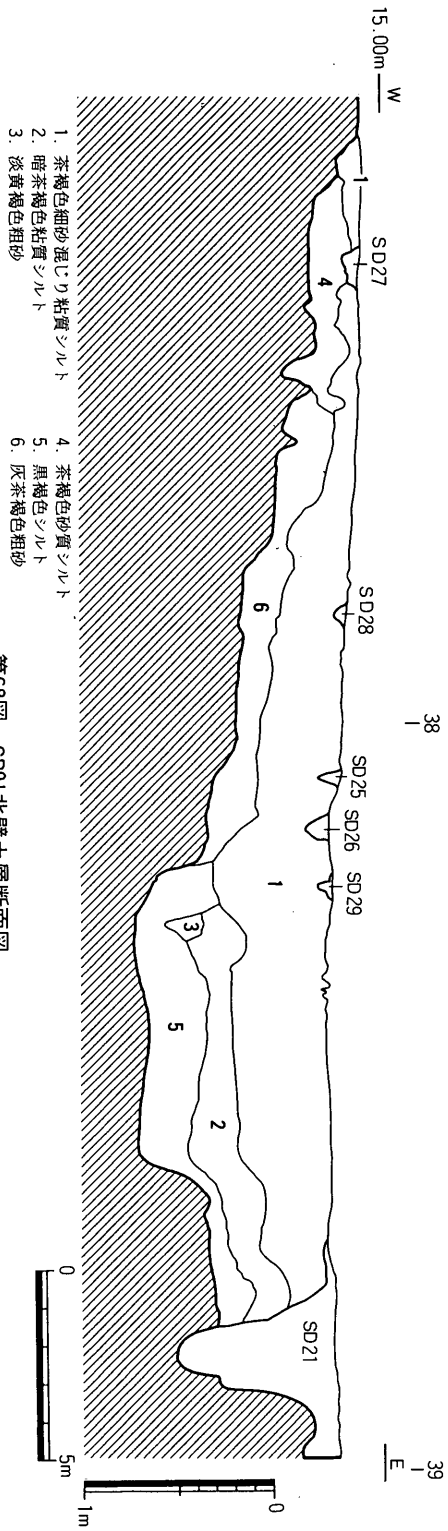
102は口縁部に刻み目をもち、口縁部より1cm程下に刻み目突帯文をもつ深鉢で、白色砂粒を多量に含む。

これらの縄文土器はいずれもかなり摩滅していることから、これらの土器の所属時期が必ずしも河川の流れていた時期を示すものではないと考えられる。河川の流れていた時期は上層の遺構の時期から7世紀後半以前で、縄文時代晩期末以後であることは確実であるが、詳細な時期は不明である。また、水田として利用されていた時期も7世紀後半以前であると考えられる。

(3) 第4章第1節 「太田下・須川遺跡におけるプラント・オパール分析」古環境研究所

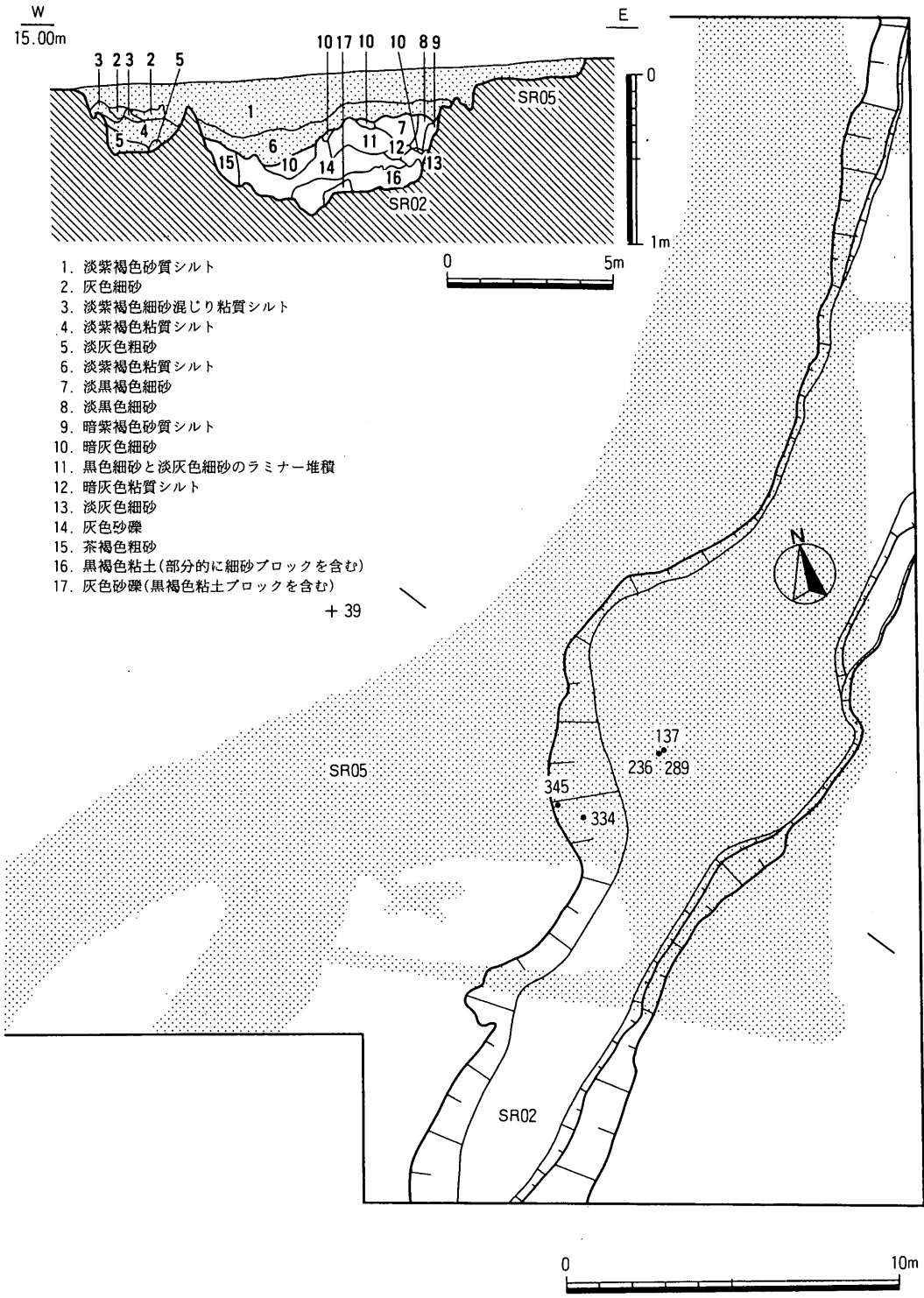
### S R 02 (第69～88図)

B地区の東部を南西から北東に向かって流れる自然河川である。北部では平安時代の河川S R 05と重複するが、埋土からS R 02のほうが古いことがうかがわれる。幅3.6～5.7m、深さ0.5～0.8mを測る。断面形は逆台形を呈し、細砂・粗砂・礫・粘土層が交互に堆積する。遺物は弥生時代前期の壺(103～109)・甕(110～115)・壺または甕の底部(116～129)、弥生時代中期から後期の壺(130～175)・甕(176～214)、壺または甕の底部(215～269)・鉢(270～281)・高杯(282～308)・器台(309～312)・ミニチュア土器壺(313・314)・ミニチュア土器鉢(315～319)・ミニチュア土器高杯(320・321)、ナイフ形石器(322)・石鏃(323～325)・石庖丁(326～333)・石鋏(334)・石斧(335)・削器(336～344)・槍先形



第58図 SR01北壁土層断面図





第69図 SR02平・断面図

尖頭器 (345)・楔形石器 (346)・磨石 (347)・石錘 (348)・砥石 (349) のほか弥生前期後半、中期中葉から後期前半の土器、サヌカイト剥片、結晶片岩が整理用コンテナ 8 箱出土した。これらの遺物は完形品は殆どなく、破片が大部分を占めることから、いずれも廃棄された遺物であると考えられる。

103～109は弥生時代前期の壺である。103は口縁部と体部の境に 2 本の沈線を施す。104～105は口縁部と頸部の境に沈線を施す。106は口頸部に 5 本の沈線を巡らす。107は頸部と体部の境に沈線、108は体部上半に 3 本の沈線を巡らす。109は頸部と体部の境、体部に数本の沈線を巡らし、体部の沈線の上部には竹管文を巡らす。110～115は弥生時代前期の甕である。110～114の口縁部はいわゆる逆 L 字状口縁である。114は体部上半にヘラ描き沈線を数本巡らす。116～129は弥生時代前期の壺または甕の底部である。129は底部に焼成前の穿孔がみられる。以上の弥生前期の土器は形態から概ね前期後半の様相を呈する。胎土は花崗岩片を多量に混和し、白っぽい色調のものが多い。本遺跡から出土した弥生中期後半から後期前半の土器胎土の大半は黒色砂粒を含み、茶褐色系統の色調を呈するが、このような土器胎土は弥生前期の土器には 1 点もみられない。

130～175は弥生時代中期中葉から後期前半の壺である。130～133は口縁端部に刻み目をもつ。131は不明であるが、130・132・133は刻み目を施したのち円形浮文を貼り付ける。134は頸部破片で、全体は不明であるが、頸部に刻み目をもつ突帯を施す。135は体部破片で、口頸部の形態は不明であるが、体部に楡描波状文と楡描直線文を交互に施す。130～135は弥生中期中葉の様相を呈する。また、本遺跡の弥生時代中期後半から後期にかけて一般的な黒色砂粒を含んだ茶褐色系統の色調を呈する土器ではなく、黒色砂粒を含まない胎土である。136～142は口縁部を下部に拡張し、下垂させる壺である。136は楡描波状文を施したのち、円形浮文を貼り付ける。140～142は口縁端部に凹線文を施したのち、円形浮文を貼り付ける。138は頸部以下を欠損するため不明であるが、137は頸部と体部の境に突帯を施す。139～164は口縁端部に凹線文あるいは退化凹線文を施す壺である。152・154・155・157・158～160は口縁部を欠損するが、頸部などの形態・調整が類似することから、口縁端部に凹線文あるいは退化凹線文を施すものと考えられる。139～152は拡張した口縁端部に凹線文または退化凹線文を施す比較的頸部の短い壺である。凹線文または退化凹線文を施したのち、竹管文を施すもの (143・144・149・150)、刻み目を施すもの (146・147) もみられる。146・147は頸部と体部の境は突帯を施さず、沈線を施す。頸部には斜格子のヘラ描きを施すもの (147～151)、斜めのヘラ描きを施すもの (146) がみられる。152は頸部上

半が欠落しているため、斜格子のヘラ描きかどうかは不明である。これらは弥生時代中期後半から末に属するものと考えられる。また、大半の土器は黒色砂粒を含む茶褐色系統の色調を呈する土器であるのに対し、136・145・151の土器胎土は他の土器と異なり、茶褐色系統の色調ではなく、黒色砂粒を殆ど含まない土器である。

153～160は長頸壺で、口縁部に凹線文または退化凹線文をもつ。頸部と体部の境には突帯をもつものではなく、154・156～158は沈線を施す。153・154は頸部上半に平行沈線を数本施し、頸部下半に斜格子のヘラ描きを施す。154は体部上半には鹿と考えられる四本足の動物の線刻がみられる。左側に頭部を表現し、右側に体部を表現する。体部には縦線を施す。155は口縁部を欠損するが、頸部下半に斜格子のヘラ描きを施す。また、156・157は平行沈線の下部に斜めのヘラ描きを施す。158は口頸部を欠損するため不明であるが、154・156・157と同様体部と頸部の境に沈線を施し、体部の形態・調整も154と類似することから、頸部に平行沈線と斜格子あるいは斜めのヘラ描きを施すものと考えられる。159・160は口縁部から頸部上半は不明であるが、頸部下半にも平行沈線を施す長頸壺である。また、161～164は口縁端部に凹線文を施す。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。また、大半の土器は黒色砂粒を含む茶褐色系統の色調を呈する土器であるのに対し、155・162～164は茶褐色系統の色調ではなく、黒色砂粒を含まない土器である。

165～168も長頸壺であるが、頸部に文様は施さず、口縁端部を拡張しないものである。また、168は他と異なり、黒色砂粒を含まず、茶褐色を呈さない土器である。これらは弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

169～171は口頸部が比較的短い壺である。170は口縁端部に刻み目を施す。いずれも黒色砂粒を含む、茶褐色系統の色調を呈する土器である。172～175は口頸部の形態は不明である。172～174は体部と頸部の境に突帯を巡らす。174は体部上半に櫛描波状文と櫛描平行沈線を交互に施す。173は他の土器と異なり、黒色砂粒を含まず、茶褐色を呈さない土器である。

176～214は甕である。176～188は口縁端部を拡張しない甕である。176・177は口縁端部に面をもち、刻み目を施す。178～188も口縁端部に面をもつが、刻み目はみられない。176～181は黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器であるのに対し、182～188は黒色砂粒を殆ど含まず、茶褐色を呈さない土器である。これらの土器は弥生中期中葉に属するものと考えられる。

189～201は口縁端部を拡張し、端部に凹線文または退化凹線文を施す。外面は刷毛目を

施したのち、ヘラ磨きするものが殆どである。195は刷毛目の下にタタキを施す。200は体部上半に刷毛状工具による刻み目がみられる。内面は体部上半に指押さえを施し、中位以下はヘラケズリを施す。196以外は黒色砂粒を多量に含む、茶褐色系統の色調を呈する土器である。これらの土器は弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

202～204は口縁端部を拡張するが、凹線文または退化凹線文を施さず、比較的口頸部の長い甕である。205は体部外面にタタキ目が残る。いずれも黒色砂粒を多量に含む、茶褐色系統の色調を呈する。206～211は口縁端部を少し拡張するが、凹線文または退化凹線文を施さない甕である。207・210は体部上半までヘラケズリを施す。また、212～214は口縁部を欠損するが、206～211とほぼ同様の形態になるものと考えられる。212～214は体部上半に刻み目を巡らす。いずれも胎土に黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器である。これらの土器は弥生時代後期前半に属するものと考えられる。

215～269は壺あるいは甕の底部である。215～235は底部が比較的分厚く、ヘラケズリを施さないことから壺である可能性が高い。また、236～269は底部が薄く、体部下半にヘラケズリを施すものが多いことから、甕である可能性が高いものと考えられる。また、215～225・236～263は本遺跡出土の弥生時代中期後半から後期の土器の大半を占める黒色砂粒を含む茶褐色系統の色調を呈する土器であるのに対し、226～235・264～269は明らかに異なる胎土をもつ土器である。なお、264・266は片岩を含むことから徳島あるいは愛媛県で製作された土器であると考えられる。

270～281は鉢である。270・271は口縁部外面に凹線文を施す。270は口縁部を内側にくの字に屈曲させる。271は体部から口縁部に直線的に開き、内面に赤彩を施す。273・274は口縁部を外反させる。273は頸部に2個1単位の円孔を穿つ。全体がないため不明であるが、2単位施されていたものと考えられる。275は口縁部を欠損するため全体の形態は不明であるが、肩部に凹線文を施す。276・277は体部から口縁部が直線的に伸びる鉢である。278～280は口縁部を欠損するため、全体の形態は不明である。278は内面と割れ口に赤彩がみられる。281はグラタン皿のような形態をもつ鉢である。外面の一部と内面に赤彩を施す。272・279以外は黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を施す土器である。

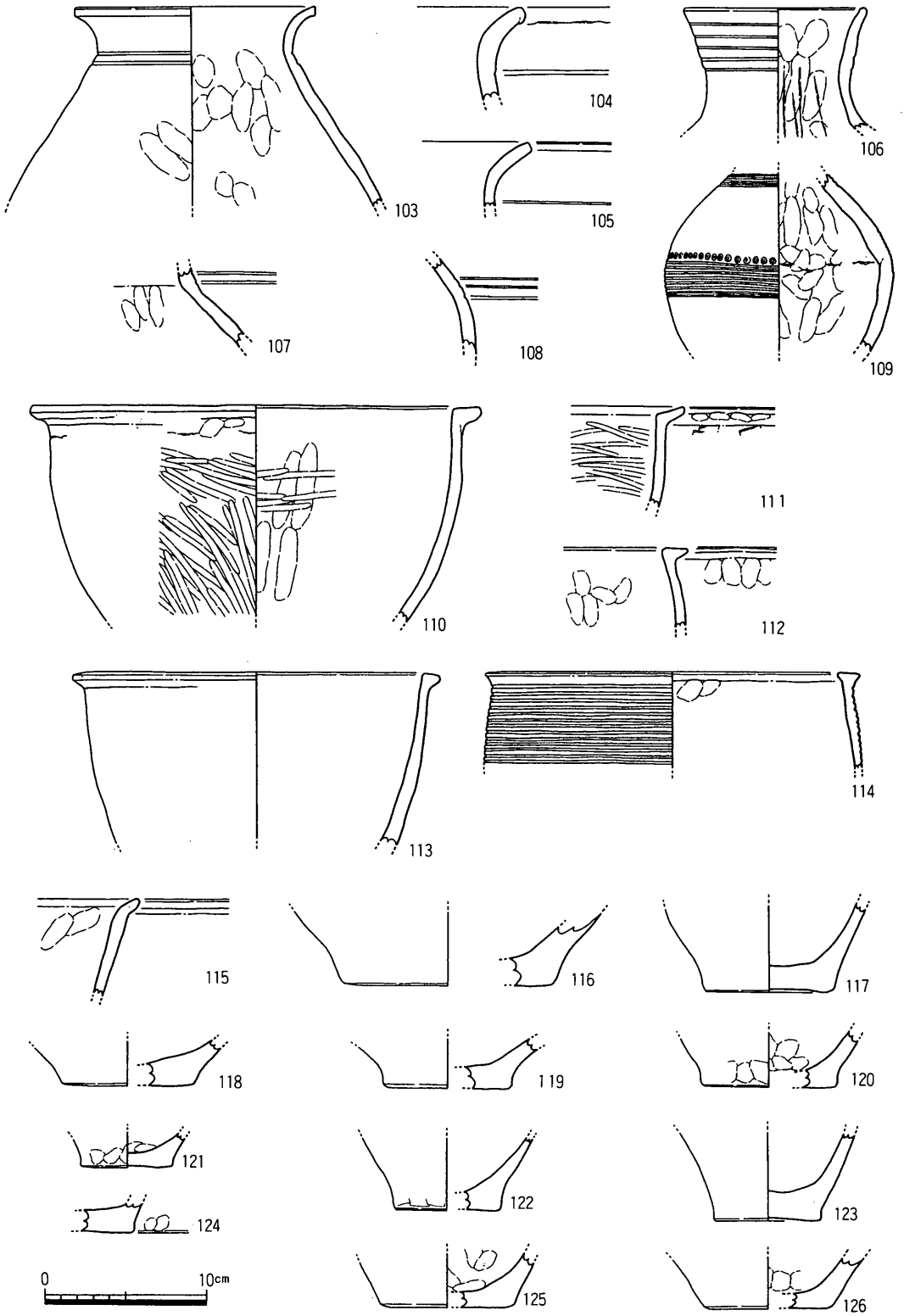
282～308は高杯である。282は口縁部を内湾させ、口縁端部を少し拡張させ、外面と口縁端部に凹線文を巡らす。283・284は口縁部を緩く上部に屈曲させる。いずれも黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の土器である。これらの土器は弥生時代中期後半から末に属するものと考えられる。285～287は口縁端部を少し外側に拡張させる。285・287は口縁端部に凹

線文を施す。これらは弥生後期初頭に属するものと考えられる。いずれも黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の土器である。288～290は口縁部が体部から真つすぐ立ち上がる。288は杯部に竹管文を施す。また、288は脚部が屈曲するが、289は緩く外側に開き、端部を拡張させる。290～292は口縁部が外側に緩く、293・294は口縁部を大きく外反させる。295・296は杯部の体部と底面の境に稜をもつ。また、296は内外面に赤彩を施す。297は杯部の底面しか残っていないため全体は不明であるが、杯部底面の製作は円盤充填による。これらの土器は杯部の形態から、後期前半に属するものと考えられる。298～301は杯部を欠損するため杯部の形態は不明であるが、脚端部を拡張し、凹線文を施す。298は脚部に3～4本を1単位とした平行沈線を3単位施し、下部に三角形の透かしを施す。298は弥生時代中期後半に属するものと考えられる。また、299～301は弥生時代後期初頭から前半に属するものと考えられる。303は後期中葉のものである。308は脚部が屈曲し、屈曲部に円孔を穿つ。杯部を欠損するが、加飾をもつ高杯で、弥生時代後期前半のものであると考えられる。高杯はすべて黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器である。

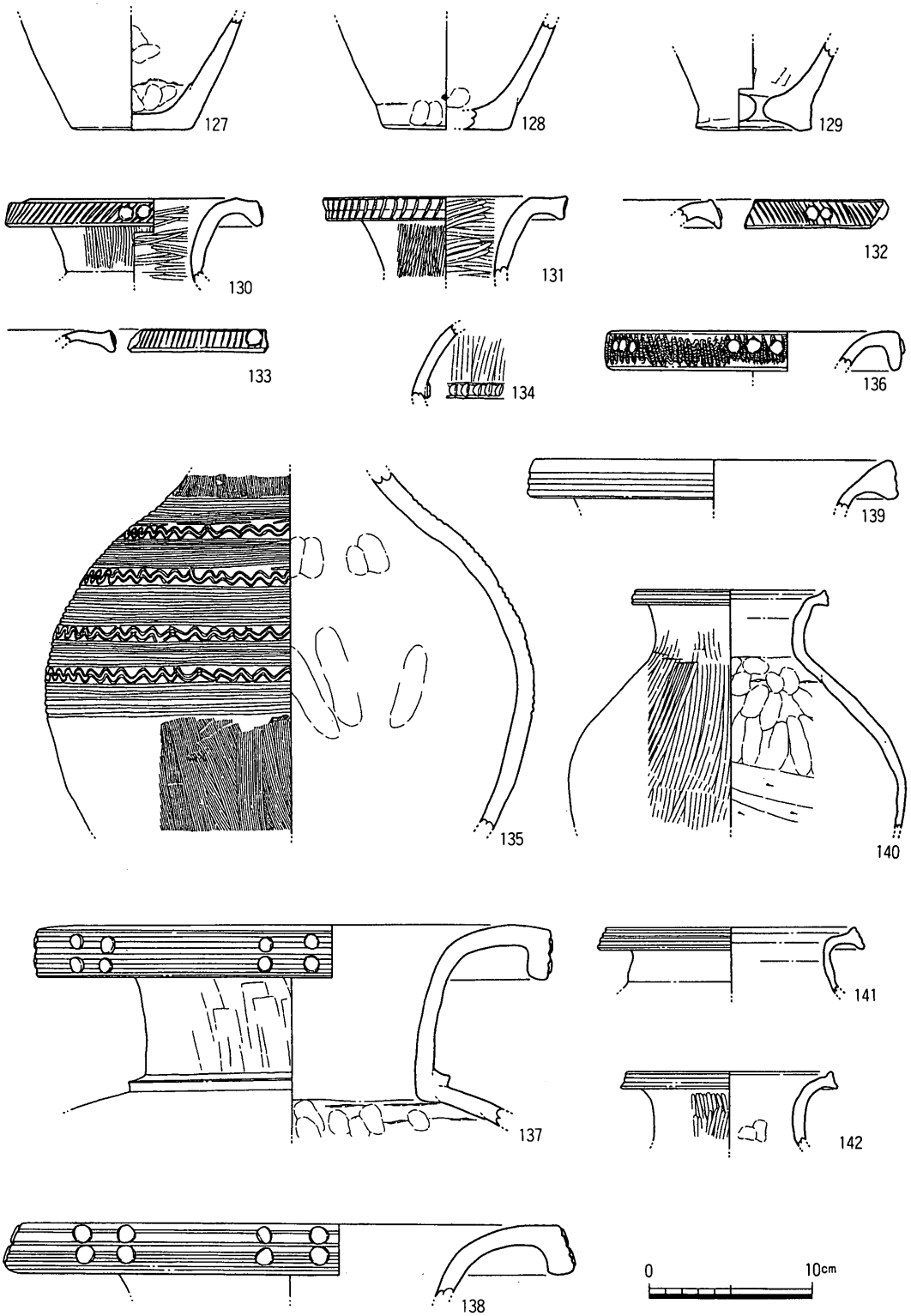
309～312は器台である。309は脚端部を拡張し、凹線文を施す。312は下部に凹線文を施し、円孔を穿つ。310・311はいずれも四角形の透かしをもつ器台である。口縁端部を少し拡張する。310は口縁端部に凹線文を施したのちに、刻み目を施す。また、脚部の凹線文も上部までみられるが、311は口縁端部の凹線文はみられず、脚部の凹線文も2本と少ない。いずれも弥生時代後期前半のものであると考えられるが、311は310に比べ、後出する要素をもつ。器台もすべて黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器である。

313～321はミニチュアの土器である。317は手捏ね成形である。いずれの土器も黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器である。

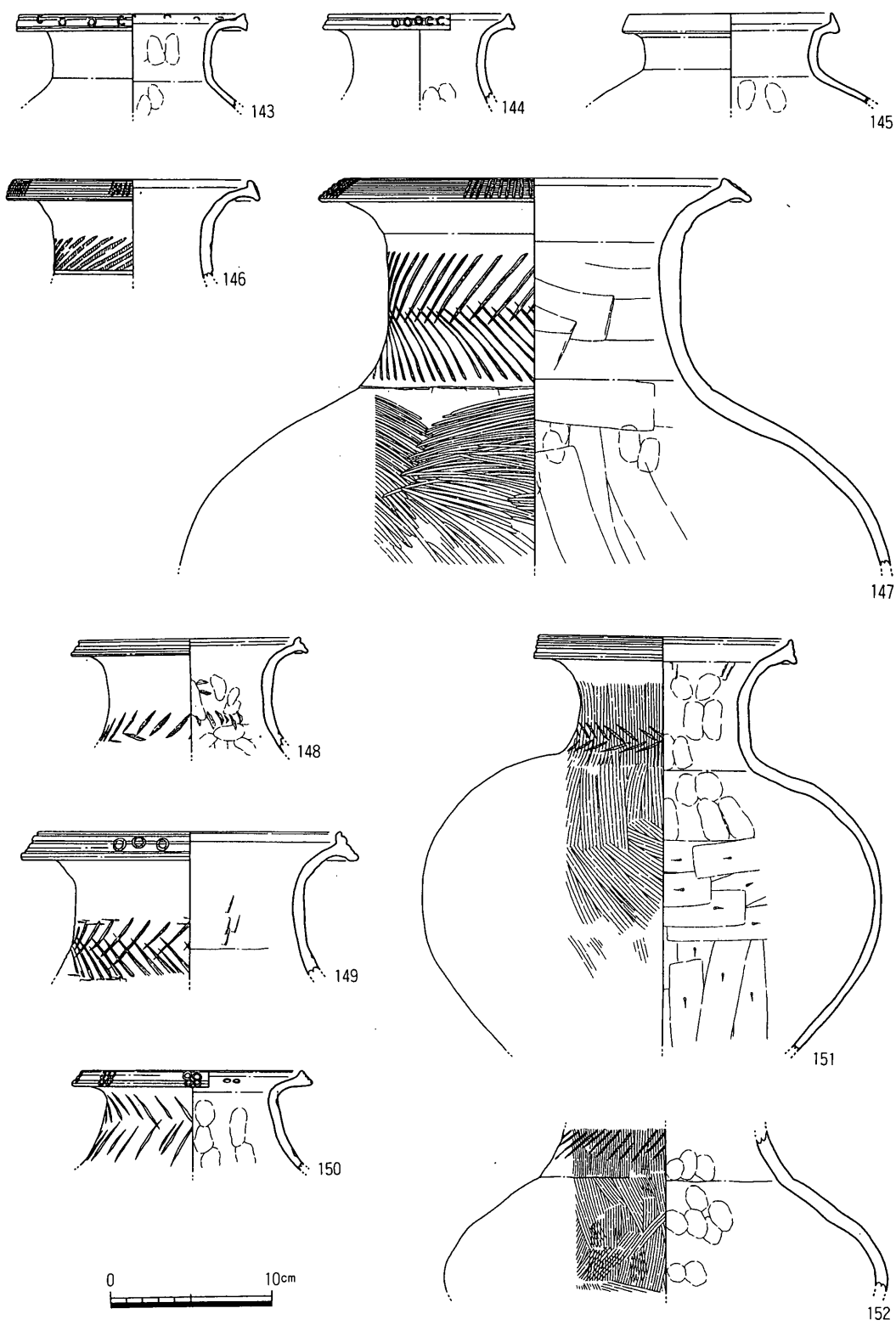
石器はいずれもサヌカイト製である。322はナイフ形石器である。摩滅しており、風化がかなり進んでいる。旧石器時代のものであると考えられる。347は磨石である。石材は花崗閃緑岩ポーフイリー（流紋岩系斑岩）である。348は石錘である。中央部に溝をもつ。石材は砂岩である。349は砥石である。3面を使用する。石材は（斜方輝石）安山岩である。



第70图 SR02出土遗物实测图(1)

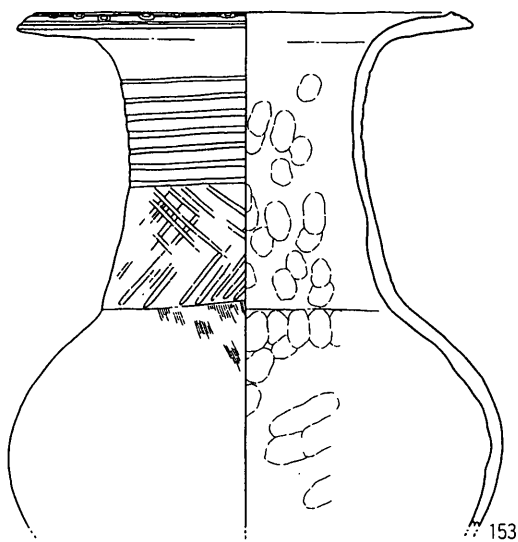


第71图 SR02出土遺物実測図(2)

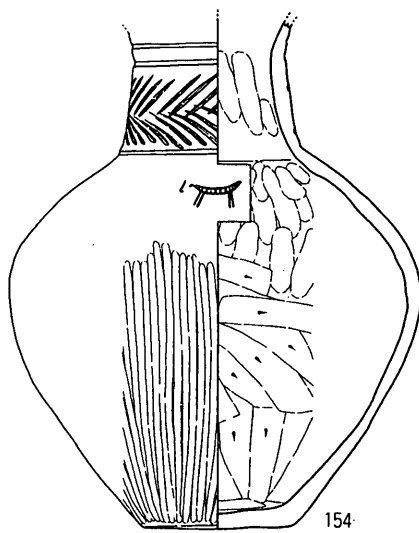


第72図 SR02出土遺物実測図(3)

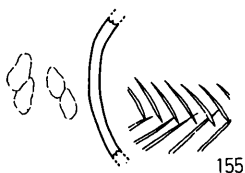




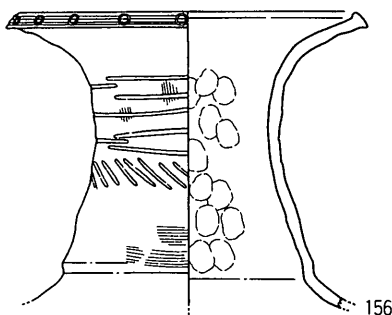
153



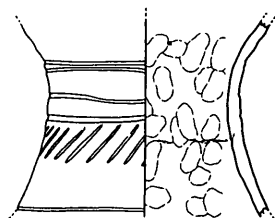
154



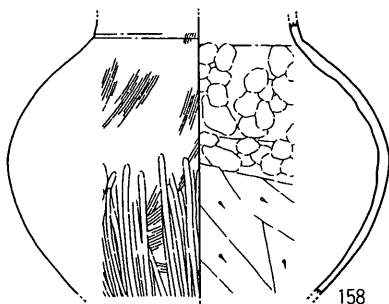
155



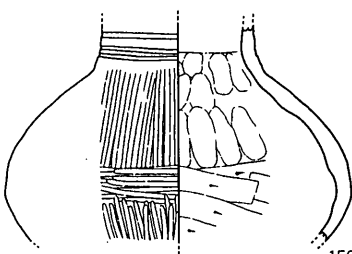
156



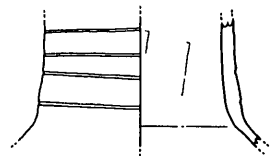
157



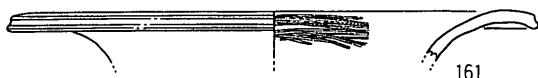
158



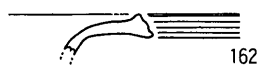
159



160



161



162



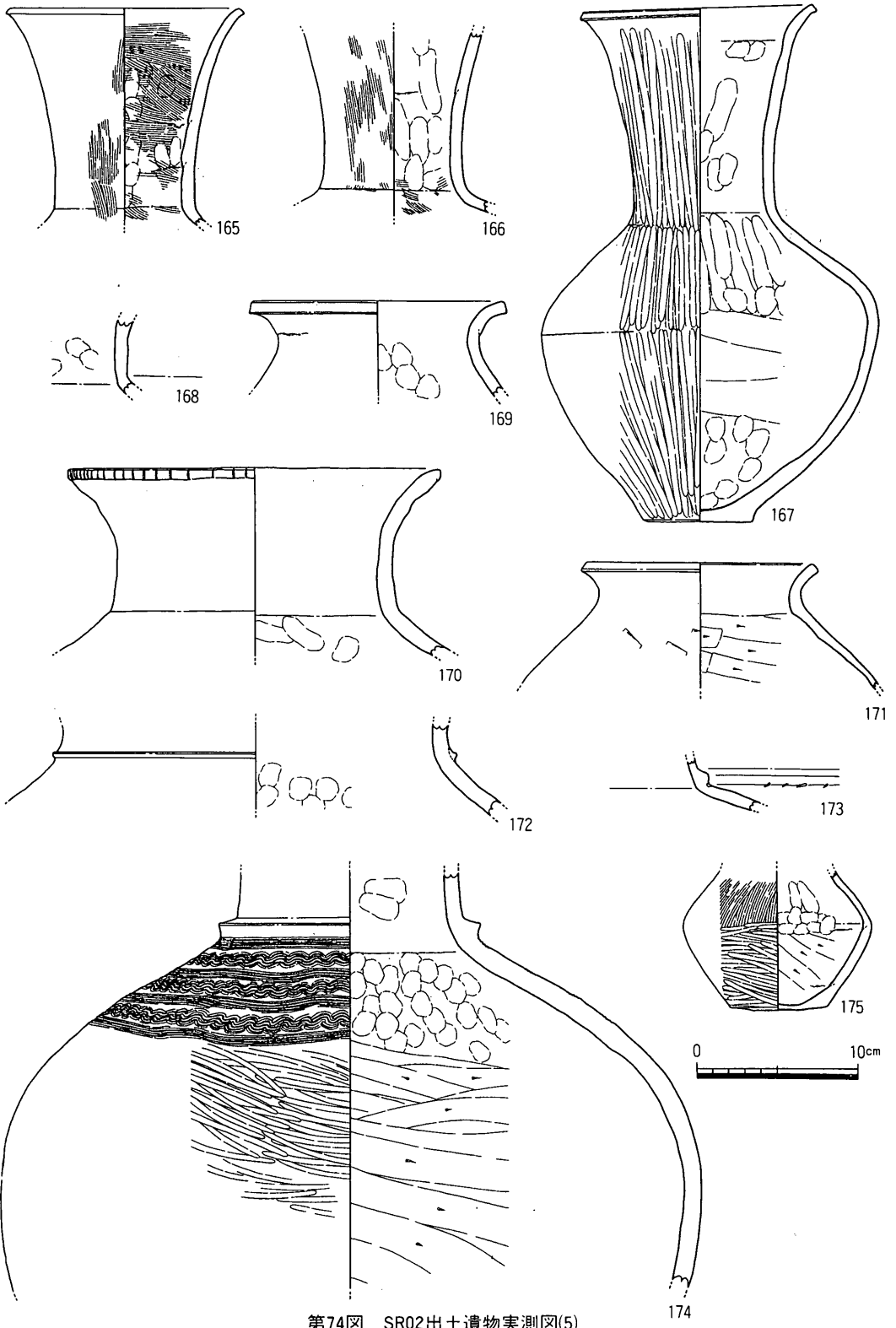
163



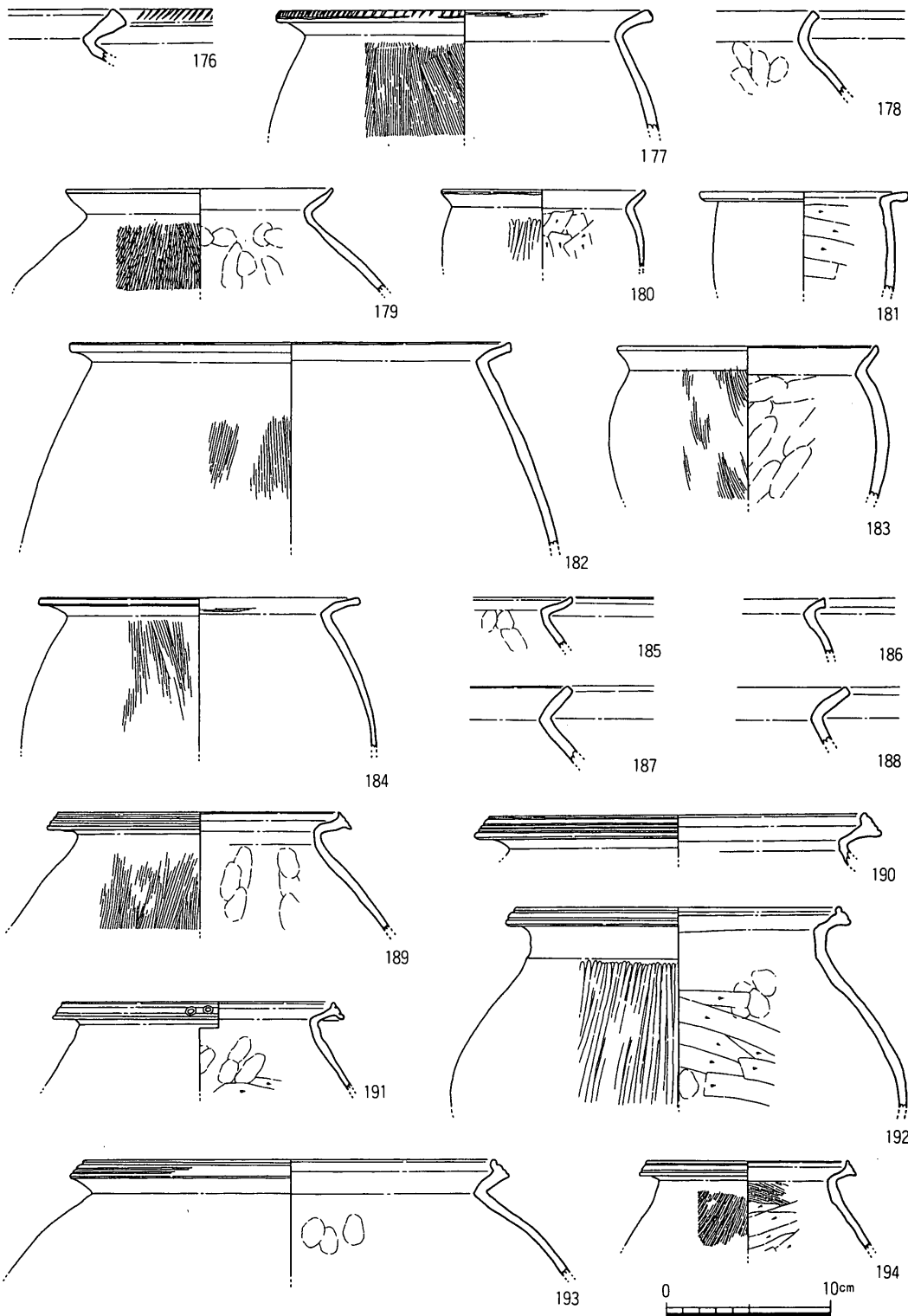
164



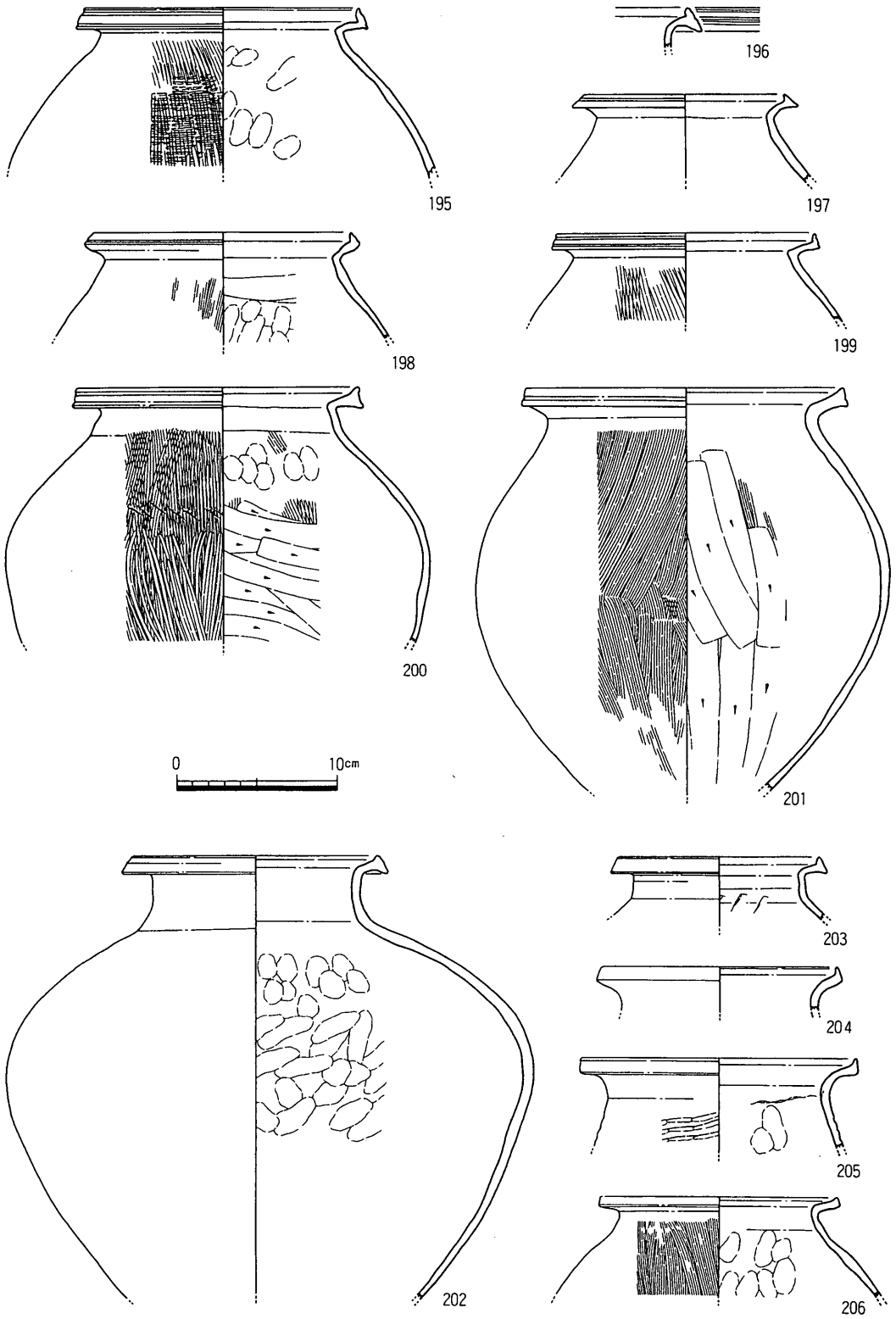
第73图 SR02出土遺物実測图(4)



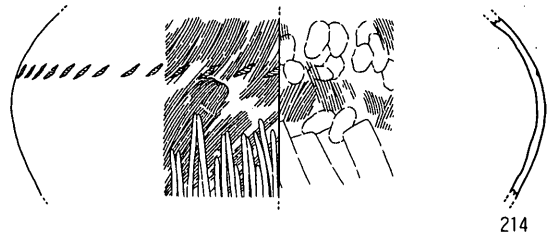
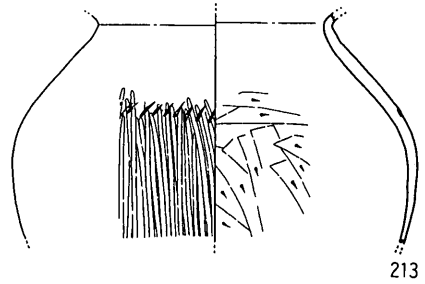
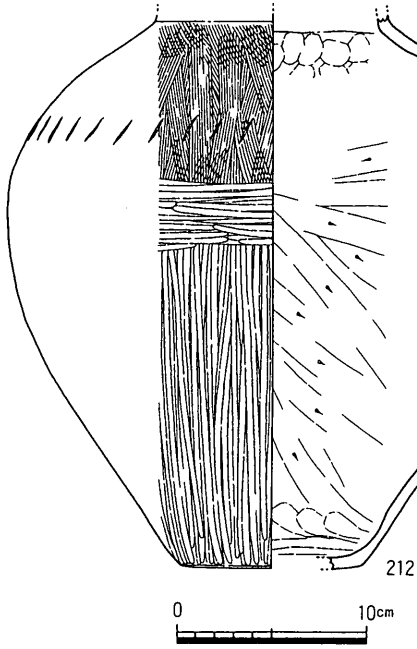
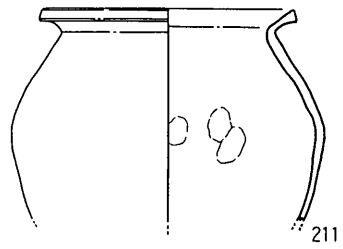
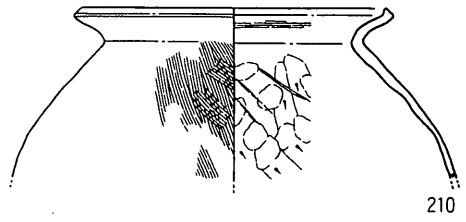
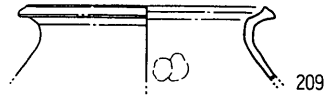
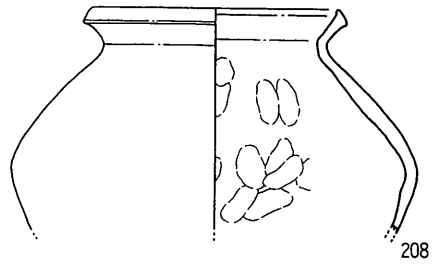
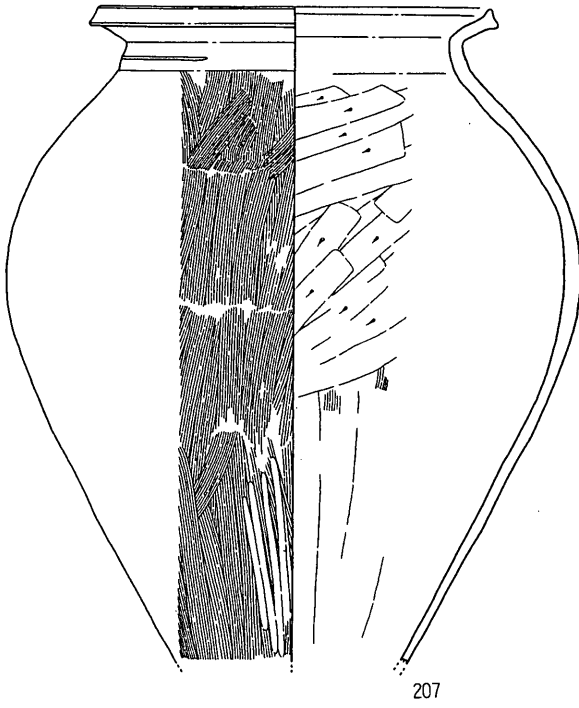
第74图 SR02出土遺物実測図(5)



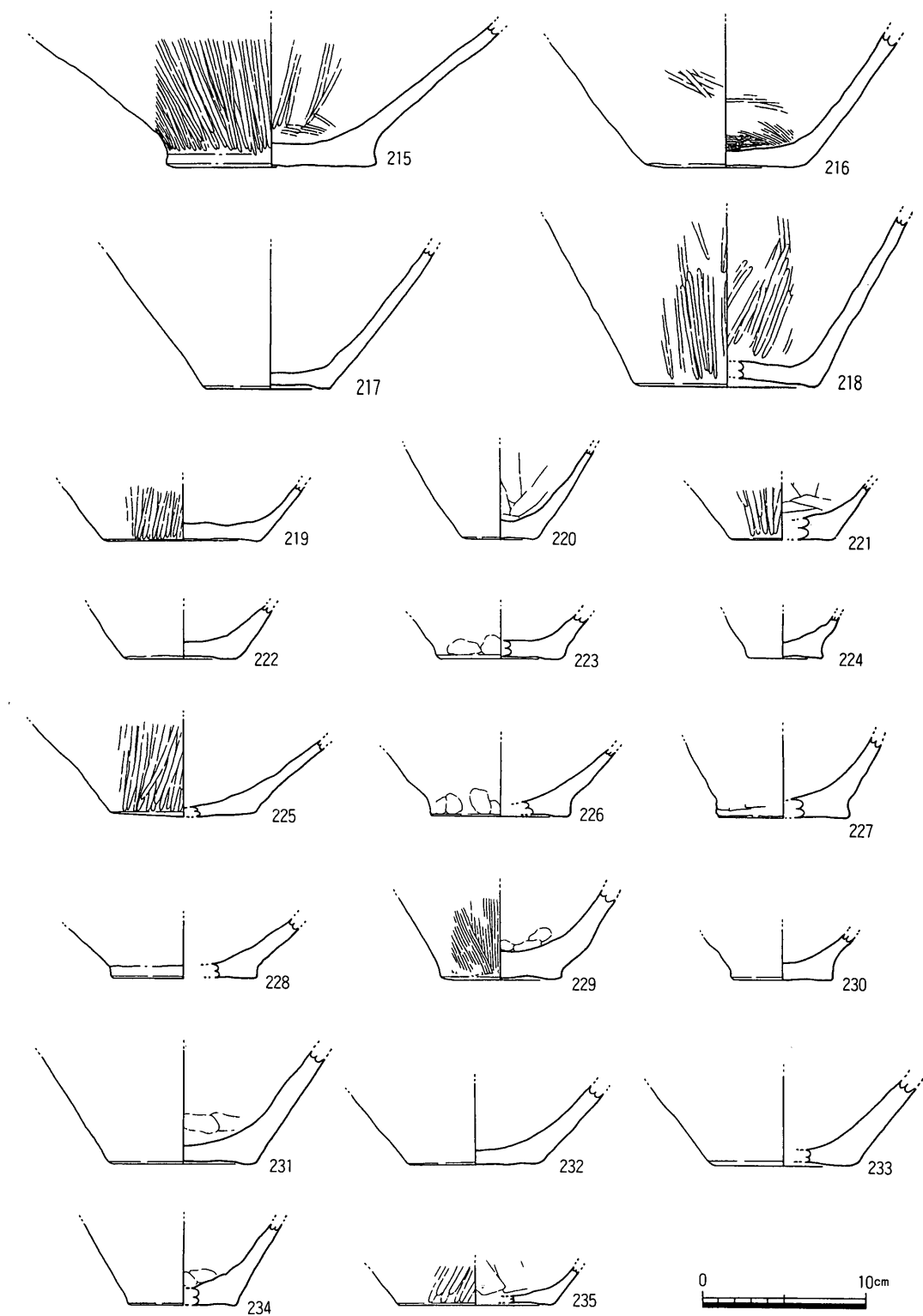
第75図 SR02出土遺物実測図(6)



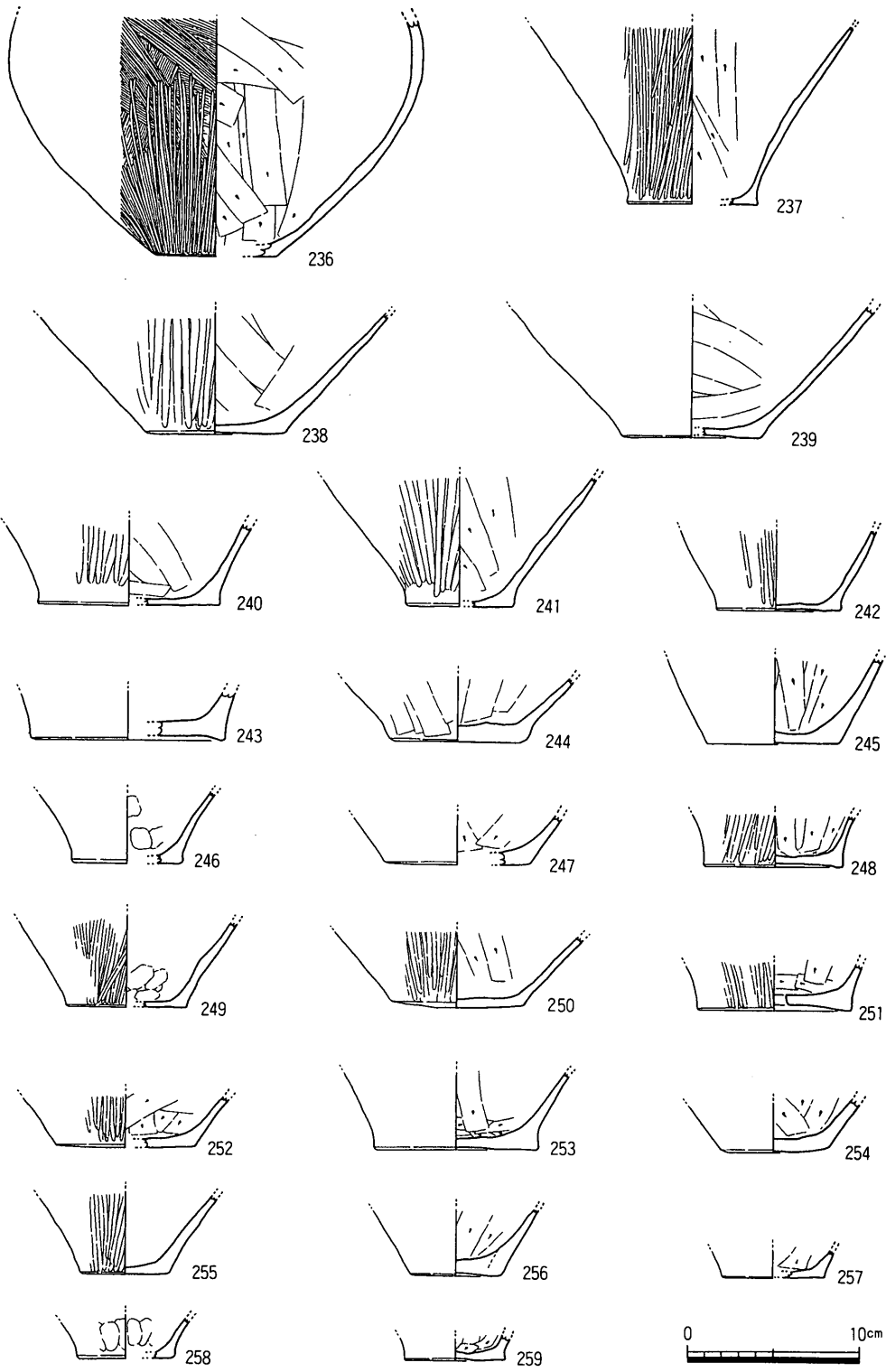
第76図 SR02出土遺物実測図(7)



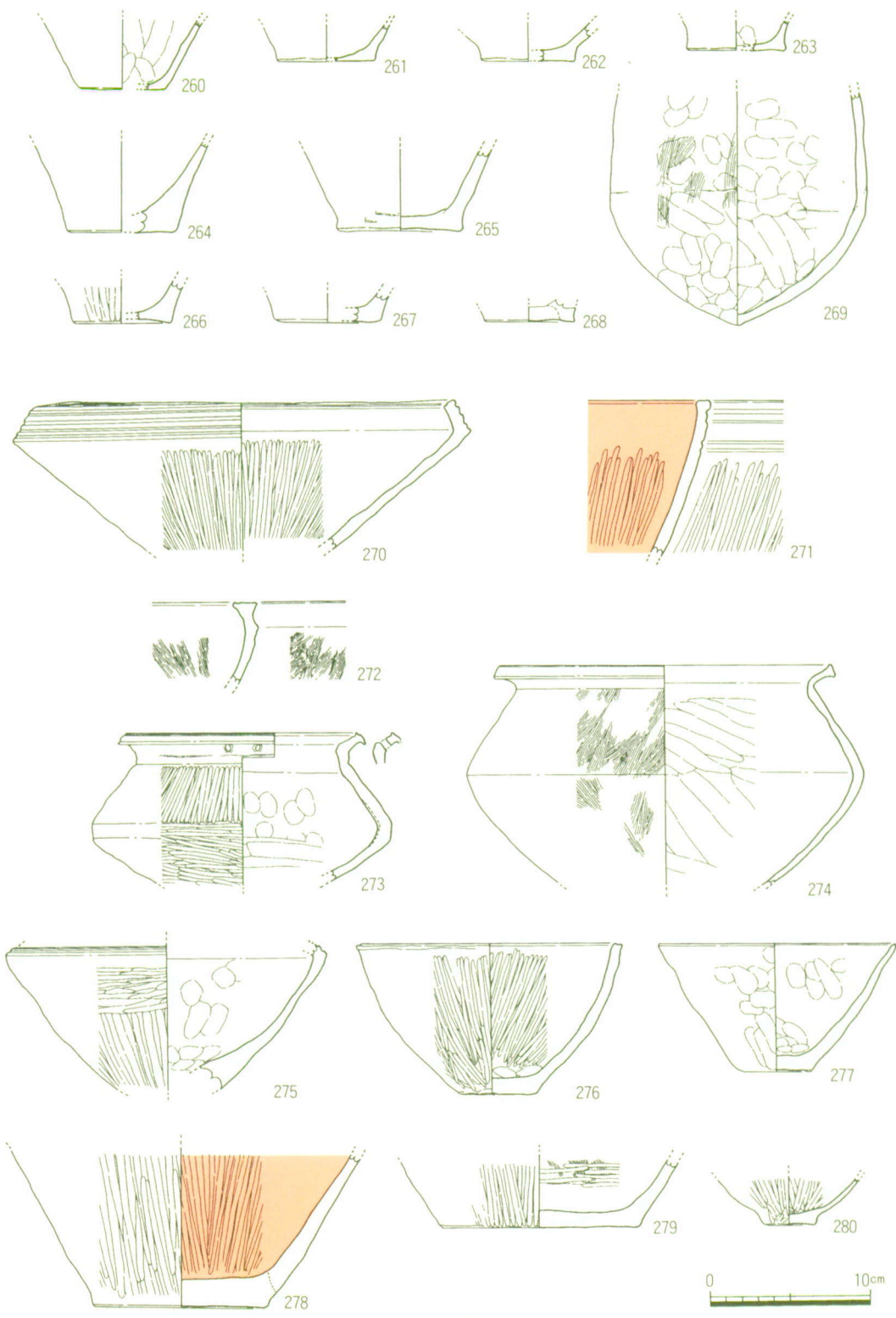
第77图 SR02出土遺物実測図(8)



第78图 SR02出土遺物実測図(9)

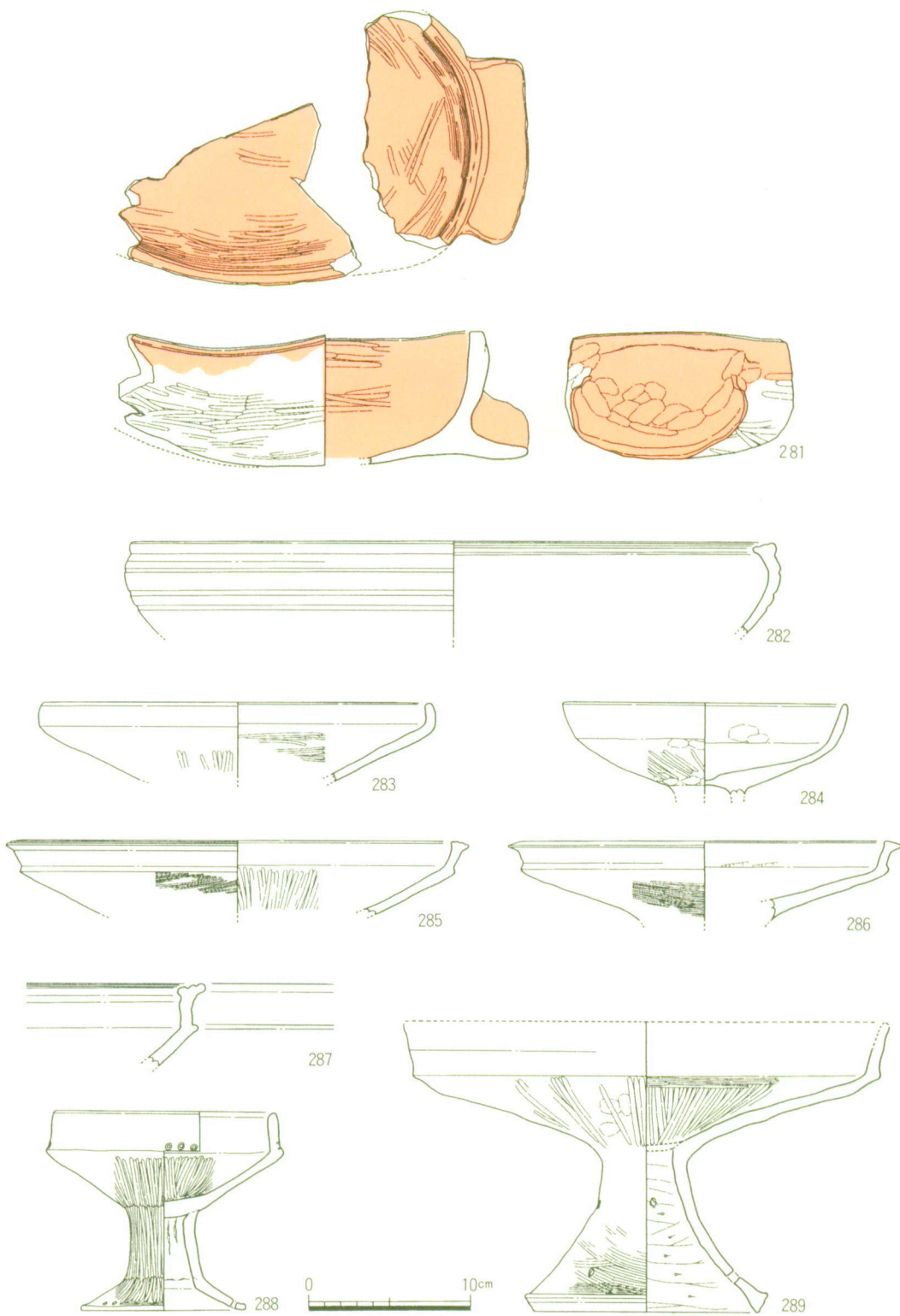


第79图 SR02出土遺物実測図(10)

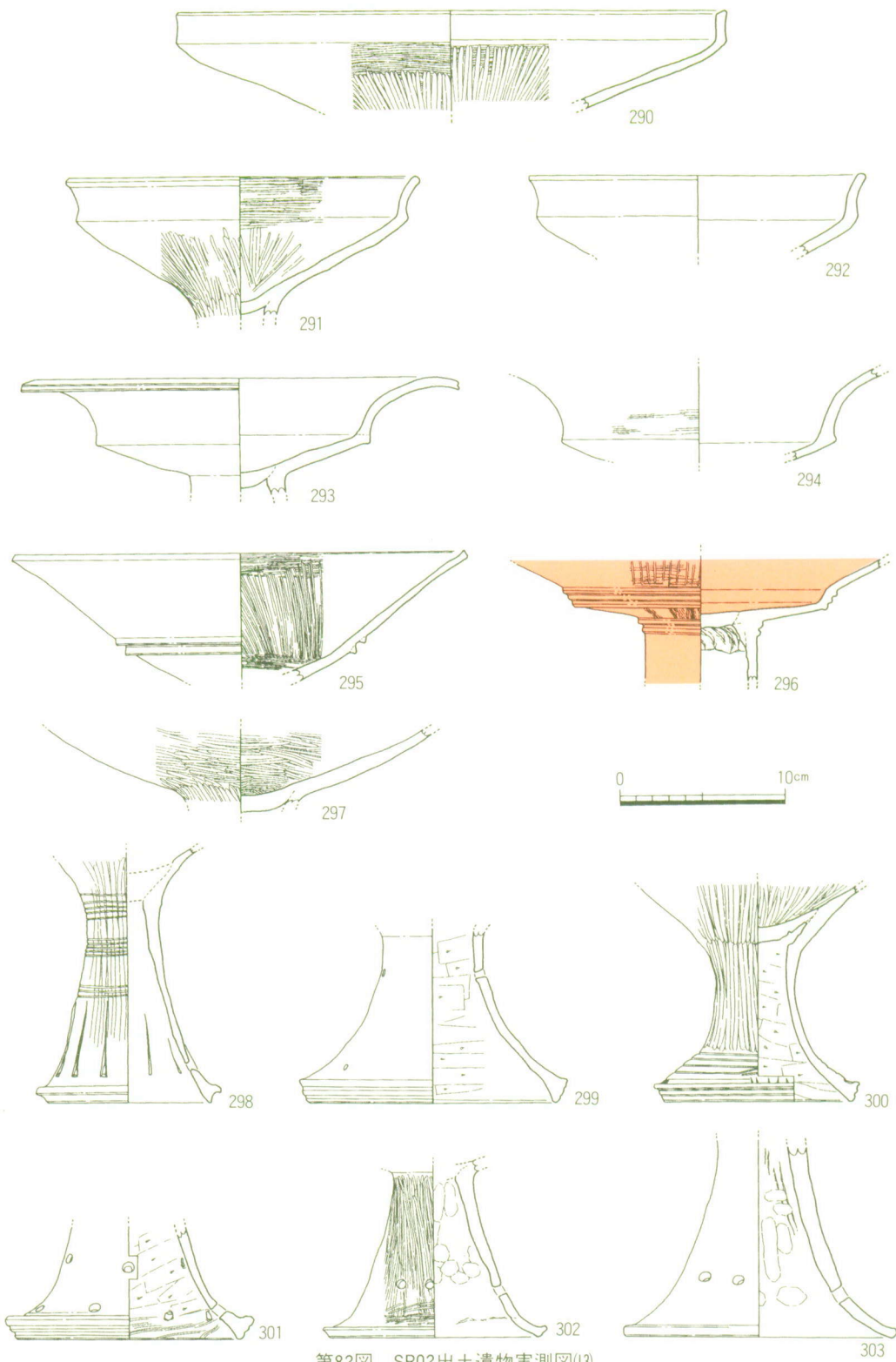


第80图 SR02出土遺物実測図(II)

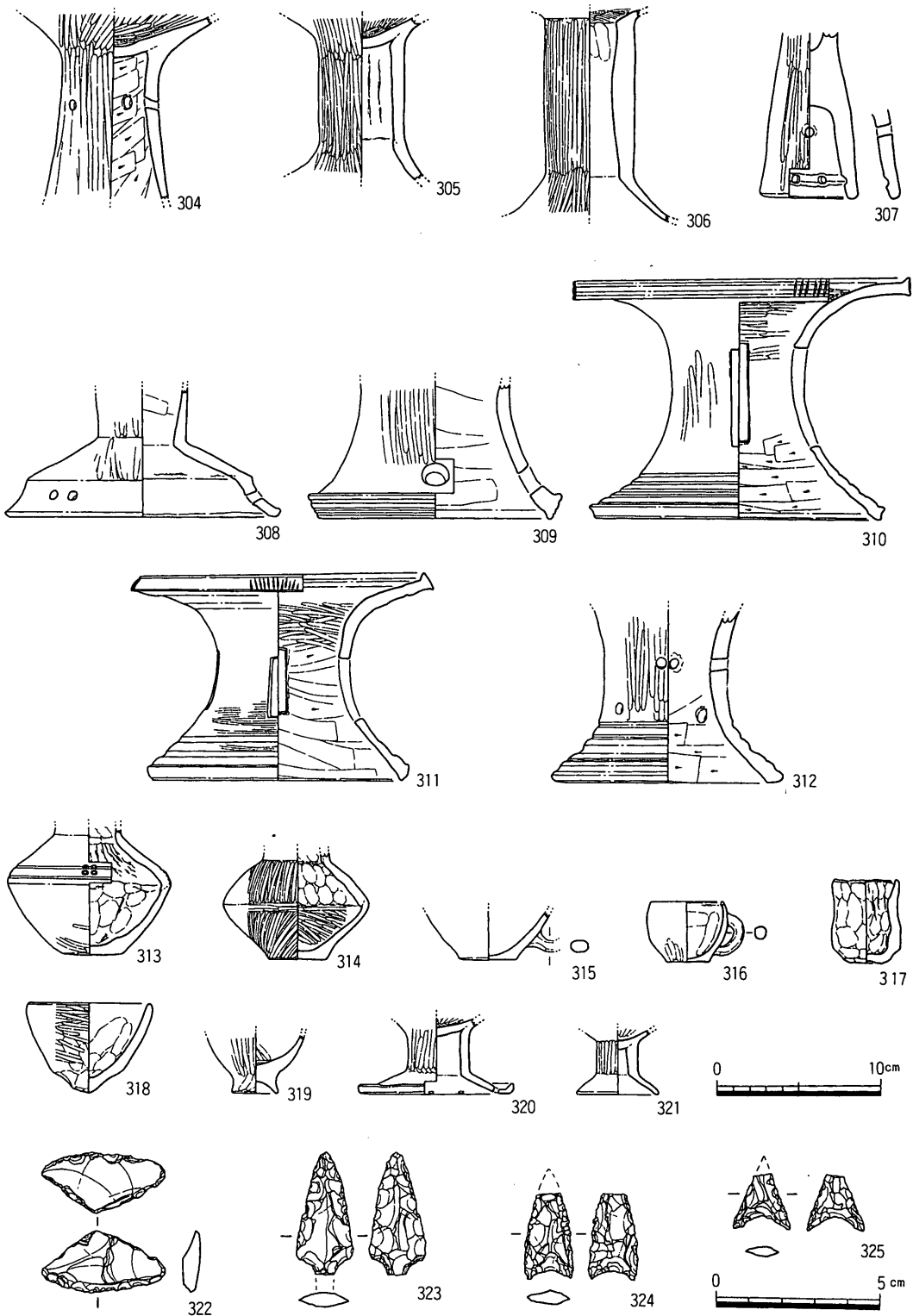




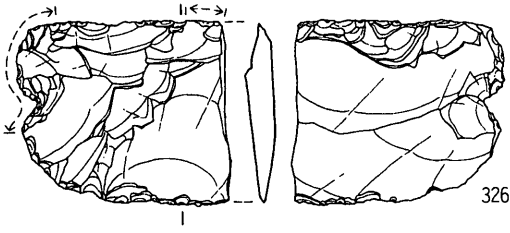
第81图 SR02出土遺物実測図(12)



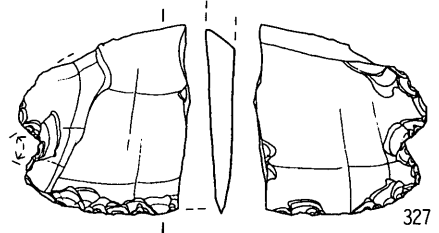
第82図 SR02出土遺物実測図(13)



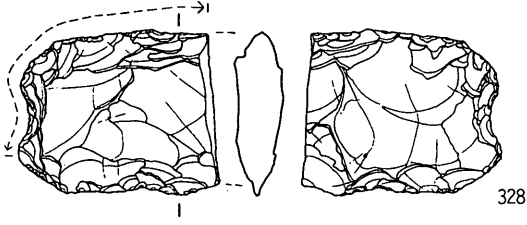
第83图 SR02出土遺物実測図(14)



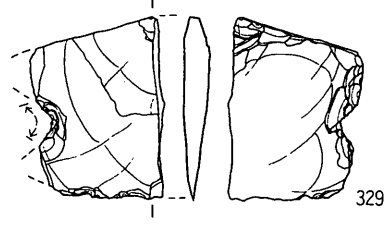
326



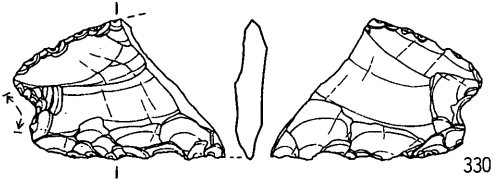
327



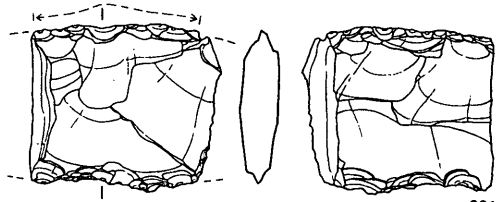
328



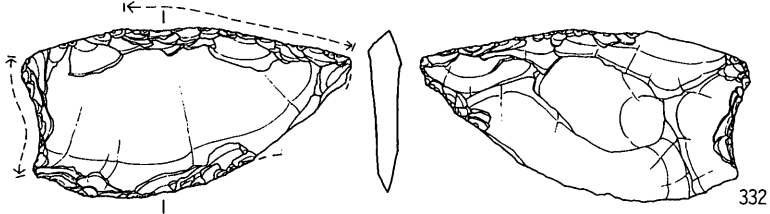
329



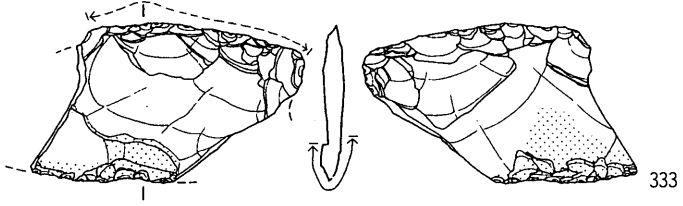
330



331



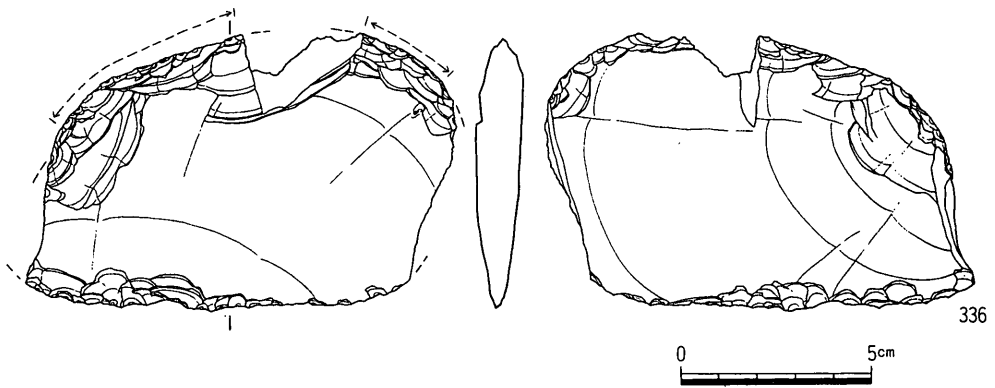
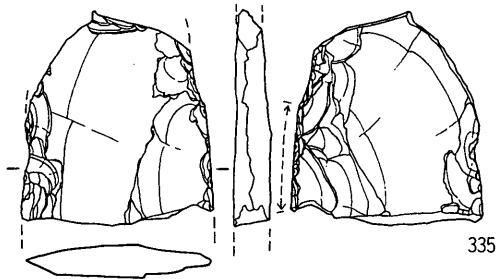
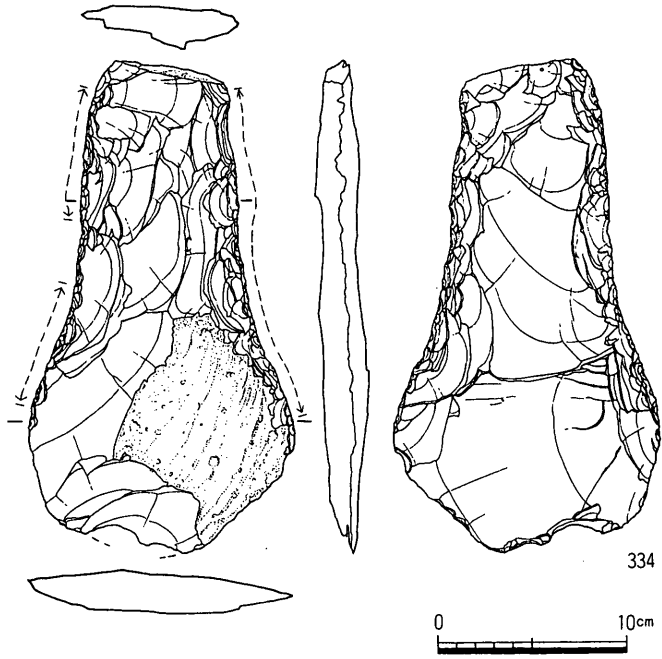
332



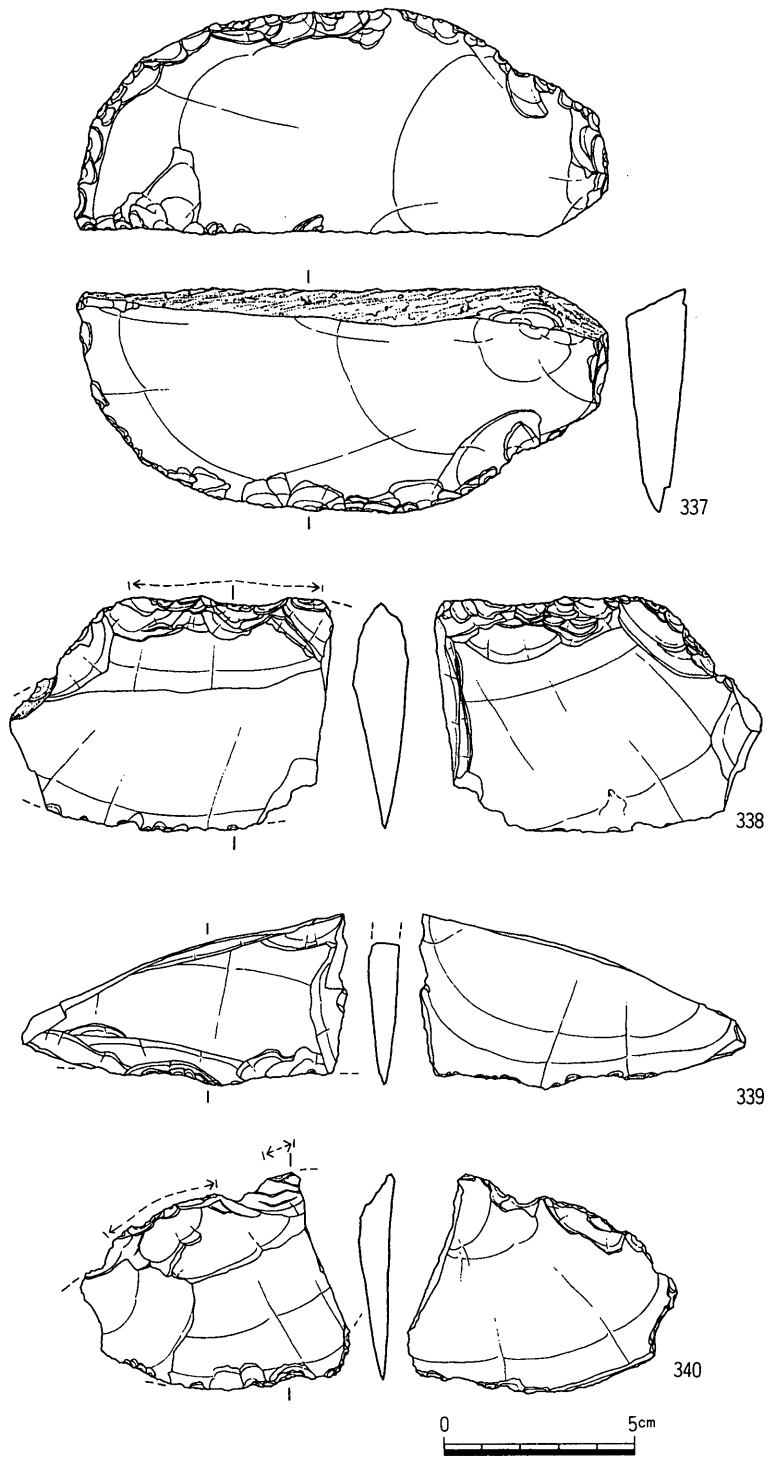
333



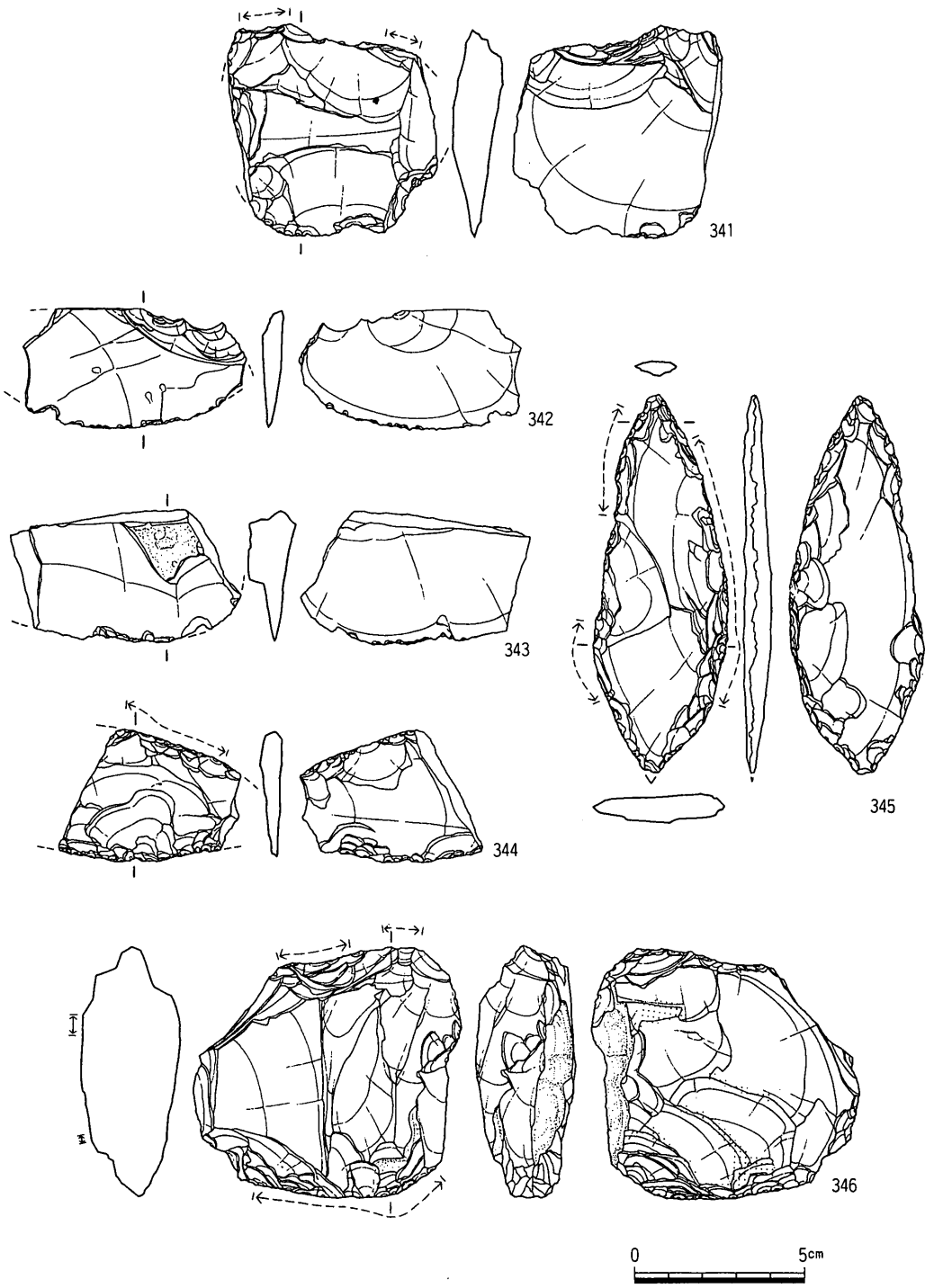
第84图 SR02出土遺物実測図(15)



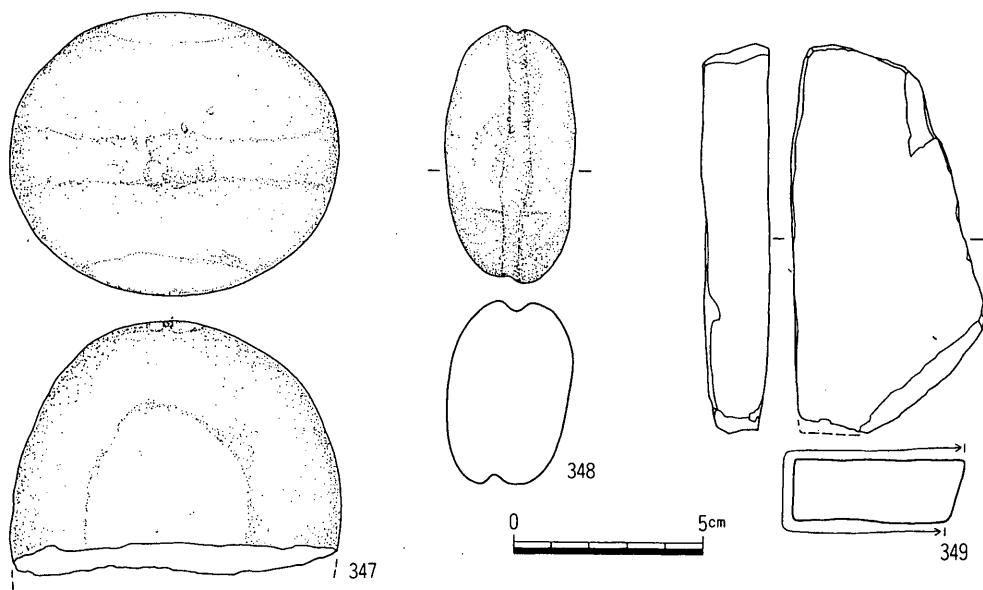
第85図 SR02出土遺物実測図(16)



第86図 SR02出土遺物実測図(17)



第87图 SR02出土遺物実測図(18)



第88図 SR02出土遺物実測図(19)

### SR 03 (第89～96図)

H地区b-59～I地区a-64で検出した自然河川である。検出面より上位には巨大な湿地状の遺構であるSX02の黒色粘土層が厚く堆積する。幅約4.0m、深さ約0.9mで南東から北西に向かって流れる。確認した延長は約130mに及ぶ。a・b-63で平行するSR04と枝状の溝で「H」状につながっている。埋土は黒色シルトや砂層が複雑に堆積しており、植物遺体を多量に含んでいる。

遺物は弥生土器・石器・木器が出土している。第91図～第93図はH地区で出土した遺物である。350は壺の口縁部である。351～363は甕である。球状に張り出す胴部をもち短く厚い口縁部をもつもの(351)や胴部から頸部にかけて直立気味に立ち上がるもの(353・359)、胴部中ほどに最大径をもち、大きく外反する口縁部をもつもの(352・354・355・356・357・358・360・361・362)に大別できる。いずれも口縁端部は上下に肥厚させ、退化凹線文がみられる。内面はヘラ削り調整がほとんどで上半部には指頭圧痕もみられる。外面はほとんどがハケ目調整である。365～369は高杯である。杯部は大きく、短く屈曲し上面に面をもつ。脚部は小さい円孔を2個もつもの(367)、大きい円孔を1個もつもの(369)、円孔をもたないもの(368)がある。370・371は大型の器台である。口縁端部(370)は上下に肥厚させ、数状の凹線文を施し、その上から竹管文を施文している。脚部(371)は若干外



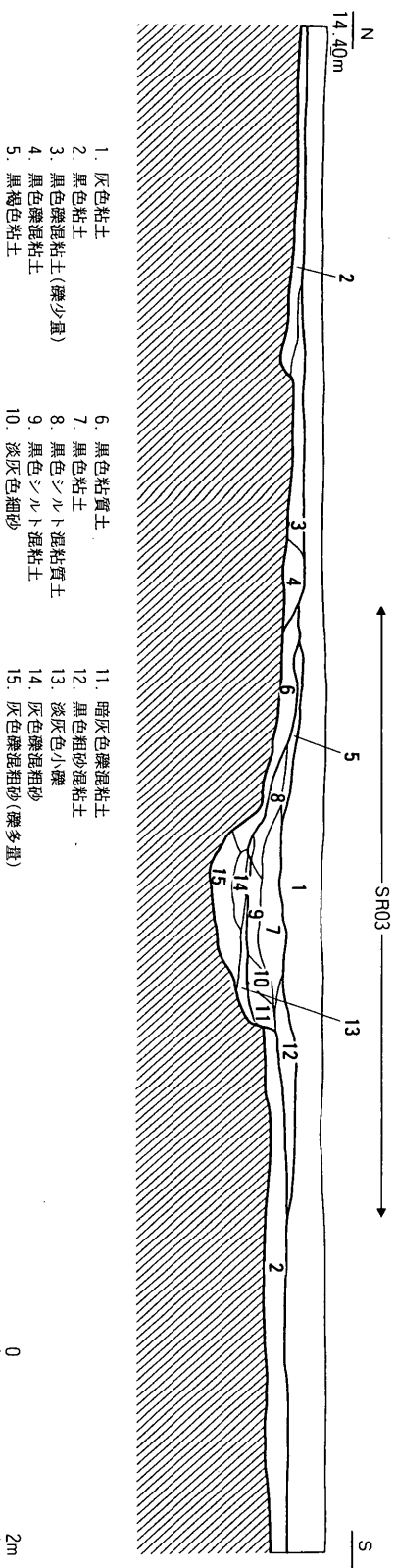
方へつまみ出し、やはりナデによる凹線文がみられる。372～375は甕の底部である。

第92図はH地区で検出したS R03最下層出土の遺物である。376・377は長頸壺の口縁部である。わずかに外反しながら直立気味に立ち上がり、端部を丸くおさめる。外面には数状の凹線文が縦方向のハケ目ののち施されている。内面には指頭圧痕がわずかに認められる。378も壺の口縁部である。大きく外反するタイプのもので端部をわずかに肥厚させ、竹管文を施す。竹管文は上面にも大きめのものと小さめのものがセットで認められる。379～381は甕である。胴部上部に最大径をもち、「く」の字状に外反する口縁部をもつ。口縁端部は上方へつまみ出すもの(379)と上下両方へつまみ出すもの(372)とがある。382・383は高杯である。杯部(382)はやや丸みを帯び、短く屈曲する口縁端部をもつ。端部には面をもち、退化凹線文がみられる。脚部(383)は貫通していない円孔が2個並んでいる。端部は外方へつまみ出している。384はサヌカイト製スクレイパーである。

第93図はH地区で検出したS R03から出土した木製品である。385は横槌である。敲打部、柄部ともに直径がほとんど変わらず、また、敲打部と柄部の境界が直角に近い形態である。また、柄部には手から抜けないようにグリップが認められる。これは渡辺誠氏の分類<sup>(4)</sup>によるとAタイプと呼ばれる敲打部と柄部の境界が直角に近く、敲打部が太くて短いタイプに属し、用途としてはワラ打ち用もしくはキヌタ用、時期は弥生時代後期～古墳時代に比定される。したがって本横槌は出土遺物からみて弥生時代後期のものであり、供伴する石器に石庖丁が多いことからワラ打ちに使用された可能性が高いと思われる。386は杭である。先端を削って尖らせている。387～389は加工痕のある木器である。用途は不明である。390は曲物である。薄い板状の木に切込みを数カ所入れて円形に曲げた容器である。上層のS X02からは曲物の蓋と思われる円孔の空いた板状の木製品が出土しているため、弥生時代のものであるかどうかは疑問であるが、ここでは一応、該期の所産であるとしておく。

第94図はI地区で検出したS R03より出土した土器である。391～393は弥生土器の壺である。391・392は長頸壺で外反しながら立ち上がる。口縁端部は丸く収めており、外面にはハケ目調整の後、ヘラ状工具による斜線が上段右上がり、下段左上がりで認められる。393は直立する短い頸部からほぼ真横に拡張する口縁部をもつ。端部は上下両方に肥厚させ、外面にハケ目調整が認められる。394は甕である。球状に張った胴部をもち、「く」の字状に外反する口縁部をもつ。内外面ともに若干のハケ目調整が認められる。

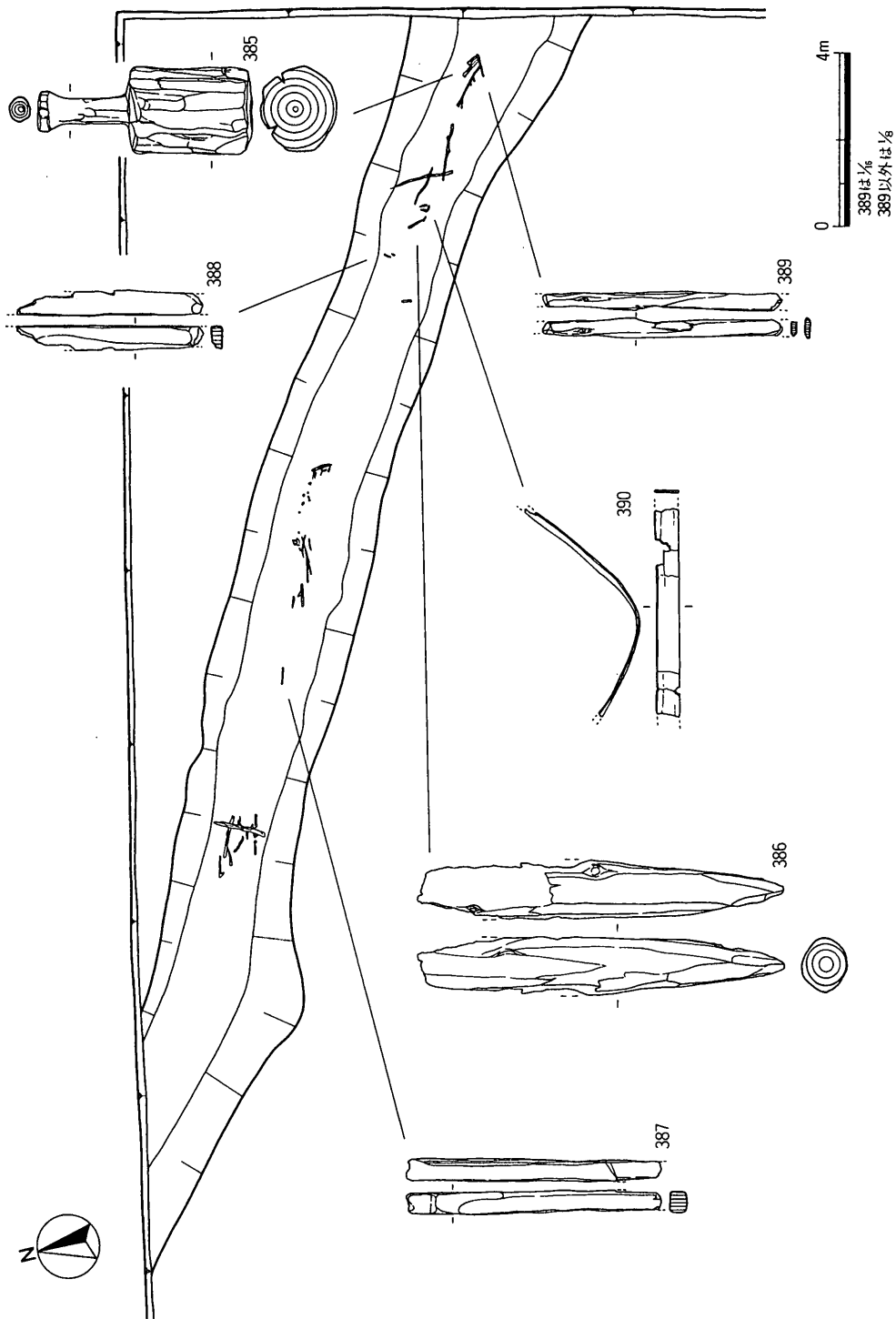
第95図・第96図は木器である。395は板状を呈する。下半部は欠損している。両側面に近い部分を斜めに削っており、断面形は低い台形をしている。上部右側に4cm四方の穴が空



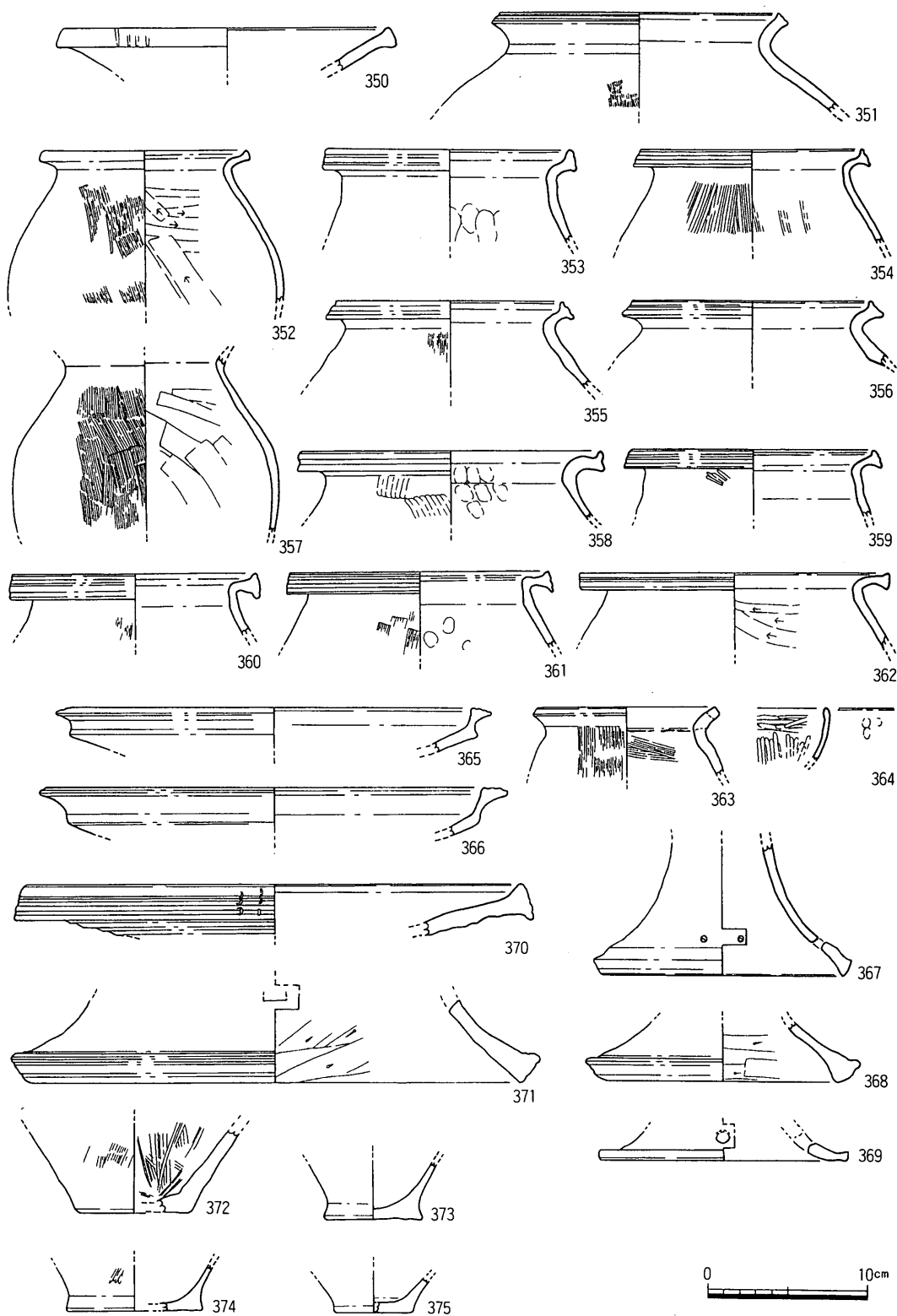
- 1. 灰色粘土
- 2. 黑色粘土
- 3. 黑色礫混粘土 (礫少量)
- 4. 黑色礫混粘土
- 5. 黒褐色粘土
- 6. 黑色粘質土
- 7. 黑色粘土
- 8. 黑色シルト混粘質土
- 9. 黑色シルト混粘土
- 10. 淡灰色細砂
- 11. 暗灰色礫混粘土
- 12. 黑色粗砂混粘土
- 13. 淡灰色小礫
- 14. 灰色礫混粗砂
- 15. 灰色礫混粗砂 (礫多量)

第89図 SR03土層断面図

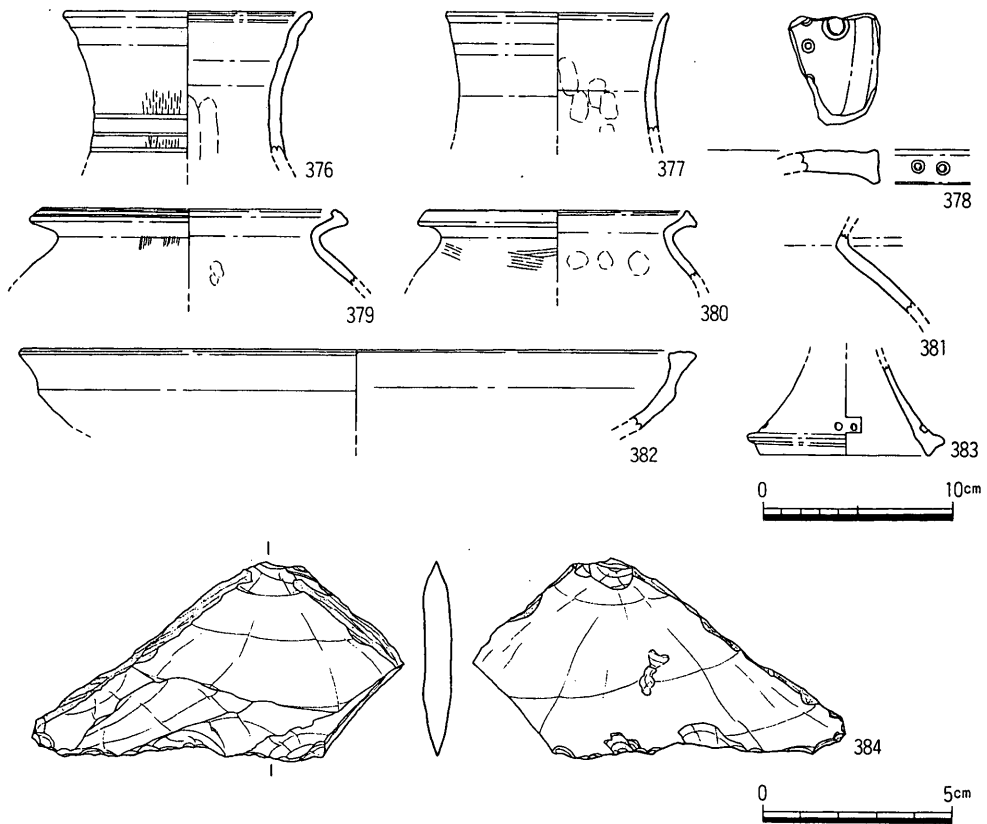




第90図 SR03遺物出土状況平面図



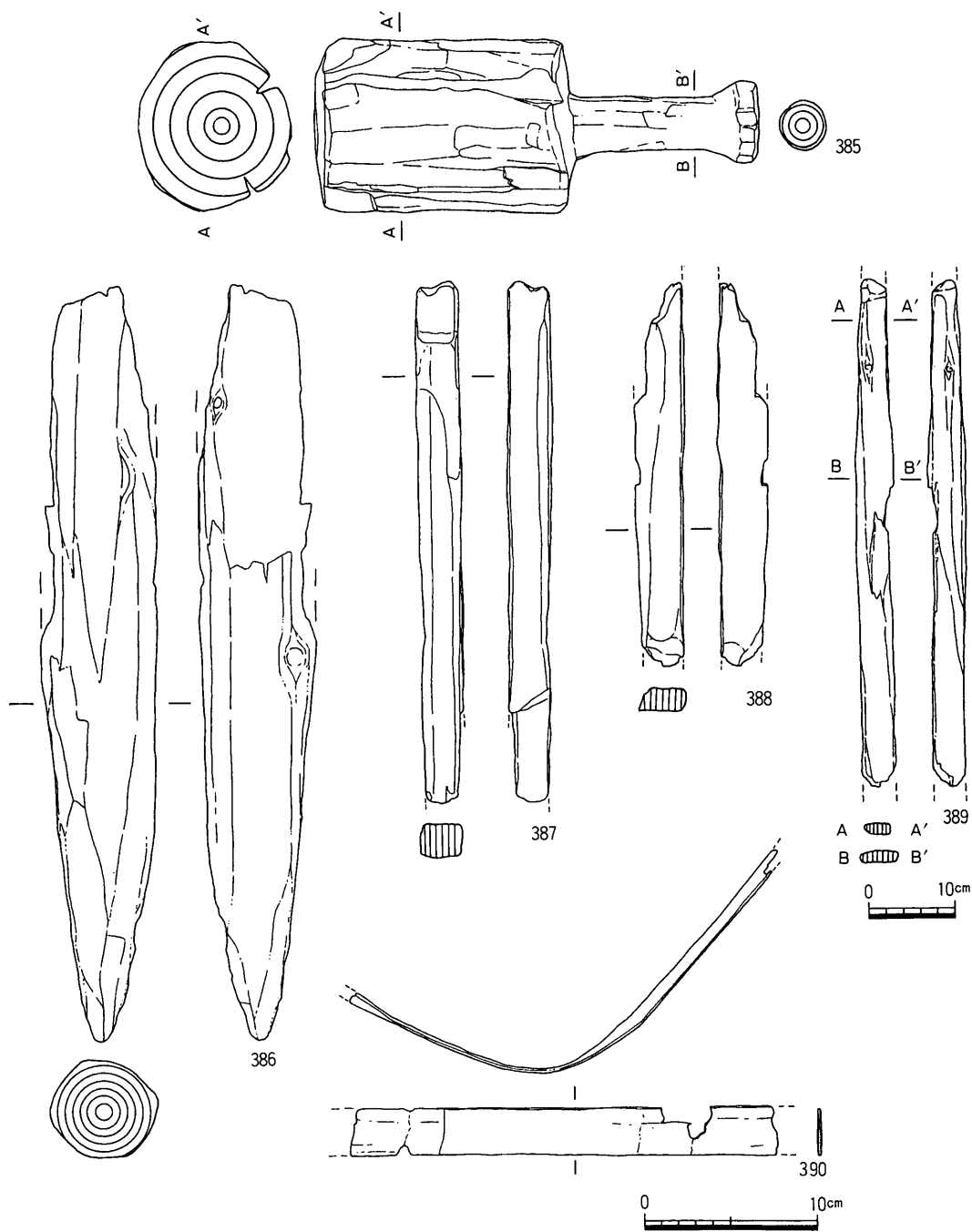
第91图 SR03出土遗物实测图(1)



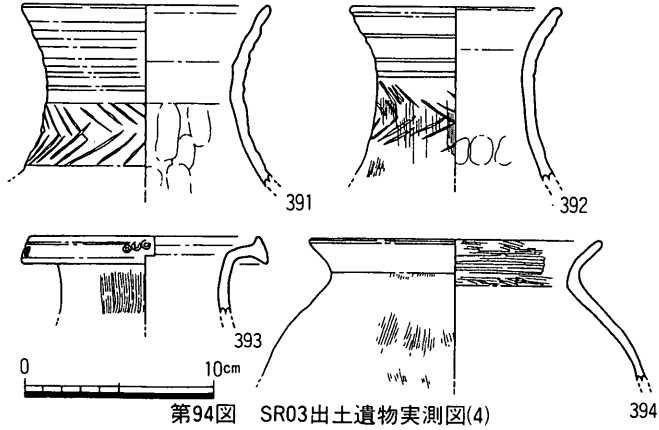
第92図 SR03出土遺物実測図(2)

いている。建築部材もしくは鼠返しではないかと思われる。396は半分欠損しているが、鋏の一部と思われる。中心に柄を差し込むための楕円形の穴が空いている。397は何かの部材であると思われるが、詳細は不明である。398は長方形の穴が空いた柄である。頭部は圭頭状を呈する。399は加工痕のある木器である。400・401は円孔1個をもつ木器である。いずれも用途は不明である。402・403は羽子板状の木器である。このうち403は完形品である。細い部分を柄とするならば篋としての機能が与えられると思われる。あるいは、叩き板の未製品である可能性も考えられる。404は用途不明の木製品である。残存状況はあまり良くない。

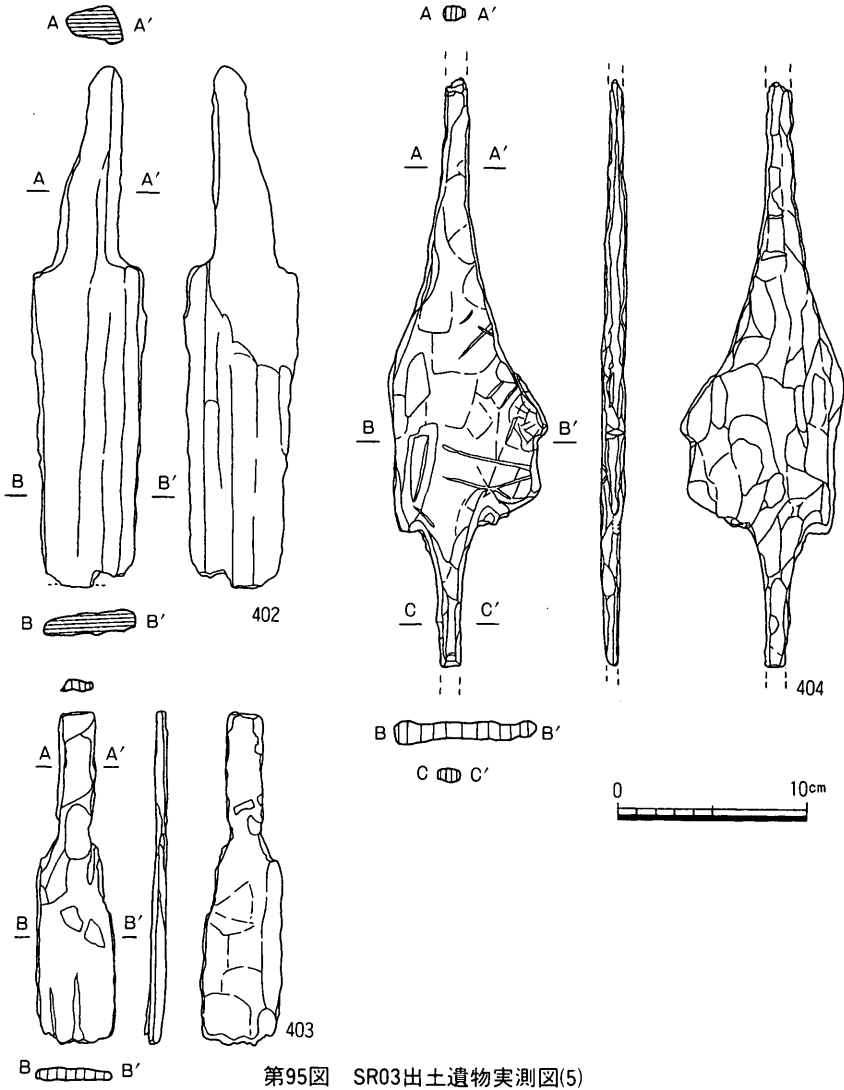
(4) 渡辺誠 「ヨコヅチの考古民具的研究」『考古学雑誌』第70巻第3号 1985



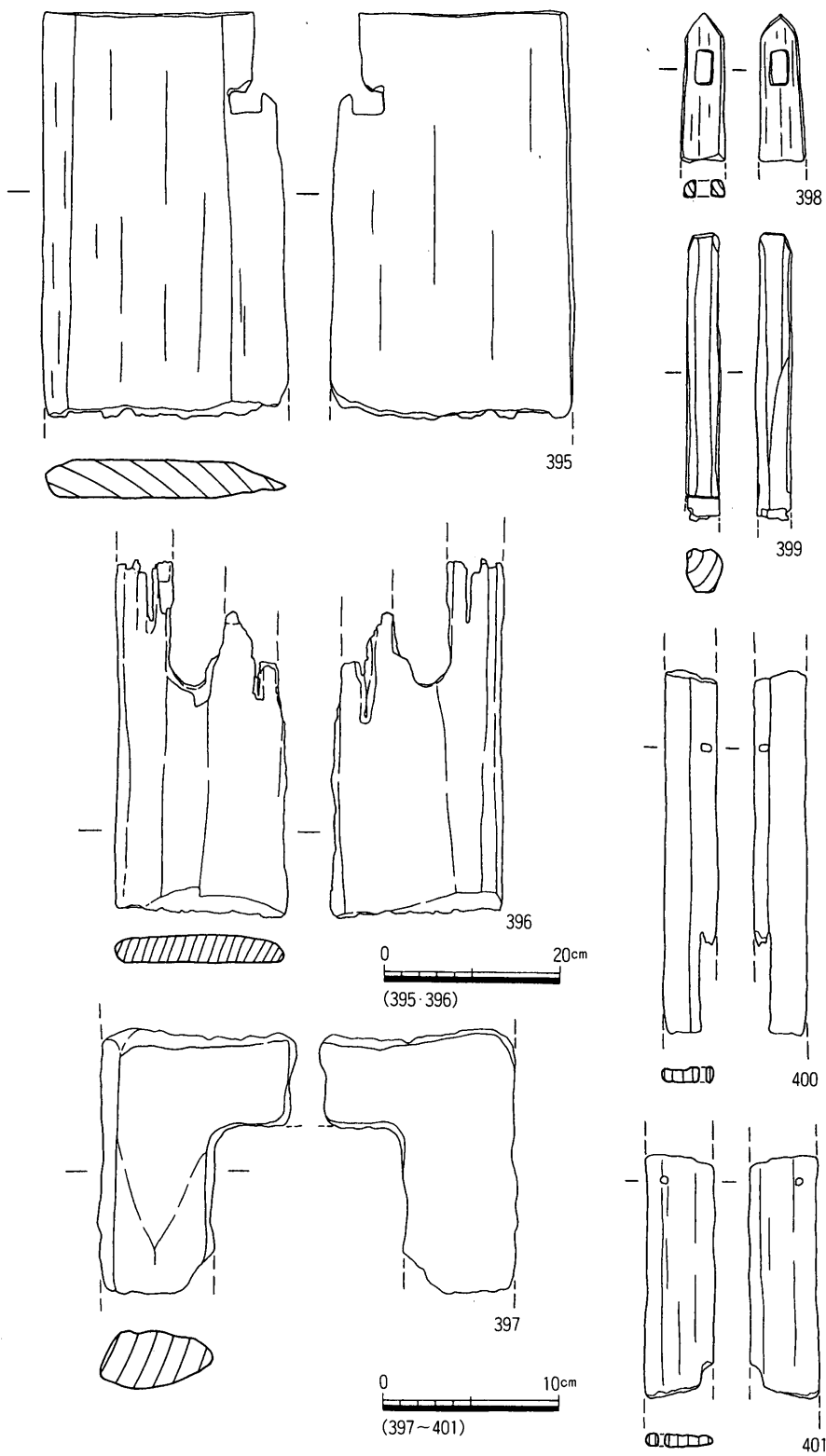
第93図 SR03出土遺物実測図(3)



第94图 SR03出土遺物実測図(4)



第95图 SR03出土遺物実測図(5)



第96图 SR03出土遺物実測図(6)



#### S R 04 (第97～109図)

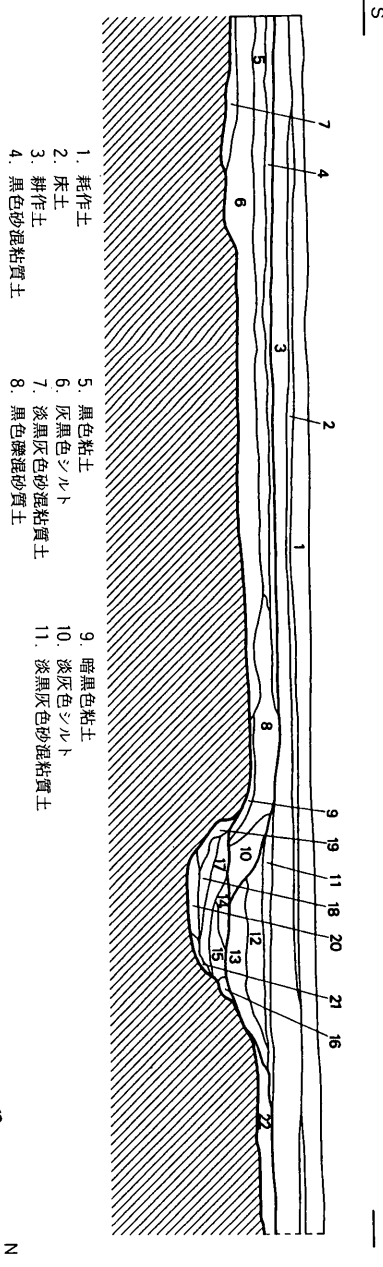
I地区b-62～a-66にかけて検出した自然河川である。S R03と同じく上位にはS X02が堆積している。規模・方向や埋土もS R02とほぼ同じである。b-63北西隅で両側に若干張り出した部分が認められる(第99図)。北側は3段に地山を切り込んで階段状を呈する。南側は斜めに地山を削った後に平たい河原石を階段状に積み上げている。この張り出しはS R04を渡るための施設であると考えられる。

遺物は弥生土器・石器・木器が出土している(第100図～第109図)。

第100図405～第101図432は弥生土器の壺である。405は大型の壺の口縁部で口縁端部は上方へつまみ上げ、周囲には退化凹線文がみられる。406は口縁端部が下方へ大きく肥厚している。407は頸部から大きく外方へ拡張し、端部が上下両方へ拡張するもので凹線文ののち6～7条の列線文を施文している。408・409・411～413は口縁端部に円形浮文を貼り付けるものである。408は2個の円形浮文と逆三角形の竹管文を交互に配する。409・412は3個の円形浮文を1つの単位としている。411は周囲全体に均等に配列されている。410はやや端部の肥厚する口縁部である。周囲には竹管文が巡らされ、内面には波状文が認められる。414～420は頸部から大きく外方へ開く口縁部をもつものである。いずれも口縁端部を肥厚させ、退化凹線文がみられる。内面はヘラ削り調整、外面はハケ目調整が多い。421～430はラッパ状に開く口縁部である。直立気味に立ち上がり、端部を丸く収めるもの(421・422・424・425)と、大きく外方へ開き端部をやや肥厚させるもの(423・426・427)とがある。直立気味に立ち上がるものには口縁端部に面をもち、竹管文や凹線文のみられるもの(428・429・430)もある。直立気味に立ち上がるもののほとんどは外面に数状の凹線とヘラ状工具による列線文が認められる。431は無頸壺の上半部である。球状に張った胴部から外反し、端部を丸く収める極く短い口縁部をもつ。内面に横方向のハケ目調整がみられる。432は複合口縁の壺である。外側の口縁部しか残存していない。端部は外方へややつまみ出し、丸く収める。

第101図433～第103図470は弥生土器の甕である。やや長胴で「く」の字状に外反し、上下方向に拡張する口縁部をもつものが大勢を占める(435～464)。いずれも口縁端部に退化凹線文が認められる。内面はヘラ削り調整か指頭圧痕が多い。外面はハケ目調整がほとんどである。その他に球状を呈する胴部をもち、ほぼ真横に開く口縁部をもつもの(456・457・465～470)がある。このタイプには外面にタタキ調整が認められるもの(469)もある。470には短い口縁部に吊手状の円孔が認められる。

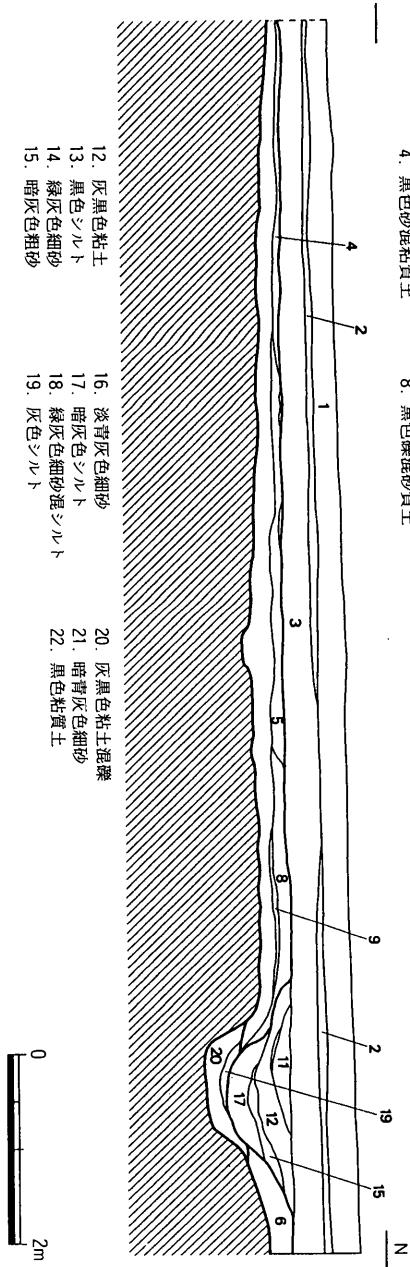
15.00m S



- 1. 耕作土
- 2. 床土
- 3. 耕作土
- 4. 灰褐色混粘質土

- 5. 黒色粘土
- 6. 灰黒色シルト
- 7. 淡黒灰色砂混粘質土
- 8. 黒色礫混砂質土

- 9. 暗黒色粘土
- 10. 淡灰色シルト
- 11. 淡黒灰色砂混粘質土



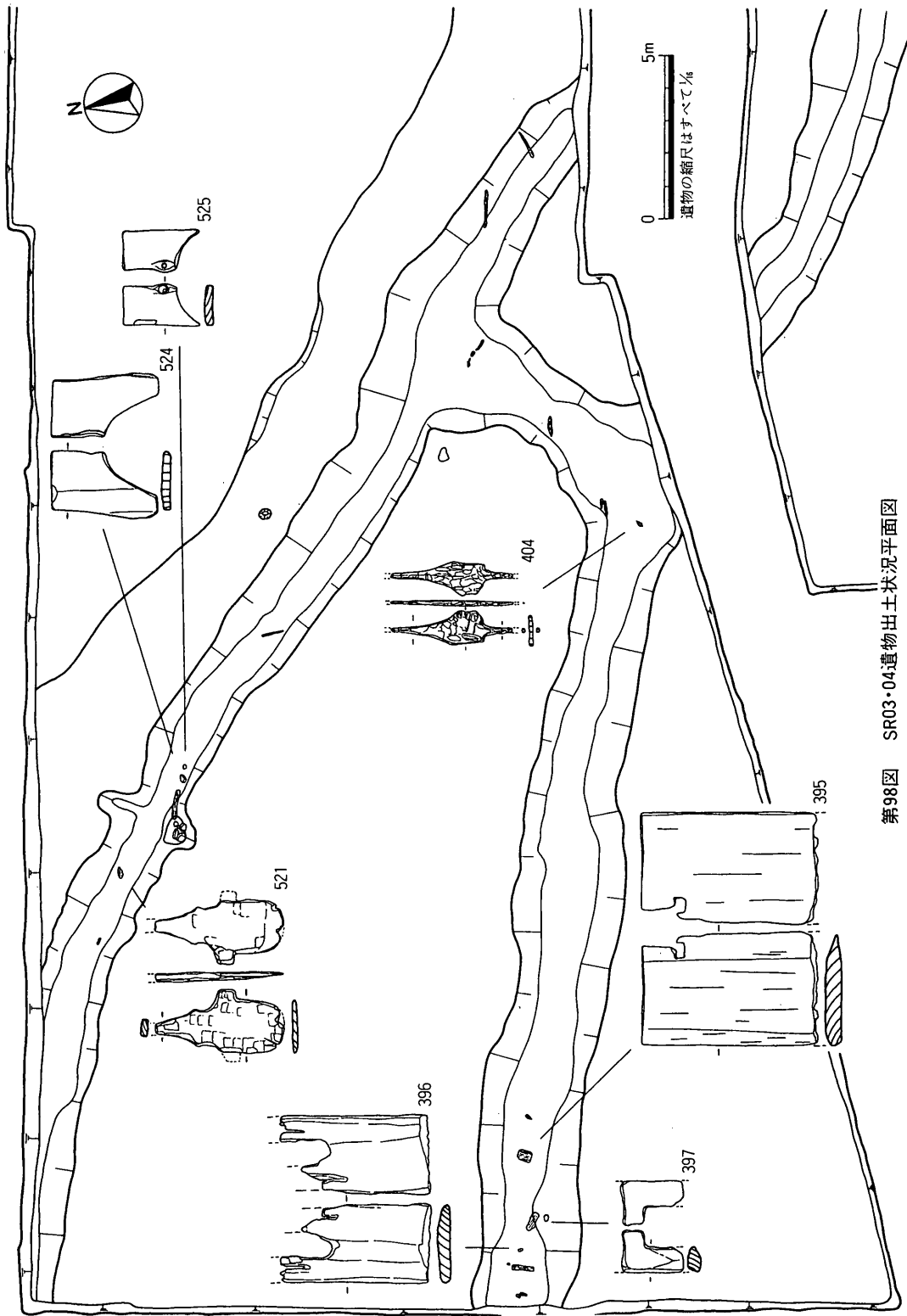
- 12. 灰黒色粘土
- 13. 黒色シルト
- 14. 緑灰色細砂
- 15. 暗灰色粗砂

- 16. 淡青灰色細砂
- 17. 暗灰色シルト
- 18. 緑灰色細砂混シルト
- 19. 灰色シルト

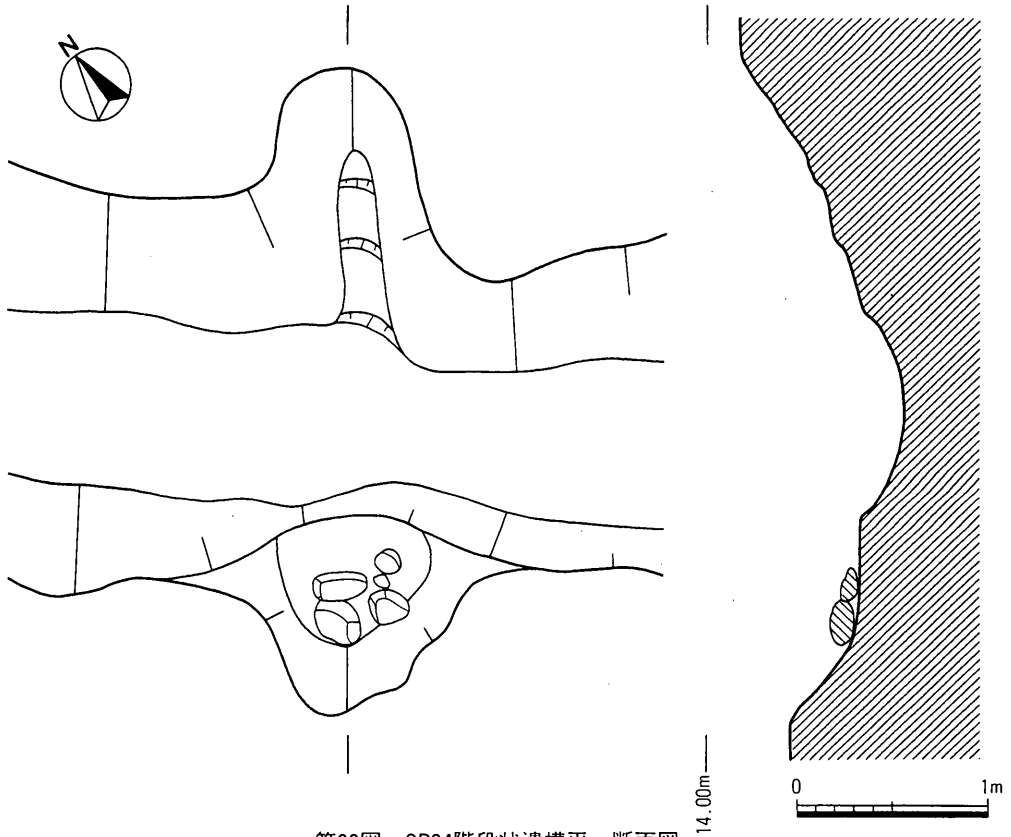
- 20. 灰黒色粘土混礫
- 21. 暗青灰色細砂
- 22. 黒色粘質土

0 2m

第97図 SR03-04 土層断面図



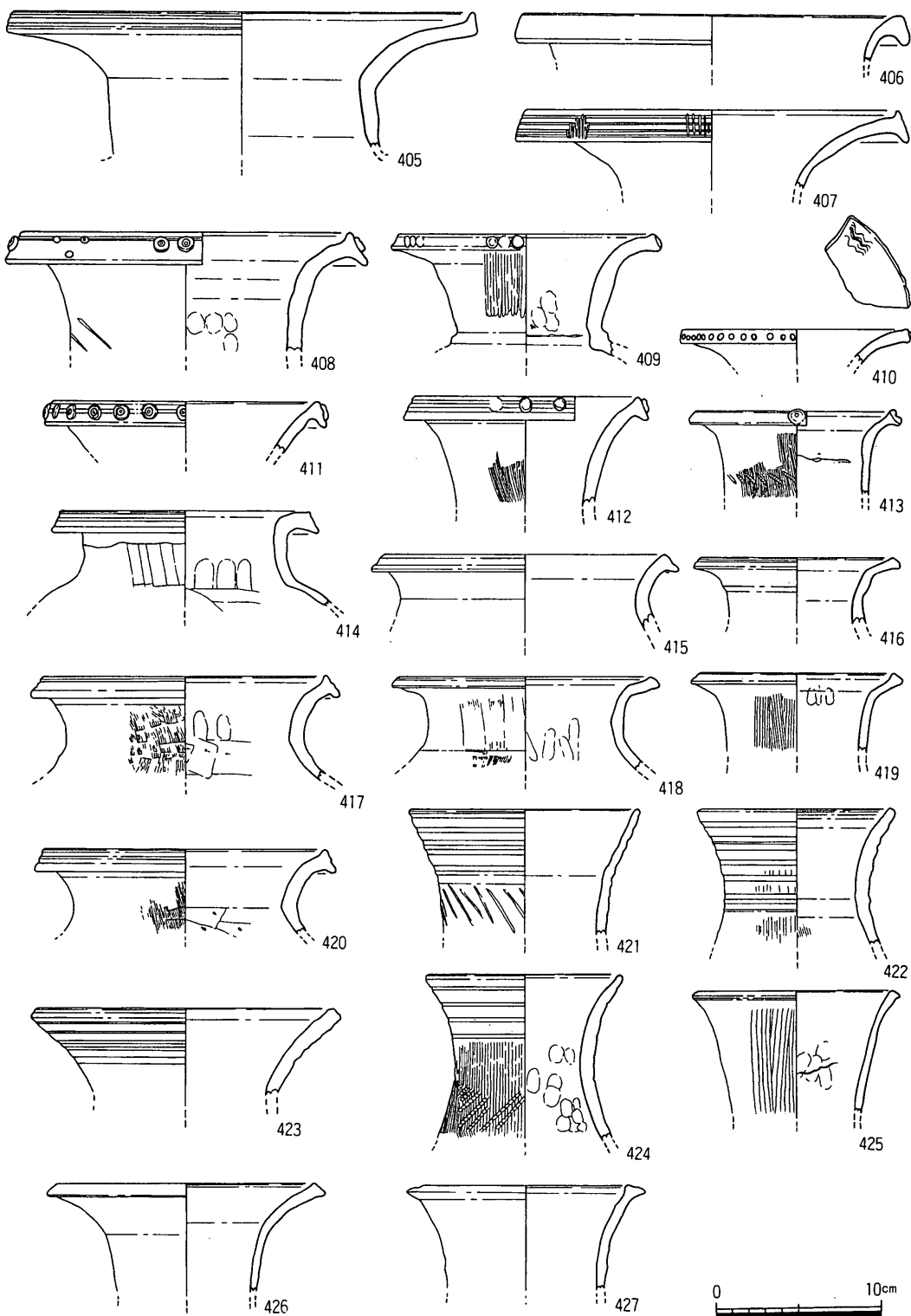
第98図 SR03-04遺物出土状況平面図



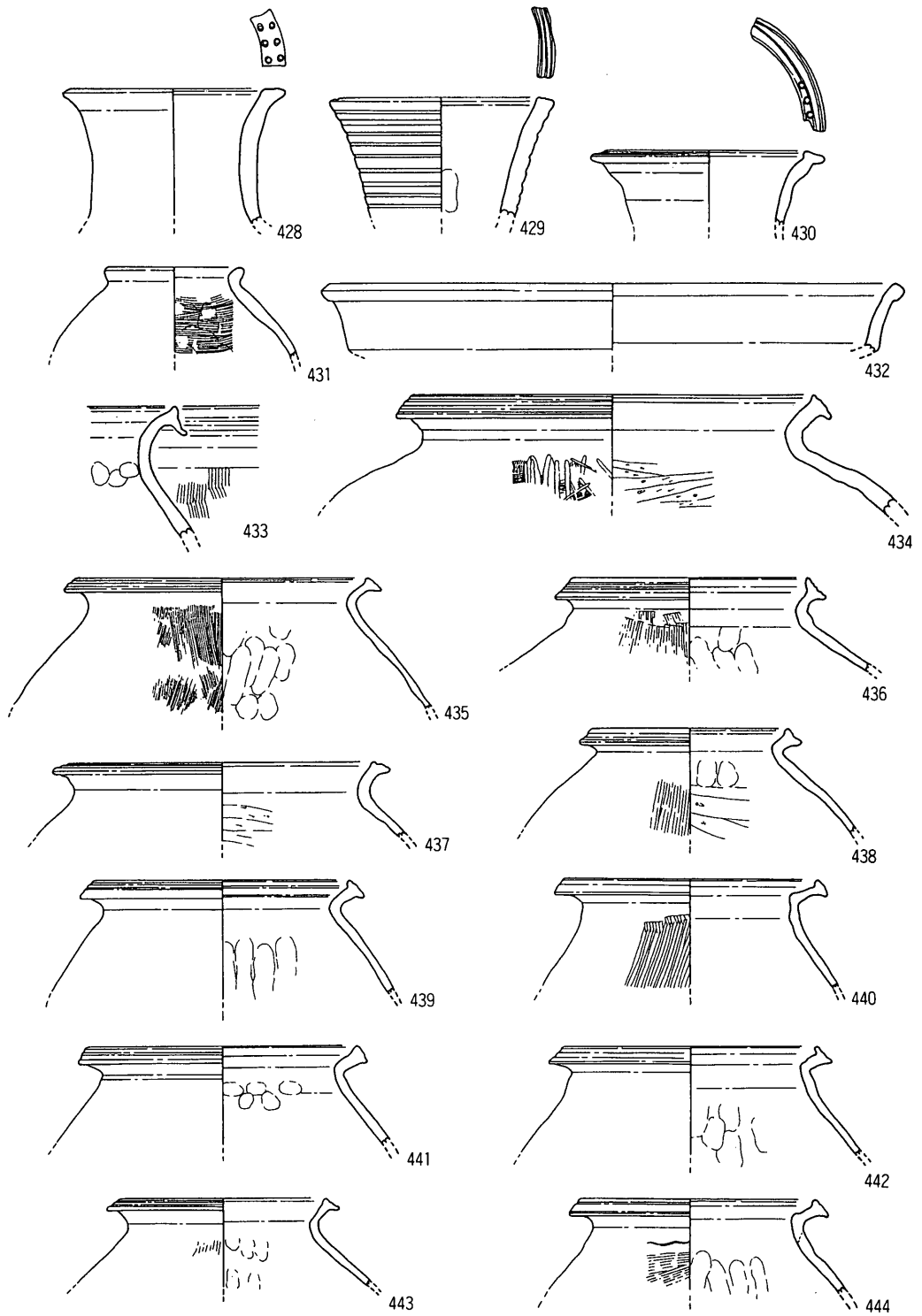
第99図 SR04階段状遺構平・断面図

471～483は底部である。内面には指頭圧痕かヘラ削り調整が認められる。外面はハケ目調整かヘラ磨き調整が認められる。476・473はその形態からみて壺の底部であろう。

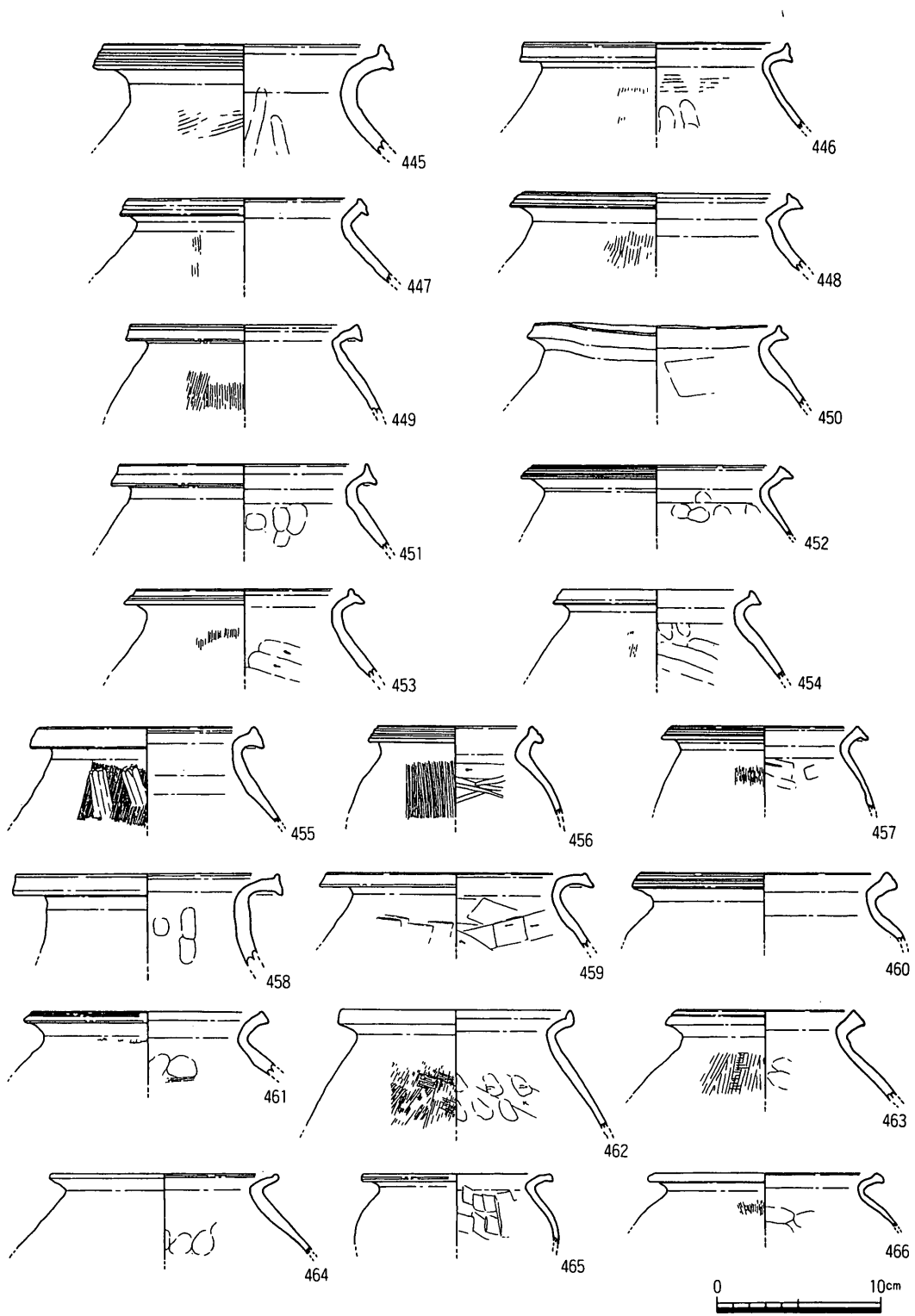
484～499は高杯である。484～488は杯部である。丸みを帯び、端部に面のある屈曲する短い口縁部をもつもの（484・486・487）と斜め上方へ直線的に開き、端部に面のある屈曲する短い口縁部をもつもの（485）、それとほぼ真横に直線的に開き、端部がシャープに外反する口縁部をもつもの（488）とがある。489～493・494～499は脚部である。杯部との接合部からまっすぐにおり、大きく外反するもの（489）と接合部から斜めに開き、端部を方形にまとめるもの（490～492）、それと斜めに開き端部を肥厚させて退化凹線文を施すもの（494～499）がある。端部を丸く収めるもの（493）もある。半分以上の割合で円孔が認められる。3個セットを数ヶ所に配するもの（491）、2個セットで上段3ヶ所、下段4ヶ所に配するもの（493）もある。500は高杯の杯部である。欠損しているため全体の形状は不明である。内面に点と線を赤色顔料で描いている。武庫川女子大の安田博幸教授の分析によると、この赤色顔料の主成分は酸化第二鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）である<sup>(5)</sup>。



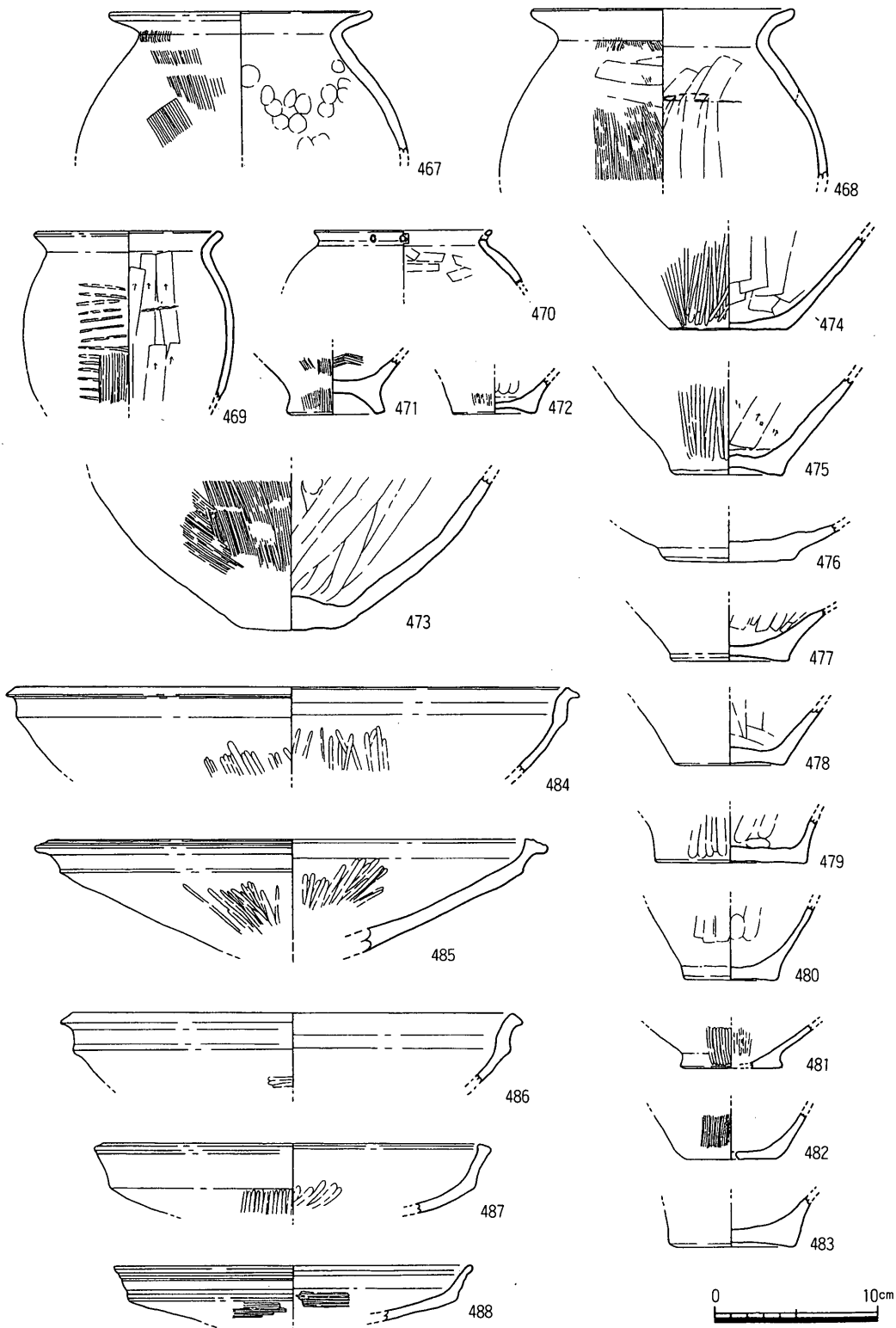
第100图 SR04出土遺物実測図(1)



第101图 SR04出土遗物实测图(2)

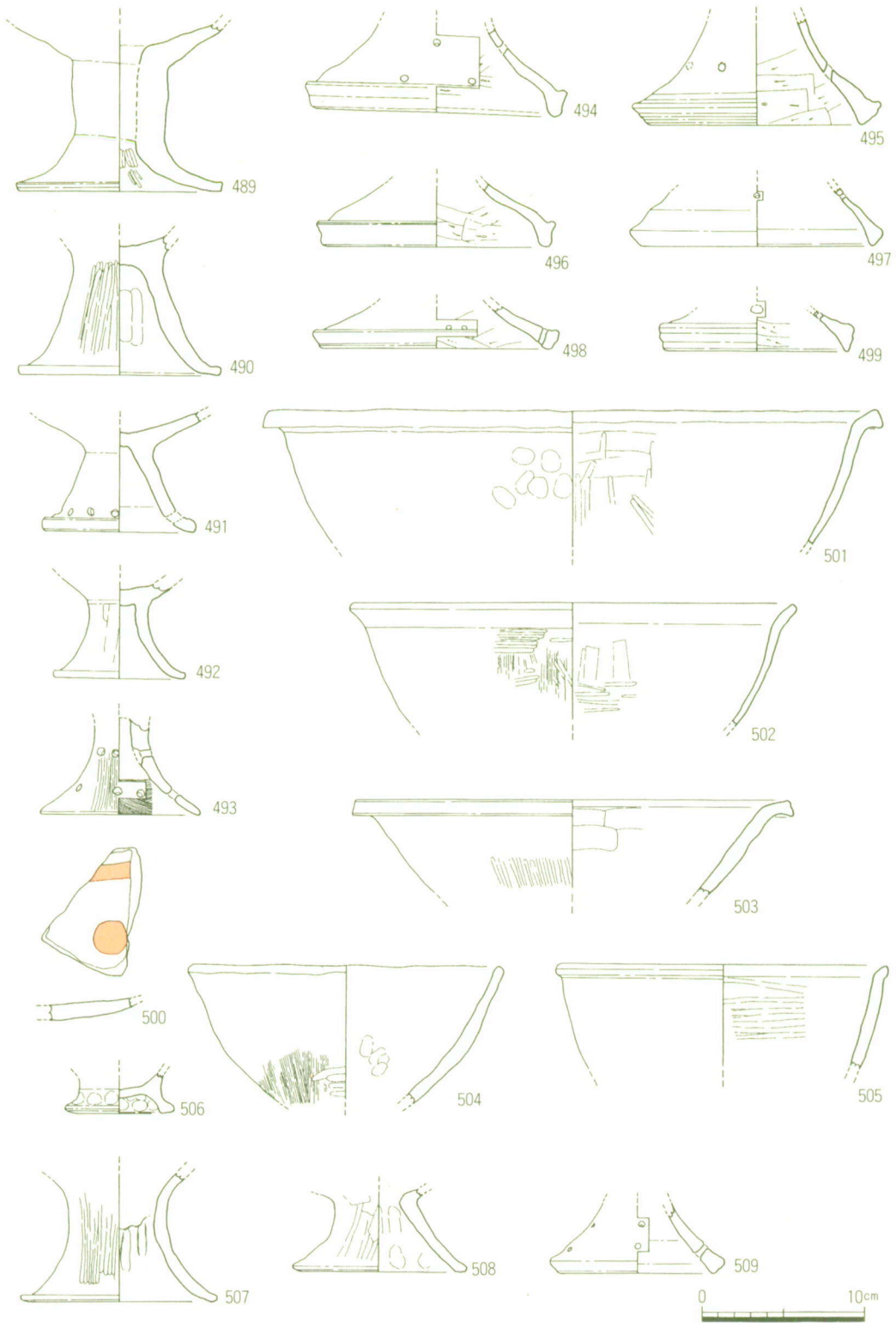


第102图 SR04出土遺物実測图(3)

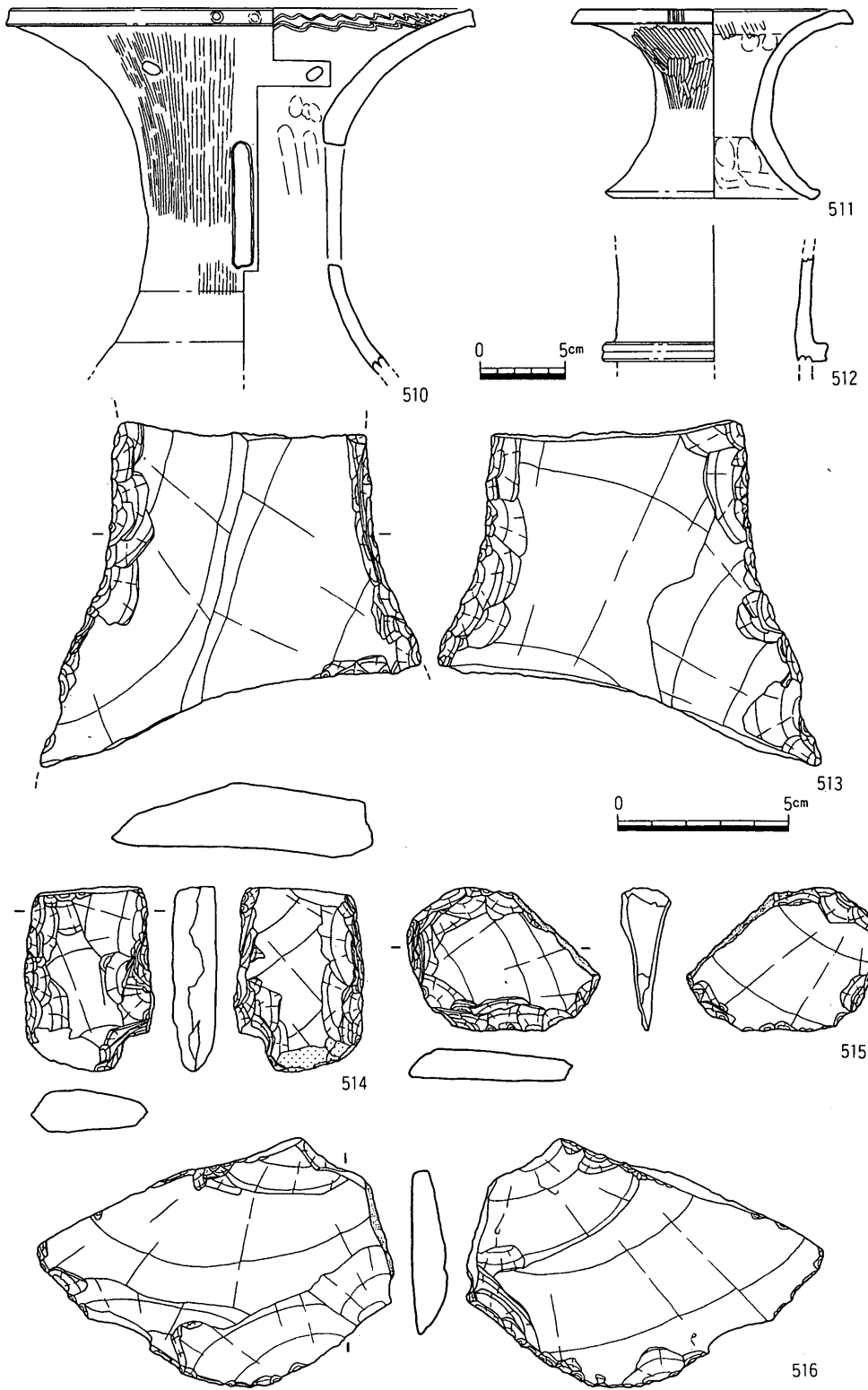


第103图 SR04出土遺物実測図(4)

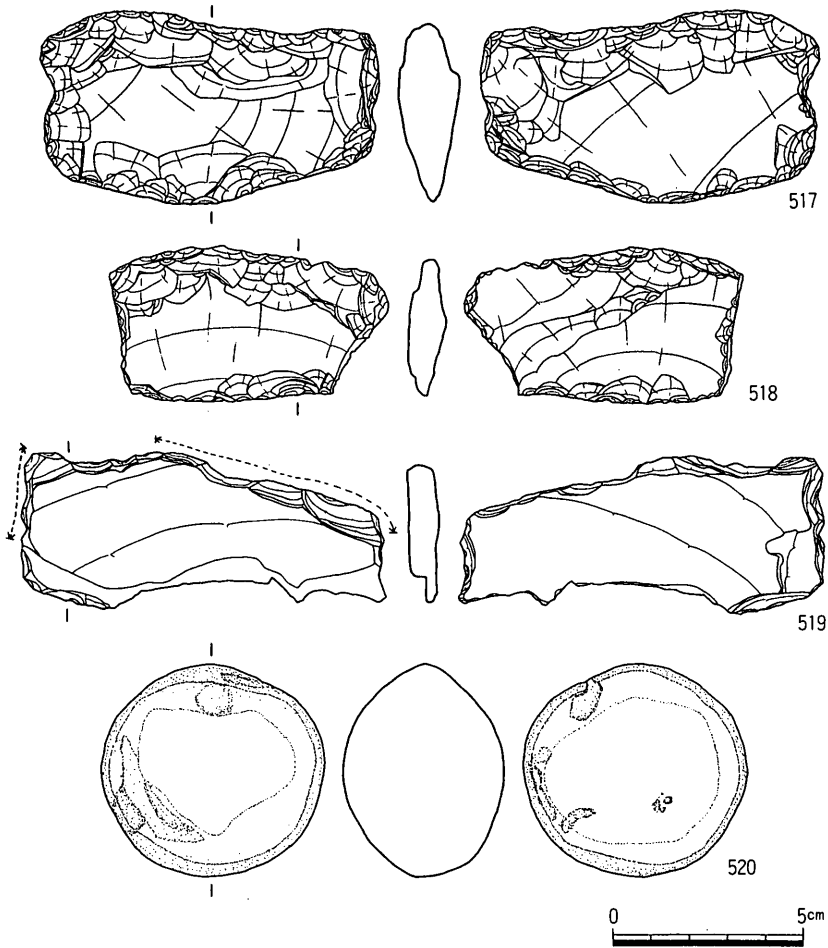




第104図 SR04出土遺物実測図(5)



第105图 SR04出土遺物実測図(6)



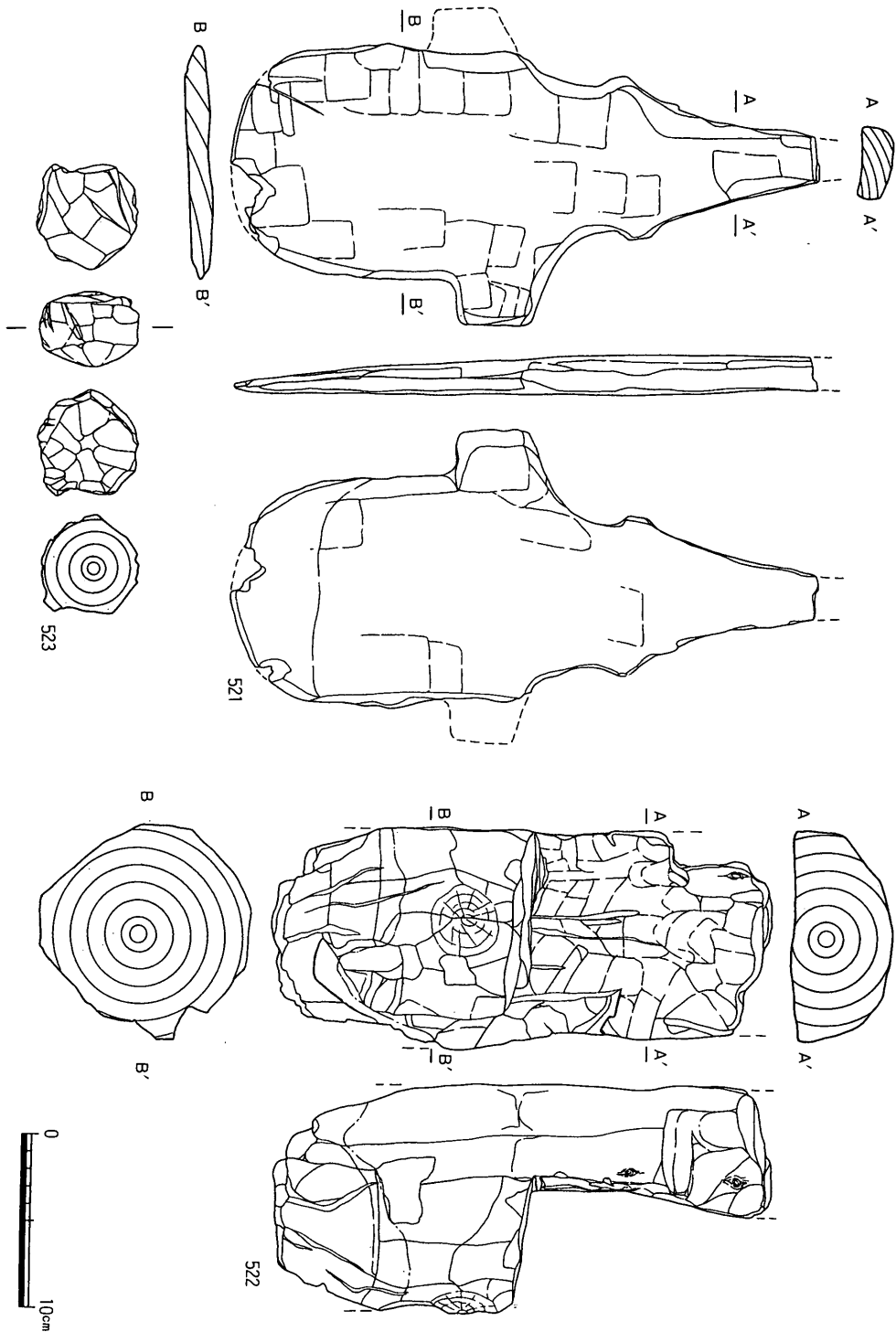
第106図 SR04出土遺物実測図(7)

501～505は鉢である。口縁部がわずかに外反するもの（501・502・503・505）とそうでないもの（504）に大別される。短い口縁部には端部が若干肥厚するものと丸く収めるものがある。503は法量がやや小さい。506は脚付鉢の脚部であると思われる。

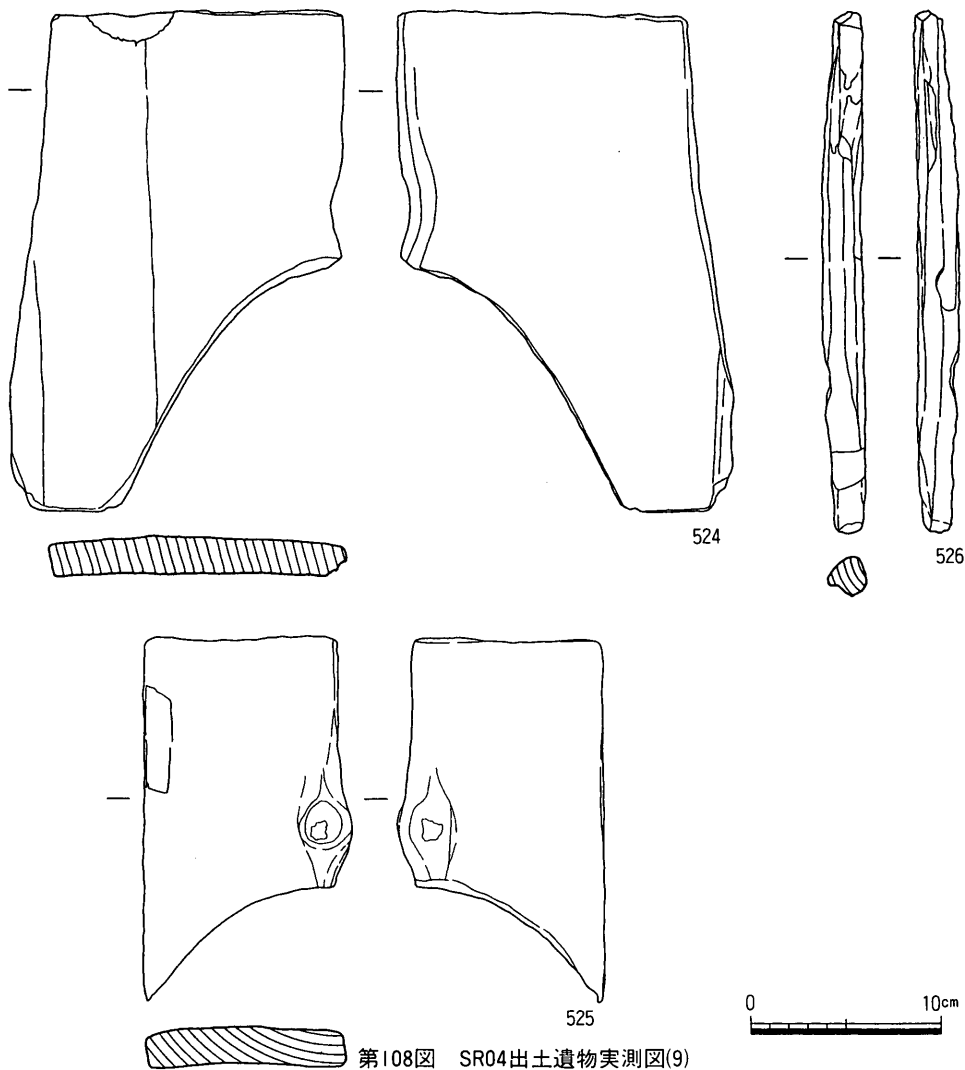
507～511は器台である。小型のもの（507～509）と大型のもの（510）がある。510は口径28cmを測る。外面には丁寧なハケ目調整を施し、長方形の透孔を4ヶ所に配する。口縁端部は強いナデ調整により方形にまとめ、透孔と同じところに竹管文を配する。透孔と透孔の間の頸部に円孔がある。また、口縁部内面には2条の波状文が施文されている。

512は壺の頸部であると思われる。断面方形の突帯が巡っている。

第105図513～第106図520はI地区で検出したSR04から出土した石器である。513はサヌカイト製の石鋏である。514は小型の打製石斧である。515・516はスクレイパーである。518・519



第107图 SR04出土遗物实测图(8)

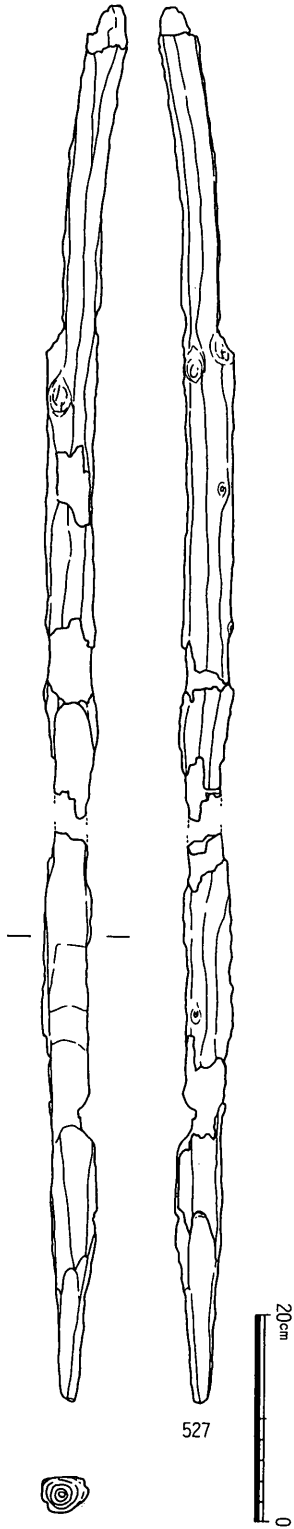


は石庖丁である。両側に抉りが認められる。519は結晶片岩製である。519は磨石である。全面に使用した痕跡が顕著に認められる。

第107図521～第109図527は木器である。521は平鋏である。柄を装着する孔が見られないことから曲柄平鋏であろう。刃部の上部両側に鉄製の刃部を装着するための方形の突起が付いている。522は梯子と考えられる木製品である。欠損しているため、全体の大きさ等は不明である。残存している部分の下半部には炭化している部分が認められ、何らかの原因により焼けてしまい、その機能を失ったものと思われる。523は用途不明の木製品である。その形態から仮に独楽状木製品と呼んでおく。木材を円盤状に切った後、一方を中心を残

すように外側から削っており，あたかも独楽のような形態を示す。524・525は板状を呈する木製品である。いずれも下半部が弧状を呈しているが，用途等は不明である。526は加工痕のある木製品である。527は杭であると思われる。途中が欠損しているが全長約1.4mを測る。枝を利用し，細い枝を切り落とし先端は尖らせている。

- (5) 本書第4章第3節「太田下・須川遺跡の出土土器にかかわる赤色顔料物質の微量化学分析」安田博幸・金杉直子



第109图 SR04出土遗物实测图(10)

## 包含層の遺物 (第110図～115図)

第110図～第115図は包含層から出土した遺物のうち、弥生時代およびそれ以前のものと思われるものである。

第110図528～530は弥生土器の甕である。如意状口縁をもつもの(528)や逆L字形の口縁をもつもの(529)があり、弥生時代前期のものと思われる。

531～533は壺である。口縁端部を肥厚させ、円形浮文を施すもの(531)や大きくラップ状に広がる口縁部をもつもの(533)がある。532は算盤玉状の体部をもち、上方へ拡張する口縁端部をもつ。

534～537は甕である。いずれも「く」の字状に屈曲する頸部をもち、口縁端部を上方へ拡張するもの(534・536)や上下両方へ拡張するもの(535)、拡張しないもの(537)がある。537の外面にはタタキ調整が顕著に認められる。

538～542は高杯である。543・544は鉢である。543は底部から直線的に立ち上がり、鋭く内傾する口縁部をもつ。

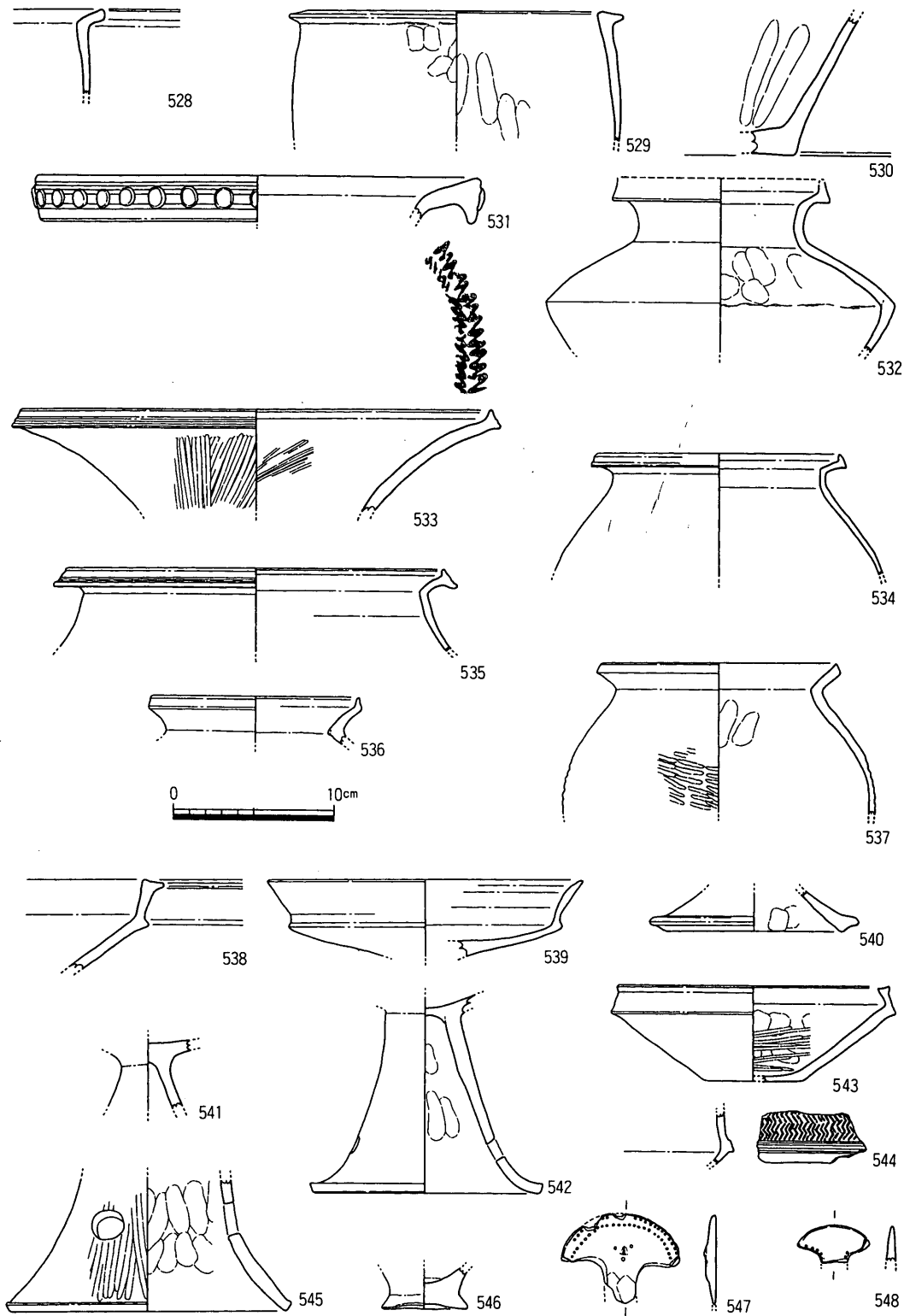
545は大型の器台の脚部である。546は製塩土器の底部と思われる部分である。

547・548はC地区の包含層から出土した分銅形土製品である。いずれも下半部が欠損している。547の表面には人面の装飾があり目・口・鼻が小穴および突起として表現されている。いずれも裏面には外形に沿って列点文が認められる。

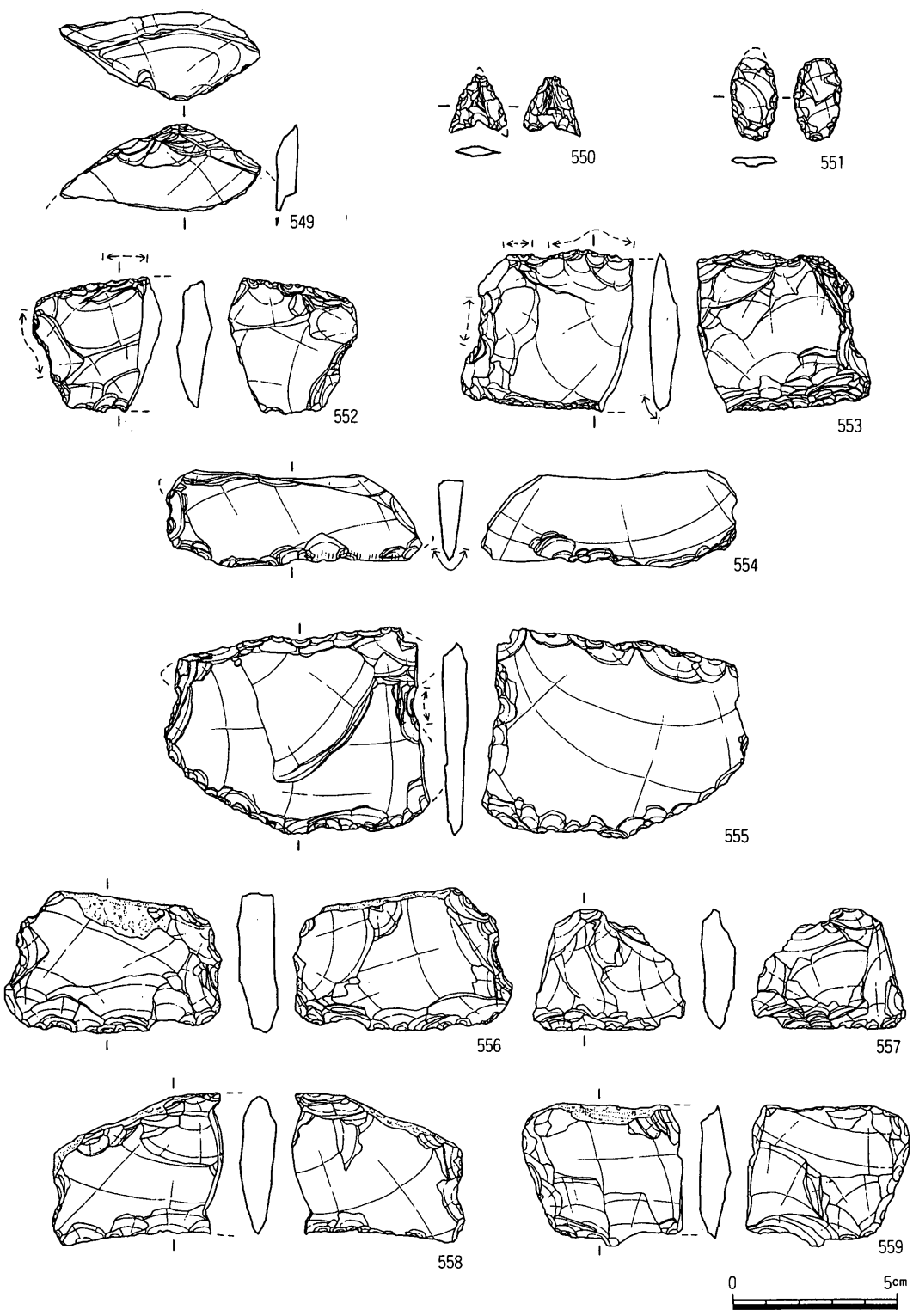
第111図～第115図は石器である。第111図549はサヌカイト製の横長剝片である。

550・551は石鏃である。552～第112図565は石庖丁である。560・565は結晶片岩製であり、これ以外はすべてサヌカイト製である。566はサヌカイト製の石鋏であり、567～第113図573は打製石斧である。第113図574～第114図576・578はサヌカイト製の削器である。第114図577・580は楔形石器である。579は石鎌と思われるサヌカイト製の石器である。柄に固定する袂りと屈曲部をもつ。第114図582はその形態から石錘であると思われる。581と第115図584は砥石である。いずれも使用痕が顕著に認められ、その部位等からみて581は手に持って使用したもので、584は下に置いて使用したものである。第115図586は安山岩製の敲石である。上部と下部に敲いた痕跡が認められる。

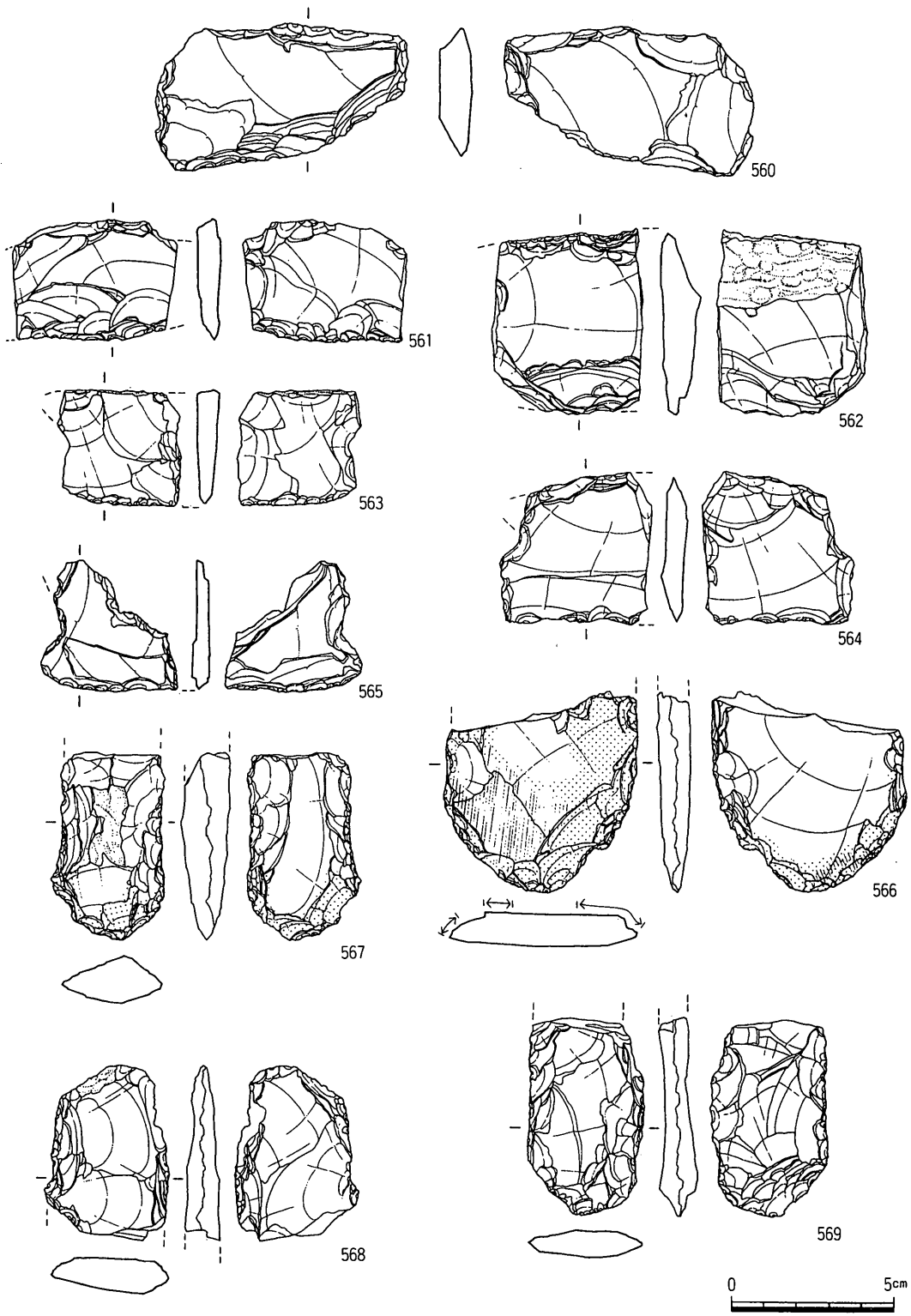




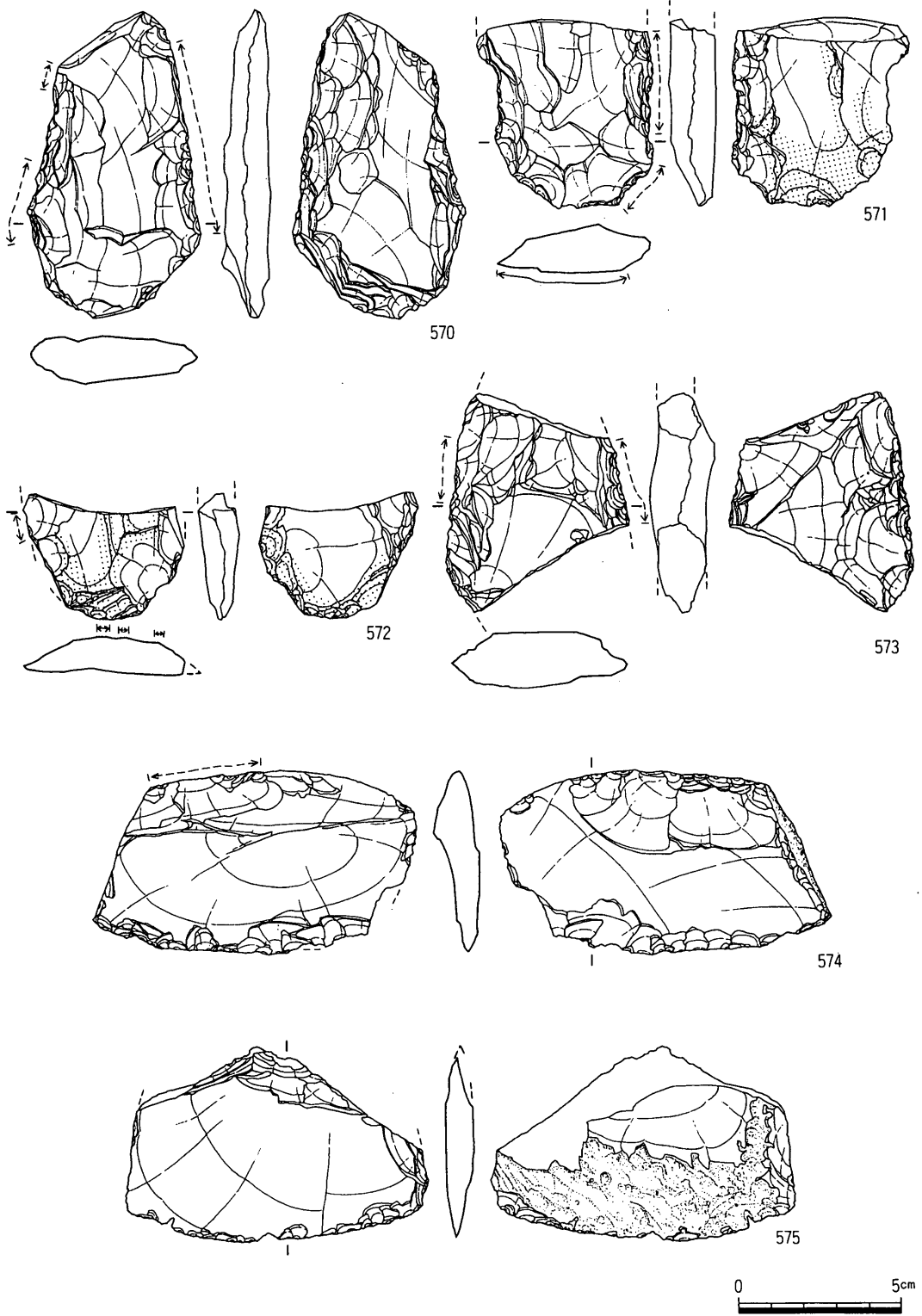
第110图 包含層出土遺物実測図(1)



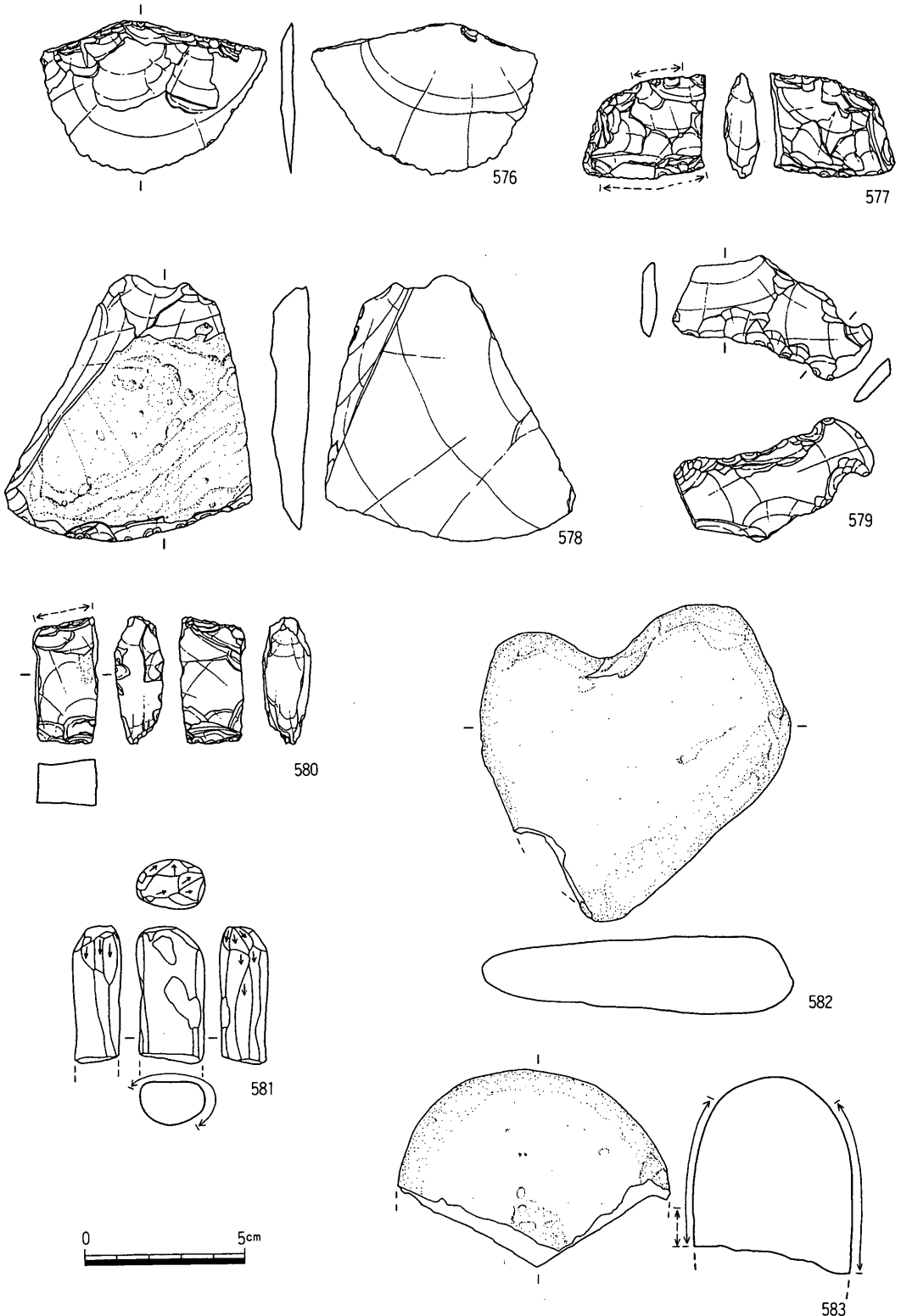
第111图 包含層出土遺物実測図(2)



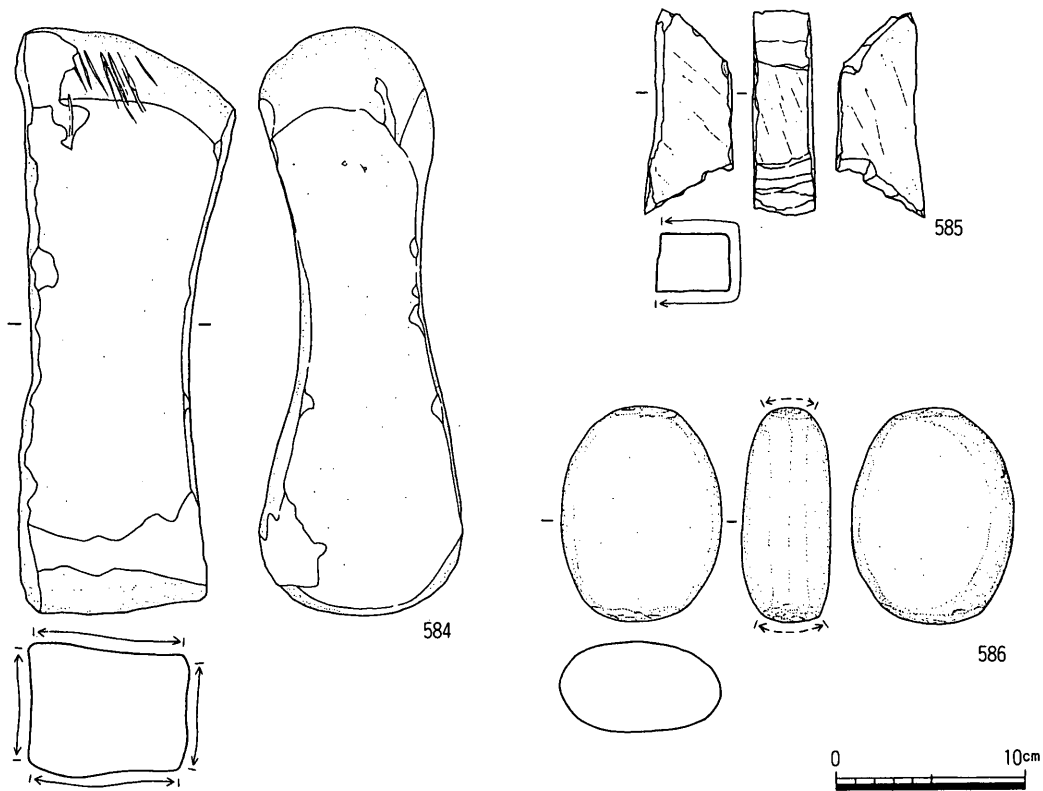
第112図 包含層出土遺物実測図(3)



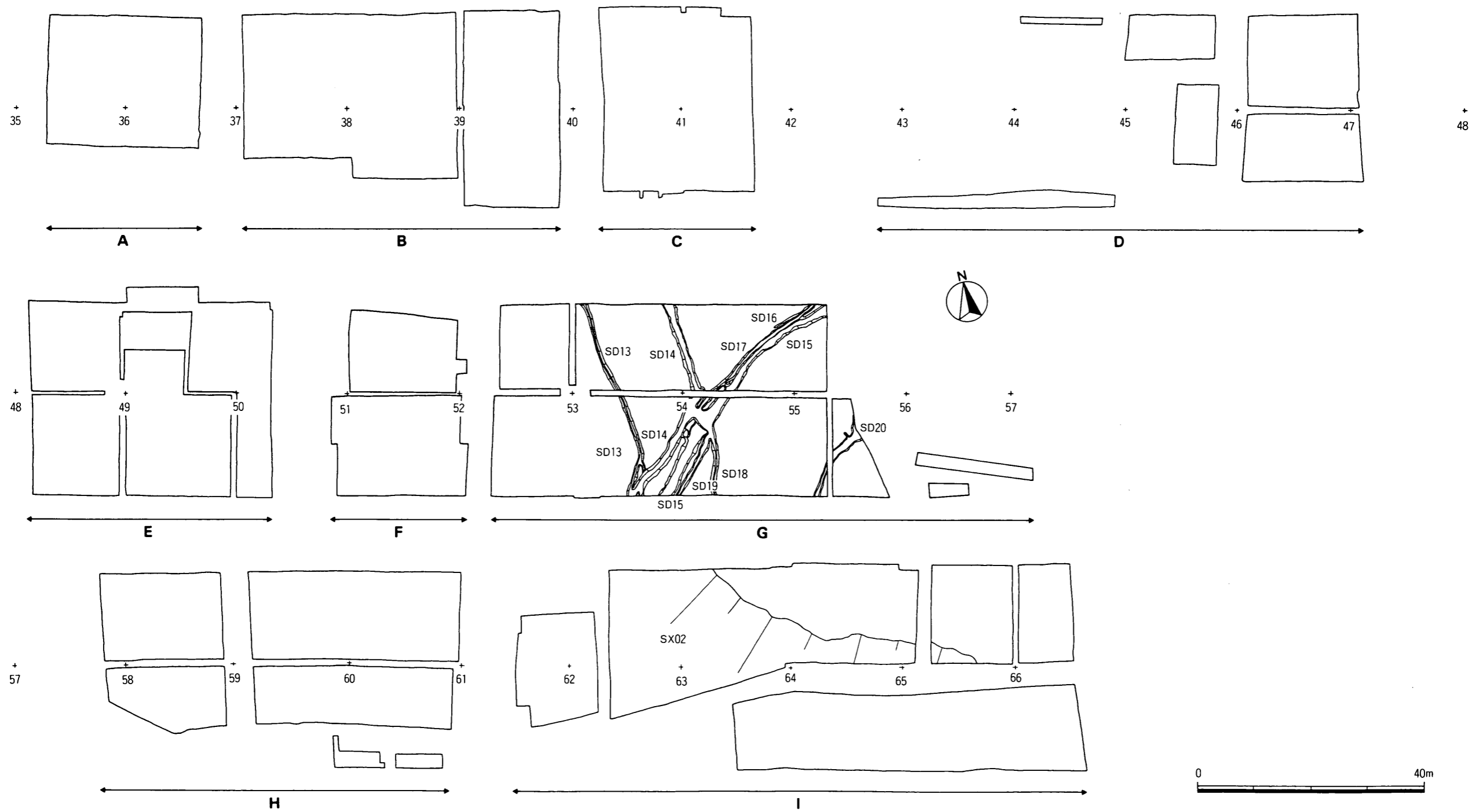
第113图 包含装出土遺物実測図(4)



第114図 包含層出土遺物実測図(5)



第115図 包含層出土遺物実測図(6)



第116図 弥生～古墳時代遺構配置図

## 2. 弥生時代～古墳時代の遺構・遺物

ここでは、遺構の時代幅が比較的大きく、明確に区別できなかった弥生時代後期から古墳時代中期にかけての遺構を一括して報告する。

### S X 02 (第117～129図)

H・I地区に広範囲に広がる巨大な湿地状の遺構である。S R 03・04の埋没後に堆積したと考えられる粘性の非常に強い黒色粘質土を埋土にもち、最も深いところで0.9mを測る。緩やかに東から西にかけて傾斜し、おそらく沼地の様相を呈していたものと思われる。

埋土中からは、弥生土器・石器・土師器・須恵器等が多少混乱した状態で出土し、多量の植物遺体を包含していた。(第116図)

第117図～第124図はH地区で検出したS X 02から出土した遺物である。

587～606は弥生土器の壺である。口縁部は頸部から大きく外方へ開くタイプのもの(587～592・593～598)とやや直立気味に立ち上がるもの(599～601)とがある。前者には口縁端部を下方へ拡張するもの(587・588・591・597・598・605)、上方へ拡張するもの(590・593)、両方へ拡張するもの(589・594・595・596)がある。口縁端部には587・588・589のように刻目文を施すものや、591や592のように鋸歯文と竹管文を組み合わせたもの、593～596のように竹管文のみられるものがある。特に、593には口縁部内面にも竹管文が認められる。後者には端部を方形にはまとめるもの(599)と丸く収めるもの(600・601)とがある。602～604・606は頸部である。602・603・606は断面三角形の突帯が巡る。604は頸部に竹管文を配する。

607～634は弥生土器の甕である。口縁部はすべて短く外方へ屈曲する。端部は上下両方へ拡張させるもの(607～626)とそうでないもの(631・632)に分かれる。残存状況が悪いため調整のはっきりしているものが少ないが、外面にはハケ目調整が多い。内面には指頭圧痕やハケ目調整が若干みられる。633・634は、球状を呈する胴部から「く」の字状に外反し、端部を丸く収める口縁部をもつ。

635～650は弥生土器の高杯である。杯部は、丸みを帯び、端部に面をもつ屈曲する短い口縁部(635)やほぼ真横に開き、上面に面をもつ屈曲する短い口縁部(636～639・642)、それにやや長めに外反し、端部を丸く収める口縁部(640)がある。また、641のように杯部が鋭く屈曲し外反する口縁部をもつものもある。脚部は杯部との接合部からまっすぐにおり、外反するもの(650・652)と接合部から斜めに開き、端部を方形にまとめるもの(643・



649), それと斜めに開き端部を肥厚させて退化凹線文を施すもの(644~647)がある。また, 648のように口縁端部が反っているものもある。648は500と同じように内面に点と線を赤色顔料で描いている。武庫川女子大の安田博幸教授の分析によると, この赤色顔料の主成分も酸化第二鉄( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )である<sup>(6)</sup>。

653・654は弥生土器の鉢である。口縁端部を内側へ拡張させている。653には内面にヘラ磨きが認められる。

655~659は弥生土器の器台である。胴部が弧状を呈するもの(655・656・657)と筒状を呈するもの(658・659)がある。前者には円孔が認められ, 後者には長方形の透孔が認められる。

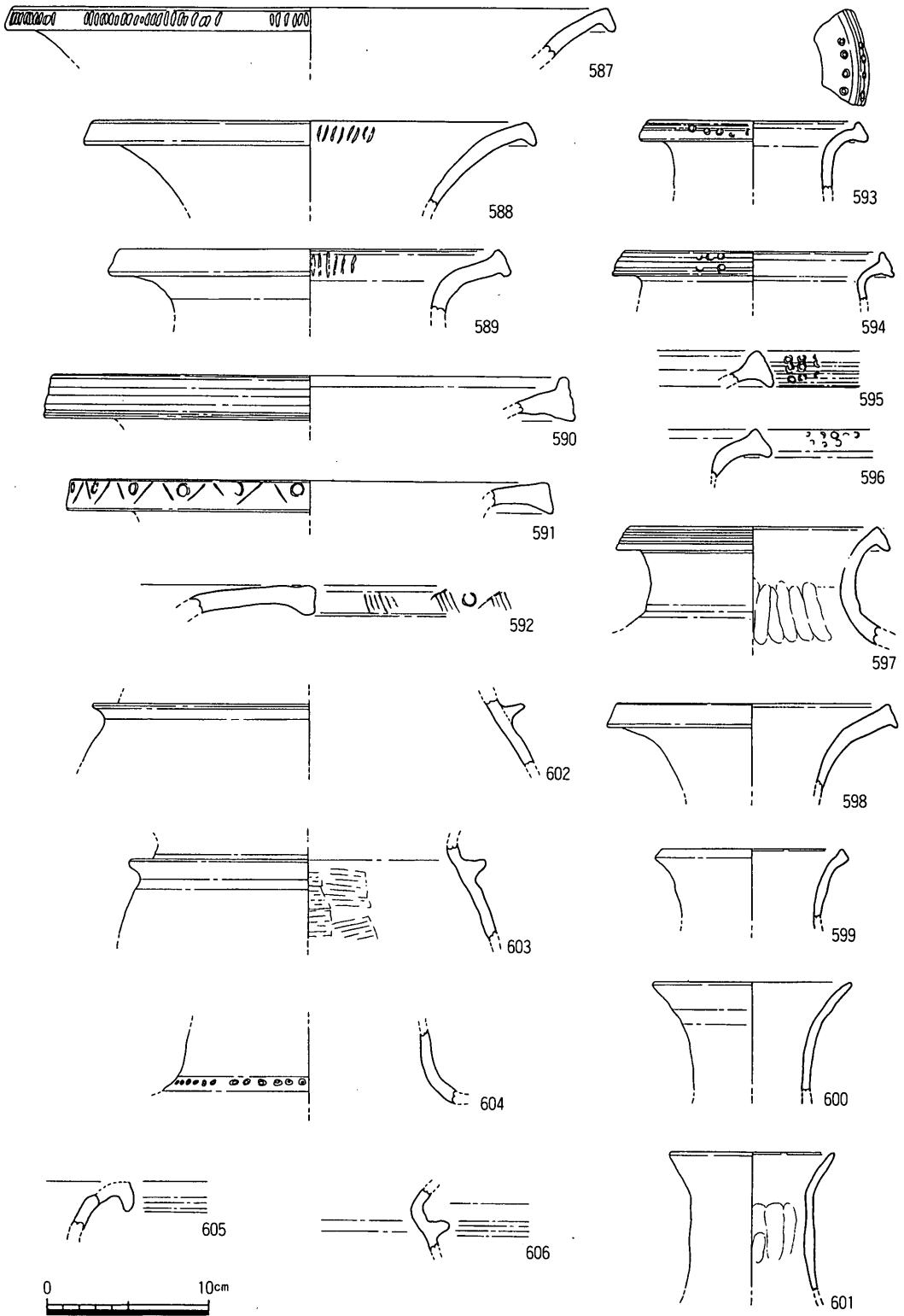
660~670は弥生土器の底部である。形態からみて660・661・662・664は壺の底部であると思われる。その他は甕の底部であると思われる。

671~第123図692はH地区で検出したSX02から出土した石器である。671~676は打製石斧である。いずれもサヌカイト製である。677はスクレイパーである。やはりサヌカイト製である。678~681は打製石庖丁である。すべてサヌカイト製である。682~685はサヌカイト製の打製石鏃である。682・683は平基式, 684・685は凹基式である。686~689は敲石である。いずれも粗い砂岩製である。690は砥石である。砂岩製である。四面いずれにも使用した痕跡が認められる。691は安山岩製の石器である。用途等は不明である。692は砂岩製の石器である。表面に擦痕が縦方向に数条認められる。用途等は不明である。

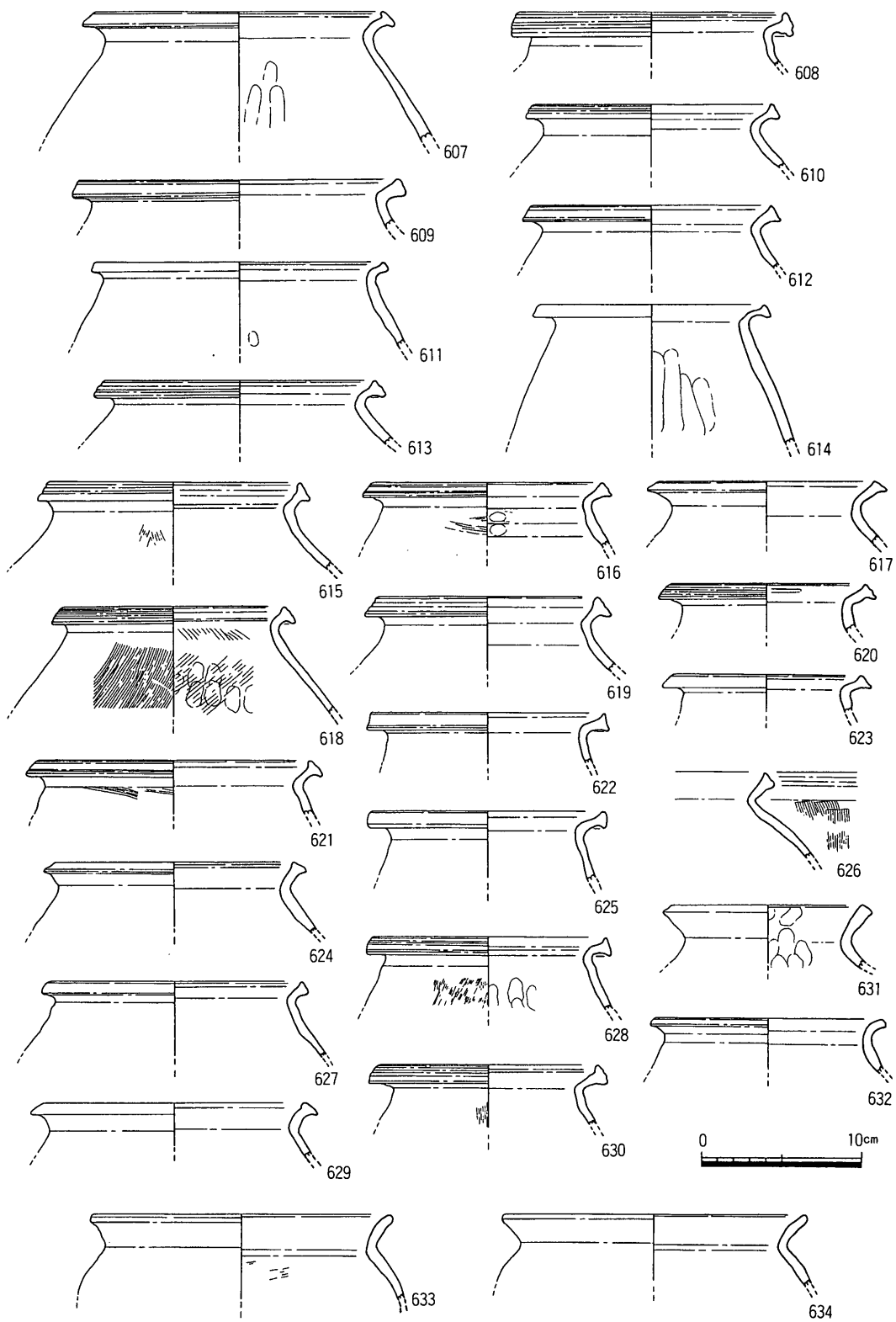
693は金属器である。器種は刀子であると思われる。若干欠損しているが全長約17cmである。刃部と背部との区別はつくが, 錆化がひどく詳細は不明である。

第124図694は木器である。形状からみて曲物の蓋であると思われる。端の方に2ヶ所の円孔があり, それを通すような形で樹皮製の紐が通っている。おそらく, 側板を止めるための紐であると思われる。

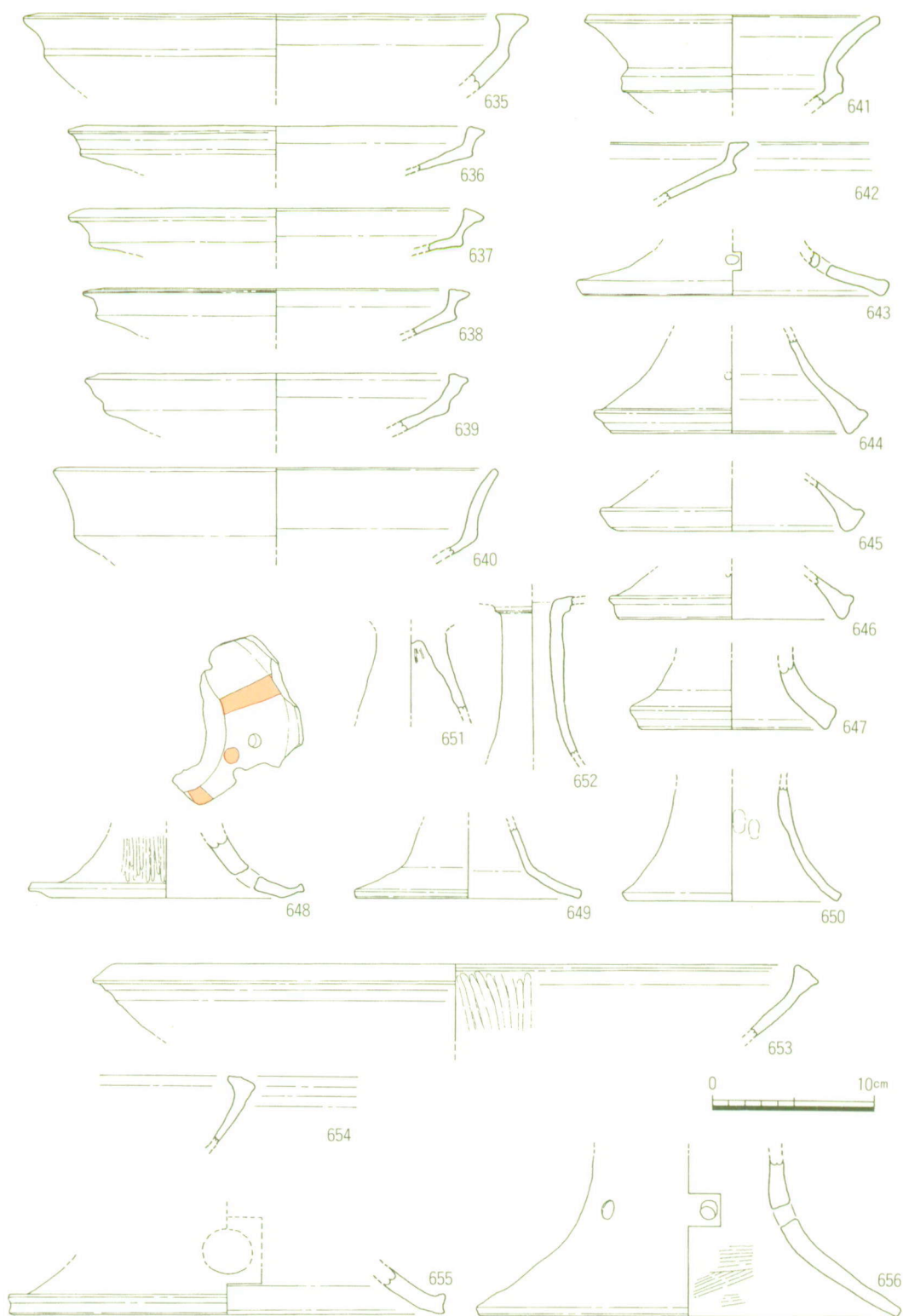
(6) 本書第4章第3節「太田下・須川遺跡の出土土器にかかわる赤色顔料物質の微量化学分析」安田博幸・金杉直子



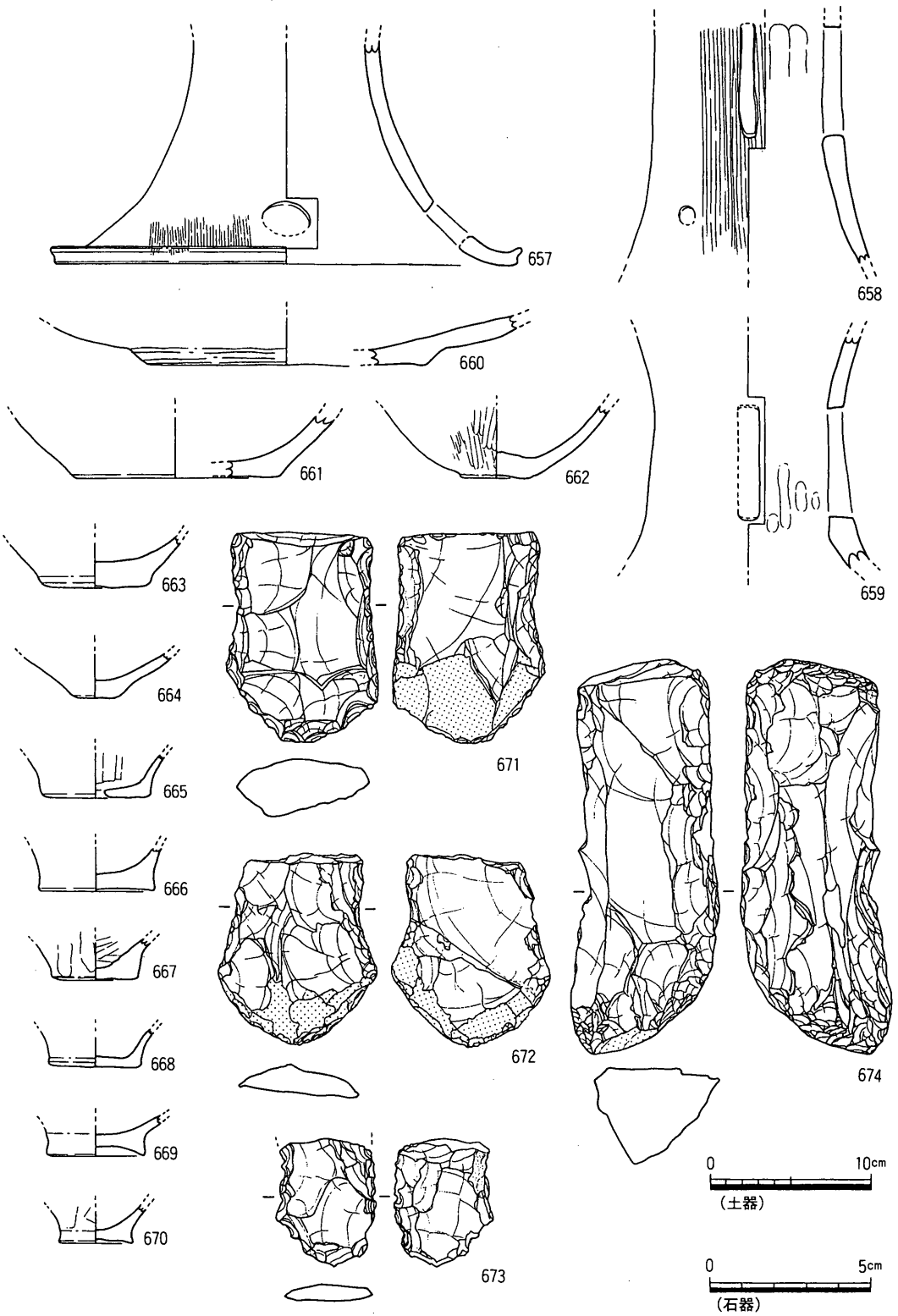
第117图 SX02出土遗物实测图(1)



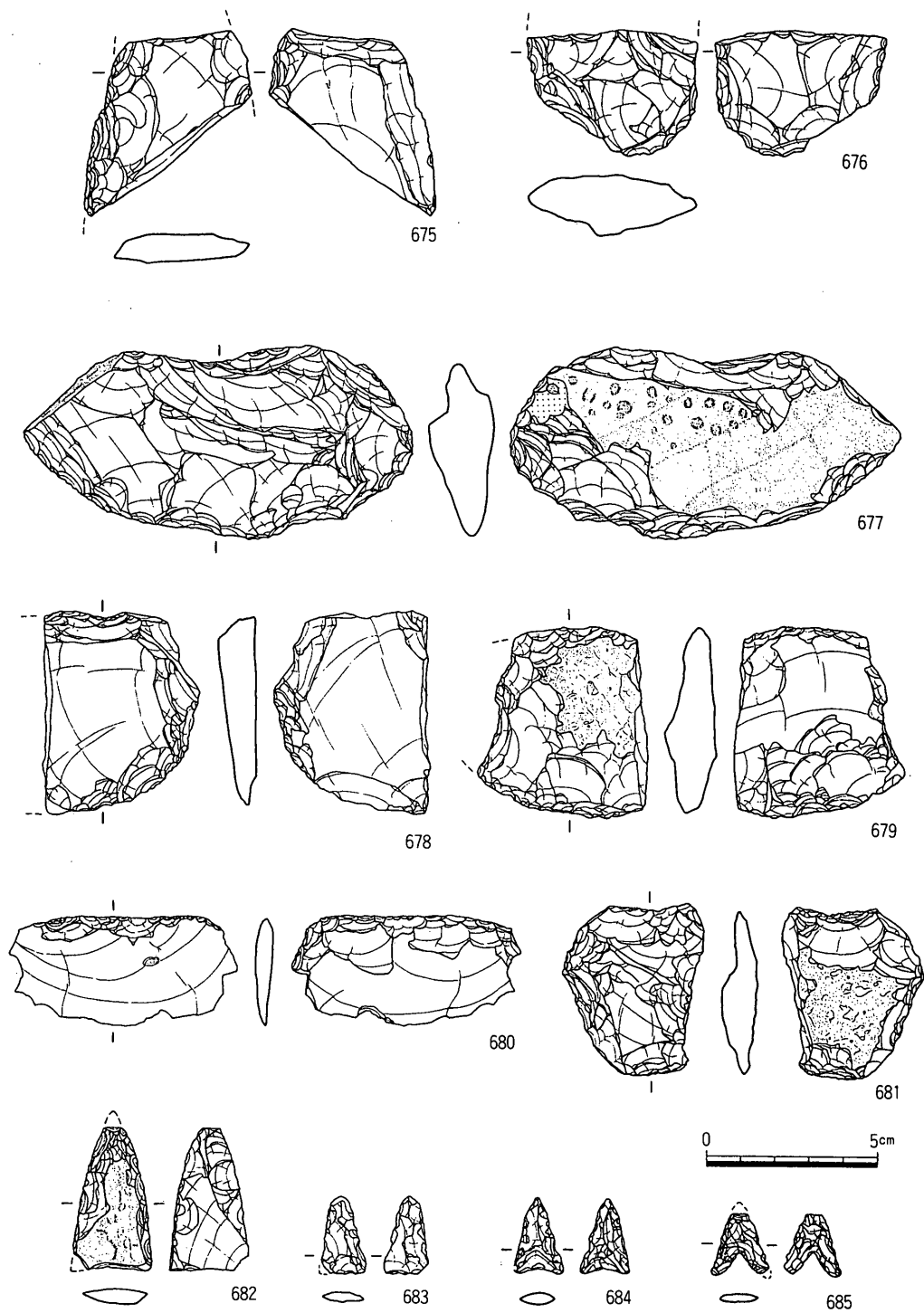
第118图 SX02出土遺物実測図(2)



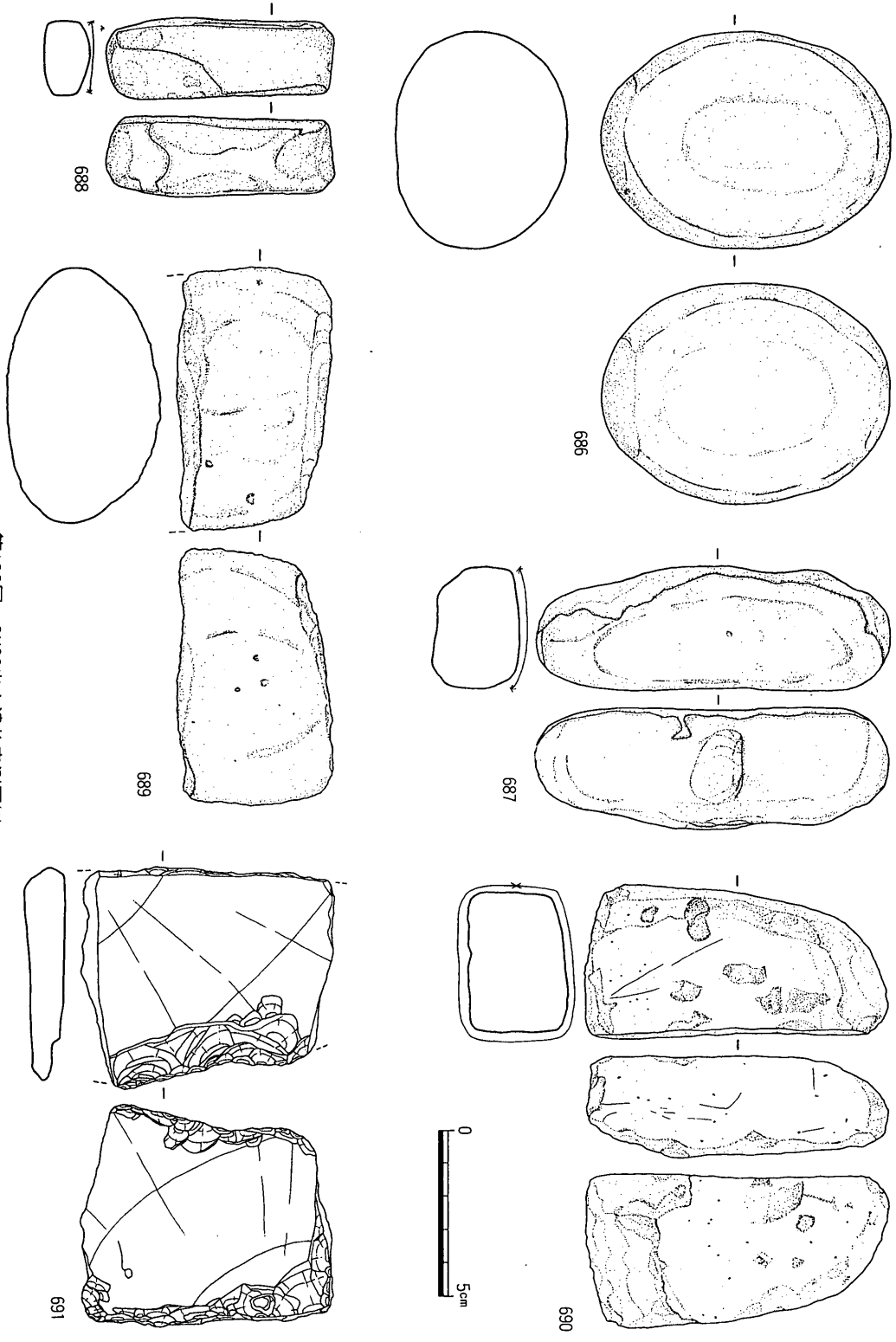
第119图 SX02出土遗物实测图(3)



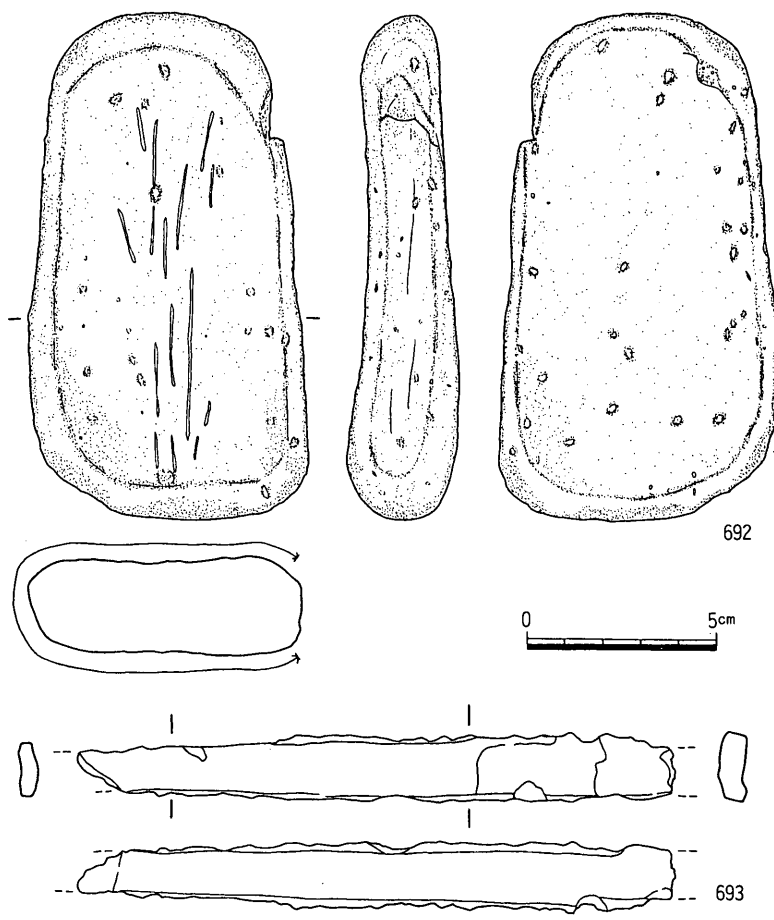
第120图 SX02出土遺物実測図(4)



第121图 SX02出土遗物实测图(5)



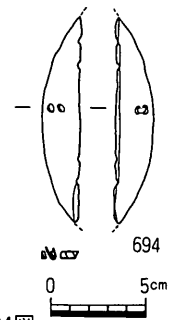
第122図 SX02出土遺物実測図(6)



第123図 SX02出土遺物実測図(7)

第125図～第129図はI地区で検出したSX02から出土した遺物である。

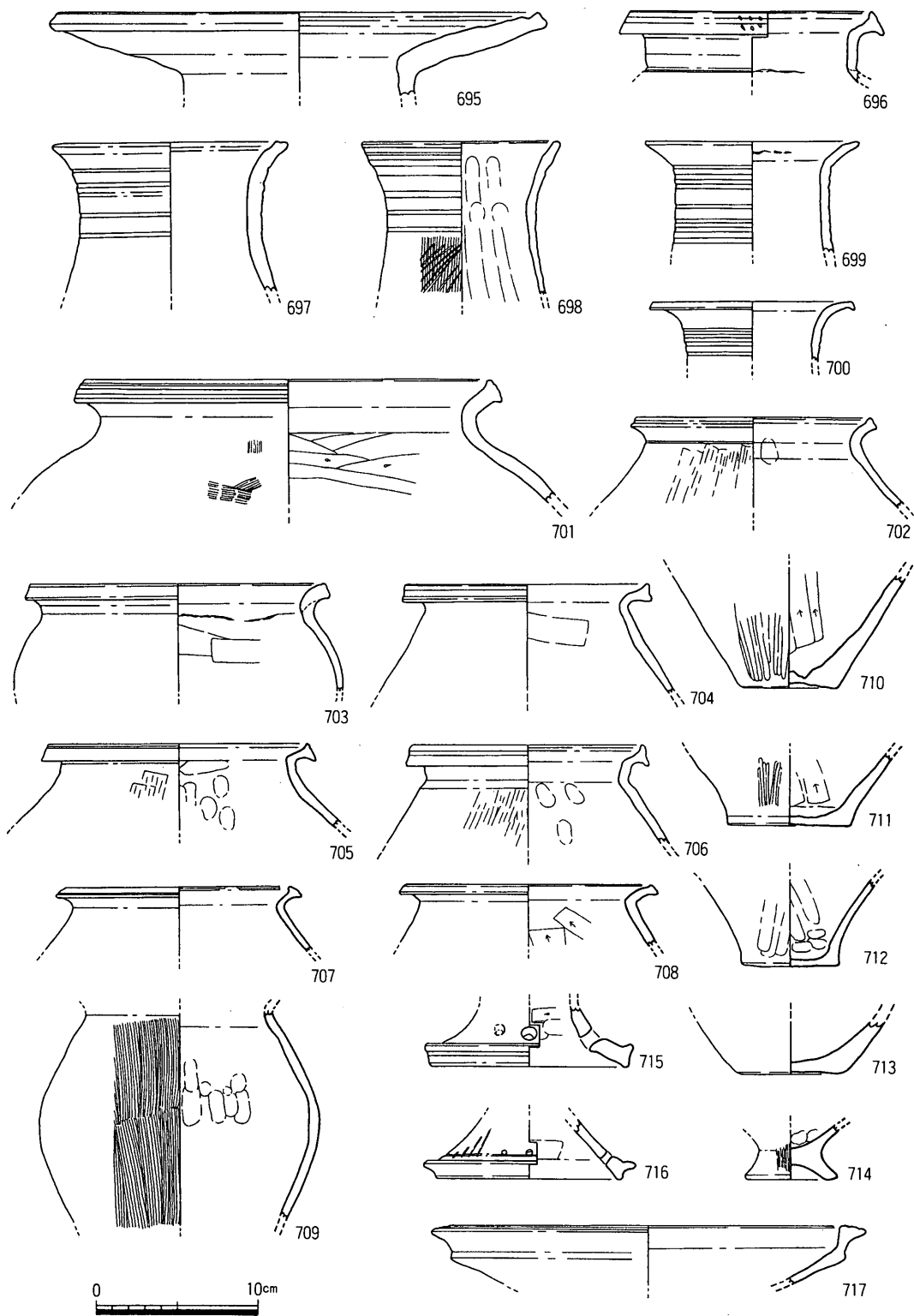
695～700は弥生土器の壺である。頸部からほぼ真横に拡張する大型の口縁部をもつもの(695)や口縁端部を上下両方へ拡張し、列点文を施文するもの(696)、それに頸部から外反しながら曲線的に口縁部に至り、頸部に凹線文のあるもの(697～700)がある。



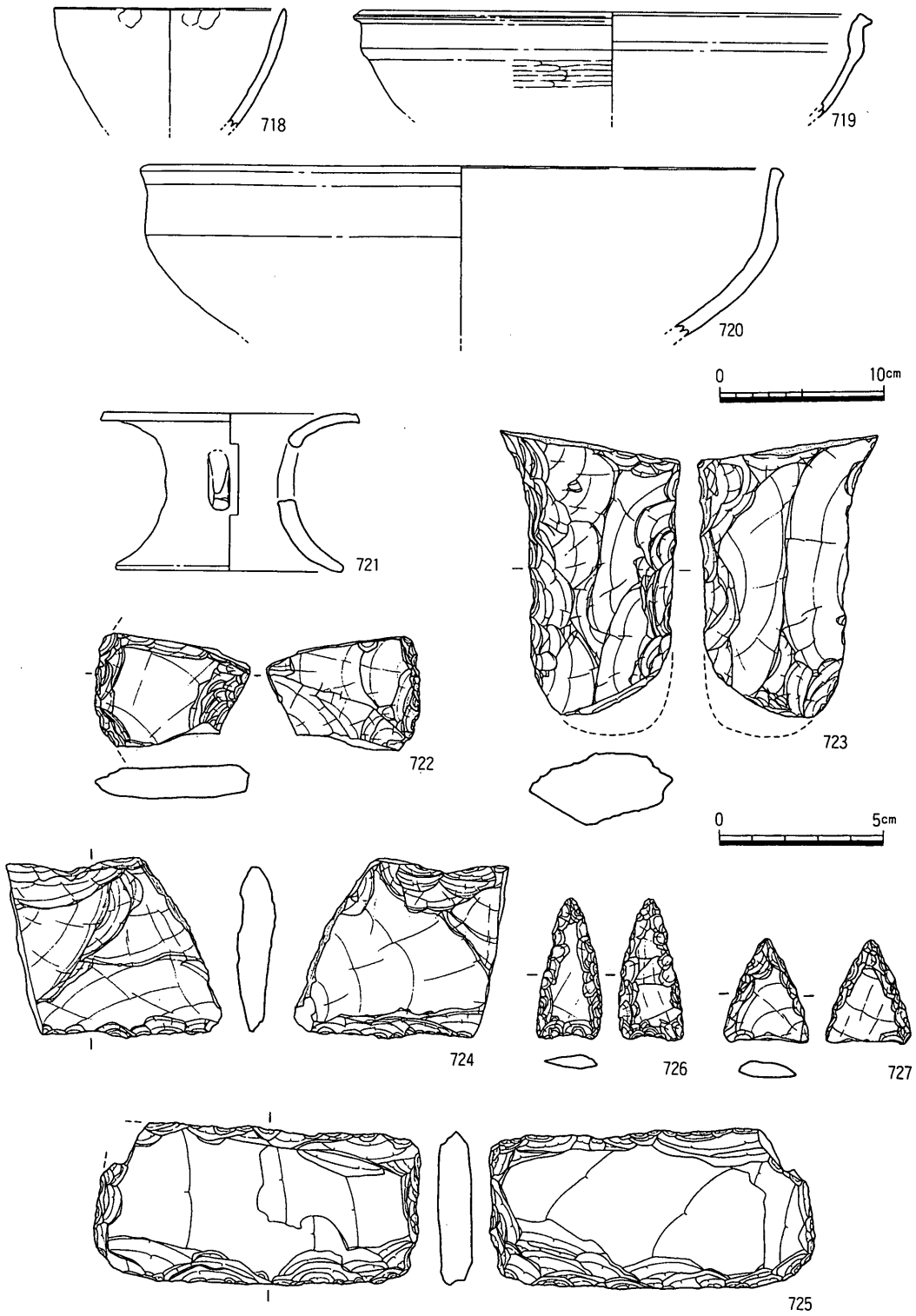
第124図 SX02出土遺物実測図(8)

701～709は弥生土器の甕である。701は球状に張った胴部から屈曲する短い口縁部をもつ大型の甕である。口縁端部は上下両方へわずかに拡張し、凹線文がみられる。その他には頸部が直線的にすぼまり、屈曲する口縁部をもつもの(702・704～708)と胴部が丸みを帯び、短く屈曲する口縁部をもつもの(703)がある。





第125图 SX02出土遗物实测图(9)



第126图 SX02出土遗物实测图(10)

710～713は弥生土器の底部である。形態からみて甕の口縁部であると思われる。

715～717は弥生土器の高杯である。脚部(715・716)は端部を外側に拡張し、2個セットの円孔がみられる。717は杯部である。直線的に開き、口縁端部に面をもつタイプのものである。

714・718～720は弥生土器の鉢である。714は脚付鉢の脚部もしくは製塩土器の底部であると思われる。鉢には若干細身で口縁端部をシャープに仕上げる718と丸みを帯びた胴部から屈曲する短い口縁部をもつ大型のもの(719・720)がある。

721は弥生土器の器台である。鼓形を呈し、中心のやや上よりの四ヶ所に長方形の透孔がある。

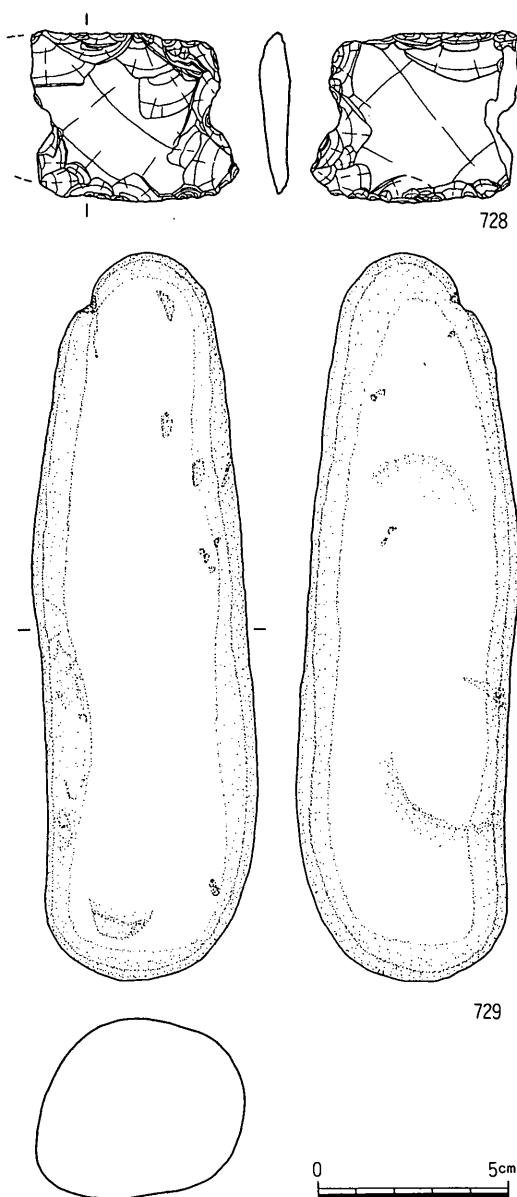
723～729は石器である。723～724は打製石斧である。いずれもサヌカイト製である。726・727は打製石鏃である。サヌカイト製で726は細長い平基式、727はやや扁平の平基式である。725は石庖丁である。結晶片岩製で両側にわずかに挟りがみられる。728はサヌカイト製の石庖丁である。両側に紐を掛ける挟りがみられる。

729は敲石である。砂岩製で上部に使用した痕跡が認められる。

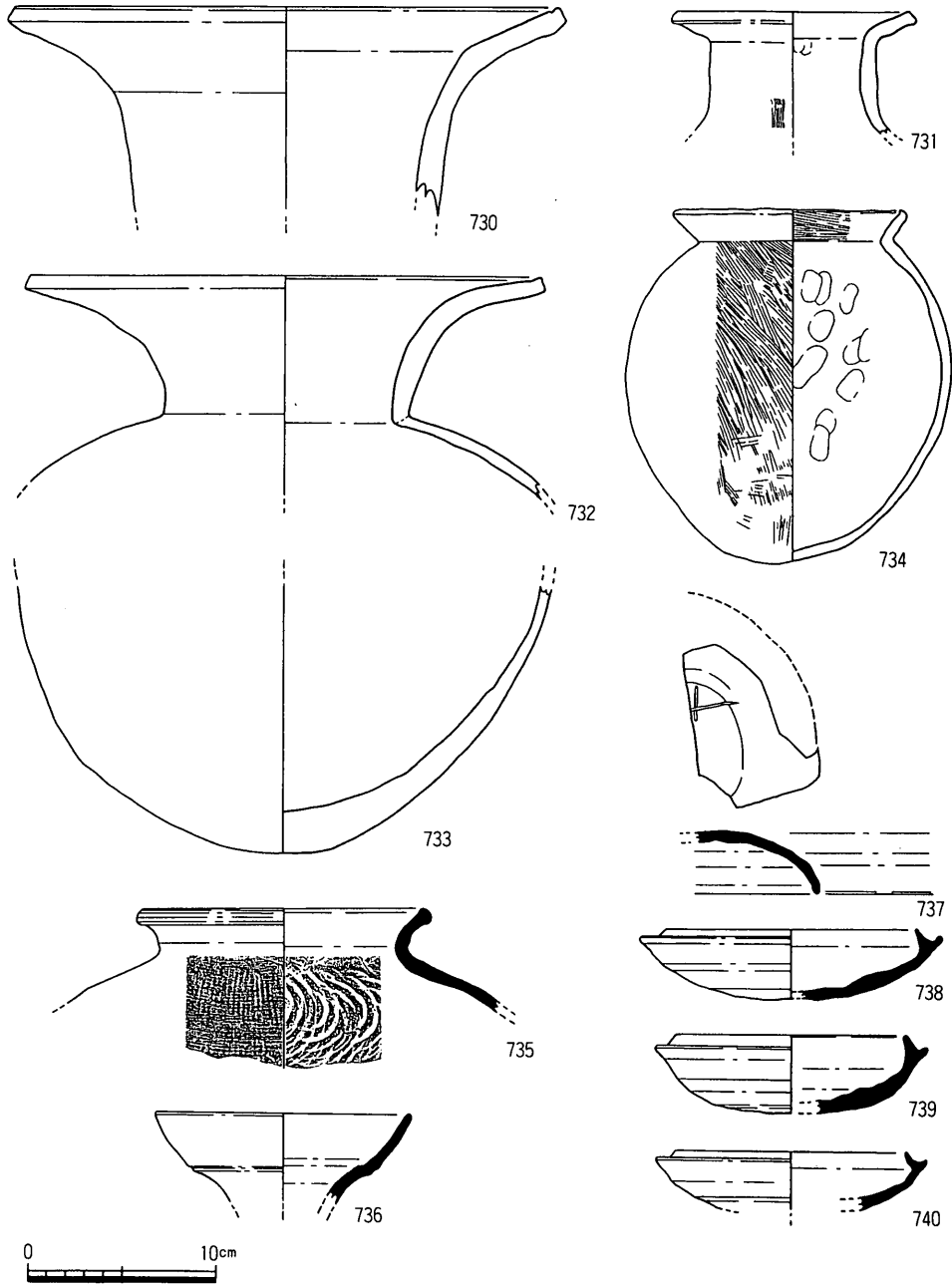
第128図は、古墳時代の遺物である。

730～733は土師器壺である。球状を呈する胴部をもち、朝顔状に開く口縁部をもつ。734は甕である。ほぼ球状の胴部に、「く」の字状に外反する口縁部をもつ。内面には指頭圧痕が顕著で外面には全体に斜め方向のハケ目調整がみられる。

735～740は須恵器である。735は甕の口縁部である。焼成が悪く黄灰白色を呈する。外面



第127図 SX02出土遺物実測図(II)



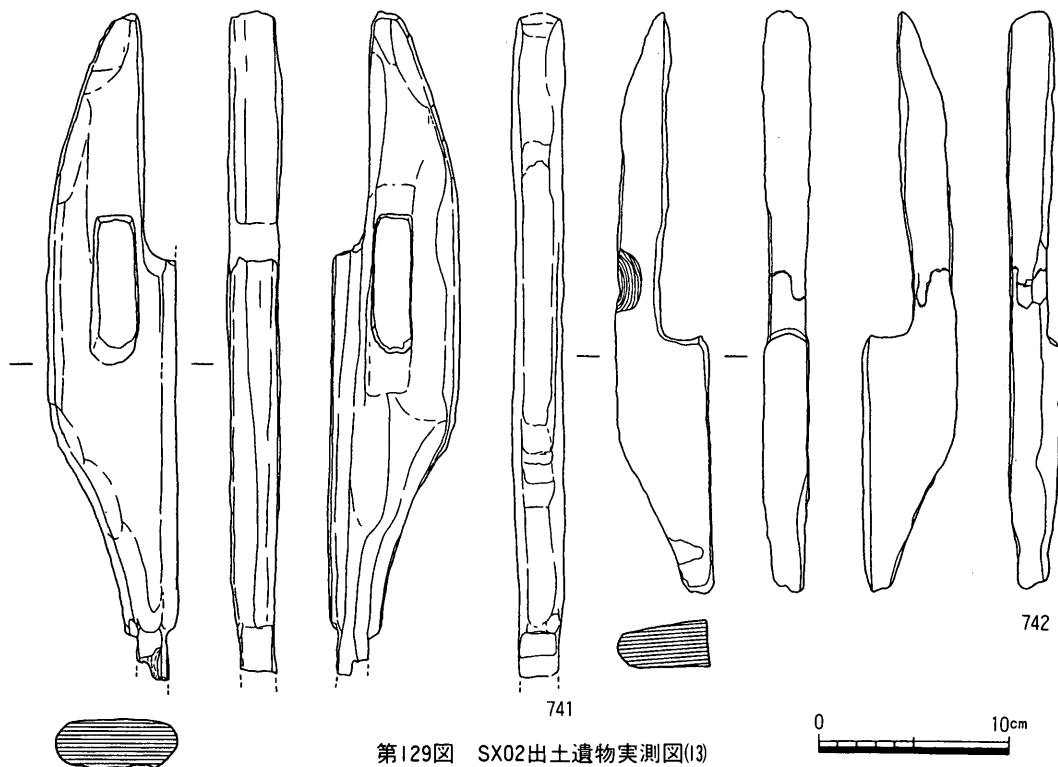
第128図 SX02出土遺物実測図(12)

には格子目のタタキ、内面には当て具の痕跡である青海波文が顕著である。736は小型の壺もしくは甕の口縁部である。外反気味に開く頸部と内彎する口縁部との境目に明瞭な段をもつ。737は杯蓋である。天井部外面に十字状のヘラ記号が認められる。738～740は杯身である。いずれも口径10cmを超えるものであり、受け部の立ち上がりが短

く内向し、端部は丸く収める。

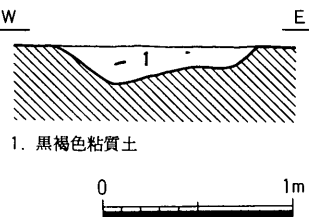
741・742は木器である。どちらも同じ種類のものであると思われる。長方形の孔が空いており、何かの柄もしくは把手であろう。材質は鑑定の結果、コウヤマキであることが指摘されている<sup>(7)</sup>。

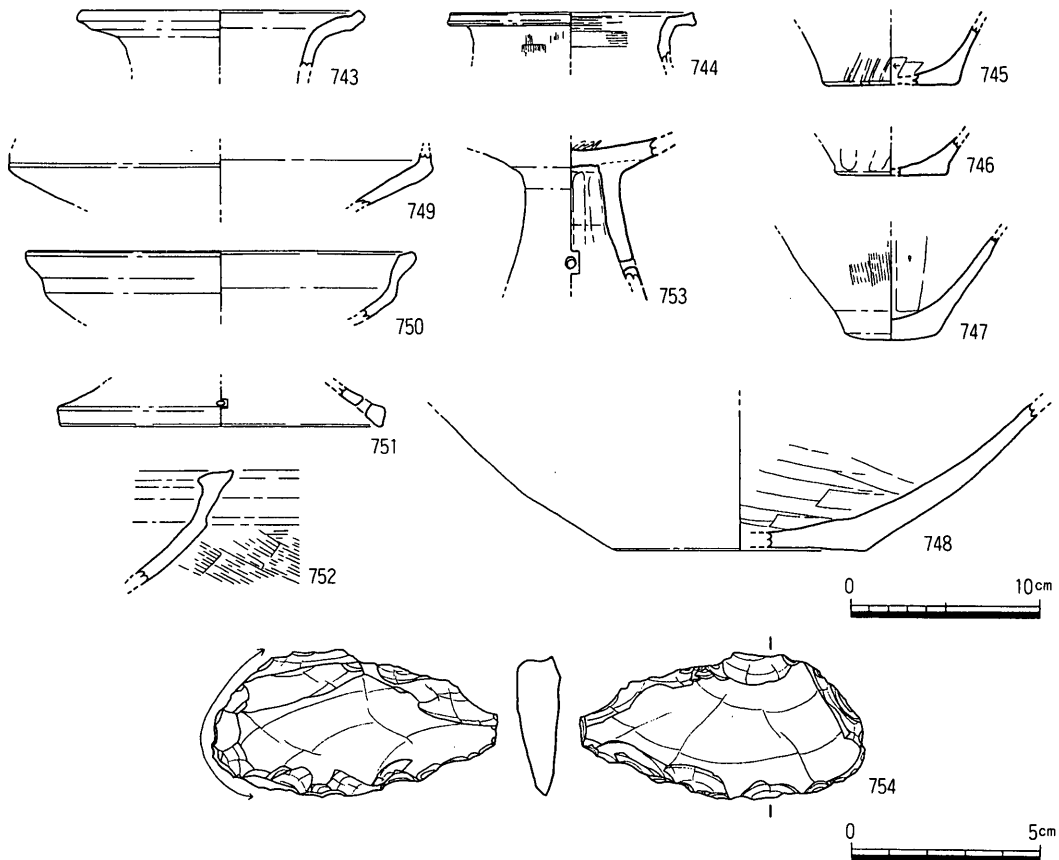
(7) 本書第4章第2節「太田下・須川遺跡から出土した木製品の樹種」パリーノ・サーヴェイ株式会社



SD 13 (第130~131図)

G地区 a-53中央南部より流れる溝状遺構で、a-53中央南隅でSD14から派生し、a-53中央部までは北東に向かって流れるが、SB19東側で向きをほぼ真北方向へ変え、そのままb-53北西隅へ流れていく溝状遺構である。幅は約1.0m、深さは0.2mである。埋土は黒褐色粘質土の単一層で、SD14、SD23、SD24と14.80m W E 方向がほぼ一致することからSD13もこれらの溝状遺構群と同じく古墳時代中期以後に埋没したものと思われるが、埋土中からは弥生土器が若干の須恵器や土師器に混じって出土している。このことからSD13は弥





第131図 SD13出土遺物実測図

生時代後期後半には既に機能していたものと考えられる。

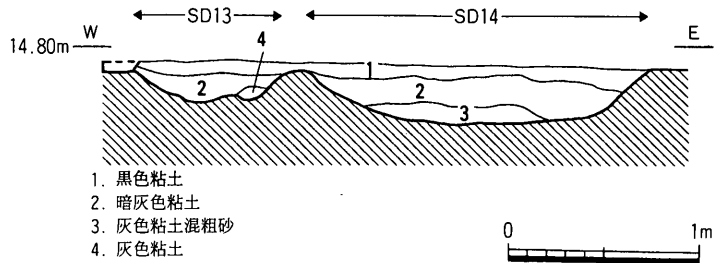
出土した土器は弥生土器・須恵器・土師器であるが、須恵器・土師器は細片ばかりで図化し得なかった（第131図）。

743は弥生土器の壺である。やや外反する頸部から大きく外方へ開き、端部は丸く収める。744は弥生土器の甕である。頸部から短く外側へ拡張する口縁部をもち、端部はやや肥厚させる。内外面ともにわずかにハケ目調整がみられる。745～747は底部である。形態からみて甕の底部であると思われる。748は壺の底部であると思われる。749～753は高杯である。口縁端部に面をもつもの（752・750）とそうでないもの（749）がある。753・751は脚部である。

754は石器である。サヌカイト製のスクレイパーと思われる。

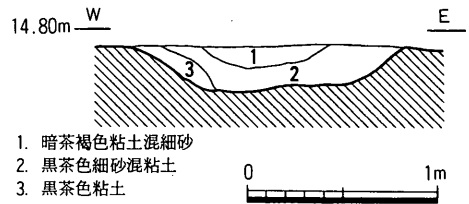
SD 14 (第132～136図)

G地区 a-53中央南部から北東方向へ流れ、センターライン付近でほぼ真北方向へ向きを変える幅1.4m、深さ0.3mの溝状遺構である。途中、SD 15等と合流する。



第132図 SD13・14土層断面図

埋土は黒色粘土と灰色粘土の2層に大別される。SD 15と同時期に機能していたものと思われるが、埋没時期はSD 15よりも後であると考えられる。



第133図 SD14土層断面図

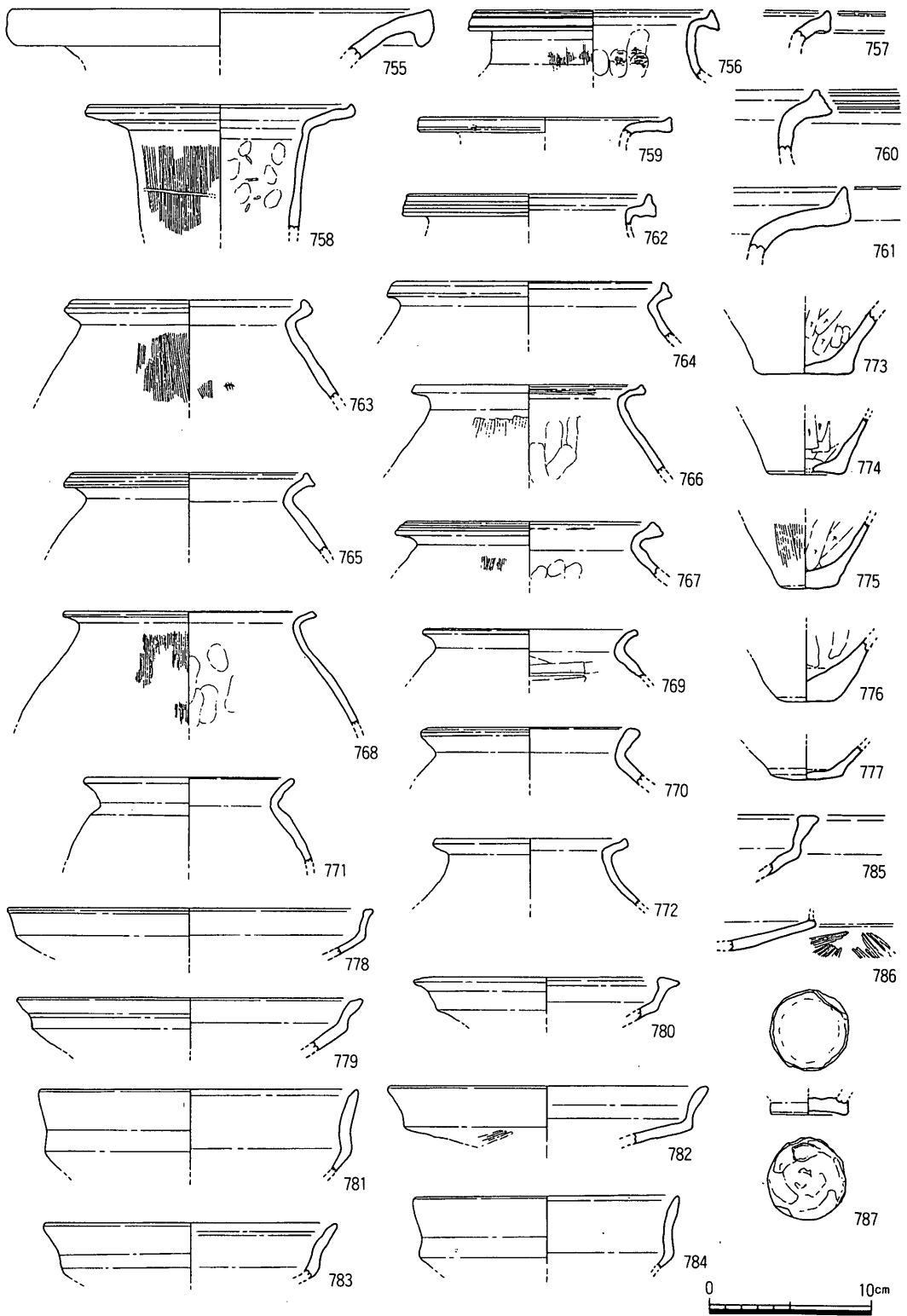
遺物は、弥生土器・須恵器・土師器等が出土している(第134図～136図)。

755～761は弥生土器の壺である。口縁端部を下方へ拡張するもの(755)、上方へ拡張するもの(757～761)、上下両方へ拡張するもの(756)がある。756は比較的頸部が短いもの、758は長い頸部をもち、外面にハケ目調整が顕著であり、その上からヘラ状工具による線状の文様がみられる。763～772は弥生土器の甕である。胴部がほぼ球形の769・771を除き、他はすべて直線的な頸部から屈曲する口縁部をもつものである。口縁端部は上方へ拡張するもの(763・764・766)、上下両方へ拡張するもの(769)、丸く収めるもの(768・770・771)若干肥厚するもの(772)がある。773～777は甕の底部である。内面にはヘラ削り調整が多い。

778～786・788～792は高杯である。杯部は短く屈曲し、端部に面のある口縁部をもつもの(778・779・780・785)、やや直立気味に立ち上がり、端部をシャープに仕上げたもの(781・783・782・784)、それに直線的に開く杯部にわずかに上方に立ち上がる短い口縁部をもつもの(786・788)がある。脚部には裾から緩やかに立ち上がるもの(789・790・791)と筒状を呈するもの(792)がある。

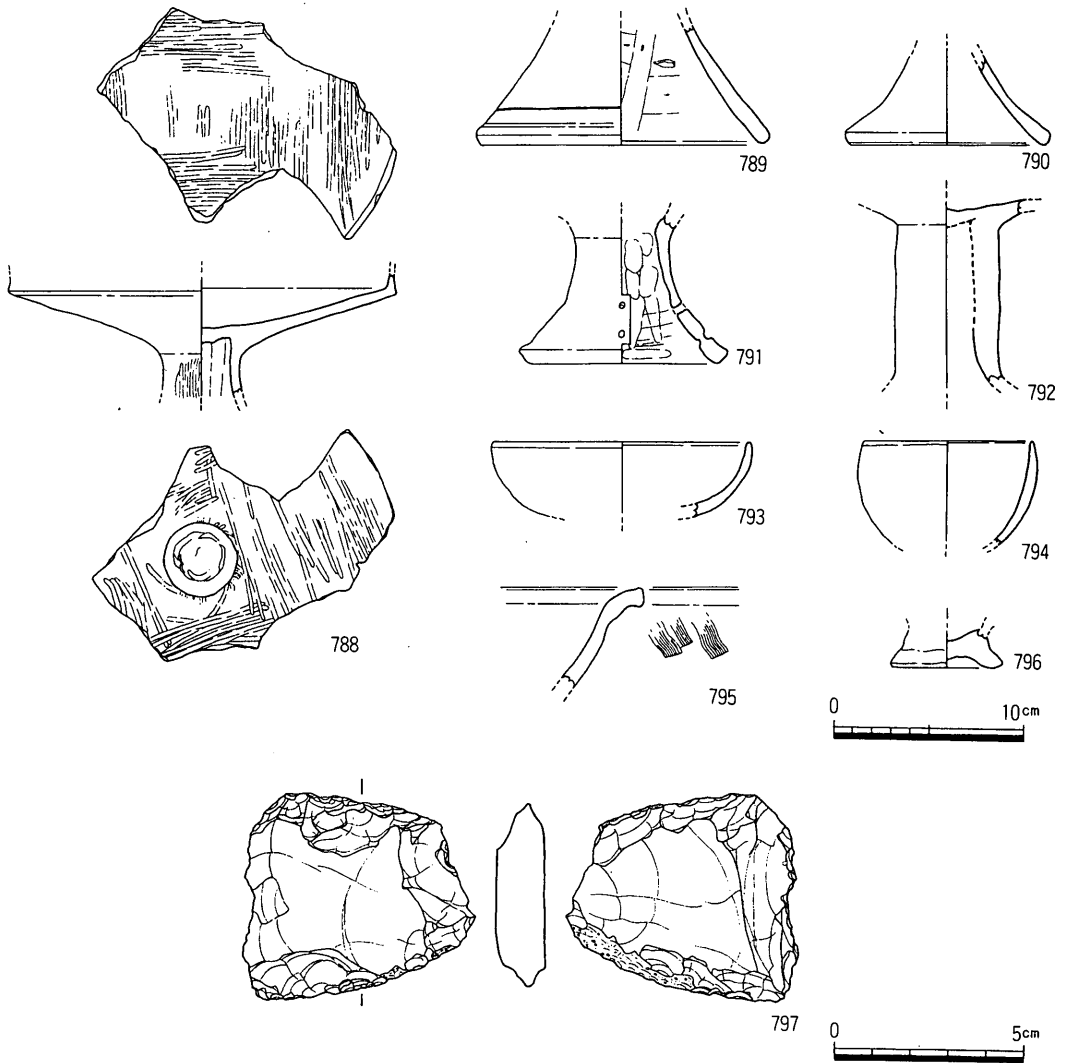
793～796は弥生土器の鉢である。小型で口径が大きく浅いもの(793)、口径が小さく深いもの(794)、大型のもの(795)がある。796は脚付鉢の脚部であると思われる。

第134図787は円盤状土製品である。もともと、壺もしくは甕の底部であったものを転用したものと思われる。穿孔はみられず、用途は不明である。



第134图 SD14出土遺物実測図(1)





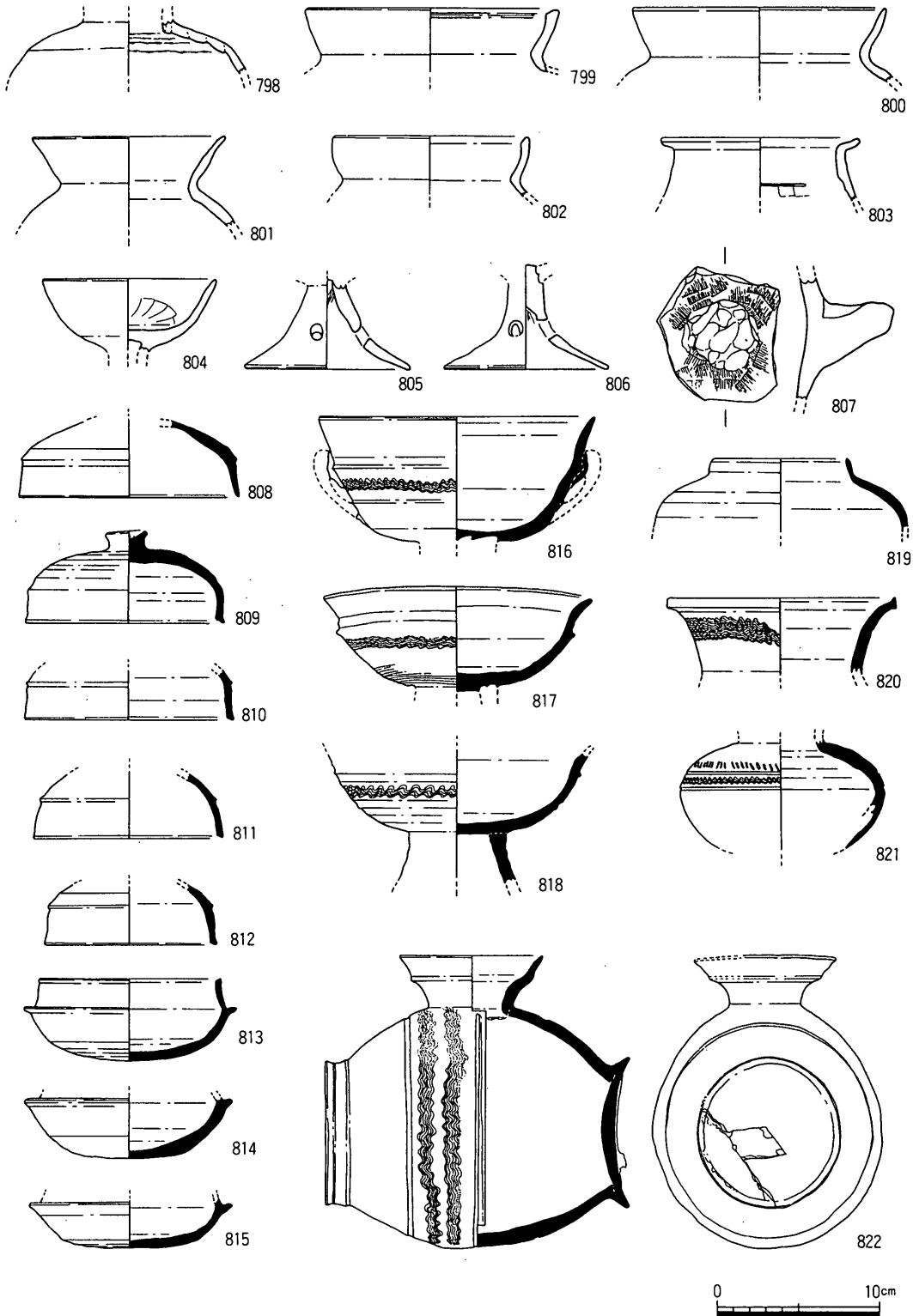
第135図 SD14出土遺物実測図(2)

797は石器である。挟りがあり、サヌカイト製の石庖丁であると思われる。

第136図798は土師器壺である。胴部下半部と口縁部は欠損している。内面には粘土紐を積み上げた痕跡が同心円状に顕著に残っている。

799～803は土師器甕の口縁部である。いずれも「く」の字状に外反するが、やや内彎気味に立ち上がるもの（799・802）もある。

804は土師器高杯の杯部である。杯部径は小さく、口縁部の立ち上がりは長く、深い。805・806は土師器高杯の脚部である。いずれも屈曲部をもち、裾部に至る。屈曲部のすぐ上に円孔をもつ。



第136图 SD14出土遗物实测图(3)

807は土師器甑の把手である。粘土塊を貼り付けたのち、ハケ目調整を施している。

808～812は須恵器杯蓋もしくは有蓋高杯の蓋である。いずれも天井部から屈曲し、直線的に口縁端部に至る口径の小さく器高の高いものである。屈曲する部分には明瞭な段をもち、段の下部は凹線状を呈する。809には真中の凹んだつまみが付く。813～815は須恵器杯身である。813は受け部の立ち上がりが長く端部に面をもつ。814・815は受け部の立ち上がりが短く、813より後出する要素をもつ。

816～818は大型の須恵器高杯である。いずれも杯部外面に数状の波状文を施文する。816は把手の痕跡が認められる。817には杯部下半にカキ目が若干認められる。これら3つの高杯はいわゆる初期須恵器の範疇に属するものであると思われる。

819は短頸壺である。820は須恵器壺の口縁部である。端部は肥厚し、外面に面をもつ。端部すぐ下の外面には幅約1cmにわたって波状文が巡らされている。

821は須恵器甗である。口縁部は欠損している。体部外面には波状文と沈線が交互に施文されている。

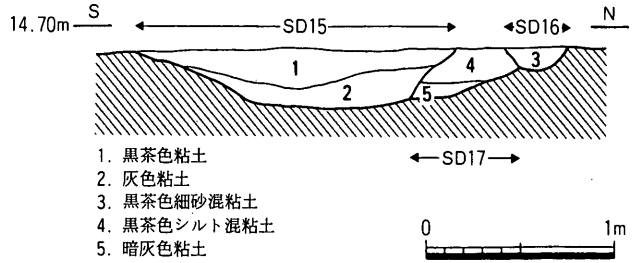
822は樽形甗である。体部および側面部の一方、それと口縁部の一部が欠損しているが残存状況は概ね良好である。各部の屈曲部および端部はいずれもシャープに仕上げられており、極めて堅緻に焼き上げられている。側面部には暗緑色の自然釉が認められる。体部は5条の沈線によって区切られており、中心の2つの区画に各々2条の櫛描波状文が施文されている。樽形甗は、県内での出土は非常に珍しく、本遺跡での出土でわずか3例目である。1つは木田郡庵治町平見遺跡出土のもの、いま1つは坂出市下川津遺跡出土のものである。前者は開壘中に偶然発見されたもので、出土状況ははっきりしないが、おそらく墳墓に副葬されたものであろう<sup>(8)</sup>。後者は集落内からの出土であるが、ごく小さな破片のみの出土である。樽形甗はいわゆる初期須恵器の段階にみられる特殊な形の甗の1つであるが、須恵器の生産が全国的に広がる頃に急速にその姿を消す。

したがって、本遺跡の樽形甗もその生産された時期は初期須恵器の段階、つまり、5世紀中頃から6世紀前半にかけてのものであると思われる。

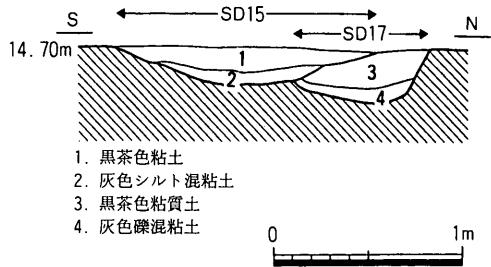
(8) 松本敏三「庵治町平見出土の須恵器 一空なる器一」瀬戸内海歴史民俗資料館だより第9号 1980

**SD 15** (第137~144図)

G地区 a-53南東隅から北東方向に流れる幅1.7m, 深さ0.3mの溝状遺構である。SD14等との合流点で大幅に広がるが、その北側ではほぼ南側と同規模で流れている。埋土は粘土や砂層が複雑に堆積しており、埋没時の状況を示している。この溝状遺構の下層(SD18)において長さ3.5mの木樋が出土した。後述するように、出土状況からみてSD15に妨げられないように水を南東から北西に導くために設置したものとと思われる。



第137図 SD15・16・17土層断面図



第138図 SD15・17土層断面図

その他の出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器等がある(第140図~第144図)。

823~833は弥生土器の壺である。直立気味に立ち上がる頸部をもつもの(823・824・825・826・827・828・829)と弧状に外反する頸部をもつもの(830・831)がある。

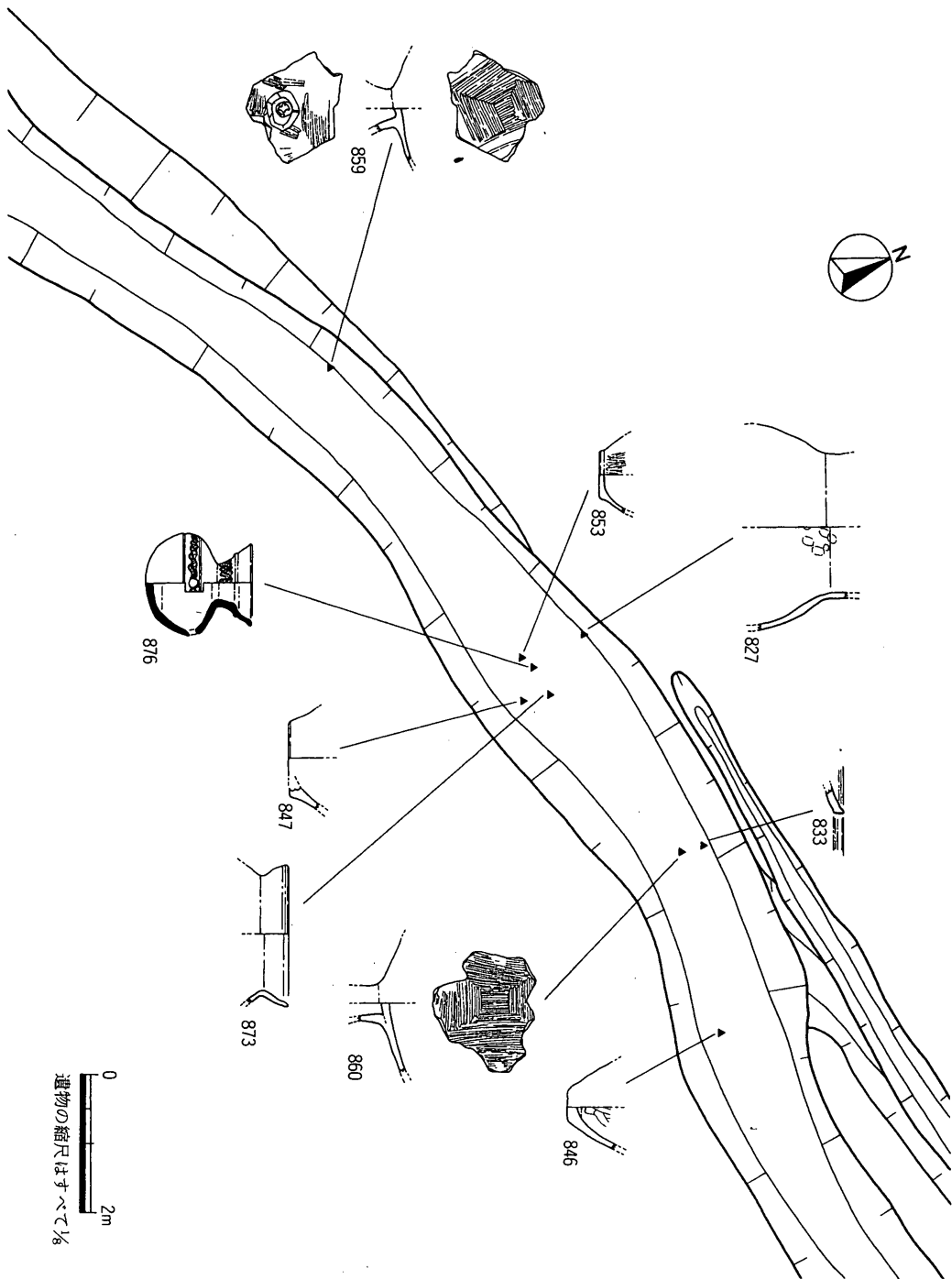
834~843・849は弥生土器の甕である。ほぼ真横に拡張する口縁部をもつもの(834・835・836・838・839・840・841・842)と球状を呈する胴部から外反しながら立ち上がる口縁部をもつもの(837・843・849)とがある。

844~848・850~854は底部である。形態からみて844・850・851は壺, その他は甕の底部であると思われる。

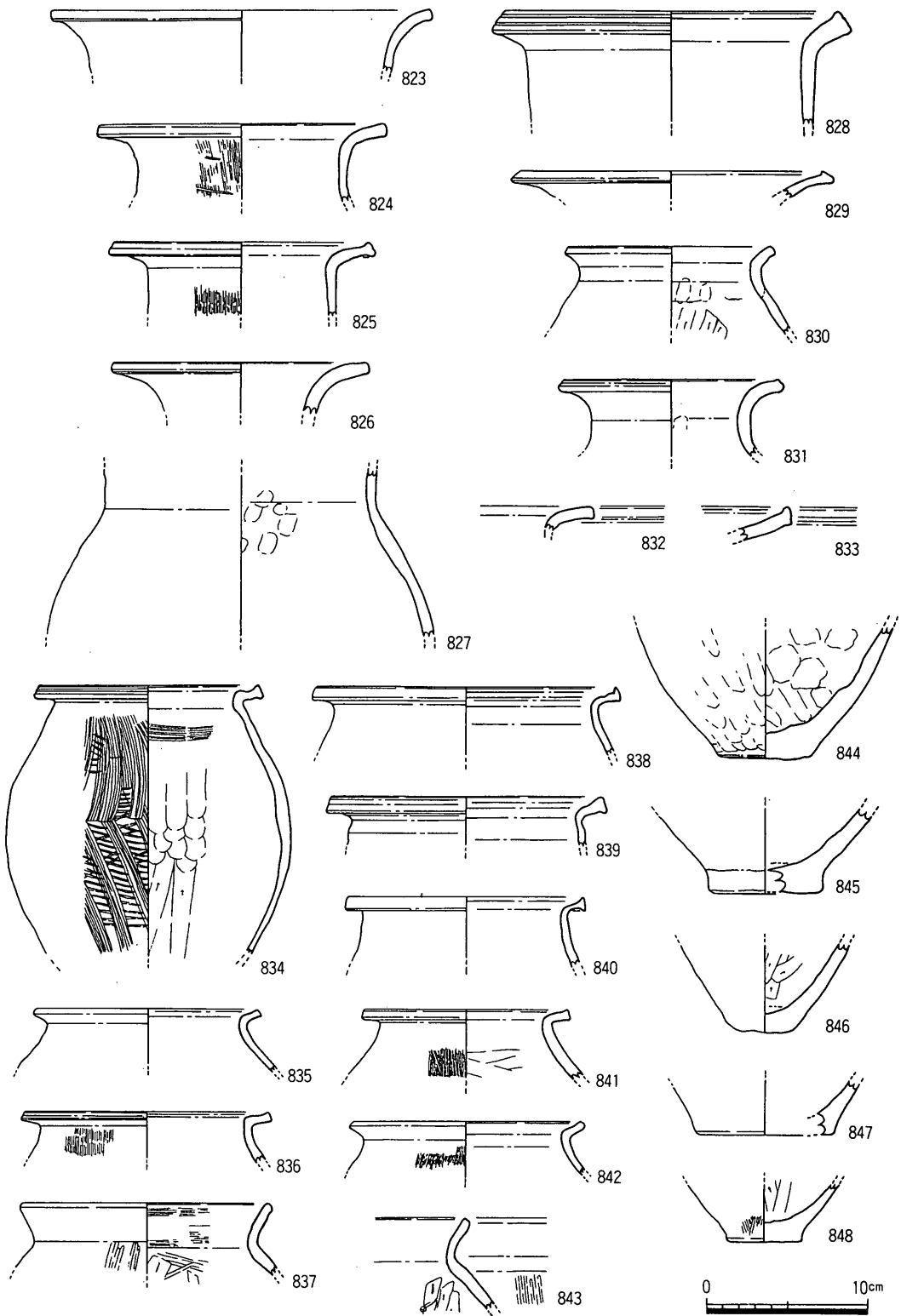
855~867は弥生土器の高杯である。杯部は直線的に開き, 屈曲し端部に面をもつ口縁部が大部分であるが, 863のように杯部から直立しさらに外方へ拡張する口縁部もある。855・856・859・860にはヘラ磨きが顕著に認められる。脚部はすべて緩やかに広がるものであるが, 途中に段をもつもの(867), 沈線がみられるもの(864)などがある。

868は弥生土器の器台である。口縁部しか残存していない。強いナデにより凹線状の文様がみられる。口縁端部は若干上下両方へ拡張している。

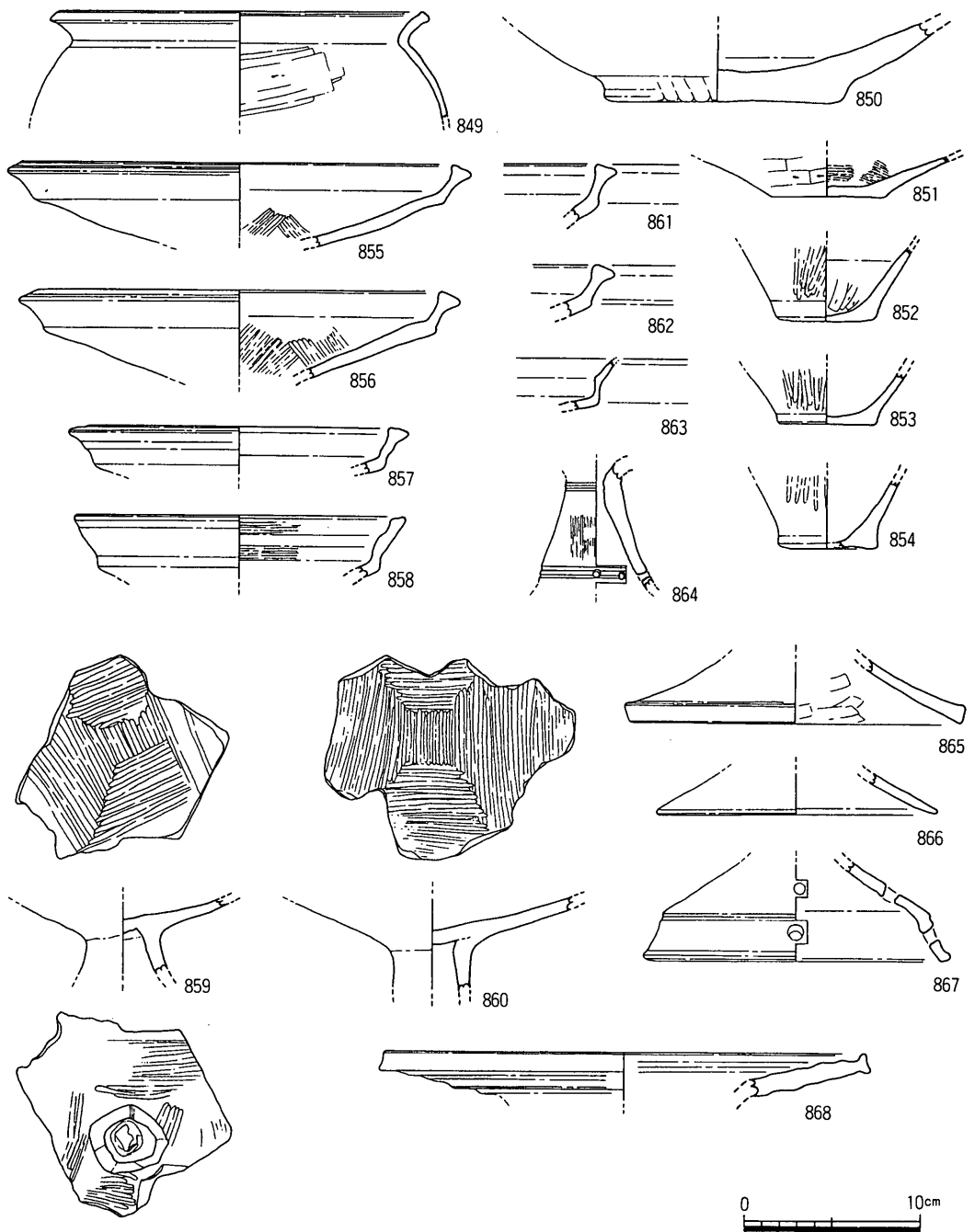
869~871は弥生土器の鉢である。いずれも大型のものである。球状に張った胴部から屈曲する短い口縁部に至るものが多いが, 口縁部が屈曲せずに直線的に広がるもの(871)も



第139図 SD15・16・17遺物出土分布図



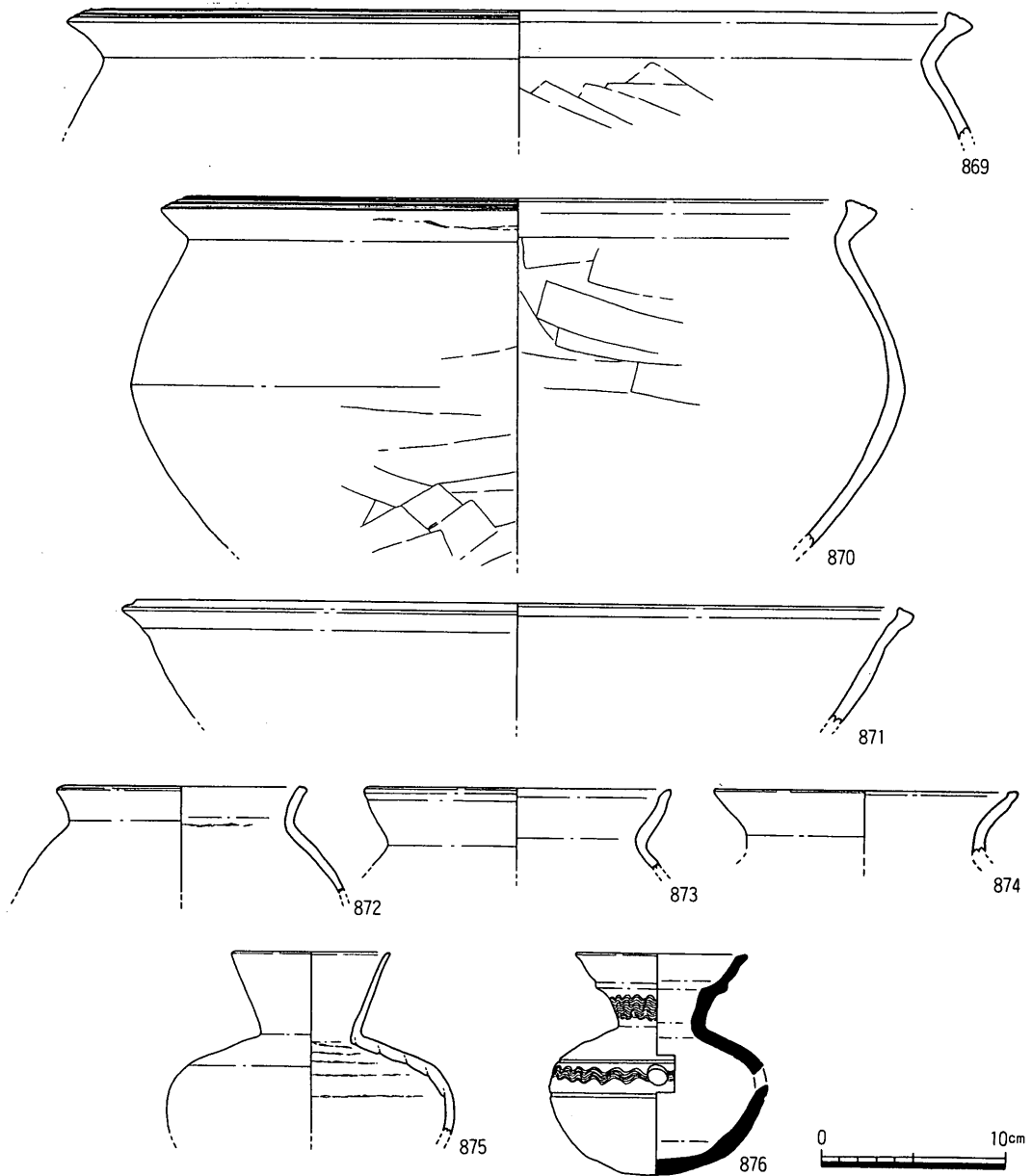
第140図 SD15出土遺物実測図(1)



第141図 SD15出土遺物実測図(2)

ある。口縁端部は肥厚させ、強いナデによる退化凹線文がみられる。また、870のように内外面ともに板ナデの認められるものもある。

第142図875は土師器壺である。SD14から出土した第136図798と同じく内面に粘土紐を



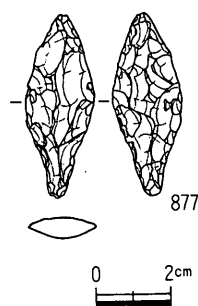
第142図 SD15出土遺物実測図(3)

積み上げた痕跡が顕著に認められる。口縁部は比較的長く端部はシャープに仕上げている。外面は丁寧なナデにより調整されている。

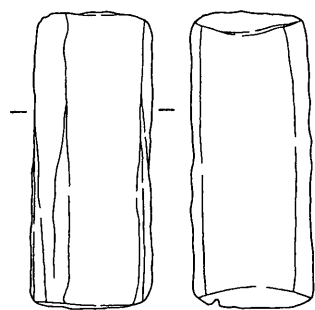
872～874は土師器甕である。球状に張った胴部から内彎しながら屈曲する口縁部をもつもの(873・874)と外反する口縁部をもつもの(872)がある。前者は口縁端部をナデによりシャープに仕上げているが、後者は四角くまとめている。



876は須恵器甕である。体部上半部に最大径をもち、頸部の屈曲部を経て口縁部に至る。屈曲部下部には幅約1cmの波状文を施している。体部上半部にやや上向きで直径約1cmの円孔が1つ認められる。円孔の上下は沈線がめぐっており、その間には波状文が数条認められる。全体的に作りは丁寧で焼成も堅緻である。



第143図  
SD15出土遺物実測図(4)



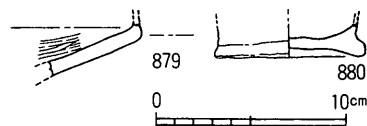
第144図 SD15出土遺物実測図(5)

第143図877は石器である。サヌカイト製の石鎌である。尖った舌の部分が残っており、凸基II式の石鎌である。

第144図878は木製品である。断面の丸い木を加工したもので半分は欠損しているが、柱材もしくは杭等に使用された可能性が高い。

#### SD 16 (第145図)

G地区 b-54北東部から北東に向かって流れる溝状遺構である。南側は検出できなかった。幅0.4m、深さ約0.2mで途中からSD17を切っており、埋土は黒茶色細砂混粘土の単一層である。



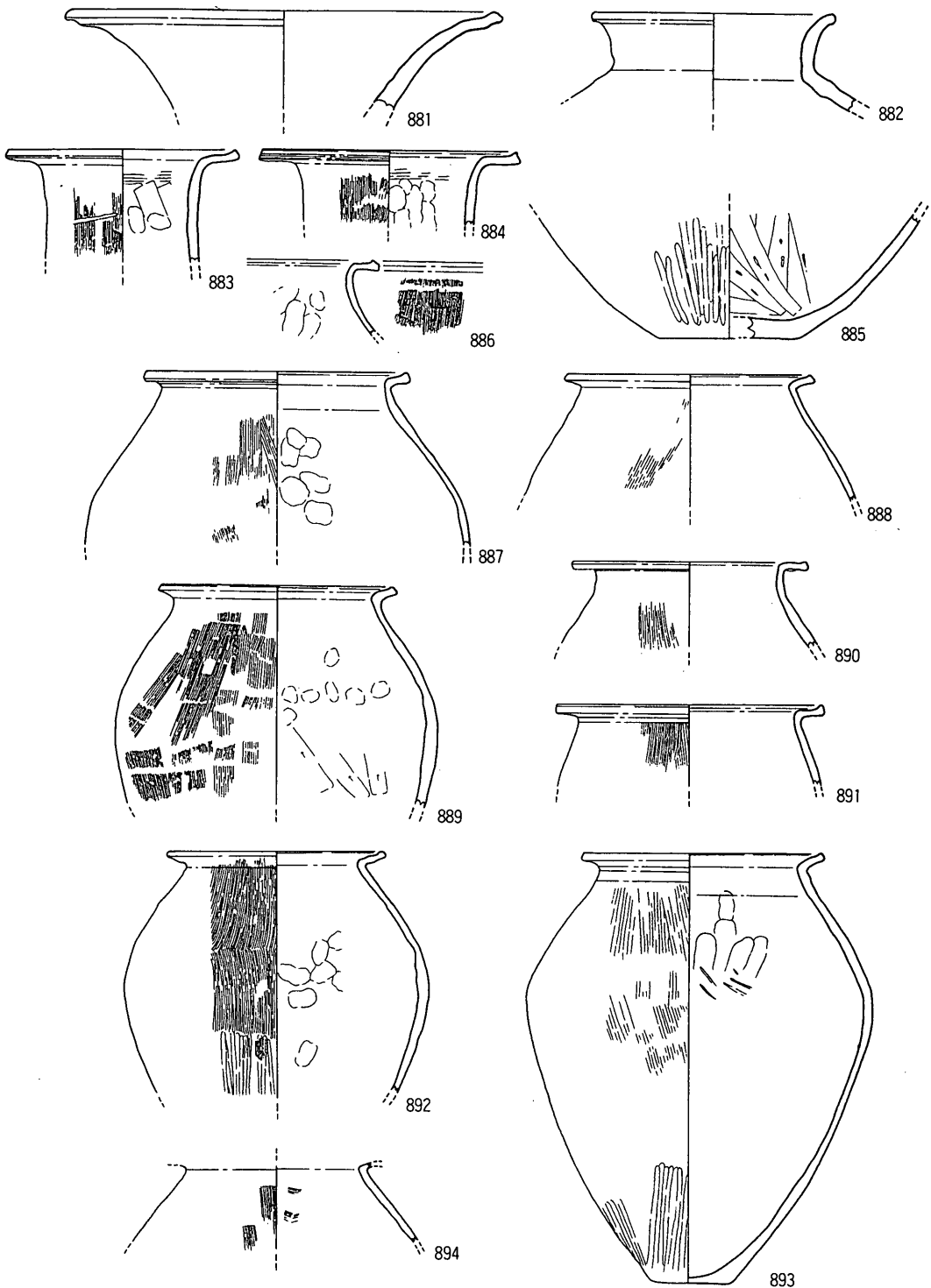
第145図 SD16出土遺物実測図

出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器である。ほとんどが細片であり、2点のみ図化した(第145図)。879は弥生土器の高杯である。直線的に広がる杯部に直立する短い口縁部が付くものであるが、口縁端部は欠損している。内面に若干ハケ目がみられる。880は脚付鉢の脚部もしくは製塩土器の底部である。内面はヘラ削り調整を施している。いずれも弥生時代後期後半頃のものと思われる。

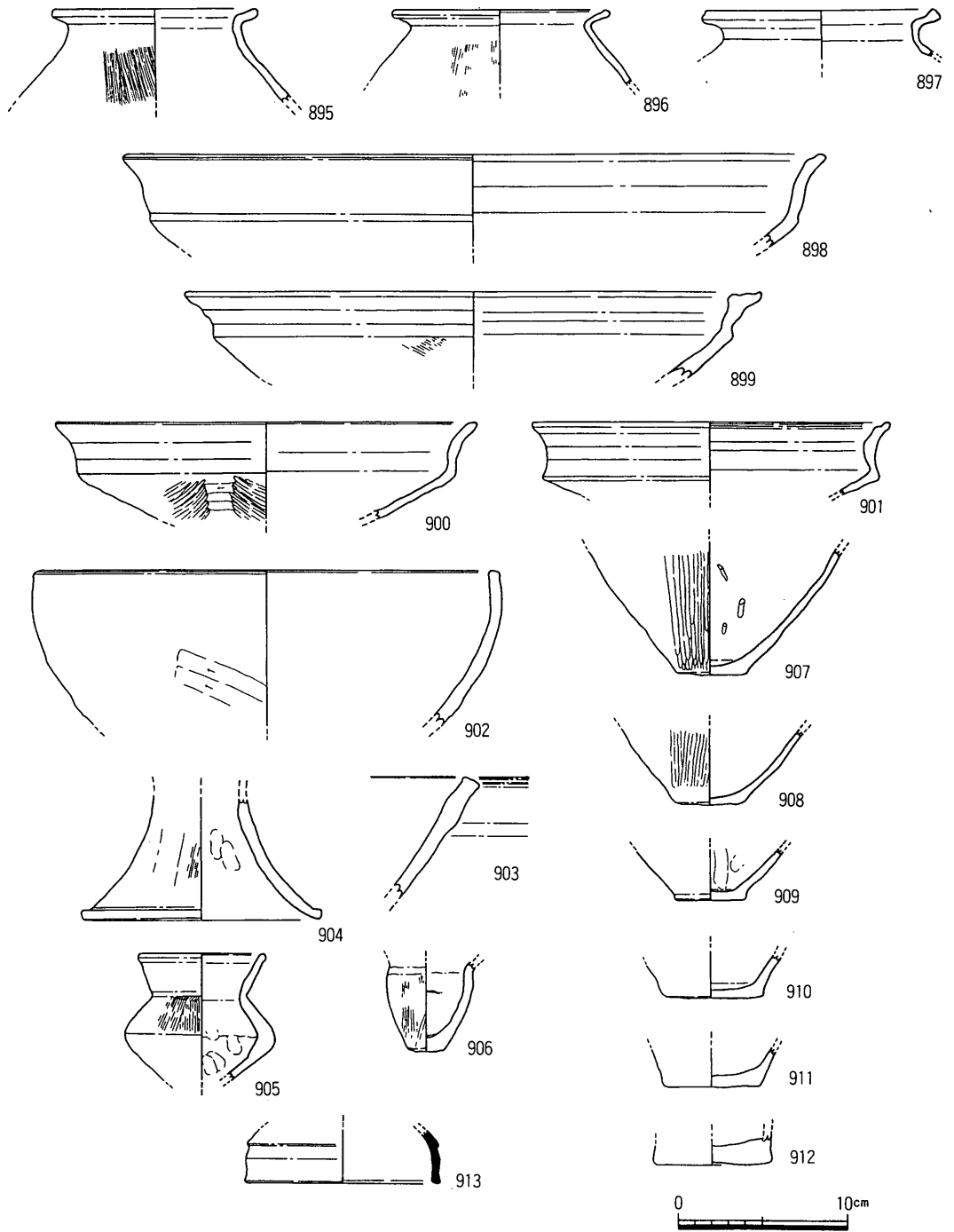
#### SD 17 (第146～148図)

G地区 a-54北西部の溝状遺構群の合流点から北東へ向かって派生する幅0.5m以上、深さ0.3mの溝状遺構である。埋土は、黒茶色シルト混粘土と暗灰色粘土の2層に大別される。

出土した遺物は弥生土器がほとんどで土師器・須恵器を若干含む(第146図～第147図)。



第146图 SD17出土遺物実測図(1)



第147図 SD17出土遺物実測図(2)

第146図881～884は弥生土器の壺である。大きく朝顔状に開く口縁部をもつもの（881）と短く外反する口縁部をもつもの（882），それと直立する頸部からほぼ真横に拡張する口

縁部をもつもの（883・884）がある。このタイプは外面に細かいハケ目がみられ、ヘラ状工具による線状の文様がみられる。

885は形態からみて弥生土器の壺の底部であると思われる。

886～897は弥生土器の甕である。頸部から「く」の字状もしくはほぼ真横に拡張する短い口縁部をもつものが多いが、897のように一旦直立気味に立ち上がり、外方へ拡張するものもある。外面にはハケ目調整が顕著にみられ、内面下半部にはヘラ削り調整、上半部には指頭圧痕が認められるものが圧倒的である。

898～901は弥生土器の高杯である。やや丸みを帯びた杯部から外反する口縁部に至るもの（898・899）と直線的に開く杯部から外反する口縁部に至るもの（900）、それに直線的に開く杯部からやや外反しながら直立気味に立ち上がる口縁部に至るもの（901）がある。899の口縁端部には面をもつが、その他は丸く収める。

902・903は弥生土器の鉢である。902は内彎する形態をとり、903は直線的に広がる形態をとる。

904は弥生土器の高杯脚部である。緩やかに広がり、端部は方形にまとめている。

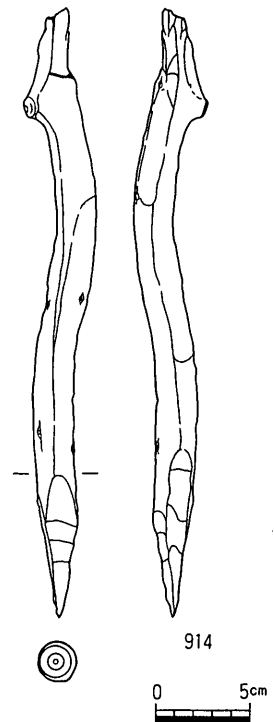
905は弥生土器の小型の壺である。大きく直線的に広がる口縁部をもち、胴部は算盤玉状を呈している。

906は弥生土器の小型の甕である。手捏であるが、非常に丁寧な作りをしており、外面にはわずかではあるが、ハケ目が認められる。

907～912は弥生土器の底部である。形態からみて907・908は壺、その他は甕の底部であると思われる。

913は須恵器杯蓋である。やや丸みを帯びた天井部から屈曲部をへてまっすぐ口縁部に至る。屈曲部には明瞭な稜が認められる。口縁端部は強いナデによる面をなす。

第148図914は木器である。広葉樹の枝を利用したもので表面にはほとんど加工した痕跡がない。先端のみ削り、尖らせている。杭として使用されたものと思われる。

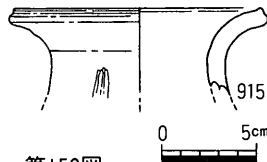


第148図  
SD17出土遺物実測図(3)

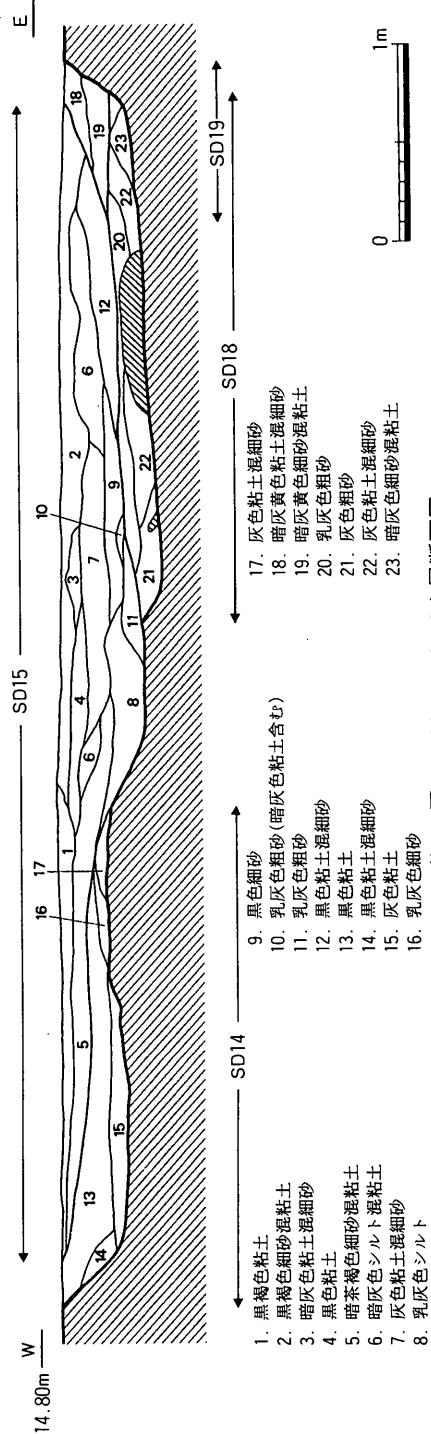
SD 18 (第149~152図)

G地区 a-54南西部から北へ流れ、北西部の溝状遺構群の合流点へ流入する溝状遺構である。幅1.0m、深さ0.3mで埋土は灰色粗砂と粗砂混粘土に大別できる。合流点の最下層の埋土中から木樋と思われる大型の木製品が出土した(第149図、第152図917)。木樋は長さ350cm、幅30cmで厚さは薄いところでわずか0.5cm、最も厚いところでも3cmしかなく、断面形はU字形を呈する。木樋は、南東から北西に向けてSD18の方向に一致するように伏せた状態で出土した。標高をみると、南東の方が北西に比べてわずかに高い。このことから、仮にこの木樋が原位置を保っているとするSD18の水をSD15等に妨げられずに北西のSD14へ流すための施設と考えられる。しかし、他の出土例をみるといずれも上へ向けた状態で出土しており、水が流れやすくしている。砂等の異物の堆積を防ぐために蓋をかぶせている例もある。この点からみると、本木樋は木製品中に砂等の異物が堆積しやすく、樋管としての機能を十分果たし得ないのではないかとと思われる。

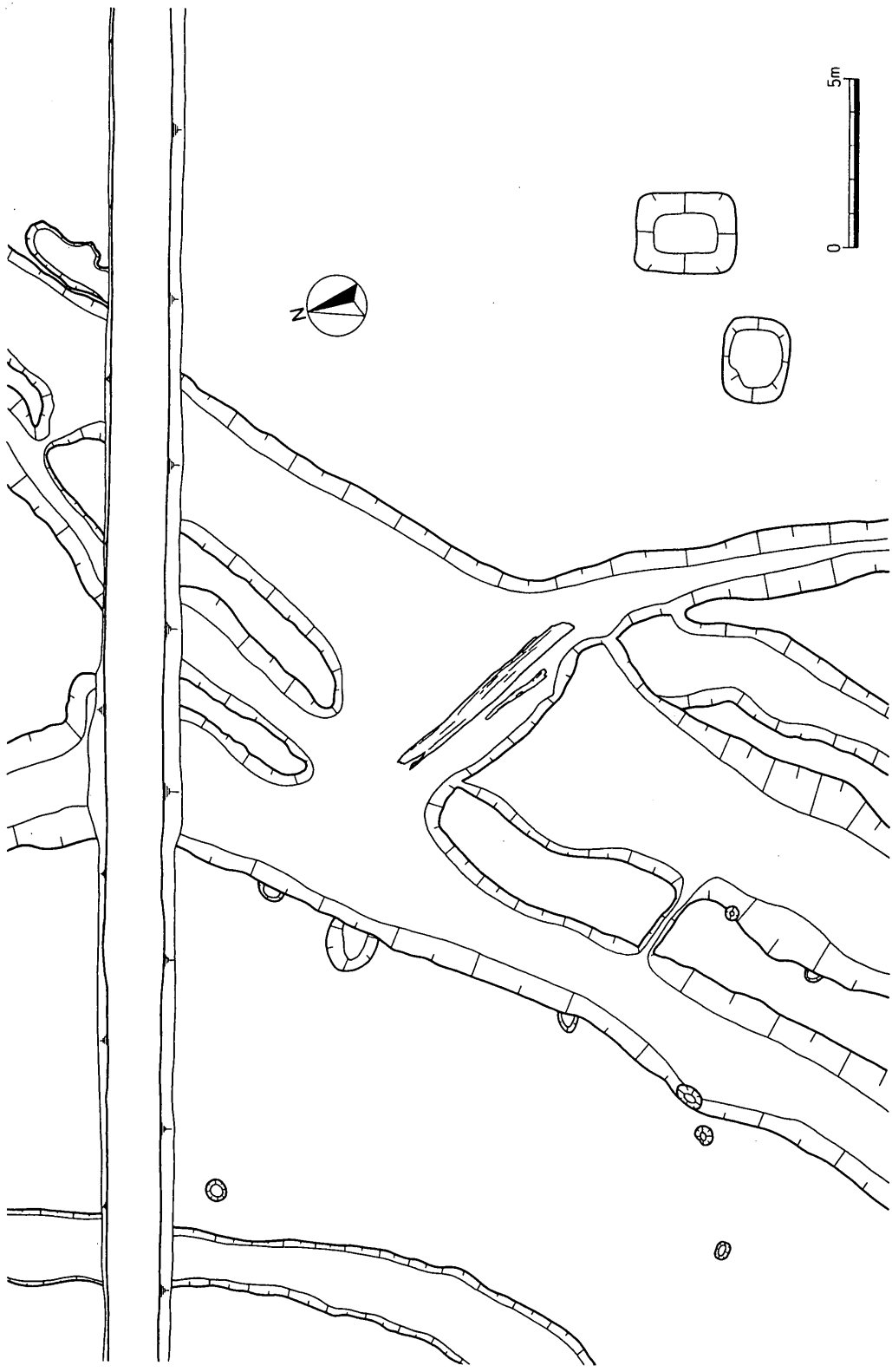
この木樋が原位置を保って樋管として機能していたか、それとも、付近に設置されていたものが流されて出土した位置にあったものかは、判断する材料が乏しいが、ここでは、木樋の出土した位置が溝状遺構群の合流点であること、水



第150図 SD18出土遺物実測図(1)



- 1. 黒褐色粘土
- 2. 黒褐色粗砂混粘土
- 3. 暗灰色粘土混細砂
- 4. 黒色粘土
- 5. 暗茶褐色細砂混粘土
- 6. 暗灰色シルト混粘土
- 7. 灰色粘土混細砂
- 8. 乳灰色シルト
- 9. 黒色細砂
- 10. 乳灰色粗砂(暗灰色粘土含む)
- 11. 乳灰色粗砂
- 12. 黒色粘土混細砂
- 13. 黒色粘土
- 14. 黒色粘土混細砂
- 15. 灰色粘土
- 16. 乳灰色細砂
- 17. 灰色粘土混細砂
- 18. 暗灰色黄色粘土混細砂
- 19. 暗灰色黄色細砂混粘土
- 20. 乳灰色粗砂
- 21. 灰色粗砂
- 22. 灰色粘土混細砂
- 23. 暗灰色細砂混粘土



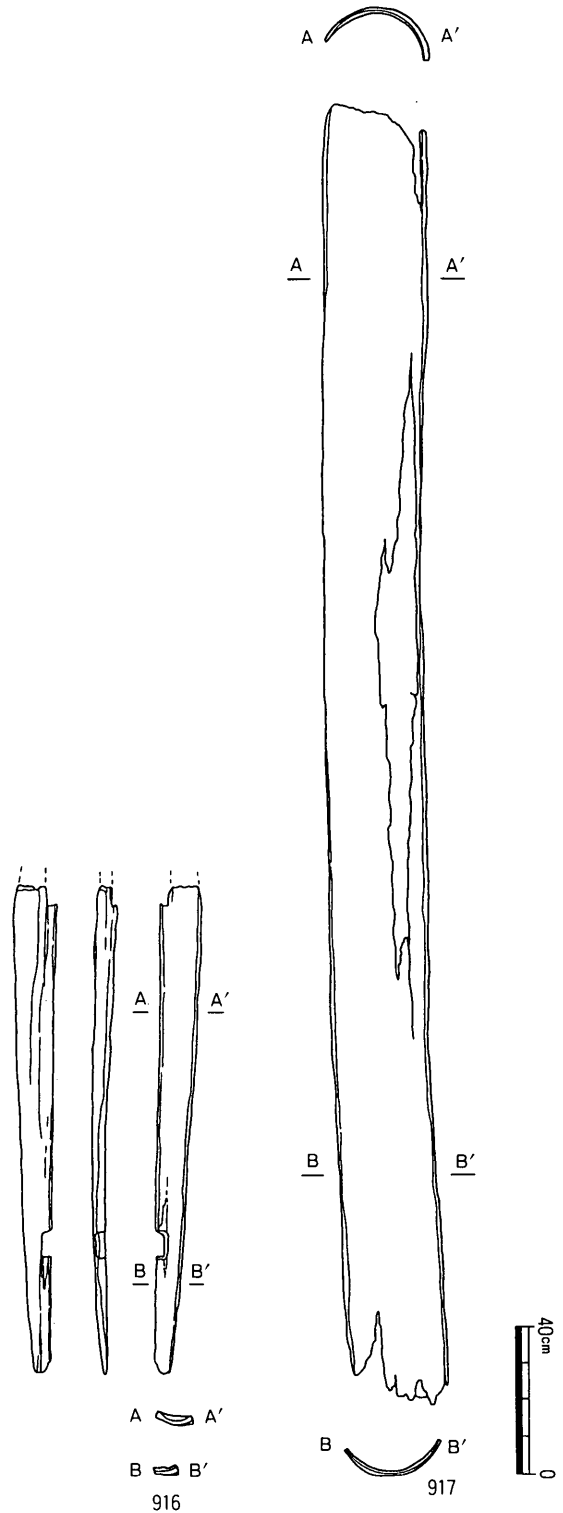
第151图 SD14·15·18·19木樋出土状况平面图

の入口と出口のレベル差が溝状遺構群のそれと矛盾しないことなどから、原位置を保って、樋管として機能していたものと考えておきたい。

その他に、この木樋のそばに長さ約120cm、幅10cm、厚さ1cmの建築材と思われる木製品が出土した(第152図916)。残存している部分の片側に2cm×10cmの枅穴状の切込みがある。用途等については、不明である。

その他には弥生土器・石器・土師器・須恵器が出土しているが大部分が細片で図化し得なかった。

第150図915は唯一図化できた弥生土器の壺である。緩やかに立ち上がる頸部から外反しながら開く口縁部をもつ。端部はナデにより、四角くまとめている。



第152図 SD18出土遺物実測図(2)

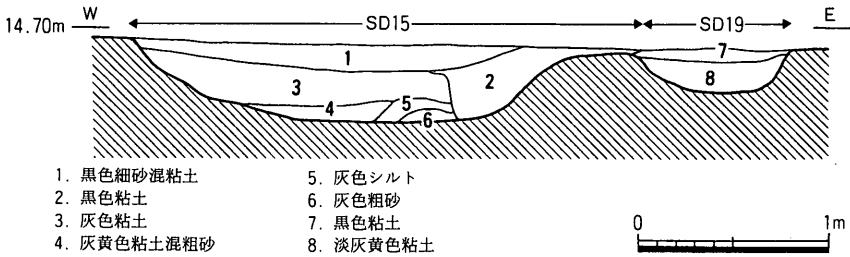
SD 19 (第153～154図)

SD15東側を流れる幅0.8m, 深さ0.3mでa-54北西部の溝状遺構群の合流点へ流入する溝状遺構である。埋土は細砂層と粘土層に大別される。合流点では、土層の堆積状況からSD15に切られていることがわかる。

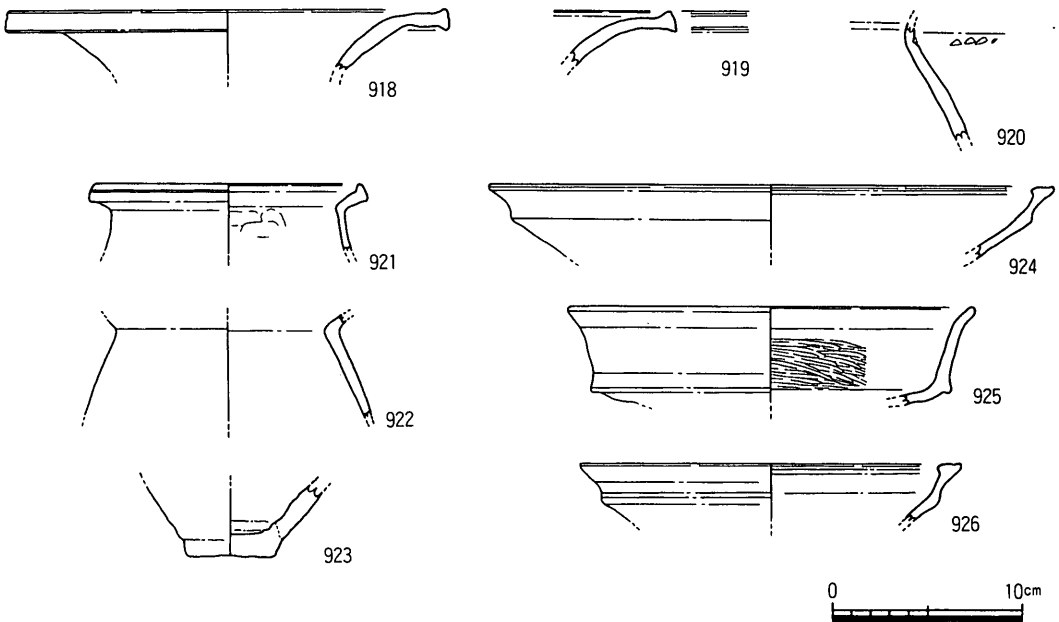
出土遺物はすべて弥生土器である(第154図)。918～919は壺の口縁部である。頸部から大きく外方へ開き口縁端部を若干肥厚させ、強くナデる(918・919)。920は頸部しか残存していないが、頸部に刻目文を施している。

921・922は甕である。やや直立気味の頸部から屈曲する短い口縁部に至る。口縁端部は上方へ若干拡張し、強くナデる(921)。

923は底部である。形態からみて壺の底部であろう。



第153図 SD15・19土層断面図



第154図 SD19出土遺物実測図



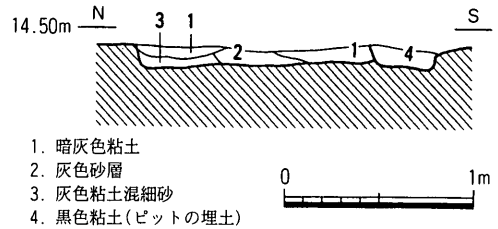
924～926は高杯である。直線的に開く杯部からやや屈曲する短い口縁端部をもつもの(924・926)とやや丸みを帯びた杯部から外反しながら直立気味に立ち上がる口縁部をもつもの(925)とがある。前者の口縁端部は肥厚させ、面をもつ。後者は丸く収める。

**SD 20** (第155～156図)

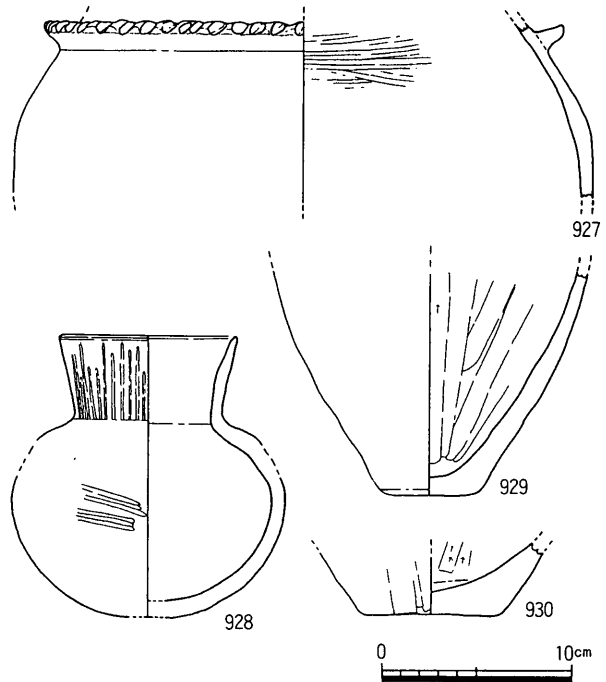
G地区 a-54から a-55にかけて検出した SD12の西側を南西から北東へ流れる溝状遺構である。幅約1.5m、深さ約0.1mで、埋土は粘土と砂層に大別できる。

出土遺物は弥生土器・土師器が出土している(第156図)。927～930は弥生土器である。

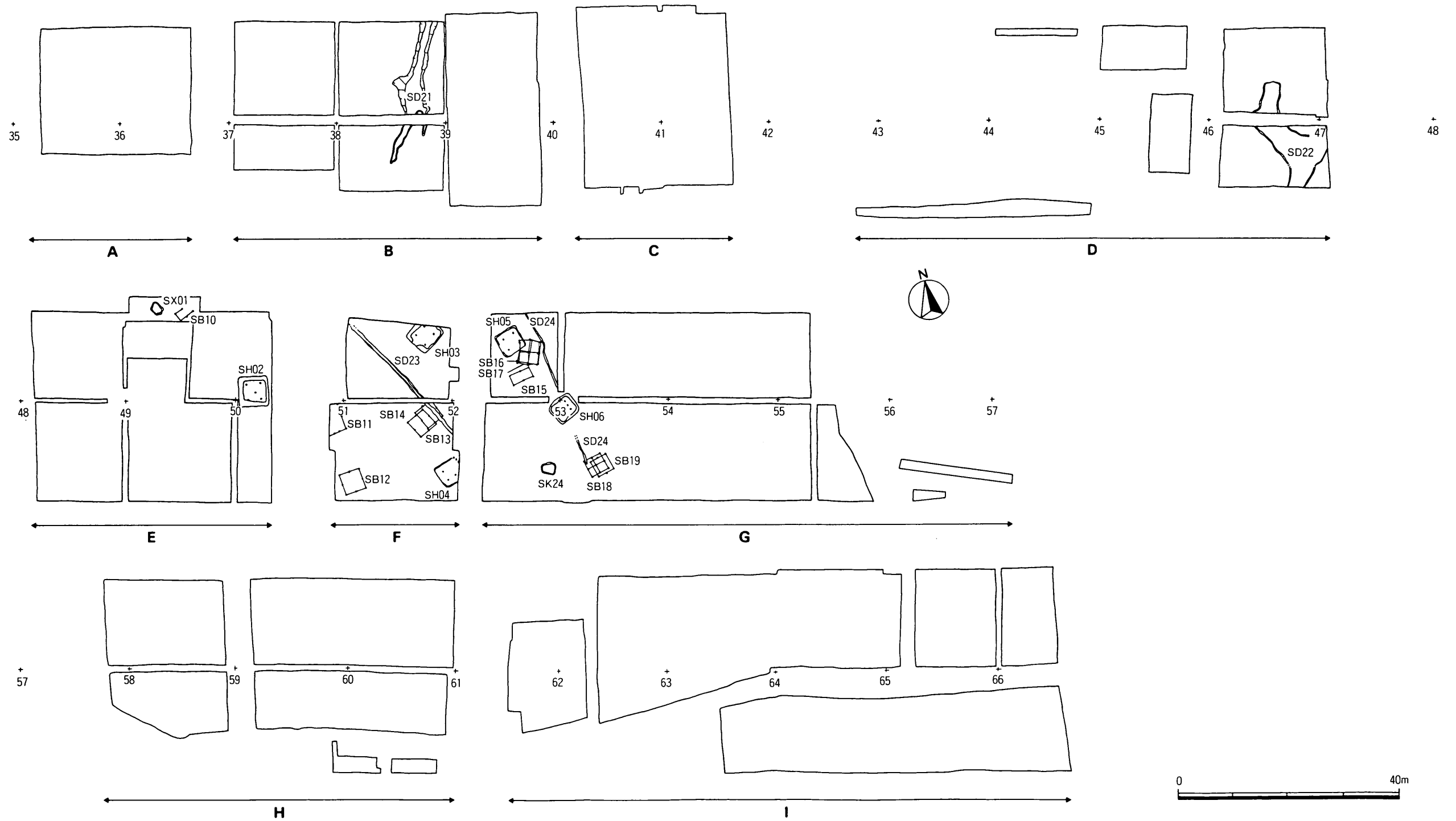
927は壺の胴部である。胴部下半部および口縁部は欠損している。胴部上部に粘土紐を帯状に貼り付けており、端部にヘラ状工具による刻目を施している。929・930は底部である。いずれも平底で内外面ともにヘラ削り調整がみられる。これらは弥生時代後期後半から終末期にかけてのものと思われる。928は土師器壺である。球状を呈する胴部にやや直立気味の口縁部をもつ。胴部外面には横方向の、口縁部外面には縦方向のヘラ磨き調整がみられる。古墳時代中期のものと思われる。



第155図 SD20土層断面図



第156図 SD20出土遺物実測図

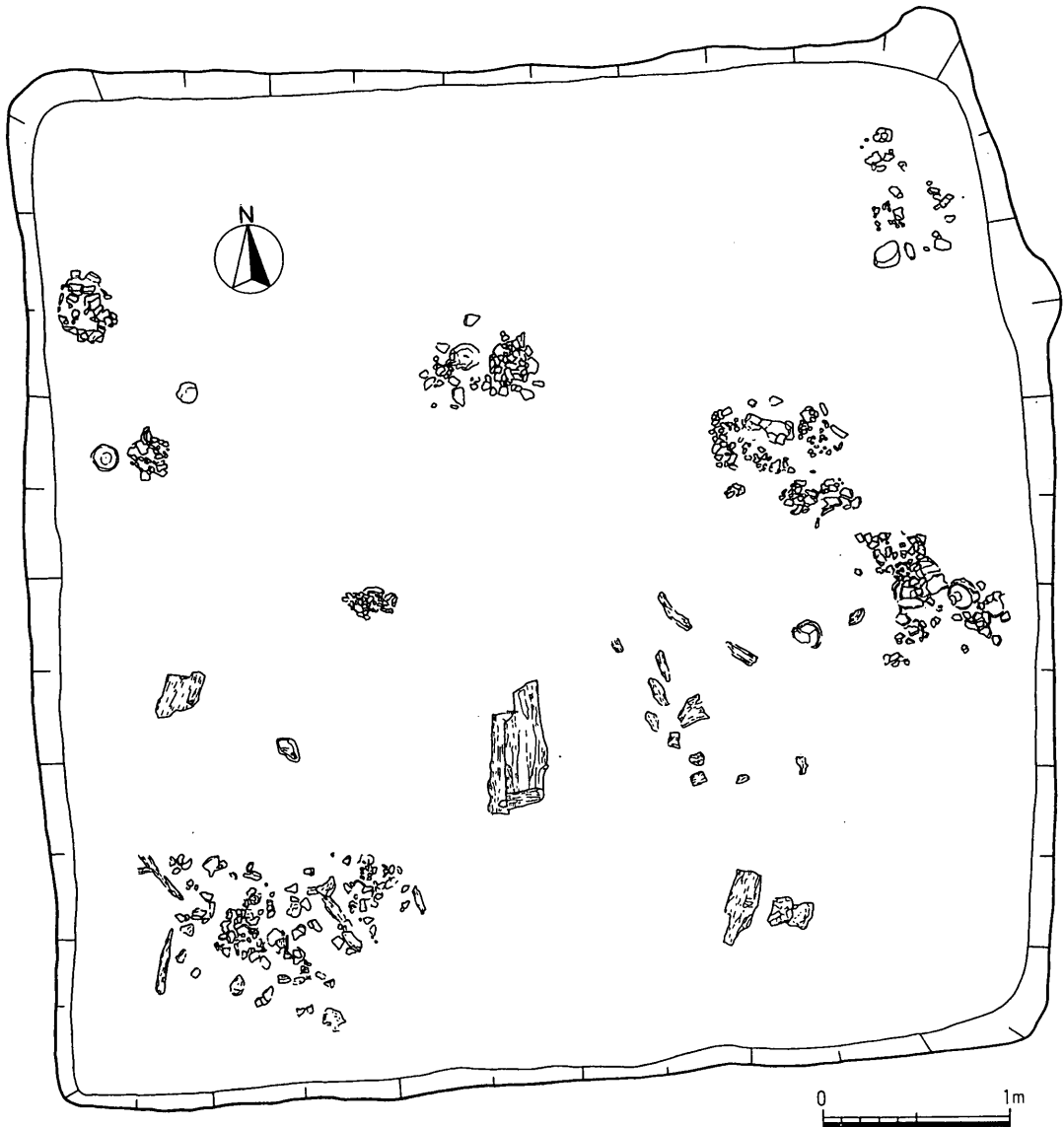


第157図 古墳時代遺構配置図

### 3. 古墳時代の遺構・遺物

#### SH 02 (第158~162図)

E地区南東で検出した5.2m×5.6mの隅丸方形の竪穴住居跡である。主軸方向はN7°Eで、現在の地割りにほぼ平行する。主柱穴は、中央と四隅の5つであると思われる。内部には壁の周囲に幅0.6m~0.8m、深さ約0.3mの壁溝が巡っていた。埋土は、大別して上層(灰褐色粘質土)と下層(黄灰色粘土)の2層に分けられ、検出面からの深さは約0.2mを測る。



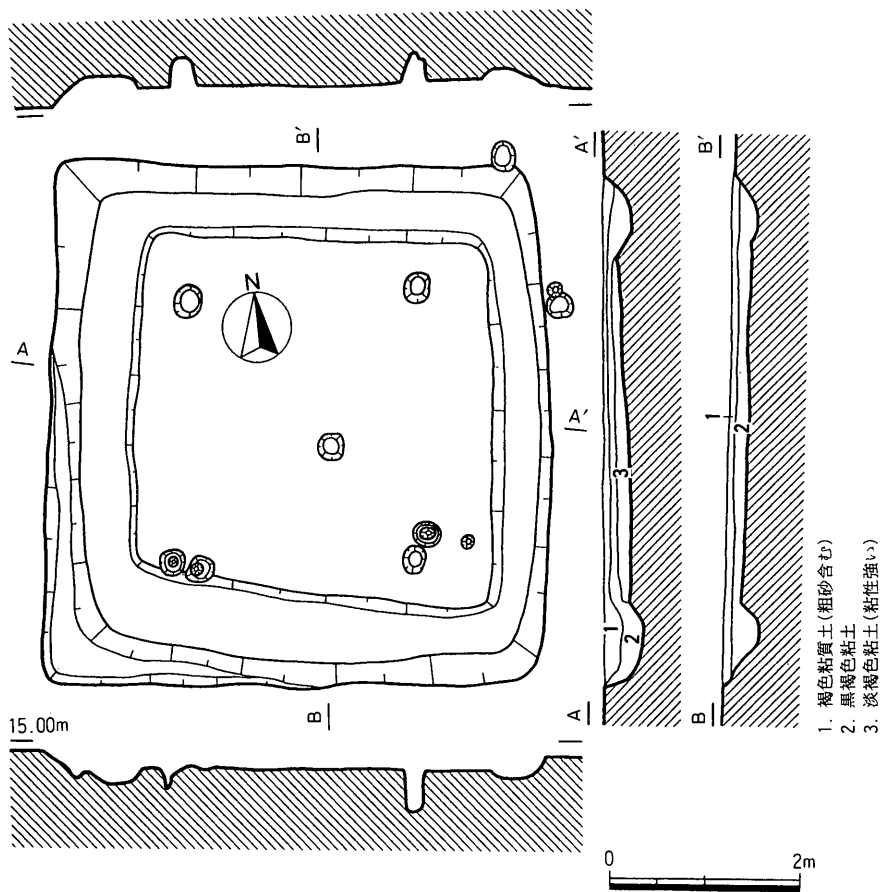
第158図 SH02遺物出土状況平面図

カマドはないが、中央部やや南よりの部分に土坑状の落ち込みが認められ、中には焼土や土器が遺存しており、あるいは炉等の可能性も考えられる。

また、床面には炭化した木材も検出されていることから、焼失家屋である可能性も否定できない。

遺物は、須恵器・土師器がほとんどで、細片が多いがコンテナ4箱分ほど出土している(第160～162図)。土師器は甕・高杯が多くみられ、須恵器は杯・高杯・甕が多い。

第160図931～第161図953・955は土師器甕である。甕は丸い底から球状に胴部が張るタイプのものと胴部があまり張らずに頸部に到るものに分けられ、その中では前者のタイプが大勢を占める。931は胴部のあまり張らないタイプで口縁部はくの字状に外反し、端部をやや外方へつまみ出している。内面に指頭圧痕が顕著である。932も胴部はあまり張らず、口縁部は斜め上方へ内彎しながら端部をやや外方へつまみ出している。内面には指頭圧痕がみられ、外面には斜め方向のハケ目がみられる。933も口縁部は若干肥厚させ、外面のみ



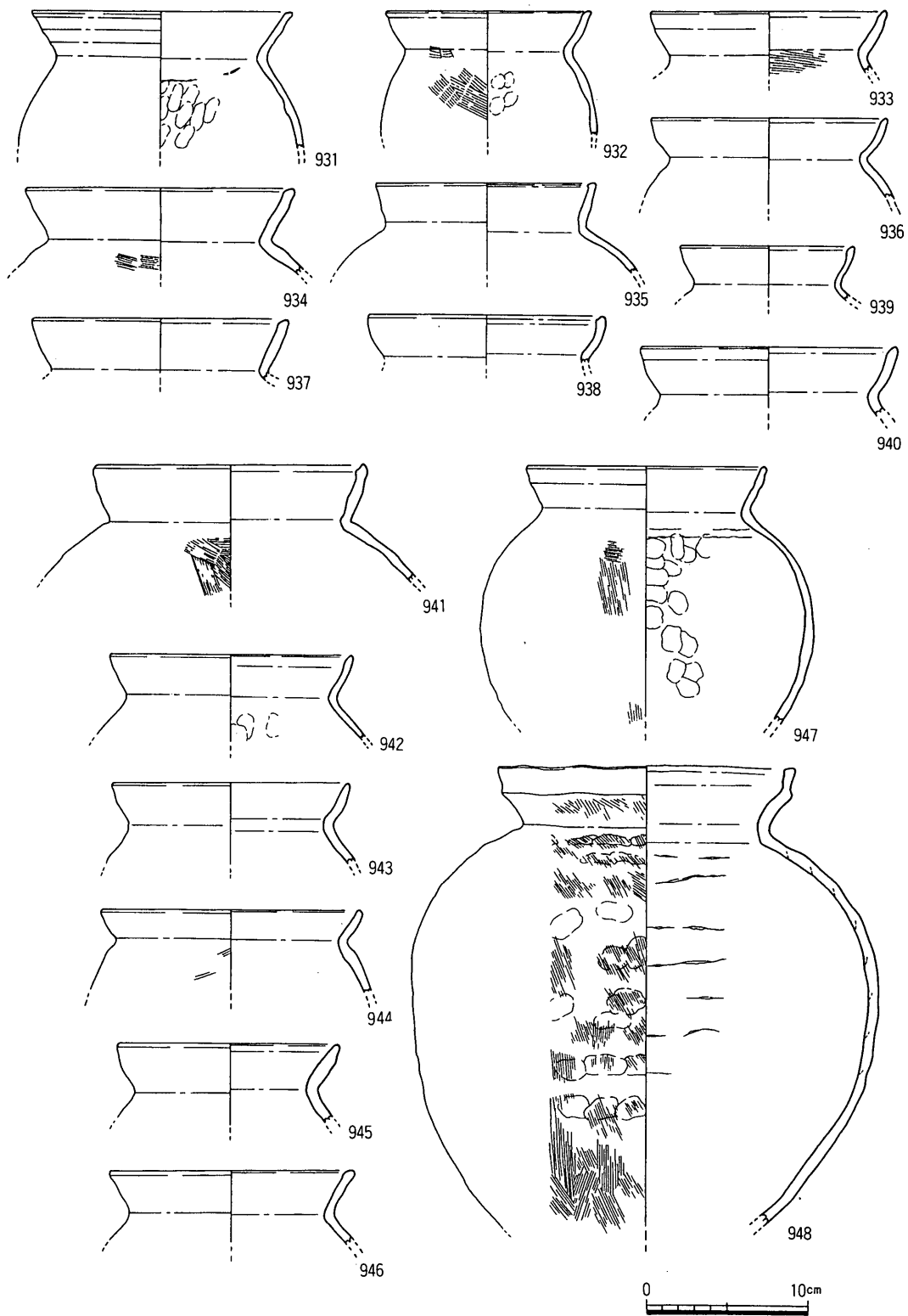
第159図 SH02平・断面図

内彎し、端部は丸くおさめる。また、内面に斜め方向のハケ目が若干みられる。936も丸く張った胴部から内彎しながら端部を丸くおさめる口縁部をもつ。934は丸く張った胴部からくの字状に外反し、平らにナデた端部をもつ。外面に横方向のハケ目が若干みられる。935は球状に張った胴部からやや直立気味に立ち上がりやや内方へつまみ出す端部をもつ。939は頸部より緩やかに内彎し、端部がやや肥厚する。937はやや肥厚し、内方へ斜めにナデる端部をもつ。938は口縁部が厚手で短く内彎し、端部は内方へ斜めにナデている。940は936と同じく内彎しながら端部を丸くおさめる口縁部をもつ。941は大きく球状に張った胴部からやや直立気味に斜め外方へ立ち上がる口縁部をもつ。口縁部の中ほどをやや肥厚させ、端部は内方へ強くナデており凹線状を呈する。外面には斜め方向のハケ目がみられる。942は胴部からわずかに内彎気味に立ち上がり、端部内面を強くナデている。胴部内面には指頭圧痕がみられる。943は胴部から内彎しながら立ち上がり、端部を丸くおさめる口縁部をもつ。944は頸部に若干の段をもち、わずかに内彎しながら立ち上がる短い口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさめている。945は少し小振りで口縁中ほどがやや肥厚し、端部は外面を強くナデて丸くおさめている。946はわずかに外反しながら立ち上がる口縁部をもつ。端部は若干外方へつまみ出している。947はほぼ球状に張った胴部からわずかに内彎しながら立ち上がる口縁部をもつ。口縁部内面および頸部内面に粘土紐のつなぎ目と指頭圧痕が顕著にみられ、外面には斜め方向のハケ目がみられる。いわゆる布留型甕と呼ばれているものに属する。948は大型の土師器甕である。胴部上半部が球状に張り、外反しながら立ち上がり、途中で直立気味に屈曲する複合口縁をもつ。内面には粘土紐のつなぎ目が顕著にみられ、外面には指頭圧痕ののち斜め方向のハケ目をほぼ全体に施している。949は胴部から緩やかに外反しながら立ち上がり、端部を丸くおさめる。950は口縁部中ほどを若干肥厚させ、やや厚手で丸くおさめる端部をもつ。951は短く厚手の口縁部をもつ。端部は丸くおさめている。952は大きく外方へ屈曲する口縁部をもつ。

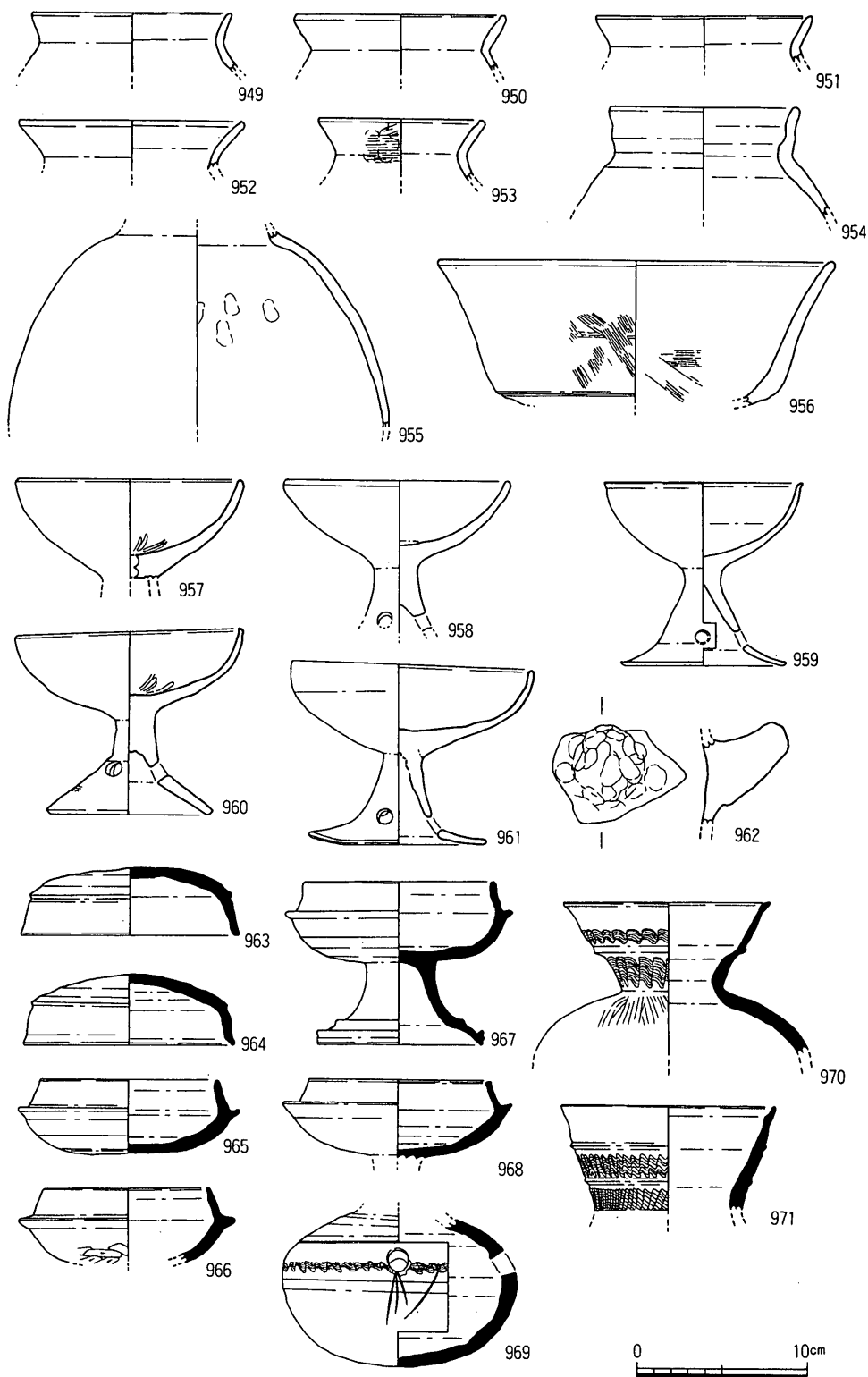
953はやや緩やかに外方に立ち上がる口縁部をもつ。外面に横方向のハケ目がみられる。955は胴部下半がもっとも張る部分で頸部からやや内方へ立ち上がり、大きく外方へ張り出す口縁部をもつものと思われる。

954は土師器直口壺である。球状に張った胴部から直線的に立ち上がる口縁部をもつ。口縁部には粘土紐のつなぎ目が顕著で段状を呈している。

956は大型の土師器高杯の杯部である。ほぼ平らな杯部から大きく屈曲しやや外反しながら端部を丸くおさめる口縁部をもつ。内外面ともに横および斜め方向のハケ目がみられ、

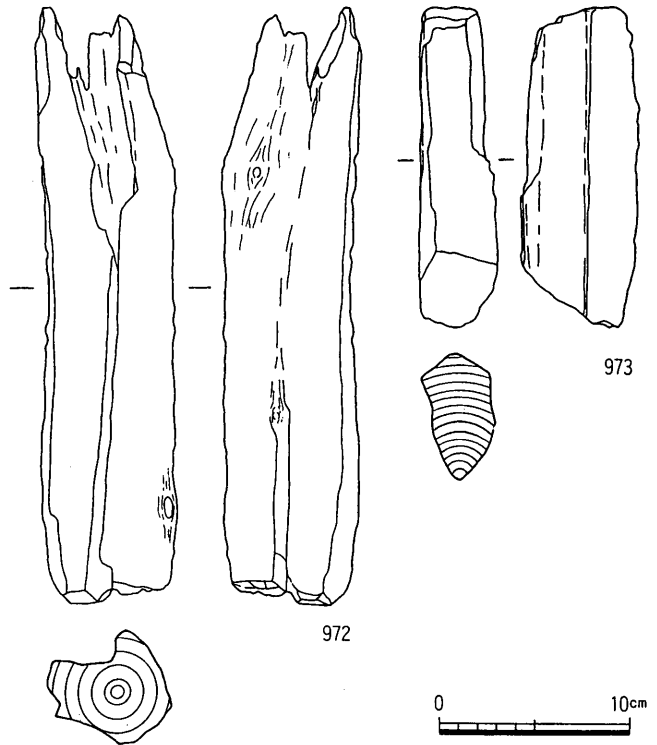


第160图 SH02出土遗物实测图(1)



第161图 SH02出土遺物実測図(2)

屈曲部外面に1条の沈線を巡らす。  
 957~961は土師器高杯である。い  
 ずれも屈曲部をもたずに緩やかに  
 口縁部に至るタイプのものである  
 が、脚部から横に広がり緩やかに  
 立ち上がるもの(960・961)も含  
 まれる。胎土は精製された良質の  
 ものをい、調整も丁寧である。  
 957・960の内面にはミガキがわず  
 かにみられる。脚部端まで復原で  
 きるものは959・960・961の3点で  
 端部に至る屈曲部が円孔より上  
 あるもの(960)と円孔より下  
 あるもの(959・961)とがある。円  
 孔の数はいずれも3個である。



第162図 SH02出土遺物実測図(3)

962は土師器甑の把手部分である。胴部に粘土塊を付け指で丁寧に張り付けており、指頭  
 圧痕が顕著にみられる。把手の向きは上向きであると思われる。

963~971は須恵器である。963・964は杯蓋である。天井部はやや平坦であるが、屈曲部  
 に明瞭な稜が認められ、ヘラケズリも天井部まで及んでいる。965・966は杯身である。や  
 や器高が低くなる傾向がみられるが、受け部の立ち上がりは長く底部までヘラケズリが及  
 んでいる。967・968は高杯である。967は短脚で透孔は認められない。裾部およびそのすぐ  
 上は肥厚しており、突帯状を呈する。杯部の受け部立ち上がりは長く短部は丸く収めてい  
 る。作りは非常に丁寧に焼成も極めて堅緻である。968は脚部の欠損する高杯であるが、杯  
 部の器高がやや低く、受け部の立ち上がりも内向しており、967より後出する要素をもつて  
 いる。

969は須恵器甗である。頸部より上が欠損している。体部上半部に最大径をもち、やや上  
 向きの円孔が1つ空いている。円孔のすぐ下には数条の波状文が巡っている。また、円孔  
 下端より3条、その向かって右側に1条のヘラ記号が認められる。



970は壺の頸部から口縁部である。頸部と口縁部の中間に段があり、段の上下には数条の波状文が認められる。頸部と口縁部の接合部外面には粗いハケ目が若干認められる。

971はやはり壺の口縁部である。外面には低い突帯が2条巡っており、その下に各々数条の波状文が認められる。

これらの遺物の特徴や主軸方位からみてこの竪穴住居跡も古墳時代中期から後期（5世紀中頃～6世紀前半）のものと思われる。

第162図972・973はSH02柱穴から出土した柱材である。いずれも上部が欠損しているが、下端部は平たく削っている。出土状況からみて斜めではなく、まっすぐに立っていたものと思われる。

### SH 03 （第163～164図）

F地区北東部で検出した5.2m×5.4mの竪穴住居跡である。主軸方位はN57°Eで、残存状況は悪く、深さは平均して約0.1mである。主柱穴は4つであると思われる、カマド等の施設は確認できなかった。壁溝もなく、周囲は中心部よりも一段高く、ベッド状遺構の存在をうかがわせる。このベッド状遺構と思われるものは南側で一部途切れており、あるいはこの途切れた部分が入口になる可能性も考えられる。埋土は全体的には黒色粘土で、地山である黄色粘土の含まれる量により2層に大別できる。

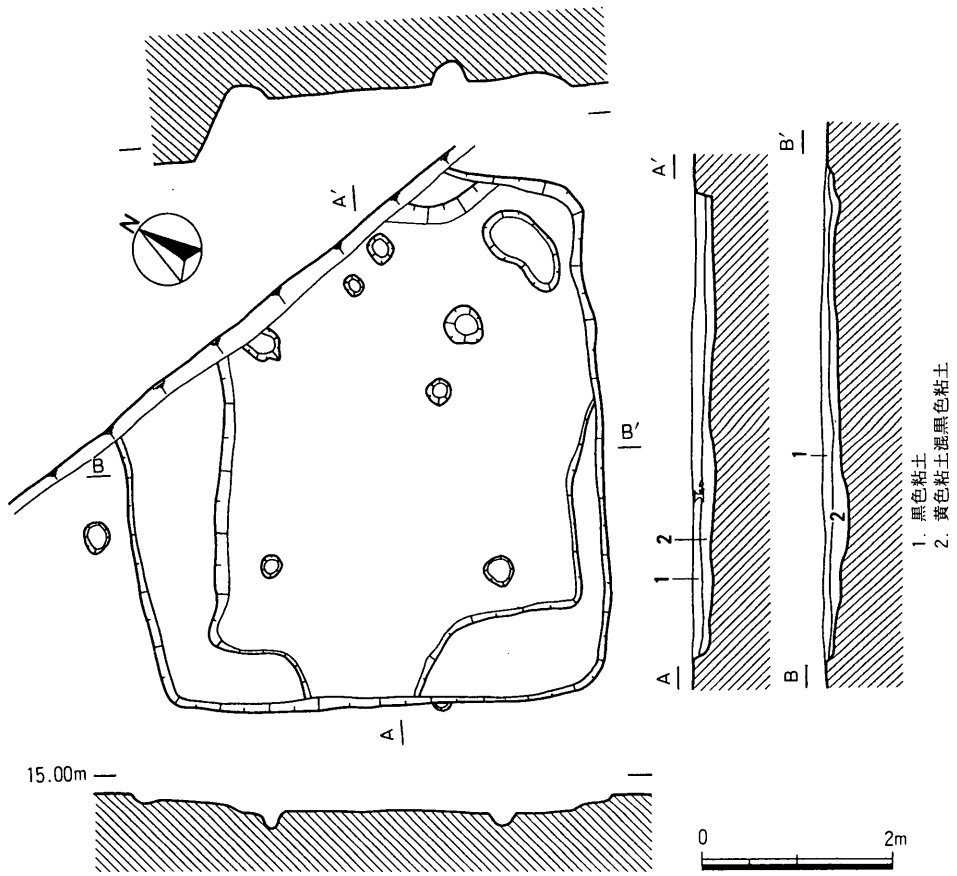
出土遺物は土師器・須恵器等であり、コンテナ約1箱分ほどが出土している（第164図）。974～976は土師器甕の口縁部である。974・976はわずかに内彎しながら端部内面をナデている。975は胴部があまり張らないタイプで内彎しながら大きく外方へ張り出している。

977～979は土師器高杯である。杯部と口縁部の境に段をもつもの（977）ともたずに緩やかに立ち上がるもの（979）がある。979の内面には中心から放射状にミガキ調整がみられる。978は円孔を3個もつ脚部である。

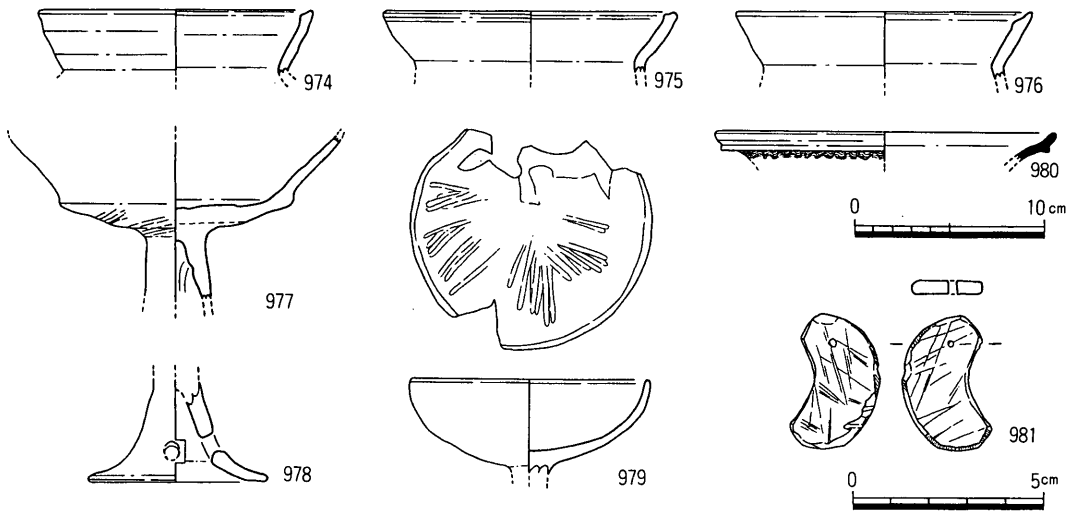
980は須恵器壺の口縁部であると思われる。端部すぐ下に断面三角形の突帯状の段があり、その下部に波状文を施す。

981は滑石製の勾玉である。長さ3.5cm、幅1.8cm、厚さ4mmで上部に直径2mmの孔が空いている。表面は丁寧に研磨されているが、若干擦痕が認められる。

この竪穴住居跡も遺物の特徴や主軸方位からみて古墳時代中期から後期（5世紀中頃～6世紀前半）のものと思われる。



第163图 SH03平·断面图

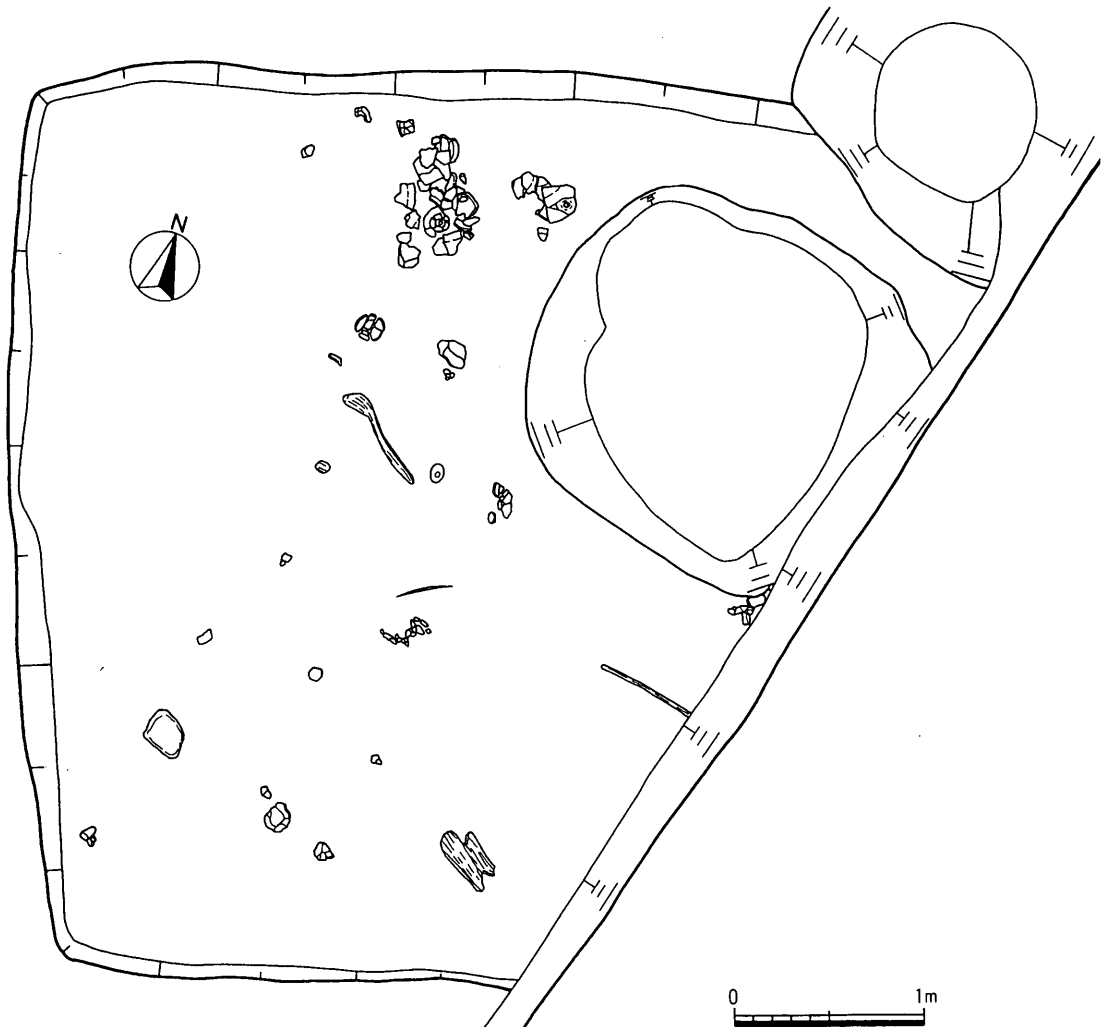


第164图 SH03出土遗物实测图

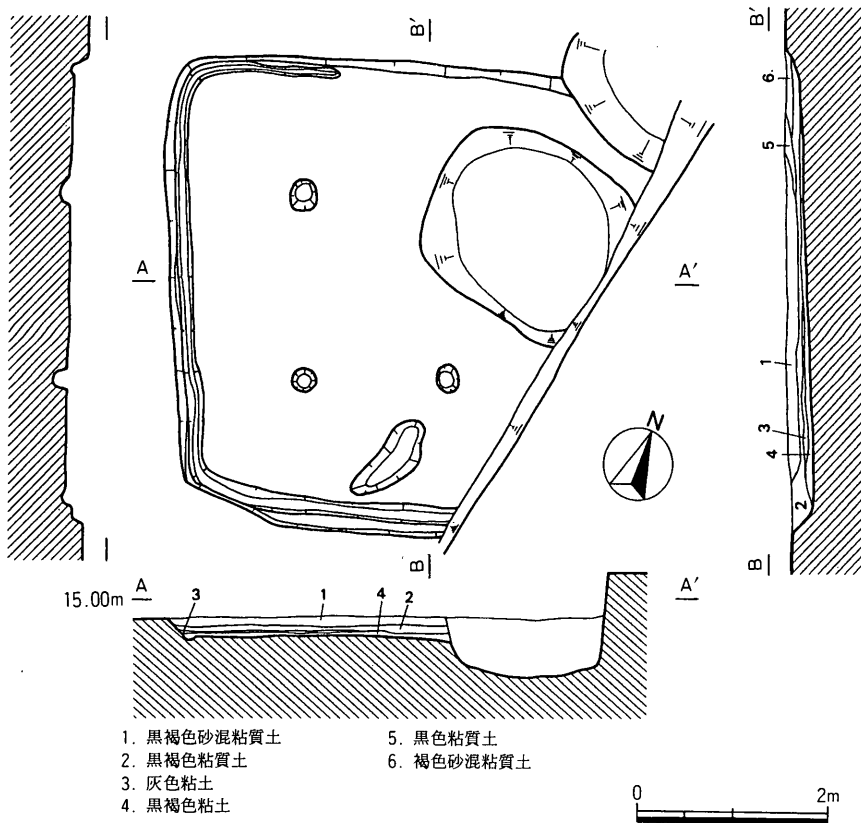
SH 04 (第165～167図)

F地区南東部で検出した4.5m四方の竪穴住居跡である。近世以降の攪乱2基および現代用水路によって東側約1/5が破壊されていた。主軸方位はN67°Eで主柱穴は4つであると思われるが、北東部の1つは攪乱によって破壊されていた。また、南部の隅をかすめるようにSD35が流れており、若干南部の隅を切られている。周囲には幅0.1～0.2mの壁溝が西側を中心に巡っていた。残存状況は悪く、深さは平均して約0.2mである。埋土は粘土と粘土の二層に大別でき、カマド等の施設は認められなかった。

出土遺物は全て土師器であり、甗・高杯等がコンテナ約1箱分出土している(第167図)。982～985は土師器甕の口縁部である。いずれも大きく張った胴部から外方へやや内彎しな



第165図 SH04遺物出土状況平面図



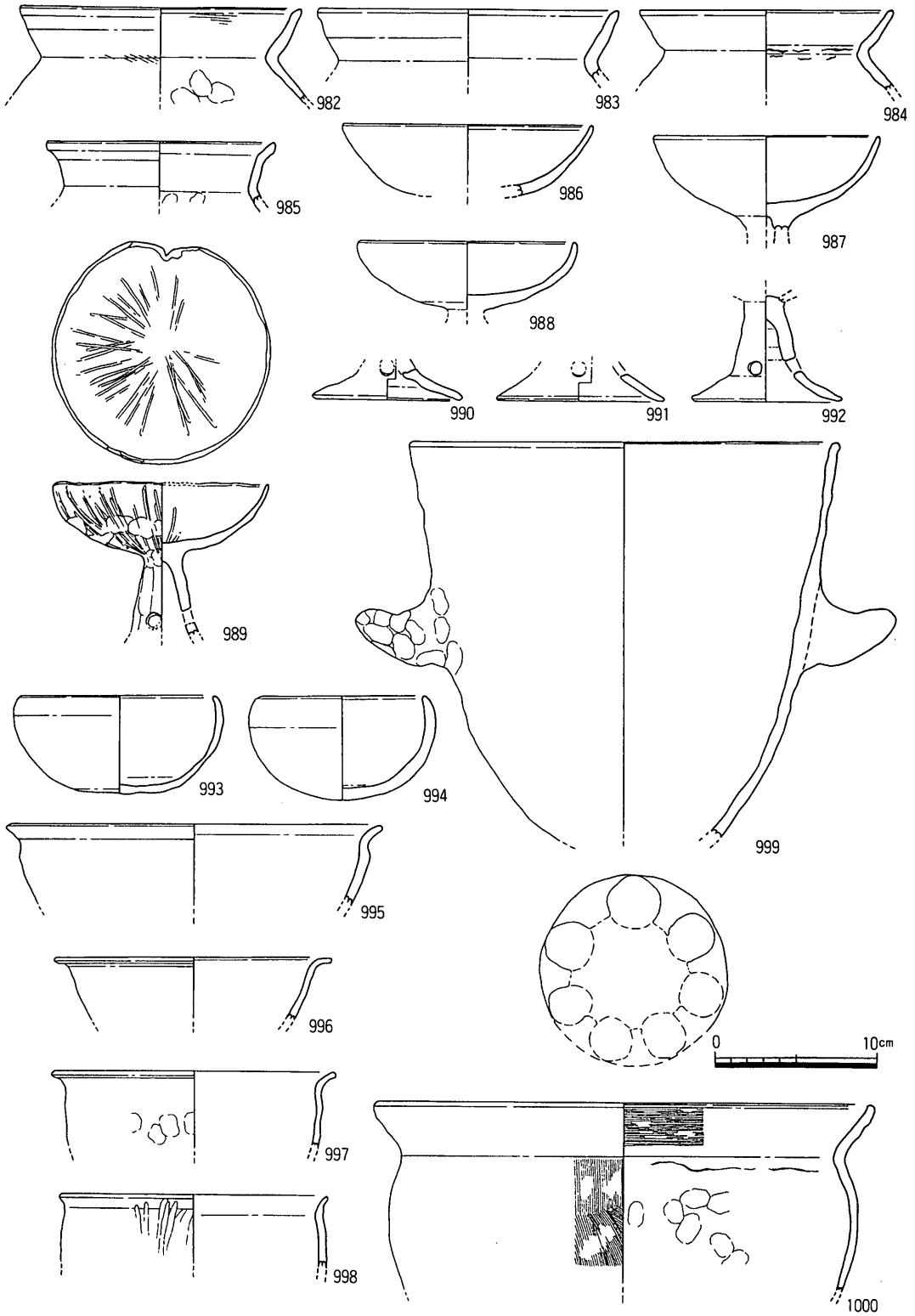
第166図 SH04平・断面図

がら立ち上がる。端部は丸くおさめるもの（983・984）と内面をナデるもの（982）がある。982・984の内面には横方向のハケ目がみられ、982の外面にも若干のハケ目がみられる。985は胴部からやや外方へ直線的に立ち上がり、さらに外方へ折り曲げて端部を成形している。内面にはわずかに指頭圧痕がみられる。

986～989は土師器高杯である。いずれも杯部から口縁部に緩やかに立ち上がり、口縁端部を丸くおさめるタイプのものである。杯部の器高はやや低く、法量は小さい。

989は脚部を欠損するが、杯部はほぼ完形である。精製された良質の胎土で杯部の内外面ともに放射状のミガキ調整が顕著にみられる。990・991・992は脚部である。いずれも円孔をもち、円孔の下部で屈曲し広がる。

993～998は土師器鉢である。993・994は底部から球状に内彎しながら立ち上がり、端部を丸くおさめる小型の鉢である。995～998は中型もしくは大型の鉢である。いずれも胴部から外反する口縁部をもつ。995・996は半球状の胴部をもつ。口縁部は斜め上方へ折り曲げるもの（995）とほぼ真横に折り曲げるもの（996）とがある。997・998は頸部から胴部



第167图 SH04出土遺物実測図

に至る部分が直線的でやや長胴である。口縁部は短く折り曲げる。1000は半球状の胴部をもつものである。口縁部は斜め外方へ開き、端部は丸くおさめる。口縁内面に横方向のハケ目、胴部内面には指頭圧痕が顕著である。外面には斜め方向のハケ目がみられる。鍋であると思われる。

999は土師器甕である。底部の一部が欠損している以外はほぼ完形に復原できた。やや粗い胎土であるが、丁寧な作りをしている。胴部中央やや上側に上向きに把手が付き、把手周辺に指頭圧痕が顕著にみられる。底部の孔は残っている部分から  $7 + \alpha$  個と推定される。

これらの土師器は須恵器が全く出土していないが、甕の把手の向きや高杯の形態等からみて他の竪穴住居跡と同じく古墳時代中期から後期（5世紀中頃～6世紀前半）のものと思われる。

#### SH 05 （第168～171図）

G地区b-52で検出した4.2m四方の隅丸方形の竪穴住居跡である。主軸方位はN63°Eで、主柱穴は4つである。また、西側の一部を除き、ほぼ全周に幅0.1～0.2mの壁溝が巡っている。壁溝の途切れた西側の部分があるいは入り口かも知れない。その他、炉やカマド等の施設は確認できなかった。4つの主柱穴には全て、柱材が遺存しており、柱の直径は約0.2mであると思われる。この竪穴住居跡の埋土は大きく2層に大別でき、上層は黒褐色土、下層は黒灰黄色土である。深さは約0.2mで残存状況は悪い。また、壁溝の途切れた部分のそばに直径約0.6m・深さ約0.2mのピットを検出した。この竪穴住居跡に伴うものかどうかは出土遺物がないために不明である。

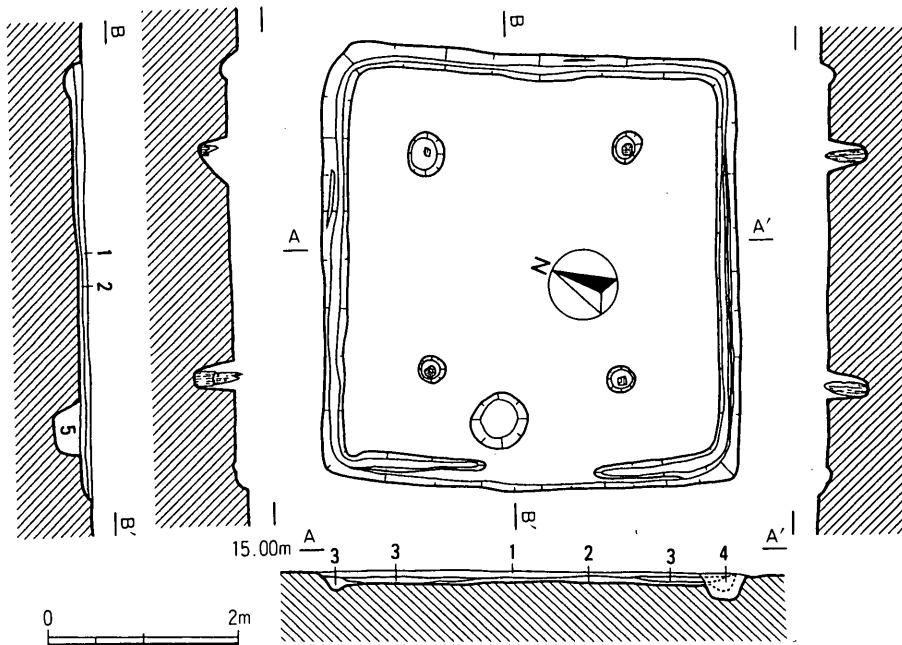
出土遺物は須恵器・土師器のほか石器もみられる。（第170～171図）

1001は土師器高杯の脚部片である。精製された良質の胎土を用いており、端部は丸くおさめる。

1002は大型の須恵器甕の底部である。ほぼ球形の胴部をもつものと思われる。外面には平行叩きが全体に認められる。内面は丁寧にナデられており、おそらくタタキによる当て具の痕跡をナデ消したものと思われる。

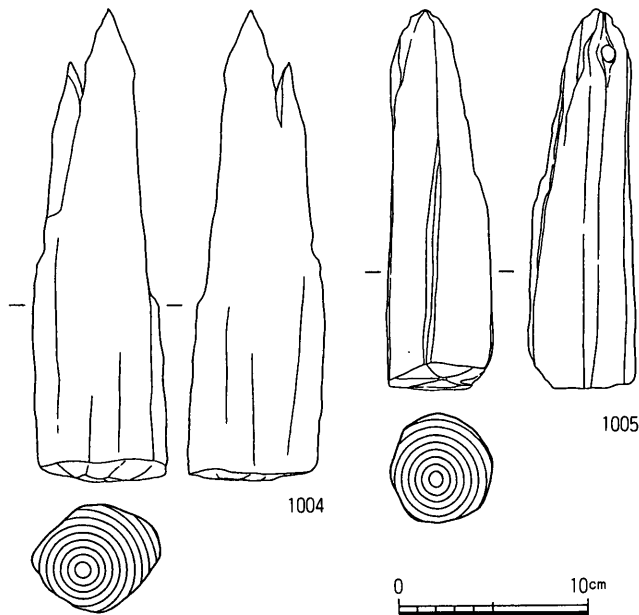
1003は砂岩製の敲石である。長辺の両側に明らかに使用による痕跡が認められる。

1004・1005は主柱穴から出土した柱材である。SB12等と同じく先端をほぼ平らに削っているのが特徴である。腐食のため、表面の調整は不明である。



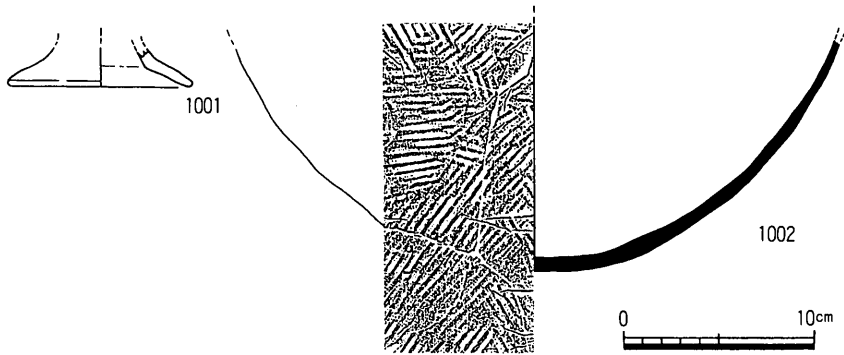
- 1. 黒褐色粘質土
- 2. 黒灰黄色粘質土
- 3. 黒褐色粘質土(黄色土をブロックで含む)
- 4. 灰褐色粘質土
- 5. 黒色粘質土

第168図 SH05平・断面図

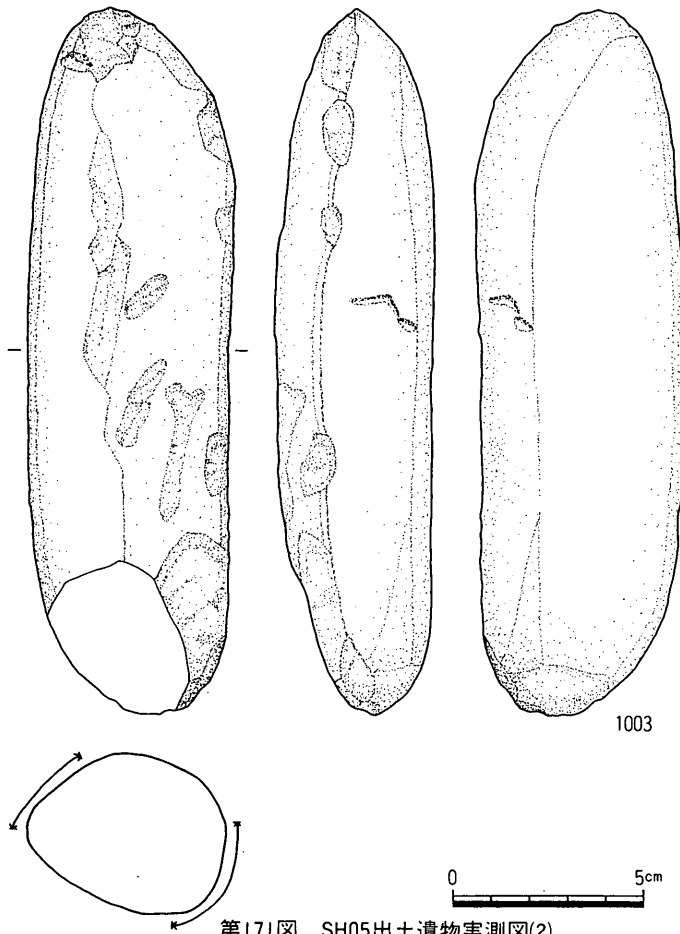


第169図 SH05柱穴出土柱材実測図

大型の須恵器甕の特徴よりこの竪穴住居跡も他と同じく古墳時代中期から後期（5世紀中頃～6世紀前半）のものと思われる。



第170図 SH05出土遺物実測図(1)

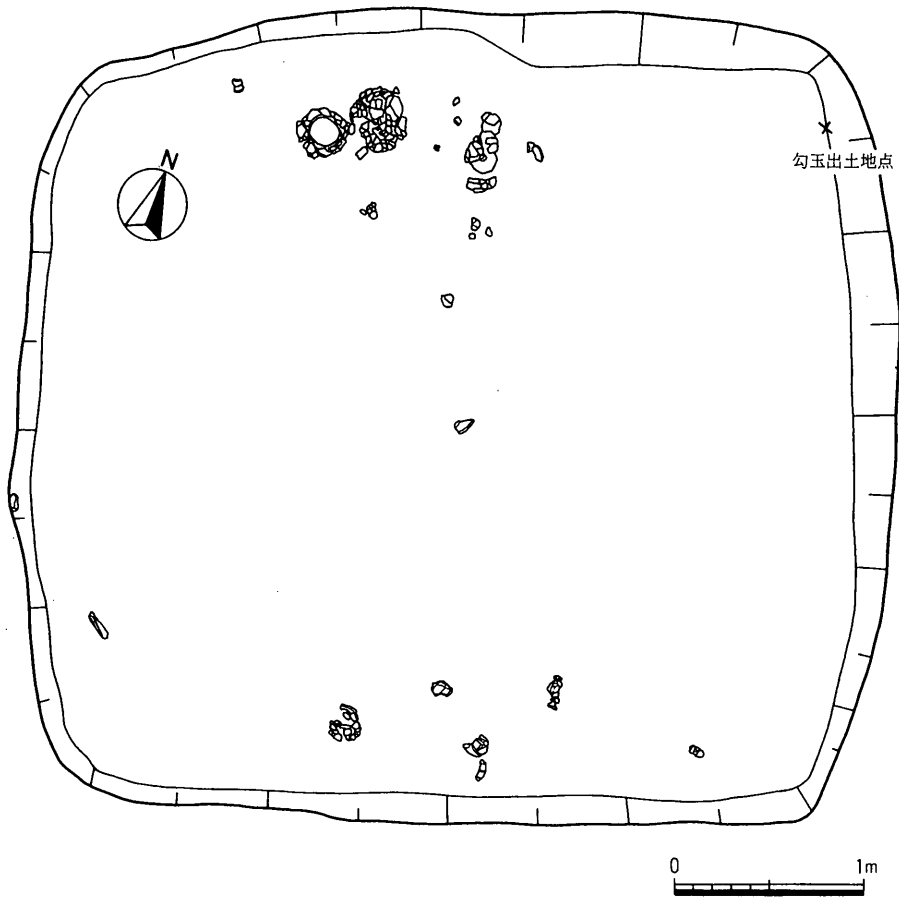


第171図 SH05出土遺物実測図(2)

**SH 06** (第172~175図)

G地区 a・b-52・53で検出した4.2m×4.3mの隅丸方形の竪穴住居跡である。主軸方位はN58°Eで、支柱穴は6つである。また、ほぼ全周に幅0.1~0.2mの壁溝が巡っている。その他、炉やカマド等の施設は確認できなかった。6つの支柱穴には全て、柱材が遺



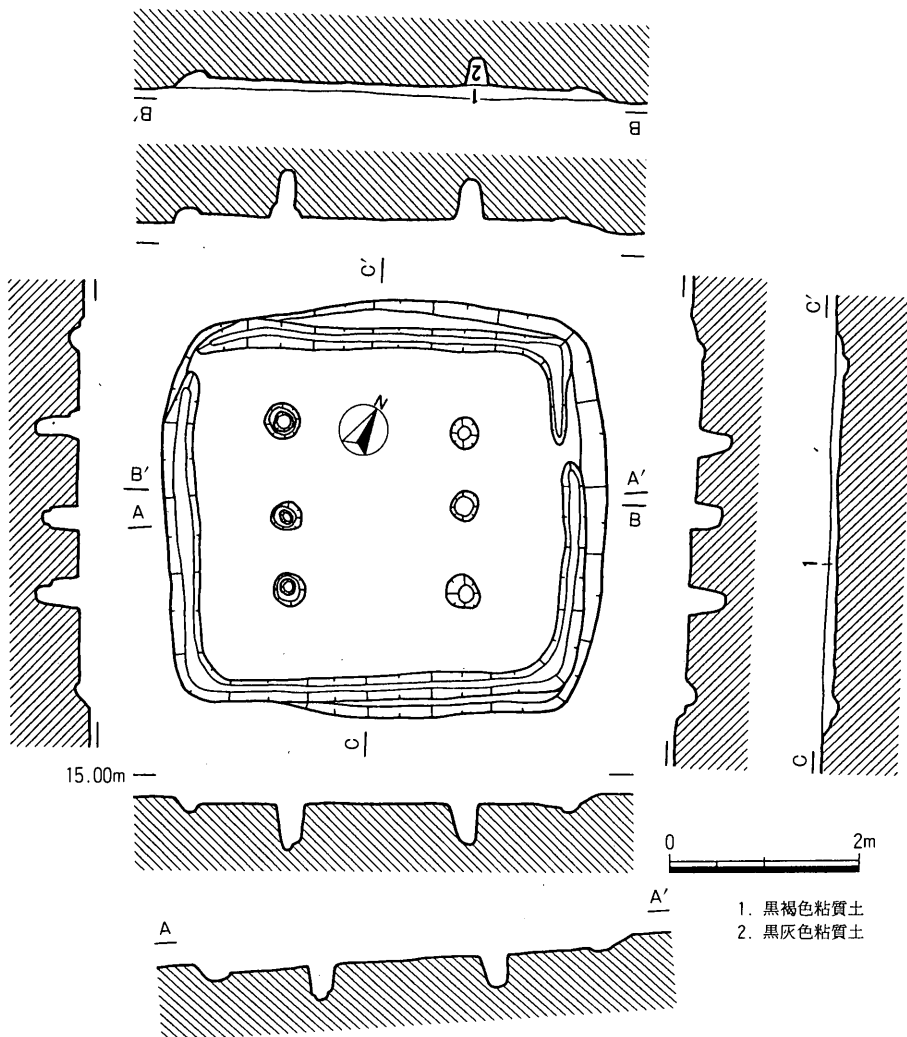


第172図 SH06遺物出土状況平面図

存しており、柱の直径は約0.3mであると思われる。このような6つ以上の支柱穴があたかも掘立柱建物跡のように並んでいる竪穴住居跡は大分県など九州地方に多く見られるが、県内では検出例が少なく坂出市下川津遺跡に7世紀前半の同種の竪穴住居跡が検出されている(SHIII51)。この竪穴住居跡の埋土は大きく2層に大別でき、上層は黒褐色土、下層は黒灰色土である。深さは約0.2mで残存状況は悪い。

出土遺物は土師器・須恵器等がほとんどであるが、注目すべきものに琥珀製の勾玉(1014)がある。これは、北東隅の壁溝そばで出土した。上半分は欠損しているが、残っている部分に貫通していない孔が認められ、この竪穴住居跡内で穿孔作業を行っていたことがうかがえる(第174図)。

1006～1008は土師器甕の口縁部である。やや内彎しながら立ち上がり、端部内面をナデているもの(1006)・端部を肥厚させ丸くおさめるもの(1007)・やや直線的に立ち上がり、

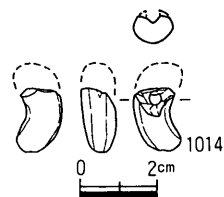


第173図 SH06平・断面図

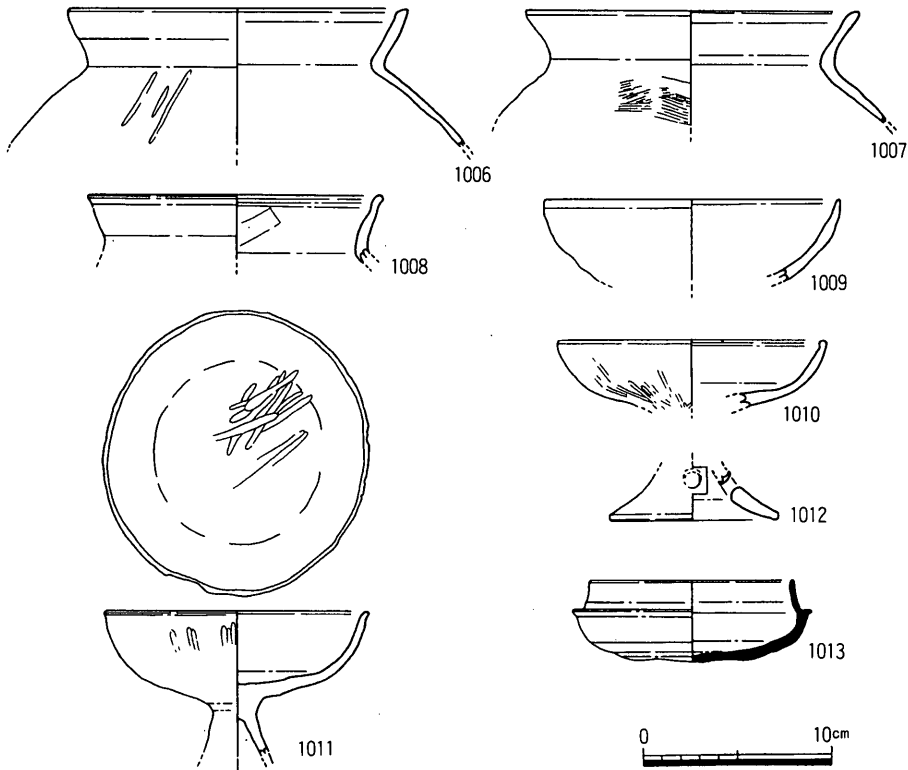
端部を強くつまみ出しているもの (1008) がある。

1009~1011は土師器高杯である。法量に若干の差はあるもののいずれも杯部から緩やかに弧を描きながら口縁部に至る。1010は外面に、1011は内外面にミガキ調整が認められる。

1013は須恵器杯身である。受け部の立ち上がりは長く、端部は割にシャープに仕上げられている。作りは丁寧でヘラケズリも底部まで及んでいる。



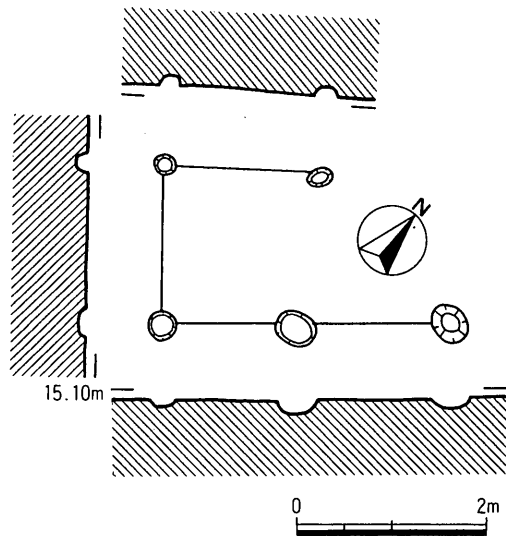
第174図  
SH06出土遺物実測図(I)



第175図 SH06出土遺物実測図(2)

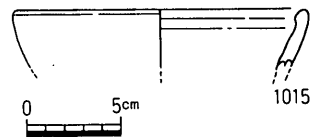
**SB 10** (第176~177図)

SB27と重なりあった状態で検出した1間(1.7m)×2間(3.0m)以上の掘立柱建物跡である。北東側のピットは検出できなかったが柱穴の中心間の距離は桁行1.7m、梁間1.5mを測る。主軸方向はN50°Wで、埋土はSB27よりも粘性の強い黒褐色土である。主軸方位はF・G地区の掘立柱建物跡と近似する。ピットの大きさは直径約0.2~0.4mで、深さは約0.1mである。やはり雨落ち溝等の付属施設は確認されなかった。



第176図 SB10平・断面図

出土遺物は土師器甕の口縁部が1点出土している(第177図1015)。口縁端部をやや内側につまんで丸くおさめるもので、いわゆる布留型甕の口縁部と思われる。主軸方位と遺物の特

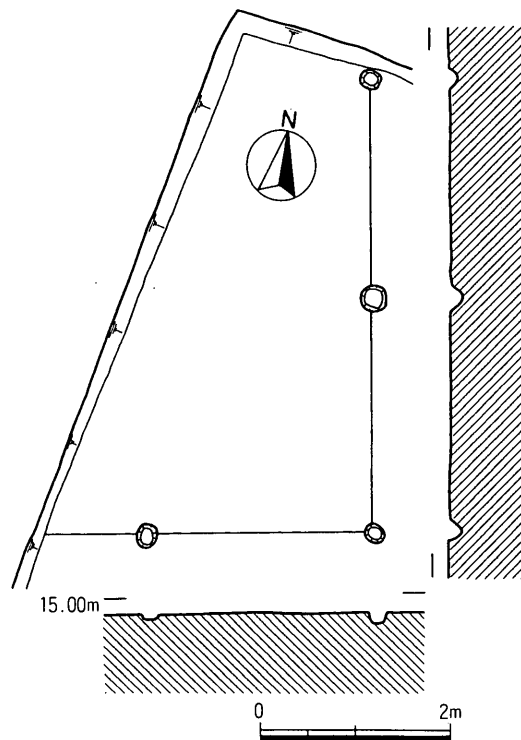


第177図 SB10出土遺物実測図

徴からみてこの掘立柱建物跡は古墳時代中期から後期（5世紀中頃～6世紀前半）のものと思われる。

### SB 11 （第178図）

F地区 a-51北西隅で検出した1間(2.2m)×2間(4.4m)以上の掘立柱建物跡である。主軸方向はN8.5°EでSB12と一致する。ピットの埋土もよく似ており、大きさは約0.3m、深さは約0.1mである。西側が調査区外のため、規模は不明であるが、主軸方向が一致すること、埋土が極めてよく似ていることから、SB12と同じ2間×2間で同時期に共存していた可能性が高い。遺物は出土しなかった。



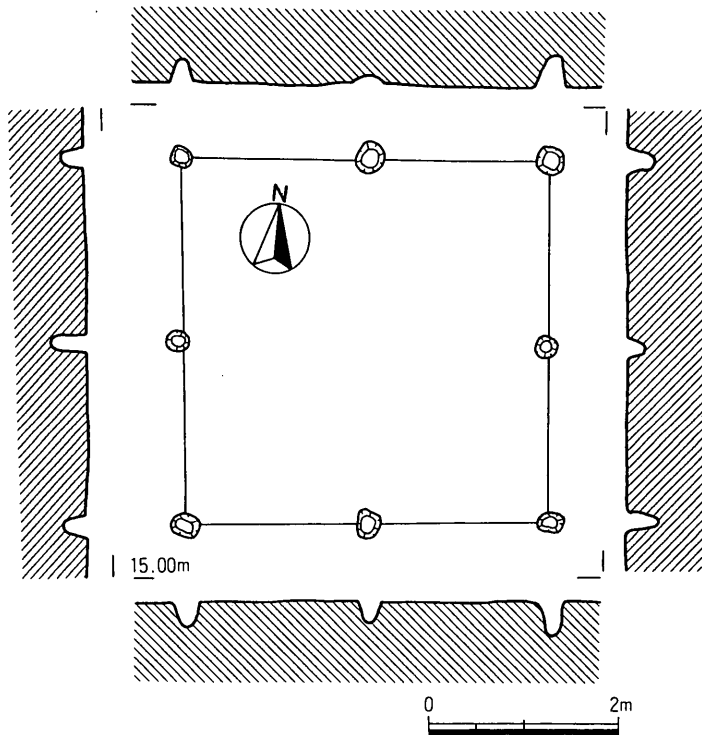
第178図 SB11平・断面図

### SB 12 （第179～180図）

F地区南西隅で検出した2間(3.8m)×2間(3.9m)の掘立柱建物跡である。主軸方向はN6°Eで、柱穴間の距離はほぼ1.9mで、SB11と同規模である。ピットの埋土は黒褐色粘質土で、大きさは約0.3m、深さは約0.3mで、ほとんどの柱穴に柱材が残っていた。この柱材から推定される柱の太さは約10～15cmである。第180図1016～1018が残っていた柱材である。いずれも、腐食が激しく表面の調整等は判別し難いが、底にあたる部分は表面

から中心に向かってほぼ平らに削っている。1016の材質はコナラ属コナラ亜属コナラ節の一種である。

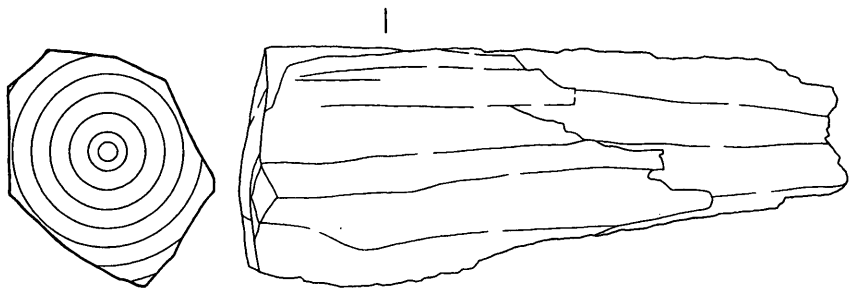
柱穴からその他の遺物は出土しなかったが、主軸方向がほぼ近似すること等からみてS B11等と同じく古墳時代のものと思われる。



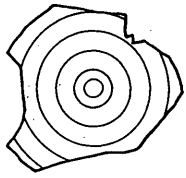
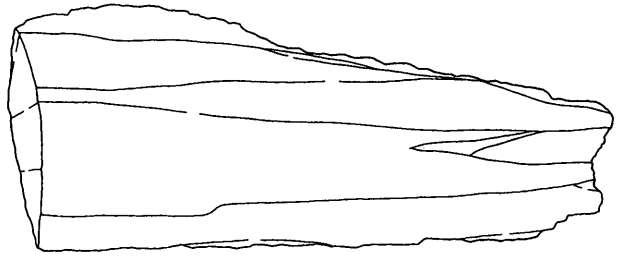
第179図 SB12平・断面図

### S B 13 (第181図)

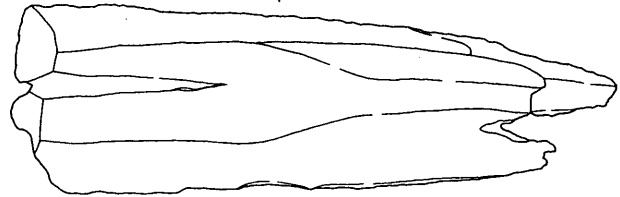
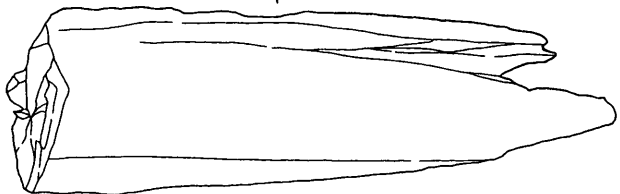
F地区a-51北東隅で検出した2間(3.4m)×2間(3.6m)の掘立柱建物跡である。主軸方向はN59°Eで、柱穴間の距離は桁行1.7m、梁間1.8mである。ピットの埋土は黒褐色粘質土で、大きさは約0.2m、深さは約0.2mである。柱穴から遺物は出土しなかったが、主軸方向が一致しているS B14のピットを一部破壊していることからS B14を建て替えた掘立柱建物跡であると考えられる。また、この掘立柱建物跡のすぐ北東部を流れるS D23やF・G地区の竪穴住居跡と主軸方向が一致することから、S B11とS D23はほぼ同時期に共存していた可能性が高く、古墳時代の掘立柱建物跡であると思われる。



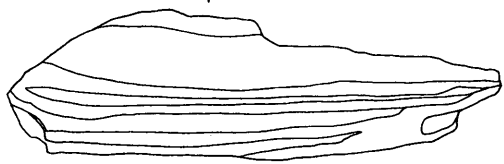
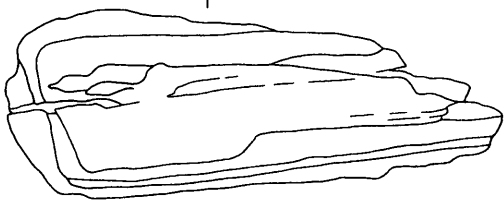
1016



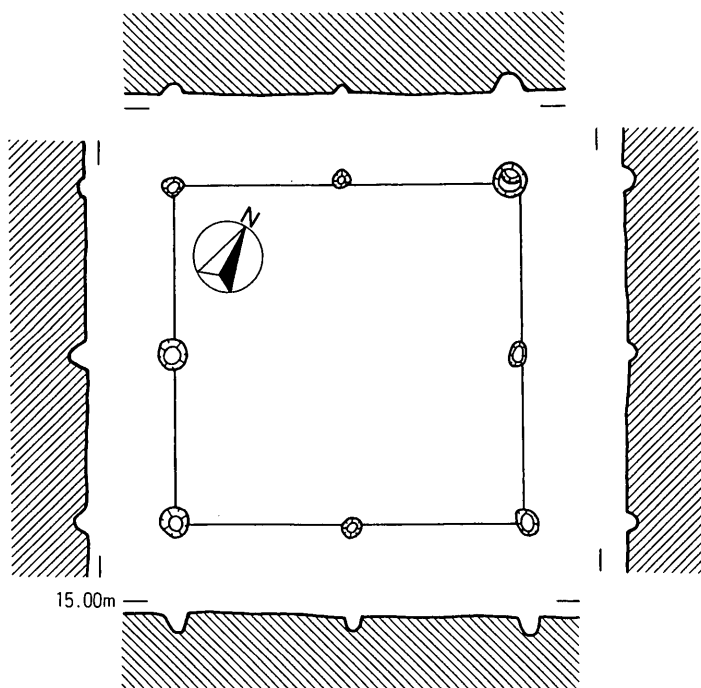
1017



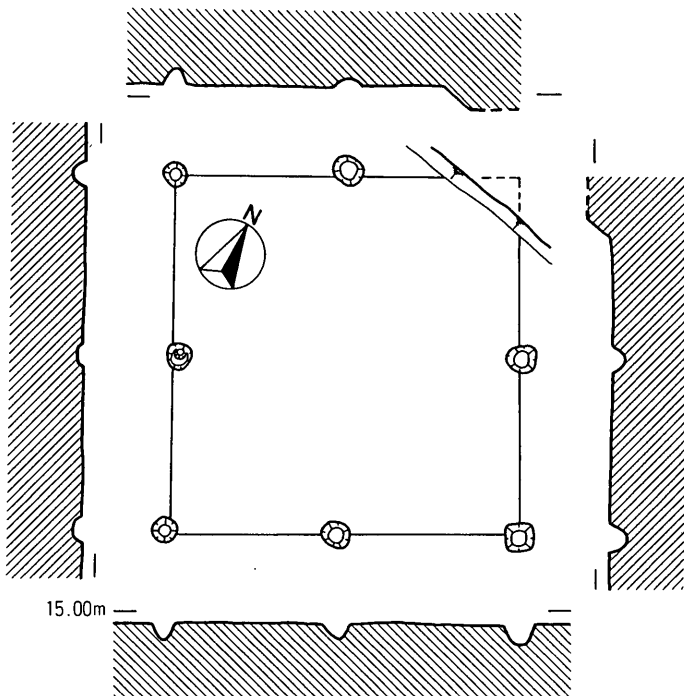
1018



第180图 SBI2柱穴出土柱材类测图



第181图 SB13平·断面图



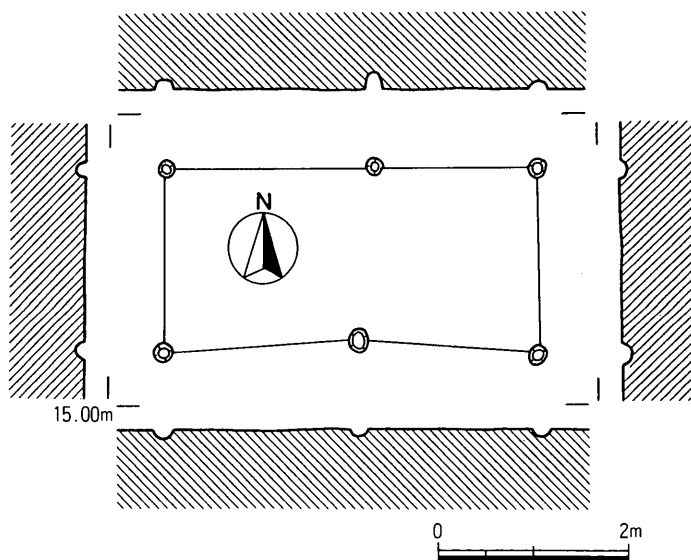
第182图 SB14平·断面图

### SB 14 (第182図)

F地区a-51北東部で検出した2間(3.6m)×2間(3.8m)の掘立柱建物跡である。主軸方向はN60°EでSB11と一致する。柱穴間の距離は桁行1.8m, 梁間1.9m, ピットの埋土は暗黒褐色粘質土で, 大きさは約0.3m, 深さは約0.2mである。柱穴の一部をSB11に破壊されており, SB11に建て替えられたものと思われる。また, 梁間1間目にSD23が通っており, この溝状遺構よりも時期的には古いものと思われるが, さほど時間は経過していないものと思われ, やはり他の掘立柱建物跡と同じく古墳時代のものと思われる。遺物は出土しなかった。

### SB 15 (第183図)

G地区b-52で検出した1間(1.8m)×2間(3.9m)の掘立柱建物跡である。柱穴の中心間の距離は約1.8m, 柱穴の大きさは直径約0.2m, 深さは約0.1mである。遺物は出土しなかったが, 主軸方位がN90°EとSB18, SB19とほぼ一致するため, やはり古墳時代の掘立柱建物跡であると思われる。



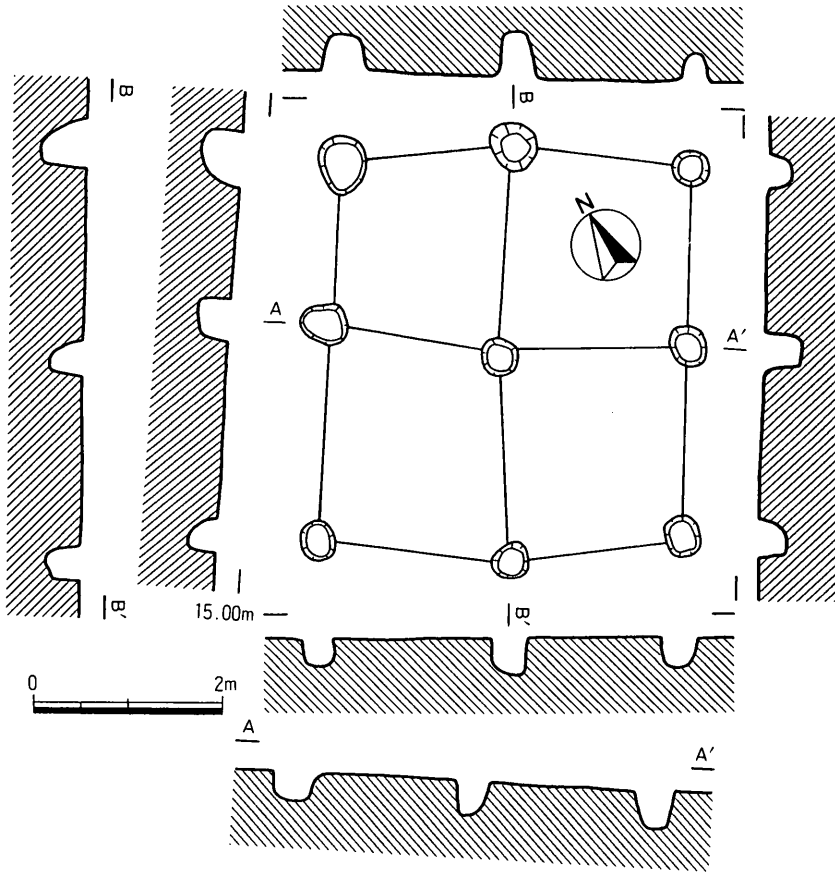
第183図 SB15平・断面図

### SB 16 (第184図)

G地区b-52でSH05と重なりあって検出した2間(3.8m)×2間(3.8m)の総柱の掘立柱建物跡である。柱穴の中心間の距離は約1.9m, 柱穴の直径は約0.5m, 深さは約0.4mである。主軸方位はN59°Eで, 西北部の2つの柱穴はSH05が埋没したあとに営まれたものである。

また, 北東部のすぐそばを部分的に避けるようにSD24が流れていることから, SD24と同時期にこの掘立柱建物跡が機能していたことが推定される。なお, SB16は, ほぼ同





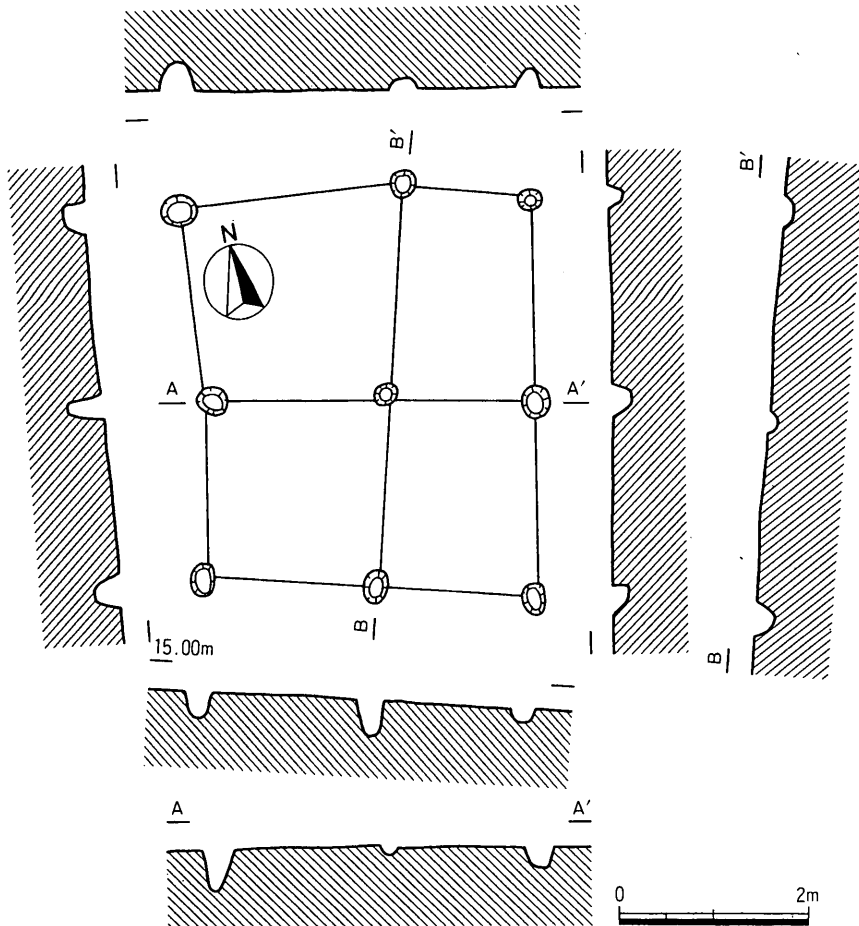
第184図 SBI6平・断面図

じ場所に少し小さめの柱穴に建て替えられている (S B17)。

遺物は全く出土しなかったが、主軸方向等からみて、やはり古墳時代のものと思われる。

### S B 17 (第185図)

S B16の建て替えと考えられる2間(3.8m)×2間(4.0m)の掘立柱建物跡である。柱穴間の距離は桁行1.9m, 梁間2.0mである。柱穴の大きさ約0.3m, 深さ約0.2mと柱穴の規模がやや小さめになった以外はほとんどS B16と変わらない。したがって、時期・性格等もS B16と同じものと考えられる。遺物は出土しなかった。



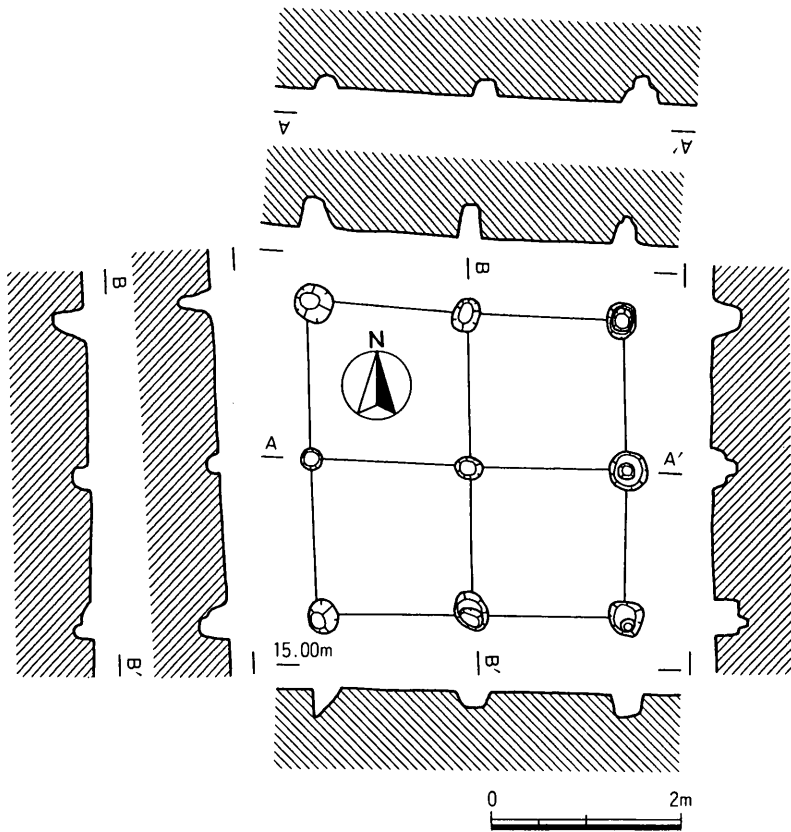
第185図 SB17平・断面図

**SB 18** (第186図)

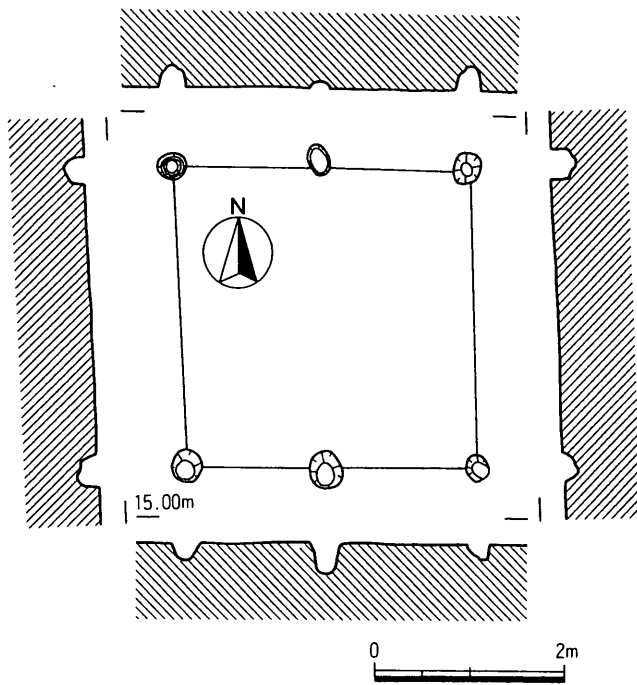
G地区 a-53でSB19と重なりあって検出した2間(3.3m)×2間(3.4m)の総柱の掘立柱建物跡である。柱穴の中心間の距離は約1.7m、柱穴の大きさは約0.3m、深さも約0.3mである。主軸方位はほぼ真北で、SB15と近似する。したがって、この掘立柱建物跡も古墳時代のものと思われる。遺物は出土しなかった。

**SB 19** (第187図)

SB18の建て替えと考えられる1間(3.1m)×2間(3.1m)の掘立柱建物跡である。SB18に比べ、桁行が1間縮まったこと、総柱でなくなったこと以外はほとんどSB18と変わらない。したがって、時期等もSB18と同じ古墳時代のものと考えられるが、総柱の掘立柱建物跡を倉庫とみなすならば、この掘立柱建物跡は従来倉庫であったものを建て替え、



第186图 SB18平·断面图



第187图 SB19平·断面图

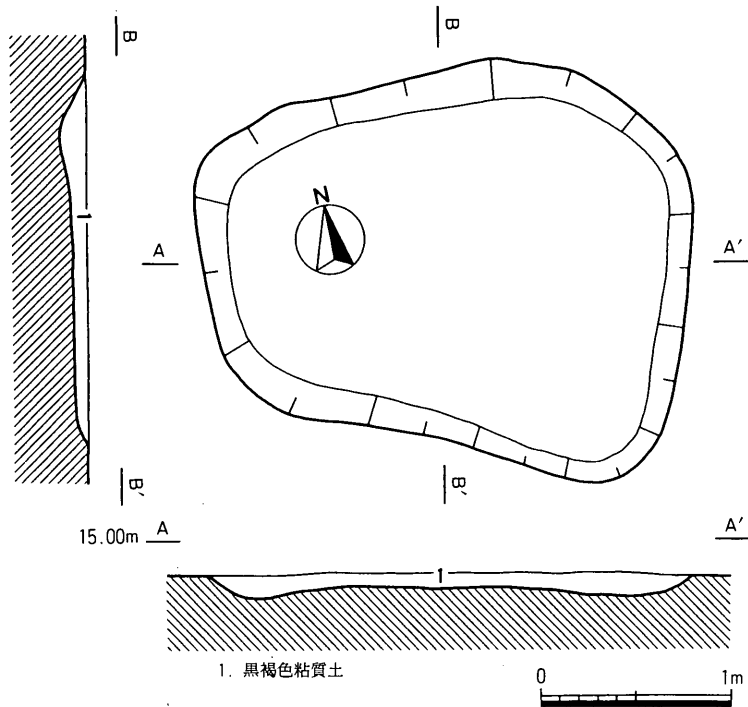
その他の目的に使用した可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

**SK 24** (第188～189図)

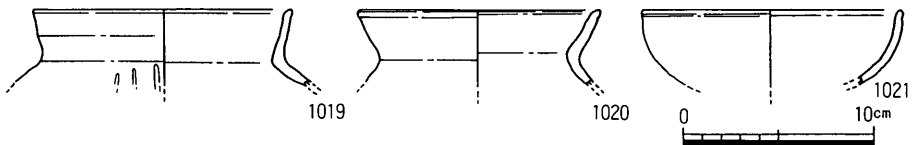
G地区 a-52南東部で検出したややいびつな長方形を呈する土坑である。東西方向約2.6m、南北方向約2.1m、深さは最も深いところで約0.2m、その他は約0.1mである。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。

遺物は土師器が出土している(第189図)。1019・1020は甕の口縁部である。1019は頸部からやや直立気味に立ち上がる。1020は斜め外方へわずかに内彎しながら立ち上がる。1021は鉢もしくは高杯の口縁部である。内彎しながら口縁部に至る。端部をわずかに外方へつまみ出す。

やはり、古墳時代中期から後期(5世紀中頃～6世紀前半)のものと思われる。



第188図 SK24平・断面図

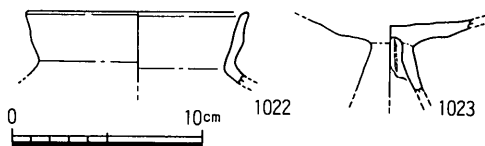
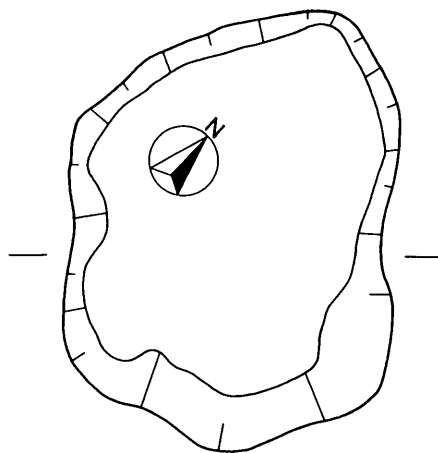


第189図 SK24出土遺物実測図

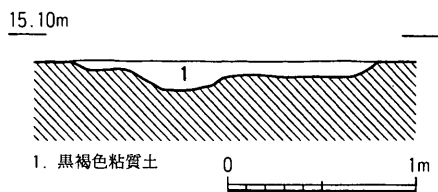
S X 01 (第190～191図)

E地区b-49北拡張部で検出した直径1.6mの不整形円形を呈する浅い落ち込み状の遺構である。深さは、最も深いところでわずか0.15mしかなく、埋土は粘性の強い黒褐色粘質土の単一層である。

遺物は、土師器が出土している(第191図)。1022は甕の口縁部である。やや直立気味に立ち上がり、中程を肥厚させ、端部は丸くおさめる。1023は高杯である。口縁部および脚部下半を欠損する。いずれも古墳時代中期のものと思われる。



第191図 SX01出土遺物実測図

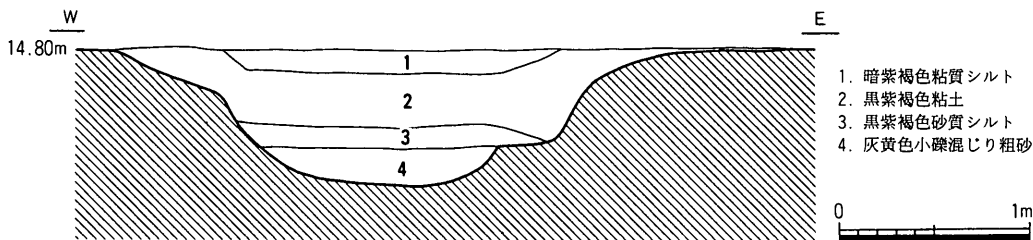


第190図 SX01平・断面図

S D 21 (第192～193図)

B地区のほぼ中央部で検出された溝である。南西から北東方向に走る。幅1.0～6.0m、深さ0.8mを測る。上層(1～3層)は黒褐色系の粘土あるいはシルトを主体とする層が堆積し、下層(4層)は厚さ0.2mの灰黄色小礫混じり粗砂層が堆積する。遺物は下層である4層から土師器壺(1024)・高杯(1025～1027)、石鏃(1031)のほか弥生土器・土師器片、サヌカイト剥片、上層である1～3層から土師器鉢(1028)・蛸壺(1029)、須恵器杯(1030)のほか須恵器片・土師器片が整理用コンテナ半分程度出土した。

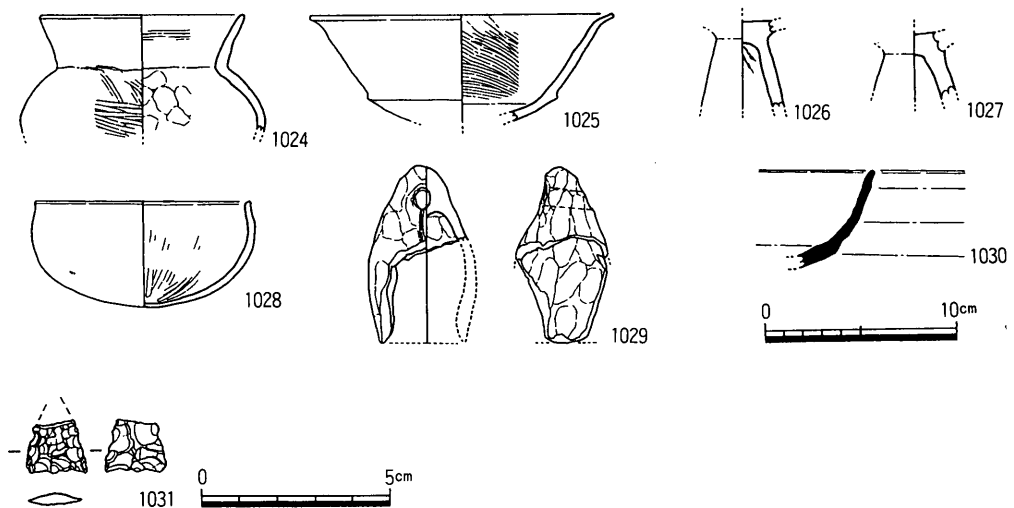
1024は外面刷毛目調整され、やや粗雑な作りである。5世紀前半に属するものと考えられる。1025は杯部の形態から1024とほぼ同時期の5世紀前半のものであろう。1026・1027



第192図 SD21土層断面図

はいずれも詳細な時期は不明であるが、円盤充填によって製作されたものではなく、弥生時代に一般的な土器胎土と異なることから、古墳時代のものであると考えられる。1028は7世紀前半に属するものと考えられる。1029は土師質の蛸壺で、釣り鐘状を呈する。このような形態の蛸壺は古墳時代から平安時代にかけて存在する。1030は在地産と考えられる須恵器で、10世紀代に属するものと考えられる。

以上のように出土遺物は5世紀代、7世紀代、10世紀代と3時期のものがみられる。粗砂層の堆積する下層の出土遺物の大半は5世紀代に属するものであることから、5世紀代に溝として機能し、溝の埋没中に7世紀、10世紀の土器が混入したものと考えられる。



第193図 SD21出土遺物実測図

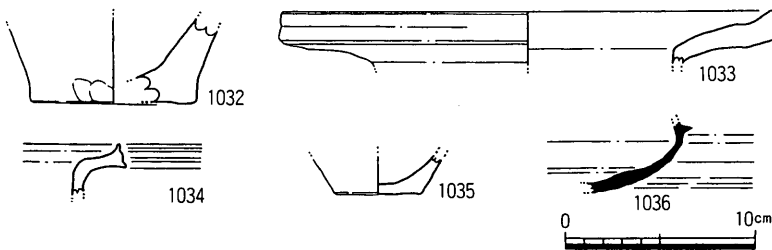
## SD 22 (第194図)

D地区の東部の調査区a-46区で検出された溝である。南西から北東に走るが、途中で北西方向に溝が分岐する。幅3.0~5.0m、深さ0.1mを測る。埋土は淡灰色細砂である。弥生時代前期の甕(1032)、弥生時代後期の壺(1033・1034)・甕(1035)、古墳時代の須恵器杯身(1036)のほかサヌカイト剥片が数片出土した。

1032は形態と土器胎土から弥生時代前期の土器であると考えられる。1033~1035は口縁端部をやや拡張することから弥生後期前半から中葉のものであると考えられる。1033・1034

は黒色砂粒を多量に含む茶褐色系統の色調を呈する土器である。1036は須恵器杯身である。小破片で全体が不明であるため詳細な時期は不明であるが、6世紀代に属するものであると考えられる。

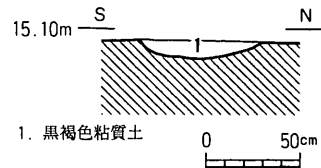
溝からは弥生時代と6世紀の両時期の遺物が出土した。これは調査区の東端の壁付近で弥生時代の溝であるSD08と重複していることから、SD08の遺物が混入しているためであると考えられる。また、南部では鎌倉時代の溝SD38と重複しており、埋土の状況からSD22はSD38よりも古いことが確認された。これらのことから、SD22は6世紀代に機能したものと考えられる。



第194図 SD22出土遺物実測図

**SD 23** (第195図)

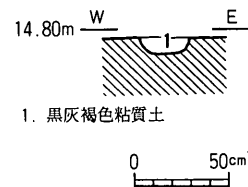
F地区 a-51北東部より b-51北西隅へ向かって流れる溝状遺構である。幅は約0.6m、深さは0.1mである。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。方向はSB11の主軸方位と合致するので、同時期つまり古墳時代中期に共存していた可能性が高い。遺物は出土しなかった。



第195図 SD23土層断面図

**SD 24** (第196図)

G地区 b-52南東隅からほぼ真北へ向かって流れる幅0.3m、深さ0.1mの溝状遺構である。埋土は黒灰褐色粘質土である。途中、b-52中央部で意識的にSB16・SB17を避けるように迂回している。また、削平のため一部検出できなかったが、SH06とSB18に切られていることから、SD24はSB16・SB17とほぼ同時期に機能しており、その埋没後にSB18・SH06が営まれたものと思われる。



第196図 SD24土層断面図

## 包含層の遺物 (第197～198図)

ここでは、包含層出土遺物のうち、古墳時代に属すると思われる遺物を報告する。

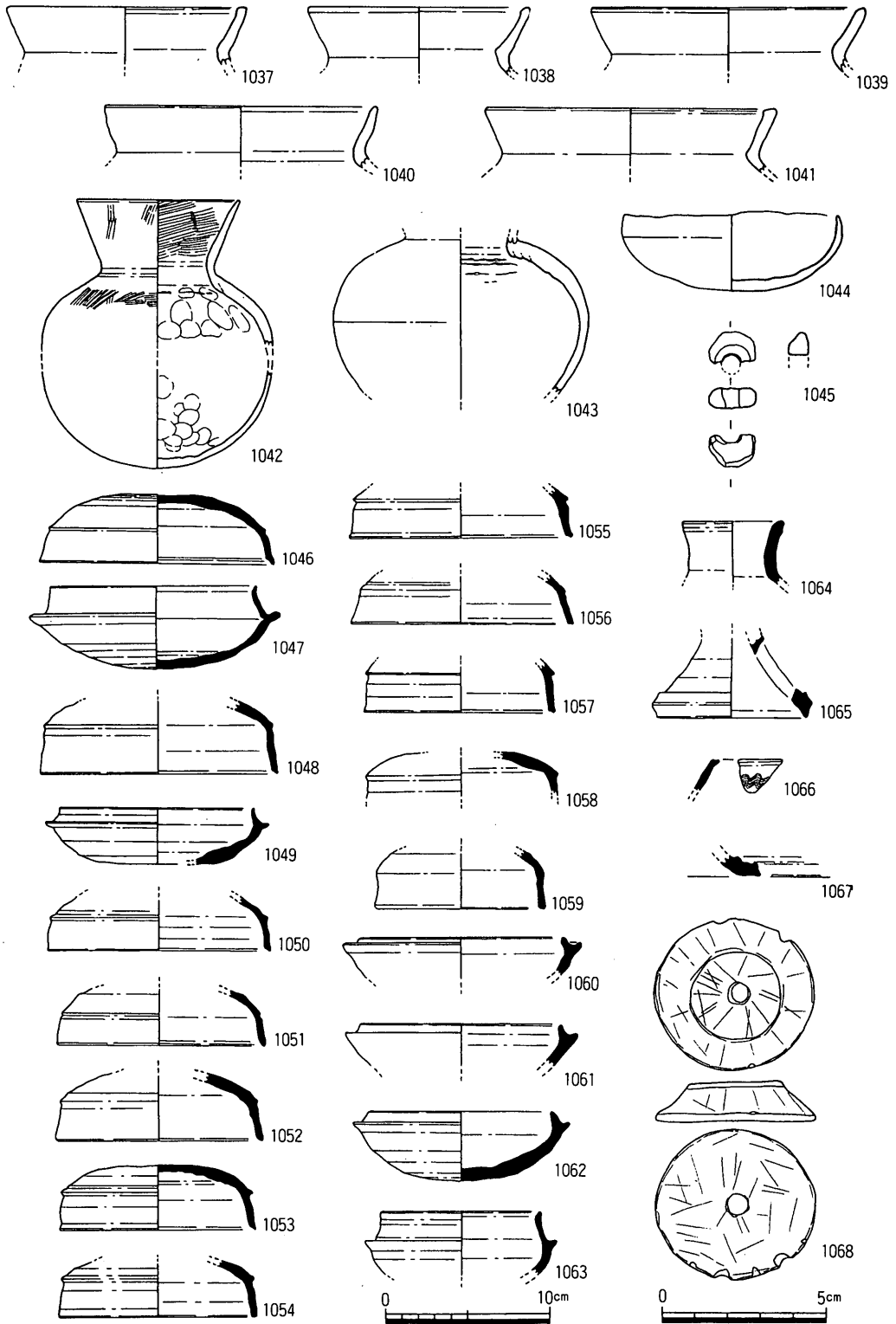
第197図1037～1041は土師器甕の口縁部である。いずれも「く」の字状に外反する口縁部で端部内面に面をもつ。1042・1043は土師器壺である。1042は球状を呈する体部にやや長めの口縁部をもつ。非常に丁寧な作りで外面および口縁部内面にハケ目調整が顕著に認められる。1043は口縁部が欠損しているが、頸部との境目に粘土紐の接合痕が明瞭に残っている。1044は土師器鉢である。やや平たい形状をなし、全体に丸みを帯びている。口縁端部は割にシャープに仕上げられている。1045は土製の紡錘車である。中央に直径約1cmの円孔があいている。

1046・1048・1050～1059は須恵器杯蓋である。天井部から屈曲部をへて直線的に口縁部に至るもの(1048・1050～1054・1057～1059)とやや外向しながら口縁部に至るもの(1046・1055・1056)とがある。1047・1049・1060～1063は須恵器杯身である。受け部の立ち上がりが直線的で長いもの(1063)と短いもの(1049・1060～1062)、それに立ち上がりは長い、内向するもの(1047)がある。1064は須恵器提瓶の口縁部である。1065は透孔があり、須恵器高杯の脚部であると思われる。

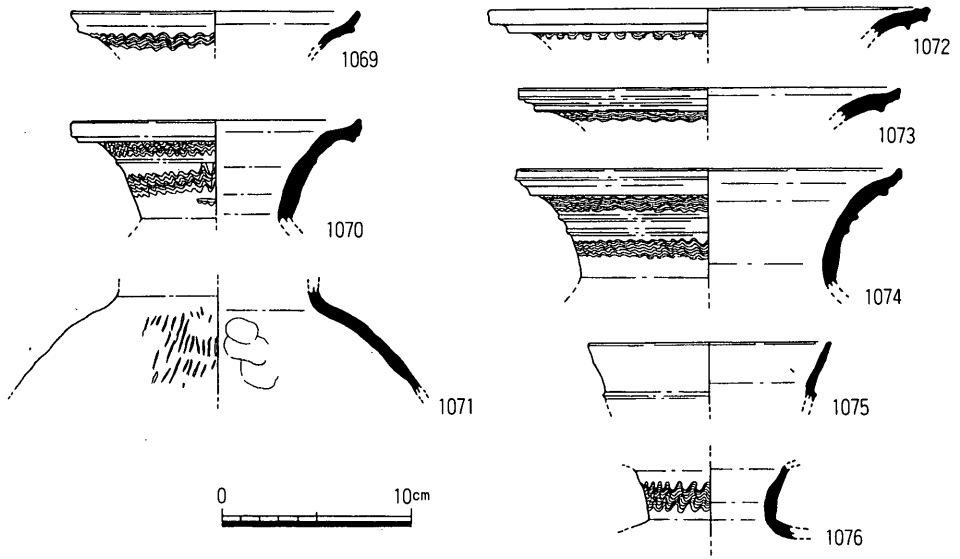
1068は滑石製の紡錘車である。中心に約8mm程度の軸を通すための穴があいている。その形態からみて、古墳時代後期(6世紀後半ごろ)のものと思われる。

第198図1069・1070・1072～1076は須恵器壺の口縁部である。1075を除き、いずれも口縁部外面に数条の波状文を巡らしている。端部を肥厚させ、突帯を巡らすもの(1069・1070・1072～1074)と口縁端部をシャープに仕上げるもの(1075・1076)とがある。1071は須恵器壺の頸部である。外面には粗いハケ目がみられる。

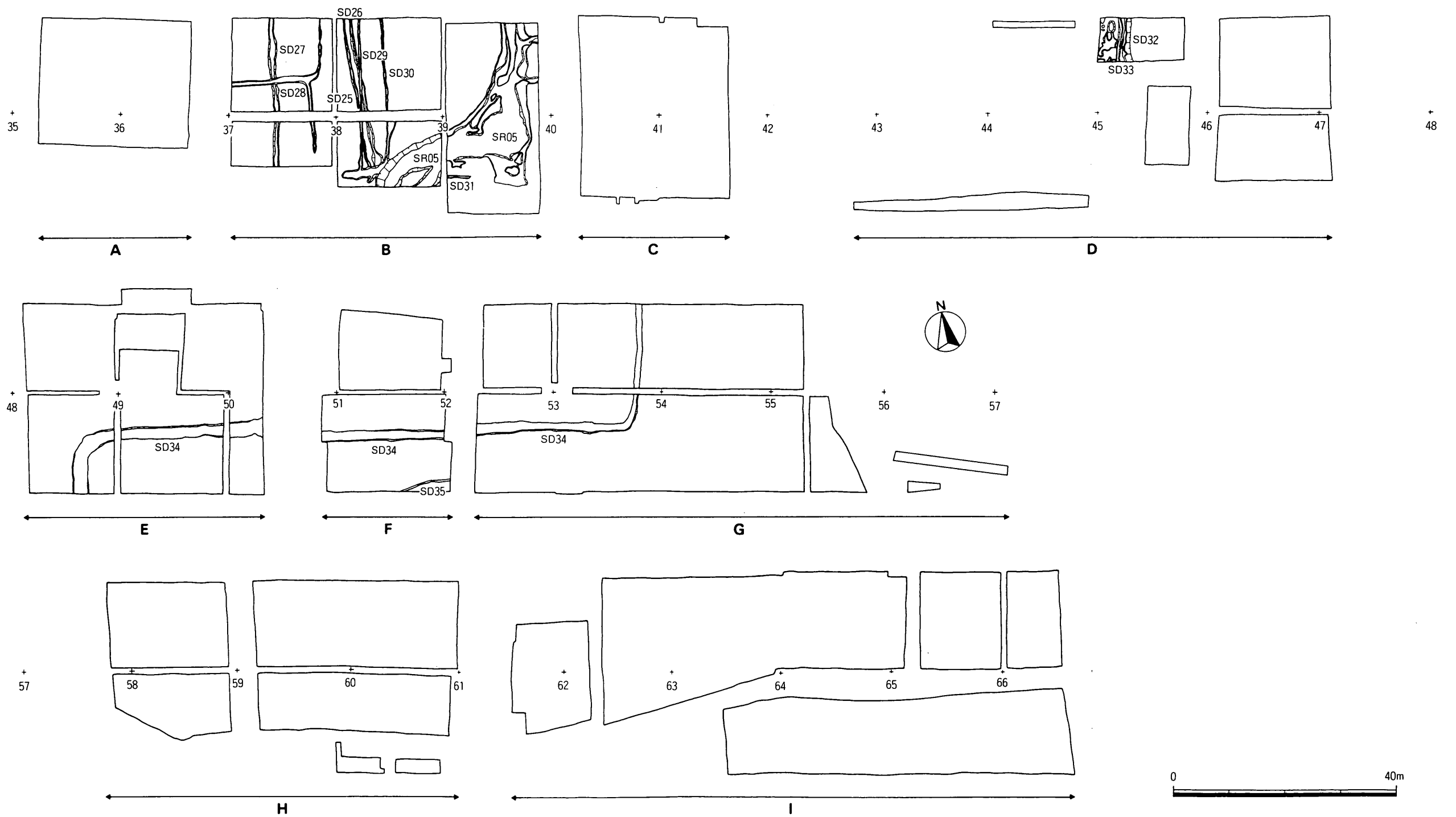




第197图 包含層出土遺物実測図(1)



第198图 包含層出土遺物実測图(2)



第199図 古代遺構配置図

#### 4. 古代の遺構・遺物

##### SD 25

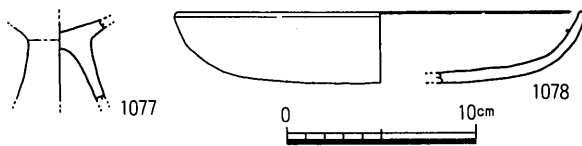
B地区のほぼ中央部で検出された溝である。幅0.4～0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は淡黄褐色粘質シルトである。土師器片が10数点出土した。

##### SD 26 (第200図)

SD 25の東側1.0mをほぼ平行に走る溝である。幅0.4～2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は茶褐色粘質シルトである。遺物は弥生土器高杯(1077)、土師器皿(1078)のほか土師器片数点出土した。

1077は円盤充填で底部を製作したものではないことから、弥生時代末から古墳時代初頭に属するものであると考えられる。黒色砂粒を多量に含み、茶褐色を呈する土器である。1078は体部の形態から8世紀代に属するものであると考えられる。また、土器胎土に黒色砂粒を含まず、色調も異なることから、明らかに1077と違う粘土で製作されていることがうかがわれる。

出土遺物には二時期のものがみられるが、図化できなかった破片の大半は1078と類似する胎土をもつことから、1078とほぼ同じ時期のものであると考えられる。したがって、出土遺物の一部に弥生時代末から古墳時代初頭のものを含むが、溝は8世紀代に機能したものと考えられる。

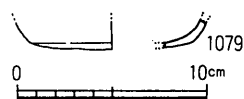


第200図 SD26出土遺物実測図

##### SD 27 (第201図)

B地区の西部で検出された溝である。南北に直線的に走り、SD 28と調査区のほぼ中央部で重複するが、埋土からSD 27のほうが古いことが確認された。SD 27は幅0.8～1.5m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物は土師器小皿(1079)のほか土師器片少量、須恵器片1片、サヌカイト剝片が出土した。

1079は土師器小皿である。底部と体部の稜がはっきりしていないことから、10世紀代に属すると考えられる。



第201図 SD27出土遺物実測図

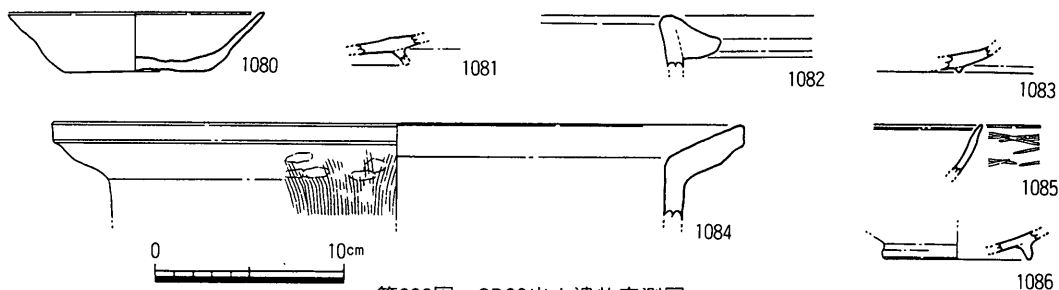
SD 27の時期は埋土からSD 27より新しい時期の溝であることが観察されたSD 28から、10世紀後半から11世紀代の遺物が出土して

いることや、SD27から10世紀代の土師器が出土していることなどから、SD27は10世紀代に機能したものと考えられる。

### SD 28 (第202図)

B地区の西部で検出された溝である。溝は西から東に走り、南に直角に分岐したのち、直角に北に曲がる。溝幅は0.3~1.1m、深さ0.1mを測る。埋土は黄茶褐色粘質シルトである。遺物は土師器杯(1080)・椀(1081)・羽釜(1082)・土鍋(1084)・黒色土器A類椀(1083)・黒色土器B類椀(1085・1086)のほか土師器土釜片など少量出土した。

1082は土師器羽釜で、口縁部・羽部の形態から10世紀後半から11世紀前半に属するものであると考えられる。1084は土師器土鍋で、口縁部・体部の形態から11世紀後半のものであると考えられる。1085は黒色土器B類椀で、ヘラ磨きの単位が非常に細かいことから大阪府楠葉地方で製作されたもので、10世紀後半から11世紀前半のものであると考えられる。1086は黒色土器B類椀の底部破片であるが、調整などの特徴から、香川県内で製作されたものと考えられる。また、高台部の形態から、10世紀後半から11世紀前半に属するものであると考えられる。



第202図 SD28出土遺物実測図

### SD 29

B地区のほぼ中央部で検出された溝である。南北に直線的に走る。幅0.3~0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は明黄色砂質シルトである。土師器片が少量出土した。

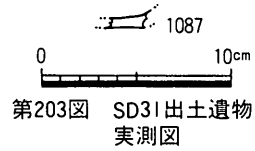
### SD 30

B地区のほぼ中央部で検出された溝である。SD29の東側5.0mをほぼ平行に走る。幅0.3m、深さ0.5mを測る。埋土は暗灰色砂質シルトである。遺物は出土しなかった。

### SD 31 (第203図)

B地区の南東部で検出された東西に走る溝である。東端でSR05と合流する。幅0.4～0.5mを測り、深さ0.1mを測る。埋土は淡紫褐色砂質シルトである。遺物は土師器小皿(1087)のほか弥生土器片・土師器片が数点出土した。

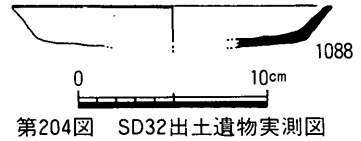
出土遺物もSR05と同様、古代から中世に属するものであることから、SD31はSR05と同時期の10世紀代に機能していたものと考えられる。



### SD 32 (第204図)

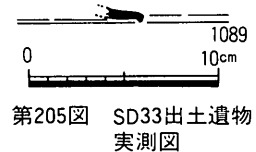
D地区の中央部の調査区b-45区のほぼ中央部で検出された溝である。南北に走り、SD33と小溝によって結ばれる。幅0.3～0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰茶色粘土混じり灰色粗砂である。須恵器皿(1088)のほか土師器片、須恵器片が1片ずつ出土した。

1088は須恵器皿である。9世紀代に属するものと考えられる。



### SD 33 (第205図)

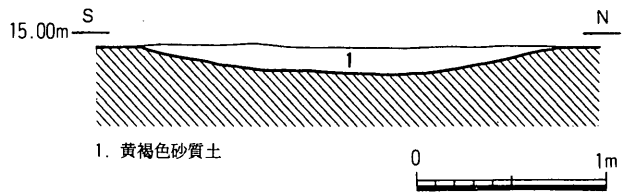
D地区の中央部の調査区b-45区のほぼ中央部、SD03の西側で検出された溝である。南北に走り、SD32と小溝によって結ばれる。幅0.5～0.8m、深さ0.2mを測る。埋土は暗灰茶色粘土混じり灰色粗砂である。須恵器杯蓋(1089)のほか土師器片、須恵器皿片が1片ずつ出土した。



### SD 34 (第206～208図)

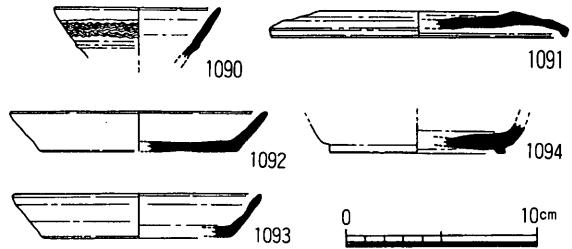
E地区の調査区a-48中央南部分より北へ流れ、SB09のすぐ南で直角に向きを変え、G地区a-53でまた向きを北へ変え、そのまま調査区外へ抜けるクランク状を呈する幅2.3m、深さ約0.2mの溝状遺構である。埋土は黄褐色砂質土の単一層でいく分Fe・Mnの沈着がみられる。後世の削平が著しいが、埋土中からは、弥生土器～須恵器・石器等が出土しており(第207・208図)、これらからこの溝状遺構の埋没時期は奈良～平安時代であると考えられる。

1090～1094は須恵器である。1090は壺もしくは甕の口縁部である。外面には数条の波状文が認められる。1091は杯蓋である。端部は折り返しによって丸く仕上げられている。1092・1093は杯身である。高台をもたず、口径は大きく立ち上がりが高い。1094は高台付の杯身である。

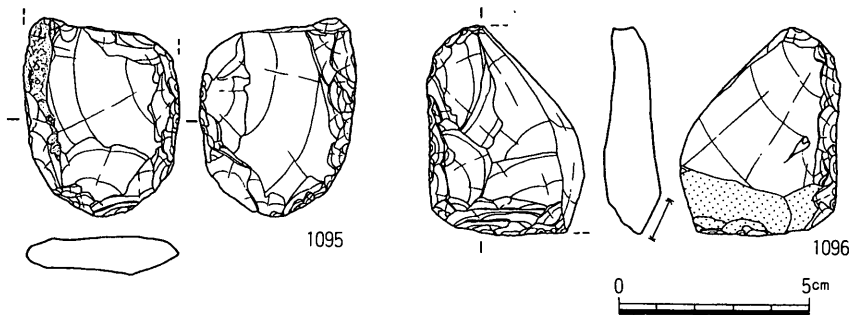


第206図 SD34土層断面図

1095・1096は石器である。1095はサヌカイト製の打製石斧であると思われる。1096はサヌカイト製の石庖丁である。これらの遺物は埋没時の混入によるものと思われる。



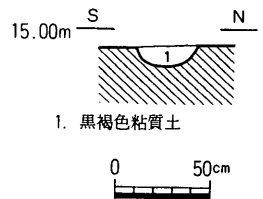
第207図 SD34出土遺物実測図(I)



第208図 SD34出土遺物実測図(2)

**SD 35** (第209図)

F地区b-51南部より南東隅へ向かって流れる溝状遺構である。幅は約0.3m、深さは約0.1mでSH04の南西隅を一部分破壊している。埋土はSH04とよく似た黒褐色粘質土である。遺物は全く出土していないため、時期の特定は困難であるが、埋土がよく似ていること等からみて古墳時代～古代にかけてのものであると思われる。



第209図 SD35土層断面図

**SR 05** (第210～215図)

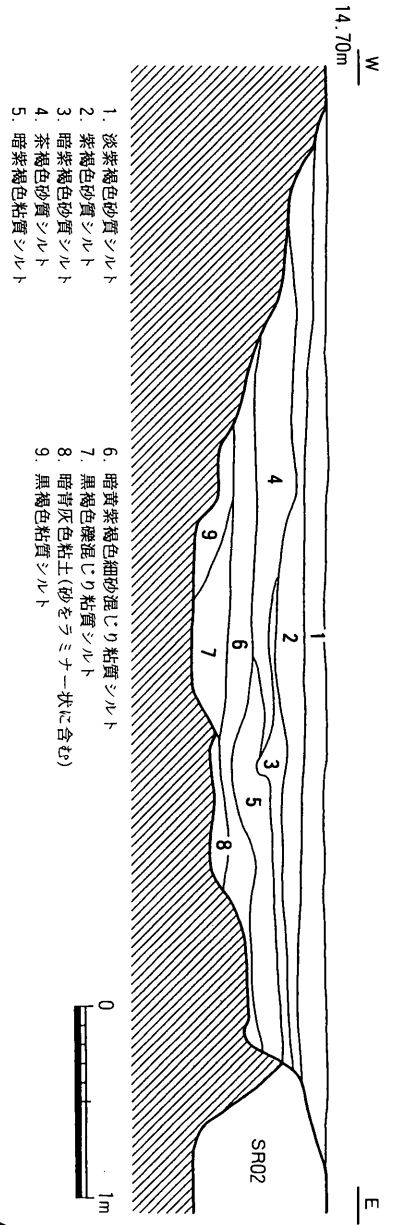
B地区の東部で検出された自然河川である。南西から北東方向に走る。東部ではSR02

と重複する。埋土からS R05のほうが新しいことが観察された。S R05は幅5.0～12.0m、深さ0.5～0.7mを測る。遺物は須恵器蓋(1097)・杯(1098)・皿(1099)、土師器杯(1100～1104)・椀(1105・1106)・羽釜(1107～1109)・土鍋(1110～1114)、須恵器杯(1115～1120)・壺(1121)、黒色土器A類椀(1122～1124)、黒色土器B類椀(1125)、縁釉陶器碗(1126)、木製品齋串(1127～1142)・櫛(1143・1144)・底板(1145)・板材(1146～1162)・棒(1163)・杭(1164)のほか土師器皿・椀・土鍋・羽釜・杯、黒色土器A類椀、黒色土器B類椀が整理用コンテナ2箱分出土した。そのほか、鉄片、桃核が数点出土した。また、北東部で重複するS R02の遺物であると考えられる弥生土器・サヌカイト剥片が少量混入していた。出土遺物の中でも木製品はS R05が南西から北に湾曲する屈曲部の東部で数多く出土した。

1097は須恵器蓋、1098は須恵器杯である。いずれも8世紀代に属するものと考えられる。1099は須恵器皿である。7～9世紀に属するものと考えられる。1100～1103は回転台を利用したいわゆる回転台土師器で、10世紀代の杯である。1108・1109は土師器羽釜で、形態から10世紀から11世紀に属するものと考えられる。1110～1114は土師器土鍋で、10世紀から11世紀代のものであろう。1115～1119は須恵器杯で、10世紀代に属するものと考えられる。1122は黒色土器A類椀で10世紀前半、1123・1124は10世紀末から11世紀前半のものと考えられる。1125は黒色土器B類椀である。内外面に細かいヘラ磨きを施し、口縁部内面に沈線を巡らすことから、大阪府枚方市楠葉地方で生産されたもので、形態から10世紀後半のものであると考えられる。

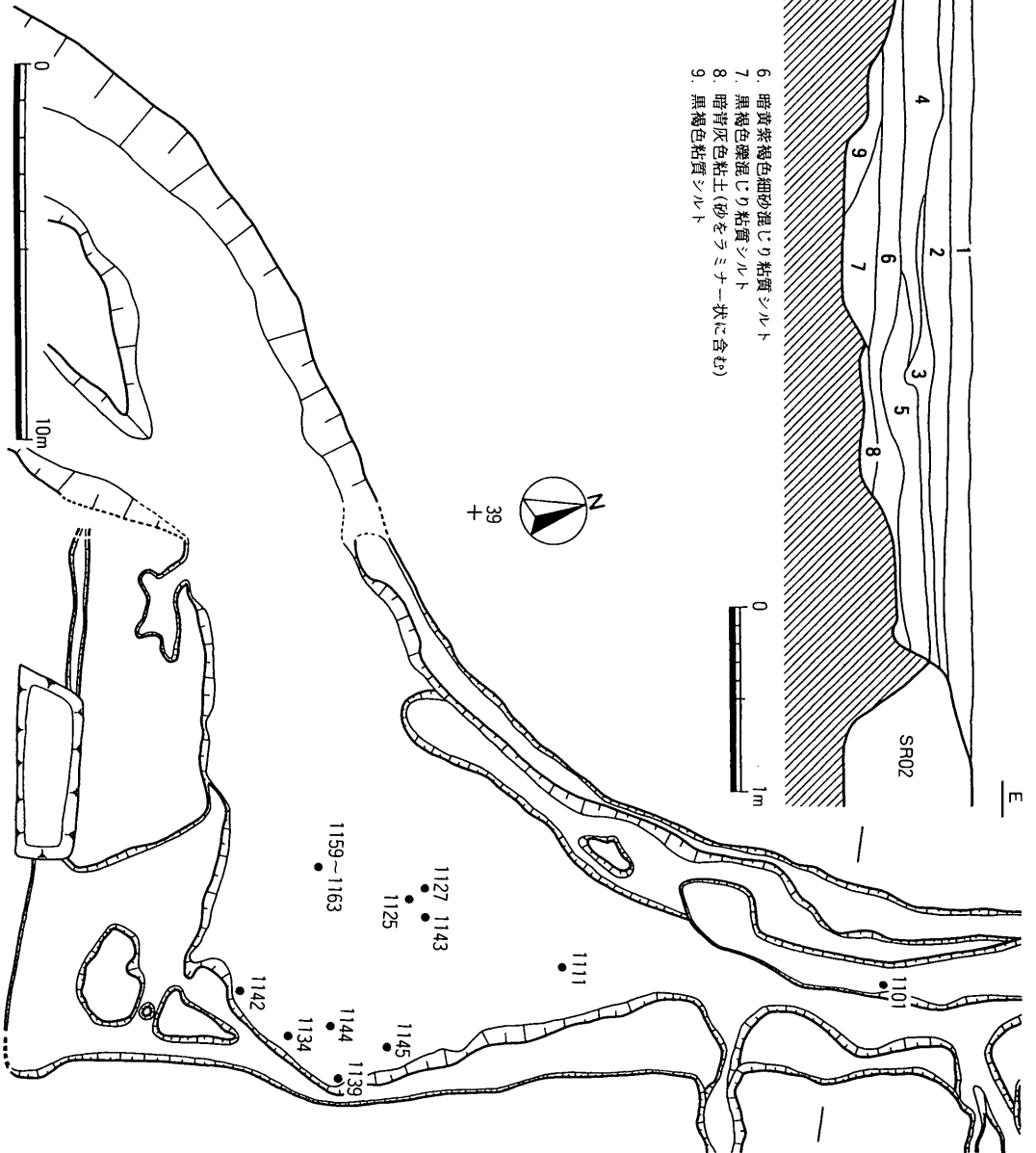
木製品は齋串・櫛・底板・板材・棒・杭がみられるが、最も出土量の多いのは齋串である。完形品は殆ど出土しておらず、全体の形態のわかるものは少ないが、上端・下端の状況を観察すると、上端を圭頭状にし、下端を剣先状にするC型式<sup>(8)</sup>が殆どを占めるものと考えられる。1131はC型式に属する。1127～1130・1132～1135は上端を圭頭状につくることからBまたはC型式に属する。1131・1132・1134の切り込みはIII式に属するが、他は切り込みの部分に欠損するため、不明である。1137は両端を剣先状につくる。1138は上端に欠損するため不明であるが、下端を剣先状につくる。木取りは不明なものもあるが、観察可能なものはいずれも板目取りである。1143・1144は横櫛である。断片であるため全体の形態は不明であるが、細い歯を挽き出している。1145は容器の底板である。径16.6cm、厚さ0.6cmを測る。釘穴などの留め跡はみられなかった。片面の端部は一部炭化している。出土した木製品の中でも最も多いのが、祭祀具である齋串である。齋串は使用された後、廃



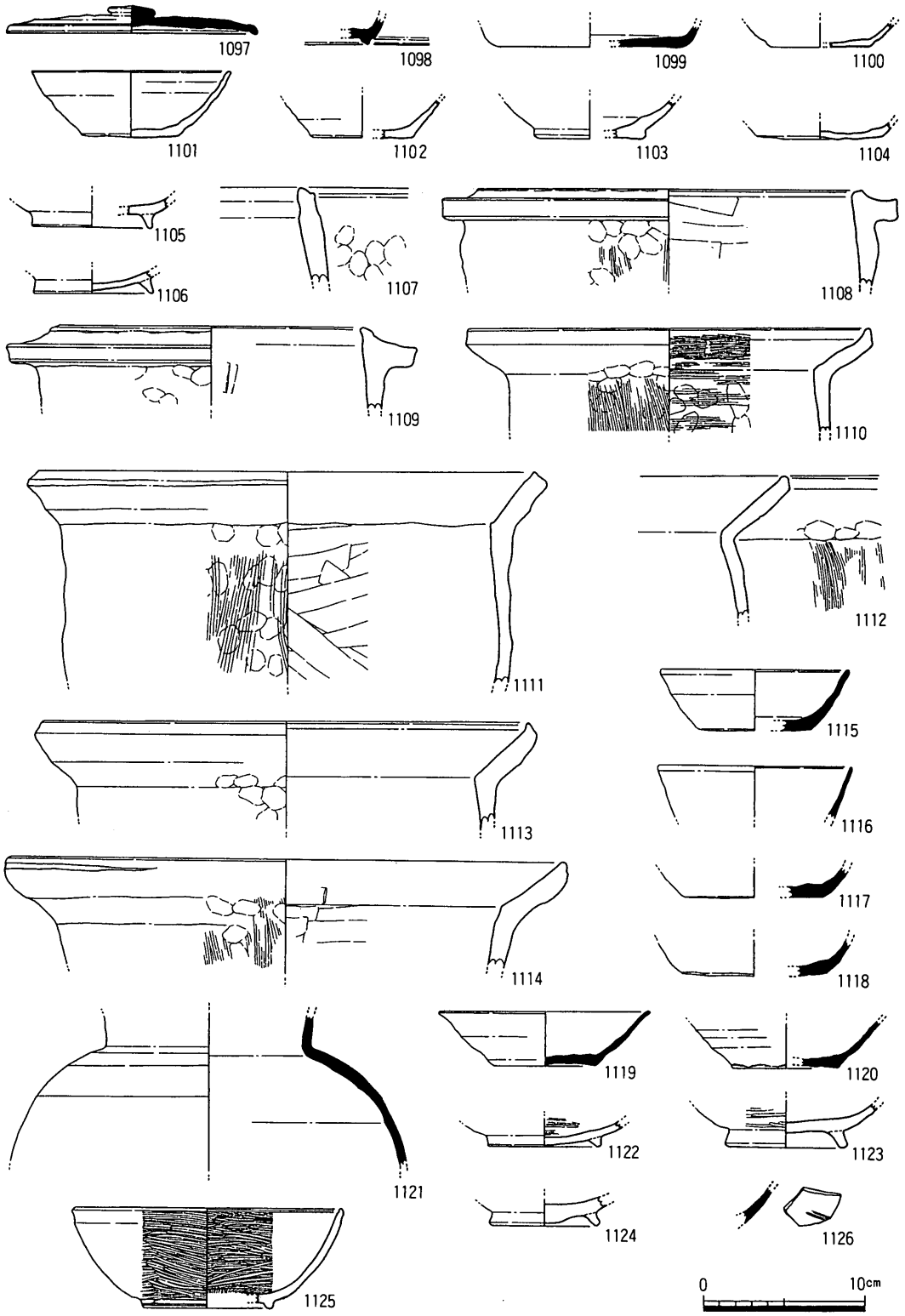


1. 淡紫褐色砂質シルト
2. 紫褐色砂質シルト
3. 暗紫褐色砂質シルト
4. 茶褐色砂質シルト
5. 暗紫褐色粘質シルト

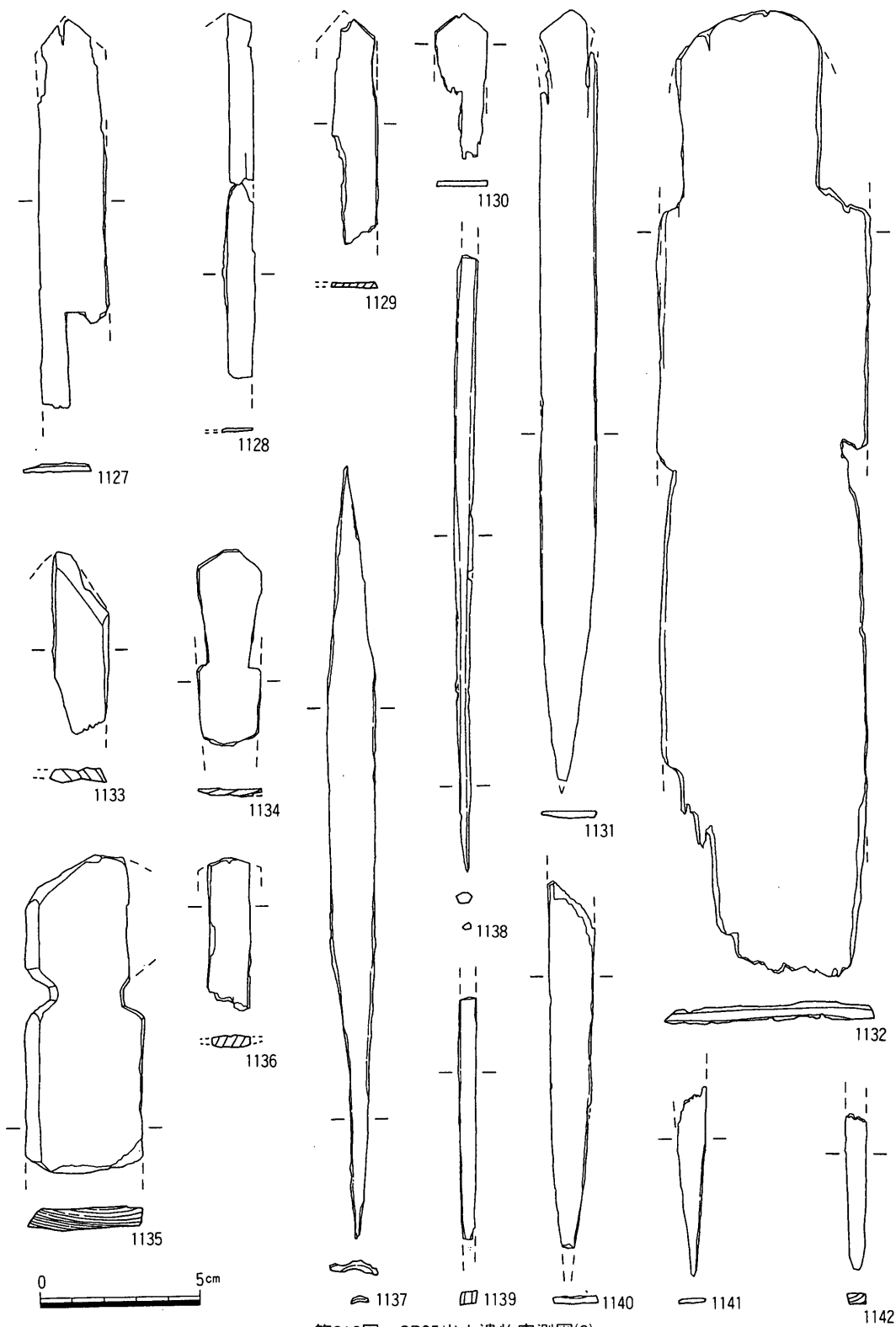
6. 暗黄紫褐色細砂混じり粘質シルト
7. 黒褐色礫混じり粘質シルト
8. 暗褐色粘土(砂をラミナー状に含む)
9. 黒褐色粘質シルト



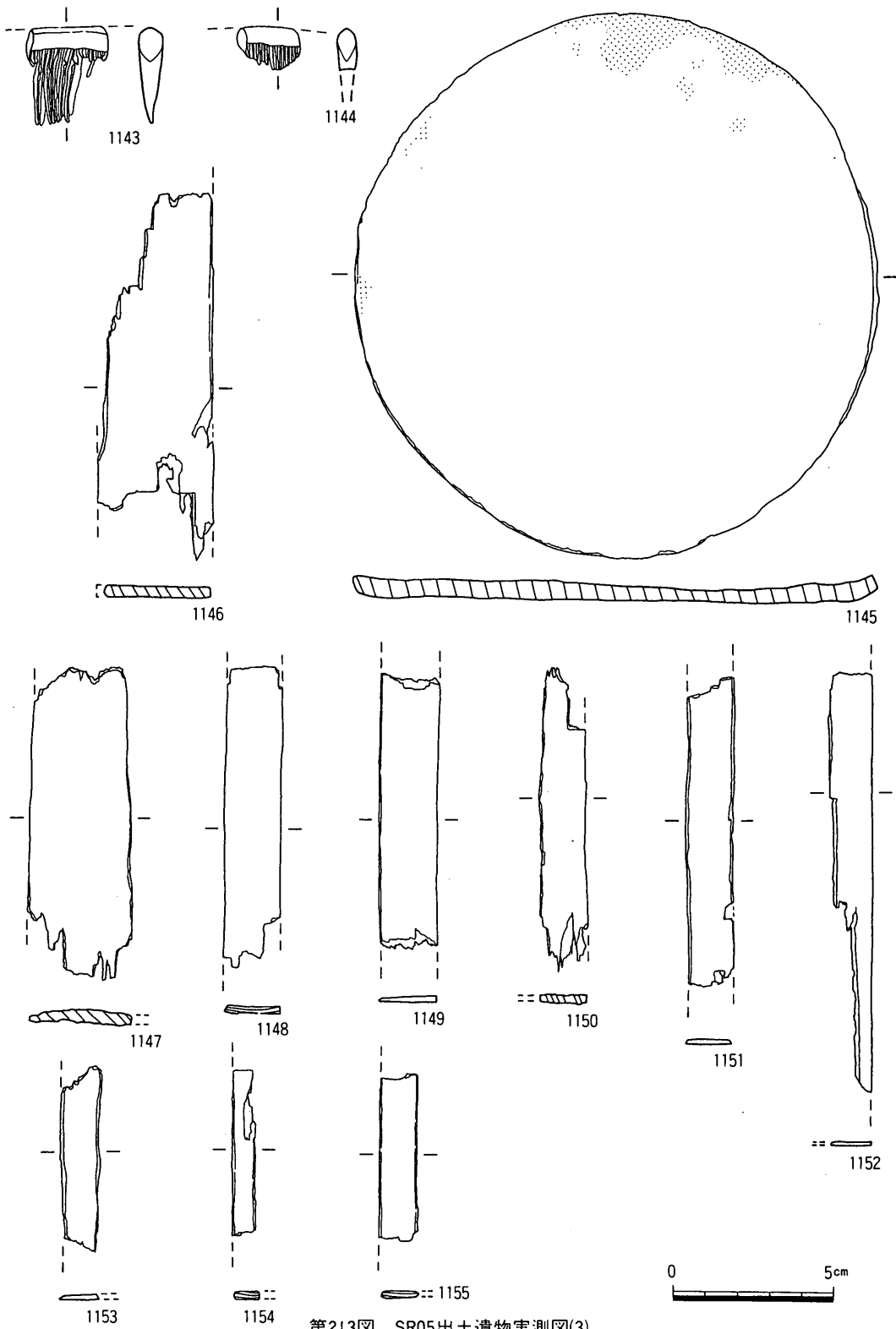
第210図 SR05平・断面図



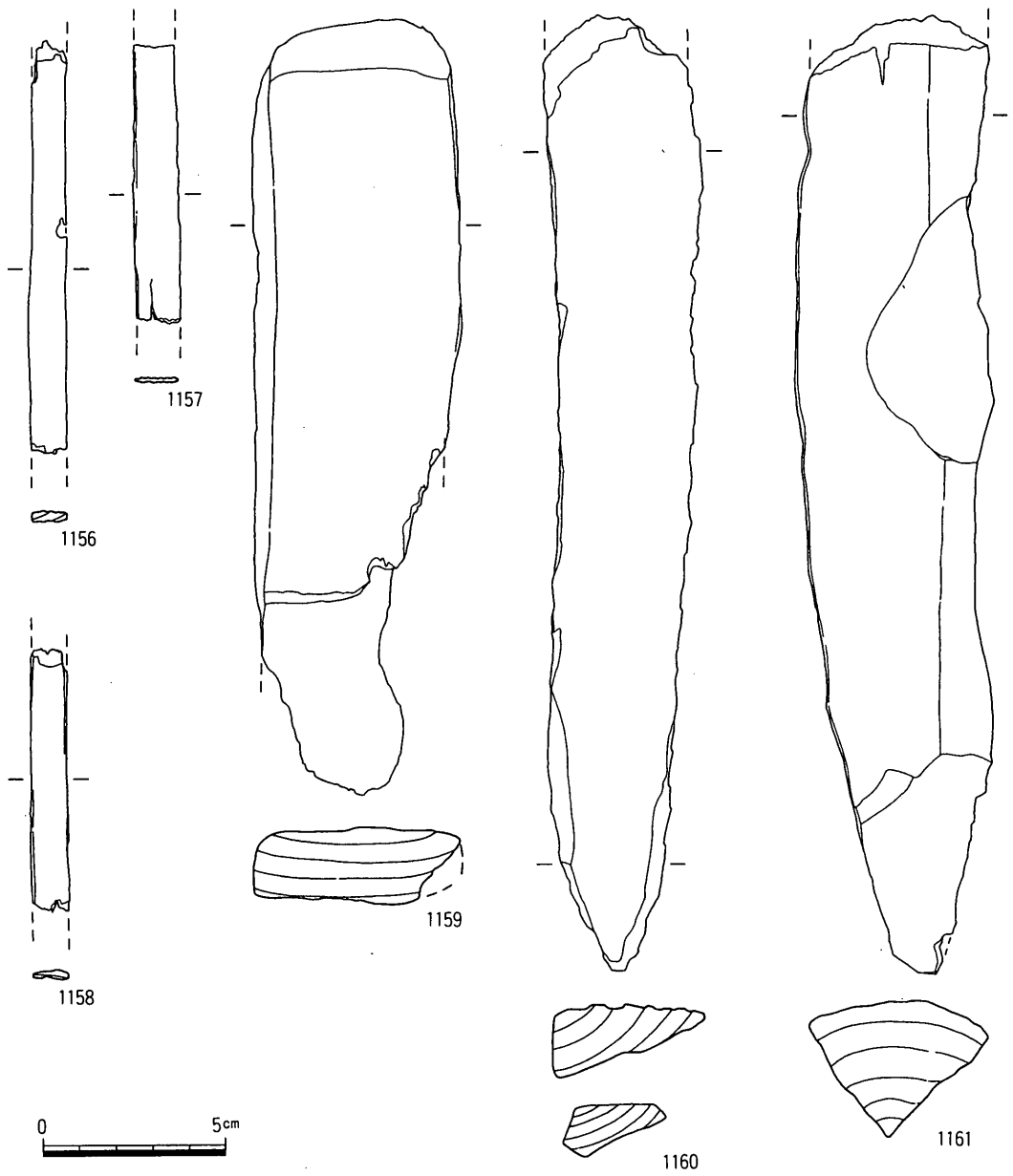
第211图 SR05出土遺物実測図(I)



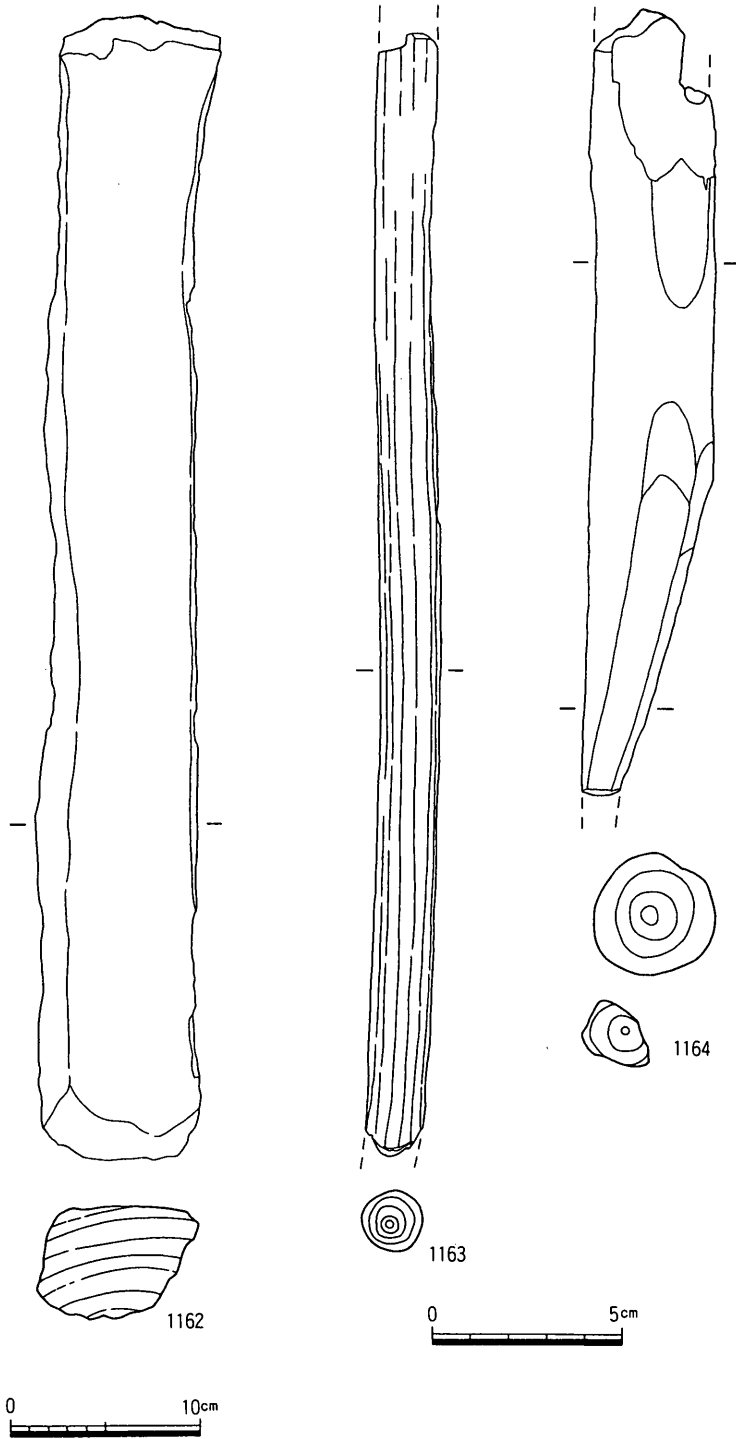
第212図 SR05出土遺物実測図(2)



第213图 SR05出土遺物実測図(3)



第214図 SR05出土遺物実測図(4)



第215図 SR05出土遺物実測図(5)

棄されたものであることから、何らかの祭祀が付近で行なわれたことがうかがわれる。

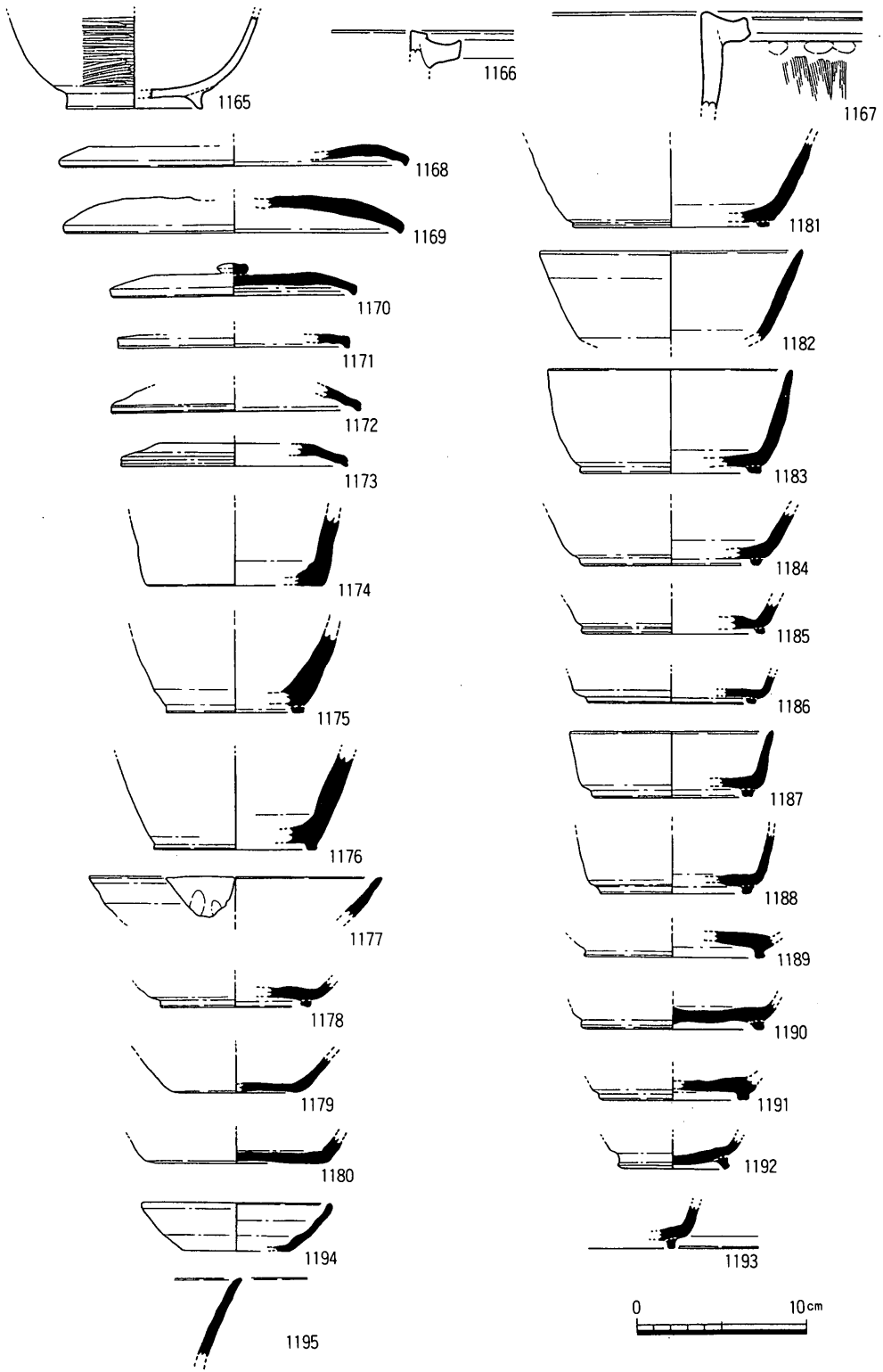
以上のように出土土器は一部8世紀代のものを含むが、概ね10世紀代のものが大半を占める。したがって、S R05は10世紀代に機能した自然河川で、出土した木製品も土器とほぼ同時期の10世紀代のものであると考えられる。

(8) 『木器集成図録 近畿古代篇』奈良国立文化財研究所 1985

#### 包含層の遺物 (第216図)

ここでは、包含層出土遺物のうち、いわゆる古代に属すると思われるものを報告する。1165は土師器椀である。外面全体にミガキ調整が認められる。高台は貼り付け高台である。10世紀後半頃のものと思われる。1166・1167は土師質の羽釜である。いずれも羽の部分のみ残っている。1166は10世紀代、1167は11世紀前半頃のものと思われる。

1168～1173は須恵器杯蓋である。いずれも器高が低く、平たい円盤状を呈するもので、1170のように基石状のつまみの付くものがある。1174～1176は須恵器壺の底部である。1175と1176には高台が付く。1177～1193は須恵器杯身である。高台の付くものと付かないもの、立ち上がりが斜め上方へ開くものと直立気味に立ち上がるもの等に分けられる。



第216图 包含層出土遺物実測図



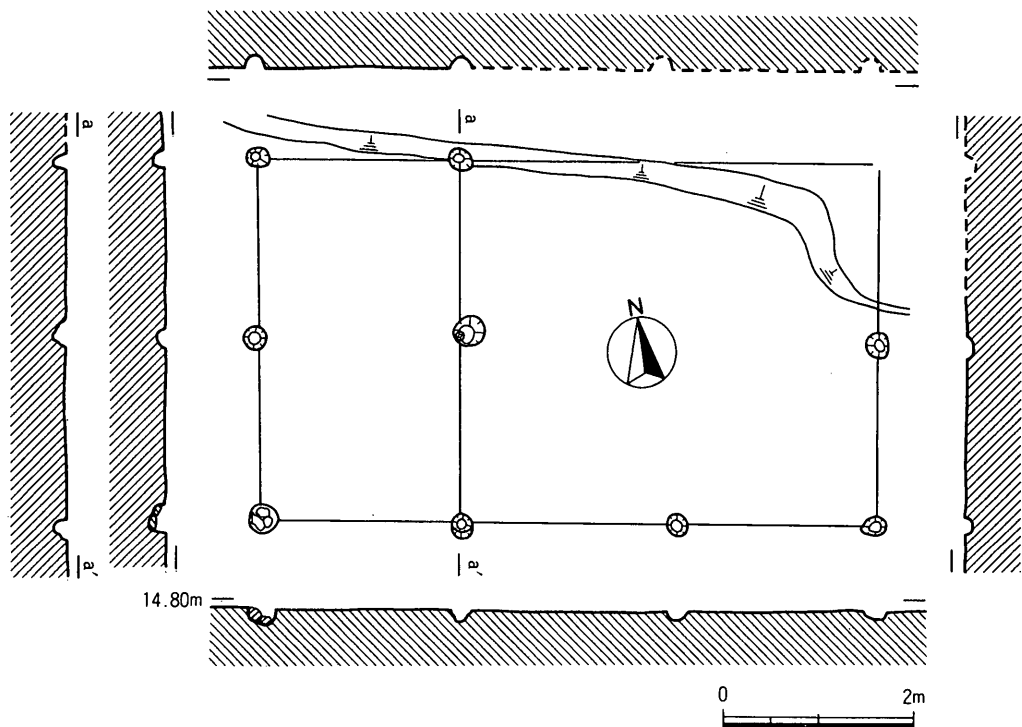
## 5. 中世の遺構・遺物

### SB 20～24

A地区で5棟の掘立柱建物跡を検出した。柱穴からの出土遺物は少ないが、13世紀代の建物群であると考えられる。

#### SB 20 (第217図)

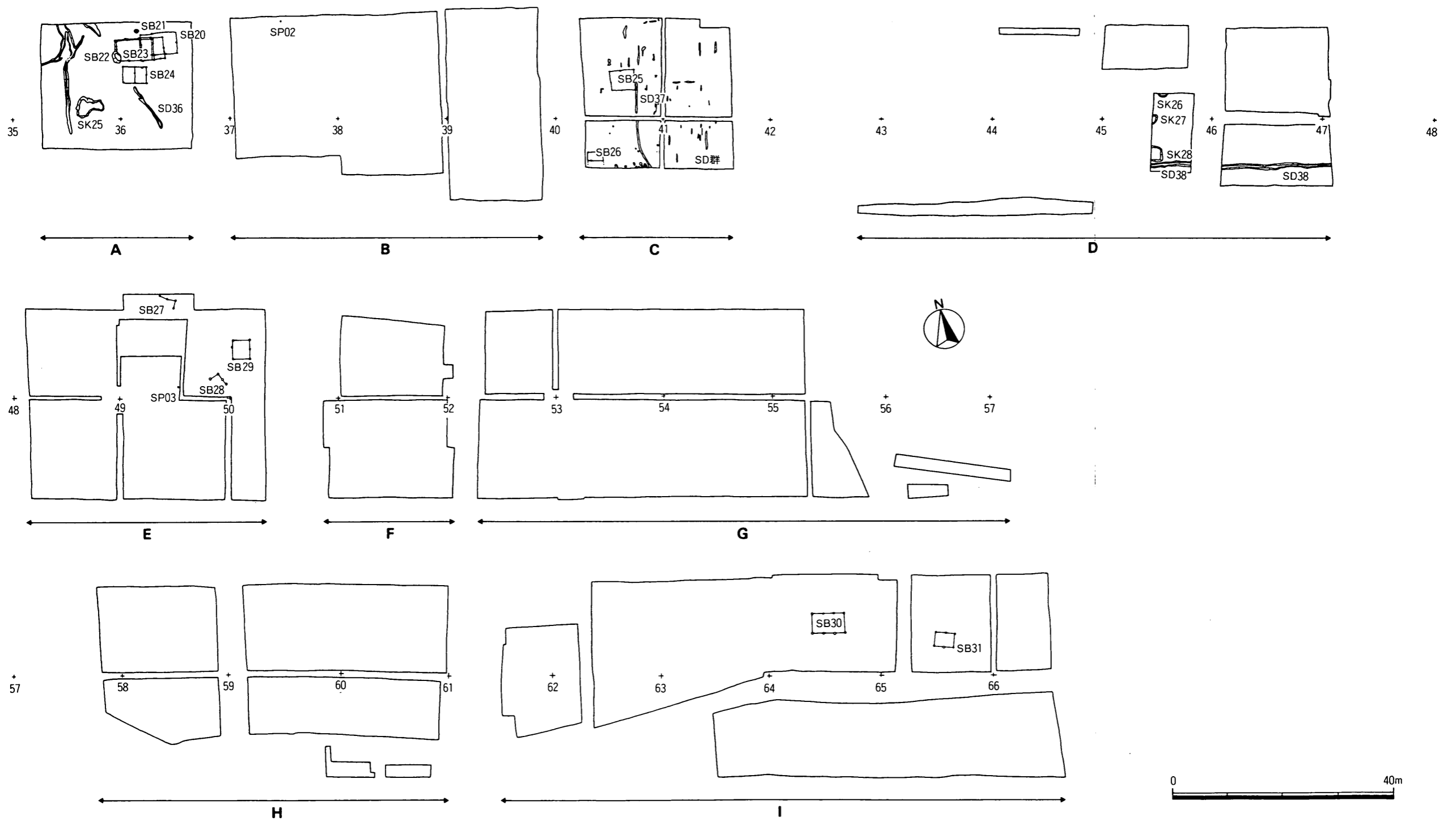
A地区の北東部で検出された東西棟の掘立柱建物跡である。攪乱を受けているため、北東の柱穴2個を欠く。桁行3間(6.5m)、梁間2間(3.8m)、棟方向 $W78^{\circ}S$ 、床面積 $25.3m^2$ を測る。柱穴の埋土は黒灰色細砂混じり粘土を主体とする。柱穴からは土師器小皿片のほか土師器片が数片出土した。



第217図 SB20平・断面図

#### SB 21 (第219～220図)

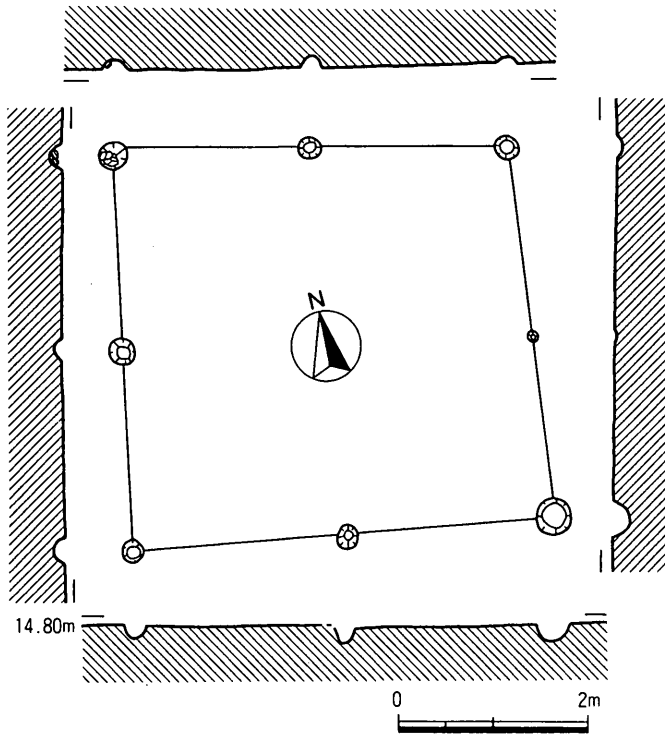
A地区の北部で検出された東西棟の掘立柱建物跡である。SB20・SB22・SB23と重複する。柱穴の埋土の重複関係より、SB23ののちに建てられた建物であると考えられる。他の掘立柱建物跡との前後関係は不明である。桁行2間(4.2～4.5m)、梁間2間(3.9～4.



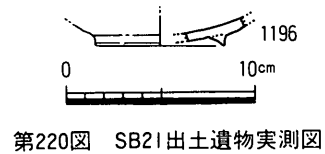
第218図 中世遺構配置図

2m), 棟方向E18° S, 床面積17.6m<sup>2</sup>を測る。柱穴の埋土は黒灰色粘土または黒灰色粗砂混じり粘土を主体とする。北西隅の柱穴からは廃絶後に詰めたと考えられる石が検出された。また, 南東隅の柱穴からは土師器椀(1196)が出土した。

1196は土師器椀の底部である。高台部の形態から13世紀前半に属するものと考えられる。



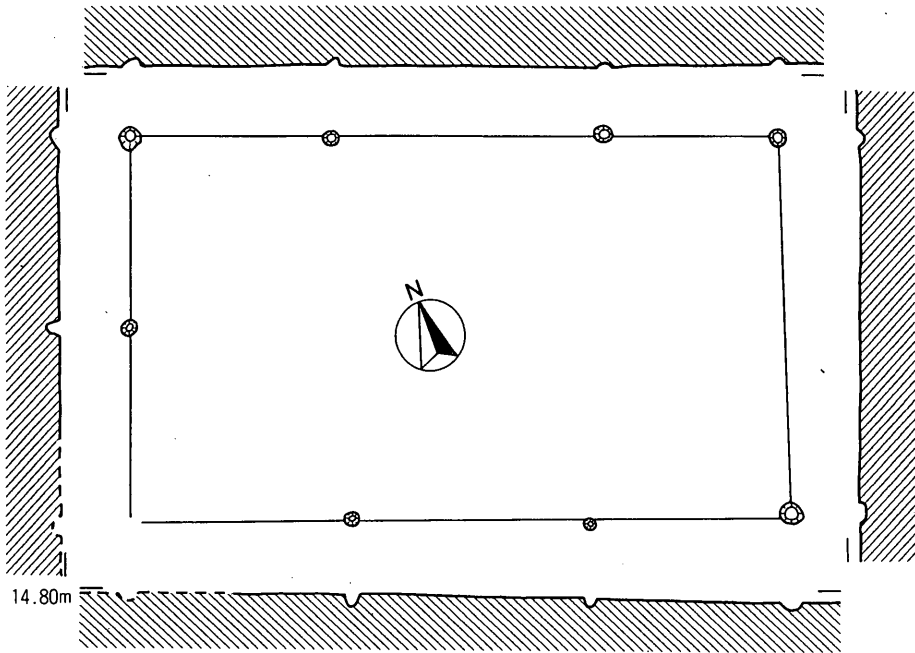
第219図 SB21平・断面図



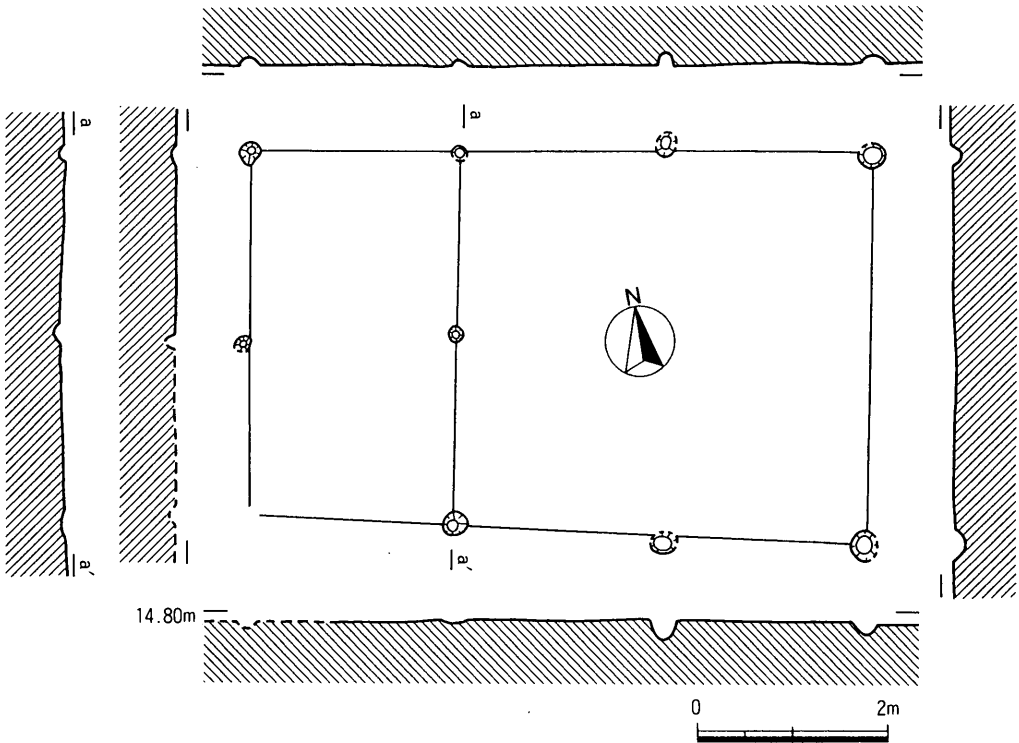
第220図 SB21出土遺物実測図

### SB 22 (第221図)

A地区の北部で検出された東西棟の掘立柱建物跡である。SB 20・SB 21・SB 23と重複する。柱穴の埋土の重複より, SB 23の廃絶後に建てられた建物であることは確実であるが, 他の掘立柱建物跡との前後関係は不明である。桁行3間(6.8m), 梁間2間(3.8m), 棟方向N71° W, 床面積27.9m<sup>2</sup>を測る。柱穴の埋土は黒灰色粘土を主体とする。遺物は出土しなかった。



第221图 SB22平·断面图



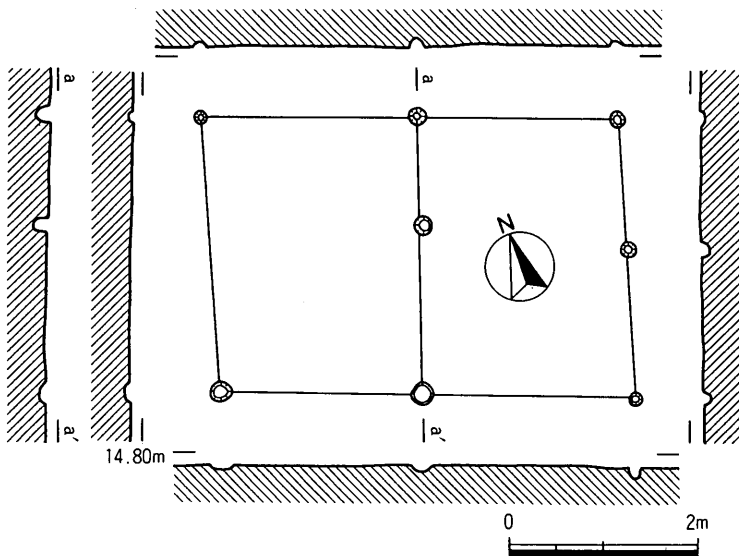
第222图 SB23平·断面图

**S B 23** (第222図)

A地区の北西部で検出された東西棟の掘立柱建物跡である。S B 20・S B 21・S B 22と重複する。柱穴の埋土の重複より、S B 21・S B 22以前に建てられた建物であることは確実であるが、S B 20との前後関係は不明である。桁行3間(6.6m)、梁間2間(4.1m)、棟方向N78°W、床面積26.2m<sup>2</sup>を測る。柱穴の埋土は黒灰色粗砂混じり粘土を主体とする。柱穴から土師器片が6片出土したが、詳細な時期は不明である。

**S B 24** (第223図)

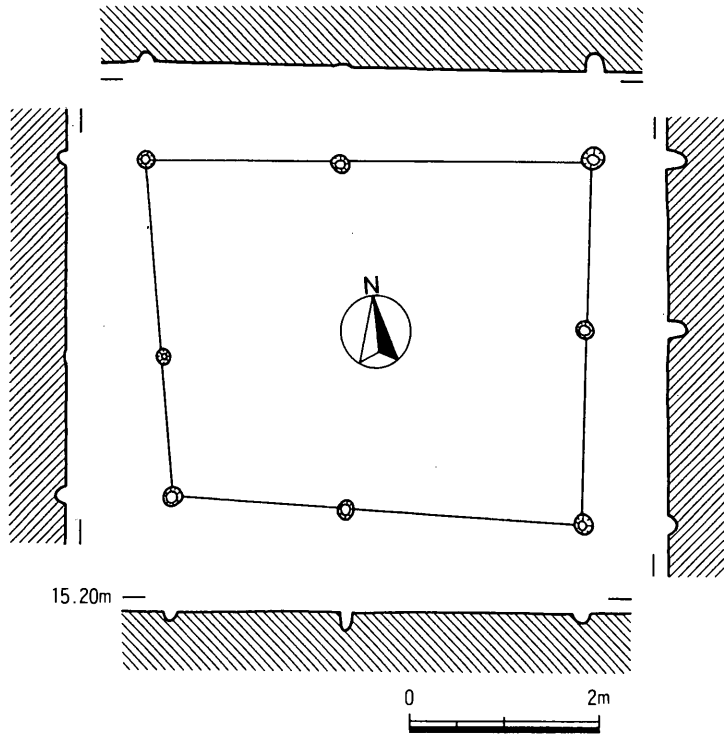
A地区の北部、S B 20・S B 21・S B 22・S B 23の南側で検出された東西棟の掘立柱建物跡である。桁行2間(4.4m)、梁間2間(2.9~3.0m)、棟方向N78°W、床面積12.9m<sup>2</sup>を測る。柱穴の埋土は黒灰色粘土を主体とする。遺物は出土しなかった。



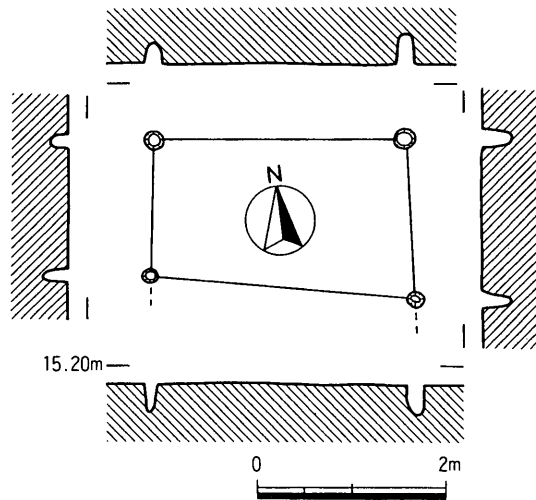
第223図 SB24平・断面図

**S B 25** (第224図)

C地区の北西部で検出された掘立柱建物跡である。桁行2間(4.3m)、梁間2間(3.4~3.8m)、棟方向N80°W、床面積15.7m<sup>2</sup>を測る。柱穴の埋土は灰茶色シルト混じり粘土である。遺物は柱穴の埋土から土師器片が1片出土した。



第224図 SB25平・断面図



第225図 SB26平・断面図

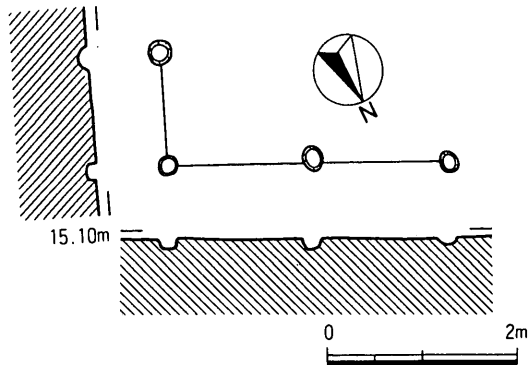
**SB 26** (第225図)

C地区の南西部で検出された掘立柱建物跡である。調査区の端で検出されたため南に延びる可能性もあり、桁行1間(2.7~2.8m)以上、梁間1間(1.4~1.7m)、棟方向N77°W, 床面積4.3㎡を測る。柱穴の埋土は淡灰茶色シルト混じり粘土である。遺物は出土しな

かった。

### SB 27 (第226図)

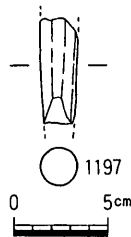
E地区中央北部で北へ拡張したトレンチで検出した1間(1.1m)×2間(3.0m)以上の掘立柱建物跡である。南西側の2つのピットは確認できなかったが、柱穴の中心間の距離は1.5mを測る。主軸方向はN60°Wで、ピットの埋土は粘性の弱い黒褐色土である。ピットの大きさは平均しており、直径約0.2m、深さ約0.1mである。また、雨落ち溝等の付属施設は検出できなかった。遺物も出土しなかった。



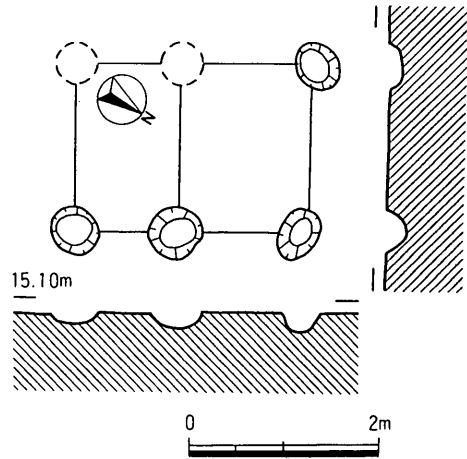
第226図 SB27平・断面図

### SB 28 (第227～228図)

b-49で検出した1間(1.7m)×2間(2.6m)以上の掘立柱建物跡である。南西側の2つのピットは確認されなかったが、柱穴の中心間の距離は桁行約1.7m、梁間約1.3mを測る。主軸方向はN30°Eで、埋土は暗青黒褐色粘質土である。柱穴の大きさはどれも直径0.6m程度であり、深さは約0.2mである。



第228図  
SB28出土遺物実測図



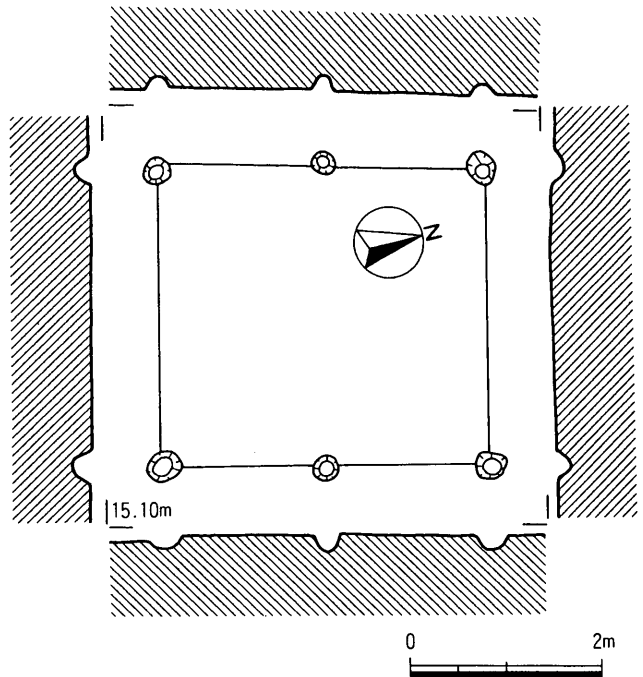
第227図 SB28平・断面図

ピットの1つから土師器土鍋の脚部片が出土している(第228図1197)。直径2cmでおそらく中世のものであると思われる。

**SB 29** (第229図)

b-50中央やや西よりの部分で検出した1間×2間の掘立柱建物跡である。桁行3.0m、梁間1.7mで柱穴の大きさは0.3m、深さは0.2mである。主軸方位はN11°Eである。

遺物は出土しなかった。主軸方位が現在の地割にほぼ合致することから、この掘立柱建物跡は中世頃のものであると思われる。



第229図 SB29平・断面図

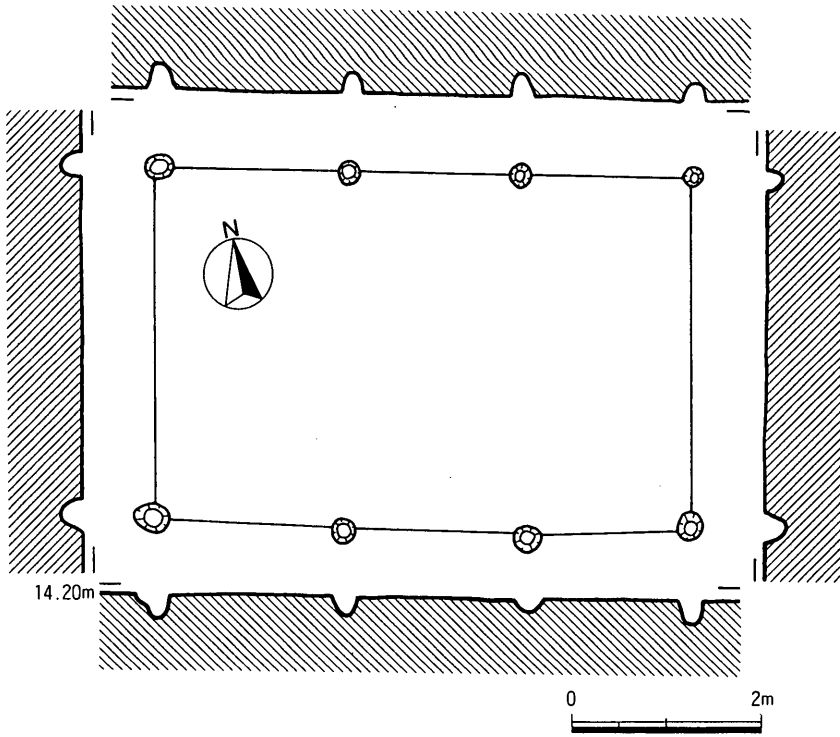
**SB 30** (第230図)

I地区b-64中央やや南よりの部分で検出した1間(3.6m)×3間(5.8m)の掘立柱建物跡である。主軸方位はN80°Eであり、柱穴間の距離は桁行3.6m、梁間約1.9mである。柱穴の大きさは直径約0.3mで、深さは約0.2mである。埋土は灰褐色砂質土の単一層である。主軸方位が現在の地割に合致していること等から中世頃のものであると思われる。遺物は出土しなかった。

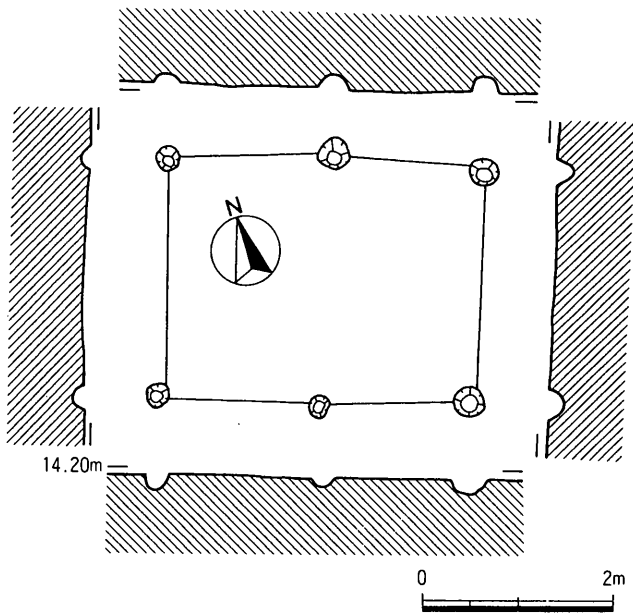
**SB 31** (第231図)

I地区b-65中央やや南西よりの部分で検出した1間(2.4m)×2間(3.4m)の掘立柱建物跡である。主軸方位はN74°Eであり、柱穴間の距離は桁行2.4m、梁間1.7mである。柱穴の大きさは直径約0.3mで、深さは約0.2mである。埋土は灰褐色砂質土の単一層である。SB30と同じく主軸方位が現在の地割に合致していること等からやはり中世頃のものであると思われる。遺物は出土しなかった。





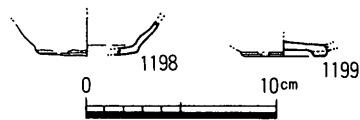
第230图 SB30平·断面图



第231图 SB31平·断面图

**SP 02** (第232図)

B地区の西部で検出された柱穴である。掘立柱建物跡を構成する柱穴であると考えられるが、調査区外に柱穴は連続しているため建物を構成するかどうか不明である。柱穴からは土師器小皿(1198)、瓦器碗(1199)のほか土師器片が数点出土した。

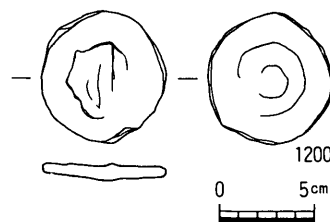


第232図 SP02出土遺物実測図

1199は和泉型の瓦器碗で、高台部の形態から12世紀後半のものと考えられる。

**SP 03** (第233図)

E地区b-49南部で検出したピットである。直径約0.2mで深さ約0.2mを測る。柱穴であると思われるが、建物を構成する他のピットは検出できなかった。埋土中から土師質の土器の底部を転用したと思われる直径約6cmの円盤状の土製品が出土した(第233図1200)。何らかの祭祀に使用されたものであると思われるが、詳細は不明である。胎土等からみて中世後半のものであると思われる。



第233図 SP03出土遺物実測図

**SK 25** (第234図)

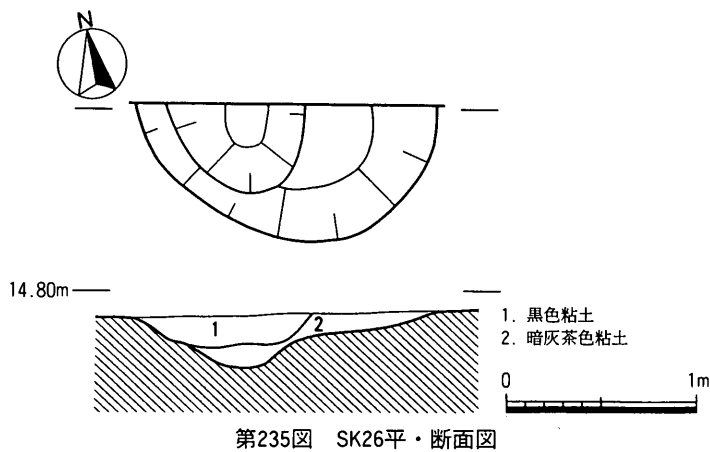
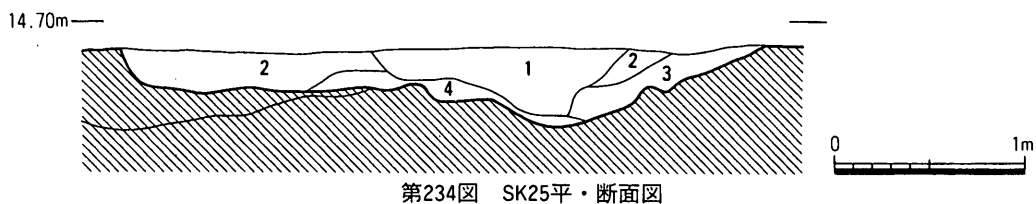
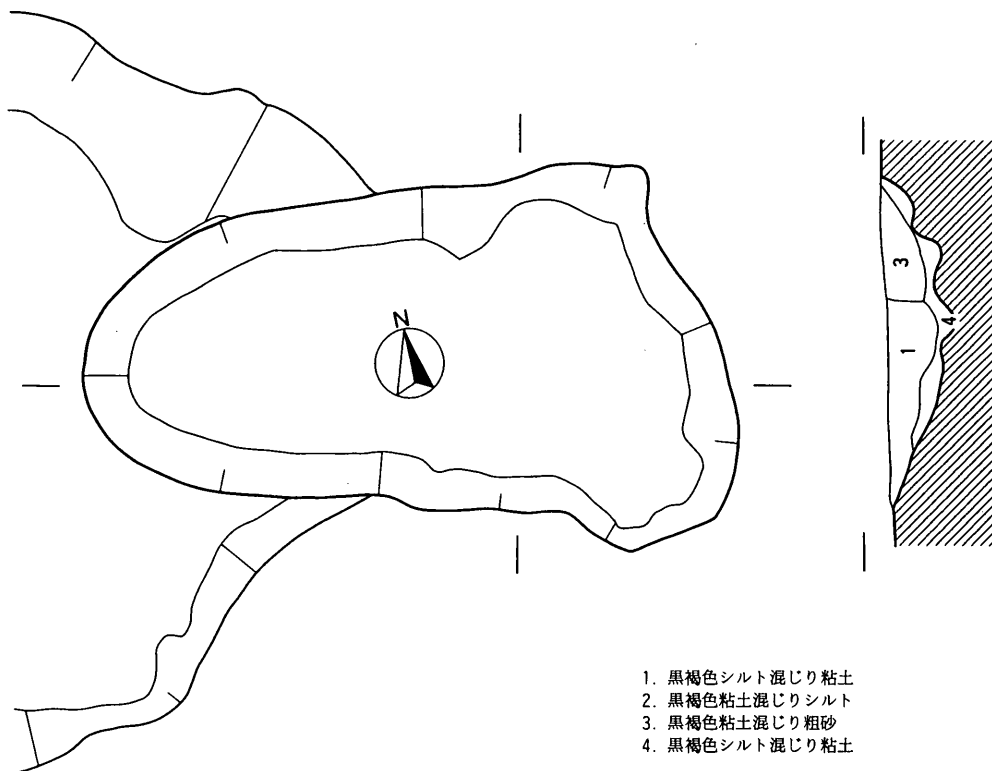
A地区のほぼ中央部で検出された土坑である。平面形はいびつな円形を呈する。長軸3.5m、短軸1.8m、深さ0.4mを測る。遺物は出土しなかった。

**SK 26** (第235図)

D地区の中央部の調査区a-45区で検出された土坑である。遺構の北部は調査区外に連続するため全体は不明である。平面形はほぼ円形を呈するものと考えられ、推定径は1.5mを測る。遺構の西部では二段掘りになり、最も深いところで深さ0.3mを測る。黒色土器片、弥生土器片が1片ずつ出土した。

**SK 27** (第236~237図)

D地区の中央部の調査区a-45区で検出された土坑である。遺構の西部は調査区外に連続するため全体は不明である。平面形はほぼ楕円形を呈するものと考えられ、遺構の西部



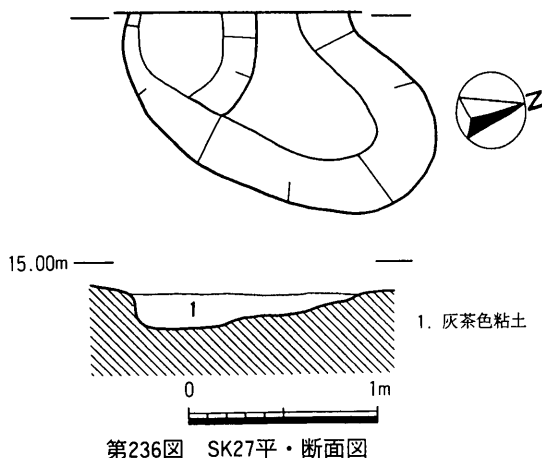
は二段掘りとなる。推定長軸2.0m、短軸1.0m、深さ0.2mを測る。埋土は灰茶色粘土であ

る。遺物は瓦器椀（1201）のほか須恵器片が1片出土した。

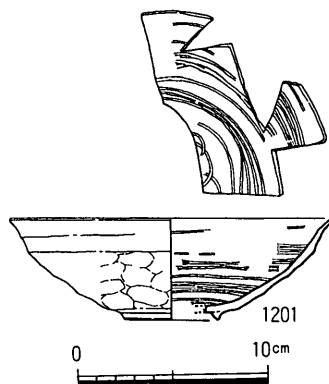
1201は大阪府内で製作された和泉型の瓦器椀で、尾上実氏の編年でIII-3段階にあたり<sup>(9)</sup>、13世紀前半に比定されるものと考えられる。

(9) 尾上 実『挾山遺跡・軽里遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会 1978

尾上 実「南河内の瓦器椀」『古文化論叢』 1983



第236図 SK27平・断面図



第237図 SK27出土遺物実測図

## SK 28

D地区の中央部の調査区a-45区で検出された土坑である。遺構の西部は調査区外に連続するため不明であるが、平面形はほぼ方形を呈するものと考えられる。一辺は5.2m、深さは0.2mを測る。埋土は灰橙色粘土である。遺物は出土しなかった。

## SD 36

掘立柱建物跡SB24の南側で検出された南北に走る溝である。幅0.4~0.6m、深0.05mを測る。埋土は茶褐色シルト混じり小礫である。遺物は出土しなかった。

## SD 37

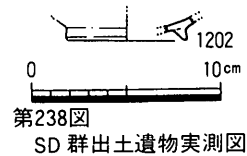
C地区の中央部、SB25の東側を南北に走る溝である。幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰茶色シルト混じり粘土である。遺物は出土しなかった。

## SD群 (第238図)

C地区のほぼ全面で検出された。東西方向（ほぼE10°S）、南北方向（ほぼN10°E）

に走る。いずれも幅0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mを測る。埋土は淡灰茶色シルト混じり粘土である。遺物は殆どみられなかったが、調査区のほぼ中央の小溝からは土師器碗（1202）が出土した。

1202は小破片のため、詳細な時期は不明であるが、古代末から中世前半のものであろう。



第238図

SD 群出土遺物実測図

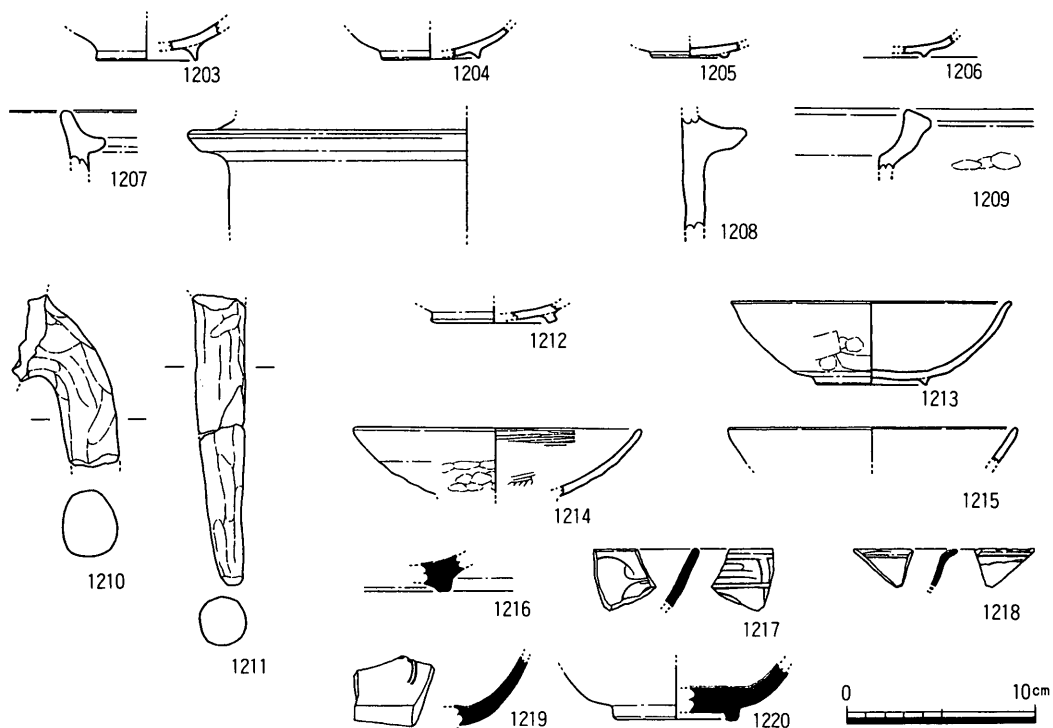
### SD 38

D地区の中央部から東部の調査区a-45区からa-46区にかけて検出された東西に走る溝である。幅0.6～1.0m、深さ0.2mを測る。埋土は灰茶色粘土混じり粗砂である。弥生土器、サヌカイト剥片が少量出土した。

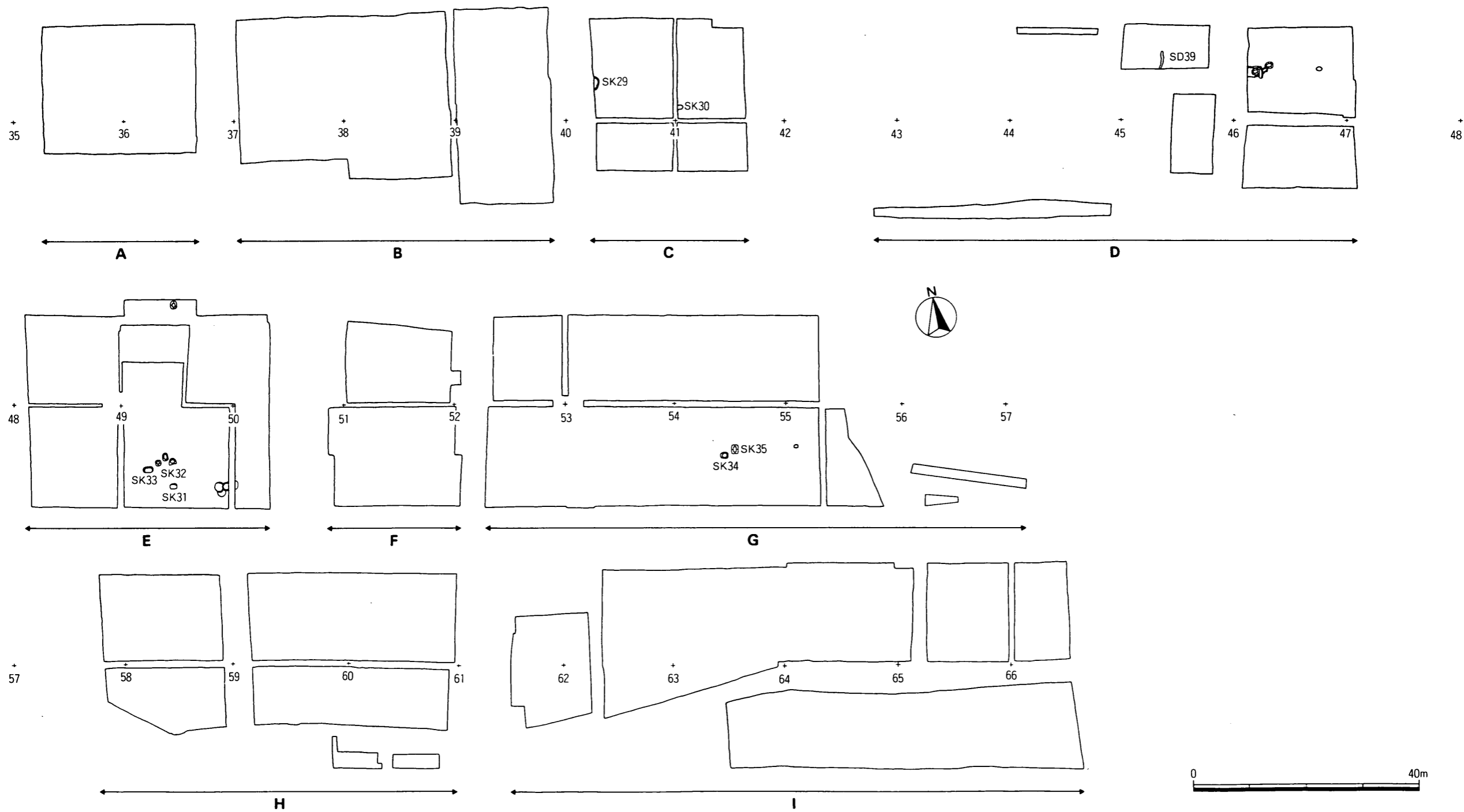
### 包含層の遺物（第239図）

1203～1220は包含層から出土した遺物のうち中世に属するものである。大半は後世の耕作土から出土したもので、1207・1217はA地区、1203・1204・1212～1215・1218はB地区、1216はC地区、1205・1206・1209～1211・1219、1220はF地区、1208はI地区で出土した。1203～1206は土師器碗である。いずれも底部片である。1203は早島式土器で高台が断面三角形であることより、13世紀中葉から後半のものと考えられる<sup>(10)</sup>。1204～1206は高台の形態から13世紀頃のものと考えられる。1207・1208は羽釜である。1207は形態から14世紀のものと考えられる。1209は土鍋である。14～15世紀のものであろう。1212は黒色土器B類碗である。高台の形態より12世紀後半のものと考えられる。1213～1215は和泉型の瓦器碗である。1213は13世紀後半、1214・1215は12世紀後半のものと考えられる。1216は中国産白磁碗である。底部が厚いことから、横田賢二郎氏・森田勉氏の分類のIV類にあたり、11世紀から12世紀のものと考えられる。<sup>(11)</sup> 1217～1220は中国産青磁碗で、いずれも龍泉窯系のものである。1217は口縁部外面に雷文帯をもつことから、上田秀夫氏の分類のC-II類にあたり、14～15世紀のものと考えられる。<sup>(12)</sup> 1218は口縁部が外反することから、上田氏の分類のD類にあたり、14～15世紀のものと考えられる。1219は体部内面を2本に沈線で区画することから、森田・横田氏の分類で、I-4類にあたり、14～15世紀のものと考えられる。1220は底部が厚く、高台部外面から畳付の一部に施釉されていることから、横田氏・森田氏の分類のI類にあたり、12～13世紀のものと考えられる。

- (10) 鈴木康之「鹿田遺跡出土の中世土器について」『鹿田遺跡 I』 1988
- (11) 横田賢二郎・森田 勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心に—」『九州歴史資料館研究論集』 4 1978
- (12) 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』 2 1982



第239図 包含層出土遺物実測図



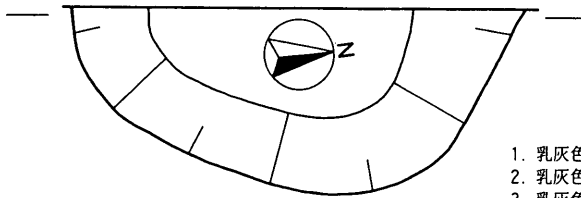
第240図 近世遺構配置図

## 6. 近世の遺構・遺物

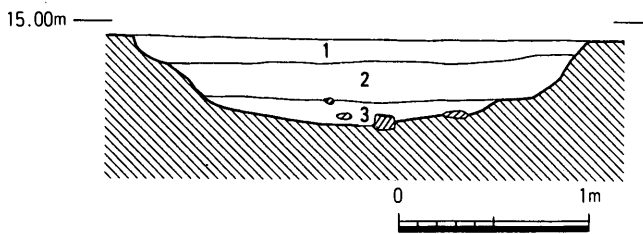
### SK 29 (第241～242図)

C地区の西部で検出された土坑である。西部は調査区外に連続するため全体は不明であるが、調査区内では半円形を呈する。現存最大径2.2m、深さ0.5mを測る。遺物は肥前染付皿(1221)のほか、備前焼灯明皿片、土師器片が数点出土した。

1221は小破片のため詳細な時期は不明であるが、17世紀以降のものであろう。



1. 乳灰色シルト混じり粘土
2. 乳灰色粘土混じりシルト
3. 乳灰色粘土混じりシルト(礫を少量含む)



第241図 SK29平・断面図



第242図 SK29出土遺物実測図

### SK 30

C地区のほぼ中央部で検出された土坑である。遺構の西部は調査区外に連続するため全体は不明である。平面形は楕円形で、現存長軸1.0m、深さ0.1mを測る。埋土は灰白色シルト混じり粘土である。遺物は出土しなかった。

### SK 31 (第243～244図)

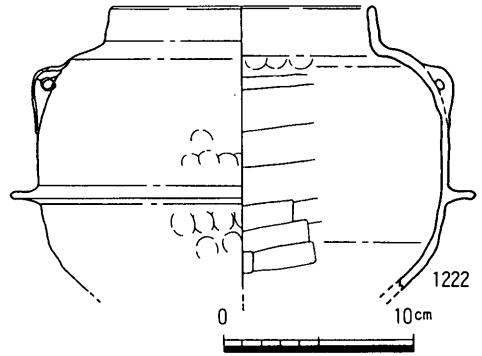
a-49中央部やや南よりの部分で検出した土坑である。1.3m×0.96mの不整長方形を呈しており、最も深いところで0.35mの深さを測る。土坑中には、直径0.04m～0.2mの礫が一面に敷き詰められた状態で出土した。埋土は暗黄色土の単一層である。

遺物は土師質の茶釜が1点出土している(第244図1222)。胴部中央やや下よりに火にかけたときの安定性を図るための羽根が巡り、肩部2箇所吊手孔がある。その形態からみて18世紀以降のものであろう。





第243図 SK31平面図

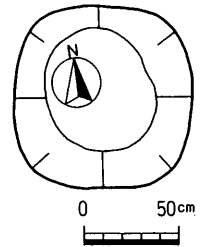


第244図 SK31出土遺物実測図

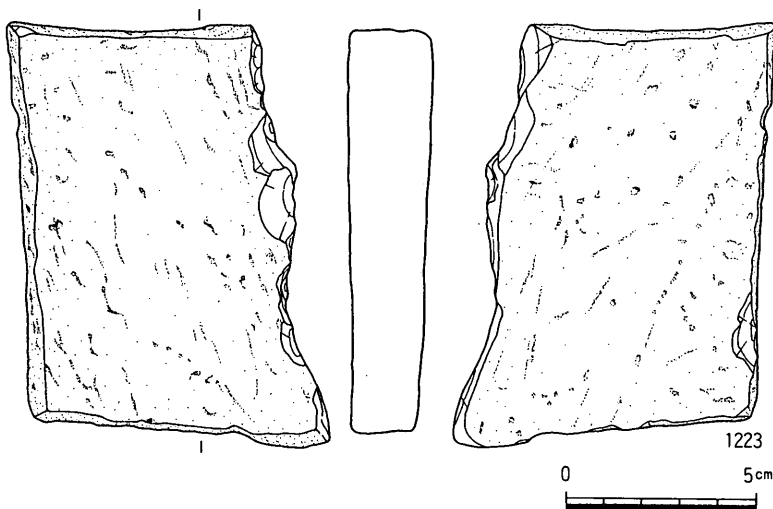
SK 32 (第245~246図)

a-49中央部やや西よりの部分で検出した土坑である。1辺約1.0mの隅丸方形を呈し、深さ約0.3mを測る。埋土はSK31と同じく暗黄色土の単一層であり、この土坑も18世紀以降のものであろう。

遺物は安山岩製の不明石製品が1点出土しているのみである(第246図1223)。欠損しているが、厚さ2cmほどの板状を呈する。器種・用途等は不明である。



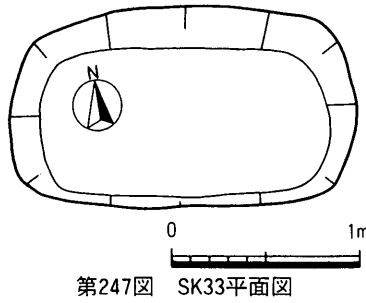
第245図 SK32平面図



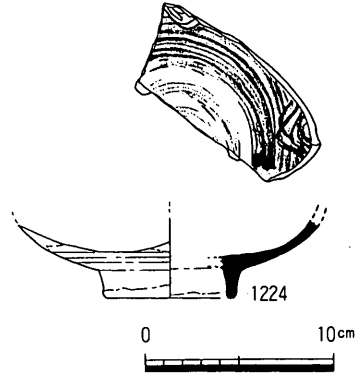
第246図 SK32出土遺物実測図

**SK 33** (第247~248図)

a-49中央部西よりの部分で検出した土坑である。2.0m×1.0mの隅丸長方形を呈し、深さ約0.2mを測る。埋土はやはり暗黄色土の単一層である。



第247図 SK33平面図

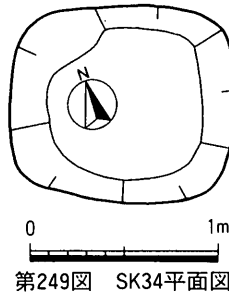


第248図 SK33出土遺物実測図

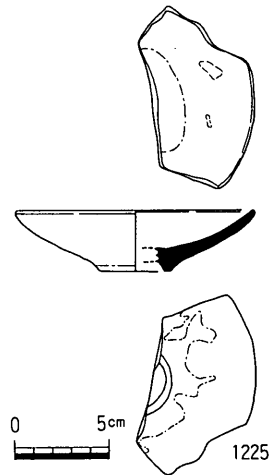
遺物は陶器の鉢が1点出土している (第248図1224)。高台付の鉢で唐津産であると思われる。時期は18世紀以降のものであろう。したがって、この土坑も該期の所産であると思われる。

**SK 34** (第249~250図)

G地区 a-53中央部, SK35東側で検出した土坑である。1.2m×1.0mの隅丸長方形を呈し、深さ約0.2mを測る。埋土は灰黄色土で、粘土等をブロック状に含む。



第249図 SK34平面図

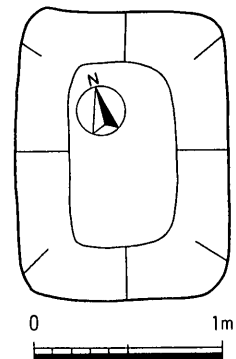


第250図 SK34出土遺物実測図

遺物は陶器片が出土している (第250図1225)。1225は陶器の皿である。高台をもち、内外面の一部に白釉をかける。唐津産と思われる。時期は16世紀末頃のものであろう。

**SK 35** (第251図)

G地区 a-53中央部, SD18東側で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸約1.5m, 短軸約1.1m, 深さ約0.3mを測る。埋土は灰黄色土で、粘土等がブロック状に含まれる。近世以降の土坑であると思われる。



第251図 SK35平面図

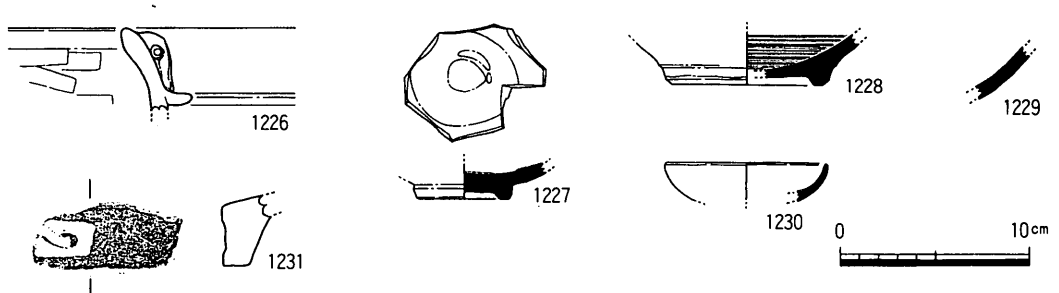
S D 39

D地区の中央部の調査区b-45区のほぼ中央部で検出された溝である。幅0.4~0.5m, 深さ0.1mを測る。埋土は淡灰色粘土である。土師器が1片出土した。

包含層の遺物 (第252図)

1226~1231は包含層から出土した遺物のうち近世に属するとおもわれるものである。いずれも後世の耕作土から出土したもので、1228はA地区、1229・1230はC地区、1226はD地区、1227・1231はH地区から出土した。1226は土師器釜である。16世紀後半から17世紀代のものと考えられる。1227は唐津青緑釉皿で、見込みに蛇の目釉剥ぎがみられる。17世紀後半から18世紀前半のものである。<sup>(13)</sup> 1228は唐津刷毛目鉢で、18世紀代のものと考えられる。1229は国産青磁鉢である。時期は不明である。1230は国産白磁皿である。時期は不明である。

(13) 大橋康二「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』 1984



第252図 包含層出土遺物実測図

# 第4章 自然科学的分析

## 第1節 太田下・須川遺跡におけるプラント・オパール分析

古環境研究所

### 1.はじめに

この調査は、プラント・オパール分析を用いて、太田下町・須川遺跡における稲作跡の探査を試みたものである。以下に、プラント・オパール分析調査の結果を報告する。

### 2.試料

1989年8月1日に現地調査を行った。調査地点はB地区S R01西壁の1地点である。土層は、1層（現表土）～11層に分層された。

試料は、容量50ccの採土管などを用いて、各層ごとに5～10cm間隔で採取した。試料数は計12点である。

### 3.分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）」をもとに、次の手順で行った。

- (1) 試料土の絶乾（105°C・24時間）、仮比重測定
- (2) 試料土約1gを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40 $\mu$ m、約0.02g）  
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- (3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- (4) 超音波による分散（150w・26k・15分間）
- (5) 沈底法による微粒子（20 $\mu$ m以下）除去、乾燥
- (6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をか

けて、試料 1 g 中のプラント・オパール個数を求めた。また、この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位：10～5 g をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。

換算係数は、イネは赤米，ヨシ属はヨシ，タケ亜科はゴキダケの値を用いた。その値はそれぞれ 2.94（種実重は 1.03），6.31，0.48 である（杉山・藤原，1987）。

#### 4. 分析結果

プラント・オパール分析の結果を第 5 表および第 254 図に示す。なお稲作跡の探査が主目的であるため、同定および定量は、イネ，ヨシ属，タケ亜科，ウシクサ族（ススキやチガヤなどが含まれる），キビ族（ヒエなどが含まれる）の主要な 5 分類群に限定した。

#### 5. 考察

##### （1）稲作の可能性について

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1 g あたりおよそ 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また、その層にプラント・オパール密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて、稲作の可能性について検討を行った。

分析の結果、3 層、4 層、5 層および 6 層最上部でイネのプラント・オパールが検出された。このうち 4 層では、プラント・オパール密度が 3,500 個/g と比較的高い値であり、明瞭なピークが認められた。したがって、同層で稲作が行われた可能性は高いと考えられる。また、弥生時代後期～古墳時代とされる 6 層最上部では、プラント・オパール密度は 2,000 個/g とやや低いものの、明らかなピークが認められた。したがって、同層で稲作が行われた可能性は比較的高いと考えられる。

一方、3・5 層では、プラント・オパール密度が 2,000 個/g 未満と低い値である。したがって、同層で稲作が行われた可能性は考えられるものの、上層などからの混入である危険性も否定できない。

以上のことから、当遺跡では、弥生時代後期～古墳時代とされる 6 層の時期に稲作が開始されたものと推定される。また、その後も比較的最近までほぼ継続して稲作が行われた

ものと推定される。

## (2) 稲粃生産量の推定

弥生時代後期～古墳時代とされる6層について、そこで生産された稲粃の総量を推定した。その結果、面積10aあたり3.4tと算出された。当時の稲粃の年間生産量を面積10aあたり100kgとし、稲わらがすべて水田内に還元されたと仮定すると、同層では30数年間にわたって稲作が営なまれたものと推定される。

## <参考文献>

杉山真二・藤原宏志.1987.川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析。

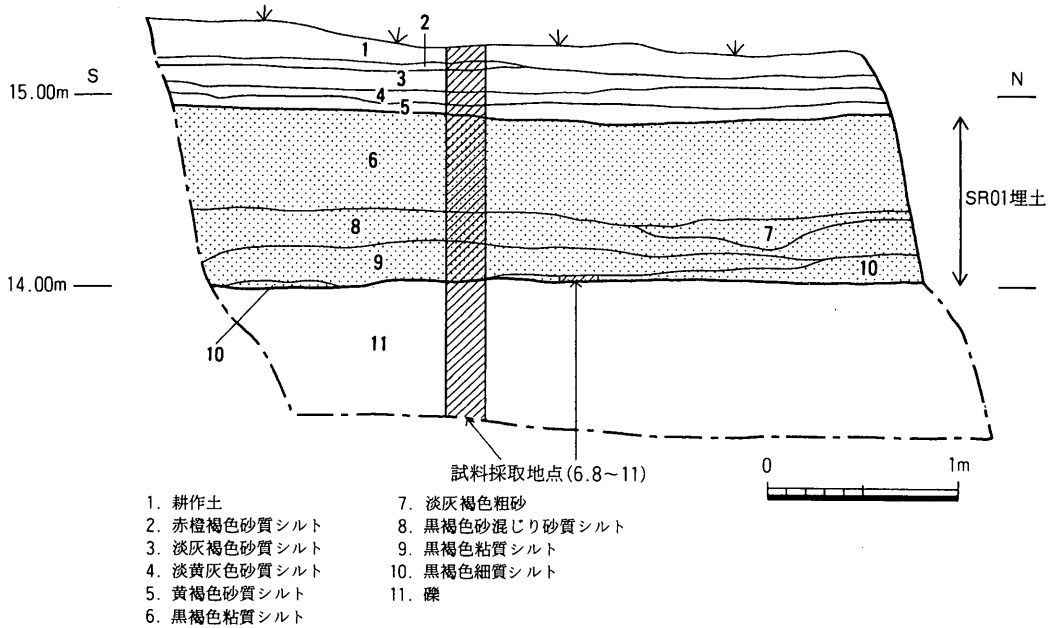
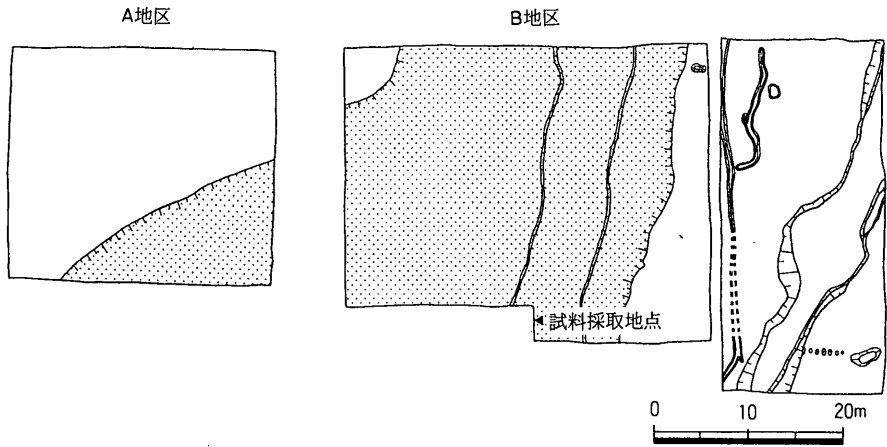
赤山—古環境編—。川口市遺跡調査会報告，第10集，281-298。

藤原宏志.1976.プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学，9:15-29。

藤原宏志.1979.プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)—福岡・板付遺跡

(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(*O. sativa* L.)生産総量の推定—。考古学と自然科学，12:29-41

藤原宏志・杉山真二.1984.プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学，17:73-85。



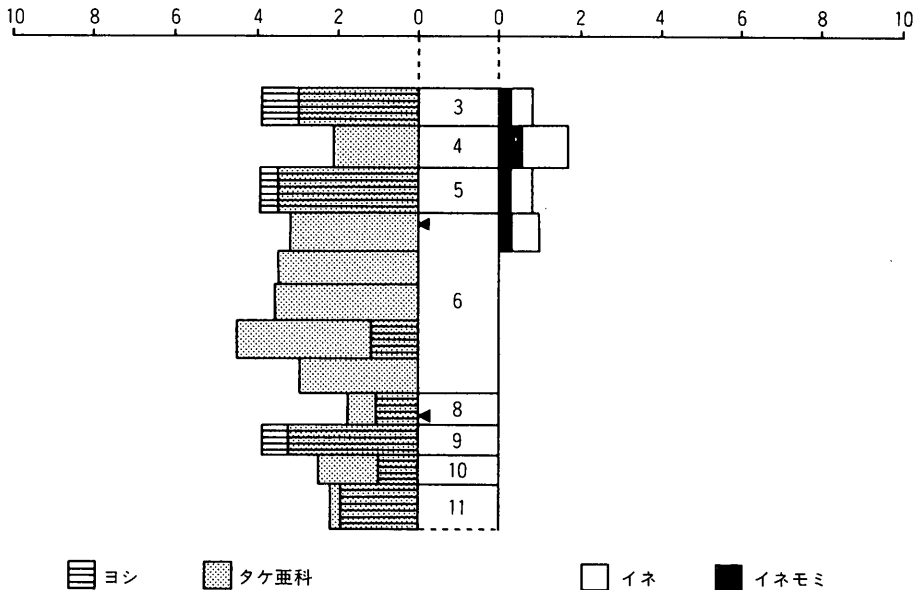
第253図 SR01 プラント・オパール採取地点

第5表 プラント・オパール分析結果

太田下・須川遺跡

B地区S R01

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(粃総量) t/10a	ヨシ属 個/g	タケ亜科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
3	14	10	1.44	1,900	2.78	3,900	42,900	0	0
4	24	11	1.62	3,500	6.34	0	26,800	0	0
5	35	12	1.54	1,800	3.34	3,600	46,800	9,100	0
6-1	47	10	1.69	2,000	3.40	0	39,100	0	0
6-2	57	9	1.70	0	0.00	0	42,100	0	0
6-3	66	9	1.70	0	0.00	0	43,200	0	0
6-4	75	10	1.70	0	0.00	900	54,900	0	0
6-5	85	9	1.70	0	0.00	0	35,700	0	0
8	94	8	1.70	0	0.00	800	21,500	0	0
9	102	8	1.45	0	0.00	3,800	46,200	0	0
10	110	8	1.52	0	0.00	900	33,500	0	0
11	118	-	1.44	0	-	1,900	31,400	0	0

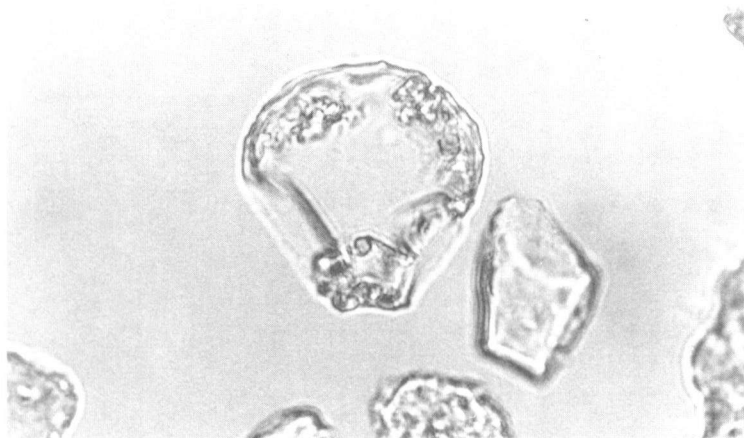


第254図 主な植物の推定生産量と変遷

(注) ◀印は50cmのスケール



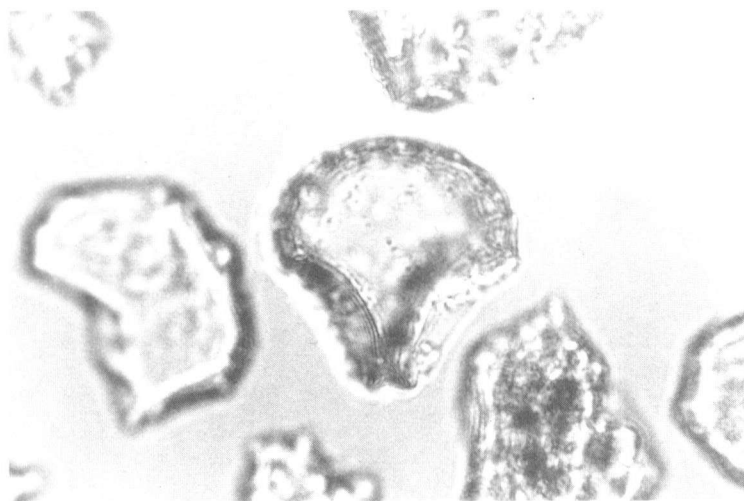
写真1 プラント・オパール顕微鏡写真(1)



イネ  
試料名 6-1 倍率400



イネ  
試料名 6-1 倍率400

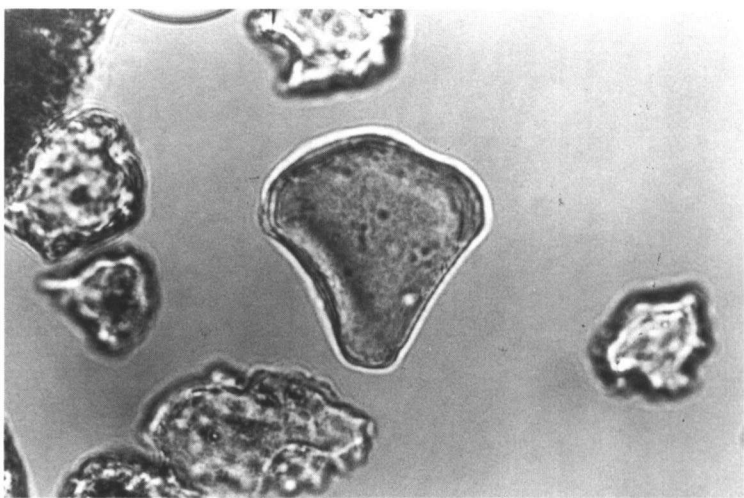


イネ  
試料名 6-1 倍率400

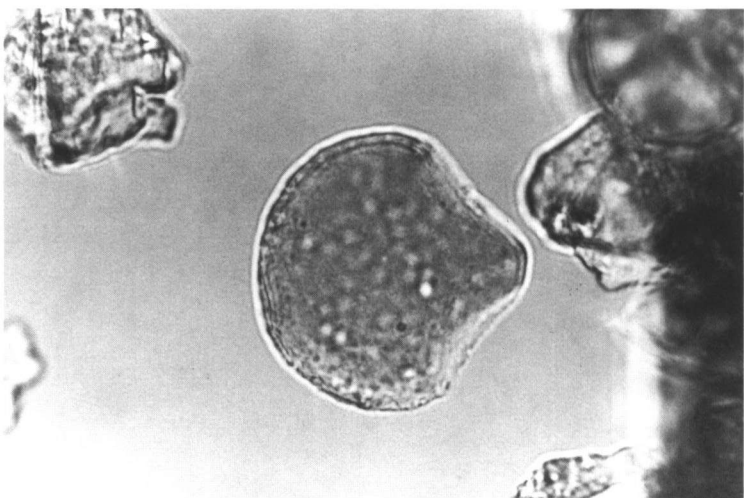
写真2 プラント・オパール顕微鏡写真(2)



タケ亜科  
試料名 6-1 倍率400



ウシクサ属  
試料名 6-1 倍率400



ヨシ属  
試料名 6-1 倍率400

## 第2節 太田下・須川遺跡から出土した木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

### 1. はじめに

太田下・須川遺跡（香川県高松市三条町・太田下町・伏石町所在）は、香東川の形成した扇状地上に位置する。本遺跡では弥生時代中期～近世の遺構がこれまでに検出された。また、各時代の遺構からは、土器や柱材、曲物、櫛等の木質遺物が検出された。

今回の分析調査では、各時代の遺構から検出された柱材、曲物、櫛について樹種同定を行ない、その樹種を明らかにする。

### 2. 試料

試料は、古墳時代中～後期の柱材2点（試料番号①，②），曲物（試料番号③），弥生時代後期の柄（試料番号④），平安時代の櫛（試料番号⑤）である。

### 3. 方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製した。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定した。

### 4. 結果

5点の試料は、コウヤマキ，ヒノキ属の一種，コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種，コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種，ツゲの5種類に同定された（第6表）。

同定された各種類の主な解剖学的特徴および現生種の一般的性質を以下に記す。なお、学名・和名は、主として「原色日本植物図鑑 木本編〈I・II〉」（北村・村田，1971，1979）にしたがい、一般的性質については「木の事典第1巻～第7巻」（平井，1979－1980）も参考にした。

第6表 樹種同定結果

番号	遺物番号	出土遺構	用途	時代	樹種名
①	1016	S B12	柱材	古墳時代	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
②	1005	S H05	柱材	古墳時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
③	390	S R03	曲物	弥生時代	ヒノキ属の一種
④	742	S X02	柄	弥生時代	コウヤマキ
⑤	1144	S R05	櫛	平安時代	ツゲ

・コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.) コウヤマキ科  
 早材部から晩材部への移行は緩やかで、年輪界は明瞭。放射組織は柔細胞のみで構成され、細胞壁は滑らか、分野壁孔は窓状。放射組織は単列，1～5（10）細胞高。

コウヤマキは、1科1属1種の日本特産の常緑高木である。自生地は本州(福島県以南)・四国・九州に点在し、また植栽される。材はやや軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度であるが耐水性がある。各種樽桶類・土木・舟材・棺材などの用途がある。

・ヒノキ属の一種 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列，1～15細胞高。

ヒノキ属には、ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) とサワラ (*C. pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) の2種がある。ヒノキは本州(福島県以南)・四国・九州に分布し、また各地で植栽される常緑高木で、国内ではスギに次ぐ植林面積を持つ重要樹種である。材はやや軽軟で加工は容易、割裂性は大きい、強度・保存性は高い。建築・器具材など各種の用途が知られている。サワラは本州(岩手県以南)・九州に自生し、また植栽される高木で多くの園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと同複合放射組織とがある。年輪界は明瞭。

クヌギ節は，コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で，果実（いわゆるドングリ）が2年目に熟するグループで，クヌギ (*Quercus acutissima* Carruthers) とアベマキ (*Q. variabilis* Blume) の2種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州に，アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが，中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で，材は重硬である。古くから薪炭材として利用され，人里近くに萌芽林として造林されることも多く，薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材・櫓木などの用途が知られる。アベマキはクヌギによく似た高木で，樹皮のコルク層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが，さらに重い。用途もクヌギと同様であるが，樹皮が厚いため薪材にはむかず，炭材としてもクヌギ・コナラより劣るとされる。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～2列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと同複合放射組織とがある。年輪界は明瞭。

コナラ節は，コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で，果実（いわゆるドングリ）が1年目に熟するグループで，モンゴリナラ (*Quercus mongolica* Fischer ex Turcz.) とその変種ミズナラ (*Q. mongolica* Fischer ex Turcz. var. *grosseserrata* (Bl.) Rehder et Wilson), コナラ (*Q. serrata* Murray), ナラガシワ (*Q. aliena* Blume), カシワ (*Q. dentata* Thunberg) といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラは北海道・本州（丹波地方以北）に，ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に，ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。コナラは樹高20mになる高木で，古くから薪炭材として利用され，植栽されることも多かった。材は重硬で，加工は困難，器具・機械・櫓材などの用途が知られ，薪炭材としてはクヌギに次ぐ優良材である。

・ツゲ (*Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* (Muell. Arg.) Makino)

ツゲ科

散孔材で管壁は厚～中庸で、横断面では角張った楕円形、単独または2～5個が複合する。道管は階段穿孔を有し、段数は10～20、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性II～I型、1～3細胞幅、1～30細胞高。年輪界はやや明瞭。

ツゲは、本州（宮城・山形県以南）・四国・九州に希に生育し、また植栽される常緑低木～小高木である。生長は遅く、材は重硬・強靱で、加工は困難、耐朽性は高い。特殊な用途が知られており、中でも櫛・印判・義歯などは古くからの用途である。

## 5. 考察

柱材はクヌギ節とコナラ節であった。両種とも強度が高く、柱材等の建築材に多く用いられている。香川県内でも、下川津遺跡、東山崎・水田遺跡、川津中塚遺跡等で類例が報告されている。これらの結果から、香川県内でもクヌギ節やコナラ節が建築部材として広く利用されていたことが推定され、今回の結果もその一例といえる。

曲物は、ヒノキ属であった。ヒノキ属が曲物に使用される例は全国各地で知られ、島地・伊東（1988）および伊東（1990）の統計では、曲物の樹種として最も多く同定されている。ヒノキ属は、その木材組織の特徴から放射方向および接線方向の割裂性が高く、曲物に必要な薄い板状の加工が比較的容易に行える。また、その材質は耐水性が高く、これらのことが曲物に選択された背景として考えられる。

櫛は、ツゲ（柘植）であった。ツゲは、現在櫛の材として最も普通に使用されている樹種である。また、ツゲの他にイスノキ、モッコク等の木材も比較的多く使用されている（島地・伊東，1988）。これらの木材は、いずれも径の小さい道管が年輪界に一樣に分布する散孔材で、均質な材質を持つものが多い。このことから、平安時代の櫛には緻密で均質な木材が選択されていたことが考えられる。今回同定を行った櫛は、試料の観察から背の部分が木口面になるような木取りが推定される。しかし、櫛の歯の部分のみの観察であるため詳細は不明である。

柄はコウヤマキに同定された。島地・伊東（1988）によると、柄には広葉樹材が同定されることが多い。これは、柄の用途から強度の高い木材が選択された結果と考えられる。柄に使用されている針葉樹材は、ヒノキ属やイヌマキ属等の針葉樹の中でも強度が比較的高い木材が多い。今回同定されたコウヤマキの例は、工具の柄に2例認められているのみ

である。この背景には、木材の強度等の他に、コウヤマキの天然分布が限られており、入手しにくい樹種であったことも考えられる。香川県では、徳島県との県境付近に現在でもコウヤマキの自生がみられる (Y. Horikawa, 1972)。遺跡からの出土例は比較的多く、下川津遺跡、東山崎・水田遺跡、林・坊城遺跡、郡家一里屋遺跡で報告されている。中には、海岸部に近い遺跡で柱材が出土した例もあり、過去にはコウヤマキの分布が現在よりも広がった可能性がある。いずれにしても、今回同定を行った柄は、どのような用途の柄であるのか不明である。今後柄の用途を明らかにし、できれば本結果を改めて評価したい。

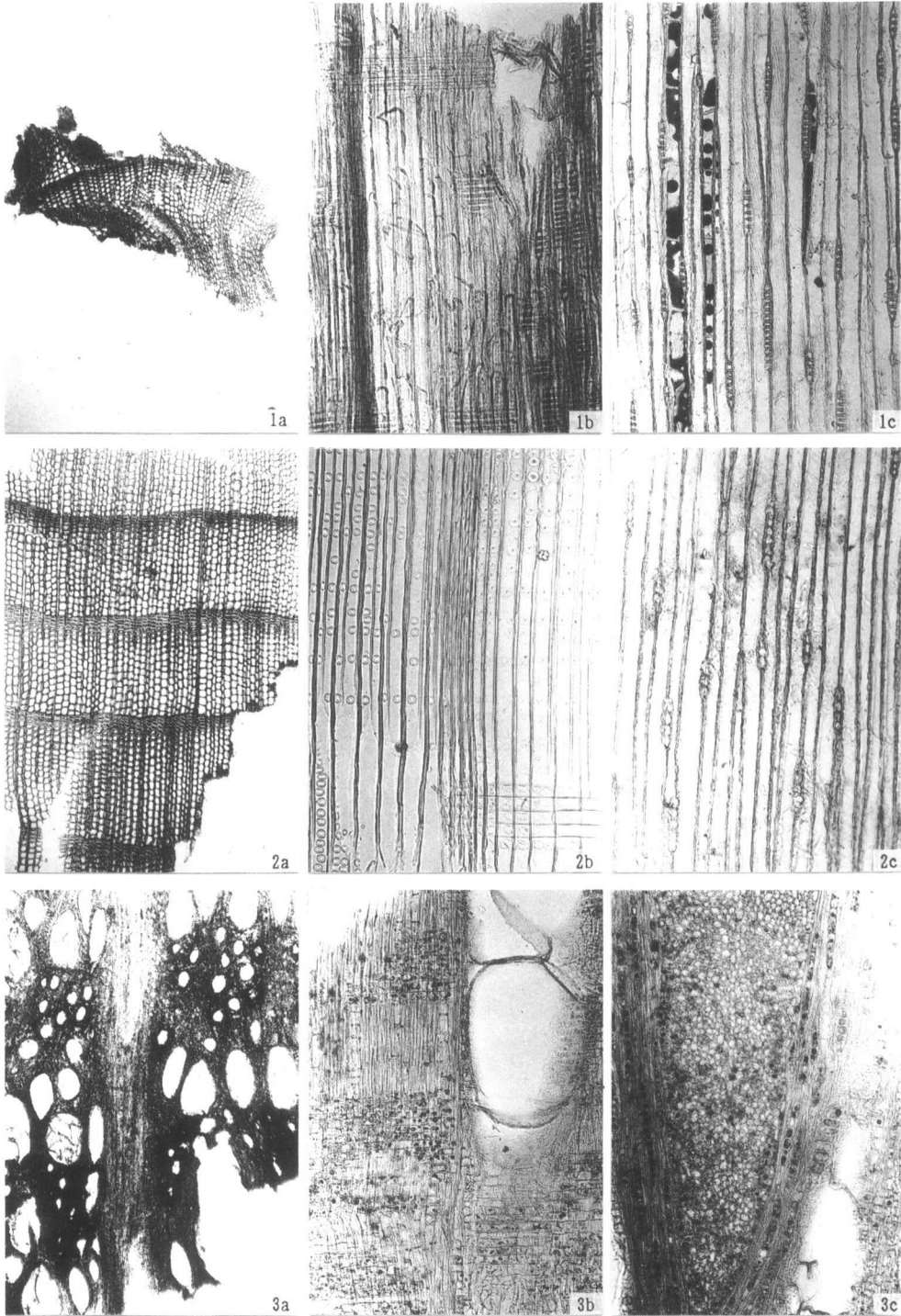
## 6. まとめ

樹種同定の結果、柱材にはクヌギ節とコナラ節、曲物にはヒノキ属、櫓にはツゲ、柄にはコウヤマキが使用されていたことが明らかとなった。これらの結果は、これまでに県内および日本各地で行われた樹種同定結果と調和的である。これらの結果から、香川県内における要材選択の傾向が明らかになりつつある。とくに、コウヤマキに関しては多くの遺跡で同定され、過去の植生や流通を考える上で興味ある結果が得られている。しかし、その全容を把握するには資料数が少なく、今後さらなる資料蓄積が望まれる。

## 〈引用文献〉

- 平井信二 (1979-1980) 木の事典 第1巻～第7巻 かなえ書房
- 伊東隆夫 (1990) 日本の遺跡から出土した木材の種類とその用途II 木材研究・資料, 26, p. 91-189
- 北村四郎・村田 源 (1971, 1979) 原色日本植物図鑑 木本編〈I・II〉 453p, 545p  
保育社
- 島地 謙・伊東隆夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧 296p 雄山閣
- Yoshiwo Horikawa (1972) Atlas of the Japanese Flora I an introduction to  
plant sociology of East Asia 500p Gakken

写真3 材の顕微鏡写真(I)

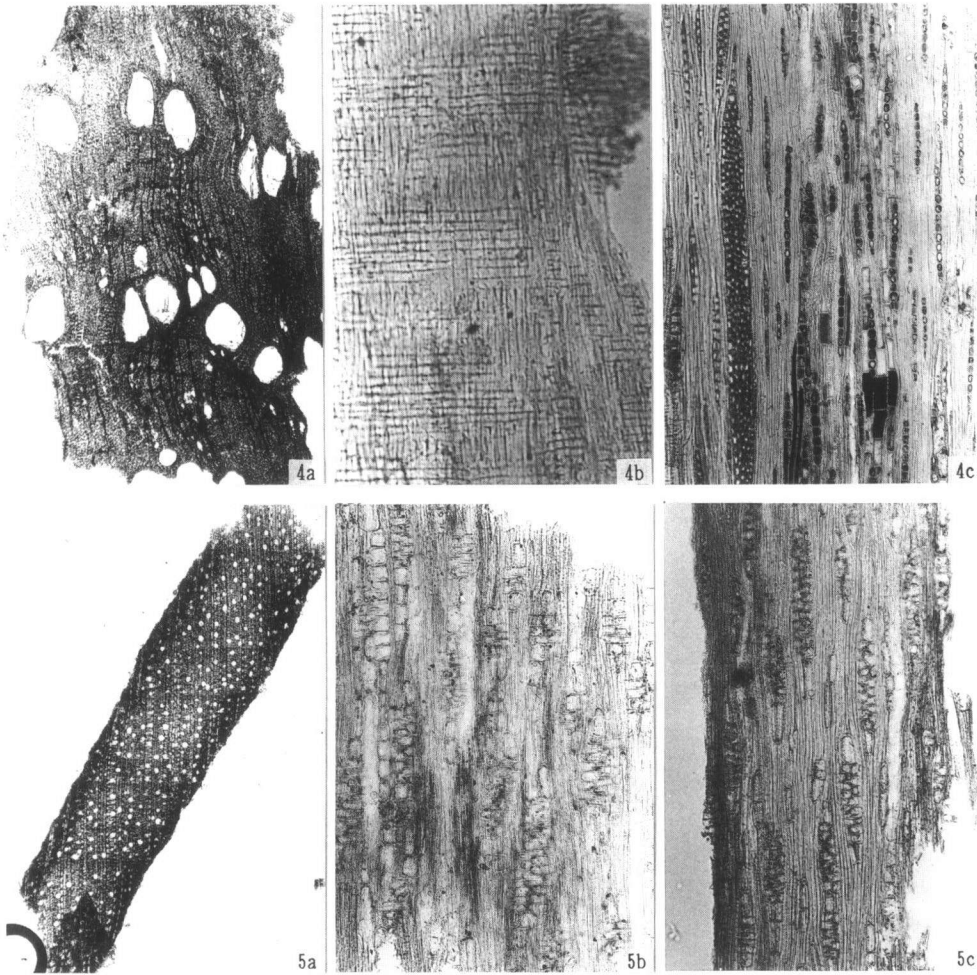


1. ヒノキ属の一種 (試料番号③)  
 2. コウヤマキ (試料番号④)  
 3. コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (試料番号②)  
 a: 木口, b: 柾目, c: 板目

200 μm : a  
 200 μm : b, c



写真4 材の顕微鏡写真(2)



4. コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 (試料番号①)

5. ツゲ (試料番号⑤)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200  $\mu$ m : a

200  $\mu$ m : b, c

## 第3節 太田下・須川遺跡の出土土器にかかわる

### 赤色顔料物質の微量化学分析

武庫川女子大学薬学部 安田 博幸

金杉 直子

#### 1. はじめに

太田下・須川遺跡は、高松市のほぼ中央、香東川の形成した海拔15m前後の扇状地の、南南西から北北東にかけての緩やかな傾斜地上にあり、弥生時代～近世の遺構、遺物が検出されている。また、遺跡の東端部からは自然河川が検出され、埋土の中から弥生時代後期の土器、木製品が出土している。

このたび、同遺跡の平成元年度の調査において出土した弥生時代の土器類に付着・残存している赤色顔料物質について、化学分析による鑑定を依頼されたので、筆者らの常法<sup>(1)</sup>とするろ紙クロマトグラフ法と検出試薬による微量化学分析を行ない、所見を得たので報告する。

#### 2. 試料の外観および分析用試料の採取

試料1 B地区S R02より出土の高杯(296)の杯部外面に付着の赤色顔料の約1mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

試料2 B地区S R02より出土の鉢(281)の把手の内側に付着している赤色顔料の約1mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

試料3 B地区S R02より出土の鉢(281)の皿の内側に付着している赤色顔料の約1mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

試料4 B地区S R02より出土の鉢(271)の内側に付着している赤色顔料の約1mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

試料5 B地区S R02より出土の鉢(278)の胴部内面に付着している赤色顔料の約1mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

試料6 B地区S R02より出土の鉢(278)の底部内面に付着している赤色顔料の約1mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

試料7 H地区S X02より出土の高杯(648)の脚部に丸形と帯状の文様として付着・残存している赤色顔料の約1mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

試料 8 I 地区 S R 04より出土の高杯 (500) の杯部外面に丸形と帯状の文様として付着・残存している赤色顔料の約 1 mgを鋼針を用いて注意深く削り取り分析用試料とする。

### 3. 試料検液の作製

上記の分析用試料をそれぞれのガラス尖形管に移し、濃硝酸 1 滴と濃塩酸 3 滴を加え、加温して酸可溶性成分を溶解させたのち、適当量の蒸留水を加えて遠心分離器にかけ、酸不溶性成分から分離した上澄液を加熱濃縮して、ろ紙クロマトグラフ用の試料検液とする。試料検液の番号は、試料番号にそれぞれ対応させる。

### 4. ろ紙クロマトグラフ法と検出試薬による呈色反応からの赤色顔料成分の確認

東洋ろ紙 N 0.51 B (2 cm×40cm) を使用し、ブタノール硝塩酸を展開溶媒として、試料検液と、対照の鉄イオン ( $Fe^{3+}$ ) と水銀イオン ( $Hg^{2+}$ ) の標準液を同条件下で展開した。

展開の終わったろ紙を風乾してから縦に二分し、その一方は、検出試薬として 1%ジフェニルカルバジドのエタノール溶液を噴霧してからアンモニア蒸気に曝し、もう一方には、検出試薬として 0.05%ジチゾンのクロロホルム溶液を噴霧して、それらの際に、ろ紙上に発現するそれぞれの呈色スポットの位置 (Rf 値で表現する) と色調を検した。

上記試料検液、ならびに、対照イオンの標準液について得られたろ紙上のスポットの Rf 値と色調は、下記の第 7 表、第 8 表のとおりである。

(1) ジフェニルカルバジド・アンモニアによる検出：(H g<sup>2+</sup>は紫色, F e<sup>3+</sup>は紫褐色のスポットとして検出される。

第7表 ジフェニルカルバジドによる呈色スポットのR f値と色調

試料	R f 値 (色調)	
試料検液 1	0.11 (紫褐色)	
試料検液 2	0.14 (紫褐色)	0.93 (紫色)
試料検液 3	0.12 (紫褐色)	0.92 (紫色)
試料検液 4	0.11 (紫褐色)	0.92 (紫色)
試料検液 5	0.11 (紫褐色)	0.91 (紫色)
試料検液 6	0.12 (紫褐色)	0.92 (紫色)
試料検液 7	0.12 (紫褐色)	
試料検液 8	0.10 (紫褐色)	
F e <sup>3+</sup> 標準液	0.16 (紫褐色)	
H g <sup>2+</sup> 標準液	0.90 (紫色)	

(2) ジチゾンによる検出：(H g<sup>2+</sup>は橙色スポットとして検出され、F e<sup>3+</sup>は反応陰性のため呈色せず。)

第8表 ジチゾンによる呈色スポットのR f値と色調

試料	R f 値 (色調)
試料検液 1	呈色スポット発現せず
試料検液 2	0.94 (橙色)
試料検液 3	0.91 (橙色)
試料検液 4	0.93 (橙色)
試料検液 5	0.93 (橙色)
試料検液 6	0.94 (橙色)
試料検液 7	呈色スポット発現せず
試料検液 8	呈色スポット発現せず
F e <sup>3+</sup> 標準液	呈色スポット発現せず
H g <sup>2+</sup> 標準液	0.93 (橙)

## 5. 判定

以上の結果のように、太田下・須川遺跡より出土した土器で、このたびの赤色顔料分析用に提供を受けた6点の試料土器片のうち、試料1, 7, 8の「高杯」試料より採取された分析用赤色顔料試料の検液中からは、 $\text{Fe}^{3+}$ のみが検出され、 $\text{Hg}^{2+}$ は検出されなかった。したがって、「高杯」試料1, 7, 8に付着・残存していた赤色顔料は、すべてベンガラ(酸化鉄,  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )系の赤色顔料のみであって、水銀朱( $\text{HgS}$ )の使用ないしは混用はなかったものと判定する。一方、試料2, 3, 4, 5, 6の「鉢」試料より採取された分析用赤色顔料試料の検液中からは、すべて、 $\text{Hg}^{2+}$ が明瞭に検出された。したがって、「鉢」試料に付着・残存していたのは水銀朱(辰砂,  $\text{HgS}$ )であることが明かとなった。同じ試料検液について、同時に検出された $\text{Fe}^{3+}$ の呈色が $\text{Hg}^{2+}$ に比べて薄かったことより、その存在は、分析用試料の採取時に混入した土器胎土中の微量の鉄( $\text{Fe}$ )成分に由来するか、または、通常、水銀朱中に普遍的に混在するといわれている少量のベンガラ(酸化鉄,  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )成分によるものと判定する。

このたびの微量化学分析において、鉢形土器の内面の赤色顔料としての水銀朱が検出されたことは、きわめて興味深い知見といえよう。

(1993年10月分析)

[註] (1) 安田博幸：「古代赤色顔料と漆喰の材料科学」『斎藤忠編集 日本考古学論集1 考古学の基本的諸問題』吉川弘文館 pp. 389~407 (1986)

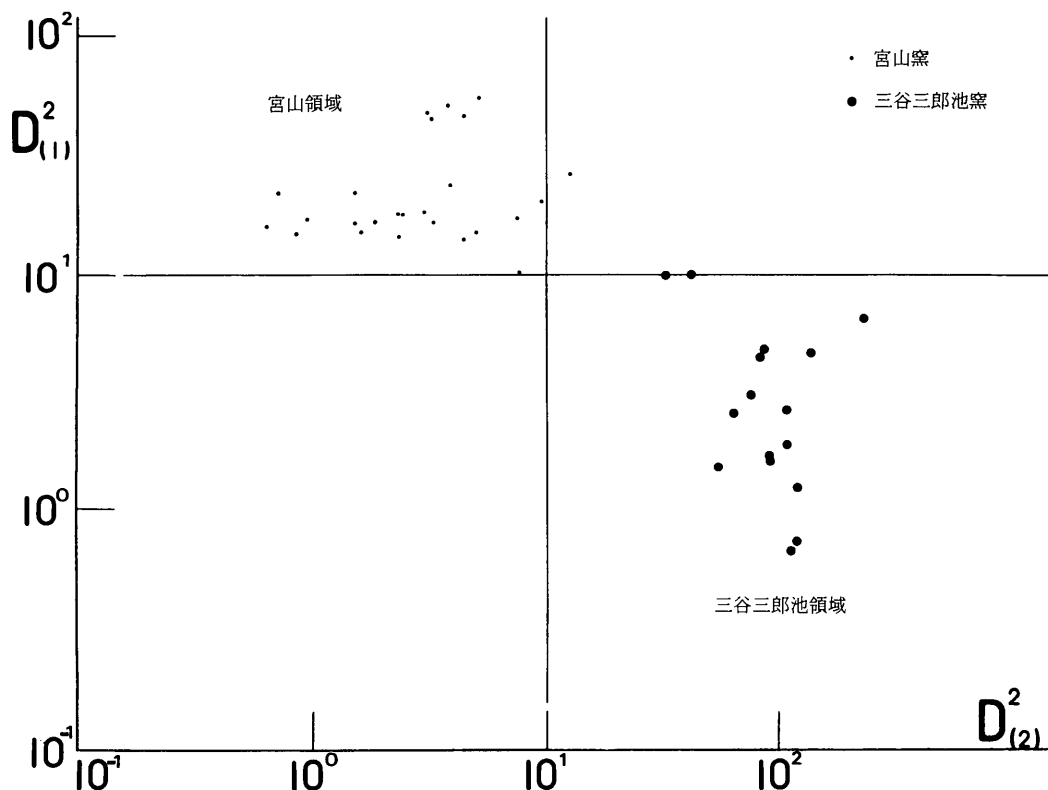
安田博幸：「古代赤色顔料と漆喰の材質ならびに技法の伝流に関する二、三の考察」『橿原考古学研究所論集』第7 吉川弘文館 pp. 449~471 (1984)

## 第4節 太田下・須川遺跡出土初期須恵器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻 利一

四国各地の遺跡から出土する初期須恵器の多くは胎土分析によって陶邑産であることがわかって来た。本報告では太田下・須川遺跡から出土した初期須恵器の蛍光X線分析の結果について報告する。

試料はすべて、表面を研磨して付着物を除去したのち、タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉碎した。粉末試料は塩化ビニール製リングを枠にして、約15 tの圧力を加えてプレスし、内径20mm、厚さ3～5 mmの錠剤試料を作成し、蛍光X線分析を行った。全自動式の波長分散型のスペクトロメーターで分析した。分析値は同時に測定された岩石標準試料JG-1の各元素の蛍光X線強度を使って標準化された値で表示されている。分析値は第9表にまとめている。



第255図 三谷三郎池窯と宮山窯の須恵器の相互識別 (K・Ca・Rb・Sn 因子使用)

はじめに、地元、香川県にある2つの初期須恵器の窯、宮山窯と三谷三郎池窯の相互識別の結果から説明する。両群の2群間判別図は第255図に示し、両軸にとった $D^2(1)$ 、 $D^2(2)$ はそれぞれ、三谷三郎池群、宮山群の重心からのマハラノビスの汎距離の二乗値であり、K、Ca、Rb、Srの4因子を使って計算している。両群領界線は5%の危険率をかけたHotellingの $T^2$ 検定で合格するところで決めた。それがマハラノビスの汎距離の二乗値にして10付近にあるので、第255図では $D^2(1)=10$ 、 $D^2(2)=10$ のところに境界線を引いた。そうすると、三谷三郎池窯の試料のほとんどが $D^2(1) \leq 10$ の領域に、また、宮山窯の試料のほとんどが $D^2(2) \leq 10$ の領域に分布することがわかる。さらに、両群の試料は互いに相手群から遠く離れて、 $D^2(\text{相手群}) > 10$ の領域に分布していることがわかる。その結果、三谷三郎池窯の須恵器は $D^2(1) \leq 10$ 、 $D^2(2) > 10$ の三谷三郎池領域に、また、宮山窯の須恵器は $D^2(2) \leq 10$ 、 $D^2 > 10$ の宮山領域に分布し、両者は完全に相互識別されることが判明した。

同様に、陶邑群と三谷三郎池群、陶邑群と宮山群の2群間判別分析をおこなった。陶邑群の試料は150点もあり、他の2つの母集団の試料数と比較して不釣り合いが多かったので図は省略した。その結果、陶邑群と宮山群は完全に相互識別されたが、陶邑群と三谷三郎池群とは不完全にしか相互識別されないことがわかった。

そこで、太田下・須川遺跡出土須恵器が陶邑産か、それとも、地元（三郎池窯、宮山窯）産か、さらには、朝鮮半島からの陶質土器である可能性も考慮に入れて、陶邑群、三郎池群、宮山群、内谷洞群、余草里群、碓坂堤群の各母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値をK、Ca、Rb、Srの4因子を使って計算してみた。その結果を第10表にまとめている。各母集団への帰属条件は $D^2(X) \leq 10$ である。(X)は母集団名である。そうすると、宮山群に対してこの条件を満足するものは1点もないことがわかる。

つまり、宮山群産の須恵器はない訳であり、宮山群は産地リストからはずされることになる。

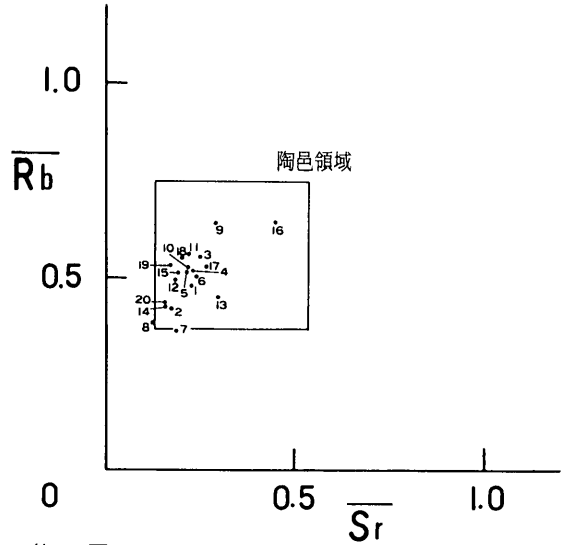
次に、余草里群と碓坂堤群に対して帰属条件を満足するのはNo.16の試料だけである。しかし、No.16は内谷洞群や陶邑群に対してはさらに統計学的距離は近い、すなわち、類似性が高い訳である。したがって、余草里群と碓坂堤群も産地のリストから削除してよさそうである。同様に、内谷洞群もNo.16の試料を除外すれば、産地となる可能性は少ない。こうして、産地のリストには陶邑群と三郎池群が残ることになった。この両群を比較すると、すべての試料は陶邑群への帰属条件を満足しているが、三郎池群に対してはNo.13, 14, 20



の3点以外の17点の試料が帰属条件を満足する。この結果、まず、No. 13, 14, 20の3点が陶邑産と推定されることとなった。残りの17点は陶邑群と三郎池群の両方への帰属条件を満足しているわけであるが、このうち、No. 2, 4, 12は陶邑群への統計学的距離がずっと近いので陶邑産と推定された。逆に、No.

7は三郎池群を優先して産地と推定した。他の試料は陶邑群と三郎池群の両方を産地の可能性ありとし、統計学的距離の近い方を優先して、その順に推定産地を記入した。また、No. 16も陶邑群産と思われるが、統計学的距離がほぼ同じである内谷洞群も産地として挙げておいた。強いて陶質土器があるとすれば、No. 16が挙げられる。

この結果、陶邑産と推定されたものがNo. 2, 4, 12, 13, 14, 16, 20の7点、三郎池産と推定されたものがNo. 7の1点、陶邑産、三郎池産の両方の可能性があるものはNo. 1, 3, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 15, 17, 18, 19の12点あり、宮山群産と推定されたものはなかった。このようなデータからみて、No. 16も陶邑産と考えているが、強いて言えば陶質土器の可能性があると云う程度である。第256図には、太田下・須川遺跡出土須恵器のRb-Sr分布図を示している。三郎池産と推定されたNo. 7と陶質土器の可能性をもつNo. 16は少しはなれて分布していることが注目される。



第256図  
太田下・須川遺跡出土初期須恵器のRb-Sr分布図

第 9表 大田下・須川遺跡出土初期須恵器の分析値

番号	地区	出土遺構	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
1	E	S H 0 2	甗	0.348	0.077	2.11	0.477	0.225	0.155
2	E	包含層	甗	0.329	0.038	2.56	0.419	0.176	0.103
3	E	包含層	甗	0.359	0.068	1.87	0.554	0.250	0.145
4	E	包含層	甗	0.416	0.088	2.29	0.523	0.225	0.180
5	E	S H 0 2	甗	0.381	0.065	1.89	0.515	0.221	0.192
6	E	S H 0 2	甗	0.334	0.072	2.55	0.501	0.244	0.126
7	F	包含層	壺	0.287	0.087	4.13	0.355	0.186	0.119
8	F	包含層	高杯	0.273	0.040	3.03	0.384	0.120	0.051
9	F	包含層	壺	0.453	0.101	2.03	0.640	0.292	0.221
10	F	包含層	壺	0.384	0.067	1.82	0.523	0.225	0.191
11	F	S H 0 3	杯身	0.372	0.067	1.86	0.558	0.218	0.147
12	G	包含層	壺	0.368	0.033	2.12	0.495	0.185	0.042
13	G	S D 1 4	杯蓋	0.376	0.092	2.44	0.449	0.304	0.184
14	G	S D 1 4	甗	0.386	0.032	3.20	0.423	0.170	0.155
15	G	S D 1 4	樽形甗	0.350	0.059	1.77	0.508	0.190	0.144
16	G	S D 1 4	甗	0.508	0.209	1.73	0.645	0.454	0.232
17	G	S D 3 4	壺	0.351	0.071	1.70	0.532	0.268	0.128
18	G	S D 1 3	壺	0.344	0.050	2.94	0.554	0.197	0.147
19	G	S D 2 0	甗	0.381	0.027	2.11	0.528	0.169	0.046
20	G	S H 0 6	甗	0.400	0.033	3.24	0.430	0.160	0.165

第10表 産地推定の結果

番号	陶 邑	三郎池	宮 山	内谷洞	余草里	礮湊堤	推 定 産 地	
1	3.2	2.6	120	26	26	35	三郎池	陶邑
2	4.4	9.6	170	34	33	42	陶邑	
3	2.0	6.7	37	45	62	76	陶邑	三郎池
4	1.9	8.4	240	17	15	28	陶邑	
5	1.6	4.8	170	21	20	30	陶邑	三郎池
6	4.6	1.2	79	26	29	37	三郎池	陶邑
7	9.9	7.8	114	45	47	55	三郎池	
8	8.5	4.6	160	48	50	65	三郎池	陶邑
9	0.93	5.0	190	9.9	12	20	陶邑	三郎池
10	1.5	4.4	170	20	20	29	陶邑	三郎池
11	2.4	1.8	150	21	24	33	三郎池	陶邑
12	2.7	8.1	210	25	26	34	陶邑	
13	3.5	21	92	22	16	22	陶邑	
14	4.0	27	310	31	27	37	陶邑	
15	3.1	2.1	160	26	28	39	三郎池	陶邑
16	3.6	7.1	95	3.2	6.7	8.7	内谷洞	陶邑
17	4.4	1.9	75	23	26	32	三郎池	陶邑
18	4.1	2.0	140	26	32	41	三郎池	陶邑
19	2.8	8.3	250	23	26	35	陶邑	三郎池
20	4.5	30	360	31	27	39	陶邑	

## 第5節 太田下・須川遺跡の土器の砂礫

奥田 尚

### 1. はじめに

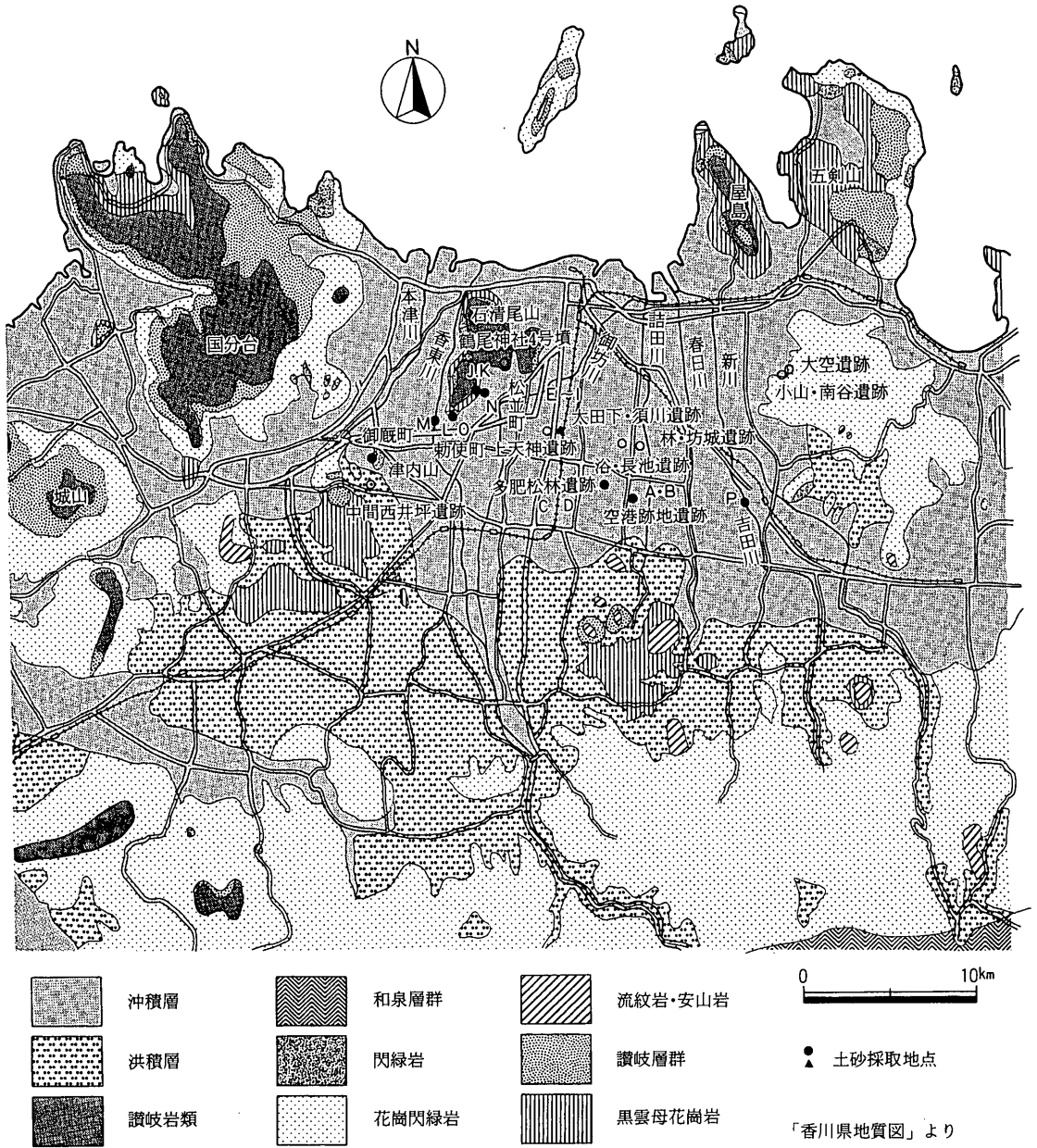
角閃石が多く含まれる土器は河内の土器であると言われていたことがある。確かに、河内型庄内甕には非常に多くの角閃石が含まれる。しかし、角閃石は高松市付近の土器や吉備地方を中心に分布する特殊器台・壺、大分県竹田市付近の土器等にも多く含まれることがある。角閃石の量により河内で製作された土器であるとは言いきれない。高松市太田下・須川遺跡から出土した土器にも角閃石が多く含まれているものがある。この土器の砂礫構成は河内型庄内甕の砂礫構成のような閃緑岩あるいは斑糲岩の媒乱砂をそのまま使用しているものではないことから河内型庄内甕の砂礫構成と区分でき得る。竹田市付近の土器には安山岩質岩を後背地にもつためか自形の角閃石が多く含まれる。関東地方の土器にも自形の角閃石や輝石が比較的多く含まれる。以上のような角閃石の特徴から、高松市付近に角閃石を多く含む砂礫があるのではないかと考え、高松市付近の砂礫も採取した。

観察方法は土器の表面に見られる砂礫種の同定である。始めに裸眼で全体を観察し、次に倍率30倍の実体鏡で観察良好な部分を見た。砂礫には岩石片や鉱物片、生物片があり、これらの種類、形、量について観察した。観察の目安として、岩石片では花崗岩、閃緑岩、斑糲岩、流紋岩、安山岩、玄武岩、礫岩、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス等、鉱物片では石英、長石、白雲母、黒雲母、角閃石、輝石、橄欖石等、生物片として海綿の骨片、ウニの刺等に注意した。石種の同定で花崗岩としたものは、便宜上、石英・長石、石英・長石・雲母、雲母・長石、石英・雲母と噛み合っているようなものである。片麻岩の一部をみても花崗岩のように見える。また、流紋岩や安山岩としたものについても、溶結の有無については判断できないことが多い。岩石片、特に火成岩については岩石の全体がわかれば石種が異なることがある。

### 2. 含有砂礫とその特徴

土器の表面にみられる砂礫種は、岩石片として花崗岩、閃緑岩、斑糲岩、流紋岩、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス、鉱物片として石英、長石、黒雲母、白雲母、角閃石、生物片として海綿の骨片である。これら砂礫種の特徴について述べる。

花崗岩：色は灰白色、白色、ごく稀に淡桃色で、粒形が角、最大礫径が6 mmである。石



第257図 高松平野の地質と砂礫採取地点

英・長石，石英・長石・黒雲母が噛み合っている。

閃緑岩：色は灰白色で，粒形が角，最大粒径が6 mmである。長石・角閃石が噛み合っている。

斑糲岩：色は暗灰色～黒色で，粒形が角，最大粒径が8 mmである。長石・角閃石が噛み合っている。

流紋岩：色は灰白色，灰色，暗灰色，褐色，赤褐色，桃色，赤茶色，淡茶色，灰色透明，灰白透明と様々で，粒形が亜角，最大粒径が8 mmである。石英や黒雲母の班晶が散在するものがあり，石基はガラス質である。

砂岩：色は灰色，灰白色，暗灰色で，粒形が角，亜角，亜円，円で，最大粒径が8 mmである。細粒砂からなる。

泥岩：色は暗灰色，黒色，粒形が角，最大粒径が4 mmである。

チャート：色は灰色，暗灰色，暗緑灰色で，粒形が亜角，最大粒径が6 mmである。

片岩：色は灰色，灰白色，無色透明で，粒形が角，亜角，最大粒径が12mmである。泥質片岩，石英質片岩，黒雲母片岩等である。

火山ガラス：黒色・無色透明で，貝殻状，フジツボ状，束状で，最大粒径が0.7mmである。

石英：無色透明，粒形が角，最大粒径が5 mmである。複六角錐あるいはその一部が見られるものもある。

長石：灰白色，白色，無色透明，灰白色透明で，粒形が角，最大粒径が4 mmである。短柱状の自形を示すものもある。

黒雲母：金色・黒色で金属光沢があり，板状，粒状で，最大粒径が1 mmである。

白雲母：無色透明で光沢があり，板状，最大粒径が0.2mmである。

角閃石：色は黒色，粒状，柱状で，最大粒径が3 mmである。結晶面が見られるもの，自形を示すものもある。

輝石：褐色透明，黒色透明，青銅色透明で，粒形が角，最大粒径が0.3mm，柱状で自形あるいはその一部を示す。

海綿の骨片：白色，棒状で，最大粒径が0.3mmである。

### 3. 砂礫種構成による区分

砂礫種構成から源岩についての推定を行い，類型区分した。岩石は砕かれれば最終的に鉱物片に分解されるが，肉眼で観察，識別できる大きさのものは，岩石片や鉱物片の場合

が多い。また、石英と長石、黒雲母が噛み合っているから花崗岩としたものであっても、大きな塊であれば片麻状花崗岩と名称が変成岩の範囲になることもある。また、石英と長石の自形の斑晶が散在するために流紋岩としても、大きな塊であれば、溶結がみられ、流紋岩質溶結凝灰岩となる場合もある。このようなことから、花崗岩片、石英、長石、黒雲母の砂礫から成る場合は花崗岩質岩起源と推定される砂礫とし、流紋岩片、自形の石英・長石・黒雲母の砂礫からなる場合は流紋岩質岩起源と推定される砂礫とした。砂礫には単一の源岩の場合もあるが、いろいろの岩石が源岩となっている場合が多いため、主を占める砂礫から推定される源岩を類型に、従を占める砂礫から推定される源岩を亜類型とした。例えば、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫が僅かに含まれていればId類型とした。

観察した土器に含まれる砂礫種構成をもとに類型区分すれば、次のようにI類型、II類型、IV類型、V類型、VII類型、VIII類型の6類型、Ia類型、Ib類型、Ibd類型、Ibdg類型、Ibg類型、Ibgh類型、Id類型、Ide類型、Ih類型、IIa類型、IIad類型、IIag類型、IIb類型、IId類型、II dg類型、IIg類型、IVab類型、IVabg類型、IVae類型、IVaeh類型、IVan類型、IVd類型、IVe類型、IVgn類型、IVn類型、Vadg類型、VIIadeh類型、VIIadn類型、VIIan類型、VIIde類型、VIIIadn類型、VIIIan類型、VIIIdn類型、VIIIgn類型、VIII n類型の35亜類型となる。各類型の特徴について述べる。

I 類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

花崗岩質岩起源と推定される砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ia類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ib類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩・流紋岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ibd類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩・流紋岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ibdg類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩・泥岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ibg類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩、片岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ibgh類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに

含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ I d類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩・安山岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ I de類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、片岩をごく僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ I h類型

II類型：閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IIa類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩・流紋岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IIad類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IIag類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IIb類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ II d類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ II dg類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、砂岩や泥岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ II g類型

IV類型：流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩・閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IVab類型

流紋岩質岩起源の砂礫を主とし、花崗岩質岩・閃緑岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IVabg類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩・安山岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IVae類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩・安山岩質岩起源と推定される砂礫、片岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IVaeh類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IVan類型



流紋岩質岩起源と推定される砂礫からなる・・・・・・・・・・IVd類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、安山岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・IVe類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、砂岩や泥岩、チャート、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・IVgn類型

流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・IVn類型

V類型：安山岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

安山岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩・流紋岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・Vadg類型

VII類型：砂岩や泥岩、チャートを主とする。

砂岩や泥岩を主とし、花崗岩質岩・流紋岩質岩・安山岩質岩起源と推定される砂礫、片岩を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIadeh類型

砂岩や泥岩を主とし、花崗岩質岩・流紋岩質岩起源と推定される砂礫、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIadn類型

砂岩や泥岩を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIan類型

砂岩や泥岩、チャートを主とし、流紋岩質岩・安山岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIde類型

VIII類型：片岩を主とする。

片岩を主とし、花崗岩質岩・流紋岩質岩起源と推定される砂礫、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIIadn類型

片岩を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIIan類型

片岩を主とし、流紋岩質岩起源と推定される砂礫、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIIdn類型

片岩を主とし、砂岩や泥岩、チャート、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIIgh類型

片岩を主とし、他形の角閃石を僅かに含む砂礫からなる・・・・・・・・・・VIIIn類型

遺跡から出土した土器に含まれる砂礫種構成からみれば出土した土器の全てを観察して

いないが、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とする土器が多く、他の類型に属する土器は僅かである。

#### 4. 遺跡付近の砂礫種構成と土器の砂礫種構成

太田下・須川遺跡付近を中心とした岩石分布について述べる。北西に位置する石清尾山にはサヌキトイドに属する輝石安山岩が分布し、山裾の基盤には黒雲母花崗岩類が分布する。南の一部分には角閃石を多く含む閃緑岩が分布する。また、閃緑岩はこの西南の高松市御廐町付近の津内山丘陵にも分布する。沖積地の平野部の河川では花崗岩質岩起源の砂礫を主とし、僅かに他形の角閃石や砂岩、泥岩、チャート、流紋岩質岩が含まれることがある。香東川の砂礫は花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩が僅かに含まれる。また、吉田川でも香東川の砂礫種構成と同じである。沖積地の土は遺跡の土と同じであり、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含み、砂岩や泥岩、流紋岩質岩起源と推定される砂礫を僅かに含むこともある。河川の砂礫を供給している讃岐山地は山腹から頂上にかけて砂岩や泥岩、礫岩からなる和泉層群の地層が分布し、山腹から平野部にかけては花崗閃緑岩が広く分布する。以上のような砂礫種分布をもとにして土器の砂礫種構成と比較をする。

I 類型に属する花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とする土器は遺跡付近の砂礫を使用して作った土器であると推定される。

II 類型に属する閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とする土器には、細粒の角閃石を多く含み、粗粒の花崗岩質岩起源と推定される砂礫を含む場合と細粒から粗粒の角閃石を多く含む場合とがある。前者の場合は土器を作る時の土に角閃石の粒が多く入っており、混入した砂礫が花崗岩質岩起源の砂礫であったと推定され、後者の場合は土器を作る時の土にも角閃石が多く含まれており、混入した砂礫にも角閃石が多く含まれていたと推定される。角閃石を多く含むような土は閃緑岩質岩の媒乱した付近にできる土であると推定される。太田下・須川遺跡の土は花崗岩質岩起源の砂礫に閃緑岩質岩起源の砂礫が僅かに含まれることから、角閃石が多く入った土を他地から運んで来なければ細かい角閃石が多く含まれる土器は作ることができない。また、同遺跡付近の河川砂礫は花崗岩質岩起源の砂礫を主とすることから、粒が粗い角閃石の砂礫を得ようとすれば閃緑岩の分布地へ行かなければならない。太田下・須川遺跡でII 類型に属する土器を作ったとすれば、2つのこと

が考えられる。

1) 角閃石を多く含む土を他地から運んできて、遺跡付近の河川砂礫を混ぜあわせて土器を作った (IIa類型, IIad類型, IIag類型)。

2) 角閃石を多く含む土を他地から運んできて、角閃石が多く含まれる砂礫も他地から運んできて土器を作った (IIb類型, IIc類型, IIcg類型, IIg類型)。

IV類型に属する土器は流紋岩質岩が広く分布する地域の砂礫で作った土器であると推定され、四国では求めることが出来ない砂礫である。近接地として、流紋岩質岩が広く分布する地域の播磨や備前付近が推定される。僅かに含まれる岩石や鉱物の構成から備前と言うよりも播磨平野の河川の砂礫種構成に似ている。

V類型に属する土器は安山岩質岩が広く分布する地域で作った土器であると推定される。地域としては山陰地方の何処かが砂礫の採取地と推定される。

VII類型に属する土器は砂岩や泥岩、チャートを主とすることから、堆積岩が広く分布するような地域が推定される。近接地としては、香川県の東部か西部のような和泉層群が広く分布する地域の砂礫であると推定される。

VIII類型に属する土器は片岩が広く分布する地域で作った土器であると推定される。近接地としては片岩が広く分布する吉野川流域か愛媛県東部が推定される。愛媛県東部付近の片岩は変成度が高いことから砂礫の採取地としての可能性は低い。

以上のように観察でき得た土器の砂礫種構成から判断すれば、少なくともIV類型やV類型, VII類型, VIII類型に属する土器の砂礫は、遺跡付近で採取でき得ない砂礫である。砂礫の採取地が土器の製作地とすれば、これらの土器は全て搬入品であると言える。

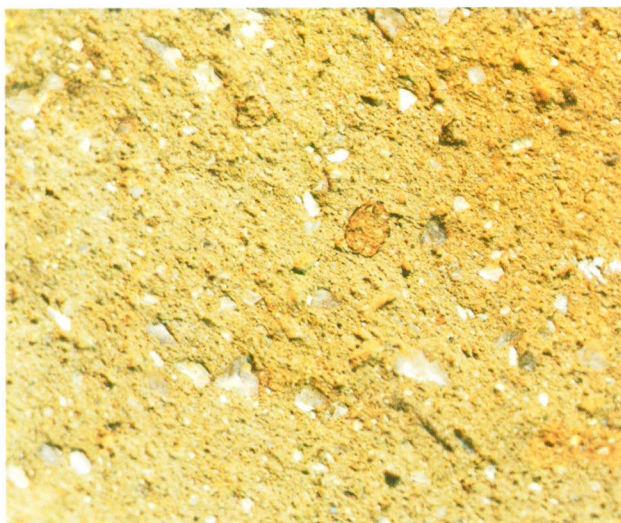
第11表 砂礫種構成表

番 号	器 種	岩 石												鉱 物										海綿の骨片	類 型					
		花崗岩		閃緑岩		流紋岩		安山岩		砂岩・泥岩		チャート		片 岩		火山ガラス		石 英		長 石		雲 母				角 閃 石		輝 石		
		裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍			裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼
1	壺																M-稀	M-稀	M-稀	M-微					S-微	M-非				
4	壺	L-微角	L-稀角															M-稀	L-稀	L-微		M-稀板			S-多					
10	壺	L-微角	L-稀角			L-稀角	L-稀角											M-微		L-微					S-稀	M-多				
22	高杯					L-中亜角	L-僅角								M-中貝フ	L-中	M-中E-中		M-微			L-稀板			S-稀E-非					
47	壺	L-中角	L-微角														L-僅	L-僅	L-多	L-僅					S-稀					
58	高杯	L-僅角	L-稀角														L-稀	L-微		M-僅				M-微	M-非					
70	壺		L-稀角			M-僅亜角	L-僅亜角			L-僅亜角	L-微亜角				M-稀フ		L-中	M-微	L-僅			M-稀板			M-中					
73	鉢						L-稀亜角			L-稀亜角	L-微亜角						M-僅	L-多E-微	L-中	L-稀					S-非					
75	壺	L-僅角	L-中角														M-僅	L-多E-稀	M-中	L-中					S-稀					
78	(底部)	L-中角	L-僅角								L-稀亜角						L-中	L-多E-稀	L-中	L-中					S-稀					
89	壺	L-稀角	L-稀角												M-稀貝	L-僅	L-中E-微	M-稀	M-稀			S-稀板			S-稀					
103	壺					L-多角	L-多亜角										L-僅	L-多E-中		L-稀					S-稀					
104	壺	L-中角	L-僅角							M-微亜角	L-微亜角						M-中	L-中	M-僅	L-僅					S-多					
105	壺	L-稀角	L-稀角			L-僅亜角	L-僅角			L-中円	L-僅亜角				S-稀貝	L-稀	L-多E-僅		L-微						S-稀					
106	壺					M-微角	L-微角										M-中	L-多E-中		L-微										
107	壺	L-稀角	L-稀角							L-僅亜角	L-中角				M-稀貝フ	L-僅	M-微	M-僅	M-稀	M-稀板					S-微					
108	壺		L-微角				L-僅角			L-中角	L-微角				M-稀貝	L-僅	M-僅	L-僅	L-稀						S-微E-多					
109	壺					L-僅角	L-僅角								M-僅貝フ	L-僅	L-多E-多	L-稀	L-微						S-稀					
110	壺					L-多角	L-微角										L-中	L-非E-中		S-微					S-微E-微					
111	壺	L-僅角	L-稀角														L-中	L-多E-微	L-僅	L-中					S-稀					
112	壺	L-微角	L-僅角												M-稀貝	L-微	L-中E-微	L-僅	L-僅						S-稀					
113	壺	L-微角	L-微角			L-微角	L-微角								S-稀貝フ	L-中	L-中E-僅	L-微	L-微						S-稀					
114	壺																M-僅	L-多	M-中	L-中	M-稀板	M-稀板								
115	壺	L-微角	L-微角				L-僅角				L-稀角				M-僅貝フ	L-多	L-中E-僅	M-僅							S-微					
130	壺	M-稀角	L-稀角		M-稀角		M-稀角				L-稀角						M-僅	L-中E-中	M-僅	L-微					S-稀					
131	壺	L-稀角	L-微角												M-稀貝	M-微	L-多E-僅	L-中	L-微						M-稀					
132	壺	M-稀角	M-稀角														M-微	L-多	M-中	M-僅					S-稀					
134	壺	L-微角	L-稀角			L-稀角	L-稀角										M-微	L-非E-稀	M-中	L-微					S-稀					
135	壺					L-中角	L-僅角			L-中角	L-稀角	L-稀角			M-僅フ		L-僅	L-多E-多	L-微							S-稀E-非				
136	壺	M-稀角	L-微角														M-僅	M-多	M-中	M-僅					M-微					
138	壺																		L-僅	S-微		M-微板		L-多	L-非					
145	壺	L-微角	L-稀角														L-多	L-中	L-中	L-微					S-稀					
149	壺	L-微角															L-僅	L-中	L-中	L-中					S-僅	S-多				
151	壺	L-微角	M-稀角														L-微	L-中	L-僅	L-僅					M-微					
155	壺	L-稀角	L-微角												M-僅フ貝	L-微	L-多E-微	M-中	L-僅						S-稀					
162	壺					L-稀角	L-中角			L-稀角	L-稀角	L-微角					L-僅	L-中E-僅							M-稀					
167	壺																		L-微	M-微					M-非					
168	壺	L-稀角													M-稀貝	L-多	L-多E-微	L-僅	M-微											
173	壺	M-稀角	L-微角		L-稀角										M-稀貝フ	M-僅	M-非E-微		M-微						S-微E-僅					
178	壺	L-僅角	L-稀角														M-稀	M-僅	M-中	M-微	M-稀板			M-僅	M-非					
179	壺																	M-稀	M-稀	M-中	S-稀板	L-中板粒		M-中	L-多					
182	壺					L-中角	L-中角											M-僅	L-多E-僅	M-僅	M-僅					S-稀				
183	壺	L-稀角	L-稀角														L-僅	L-僅	M-僅	L-中					S-多板					
184	壺	L-微角	L-中角														M-中	L-中	M-中	L-中	M-微板	L-多板								





写真5 弥生土器胎土(1)



827 弥生土器 壺 Ib類型



590 弥生土器 壺 Ib類型

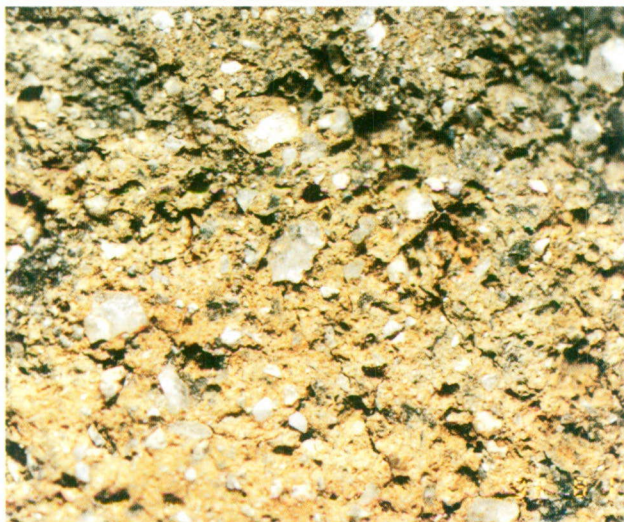


528 弥生土器 甕 Id類型



232 弥生土器 壺または甕  
Ibg類型

茶褐色のチャート  
花崗岩質岩起源の砂礫  
黒色の角閃石



78 弥生土器 壺 Ibg類型

茶褐色のチャート  
花崗岩質岩起源の砂礫  
黒色の角閃石



530 弥生土器 甕 Ibdg類型

暗灰・淡茶色の流紋岩礫



写真7 弥生土器胎土(3)



47 弥生土器 壺 IIb類型

粗粒の花崗岩片  
細粒～微粒の角閃石が多い  
閃緑岩質岩起源の粘土+花崗岩砂



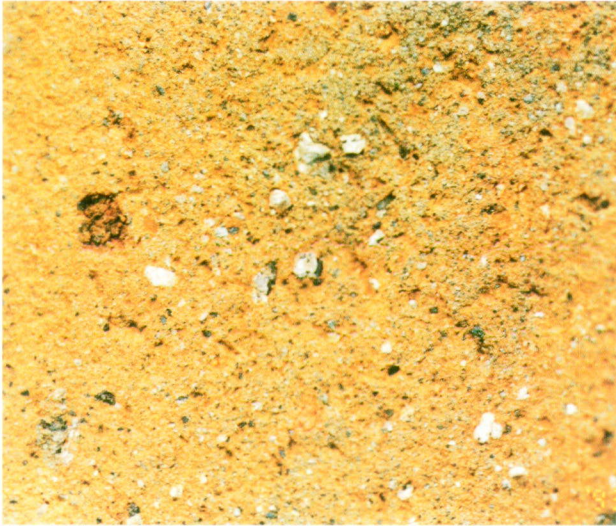
407 弥生土器 壺 IIa類型

粗粒の花崗岩片  
白色の長石が多い  
細粒～微粒の角閃石が多い  
閃緑岩質岩起源の粘土+花崗岩砂



539 弥生土器 高杯 IIa類型

粗粒の花崗岩片  
白色の長石が多い  
細粒～微粒の角閃石が多い  
閃緑岩質岩起源の粘土+花崗岩砂



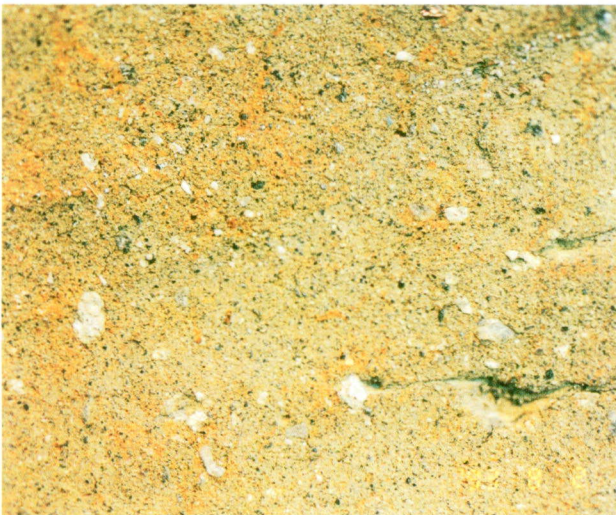
718 弥生土器 鉢 IIa類型

長石・角閃石がかみ合った閃緑岩が  
みられる  
細粒～微粒の角閃石が多い  
石英・長石がかみ合った花崗岩片が  
ごく僅かにみられる  
閃緑岩質岩起源の粘土+ (閃緑岩  
花崗岩)



834 弥生土器 甕 IIa類型

長石・角閃石がかみ合った閃緑岩が  
みられる  
細粒～微粒の角閃石が多い  
石英・長石がかみ合った花崗岩片が  
ごく僅かにみられる  
閃緑岩質岩起源の粘土+ (閃緑岩  
花崗岩)



849 弥生土器 甕 IIa類型

長石・角閃石がかみ合った閃緑岩が  
みられる  
細粒～微粒の角閃石が多い  
石英・長石がかみ合った花崗岩片が  
ごく僅かにみられる  
閃緑岩質岩起源の粘土+ (閃緑岩  
花崗岩)

写真9 弥生土器胎土(5)



538 弥生土器 高杯 IIg類型

茶褐色の砂岩片  
石英と黒雲母の岩片  
暗灰色のチャート  
細粒の角閃石が多い  
閃緑岩質岩起源の粘土  
+花崗岩・砂岩・チャート(川原砂)



190 弥生土器 甕 IIg類型



547 分銅形土製品 IIg類型

灰色のチャートがみられる



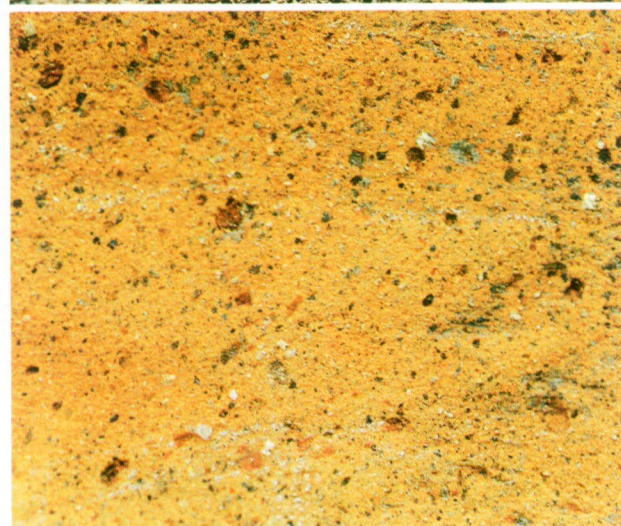
548 分銅形土製品 II d 類型

茶褐色の流紋岩片  
灰白色の長石片  
中粒～細粒の角閃石が多い



138 弥生土器 壺 II b 類型

長石・角閃石がかみ合った斑糲  
岩片か閃緑岩がみられる  
閃緑岩起源の粘土+閃緑岩か  
斑粉岩

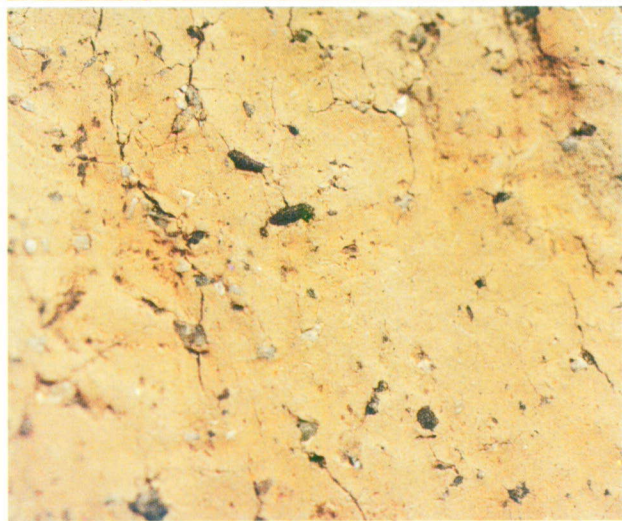


922 弥生土器 甕 II a 類型

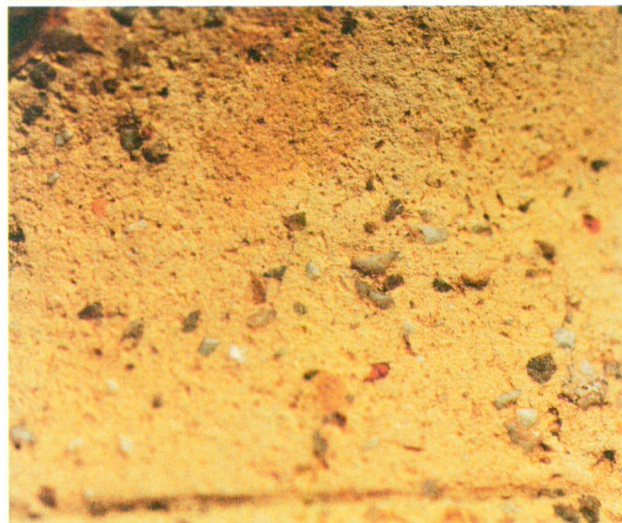


356 弥生土器 甕 Vadg類型

黑色柱状の輝石が多くみられる  
裸眼では黒色透明  
ほとんどが自形  
石英は無色透明  
角閃石は自形が多い  
ややくすんだ無色に見えるもの  
粒状  
長石は淡灰白透明様にみえるもの



107 弥生土器 壺 VIIan類型



105 弥生土器 壺 VIIadn類型

砂岩は茶褐色で表面がやや  
ザラザラしている  
流紋岩は灰白・灰色で表面が  
つるつるしている  
石英はややくすんだ透明  
焼土塊は赤色・茶色



135 弥生土器 壺 VIIde類型



108 弥生土器 壺 VIIadeh類型



537 弥生土器 甕 VIIIh類型  
片岩片が多くみられる

## 第5章 考察およびまとめ

### 第1節 胎土1類土器について

太田下・須川遺跡出土の弥生土器の中で茶褐色を呈し、角閃石と考えられる黒色の砂粒を多量に含む土器がみられる。この土器は太田下・須川遺跡の弥生中期・後期土器の大部分を占めている。また、本遺跡以外をはじめ高松平野、あるいは近畿地方の遺跡でも数多く出土している。この土器は一見して他と区別できる特徴的な胎土をもつことから、近畿地方でも古くからその存在に注目されていた。今里幾次氏は胎土中の含有物を雲母と考え、兵庫県で出土する「胎土に少なからぬ雲母片を含有する暗褐色を呈し」た土器を「雲母土器」と呼び、兵庫県市川水系下流域付近に集中して出土することを指摘した。なお、雲母土器の生産地についてはその一つに河内を挙げていた<sup>(1)</sup>。したがって、「雲母土器」と呼ばれる土器の中には太田下・須川遺跡で出土した弥生土器の胎土とよく似通っている「生駒西麓の土器」も含まれるが、近年になって、香川県内でも坂出市下川津遺跡をはじめ多数の遺跡の調査が行なわれ、香川県も「雲母土器」の製作地の一つではないかと考えられるようになった。

大久保徹也氏は下川津遺跡出土の弥生時代から古墳時代前半の土器の中で、胎土・形態・製作技法などが特徴的な土器で、通常「雲母土器」、「讃岐系土器」と呼ばれている一群の土器を「下川津B類土器」と分類した<sup>(2)</sup>。なお、下川津遺跡の調査終了後、本遺跡をはじめ国道建設に伴う大規模な調査によって、従来殆ど調査の行なわれていなかった高松平野の遺跡が調査された。その結果、「下川津B類土器」は高松平野の遺跡では一般的な土器で、弥生時代後期初頭の集落が検出された高松市上天神遺跡では出土土器の9割以上が「下川津B類土器」で占められていた。また、上天神遺跡の北西1.5kmに位置する鶴尾神社4号墳から出土した土器もほとんどがこの「下川津B類土器」であった。これらのことから、大久保氏は「下川津B類土器」の分布の中心は高松平野であることを指摘した。

上天神遺跡の東隣に位置する本遺跡も弥生土器の大半は「雲母土器」または「下川津B類土器」と呼ばれる土器であった。本遺跡では胎土の観察結果から、「雲母土器」・「下川津B類土器」と呼ばれている土器で、茶褐色系統の色調を呈し、角閃石と考えられる黒色砂粒を含む土器の胎土を胎土1類、片岩を含む土器胎土を胎土2類、その他の白色砂粒等を

含む土器胎土を胎土3類と、弥生土器と古式土師器の土器胎土を3分類した。この胎土1類土器は本遺跡の出土土器の中でも非常に特徴的な土器で容易に他と区別できる土器であるが、この胎土は岩石学的にはどのような特徴をもつのか、また、胎土2類・3類に分類された土器は少量しかみられないが、これらの土器胎土はどのような特徴をもち、どの辺りに分布する土で製作されたものかを調査するため奥田尚氏に土器の胎土分析を依頼した。分析資料は太田下・須川遺跡の報告書に掲載した弥生土器の中で、茶褐色を呈し、黒色砂粒を含む胎土1類の土器のうちの数点と、胎土2類・3類土器のうちほぼ全点、胎土3類に分類された5世紀後半の甕1点の合計106点である。なお、胎土2類・3類に分類された弥生土器の中で一見して同一胎土であると思える土器があるものについてはそのうちの1点を分析し、他は省略した。また、5世紀後半の土器には胎土1類のものは1点もみられず、分析資料の甕は本遺跡出土の5世紀後半の甕の中で最も一般的な胎土をもつものである。

分析の結果、奥田尚氏は分析資料106点の土器胎土を大きく6類型に分類した。そのうち胎土1類はII類型と分類された。このII類型の土器は角閃石・長石・石英を多量に含み、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主として含むものである。また、花崗岩質岩・流紋岩質岩を起源と推定される砂礫、砂岩や泥岩の含有の有無から、II類型はさらに細かく7つの小類型に分けられた<sup>(3)</sup>。また、胎土3類に分類された弥生土器の胎土は花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主として含むもの(I類型)、流紋岩質岩起源と推定される砂礫を主として含むもの(IV類型)、安山岩質岩起源と推定される砂礫を主として含むもの(V類型)、砂岩、泥岩、チャートを主として含むもの(VII類型)に分類され、胎土2類はVIII類型(片岩を主として含むもの)に分類された。また、5世紀後半の甕はI類型で、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主として含んでいた。なお、太田下・須川遺跡の土も5点分析したが、いずれもI類型の土器と同じ砂礫の構成であった。分析の結果から、II類型をはじめIV類型、V類型、VII類型、VIII類型の土器は本遺跡付近以外の場所で採取した土を用いて製作されたものであることがわかった。なお、IV類型の土器は四国以外の砂礫を用いて製作されたもので、近接地では播磨平野の土の可能性が高く、V類型は山陰地方、VII類型は香川県東部か西部、VIII類型は吉野川流域の土を用いて製作された可能性が高いと奥田氏は推定している。

それでは本遺跡の弥生土器の大半を占めるII類型の土器はどこの土で作ったものであろうか。II類型は角閃石・長石・石英を多量に含み、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主



として含むものである。本遺跡から多量に出土することから、周辺に閃緑岩が分布する場所があると考えられるが、香川県地質図<sup>(4)</sup>をもとにして閃緑岩分布地を捜して高松平野周辺を歩き、数箇所を採取し、土器といっしょにこれらの土の分析も依頼した。この分析の結果は第11表のとおりであるが、閃緑岩は高松市御厩町の津内山、高松市勅使町の石清尾山丘陵南端付近に分布することがわかった。また、高松平野を流れる河川には香東川や新川・吉田川などがあるが、このうち香東川と吉田川の砂礫も分析した。その結果、これらの河川の砂礫はI類型の砂礫構成を示し、太田下・須川遺跡の土と同じであることがわかった。したがって、II類型土器は太田下・須川遺跡周辺または高松の平野部以外の土を用いて製作されたもので、高松市の西部に位置する御厩町の津内山、太田下・須川遺跡の北西2.5kmの高松市勅使町の石清尾山丘陵南端付近に分布する土などを用いた可能性があることがわかった。

高松平野周辺で閃緑岩の分布が少なくとも2箇所みられることがわかったが、高松平野の弥生時代の遺跡の中でII類型の土器はいつ頃からどの程度出土しているのだろうか。太田下・須川遺跡では弥生前期末、中期中葉から後期前半、古墳時代前期、古墳時代中期から近世の土器が出土した。このうち、胎土1類に分類された土器は弥生時代中期中葉から古墳時代前期のものであった。また、奥田氏の胎土分析の結果でも弥生前期の土器はI類型、IV類型、VII類型で、II類型は見当らなかった。したがって、本遺跡では胎土1類の土器は中期中葉にみられるようになり、中期後半から後期前半では出土土器の大半を占めていた。なお、報告書に掲載した遺構出土の弥生中期中葉の土器は20点と少ないが、40%が胎土1類であった。弥生中期後半から後期中葉の遺構から出土した弥生土器659点の中で胎土1類の土器は90%であるが、底部破片を除くと94%が胎土1類であった。また、古墳時代前期土器は5点と出土点数が少ないが、100%の土器が胎土1類であった。

太田下・須川遺跡の西側に隣接する上天神遺跡<sup>(5)</sup>でも弥生後期の土器が多量に出土した。その中でもS K19からは弥生時代後期初頭の土器が多数出土したが、大半が胎土1類であった。本格的な整理作業が行なわれておらず、他の遺構の資料については不明であるが、太田下・須川遺跡と同様、上天神遺跡でも胎土1類が大多数を占めるものと考えられる。

また、同じ高松東道路で調査をした高松市林町の浴・長池遺跡は太田下・須川遺跡の東1.5kmに位置するが、弥生前期末、中期前半から末、後期後半の土器が出土した。報告書に掲載された土器のうち弥生前期末から弥生中期前葉の土器には胎土1類は見当らなかったが、弥生中期中葉から後期の土器には胎土1類はかなり多く含まれていた。報告書に掲載

された土器を実見すると、弥生中期中葉の土器の中で、角閃石を多量に含み、確実に胎土1類であると考えられる土器は20%前後と少なく、その可能性が強いものを含めても30%前後であった。中期後半では胎土1類の比率は40～50%程度で、後期後半では80%程度であった。

浴・長池遺跡の東隣に位置する浴・松ノ木遺跡溝S D06では弥生後期後半の土器が多量に出土したが、78%が胎土1類であった。<sup>(6)</sup>

浴・松ノ木遺跡の東隣に林・坊城遺跡では弥生前期・中期・後期の土器が出土した<sup>(7)</sup>。弥生前期の土器は太田下・須川遺跡と同様、明らかに胎土1類と異なる白色砂粒を多量に含んだ土器であった。その他、中期中葉の土器数片と、後期前半の土器数片が出土したほか、弥生時代後期後半の円形周溝墓と考えられる溝S X03からは後期中葉の土器が出土した。弥生中期の土器の中には胎土1類はみられず、後期前半の土器は5点中2点が胎土1類であった。S X03からは弥生後期中葉の土器に混じって古墳時代中期の土器も出土したが、古墳時代中期の土器には胎土1類はみられず、報告書に掲載された弥生後期中葉の土器80点のうち50点が胎土1類で、63%を占めていた。

大空遺跡は高松市高松町大空に所在する遺跡である。太田下・須川遺跡から8 km程離れた高松平野の東部の標高60mの丘陵に位置する。大空遺跡では土坑から弥生後期初頭の土器が一括出土した<sup>(8)</sup>。現在高松市歴史資料館に保管されている51点の土器はいずれもほぼ完形であるが、このうち胎土1類あるいはその可能性があるものは数点で、出土土器の1割以下であった。また、大空遺跡の南西部、高松市新田町・高松町に所在する小山・南谷遺跡からも弥生後期前半から中葉の遺構・遺物が多数検出されている。調査途中であるため、正確な数は不明であるが、胎土1類あるいは胎土1類の可能性のある土器は多く見積っても1/3以下であった。

以上のように、胎土1類は浴・長池遺跡、太田下・須川遺跡などの出土例から、弥生中期中葉から出現することがわかった。しかし、その比率は太田下・須川遺跡では40%、浴・長池遺跡では20～30%と少なく、弥生中期後半から後期中葉では太田下・須川遺跡で90%前後、浴・長池遺跡では40～50%と増加する。後期後半になると浴・長池遺跡でも80%を占め、古墳時代前期には太田下・須川遺跡のほぼ100%の土器が胎土1類となる。なお、5世紀後半では胎土1類は1点もみられないことから、胎土1類の土器は古墳時代前期に製作を中止することがうかがえる。

また、遺跡ごとに胎土1類土器の占める割合をみると弥生時代中期後半から後期中葉で

は高松平野のほぼ中央に位置する上天神遺跡、太田下・須川遺跡では胎土1類が出土土器の90%以上を占めるが、太田下・須川遺跡の東2kmに位置する浴・松ノ木遺跡では後期後半の土器の78%と少ない。また、浴・松ノ木遺跡に東隣する林・坊城遺跡でも後期中葉の土器の63%の土器が胎土1類で、太田下・須川遺跡、上天神遺跡と比べるとかなり少ない。高松平野の最東部に位置する大空遺跡や小山・南谷遺跡では胎土1類の含有はさらに少なく、1/3以下である。したがって、胎土1類土器は上天神遺跡、太田下・須川遺跡で最も出土量が多く、胎土1類に使用された土もこれらの遺跡周辺のものであることが推定される。今後、閃緑岩分布地が多数見つかるものと考えられるが、これらの遺跡に最も近い閃緑岩分布地である石清尾山丘陵南端付近に分布する土が胎土1類の製作に使用されていた可能性が最も高いものと考えられる。

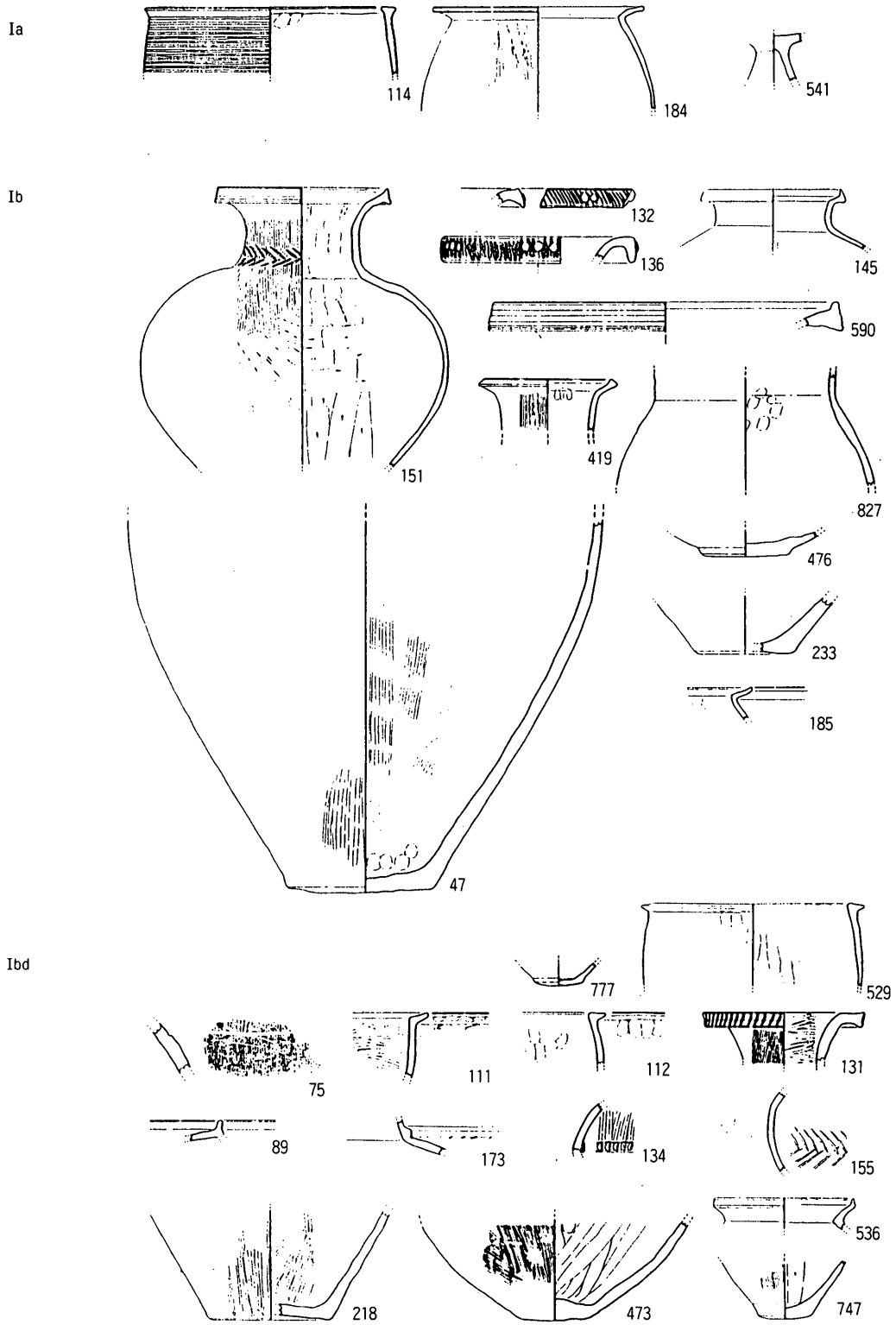
以上のように高松平野でも胎土1類の土器の分布の中心は上天神遺跡、太田下・須川遺跡付近で、時期を追って周辺の遺跡でも出土量が増加することがわかったが、胎土1類土器とそれ以外の土器をもつ土器は何か使い分けがされていたのであろうか。製作に用いた土は太田下・須川遺跡以外の場所で採取されたことがわかったが、なぜわざわざ遠方の土を用いて土器を製作していたのだろうか。太田下・須川遺跡では遺跡周辺で採取したと考えられる土を用いて製作した土器と閃緑岩分布地域で産出した土を用いて製作した胎土1類の土器の両方がみられるが、胎土1類の土器が大部分を占めていた。したがって、器種による胎土の差異はみられなかったが、同じ器種の中での胎土の違いによる形態の差異については不明であった。高松平野に位置する弥生中期から後期の遺跡には浴・長池遺跡、前田東・中村遺跡<sup>(9)</sup>、弥生後期の遺跡には浴・松ノ木遺跡、林・坊城遺跡などがあるが、これらの遺跡からは胎土1類の土器と胎土1類以外の胎土をもつ土器の両方が出土している。浴・長池遺跡、浴・松ノ木遺跡、林・坊城遺跡では先述のように胎土1類以外の土器は多量に出土しており、前田東・中村遺跡でも弥生後期後半では胎土1類土器は1/4程度しか出土しておらず、これらの遺跡からは明らかに在地のものと考えられる土器が出土している。これらの遺跡の土器を比較した結果、器種による胎土の差はみられず、胎土1類の土器と同じ形態の土器は胎土1類以外にも存在し、胎土間による形態の差もみられなかった。

なお、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけては高松平野でも胎土1類の土器の出土量は増加するが、坂出市下川津遺跡、善通寺市稲木遺跡など高松平野以外の遺跡でも胎土1類の土器が全体の10~20%を占める。また、同時期には岡山県・徳島県・兵庫県・大

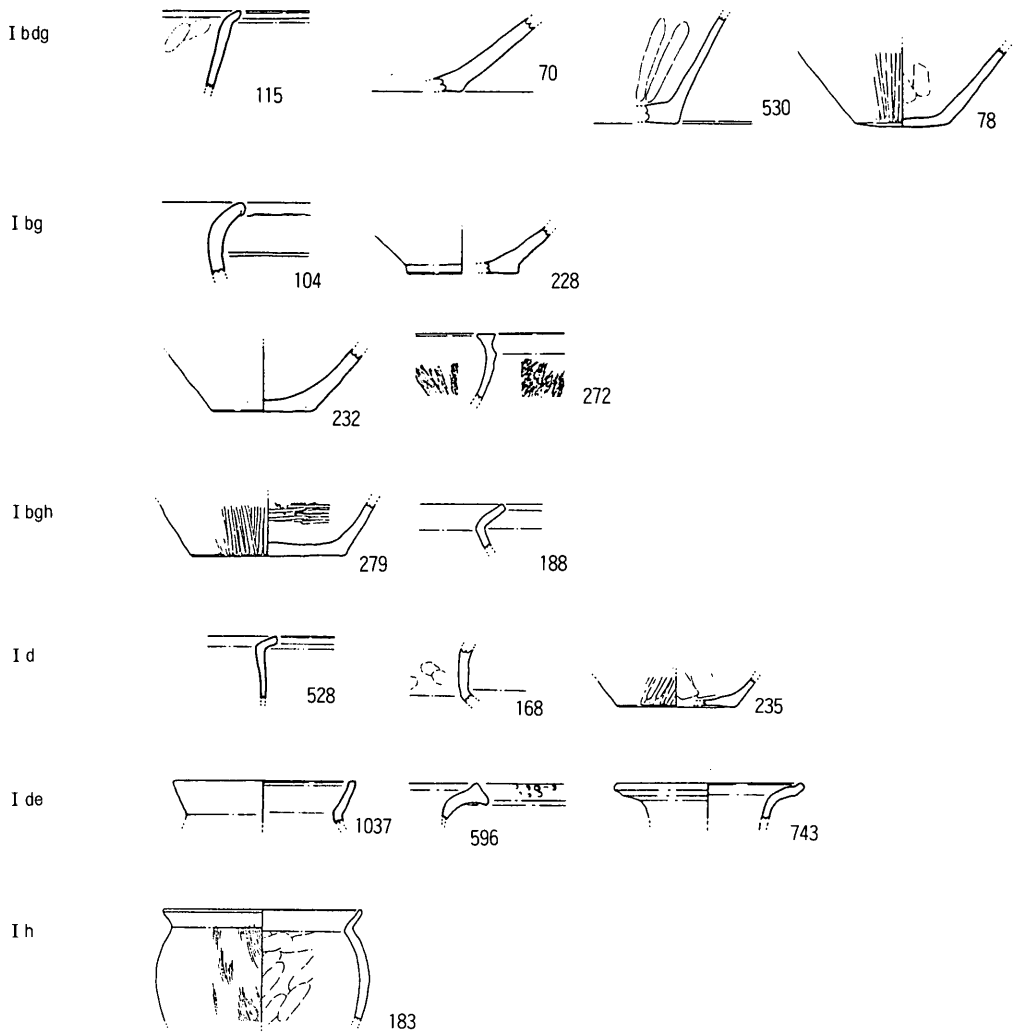
阪府・奈良県などからも胎土1類土器は出土し、県内のみならず県外への搬出も活発になる。これらの出土例から、胎土1類土器の生産はこの時期に増加したことがうかがえるが、これだけの土器を賄うには地元での需要量を越える土器生産を行わなければならないことから、胎土1類土器は搬出を目的とした生産がなされていたものと思われる。

以上のように太田下・須川遺跡で出土した土器は付近に存在しない閃緑岩分布地域の土を用いて製作され、時期を追ってこの土器の分布が拡大していくことがわかったが、太田下・須川遺跡ではなぜ数キロメートル離れた場所の土で作られた土器を用いたのか、なぜ遠方の遺跡でもこの土器は数多く使用されたのかは今後の検討課題である。

- (1) 今里幾次「播磨の雲母土器」『考古学研究』第23巻第4号 1977
- (2) 大久保徹也「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告VII 下川津遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団 1990
- (3) 本書第4章第5節 奥田 尚「太田下・須川遺跡の土器の砂礫」
- (4) 『香川県地質図』
- (5) 「上天神遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和59年度～昭和62年度』香川県教育委員会 1988
- (6) 『浴・松ノ木遺跡』高松市教育委員会・建設省四国地方建設局 1994
- (7) 『林・坊城遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局 1993
- (8) 竺林徳『高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』 1955
- (9) 『前田東・中村遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局 1994

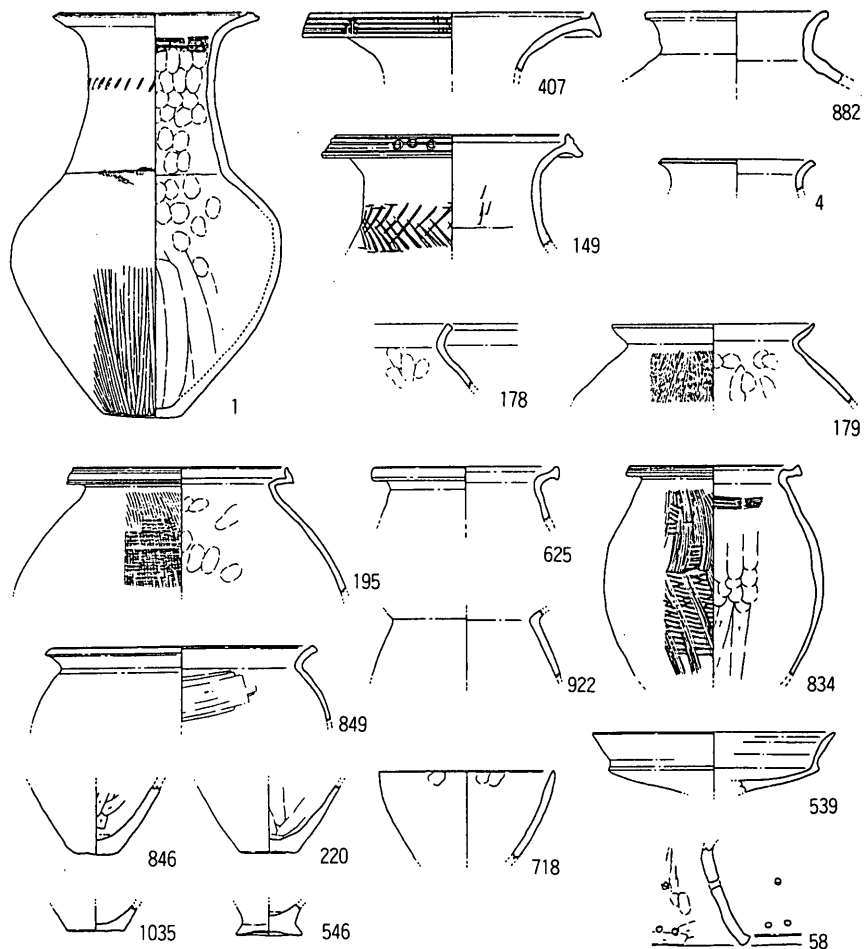


第258図 砂礫種構成区分による各類型の土器(1)

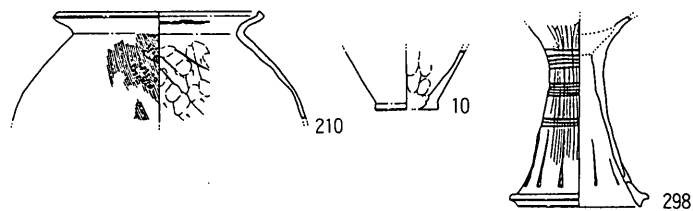


第259図 砂礫種構成区分による各類型の土器(2)

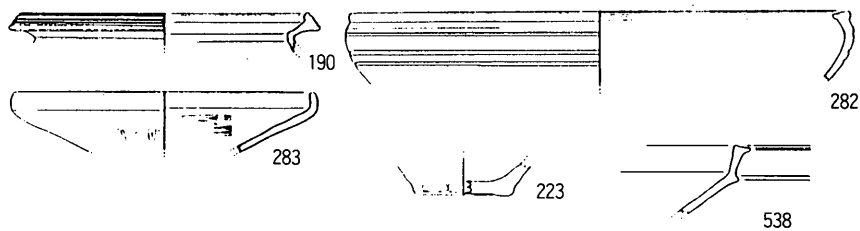
IIa



IIad

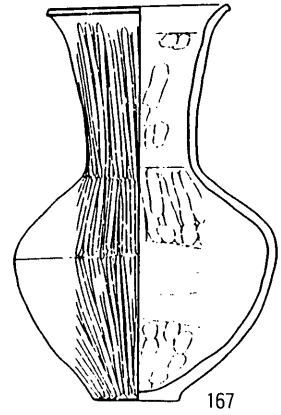
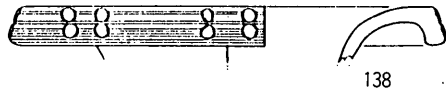


IIag

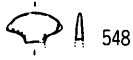


第260図 砂礫種構成区分による各類型の土器(3)

IIb



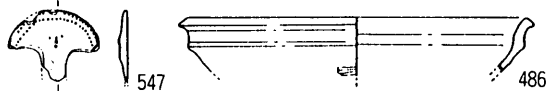
II d



II dg



II g



IV ab



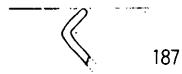
IV abg



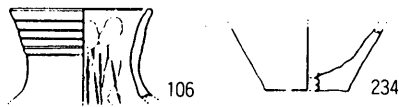
IV ae



IV aeh



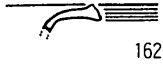
IV d



第261図 砂礫種構成区分による各類型の土器(4)



IVgn

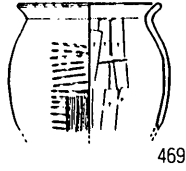


162

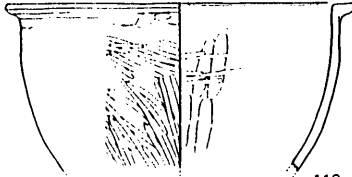


776

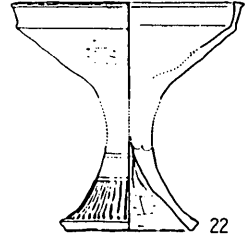
IVe



469

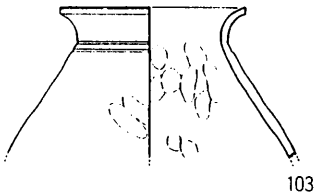


110

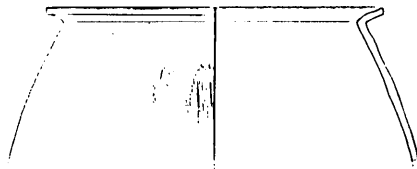


22

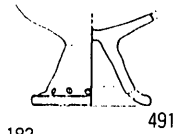
IVn



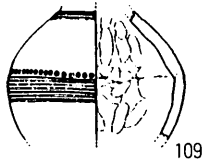
103



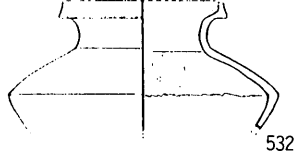
182



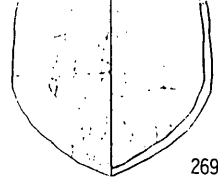
491



109



532



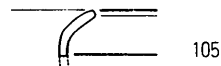
269

V adg



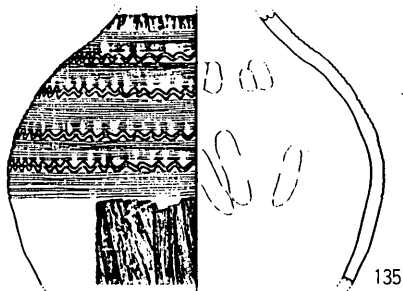
356

VII adn



105

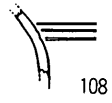
VII de



135

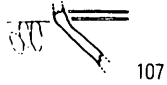
第262図 砂礫種構成区分による各類型の土器(5)

VIIadeh



108

VIIan



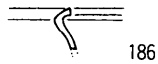
107

VIIIadn



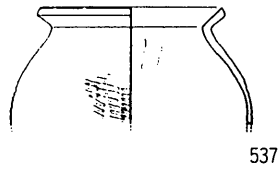
266

VIIIan



186

VIII n



537



264

第263図 砂礫種構成区分による各類型の土器(6)

## 第2節 古墳時代の土器について

古墳時代中期の土器はSH02・SH03・SH04・SH05・SH06・SB10・SK24・SD14・SD15・SD17・SD20・SX01から出土した。これらの遺構から出土した土器は布留式併行の良好な一括資料である。

### 1, 須恵器

SH02から出土した須恵器は蓋杯・高杯・甕・壺がみられる。蓋は天井部が低く、比較的平らで、端部の丸い963と、天井部はやや丸く、端部はわずかに凹面をもち、内傾する964がある。杯身(965・966)はいずれもたちあがりの高さは器高のほぼ1/2である。965の底部は平らに近く、たちあがりの端部は丸い。966の底部は静止ヘラケズリを施し、たちあがりの端部に内傾する凹面をもつ。高杯は口縁端部は丸く仕上げられている967と、端部にもつ968がある。967の脚部はハの字状に開き、端部には凸線が巡る。甕(969・970)はいずれも外面に波状文を施す。970の口縁端部はほぼ水平である。壺(971)は口縁端部に内傾する凹面がみられ、外面に稜をもつ。これらのことからSH02の須恵器は陶邑編年のI型式2段階と3段階<sup>(1)</sup>の特徴をもつものと考えられる。

SH03からは須恵器甕の口縁部(980)が1点出土した。口縁端部は丸く、口縁部外面に凸線と波状文をもつことから、I型式2段階の特徴をもつものと考えられる。

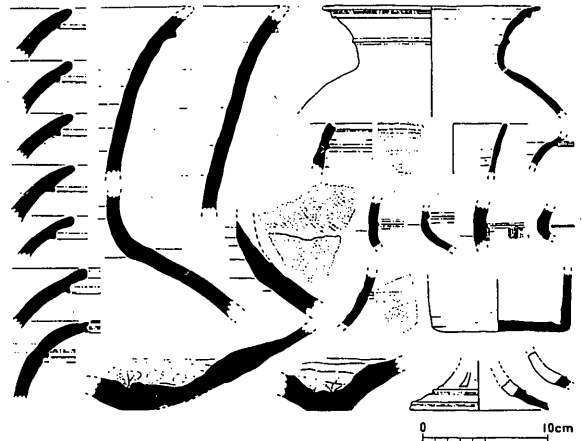
SH05からは須恵器甕の底部片(1002)が出土した。内面は叩き目を磨り消していることから、I型式3段階以前の特徴をもつものであると考えられる。

SH06からは須恵器杯身(1013)が出土した。たちあがりの高さは器高のほぼ1/2で、端部は丸く仕上げられており、底部は平らに近いことから、I型式2段階の特徴をもつものと考えられる。

以上の住居跡SH02・SH03・SH05・SH06から出土した須恵器は陶邑編年のI型式2段階から3段階の特徴をもつことから、これらの遺構から出土した須恵器はほぼ同時期のもので、5世紀後半のものと考えられる。

これらの住居跡の東部では数条の溝が検出された。これらの溝からも少量の須恵器が出土した。SD14では須恵器蓋杯・高杯・甕・壺がみられる。蓋(808~812)はつまみがつき、天井部が丸くなり、口縁端部に内傾する面をもつ。杯身(813~815)は底部にやや丸

みをもち、たちあがりの端部は平坦な面をもつ。高杯(816~818)は無蓋高杯で、体部に波状文が施されるが、脚部の形態は欠損するため、不明である。甕(820)は口頸部破片で、体部は欠損する。口縁端部は外面に平坦面をもち、上方につまみあげる。甕は小型の甕(821)と樽形甕(822)がある。821は口頸部・底部が欠損するため全体は不明である。体部は上



第264図 三谷三郎池西岸窯跡出土須恵器実測図

下2本の沈線によって囲まれた波状文が施される。822は体部に沈線を伴い、文様体を界している。これらのことから、SD14から出土した須恵器はI型式3段階から4段階の特徴をもつものと考えられる。

SD15からは小型の甕(876)が出土している。876は体部最大径が体部高の1/2前後で、口縁端部は内傾する平坦面をもち、体部外面は上下2本の沈線によって囲まれた波状文が施されることから、I型式3段階から4段階の特徴をもつものと考えられる。

以上のように溝から出土した須恵器は住居跡から出土した須恵器に比べ、後出する要素をもち、I型式3段階から4段階の特徴をもつもので、5世紀末のものであると考えられる。このように本遺跡出土の須恵器には初期須恵器と呼ばれるものが含まれており、香川県で出土した須恵器の中でも古いものであるが、これらの須恵器はどこで製作されたものであろうか。

本遺跡出土須恵器はどこで製作されたものかを調査するため蛍光X線による胎土の分析を三辻利一氏に依頼し、実施した(第4章第4節)。香川県で初期須恵器を製作した窯跡には高松市三谷に所在する三谷三郎池西岸窯跡<sup>(2)</sup>、三豊郡豊中町に所在する宮山窯跡<sup>(3)</sup>があるが、これらの窯跡の資料の他に大阪府の陶邑窯跡群出土須恵器、朝鮮半島の陶質土器、本遺跡から出土した須恵器の胎土を分析し、比較した。その結果、本遺跡出土須恵器には宮山窯跡産はみられず、地元の三谷三郎池産あるいは陶邑産と推定でき、陶質土器の可能性のあるものが含まれていることが指摘された。

胎土分析では以上のような結果となったが、三谷三郎池西岸窯跡から出土した須恵器と本遺跡から出土した須恵器との時間的な関係はどうであろうか。三谷三郎池西岸窯跡から

は甕・高杯など約70点の須恵器が出土した（第264図）。この窯跡から出土した須恵器の大部分は甕片で、いずれも口縁部外面に一条の凸帯が巡り、波状文はみられず、口縁端部は丸く仕上げられていた。

本遺跡の遺構から甕片は底部片しか出土しておらず、三谷三郎池西岸窯跡出土の須恵器と比較できる一括資料はないが、遺構外からは須恵器甕の口縁部破片（1069～1074）が数点出土した。これらの甕はいずれも口頸部外面に波状文が施され、口縁端部が丸く仕上げられているもの（1069）と面をもつもの（1070・1072～1074）がみられた。1070は口縁端部が上下に拡張されており、他の甕と比べると新しい様相をもつが、1069・1072～1074についても口縁端部の形態や文様の特征から、三谷三郎池西岸窯跡出土の甕に後出する様相をもつことがうかがわれた。これらの特徴は陶邑Ⅰ型式Ⅱ段階からⅢ段階のものであることから、1069・1072～1074は本遺跡SH02・03・05・06出土の須恵器とほぼ同時期のものであると考えられる。したがって、本遺跡から出土した須恵器は三谷三郎池西岸窯跡出土の須恵器よりも時期的に後出するものであると考えられる。

## 2. 土師器

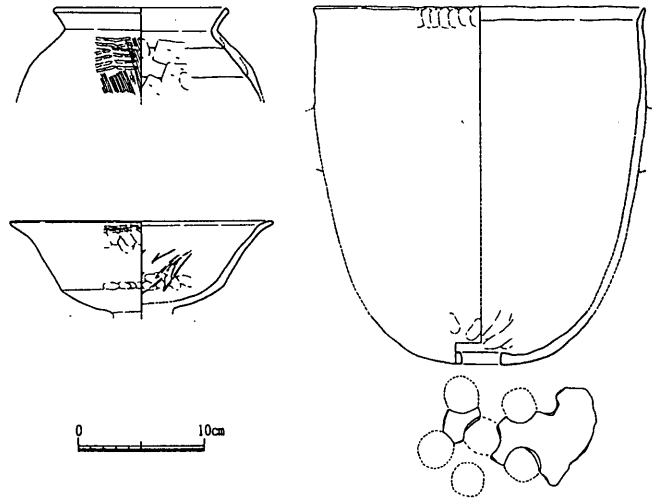
本遺跡からは以上の須恵器とともに土師器も多量に出土した。Ⅰ型式Ⅱ段階からⅢ段階併行の須恵器が出土したSH02から出土した土師器は甕、高杯、甗または鍋がみられる。甕は口縁部片が多く、全体のわかるものは少ない。口縁部は内傾し、端部は内側に面をもつもの（931～943）と、口縁部は外反し、外側に面をもつもの（944・949～953）、口縁部に段をもつもの（948・954）の3種類がみられる。931～943は布留式甕と呼ばれる甕である。高杯は杯部が椀状を呈し、脚部は緩く屈曲するやや小型の高杯（957～961）と、杯部底面から大きくハの字状に広がる大型の高杯（956）の2種類がみられる。962は甗または鍋の把手破片である。

SH03から出土した土師器は甕、高杯がある。甕はいずれも口縁部破片で、全体のわかるものはないが、口縁部は内傾し、端部は内側に面をもつ布留式甕（974～976）である。高杯は杯部の形態が丸いやや小型の高杯（979）と杯部底面から大きくハの字状に広がる大型の高杯（977）の2種類がみられる。

SH04から出土した土師器は甕、高杯、鉢、鍋、甗がある。甕はいずれも口縁部破片である。口縁部は内傾し、端部は内側に面をもつ布留式甕（982～984）と、口縁部が外反する甕（985）の2種類がみられる。高杯（986～989）はいずれも椀状を呈する杯部をもつ。

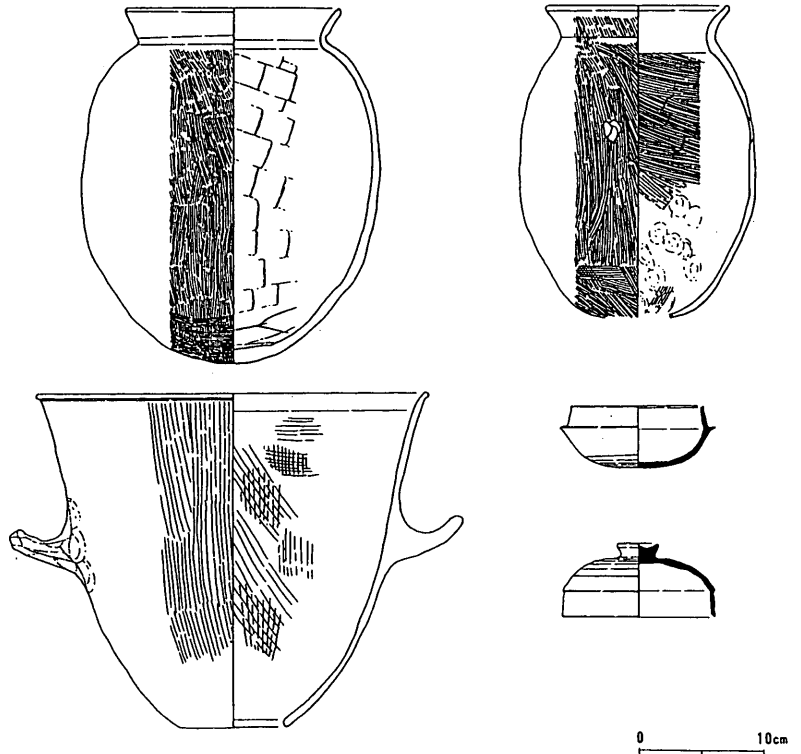
甗(999)は底部は丸く、円孔が多数みられる。

S H06から出土した土師器は甗,高杯がある。甗(1006~1008)は口縁部破片で、全体のわかるものはないが、口縁部が内傾し、端部は内側に面をもつ布留式甗と考えられるものである。高杯(1009~1012)はいずれも碗状を呈する杯部をもつ。



第265図 下川津遺跡SHII33出土土器実測図

S D14から出土した土師器は壺,甗,高杯,甗または鍋がある。壺(798)は体部破片であるが、球形の体部に外上方にのびる口縁部がつく形態のものであると考えられる。甗は口縁部が内傾し、端部は内側に面をもつもの布留式甗と考えられるもの(799・802)と、くの字に外反する口縁部をもつもの(800)の2種類がみられる。高杯は杯部



第266図 空港跡地遺跡SH79出土土器実測図

底面にわずかに稜をもつもの(804),脚部に円孔をもつもの(805・806)がみられる。807は甗または鍋の把手の破片である。

S D15から出土した土師器もS D14と同様、球形の体部に外上方にのびる口縁部がつく

もの(875)と、口縁部は内傾し、端部内側に面をもつ布留式甕と考えられるもの(873・874)と、くの字に外反する口縁部をもつもの(872)がみられる。

須恵器については先述のように溝出土資料のほうが住居跡出土資料よりも新しい様相を呈していた。溝から出土した土師器は少量であるため、不明瞭であるが、これらの遺構から出土した土師器についてはほとんど形態差は認められなかった。また、布留式を特徴付ける小型丸底壺はこれらの遺構からは出土しなかった。これらの様相から、陶邑編年のI型式2段階から4段階に併行する時期の土師器は壺・甕・鉢・高杯・鍋・甑で構成され、小型丸底壺は姿を消すことがわかった。また、従来の伝統的な布留式の土器群に甑・鍋という新しい煮沸具が加わったことから、新たな調理方法が取り入れられたことがうかがわれる。なお、甕については布留式甕が大半を占めるが、口縁部がくの字に外反する甕が少量みられる。いずれも口縁部破片であるため体部の形態は不明であるが、従来の布留式甕の口縁部とは明らかに異なるため、韓式土器の系譜を引く長胴甕の可能性も考えられる。

### 3, 甑と竈

本遺跡から出土した土師器には甑・鍋など韓式土器の系譜を引く器種がみられたが、坂出市下川津遺跡SHII33から出土した甑が県内で最も古い出土例である(第265図)<sup>(4)</sup>。共伴する土器が少量であるため、詳細な時期は不明であるが、高杯の形態から、大きくは4世紀前半から5世紀前半のいずれかに所属するものであると考えられる。しかし、外面に叩き目を施す弥生時代の系統を引く甕が存在することから、4世紀前半の可能性が高い。SHII33から出土した甑は丸底を呈し、円孔が多数あけられ、体部の形態は寸胴である。県内では太田下・須川遺跡を遡る時期にすでに甑は出現していることがうかがわれるが、下川津遺跡SHII33からも竈は検出されず、住居の中央部の小穴に炭化物と焼土塊が認められただけであった。なお、本遺跡SH02では竈は検出されなかったが、住居の南壁際の床面に焼土の分布が認められた。この焼土は何らかの調理施設の痕跡であろうと考えられる。また、本遺跡の南2kmに位置する空港跡地遺跡SH79でも土師器長胴甕・甑が出土している(第266図)<sup>(5)</sup>が、やはり竈は検出されず、住居の中央部に焼土・炭化物の分布が認められただけであった。SH79の所属時期は出土した須恵器蓋杯が1型式4段階から5段階の特徴をもつことから、6世紀前後のものであると考えられる。

香川県内において造り付け竈の最古例は善通寺市稲木遺跡SH05<sup>(6)</sup>である。稲木遺跡SH05では竈は北壁中央部に造り付けられていた。出土した遺物の中には須恵器はみられな

いことや土師器高杯の形態から、5世紀前半に属するものであると考えられる。なお、稲木遺跡SH05では甗は検出されなかった。

以上のように、県内では5世紀前半にすでに竈はみられることがわかった。しかし、後出する太田下・須川遺跡や空港跡地遺跡では甗は検出されるが、竈は認められなかったことから、竈と甗の構成が一般化するのには時間がかかることがうかがわれる。

- (1) 『陶邑III』大阪府教育委員会 1978
- (2) 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度』香川県教育委員会 1984
- (3) 松本敏三「讃岐出土の古式須恵器 宮山窯址の須恵器」『瀬戸内海歴史民俗資料館年報7』 1982
- (4) 『下川津遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団 1990
- (5) 『空港跡地遺跡発掘調査概報 平成5年度』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1994
- (6) 『稲木遺跡 ～県道西白方善通寺線桎藪踏切除却工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～』稲木遺跡発掘調査団 1989



## 第3節 まとめ

太田下・須川遺跡の調査では、前節までに述べたような成果が得られた。本節では、主として遺構の変遷を時代毎に辿ることによって、太田下・須川遺跡を概括し、まとめたい。

### I期

この時期は概ね弥生時代中期後半～後期にかけての時期にあたる。竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の居住域のある微高地は、西側はB地区のSR02、東側はG地区のSD群までひろがるものと推定され、そのうちC地区に竪穴住居跡や掘立柱建物跡が集中している。

この微高地の西側を流れるSR02からは多量の弥生土器が出土している。中でも胴部に鹿と思われる動物の線刻を施した壺や水銀朱を保存していた可能性のあるグラタン皿のような形状を呈する鉢、ベンガラで装飾を施した高杯等はこの付近で祭祀を行っていたことを示す貴重な資料である。このような祭祀に利用されていたと思われる土器の多くは溝や自然河川、井戸といった水に関係する遺構から出土することが多い。このことは従来言われてきたように、水に近いところが神々と人間の結界として人々の意識の根底に存在していたものと思われる<sup>(1)</sup>。

一方、この微高地の東側は、灌漑水利施設と考えられる木樋を最下層に設置したSD群や木製農耕具を出土したSR03・04等、主として生産域にあたるのではないかと考えられる。

### II期

この時期は概ね古墳時代中期～後期にあたる。竪穴住居跡や掘立柱建物跡はE～G地区に集中している。竪穴住居跡や掘立柱建物跡は建て替え等に伴う若干の時期差はあるもののほぼ同時期に存在していたものとみて間違いはない。竪穴住居跡からは5世紀後半の須恵器や土師器が良好な状態で出土しており、当時の拠点集落の一部であったものと考えられる。その中でもSH02から出土した土器は質・量ともに他の竪穴住居跡を凌駕しており、この集落の中心的な一族が居住していた可能性がある。また、本遺跡の竪穴住居跡には造り付けの竈は見られない。その一方でSH02・04から土師器の甕が出土している。今回は残

念ながら言及し得なかったが、甗の使用形態からこの時期の竪穴住居跡における火の使用状況を検討することも今後の課題であろう。

その他、竪穴住居跡や掘立柱建物跡の東側を流れる溝からも多くの須恵器が出土している。これらは、竪穴住居跡出土のものよりも若干後出するものであるが概ね5世紀末から6世紀前半にかけてのものである。その中で注目される遺物に樽形甗がある。その特徴からみてI型式3段階もしくは4段階のものと思われる<sup>(2)</sup>。また、蛍光X線による胎土分析によると、この樽形甗は陶邑（大阪府堺市）で製作された可能性が高い。一般的に樽形甗等の特殊な形態の甗はその存続期間が短く、やがて壺の胴部に孔を空けたいわゆる甗に統一されていく。5世紀末から6世紀前半は、いわゆる「倭の五王」がこぞって中国の宋朝に遣使したが、朝鮮半島における軍事的地位や高句麗と並ぶ国際的地位を認められず、中国王朝との交渉を絶ち、内政の充実を図っていた時期である<sup>(3)</sup>。このような時代背景と特殊な須恵器などを関連づけて考えることも必要であると思われる。

### III期

この時期は概ね奈良・平安時代にあたる。主な遺構は数棟の掘立柱建物跡と溝、それに自然河川である。このうち、溝（SD34）はクランク状を呈し、条里制の方格地割に合致するものである。また、自然河川（SR05）からは斎串・人形・櫛等がまとまって出土しており、人々の意識が弥生時代から変わらないことを示している。このことは、日本人という民族を考える上でまことに興味深い。

### IV期

この時期は鎌倉時代から江戸時代にかけてにあたる。主な遺構は掘立柱建物跡、溝、土坑である。掘立柱建物跡は、一ヶ所に集中せず、散在するようになる。農業的活動が盛んな地域であったのであろう。

(1) 『特別展 絵画と記号』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1986

(2) 中村 浩『和泉陶邑窯の研究』柏書房 1981

(3) 坂元義種『倭の五王』教育社歴史双書 1981

# 付 表

第12表 土器・陶磁器観察表

第13表 石器観察表

第14表 木器観察表

## 第12表凡例

残存率 径を測定した部位と、径に対する残存率を記した

色調 『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編）を基準とし、色名を記載した

土器胎土 含有物とその大きさを記載した

大きさは 小・径0.5mm以下 中・径0.6～1.0mm 大・径1.1mm以上とした

弥生土器と古式土師器を含有物と色調によって以下のように3分類した

胎土1類 茶褐色系統の色調を呈し、角閃石と考えられる黒色砂粒を含む土器胎土

胎土2類 片岩を含む土器胎土

胎土3類 その他の土器胎土

第12表 土器・陶磁器観察表

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1	SH 01	弥生土器 壺	体部完存 口径15.2cm 器高31.5cm 底径6.4cm	外：口縁部竹管文，頸部斜めの へら描き，摩滅著しい，体 部下半へら磨き 内：口縁部横ナデ，頸部指押さ え，体部指押さえ，板ナデ	橙(7.5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
2	SH01	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁部退化凹線文，竹管 文，頸部斜めのへら描き 内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
3	SH01	弥生土器 壺	口縁部30% 口径12.3cm	外：口縁部横ナデ，頸部刷毛目 体部刷毛目，へら磨き 内：口頸部指押さえ，指ナデ 体部板ナデ	黒褐(10Y R3/1)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量	
4	SH01	弥生土器 壺	口縁部60% 口径11.9cm	外内：摩滅のため調整不明	黒褐(10Y R3/1)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量	
5	SH01	弥生土器 壺	完存 口径8.0cm 器高14.0cm 底径4.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部刷毛目，横ナデ 体部指押さえ，刷毛目	にぶい褐(7.5Y R5/4)～黒褐 (7.5Y R3/1)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)多量	
6	SH01	弥生土器 壺	底部完存 口径15.0cm 器高31.0cm 底径8.0cm	外：口縁部横ナデ，竹管文 (3個，2カ所) 体部タタキ， 刷毛目，へら磨き，刻み目 内：体部指押さえ，刷毛目，ナデ	外：にぶい褐(7.5 Y R5/4) 内：褐灰(10Y R 4/1)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
7	SH01	弥生土器 甕	口縁部40% 口径16.2cm	外：口縁部退化凹線文，体部タ タキ 内：口縁部横ナデ，体部指押さ え，板ナデ	赤褐(5Y R4/6)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量	
8	SH01	弥生土器 甕	口縁部50% 口径11.3cm	外内：横ナデ	暗褐(10Y R3/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
9	SH01	弥生土器 甕	底部30% 底径6.7cm	外：へら磨き 内：板ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)微量	
10	SH01	弥生土器 甕	底部20% 底径4.8cm	外：ナデ 内：指押さえ，ナデ	にぶい赤褐(2.5 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
11	SH01	弥生土器 高杯	口縁部破片	外：口縁部横ナデ，体部へら磨き 内：横ナデ	褐(7.5Y R4/6)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)少量 雲母(小)微量	
12	SH01	弥生土器 高杯	口縁部30% 口径25.1cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中)多量 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小～中)多量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
13	SH01	弥生土器 高杯	口縁部完存 口径19.2cm	外：口縁部退化凹線文，体部ヘラ磨き 内：口縁部退化凹線文，横ナデ 体部ヘラ磨き	褐(10Y R 4/4)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)多量 灰色砂粒(小)微量	
14	SH01	弥生土器 高杯	口縁部10%	外：刷毛目，摩滅のため調整不明 内：摩滅のため調整不明	明赤褐(5Y R 5/8)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
15	SH01	弥生土器 鉢	口縁部15% 口径19.1cm	外内：摩滅のため調整不明	明褐(7.5Y R 5/6)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
16	SH01	弥生土器 器台	口縁部完存 口径20.6cm 器高14.6cm 底径15.0cm	円孔(4個) 外：口縁部横ナデ，体部上半ヘラ磨き，下半刷毛目 内：口縁部ヘラ磨き，体部ナデ	褐灰(10Y R 4/1)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
17	SH01	弥生土器 ミニチュア甕	体部完存 口径7.5cm 器高6.4cm 底径2.5cm	外：口縁部指押さえ，体部ナデ 内：ナデ	灰黄褐(10Y R 4/2)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)多量	
20	SB03	弥生土器 甕	体部20% 口径14.8cm	外：口縁部横ナデ 体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ，指押さえ	褐(10Y R 4/4)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色砂粒(小～大)少量	
22	SB04	弥生土器 高杯	杯部80% 脚部80% 口径17.0cm 底径9.9cm	外：口縁部退化凹線文，体部ヘラ削り，脚部ヘラ状工具による沈線文(2条，2段)，線刻 内：杯部摩滅のため調整不明 脚部絞り目，ヘラ削り	にぶい橙(7.5Y R 7/4)	胎土3類 白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(大)少量	
23	SB05	弥生土器 ミニチュア甕	底部完存 底径2.0cm	外内：指押さえ，指ナデ	にぶい黄褐(10Y R 4/3)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)多量	
24	SB07	弥生土器 高杯	脚部20% 底径16.2cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R 5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)多量	
26	SB09	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径23.9cm	外内：横ナデ，ナデ	にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土3類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
27	SB09	弥生土器 (底部)	底部30% 底径5.4cm	外：ヘラ磨き，ナデ 内：ナデ	外：にぶい赤褐(2.5Y R 4/4) + オリーブ黒(5Y 3/1) 内断：にぶい黄褐(10Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
28	SB09	弥生土器 (底部)	底部40% 底径3.8cm	外内：ナデ	灰白(2.5Y 8/2) + 暗灰(N 3/)	胎土3類 透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(中)微量 赤色粒子(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
29	SB09	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径35.0cm	外：横ナデ 内：凹線文，刷毛目	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
30	SB09	弥生土器 鉢	口縁部15% 口径14.4cm 器高6.4cm	外：ヘラ削り(一部摩滅) 内：ナデ	灰白(2.5Y8/2) +黒(N2/)	胎土3類 透明砂粒(中～大) 少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(大)微量 灰色砂粒(中～大)微量	
31	SP01	弥生土器 高杯	口縁部20% 口径25.3cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(大)多量 黒色砂粒(中)少量 雲母(小)微量 赤色粒子(小)微量	
32	SK13	弥生土器 壺	口縁部10% 口径16.9cm	外：横ナデ，竹管文 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)微量	
33	SK13	弥生土器 甕	体部20% 口径12.0cm	外：口縁部ナデ，体部刷毛目，ヘラ磨き 内：口縁部ナデ，体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/4)+黒(N2/)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 少量 白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
34	SK13	弥生土器 甕	口縁部10% 口径15.6cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)+にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
35	SK13	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径16.9cm	外内：横ナデ	外断：にぶい黄橙(10Y R7/3) +橙(5Y R7/6) 内：灰オリーブ(5Y6/2～4/2)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)少量	
36	SK13	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径30.2cm	外内：横ナデ，摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
37	SK13	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径55.6cm	外：刷毛目，ナデ，ヘラ磨き 内：指押さえ，ナデ，刷毛目	にぶい赤褐(5Y R4/4)+にぶい黄褐(10Y R5/3～5/4)+黒(N2/)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中)多量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
38	SK14	弥生土器 ミニチュア壺	完形 口径4.5cm 器高9.4cm	手捏 外内：ナデ	灰白(10Y R8/2) +にぶい橙(7.5Y R7/4)	胎土3類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小)少量 茶色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)多量	黒斑
41	SK20	土師器 鉢	口縁部25% 口径13.0cm	外内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R7/4)+浅黄橙(10Y R8/3～8/4)	胎土3類 透明砂粒(中～大) 微量 白色砂粒(中)微量 赤色粒子(中～大)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
42	SK22	弥生土器 高杯	脚部完形 脚底径11.5cm	外：横ナデ，凹線文 内：横ナデ，指ナデ	橙(7.5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
43	SK22	弥生土器 鉢	口縁部破片	外：横ナデ 内：ヘラ磨き	にぶい橙(7.5Y R7/4)+暗灰黄(2.5Y 4/2)+にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
44	SK23	弥生土器 (底部)	底部完存 底径7.0cm	外：ヘラ磨き，指押さえ，ナデ 内：板ナデ，ナデ	外：にぶい黄褐(10Y R5/3)+灰黄褐(10Y R5/2)内断：にぶい黄褐(10Y R5/3)+黒褐(2.5Y 3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
45	ST01	弥生土器 壺棺蓋	天井部80% 天井部径6.0cm	外：ナデ 内：ナデ，刷毛目	外：にぶい黄褐(10Y R5/4)+黒褐(2.5Y 3/1)内断：にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	弥生土器 壺底部転用
46	ST01	弥生土器 壺棺	底部完存 底径7.4cm	外内：刷毛目，ナデ	にぶい黄褐(2.5Y 6/3)+黄褐(2.5Y 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)多量	
47	ST02	弥生土器 甕	底部ほぼ完存 底径13.7cm	外：ヘラ磨き 内：刷毛目，指押さえ	外：にぶい黄橙(10Y R6/4)+にぶい黄(2.5Y 6/3)+オリーブ黒(5Y 3/1)内：にぶい黄橙(10Y R7/4)断：灰(5Y 5/1～4/1)	胎土3類 透明砂粒(小～大)多量 白色砂粒(小～大)多量	
48	SD03	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	明褐(7.5Y R5/6)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
49	SD03	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	褐(10Y R4/6)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)微量	
50	SD03	弥生土器 甕	口縁部破片	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)多量	
51	SD03	弥生土器 甕	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量	
52	SD03	弥生土器 甕	底部20% 底径8.9cm	外内：摩滅のため調整不明	外：褐灰(10Y R4/1) 内：黄褐(10Y R5/6)	胎土1類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(大)少量 黒色砂粒(小)多量 灰色砂粒(中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
53	SD03	弥生土器 鉢	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 少量 灰色砂粒(中) 微量 赤色粒子(小) 微量	
54	SD03	弥生土器 高杯	脚部25%	外：杯部へラ磨き, 脚部ナデ 内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小) 微量	
55	SD03	弥生土器 高杯	脚部破片	外：横ナデ, 凹線文 内：横ナデ	灰黄褐(10Y R6 /2)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 微量 黒色砂粒(小～中) 少量	
56	SD03	弥生土器 高杯	底部20% 底径12.9cm	外：凹線文5条, 横ナデ 内：へラ削り	明黄褐(10Y R6 /6)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 少量 黒色砂粒(小～中) 少量	
57	SD03	弥生土器 高杯	脚部破片	円孔 外内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小～中) 微量 白色砂粒(小～中) 微量 黒色砂粒(小～中) 少量	
58	SD03	弥生土器 高杯	脚部破片	円孔(上下) 外：摩滅のため調整不明 内：へラ切り, ナデ, 絞り目	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 少量 黒色砂粒(小) 少量	
59	SD03	須恵器 杯蓋	口縁部破片	外内：回転ナデ	灰(N6/)	透明砂粒(小) 微量 白色砂粒(小) 少量	
60	SD03	須恵器 杯	口縁部30% 口径14.0cm 器高4.2cm 底径10.0cm	外内：回転ナデ	灰(N6/)	白色砂粒(小) 少量	
61	SD03	須恵器 甕	口縁部25% 口径12.6cm	外：口縁部回転ナデ, 体部タタキ 内：口縁部回転ナデ, 体部ナデ	灰白(2.5Y7/1)	白色砂粒(小) 微量	
67	SD04	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁部端部櫛描波状文 内：口縁部櫛描波状文	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中) 少量 黒色砂粒(小～中) 多量	
68	SD04	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁部端部退化凹線文2条, 横ナデ 内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大) 少量 黒色砂粒(小) 少量 灰色砂粒(中～大) 微量 赤色粒子(小) 微量	
69	SD04	弥生土器 壺	口縁部20% 口径17.8cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 少量 黒色砂粒(中) 少量 赤色粒子(中～大) 少量	
70	SD04	弥生土器 壺	底部破片	外内：摩滅のため調整不明	外：褐(7.5Y R4 /4)～黒褐(10Y R3/2) 内：褐 (7.5Y R5/6)	胎土3類 透明砂粒(小～中) 少量 白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(中～大) 少量 雲母(小) 微量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
71	SD04	弥生土器 甕	口縁部20% 口径19.7cm	外：口縁端部退化凹線文2条 体部刷毛目 内：口縁部横ナデ 体部指押さえ、ヘラ削り	黄褐(10Y R5/6)	胎土1類 白色砂粒(中~大) 多量 黒色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(中)少量	
72	SD04	弥生土器 高杯	脚部破片	円孔(1カ所)外：摩滅のため 調整不明 内：指押さえ、ナデ	灰黄褐(10Y R5/2)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 少量 黒色砂粒(小)少量	
73	SD04	弥生土器 鉢	口縁部完存 口径10.4cm 器高5.4cm	外：ナデ 内：指押さえ、刷毛目	にぶい褐(7.5Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(中)微量	
74	SD04	弥生土器 鉢	口縁部15% 口径47.8cm	外：口縁部凹線文3条、体部ヘラ 磨き 内：横ナデ、体部摩滅のため調整 不明	明褐(7.5Y R5/6)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小~中)多量	
75	SD05	弥生土器 壺	体部破片	外：ヘラ描文 内：ナデ	外：灰黄(2.5Y 7/2) 内：黒褐 (10Y R3/1)	胎土3類 白色砂粒(小~大)多量	
76	SD05	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁端部退化凹線文、刻み 目 内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 微量 黒色砂粒(中)少量 赤色粒子(小)微量	
77	SD05	弥生土器 甕	口縁部20% 口径15.4cm	外：口縁部横ナデ、体部タタキ 内：口縁部横ナデ、体部指押さ え、ナデ	灰褐(7.5Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
78	SD05	弥生土器 (底部)	底部50% 底径7.6cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	褐灰(10Y R4/1)	胎土3類 透明砂粒(大)多量 白色砂粒(中~大)多量 赤色粒子(中)微量	
79	SD05	弥生土器 (底部)	口縁部完存 底径8.3cm	外：ナデ 内：指ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/2)	胎土3類 透明砂粒(大)多量 白色砂粒(中)多量 灰色砂粒(中)多量	
80	SD05	弥生土器 (底部)	底部20% 底径9.0cm	外：指押さえ、ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/2)	胎土3類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小~大)多量	
81	SD05	弥生土器 (底部)	底部50% 底径5.4cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中)少量	
82	SD05	弥生土器 高杯	口縁部破片	外内：横ナデ、ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)微量 赤色粒子(小)微量	
83	SD05	弥生土器 高杯	脚部80%	外内：摩滅のため調整不明	褐(7.5Y R4/6)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小~中)少量	
85	SD07	弥生土器 壺	口縁部30% 口径13.4cm	外：口縁端部退化凹線文、頸部 刷毛目 内：口縁部横ナデ、頸部~体部 指押さえ、ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)多量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
86	SD07	弥生土器 甕	口縁部破片	外：口縁端部退化凹線文1条 口縁部横ナデ 内：口縁部横ナ デ、体部指押さえ、ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
87	SD07	弥生土器 甕	底部30% 底径6.4cm	外：へら磨き 内：へら削り	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黑色砂粒(小)多量	
89	SD08	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：摩滅のため調整不明	浅黄橙(10Y R8 /3)	胎土3類 白色砂粒(中～大) 少量 茶色砂粒(中)少量	
90	SD08	弥生土器 壺	頸部10%	外：刷毛目、ナデ 内：ナデ、指押さえ	明褐(7.5Y R5/ 6)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中)微量 黑色砂粒(小)少量	
91	SD08	弥生土器 壺	底部25% 底径8.0cm	外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	明赤褐(5Y R5/ 6)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小)少量	
92	SD08	弥生土器 高杯	杯部50%	外：摩滅のため調整不明 内：杯部へら磨き、脚部へら削 り	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中)多量 黑色砂粒(小)多量	
93	SD08	弥生土器 高杯	脚部20%	外：ナデ 内：杯部摩滅のため 調整不明 脚部ナデ、絞り目	にぶい橙(7.5Y R 7/4)	胎土3類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小)微量	
94	SD08	弥生土器 高杯	脚部完存	外：摩滅のため調整不明 内：絞り目	橙(5Y R6/6)	胎土3類 白色砂粒(中)少量	
95	SD08	弥生土器 器台	口縁部20% 口径27.0cm	外：横ナデ 内：横ナデ、凹線文	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 多量 黑色砂粒(小)多量	
96	SD08	須恵器 杯蓋	天井部付近 完存 口径13.0cm 器高5.0cm 底径1.6cm	ロクロ右回り 外：回転へら削り、回転ナデ 内：回転ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/4)	白色砂粒(小～中)少量	
101	SD12	弥生土器 壺	口縁部10% 口径27.0cm	外：口縁端部波状文、口頸部へ ら磨き 内：横ナデ	外内：灰黄(2.5 Y 6/2)+にぶい 黄橙(10Y R6/4) 断：黄灰(2.5Y 4 /1)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
102	SR01	縄文土器 深鉢	口縁部破片	外：口縁部刻み目、刻み目突帯 (押し引き) 内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10 Y R7/3)	透明砂粒(大)多量 白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(中)微量	
103	SR02	弥生土器 壺	頸部40% 口径14.8cm	外：頸部へら描沈線文2条、摩 滅のため調整不明 内：指押さえ、ナデ	灰白(2.5Y 8/ 1)	胎土3類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(小)多量 灰色砂粒(小～中)多量	
104	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：へら描沈線文 内：摩滅のため調整不明	明赤褐(5Y R5/ 6)	胎土3類 透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(中～大)多量	
105	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：横ナデ、へら描沈線文 内：横ナデ	浅黄橙(10Y R8 /3)	胎土3類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(大)少量 灰色砂粒(大)少量 赤色粒子(中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
106	SR02	弥生土器 壺	口縁部75% 口径11.4cm	外：沈線文5条, ナデ 内：指押さえ, ナデ, 絞り目	灰白(10Y R8/2)	胎土3類 白色砂粒(小～中)多量 灰色砂粒(小～中)少量	
107	SR02	弥生土器 壺	頸部破片	外：へら描沈線文 内：指押さえ, ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/2)	胎土3類 白色砂粒(中～大)少量 灰色砂粒(中～大)少量	
108	SR02	弥生土器 壺	頸部破片	外：ナデ, へら描沈線文 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/2)	胎土3類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)多量 灰色砂粒(小)多量	
109	SR02	弥生土器 壺	体部60%	外：ナデ, 櫛描直線文, 竹管文 内：指押さえ, ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/2)	胎土3類 白色砂粒(小～大)多量	
110	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径27.8cm	外：へら磨き 内：指ナデ, へら磨き	にぶい橙(7.5Y R6/4)	胎土3類 白色砂粒(中～大) 少量 灰色砂粒(大)微量	
111	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外：指押さえ, ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部へら磨き	外：橙(7.5Y R7 /6) 内：橙(5Y R7/6)	胎土3類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中)少量	
112	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外内：指押さえ, ナデ	外：褐灰(7.5Y R4/1)内：にぶい 橙(7.5Y R7/3)	胎土3類 白色砂粒(中～大)多量	
113	SR02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径20.6cm	外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	胎土3類 透明砂粒(大)多量	
114	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径20.7cm	外：へら描沈線文 内：指押さえ, ナデ	外：灰黄褐(10Y R6/2)～黒褐(10 Y R3/1)内：灰黄 褐(10Y R6/2)	胎土3類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～中)多量	
115	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土3類 透明砂粒(中～大) 多量 白色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(小)微量	
116	SR02	弥生土器 壺または 甕 (底部)	底部40% 底径12.8cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土3類 透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中～大)少量	
117	SR02	弥生土器 壺または 甕 (底部)	底部完存 底径7.3cm	外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土3類 透明砂粒(中)多量 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(中～大)少量 灰色砂粒(中～大)少量	
118	SR02	弥生土器 壺または 甕 (底部)	底部25% 底径8.1cm	外内：摩滅のため調整不明	橙(5Y R6/6)	胎土3類 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中～大)多量	
119	SR02	弥生土器 壺または 甕 (底部)	底部40% 底径7.3cm	外内：摩滅のため調整不明	外：にぶい黄橙(10 Y R7/3) 内：黒褐(2.5Y3 /1)	胎土3類 透明砂粒(中)多量 白色砂粒(中～大)多量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
120	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部20% 底径8.1cm	外：摩滅のため調整不明，底部 付近指押さえ 内：指ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/4)	胎土3類 白色砂粒(大)多量 灰色砂粒(大)多量 赤色砂粒(大)少量	
121	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部60% 底径5.6cm	外内：指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/2)	胎土3類 白色砂粒(大)多量 灰色砂粒(中～大)多量	
122	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部30% 底径6.4cm	外：板ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)～明赤 褐(5Y R5/6)	胎土3類 透明砂粒(中～大) 少量 白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(小)多量 灰色砂粒(中～大)微量	
123	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径6.5cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土3類 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(小)少量	
124	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部破片	外：指押さえ，ナデ 内：ナデ	灰白(10Y R7/1)	胎土3類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(小)多量	
125	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径8.3cm	外：ナデ 内：指押さえ，ナデ	明赤褐(5Y R5/ 6)	胎土3類 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中～大)少量	
126	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部30% 底径7.6cm	外：摩滅のため調整不明 内：指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/3)	胎土3類 透明砂粒(大)多量 白色砂粒(大)多量 灰色砂粒(中)少量	
127	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部45% 底径7.3cm	外：摩滅のため調整不明 内：指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/2)	胎土3類 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中～大)多量	
128	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部30% 底径7.5cm	外：指押さえ，ナデ 内：指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土3類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(小)少量	
129	SR02	弥生土器 甕 (底部)	底部完存 底径7.0cm	底部焼成前穿孔 外：摩滅のため調整不明 内：板ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土3類 白色砂粒(大)多量	
130	SR02	弥生土器 壺	口縁部20% 口径12.6cm	外：口縁端部刻み目，円形浮文 頸部刷毛目 内：へら磨き	灰黄褐(10Y R5 /2)	胎土3類 白色砂粒(小～中)少量	
131	SR02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径14.8cm	外：口縁部刻み目，頸部刷毛目 内：へら磨き	灰黄褐(10Y R5 /2)	胎土3類 白色砂粒(小～中)少量	
132	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁端部へら状工具による 刻み目，円形浮文 内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土3類 白色砂粒(小)少量 雲母(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
133	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁端部ヘラによる刻み目、円形浮文 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R 7/2)	胎土3類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中)多量	
134	SR02	弥生土器 壺	頸部破片	外：刷毛目、刻み目突帯文 内：摩滅のため調整不明	灰黄褐(10Y R 6/2)	胎土3類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量 雲母(小)微量	
135	SR02	弥生土器 壺	体部40%	外：頸部刷毛目、体部篋描沈線文、櫛描波状文、刷毛目 内：指押さえ、ナデ	褐灰(10Y R 6/)+灰黄褐(10Y R 6/2) 底:黒(10Y R 2/1)	胎土3類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(中～大)少量 灰色砂粒(中～大)多量	
136	SR02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径16.2cm	外：口縁端部櫛描波状文、円形浮文貼り付け 内：横ナデ	灰褐(7.5Y R 5/2)	胎土3類 白色砂粒(小～中)多量	
137	SR02	弥生土器 壺	口縁部80% 口径31.6cm	外：口縁端部凹線文4条、円形浮文(4個、8カ所)頸部板ナデ、突帯貼り付け 内：口頸部ナデ 体部指押さえ	にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小)微量	
138	SR02	弥生土器 壺	口縁部40% 口径32.8cm	外：口縁端部凹線文、円形浮文貼り付け、ナデ 内：横ナデ	にぶい褐(7.5Y R 5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
139	SR02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径21.5cm	外：口縁端部凹線文 内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)多量	
140	SR02	弥生土器 壺	口縁部完存 口径11.5cm	外：口縁端部退化凹線文、頸部～体部刷毛目 内：口縁部横ナデ、体部指押さえ、ヘラ削り	にぶい黄(2/5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
141	SR02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径15.1cm	外：口縁端部凹線文、口縁部横ナデ 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R 5/3)	胎土1類 茶色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
142	SR02	弥生土器 壺	口縁部20% 口径12.4cm	外：口縁端部退化凹線文、体部ヘラ磨き 内：横ナデ、指押さえ	にぶい黄橙(10Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
143	SR02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径13.9cm	外：口縁端部退化凹線文、竹管文 体部ナデ 内：口縁部竹管文、頸部指押さえ、ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小)微量	
144	SR02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径11.1cm	外：口縁端部退化凹線文、竹管文(5個) 内：横ナデ、指押さえ	にぶい黄橙(10Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)多量	
145	SR02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径12.6cm	外：摩滅のため調整不明 内：指押さえ、摩滅のため調整不明	橙(10Y R 6/8)	胎土3類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(大)少量 赤色粒子(小)微量	
146	SR02	弥生土器 壺	口縁部30% 口径14.5cm	外：口縁端部退化凹線文、刻み目 頸部沈線、斜めのヘラ描き 内：横ナデ、ナデ	灰黄褐(10Y R 5/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小)多量 赤色粒子(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
147	SR02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径23.6cm	外：口縁端部凹線文，ヘラによる刻み目，口縁部横ナデ，頸部斜格子のヘラ描き，体部ヘラ磨き 内：口縁部横ナデ，頸部板ナデ 体部指押さえ，板ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(大)微量	
148	SR02	弥生土器 壺	口縁部30% 口径13.5cm	外：口縁端部凹線文，頸部斜めのヘラ描き 内：口縁部横ナデ，頸部指ナデ，瓜痕	にぶい褐(7.5Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(大)少量 黒色砂粒(小)多量	
149	SR02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径18.7cm	外：口縁端部凹線文，竹管文(3個)頸部斜格子のヘラ描き 内：ナデ	にぶい橙(7.5Y R 6/4)+橙(7.5 Y R 6/6)	胎土1類 白色砂粒(大)多量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(中)少量	
150	SR02	弥生土器 壺	口縁部30% 口径13.6cm	外：口縁端部退化凹線文，竹管文(4個)，頸部斜格子のヘラ描き 内：口縁部竹管文，頸部指押さえ，ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)多量 灰色砂粒(大)微量 赤色粒子(小)微量	
151	SR02	弥生土器 壺	口縁部70% 口径15.5cm	外：口縁端部退化凹線文，頸部刷毛目，斜格子のヘラ描き 内：指押さえ，ヘラ削り	浅黄(2.5Y 7/3)	胎土3類 透明砂粒(中)多量 白色砂粒(中)少量	
152	SR02	弥生土器 壺	体部20%	外：刷毛目，頸部斜めのヘラ描き 内：指押さえ，ナデ	明褐(7.5Y R 5/ 6)	胎土1類 白色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)多量	
153	SR02	弥生土器 壺	口縁部50% 口径22.0cm	外：口縁端部退化凹線文，竹管文 頸部平行沈線文，浅い斜格子のヘラ描き，体部刷毛目，ナデ 内：口縁部横ナデ，頸部～体部指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10 Y R 6/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
154	SR02	弥生土器 壺	底部完存 底径8.0cm	外：頸部沈線文，斜格子のヘラ描き，体部鹿の線刻，ヘラ磨き 内：頸部～体部上半指押さえ，ナデ，体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(中～大)少量	
155	SR02	弥生土器 壺	頸部破片	外：斜格子のヘラ描き 内：横ナデ，指押さえ	にぶい黄橙(10 Y R 7/3)	胎土3類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～中)多量	
156	SR02	弥生土器 壺	口縁部90% 口径17.6cm	外：口縁端部退化凹線文，竹管文(11個)頸部刷毛目，ナデ，沈線(浅い平行)，斜めのヘラ描き 内：口縁部横ナデ，頸部指押さえ	にぶい黄褐(10 Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)多量	
157	SR02	弥生土器 壺	頸部40%	外：ナデ，沈線文，斜めのヘラ描き 内：指押さえ，ナデ	にぶい褐(7.5Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量	
158	SR02	弥生土器 壺	体部40%	外：刷毛目，ヘラ磨き 内：指押さえ，ヘラ削り	にぶい黄褐(10 Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小～大)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
159	SR02	弥生土器 壺	体部40%	外：頸部沈線文，体部刷毛目， ヘラ磨き 内：指押さえ，ヘラ削り	灰黄褐(10Y R5/2)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～中)微量 黑色砂粒(小～中)多量	
160	SR02	弥生土器 壺	頸部20%	外：沈線文4条 内：板ナデ，ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)少量 黑色砂粒(小)多量 赤色粒子(小)微量	
161	SR02	弥生土器 壺	口縁部20% 口径27.3cm	外：口縁部横ナデ，頸部ナデ 内：ヘラ磨き	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小)多量 赤色粒子(小)微量	
162	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁部凹線文 内：横ナデ	灰白(10Y R8/2)	胎土3類 透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中～大)多量 赤色粒子(中)少量	
163	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：摩滅のため調整不明	灰白(10Y R8/2)	胎土3類 白色砂粒(大)多量 灰色砂粒(大)多量	
164	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3)	胎土3類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(大)少量	
165	SR02	弥生土器 壺	頸部50% 口径14.2cm	外：刷毛目 内：指押さえ，刷毛目	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 茶色砂粒(中)微量 黑色砂粒(小～大)多量	
166	SR02	弥生土器 壺	頸部40%	外：刷毛目，ナデ 内：指押さえ，ナデ，刷毛目	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(小)微量	
167	SR02	弥生土器 壺	体部60% 口径14.2cm 器高30.8cm 底径6.4cm	外：ヘラ磨き 内：口頸部指押さえ，ナデ，体部指押さえ，一部板ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
168	SR02	弥生土器 壺	頸部破片	外：ナデ 内：指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3)	胎土3類 透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(小～中)多量	
169	SR02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径15.6cm	外：横ナデ，ナデ 内：横ナデ，指押さえ，ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 茶色砂粒(小)多量 黑色砂粒(小)多量	
170	SR02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径22.8cm	外：口縁部刻み目，頸部横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ，ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)微量 黑色砂粒(小)多量	
171	SR02	弥生土器 壺	口縁部50% 口径14.0cm	外：口縁部横ナデ，体部板ナデ 内：口縁部横ナデ，体部ヘラ削り	褐(7.5Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小)微量	
172	SR02	弥生土器 壺	頸部20%	外：ナデ 内：ナデ，指押さえ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)少量 黑色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
173	SR02	弥生土器 壺	頸部破片	外：ナデ，刻み目 内：ナデ	外：灰黄(2.5Y7/2) 内：黄灰(2.5Y4/1)	胎土3類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～大)少量	
174	SR02	弥生土器 壺	頸部30%	外：櫛描波状文，直線文，ヘラ磨き 内：指押さえ，下半のみヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中)少量，(大)微量 黒色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小)微量	
175	SR02	弥生土器 壺	底部95% 底径6.0cm	外：刷毛目，ヘラ磨き 内：指押さえ，ヘラ削り	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)少量	
176	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外：口縁端部刻み目，口縁部横ナデ 内：口縁部横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 灰色砂粒(小～中)少量	
177	SR02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径22.2cm	外：口縁端部刻み目，体部刷毛目 内：口縁部刷毛目，横ナデ，体部ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)微量	
178	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外内：摩滅のため調整不明	橙(7.5Y R6/8) +にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(小)多量 赤色粒子(小)微量	
179	SR02	弥生土器 甕	頸部40% 口径16.0cm	外：口縁端部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
180	SR02	弥生土器 甕	口縁部50% 口径12.2cm	外：口縁部横ナデ，体部ヘラ磨き 内：口縁部横ナデ，体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量	
181	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径12.6cm	外：口縁部横ナデ，体部ナデ 内：口縁部横ナデ，体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
182	SR02	弥生土器 甕	口縁部25% 口径26.8cm	外：刷毛目 内：ナデ	にぶい橙(7.5Y R6/4)	胎土3類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(小)多量 雲母(小)少量	
183	SR02	弥生土器 甕	頸部50% 口径15.8cm	外：刷毛目 内：指ナデ，ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	胎土3類 白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(小)多量 雲母(小)少量 赤色粒子(中)微量	
184	SR02	弥生土器 甕	頸部20% 口径19.2cm	外：刷毛目 内：口縁部刷毛目，横ナデ，体部ナデ	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土3類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中)少量 雲母(小)少量	
185	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外：摩滅のため調整不明 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土3類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量 雲母(小)微量	
186	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R7/2)	胎土2類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～大)微量	



番号	出土位置	器種	残存率・分量	整形・調整	色調	胎土	備考
187	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外：横ナデ 内：摩滅のため調整不明	暗灰黄(2.5Y5/2)	胎土3類 白色砂粒(小~中) 少量 赤色粒子(小) 微量	
188	SR02	弥生土器 甕	口縁部破片	外内：横ナデ	灰黄褐(10Y R6/2)	胎土3類 白色砂粒(中)多量 茶色砂粒(小) 微量 灰色砂粒(中) 多量	
189	SR02	弥生土器 甕	口縁部40% 口径17.1cm	外：口縁端部退化凹線文, 体部 刷毛目 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 多量 黒色砂粒(小) 多量 赤色粒子(小) 微量	
190	SR02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径22.7cm	外：口縁端部凹線文 内：横ナデ	褐(7.5Y R4/1) +橙(7.5Y R7/6)	胎土1類 白色砂粒(中~大) 少量 黒色砂粒(小) 微量 灰色砂粒(大) 微量	
191	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径16.4cm	外：口縁端部竹管文(2個) 体 部ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ナデ, ヘラ削り	にぶい赤褐(5Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(中~大) 少量 黒色砂粒(小) 少量 灰色砂粒(中~大) 微量	
192	SR02	弥生土器 甕	口縁部25% 口径19.6cm	外：口縁端部凹線文, 口縁部横 ナデ, 体部ヘラ磨き 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ヘラ削り	褐(10Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 多量 黒色砂粒(小~中) 少量 灰色砂粒(大) 微量	
193	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径24.8cm	外：口縁端部凹線文, 体部ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 多量 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(小) 微量	
194	SR02	弥生土器 甕	口縁部30% 口径12.1cm	外：口縁端部退化凹線文, 体部 刷毛目 内：刷毛目, ナデ, ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 少量 茶色砂粒(中~大)少量 黒色砂粒(小) 少量	
195	SR02	弥生土器 甕	体部20% 口径17.0cm	外：口縁端部退化凹線文, 体部 タタキ, 刷毛目, 下部ヘラ 磨き 内：体部指押さえ, ナデ	外：にぶい褐 (7.5Y R5/4)~ 黒褐(7.5Y R3/1) 内：にぶい褐 (7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小) 微量 白色砂粒(小) 多量 黒色砂粒(小) 微量	
196	SR02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁端部退化凹線文 内：摩滅のため調整不明	橙(7/5Y R6/6)	胎土3類 透明砂粒(大)多量 白色砂粒(中) 多量 灰色砂粒(中) 少量	
197	SR02	弥生土器 甕	口縁部30% 口径12.3cm	外：口縁端部退化凹線文, 口縁 部横ナデ, 体部ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小) 少量 黒色砂粒(小) 少量	
198	SR02	弥生土器 甕	口縁部30% 口径15.9cm	外：体部刷毛目 内：口縁部横 ナデ, 体部指押さえ, 板ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小) 多量	
199	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径15.9cm	外：口縁部退化凹線文, 体部刷 毛目 内：口縁部横ナデ, 体部ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小) 少量 黒色砂粒(小) 多量 赤色粒子(小) 微量	
200	SR02	弥生土器 甕	体部30% 口径17.3cm	外：口縁端部退化凹線文, 体部 刷毛目, ヘラ磨き, ハケ状工具 による刻み目 内：口縁部横ナ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小~大) 少量 黒色砂粒(小) 多量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
				デ, 体部指押さえ, 刷毛目, ヘラ削り		灰色砂粒(小)微量	
201	SR02	弥生土器 甕	口縁部完存 口径19.2cm	外:口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内:口縁部横ナデ, 体部一部刷毛目, ヘラ削り	明赤褐(5Y R5/6)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小~中)微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)少量	
202	SR02	弥生土器 甕	口縁部75% 口径15.1cm	外:摩滅のため調整不明 内:体部指押さえ, ナデ	明赤褐(5Y R5/6)	胎土1類 白色砂粒(中~大)少量 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(小)微量	
203	SR02	弥生土器 甕	口縁部25% 口径12.4cm	外:横ナデ 内:横ナデ, 板ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中~大)微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)多量 赤色粒子(小)微量	
204	SR02	弥生土器 甕	口縁部30% 口径14.4cm	外:横ナデ 内:横ナデ, 体部ナデ	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)多量	外:煤付着
205	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径17.0cm	外:口縁部横ナデ, 体部タタキ 内:口縁部横ナデ, 体部指押さえ, ナデ	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)多量	
206	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径14.6cm	外:口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内:口縁部横ナデ, 体部指押さえ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(中)微量	
207	SR02	弥生土器 甕	体部40% 口径20.8cm	外:口縁部横ナデ, 体部刷毛目, 一部ヘラ磨き 内:口縁部横ナデ, 体部ヘラ削り, 刷毛目, 板ナデ	暗褐(7.5Y R3/4)	胎土1類 白色砂粒(中~大)少量 茶色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)多量	
208	SR02	弥生土器 甕	肩部20% 口径12.8cm	外:口縁部横ナデ, 体部摩滅のため調整不明 内:口縁部横ナデ, 体部指押さえ, ナデ	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中)微量	
209	SR02	弥生土器 甕	口縁部30% 口径12.2cm	外:口縁部横ナデ 内:口縁部横ナデ, 体部指押さえ, ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中~大)多量 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(小)微量	
210	SR02	弥生土器 甕	口縁部45% 口径16.0cm	外:口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内:口縁部刷毛目, 横ナデ, 体部ヘラ削り, ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(中~大)多量 雲母(小)少量 赤色粒子(小)微量	
211	SR02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径13.1cm	外:摩滅のため調整不明 内:指押さえ, ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(小)微量	
212	SR02	弥生土器 甕	底部80% 底径9.6cm	外:体部ヘラによる刻み目, 刷毛目, ヘラ磨き 内:体部指押さえ, ナデ, ヘラ削り, 底部指ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小~大)少量 茶色砂粒(中~大)少量 黒色砂粒(小~中)少量 灰色砂粒(中~大)少量	
213	SR02	弥生土器 甕	肩部25%	外:体部ヘラ磨き, 肩部刻み目 内:ナデ, ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
214	SR02	弥生土器 甕	肩部30%	外：肩部刷毛目、刻み目、体部 刷毛目、ヘラ磨き 内：指押さえ、刷毛目、板ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)多量 赤色粒子(小)微量	
215	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部80% 底径11.7cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ、一部ヘラ磨き	外：にぶい黄褐 (10Y R4/3) 内：黒(10Y R2/ 1)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小)微量	
216	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径9.8cm	外内：刷毛目	外：にぶい黄橙 (10Y R6/4) 内：褐灰(10Y R 4/1)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小)少量 花崗岩(中～大)微量	
217	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径7.4cm	外内：ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中)少量	
218	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部30% 底径11.3cm	外内：ヘラ磨き	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土3類 白色砂粒(中～大)多量 雲母(中)微量	
219	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径部9.7cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小)少量	
220	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径4.7cm	外：ナデ 内：指ナデ	外：にぶい橙 (7.5Y R7/4) 内：にぶい黄 (2.5Y 6/4)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(中)少量 赤色粒子(小)微量	
221	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径6.3cm	外：ヘラ磨き 内：板ナデ	灰黄褐(10Y R5 /2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)多量	
222	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径6.7cm	外内：摩滅のため調整不明	灰黄褐(10Y R5 /2)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
223	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径7.3cm	外：ナデ、指押さえ 内：ナデ	にぶい橙(7.5Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中)多量 赤色粒子(中)少量	
224	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径4.5cm	外内：ナデ	にぶい黄褐(10 Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
225	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部60% 底径8.9cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)多量 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(中～大)少量 赤色粒子(小)微量	
226	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径8.4cm	外：指押さえ, ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土3類 透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(小～中)多量 灰色砂粒(中～大)多量	
227	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径8.1cm	外：板ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土3類 透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～中)微量 灰色砂粒(小～中)少量	
228	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径9.0cm	外内：ナデ	外：にぶい橙 (7.5Y R6/4) 内：黒褐(2.5Y3 /1)	胎土3類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(小)多量 赤色粒子(中)微量	
229	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径7.5cm	外：刷毛目 内：ナデ, 指押さえ	灰白(10Y R8/ 2)	胎土3類 白色砂粒(大)多量 赤色粒子(小)微量	
230	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径6.2cm	外内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/3)	胎土3類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)多量 灰色砂粒(小)微量 赤色粒子(小)微量	
231	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部50% 底径9.0cm	外：摩滅のため調整不明 内：指押さえ, ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/3)～灰白 (10Y R7/1)	胎土3類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)多量	
232	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部80% 底径7.9cm	外内：ナデ	外：明赤褐(5Y R5/6) 内：にぶい黄橙 (10Y R6/4)	胎土3類 透明砂粒(中～大) 少量 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(中～大)多量	
233	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径8.2cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土3類 白色砂粒(中)微量 茶色砂粒(中)少量	
234	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部70% 底径6.4cm	外内：摩滅のため調整不明	黄灰(2.5Y 6/1)	胎土3類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～大)少量	
235	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部30% 底径9.2cm	外：ヘラ磨き 内：板ナデ	外：黒(7.5Y R2 /1) 内：にぶい黄橙 (10Y R6/3)	胎土3類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(小)多量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
236	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	体部50% 底径7.2cm	外：上半刷毛目, 下半ヘラ磨き 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
237	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部50% 底径7.7cm	外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(大)少量 黒色砂粒(小〜中)少量	
238	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径8.1cm	外：ヘラ磨き 内：板ナデ	褐(10Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小〜中)多量 赤色粒子(小)微量	
239	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部45% 底径7.7cm	外：摩滅のため調整不明 内：ヘラナデ	外：にぶい黄褐(10Y R5/3) 内：黒褐(10Y R3/1)	胎土1類 白色砂粒(小〜中)少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量	
240	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部35% 底径10.4cm	外：ヘラ磨き 内：板ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中〜大)少量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(大)微量	
241	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径6.3cm	外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)多量 赤色粒子(小〜中)微量	
242	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部70% 底径7.1cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小〜中)少量 黒色砂粒(小〜中)多量	
243	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径11.3cm	外内：ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中〜大)多量 黒色砂粒(小〜中)多量 赤色粒子(小)微量	
244	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径7.8cm	外内：板ナデ	外：にぶい黄褐(10Y R5/3) 内：黒褐(2.5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量	
245	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径7.6cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中〜大)少量 黒色砂粒(小〜中)少量	
246	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部90% 底径6.2cm	外：ナデ 内：指押さえ, ナデ	赤褐(2.5Y R4/6)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小〜中)微量 黒色砂粒(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
247	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径8.5cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	にぶい橙(7.5Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)少量	
248	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部95% 底径8.0cm	外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)多量	
249	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径6.8cm	外：ヘラ磨き 内：指押さえ、ナデ	赤褐(5Y R4/8)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)少量	
250	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部70% 底径7.4cm	外：ヘラ磨き、底部ヘラ磨き 内：ヘラ削り	外：暗褐(10Y R3/3) 内：黒(10Y R2/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
251	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部50% 底径9.0cm	底部焼成後穿孔 外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小～大)微量 赤色粒子(小)微量	
252	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径8.1cm	外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(中～大)微量 赤色粒子(小)微量	
253	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径9.3cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(中～大)少量	
254	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部50% 底径5.5cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)多量	
255	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部90% 底径5.0cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(大)微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)多量	
256	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部50% 底径5.3cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量	
257	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部45% 底径6.0cm	外：摩滅のため調整不明 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
258	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径5.4cm	外：指押さえ、ナデ 内：指押さえ、ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)微量 黑色砂粒(小)多量	
259	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部50% 底径5.7cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10 Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 茶色砂粒(小)多量 黑色砂粒(小)多量	
260	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径5.3cm	外：摩滅のため調整不明 内：指ナデ	赤褐(5Y R4/6)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黑色砂粒(小)多量	
261	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部35% 底径5.9cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10 Y R6/3)～明赤 褐(2.5Y R5/8)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(中)微量 黑色砂粒(小)微量	
262	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部40% 底径5.6cm	外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	外：にぶい黄褐 (10Y R5/3) 内：黒褐(10Y R 3/1)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黑色砂粒(小)少量	
263	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部20% 底径6.2cm	外：ナデ 内：指押さえ、ナデ	赤褐(2.5Y R4/ 8)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黑色砂粒(中)少量	
264	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部30% 底径6.7cm	外内：ナデ	暗灰黄(2.5Y 5/ 2)	胎土2類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(小)少量	
265	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存 底径7.8cm	外内：ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土3類 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(中)少量	
266	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部30% 底径5.8cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	外：灰黄褐(10Y R6/2) 内：褐灰(10Y R 4/1)	胎土2類 白色砂粒(中)少量	
267	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部25% 底径6.6cm	外内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/2)	胎土3類 白色砂粒(中)多量 灰色砂粒(中)少量	
268	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部50% 底径5.4cm	外内：摩滅のため調整不明	灰黄褐(10Y R5 /2)	胎土3類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)少量 灰色砂粒(中～大)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
269	SR02	弥生土器 壺または甕 (底部)	底部完存	外内：摩滅のため調整不明	灰黄褐(10Y R 6/2)	胎土 3類 白色砂粒 (大) 微量 茶色砂粒 (小～中) 少量 雲母 (中) 少量	
270	SR02	弥生土器 鉢	口縁部70% 口径26.1cm	外：口縁部凹線文，体部へラ磨き 内：口縁部横ナデ，体部へラ磨き	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土 1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒 (小～大) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量 赤色粒子 (小) 微量	
271	SR02	弥生土器 鉢	口縁部破片	外：口縁部沈線文 4条，へラ磨き 内：へラ磨き	赤褐(5Y R 4/6)	胎土 1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒 (小) 多量 赤色粒子 (小) 微量	内：水銀朱
272	SR02	弥生土器 鉢	口縁部破片	外：口縁部横ナデ，刷毛目 内：刷毛目	灰黄(2.5Y 6/2)	胎土 3類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒 (小) 少量 黒色砂粒 (小) 微量	
273	SR02	弥生土器 鉢	口縁部40% 口径14.5cm	頸部円孔 外：口縁部横ナデ，体部へラ磨き 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ，板ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土 1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒 (小～中) 少量 茶色砂粒 (小～中) 微量 黒色砂粒 (小～中) 少量 灰色砂粒 (小～中) 微量 赤色粒子 (小) 微量	
274	SR02	弥生土器 鉢	肩部45% 口径20.5cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土 1類 白色砂粒(小～大)少量 少量 黒色砂粒 (小) 多量 赤色粒子 (中) 少量	
275	SR02	弥生土器 鉢	体部30%	外：体部沈線文 2条，へラ磨き 内：指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土 1類 白色砂粒(小～大)少量 少量 黒色砂粒 (小) 多量	
276	SR02	弥生土器 鉢	口縁部完存 口径15.6cm 器高9.4cm 底径4.8cm	外内：へラ磨き	にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土 1類 白色砂粒 (小～大) 多量 茶色砂粒 (小) 微量 黒色砂粒 (小) 少量	
277	SR02	弥生土器 鉢	口縁部95% 口径14.6cm 器高8.0cm 底径4.1cm	外内：指押さえ，ナデ	にぶい黄褐(10Y R 5/4)	胎土 1類 白色砂粒 (中～大) 微量 茶色砂粒 (小～大) 少量 黒色砂粒 (小) 少量	
278	SR02	弥生土器 鉢	底部完存 底径10.5cm	外内：へラ磨き	外：にぶい褐(7.5Y R 5/4) 内：赤(10R 5/6)	胎土 1類 白色砂粒 (小) 少量 黒色砂粒 (小) 多量	外内：水銀朱
279	SR02	弥生土器 鉢	底部20% 底径11.9cm	外：へラ磨き 内：刷毛目，へラ磨き	にぶい黄橙(10Y R 6/3)	胎土 3類 透明砂粒(小～中)多量 白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒 (小) 少量	
280	SR02	弥生土器 鉢	底部完存 底径3.1cm	外内：へラ磨き	にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土 1類 白色砂粒 (中～大) 少量 黒色砂粒 (小) 微量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
281	SR02	弥生土器 鉢		外：把手指押さえ、指ナデ、体部へラ磨き 内：へラ磨き	外：にぶい黄褐(10Y R5/4)～赤(10R4/8) 内：赤(10R4/8)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)多量	外：煤付着 内：水銀朱
282	SR02	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径39.6cm	外：口縁部凹線文2条、杯部凹線文3条 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(中)多量 雲母(中)微量 赤色粒子(中)少量	
283	SR02	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径23.8cm	外内：口縁部横ナデ、体部へラ磨き	にぶい橙(7.5Y R6/4)+にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量 赤色粒子(小)微量	
284	SR02	弥生土器 高杯	口縁部60% 口径17.4cm	外：口縁部横ナデ、体部指押さえ、へラ磨き 内：口縁部指押さえ、体部摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小)微量	
285	SR02	弥生土器 高杯	口縁部30% 口径26.7cm	外内：口縁部横ナデ、体部へラ磨き	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)多量 灰色砂粒(大)微量 赤色粒子(小)微量	
286	SR02	弥生土器 高杯	口縁部20% 口径22.5cm	外：口縁部横ナデ、体部へラ磨き 内：摩滅のため調整不明	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小)少量	
287	SR02	弥生土器 高杯	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
288	SR02	弥生土器 高杯	口縁部完存 口径13.2cm 器高12.2cm 底径10.1cm	円孔(2個、3カ所) 外：口縁横ナデ、竹管文(3個、4カ所)体部～脚部へラ磨き 内：杯部横ナデ、へラ磨き、脚部絞り目、ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小)多量 雲母(中)微量 赤色粒子(小)微量	
289	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存 器高17.9cm 底径13.8cm	円孔(上下3カ所ずつ) 外：杯部指押さえ、へラ磨き、脚部刷毛目、ナデ 内：杯部へラ磨き、脚部へラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
290	SR02	弥生土器 高杯	杯部40% 口径33.4cm	外内：口縁部横ナデ、体部へラ磨き	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)多量	
291	SR02	弥生土器 高杯	口縁部45% 口径20.9cm	外：口縁部横ナデ、体部へラ磨き 内：へラ磨き	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
292	SR02	弥生土器 高杯	口縁部30% 口径20.4cm	外：横ナデ 内：摩滅のため調整不明	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
293	SR02	弥生土器 高杯	口縁部40% 口径26.3cm	外内：摩滅のため調整不明	赤褐(5Y R 4/6)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)微量	
294	SR02	弥生土器 高杯	杯部20%	外：刷毛目, ナデ 内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10 Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(小～中)微量	
295	SR02	弥生土器 高杯	口縁部30% 口径27.2cm	外：ナデ 内：ヘラ磨き	外：明赤褐(2.5 Y R 5/6) 内：にぶい黄橙 (10Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(小)微量	
296	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存	外：ヘラ磨き 内：摩滅のため調整不明	赤(10R 4/6) 脚部内面：にぶ い褐(7.5Y R 5/ 4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	外：ベン ガラ 内：一部 ベンガラ 残る
297	SR02	弥生土器 高杯	杯部50%	杯部円形充填 外内：ヘラ磨き	にぶい黄橙(10 Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(小)少量	
298	SR02	弥生土器 高杯	脚部70% 底径9.7cm	透かし(三角形, 12カ所) 外：ヘラ磨き, 沈線文 内：ナデ	外：橙(5Y R 6/8) 内：明赤褐(2.5 Y R 5/8)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小)微量	
299	SR02	弥生土器 高杯	脚部15% 底径14.7cm	円孔(上下2カ所) 外：摩滅のため調整不明, 凹線文 内：ヘラ削り	にぶい赤褐(5Y R 4/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)多量	
300	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存 底径11.4cm	外：ヘラ磨き, ヘラによる沈線 文4条, 刺突(5ないし7 個, 4カ所) 内：杯部ヘラ磨き, 脚部ヘラ削り	にぶい褐(7.5Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 多量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(中～大)多量 赤色粒子(小)微量	
301	SR02	弥生土器 高杯	底部45% 底径13.4cm	円孔二段 外：上半部摩滅のため調整不明 下半部横ナデ, 凹線文2条 内：ヘラ削り, 刷毛目	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 少量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(大)少量 雲母(小)微量 赤色粒子(小)微量	
302	SR02	弥生土器 高杯	脚部40% 底径12.3cm	円孔(2個, 3カ所) 外：ヘラ磨き 内：指押さえ, 横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(大)微量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小)多量 赤色粒子(中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
303	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存 底径16.2cm	円孔(2個, 3カ所) 外: 摩滅のため調整不明 内: 絞り目, 指押さえ, ナデ	にぶい黄橙(10 Y R 6/4)	胎土1類 白色砂粒(中)多量 黒色砂粒(中)多量 赤色粒子(小)少量	
304	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存	円孔(5カ所) 外: ヘラ磨き 内: 杯部ヘラ磨き, 脚部ヘラ削り	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(中~大)少量 黒色砂粒(小)多量	
305	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存	外: ヘラ磨き 内: 杯部ヘラ磨き, 脚部絞り目, 指ナデ	にぶい黄橙(10 Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(中~大) 少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量	
306	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存	外: ヘラ磨き 内: 刷毛目, 指押さえ, ナデ	灰黄褐(10Y R 4 /2)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
307	SR02	弥生土器 高杯	脚部完存 底径5.6cm	円孔(前方1個, 後方3個) 外: ヘラ磨き 内: ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 多量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)少量	
308	SR02	弥生土器 高杯	底部完存 底径16.2cm	円孔(2個, 3カ所) 外: 脚部ヘラ磨き, 裾部ナデ 内: ヘラナデ	にぶい黄橙(10 Y R 6/3)	胎土1類 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(小~中)微量	
309	SR02	弥生土器 器台	底部40% 底径14.2cm	円孔 外: ヘラ磨き, 凹線文3条 内: ヘラナデ	灰黄褐(10Y R 4 /2)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)多量 雲母(小)微量	
310	SR02	弥生土器 器台	口縁部完存 口径20.4cm 器高14.6cm 底径17.3cm	方形透し(4カ所) 外: 口縁部凹線文刻み目(4カ 所), ナデ, ヘラ磨き, 脚部凹線文 内: ヘラ磨き, ヘラ削り	明赤褐(5Y R 5/ 6)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(中)微量	
311	SR02	弥生土器 器台	完形 口径17.4cm 器高12.7cm 底径15.3cm	透かし(方形4カ所) 外: 口縁部ヘラ状工具による 刺突(8~12本, 3カ所), 体部 刷毛目, ナデ, 凹線文2条 内: ヘラ磨き, ヘラナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~大)少量 茶色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
312	SR02	弥生土器 器台	脚部60% 底径12.1cm	円孔(上下4カ所ずつ交互) 外: ヘラ磨き, 凹線文 内: ナデ, ヘラ削り	にぶい褐(7.5Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(中~大)多量 黒色砂粒(小)多量	
313	SR02	弥生土器 ミニチ ュア壺	体部45% 底径3.6cm	外: 体部ナデ, 竹管文(4個, 4カ所), ヘラ磨き 内: 指押さえ, 板ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 茶色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
314	SR02	弥生土器 ミニチ ュア壺	底部完存 底径3.5cm	外: ヘラ磨き 内: 指押さえ, ヘラ磨き	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
315	SR02	弥生土器 ミニチ ュア鉢	底部45% 底径3.5cm	外内: ナデ	外: にぶい黄褐 (10Y R 5/3) 内: 黒褐(10Y R 3/1)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量 雲母(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
316	SR02	弥生土器 ミニチュア鉢	口縁部50% 口径4.4cm 器高3.7cm 底径2.6cm	外：へら磨き 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)少量	
317	SR02	弥生土器 ミニチュア鉢	体部55% 口径3.8cm 器高5.2cm 底径2.9cm	手捏 外：指押さえ 内：絞り目、指押さえ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量	
318	SR02	弥生土器 ミニチュア鉢	ほぼ完形 口径7.2cm 器高5.5cm	外：指押さえ、へら磨き、底部 指押さえ 内：指押さえ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)少量	
319	SR02	弥生土器 ミニチュア鉢	体部80% 底径2.7cm	外：へら磨き 内：ナデ、へら磨き	褐灰(10Y R4/ 1)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)多量	
320	SR02	弥生土器 ミニチュア高杯	脚部完存 底径9.5cm	円孔(2個、4カ所) 外：へら磨き、下半部横ナデ 内：杯部へら磨き、脚部ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中)微量	
321	SR02	弥生土器 ミニチュア高杯	脚部完存 底径4.9cm	外：へら磨き、裾部ナデ 内：杯部へら磨き、脚部ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)少量	
350	SR03	弥生土器 壺	口縁部10% 口径21.0cm	外内：ナデ	浅黄(2.5Y7/3) +にぶい黄(2.5 Y6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)微量	
351	SR03	弥生土器 壺	口縁部15% 口径17.0cm	外：摩滅のため調整不明、刷毛目 内：ナデ、摩滅のため調整不明	黄褐(2.5Y5/3)	胎土1類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
352	SR03	弥生土器 壺	口縁部5% 口径12.7cm	外：ナデ、刷毛目 内：ナデ、へら削り	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(小～中) 微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～大)微量	
353	SR03	弥生土器 壺	口縁部10% 口径13.0cm	外：口縁部凹線文 内：口縁部横ナデ、体部指ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/2)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)微量	
354	SR03	弥生土器 壺	口縁部10% 口径13.7cm	外：口縁部凹線文2条、体部刷 毛目 内：口縁部横ナデ、体部刷毛目	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
355	SR03	弥生土器 壺	口縁部15% 口径14.1cm	外：口縁部凹線文、体部刷毛目 内：口縁部横ナデ、体部ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 少量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小～中)微量	
356	SR03	弥生土器 壺	口縁部20% 口径14.8cm	外：口縁部凹線文、体部ナデ 内：口縁部横ナデ、体部ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	胎土3類 透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
357	SR03	弥生土器 甕	体部40%	外：刷毛目 内：板ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3~6/4)	胎土1類 透明砂粒(小~大) 微量 白色砂粒(中~大)少量 黒色砂粒(小~大)微量 赤色粒子(小~大)微量	
358	SR03	弥生土器 甕	口縁部20% 口径18.6cm	外：口縁部凹線文, 体部刷毛目 内：横ナデ, 指押さえ	褐(10Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小~中)少量	
359	SR03	弥生土器 甕	口縁部20% 口径15.0cm	外：口縁部凹線文, 体部ヘラ磨き 内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3~4/3)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小~中)微量	
360	SR03	弥生土器 甕	口縁部10% 口径15.0cm	外：口縁部凹線文 内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
361	SR03	弥生土器 甕	口縁部10% 口径16.0cm	外：口縁部凹線文3条, 体部刷毛目 内：口縁部横ナデ, 体部指押さえ, ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)微量	
362	SR03	弥生土器 甕	口縁部5% 口径19.2cm	外：口縁部凹線文, 体部ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部ヘラ削り	にぶい黄橙(10 Y R7/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小~大)少量 茶色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(大)微量	
363	SR03	弥生土器 甕	口縁部35% 口径11.0cm	外内：口縁部横ナデ, 体部刷毛目	にぶい黄褐(10 Y R5/3)+オリ ープ黒(5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小~中)少量	
364	SR03	弥生土器 高杯	口縁部破片	外：指押さえ, 横ナデ 内：ヘラ磨き	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小~大)微量 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
365	SR03	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径24.7cm	外：口縁部凹線文3条, 体部ナデ 内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
366	SR03	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径26.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
367	SR03	弥生土器 高杯	底部20% 底径14.9cm	円孔 外：横ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3~6/4)	胎土1類 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
368	SR03	弥生土器 高杯	底部20% 底径14.2cm	外：横ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)微量	
369	SR03	弥生土器 高杯	底部10% 底径15.2cm	円孔 外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
370	SR03	弥生土器 器台	口縁部10% 口径31.0cm	外：凹線文，竹管文 内：横ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
371	SR03	弥生土器 器台	底部10% 底径28.0cm	方形透し 外：横ナデ 内：へら削り，ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)微量	
372	SR03	弥生土器 (底部)	底部25% 底径7.4cm	外内：刷毛目	灰黄(2.5Y7/2)	胎土3類 白色砂粒(小～中)微量	
373	SR03	弥生土器 (底部)	底部20% 底径5.8cm	外内：ナデ	外：黄灰(2.5Y4/1)+にぶい黄褐(10YR5/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(小)微量 黑色砂粒(小～大)少量	
374	SR03	弥生土器 (底部)	底部10% 底径8.2cm	外：へら磨き 内：板ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)+黄灰(2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
375	SR03	弥生土器 (底部)	底部15% 底径4.7cm	外内：ナデ	外：にぶい黄橙(10YR6/4)+黒褐(2.5Y3/1) 内：オリブ黒(5Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)微量 黑色砂粒(小～中)多量	
376	SR03	弥生土器 壺	口縁部10% 口径12.9cm	外：口縁部横ナデ，頸部刷毛目，沈線 内：横ナデ，指ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
377	SR03	弥生土器 壺	口縁部15% 口径11.6cm	外：横ナデ 内：横ナデ，指押さえ	暗灰黄(2.5Y5/2～4/2)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
378	SR03	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：竹管文	暗灰黄(2.5Y5/2)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)微量	
379	SR03	弥生土器 甕	口縁部10% 口径17.7cm	外内：横ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
380	SR03	弥生土器 甕	口縁部15% 口径13.6cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3～5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)微量	
381	SR03	弥生土器 甕	体部破片	外内：ナデ	褐(10YR4/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)多量	
382	SR03	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径35.3cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黑色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
383	SR03	弥生土器 高杯	底面80% 底径8.9cm	円孔(2個1単位, 4カ所) 外: ナデ 内: 横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 4/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
391	SR03	弥生土器 壺	口縁部25% 口径12.8cm	外: 横ナデ, ヘラ状工具による 斜格子文 内: 摩滅のため調整不明	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 透明砂粒(小~大)少量 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小~中)少量	
392	SR03	弥生土器 壺	口縁部25% 口径11.0cm	外: 口縁部横ナデ, 頸部刷毛目, ヘラ状工具による斜格子文 内: 横ナデ, 指押さえ	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 少量 黒色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(中)微量	
393	SR03	弥生土器 壺	口縁部20% 口径11.9cm	外: 口縁部横ナデ, 竹管文, 頸 部刷毛目 内: 横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)+灰黄 褐(10Y R 6/2)	胎土1類 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)微量	
394	SR03	弥生土器 壺	口縁部20% 口径15.0cm	外: 口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内: 口縁部刷毛目, 体部ナデ	灰黄(2.5Y 6/2)	胎土1類 透明砂粒(小~大) 少量 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(小~大)微量	
405	SR04	弥生土器 壺	口縁ほぼ完存 口径27.8cm	外: 口縁部凹線文2条, 口縁 部横ナデ 内: 横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/3~5/4)	胎土3類 白色砂粒(小~大)多量 赤色粒子(中~大)微量	
406	SR04	弥生土器 壺	口縁部10% 口径23.0cm	外内: 横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/4)	胎土1類 透明砂粒(中~大) 微量 白色砂粒(中~大)多量 黒色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(小)微量	
407	SR04	弥生土器 壺	口縁部50% 口径22.7cm	外: 口縁部凹線文4条, ヘラ状 工具による刻み目, 口頸部横ナデ 内: ナデ	外内: 明赤褐(5 Y R 5/6) 断: 褐 灰(10Y R 6/1)	胎土1類 透明砂粒(小~大)多量 白色砂粒(小~大)多量	
408	SR04	弥生土器 壺	口縁部50% 口径19.8cm	外: 口縁部竹管文, 円形浮 文, 斜めのヘラ描き 内: 横ナデ, 指押さえ	褐灰(10Y R 4/ 1)+にぶい黄橙 (10Y R 6/2)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 少量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(中)微量 雲母(小)微量	
409	SR04	弥生土器 壺	口縁部80% 口径15.5cm	外: 口縁部円形浮文, 口頸部 ヘラ磨き 内: 横ナデ, 指押さえ	灰黄(2.5Y 6/2) +にぶい黄(2.5 Y 6/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小~大)微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量	
410	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径14.0cm	外: 口縁部円形浮文, 口頸部 横ナデ 内: 櫛描波状文, 横ナデ	にぶい褐(7.5Y R 5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
411	SR04	弥生土器 壺	口縁部20% 口径16.0cm	外: 口縁部円形浮文, 口頸部 横ナデ 内: 横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R 6/4)	胎土1類 透明砂粒(小~中) 少量 白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(大)微量	
412	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径13.6cm	外: 口縁部凹線文2条, 円形 浮文, 口頸部刷毛目 内: 横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小~中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
413	SR04	弥生土器 壺	口縁部20% 口径11.9cm	外：口縁端部円形浮文，頸部刷毛目，ヘラ状工具による刻み目 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
414	SR04	弥生土器 壺	口縁部25% 口径15.0cm	外：口縁端部凹線文2条，口頸部板ナデ 内：口頸部指押さえ，横ナデ，体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)少量	
415	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径17.0cm	外：口縁端部凹線文，口頸部横ナデ 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R 5/4)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
416	SR04	弥生土器 壺	口縁部60% 口径11.6cm	外：口縁端部凹線文1条，口頸部横ナデ 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/3)+にぶい黄褐(10Y R 5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)少量	
417	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径17.1cm	外：口縁端部凹線文，頸部刷毛目 内：口縁部横ナデ，頸部指押さえ，ヘラ削り	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
418	SR04	弥生土器 壺	口縁部5% 口径15.3cm	外：刷毛目，横ナデ 内：口縁部横ナデ，頸部指押さえ，ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
419	SR04	弥生土器 壺	口縁部25% 口径11.7cm	外：口縁部横ナデ，頸部刷毛目 内：横ナデ	黄灰(2.5Y 4/1)+灰黄(2.5Y 6/2)+黒(N2/)	胎土3類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)微量	
420	SR04	弥生土器 壺	口縁部20% 口径17.0cm	外：口縁端部凹線文，口頸部刷毛目 内：口頸部横ナデ，体部ヘラ削り	外内：にぶい黄褐(10Y R 5/3)+にぶい黄(2.5Y 6/3) 断：灰(5Y 4/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
421	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径13.8cm	外：沈線6条，斜めのヘラ描き文 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R 4/3～5/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
422	SR04	弥生土器 壺	口縁部20% 口径11.4cm	外：刷毛目，沈線7条 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R 7/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)少量	
423	SR04	弥生土器 壺	口縁部30% 口径18.0cm	外：沈線6条 内：横ナデ	外内：明赤褐(5Y R 5/6)+黒褐(10Y R 3/2) 断：灰(5Y 4/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小)微量	
424	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径11.6cm	外：刷毛目，沈線7条，櫛状工具による斜めの列点文 内：横ナデ，指押さえ	にぶい黄橙(10Y R 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)少量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
425	SR04	弥生土器 壺	口縁部40% 口径11.8cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ、指押さえ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～中)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
426	SR04	弥生土器 壺	口縁部25% 口径15.6cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
427	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径12.5cm	外内：横ナデ	外内：にぶい黄 褐(10Y R5/4) 断：黄灰(2.5Y4 /1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
428	SR04	弥生土器 壺	口縁部15% 口径13.5cm	外：口縁端部竹管文、口頸部横 ナデ 内：横ナデ	外内：黄(2.5Y8 /3) 断：灰(5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
429	SR04	弥生土器 壺	口縁部10% 口径11.5cm	外：口縁端部沈線3条、口頸部 沈線9条 内：横ナデ、指ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～大)多量 黑色砂粒(小～中)少量	
430	SR04	弥生土器 壺	口縁部20% 口径11.8cm	外：口縁端部沈線文2条、竹管 文、口頸部横ナデ 内：横ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +黄灰(2.5Y4/ 1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小)少量	
431	SR04	弥生土器 壺	口縁部10% 口径8.0cm	外：横ナデ 内：指押さえ、刷毛目	灰黄(2.5Y6/2) +オリーブ黒(5 Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
432	SR04	弥生土器 (口縁部)	口縁部10% 口径35.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～大)少量	
433	SR04	弥生土器 甕	口縁部破片	外：口縁端部凹線文2条、体部 刷毛目 内：口縁部横ナデ、体 部指押さえ、ナデ	灰黄褐(10Y R4 /2)+にぶい黄 褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 多量 黑色砂粒(小)少量 角閃石(小)多量	
434	SR04	弥生土器 甕	口縁部25% 口径24.0cm	外：口縁端部凹線文、体部刷毛 目、ヘラ磨き 内：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り	外内：にぶい黄 橙(10Y R6/3) 断：褐灰(10Y R 5/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
435	SR04	弥生土器 甕	口縁部25% 口径17.2cm	外：口縁端部凹線文、体部刷毛目 内：口縁部横ナデ、体部指ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大) 少量 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小)少量	
436	SR04	弥生土器 甕	口縁部20% 口径14.0cm	外：口縁端部凹線文3条、体部 刷毛目 内：口縁端部横ナデ、体部指押 さえ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小～中) 微量 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小)多量 赤色粒子(小～中)微量	
437	SR04	弥生土器 甕	口縁部15% 口径18.6cm	外：口縁端部凹線文2条、体部 ナデ 内：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(大)微量 黑色砂粒(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
438	SR04	弥生土器 甕	口縁部15% 口径11.7cm	外：口縁端部凹線文1条，体部 刷毛目 内：口縁部横ナデ，体 部指押さえ，ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)+灰黄褐 (10Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黑色砂粒(小)微量	
439	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径15.6cm	外：口縁端部凹線文，体部ナデ 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(大)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
440	SR04	弥生土器 甕	口縁部5% 口径12.7cm	外：口縁端部凹線文1条，体部 刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
441	SR04	弥生土器 甕	口縁部15% 口径16.0cm	外：口縁端部凹線文ナデ，体部 ナデ 内：口縁部横ナデ，体部 指押さえ，ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3～5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黑色砂粒(小～中)多量	
442	SR04	弥生土器 甕	口縁部25% 口径15.0cm	外：口縁端部凹線文，体部摩滅 のため調整不明 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
443	SR04	弥生土器 甕	口縁部20% 口径12.0cm	外：口縁端部凹線文2条，体部 刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黑色砂粒(小)少量	
444	SR04	弥生土器 甕	口縁部40% 口径14.2cm	外：口縁端部凹線文2条，体部 刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	明黄褐(10Y R7/ 6～6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
445	SR04	弥生土器 甕	口縁部20% 口径17.0cm	外：口縁部凹線文，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ	外内：暗灰黄(2.5 Y5/2)+にぶい 黄褐(10Y R5/3) 断：黄灰(2.5Y5/ 1～4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
446	SR04	弥生土器 甕	口縁部20% 口径15.8cm	外：口縁端部凹線文 内：口縁部横ナデ，体部刷毛目， 指押さえ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黑色砂粒(小)少量	
447	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径14.0cm	外：口縁端部凹線文，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+オリー ブ黒(5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黑色砂粒(小～大)少量	
448	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径16.1cm	外：口縁端部，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
449	SR04	弥生土器 甕	口縁部25% 口径13.8cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3～6/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)微量	
450	SR04	弥生土器 甕	口縁部50% 口径14.9cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+オリー ブ黒(5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
451	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径15cm	外：口縁部横ナデ，体部摩滅のため調整不明 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	にぶい黄橙(10Y R7/4)+褐(7.5 Y R4/4)	胎土1類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(中～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)少量	
452	SR04	弥生土器 甕	口縁部40% 口径16.6cm	外：口縁部凹線文，体部ナデ 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+にぶい黄橙(10Y R6/3)+褐灰(10Y R4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
453	SR04	弥生土器 甕	口縁部15% 口径12.1cm	外：口縁部凹線2条，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部へら削り	にぶい黄橙(10Y R7/3)+にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
454	SR04	弥生土器 甕	口縁部15% 口径11.5cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ，板ナデ	外：オリーブ黒(5 Y3/1)+にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
455	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+にぶい褐(7.5Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小～中)微量	
456	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径9.2cm	外：口縁部凹線文，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ，へら削り	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
457	SR04	弥生土器 甕	口縁部70% 口径11.3cm	外：口縁部凹線文3条，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
458	SR04	弥生土器 壺	口縁部10% 口径16.0cm	外：横ナデ 内：横ナデ，指押さえ	黄褐(2.5Y5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量	
459	SR04	弥生土器 甕	口縁部30% 口径15.8cm	外：口縁部横ナデ，体部板ナデ 内：口縁部横ナデ，体部へら削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黑色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
460	SR04	弥生土器 甕	口縁部35% 口径15.0cm	外：口縁部凹線文 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～中)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
461	SR04	弥生土器 甕	口縁部45% 口径14.0cm	外：口縁部凹線文2条 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ，横方向の刷毛目	外：にぶい黄褐(10Y R5/3) 内：オリーブ黒(5 Y3/1)+にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黑色砂粒(小～中)少量	
462	SR04	弥生土器 甕	口縁部40% 口径13.9cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：横ナデ，体部へら削り，指押さえ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+にぶい黄褐(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黑色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
463	SR04	弥生土器	口縁部10%	外：口縁部凹線文，体部刷毛目	浅黄(2.5Y7/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
		甕	口径10.8cm	内：口縁部横ナデ，体部指ナデ		微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
464	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.7cm	外：口縁部横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ	灰黄褐(10Y R4/2)+にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
465	SR04	弥生土器 甕	口縁部25% 口径11.4cm	外：口縁部凹線文1条，体部ナデ 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	灰黄褐(10Y R4/2)+黄灰(2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
466	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.5cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ	灰黄(2.5Y6/2)+黄灰(2.5Y6/1)+にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)微量	
467	SR04	弥生土器 甕	口縁部15% 口径15.8cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
468	SR04	弥生土器 甕	口縁部20% 口径15.7cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目，板ナデ 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
469	SR04	弥生土器 甕	口縁部30% 口径11.3cm	外：口縁部横ナデ，体部タタキ，刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部へら削り	浅黄橙(7.5Y R8/6)	胎土3類 白色砂粒(小～中)微量 灰色砂粒(小～中)少量	
470	SR04	弥生土器 甕	口縁部10% 口径10.5cm	円孔 外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
471	SR04	弥生土器 (底部)	底部完存 底径6.0cm	外内：刷毛目，指ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
472	SR04	弥生土器 (底部)	底部75% 底径5.0cm	外：刷毛目，ナデ 内：指押さえ	外：にぶい黄(2.5Y6/3) 内断：オリブ黒(5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)少量	
473	SR04	弥生土器 (底部)	底部完存 底径6.5cm	外：刷毛目 内：板ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	胎土3類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
474	SR04	弥生土器 (底部)	底部75% 底径7.2cm	外：へら磨き 内：板ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+暗灰(N3/)	胎土1類 透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～大)微量	
475	SR04	弥生土器 (底部)	底部ほぼ完存 底径6.6cm	外：へら磨き 内：へら削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)+灰(5Y4/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
						黒色砂粒 (小～中) 多量	
476	SR04	弥生土器 (底部)	底部完存 底径7.8cm	外：ナデ 内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R7/4)+黒(N2 /)	胎土3類 透明砂粒 (小～大) 多量 白色砂粒 (小～大) 少量	
477	SR04	弥生土器 (底部)	底部完存 底径7.0cm	外：ナデ 内：板ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /3)+オリーブ黒(5Y3/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子 (小) 微量	
478	SR04	弥生土器 (底部)	底部70% 底径6.7cm	外内：板ナデ	外：灰黄褐(10Y R4/2)+にぶい赤褐(5Y R5/4) 内：にぶい黄褐(10Y R5/4) 断：黄灰(2.5Y4/1)	胎土1類 透明砂粒 (小) 少量 白色砂粒 (小～大) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
479	SR04	弥生土器 (底部)	底部完存 底径9.3cm	外：へら磨き 内：指押さえ	外内：にぶい黄褐(10Y R5/3)+オリーブ黒(5Y3/1) 断：黄灰(2.5Y4/1)	胎土1類 透明砂粒 (中～大) 少量 白色砂粒 (小～大) 多量 黒色砂粒 (小) 少量 赤色粒子 (小～中) 微量	
480	SR04	弥生土器 (底部)	底部50% 底径5.6cm	外：板ナデ 内：指押さえ, ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	胎土1類 白色砂粒 (小～中) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
481	SR04	弥生土器 (底部)	底部20% 底径6.3cm	外：へら磨き 内：刷毛目	灰(5Y4/1)+灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒 (中～大) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
482	SR04	弥生土器 (底部)	底部35% 底径5.4cm	外：刷毛目 内：ナデ	外：黄灰(2.5Y4/1)+黒(N21) 内：にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒 (中～大) 微量 茶色砂粒 (大) 微量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
483	SR04	弥生土器 (底部)	底部完存 底径7.0cm	外内：ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+黄灰(2.5Y5/1～4/1)	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 少量 黒色砂粒 (小) 少量	
484	SR04	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径34.0cm	外内：口縁部横ナデ, 体部へら磨き	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒 (中～大) 少量 茶色砂粒 (小～中) 微量 黒色砂粒 (小～中) 少量 赤色粒子 (小～中) 微量	
485	SR04	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径28.7cm	外：口縁部端部凹線文3条, 体部へら磨き 内：口縁部横ナデ, 体部へら磨き	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子 (大) 微量	
486	SR04	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径29.7cm	外：口縁部横ナデ, 体部へら磨き 内：横ナデ	にぶい褐(7.5Y R6/3～5/3)	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 微量 黒色砂粒 (小～中) 微量	
487	SR04	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径22.9cm	外内：口縁部横ナデ, 体部へら磨き	にぶい黄橙(10Y R6/3)+黄灰	胎土1類 白色砂粒 (小) 微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
					(2.5Y6/2)	黒色砂粒(小～中)多量	
488	SR04	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径21.0cm	外：口縁端部凹線文3条，体部 へら磨き 内：口縁部横ナデ，体部へら磨き	にぶい橙(7.5Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(中～大)微量	
489	SR04	弥生土器 高杯	脚部40% 底径12.4cm	外内：ナデ	にぶい黄褐(10Y R4/3)+にぶい 黄橙(10Y R7/3)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 少量 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
490	SR04	弥生土器 高杯	底部60% 底径12.2cm	外：へら磨き 内：体部ナデ，脚部指ナデ	灰黄(2.5Y7/2～ 6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
491	SR04	弥生土器 高杯	脚部60% 底径9.0cm	円孔(3個1単位，2カ所) 外内：ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	胎土3類 透明砂粒(中～大) 微量 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)微量 雲母(小)微量 赤色粒子(小～中)微量	
492	SR04	弥生土器 高杯	脚部10% 底径8.0cm	外：指ナデ 内：横ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 微量 黒色砂粒(小)少量	
493	SR04	弥生土器 高杯	脚部ほぼ完形 底径9.5cm	円孔(2個1単位，上段3カ所 下段4カ所) 外：刷毛目 内：ナデ，刷毛目	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 微量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
494	SR04	弥生土器 高杯	底部40% 底径15.0cm	円孔 外：横ナデ 内：へら削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土3類 透明砂粒(小～大) 微量 白色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小)微量	
495	SR04	弥生土器 高杯	底部80% 底径13.2cm	円孔 外：脚部横ナデ，凹線文 内：へら削り	にぶい黄褐(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)少量	
496	SR04	弥生土器 高杯	脚部15% 底径13.7cm	外：ナデ 内：へら削り	外内：にぶい黄橙 (10Y R6/4) 断：オリブ黒(5 Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
497	SR04	弥生土器 高杯	底部25% 底径14.2cm	円孔 外内：ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
498	SR04	弥生土器 高杯	底部30% 底径14.0cm	円孔(2個1単位) 外：横ナデ 内：へら削り	外内：黄褐(2.5Y 5/3)断：黄灰(2.5 Y4/1)	胎土1類 透明砂粒(小～大) 少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)少量	
499	SR04	弥生土器 高杯	底部60% 底径11.2cm	円孔 外：凹線文2条，ナデ 内：へら削り	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
500	SR04	弥生土器 高杯	杯部破片	外内：ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3) 朱：橙(2.5	胎土1類 白色砂粒(小～中) 微量 黒色砂粒(小～中)少量	ベンガラ

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
					Y R6/6)	赤色粒子 (小) 微量	
501	SR04	弥生土器 鉢	口縁部5% 口径47.6cm	外：口縁部横ナデ，体部指押さ え，ナデ 内：口縁部横ナデ，体部へら削 り，へら磨き	外断：にぶい黄橙 (10Y R6/4) 内：オリーブ黒(5 Y3/1)	胎土1類 白色砂粒 (小～中) 微量 黒色砂粒 (小～中) 多量	
502	SR04	弥生土器 鉢	口縁部5% 口径20.0cm	外：横ナデ，体部へら磨き，刷 毛目 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	外：にぶい黄橙 (10Y R7/4) 内断：黄灰(2.5Y 4/1)	胎土1類 白色砂粒 (小～中) 微量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
503	SR04	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径26.6cm	外：横ナデ，へら磨き 内：板ナデ	外断：浅黄(2.5Y 7/3) 内：灰(5Y4 /1)+オリーブ黒 (5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
504	SR04	弥生土器 鉢	口縁部20% 口径18.8cm	外：横ナデ，刷毛目 内：ナデ，指押さえ	黄灰(2.5Y5/1～ 4/1)+暗灰黄 (2.5Y5/2)	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 微量 茶色砂粒 (中～大) 微量 黒色砂粒 (小～中) 微量	
505	SR04	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径19.1cm	外：横ナデ 内：横ナデ，板ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒 (小～中) 少量 黒色砂粒 (小～中) 多量	
506	SR04	弥生土器 製塩土器 (底部)	底部70% 底径6.6cm	外：指押さえ，ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒 (中～大) 少量 黒色砂粒 (小) 少量 赤色粒子 (小) 少量	
507	SR04	弥生土器 器台	脚径90% 底径11.9cm	外：へら磨き 内：横ナデ，指ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 少量 茶色砂粒(中) 微量 黒色砂粒 (小～中) 少量 赤色粒子 (小) 微量	
508	SR04	弥生土器 高杯	底部35% 底径10.5cm	外：板ナデ 内：ナデ，指押さえ	にぶい黄橙(10Y R6/3)+灰黄(2.5 Y6/2) オリーブ 黒(5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒 (小) 少量 黒色砂粒 (小) 少量	
509	SR04	弥生土器 高杯	底部50% 底径9.3cm	円孔 外：ナデ 内：へら削り	にぶい黄褐(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒 (小～中) 少量 黒色砂粒 (小) 少量	
510	SR04	弥生土器 器台	口縁部40% 口径27.8cm	円孔 外：口縁端部竹管文，体部刷毛目 内：櫛歯波状文，指ナデ，指押さえ	にぶい黄(2.5Y6 /3～6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 少量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子 (小) 少量	
511	SR04	弥生土器 器台	口縁部80% 口径15.4cm 器高10.8cm 底径11.5cm	外：口縁端部刻み目，体部へら 磨き，ナデ 内：へら磨き，指押さえ，ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒 (小～大) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量 赤色粒子 (小～中) 微量	
512	SR04	弥生土器 壺	頸部20%	外内：ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /3)	胎土1類 透明砂粒 (小～大) 少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
						白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
528	包含層	弥生土器 甕	口縁部破片	外内：摩滅のため調整不明	浅黄橙(7.5Y R8/3)	胎土3類 透明砂粒(大)多量 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(中)多量	
529	包含層	弥生土器 甕	口縁部20% 口径18.1cm	外内：指押さえ, ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3)～黒褐(10Y R3/1)	胎土3類 白色砂粒(小～大)少量	
530	包含層	弥生土器 甕	底部破片	外：摩滅のため調整不明 内：指押さえ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土3類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(中～大)少量 灰色砂粒(中～大)少量 赤色粒子(小～中)微量	
531	包含層	弥生土器 壺	口縁部10% 口径27.4cm	外：凹線文, 円形浮文 内：横ナデ	外断:明黄褐(10Y R6/6) 内:黄褐(10Y R5/6)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)多量	
532	包含層	弥生土器 壺	頸部45% 口径12.7cm	外：摩滅のため調整不明 内：指押さえ, ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土3類 透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(少～中)少量	
533	包含層	弥生土器 壺	口縁部15% 口径28.9cm	外：口縁端部退化凹線文, 口頸部へラ磨き 内：口縁部櫛描波状文, 頸部へラ磨き	明褐(7.5Y R5/6)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
534	包含層	弥生土器 甕	口縁部20% 口径14.9cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)少量	
535	包含層	弥生土器 甕	口縁部20% 口径23.1cm	外：口縁端部退化凹線文, 口縁部横ナデ, 体部ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部ナデ	明褐(7.5Y R5/6)	胎土1類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)多量	
536	包含層	弥生土器 甕	口縁部50% 口径12.7cm	外内：摩滅のため調整不明	明黄褐(10Y R7/6)	胎土3類 透明砂粒(大)多量 白色砂粒(中)多量 灰色砂粒(中)少量	
537	包含層	弥生土器 甕	体部20% 口径14.2cm	外：口縁部横ナデ, 体部タタキ 内：指押さえ, ナデ	外:橙(7.5Y R6/6)内:灰黄褐(10Y R6/2)	胎土2類 白色砂粒(中)少量 赤色粒子(小)微量	
538	包含層	弥生土器 高杯	口縁部破片	外：口縁端部凹線文2条, 摩滅のため調整不明 内：摩滅のため調整不明	灰黄褐(10Y R4/2)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
539	包含層	弥生土器 高杯	口縁部30% 口径19.4cm	外内：摩滅のため調整不明	明赤褐(5Y R5/6)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中)少量	
540	包含層	弥生土器	脚部50%	外：横ナデ	赤褐(5Y R4/6)	胎土1類 白色砂粒(小)少量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
		高杯	底径10.6cm	内：指押さえ、ナデ		黒色砂粒 (小) 少量	
541	包含層	弥生土器 高杯	底部完存	外内：摩滅のため調整不明	灰白(10Y R8/1) ～明赤褐(2.5Y R5/6)	胎土3類 白色砂粒 (中) 多量 茶色砂粒 (小) 少量	
542	包含層	弥生土器 高杯	底部25% 底径13.9cm	円孔 外：摩滅のため調整不明 内：指押さえ、ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒 (小) 多量	
543	包含層	弥生土器 鉢	口縁部15% 口径16.6cm 器高5.8cm 底径3.0cm	外：口縁部横ナデ、体部ナデ 内：口縁部横ナデ、体部指押さ え、ヘラ磨き	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒 (小) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量 灰色砂粒 (小) 微量	
544	包含層	弥生土器 鉢	体部破片	外：綾杉状の刻み文様、凹線文 2条 内：ナデ	黄褐(10Y R5/6)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒 (小) 多量	
545	包含層	弥生土器 器台	底部完存 底径17.0cm	円孔 (3個) 外：ヘラ磨き 内：指押さえ、横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒 (小～大) 多量	
546	包含層	弥生土器 製塩土器	底部完存 底径5.4cm	外内：ナデ	外：にぶい赤褐(5 Y R4/4) 内：灰黄褐(10Y R5/2) 断：黒褐 (10Y R3/1)	胎土1類 白色砂粒 (中～大) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
547	包含層	分銅形土 製品		表：刺突文 (刺突によって目・ 口、貼り付けにより鼻表現) 裏：ナデ	表：黒褐(10Y R3 /1)～灰黄(2.5Y 6/2) 裏：にぶい黄橙 (10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒 (中～大) 微量 黒色砂粒 (小) 少量	
548	包含層	分銅形土 製品		表：ナデ、竹管文 裏：ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 微量 黒色砂粒 (中) 微量	
587	SX02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径32.0cm	外：口縁部刻み目、口縁部横 ナデ 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 少量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子 (中) 微量	
588	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径26.8cm	外：横ナデ 内：横ナデ、刻み目	褐(10Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 少量 茶色砂粒 (小～中) 微量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
589	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径23.4cm	外：横ナデ 内：横ナデ、刻み目	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 多量 黒色砂粒 (小～大) 多量	
590	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径32.0cm	外：凹線文 内：横ナデ	灰(5Y5/1)	胎土3類 白色砂粒(小～大) 多量 黒色砂粒 (小) 微量 灰色砂粒 (中) 微量	
591	SX02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径29.4cm	外：刻み目、竹管文 内：横ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +にぶい黄(2.5 Y6/3)	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 少量 黒色砂粒 (小～中) 少量	
592	SX02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：ヘラ描き文 (鋸歯文)、竹 管文	にぶい黄褐(10Y R5/3～5/4)+灰	胎土1類 白色砂粒 (小～大) 微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
				内：横ナデ	(5Y4/1)	黒色砂粒(小～大)少量	
593	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径13.0cm	外：口縁端部凹線文，竹管文， 頸部ナデ 内：竹管文	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
594	SX02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径16.0cm	外：凹線文，竹管文，ナデ 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
595	SX02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：凹線文5条，竹管文 内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /3)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
596	SX02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：竹管文 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3～7/4)	胎土3類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)微量	
597	SX02	弥生土器 壺	口縁部5% 口径15.4cm	外：口縁端部凹線文，頸部ナデ 内：横ナデ，指ナデ	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
598	SX02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径16.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
599	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径11.3cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 少量 黒色砂粒(小)微量	
600	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径12.3cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)+オリーブ 黒(5Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
601	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径10.1cm	外：横ナデ 内：指押さえ，ナデ	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
602	SX02	弥生土器 壺	頸部15%	外：横ナデ 内：ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～大)少量	
603	SX02	弥生土器 壺	体部20%	外：ナデ 内：板ナデ	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
604	SX02	弥生土器 壺	頸部25%	外：ナデ，竹管文 内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R5/4)+にぶい 黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中～大)少量	
605	SX02	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁部凹線文，頸部横ナデ 内：剝離のため調整不明，ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～大)少量	
606	SX02	弥生土器 壺	体部破片	外内：ナデ	にぶい黄褐(10Y	胎土1類 透明砂粒(中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
		壺			R5/4)	白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
607	SX02	弥生土器 甕	口縁部5% 口径18.0cm	外:横ナデ 内:横ナデ, ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 茶色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
608	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径16.8cm	外:口縁端部凹線文3条, 口縁 部横ナデ 内:横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
609	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径20.0cm	外:凹線文 内:横ナデ	外内:にぶい黄褐 (10Y R5/4) 断:黄灰(2.5Y5/ 1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)微量 赤色粒子(小～中)少量	
610	SX02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径15.0cm	外:口縁端部凹線文2条, 体部 ナデ 内:口縁部横ナデ, 体部ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+暗灰黄 (2.5Y5/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
611	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径18.0cm	外内:横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～大)少量	
612	SX02	弥生土器 甕	口縁部25% 口径15.0cm	外内:摩滅のため調整不明	外内:褐灰(10Y R4/1) 断:明黄褐(10Y R6/6)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)微量	
613	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径17.0cm	外:口縁端部凹線文, 体部ナデ 内:横ナデ	にぶい黄褐(10Y R4/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
614	SX02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径14.0cm	外:横ナデ, 摩滅のため調整不明 内:横ナデ, 指ナデ	暗灰黄(2.5Y4/ 2)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
615	SX02	弥生土器 甕	口縁部5% 口径16.0cm	外:口縁端部沈線文2条, 体部 刷毛目, ナデ 内:横ナデ, ナデ	外内:にぶい黄橙 (10Y R6/3) 断:褐灰(10Y R5 /1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
616	SX02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径14.4cm	外:口縁端部凹線文, 体部刷毛 目, ナデ 内:口縁部横ナデ, 体部指押さえ	明黄褐(10Y R6/ 6)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
617	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.6cm	外内:横ナデ	外:にぶい黄褐 (10Y R5/4) 内断:オリーブ黒 (5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
618	SX02	弥生土器 甕	口縁部25% 口径13.8cm	外:口縁端部凹線文3条, 体部刷 毛目 内:口縁端部横ナデ 体部指押さ え, 刷毛目	褐(10Y R4/4) +黄灰(2.5Y4/ 1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
619	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.6cm	外：口縁端部凹線文，体部ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)+にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
620	SX02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径12.2cm	外：口縁端部凹線文，体部横ナデ 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
621	SX02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径17.1cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：横ナデ	黄灰(2.5Y4/1) +暗灰黄(2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
622	SX02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径14.7cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
623	SX02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径11.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
624	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径14.0cm	外内：横ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
625	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径14.6cm	外：横ナデ 内：ナデ(摩滅)	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
626	SX02	弥生土器 甕	口縁部破片	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
627	SX02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径16.0cm	外内：横ナデ，ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
628	SX02	弥生土器 甕	口縁部20% 口径14.7cm	外：口縁部凹線文，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)微量	
629	SX02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径16.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
630	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.8cm	外：口縁端部凹線文3条，体部 ナデ，刷毛目 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+橙 (7.5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 茶色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
631	SX02	弥生土器 甕	口縁部30% 口径11.9cm	外：摩滅のため調整不明 内：横ナデ	外：にぶい黄褐 (10Y R5/4) 内断：オリーブ 黒(7.5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
632	SX02	弥生土器 甕	口縁部15% 口径14.1cm	外内：横ナデ，ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
633	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径24.0cm	外：横ナデ 内：横ナデ、ナデ	灰黄褐(10Y R 4/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小～中)微量	
634	SX02	弥生土器 甕	口縁部10% 口径19.0cm	外：摩滅のため調整不明 内：横ナデ	黄褐(2.5Y 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中)微量	
635	SX02	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径27.7cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R 5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
636	SX02	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径24.0cm	外：横ナデ、ナデ 内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土1類 透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
637	SX02	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径23.3cm	外内：横ナデ	褐(10Y R 4/4) +黄褐(2.5Y 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
638	SX02	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径21.7cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
639	SX02	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径22.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
640	SX02	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径33.1cm	外内：横ナデ	外内：にぶい黄褐(10Y R 5/3) +にぶい黄(2.5Y 6/3) 断：黄灰(2.5Y 4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
641	SX02	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径18.0cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)少量	
642	SX02	弥生土器 高杯	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
643	SX02	弥生土器 高杯	底部10% 底径18.6cm	円孔 外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
644	SX02	弥生土器 高杯	底部15% 底径14.6cm	円孔 外内：ナデ、横ナデ	外：にぶい黄橙(10Y R 6/3) 内断：にぶい黄褐(10Y R 5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)微量	
645	SX02	弥生土器 高杯	底部15% 底径14.4cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+暗灰黄(2.5Y 5/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
646	SX02	弥生土器 高杯	底部25% 底径14.0cm	外内：横ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
647	SX02	弥生土器 高杯	底部10% 底径11.8cm	外内：横ナデ	外内：にぶい黄 褐(10YR5/3) 断：黄灰(2.5Y5 /1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)微量	
648	SX02	弥生土器 高杯	脚部15% 底径17.0cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	灰黄褐(10YR4 /2)+にぶい黄 橙(10YR7/4)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)少量 茶色砂粒(小)多量 赤色粒子(中)微量	外：ベン ガラ
649	SX02	弥生土器 高杯	底部10% 底径14.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 YR5/3)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 茶色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
650	SX02	弥生土器 高杯	底部15% 底径13.1cm	外内：横ナデ	黒褐(2.5Y3/1) +にぶい黄(2.5 Y6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
651	SX02	弥生土器 高杯	脚部	外内：ナデ	外内：黄褐(2.5 Y5/3) 断：黄灰 (2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
652	SX02	弥生土器 高杯	脚部40%	外内：ナデ	灰黄褐(10YR5 /2)+黄灰(2.5 Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
653	SX02	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径42.6cm	外：横ナデ 内：ヘラ磨き	外：黒褐(2.5Y3 /1) 内断：にぶい黄 橙(10YR6/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)少量	
654	SX02	弥生土器 鉢	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 YR5/4)+褐 (10YR4/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
655	SX02	弥生土器 器台	底部25% 底径26.8cm	円孔 外内：ナデ	にぶい黄褐(10 YR5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
656	SX02	弥生土器 器台	脚部20% 底径26.0cm	円孔 外：ナデ 内：ナデ、刷毛目	にぶい黄(2.5Y 6/4)+黄褐(2.5 Y5/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～大)少量	
657	SX02	弥生土器 器台	底部10% 底径28.8cm	円孔 外：ナデ、刷毛目 内：ナデ	褐(10YR4/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小～中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
658	SX02	弥生土器 器台	脚部25%	方形透し, 円孔 外: 刷毛目 内: 指ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)+褐(10Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黑色砂粒(小~大)多量	
659	SX02	弥生土器 器台	脚部15%	方形透し 外内: ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	胎土1類 白色砂粒(中~大)少量 黑色砂粒(小~大)少量	
660	SX02	弥生土器 (底部)	底部10% 底径17.0cm	外内: ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3~5/4)	胎土1類 透明砂粒(小~中)微量 白色砂粒(中~大)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
661	SX02	弥生土器 (底部)	底部15% 底径13.0cm	外内: ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 微量 黑色砂粒(小~中)微量 赤色粒子(中)微量	
662	SX02	弥生土器 (底部)	底部完存 底径4.4cm	外: 刷毛目, 板ナデ 内: ナデ	外断: 灰黄褐(10 Y R4/2) 内: 灰(5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
663	SX02	弥生土器 (底部)	底部ほぼ完存 底径6.9cm	外内: ナデ	灰(5Y4/1)+に ぶい黄(2.5Y6/ 3)	胎土1類 白色砂粒(小~大)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
664	SX02	弥生土器 (底部)	底部20% 底径2.5cm	外内: ナデ	褐(10Y R4/4)+ 黄褐(2.5Y5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 少量 茶色砂粒(小)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
665	SX02	弥生土器 (底部)	底部20% 底径6.8cm	外内: ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+褐灰(10 Y R4/1)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
666	SX02	弥生土器 (底部)	底部35% 底径8.4cm	外内: ナデ	にぶい黄(2.5Y6 /3)+黄灰(2.5Y 5/1)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 多量 黑色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)多量	
667	SX02	弥生土器 (底部)	底部完存 底径5.3cm	外: 板ナデ 内: 指ナデ	暗灰黄(2.5Y5/ 2)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黑色砂粒(小~大)少量	
668	SX02	弥生土器 (底部)	底部60% 底径5.7cm	外内: ナデ	外: オリーブ黒(5 Y3/1)+にぶい 黄(2.5Y6/3) 内断: 灰黄(2.5Y 6/2)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中~大)多量 茶色砂粒(小~中)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
669	SX02	弥生土器 (底部)	底部完存 底径6.0cm	外内: ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+にぶい 黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 多量 茶色砂粒(大)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
670	SX02	弥生土器 (底部)	底部完存 底径4.6cm	外: 板ナデ 内: ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小~中)多量 白色砂粒(小~中)少量 黑色砂粒(小~中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
695	SX02	弥生土器 器台または壺	口縁部35% 口径29.4cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3~6/4)	胎土1類 透明砂粒(小~中) 微量 白色砂粒(小~大)多量 茶色砂粒(中) 微量 黒色砂粒(小~中) 少量	
696	SX02	弥生土器 壺	口縁部40% 口径14.6cm	外：横ナデ, 刺突文(4~5カ所) 内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3~5/4)	胎土1類 透明砂粒(中~大) 微量 白色砂粒(小~大) 少量 黒色砂粒(小~中) 少量 赤色粒子(中~大) 微量	
697	SX02	弥生土器 壺	口縁部5% 口径13.0cm	外：横ナデ, 沈線5条 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+にぶい 黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 微量 黒色砂粒(小) 少量	
698	SX02	弥生土器 壺	口縁部30% 口径12.0cm	外：沈線6条, 刷毛目, 斜めの ヘラ描き 内：指ナデ, ナデ	暗灰黄(2.5Y5/ 2)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 少量 黒色砂粒(小~中) 少量	
699	SX02	弥生土器 壺	口縁部5% 口径12.9cm	外：横ナデ, 沈線7条 内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 微量 黒色砂粒(小~中) 少量	
700	SX02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径12.0cm	外：横ナデ, 沈線4条 内：ナデ, 摩滅のため調整不明	にぶい黄(2.5Y 6/3)+にぶい赤 褐(5Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(中~大) 少量 黒色砂粒(小~中) 微量	
701	SX02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径24.9cm	外：口縁部凹線文3条, 体部 刷毛目 内：ヘラ削り	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(小~中) 少量 白色砂粒(小~大)多量 黒色砂粒(小) 微量	
702	SX02	弥生土器 壺	口縁部30% 口径14.3cm	外：口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 少量 黒色砂粒(小~中) 少量 赤色粒子(小~中) 微量	
703	SX02	弥生土器 壺	口縁部30% 口径18.0cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部板ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 少量 黒色砂粒(小~中) 少量 赤色粒子(中~大) 微量	
704	SX02	弥生土器 壺	口縁部15% 口径14.8cm	外：口縁部凹線文1条, 体部 ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 微量 黒色砂粒(小) 少量	
705	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径15.8cm	外：口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ナデ	外：黄灰(2.5Y6 /1)+黄褐(2.5 Y5/3)内断：暗 灰黄(2.5Y5/2)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 少量 黒色砂粒(小~中) 少量 赤色粒子(中) 微量	
706	SX02	弥生土器 壺	口縁部25% 口径14.1cm	外：口縁部凹線文1条, 体部 刷毛目 内：口縁部横ナデえ, 体部指押 さえ, ナデ	にぶい黄橙(10 Y R5/3)+灰黄 褐(10Y R4/2)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 少量 黒色砂粒(小~中) 少量	
707	SX02	弥生土器 壺	口縁部10% 口径13.6cm	外：摩滅のため調整不明 内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 透明砂粒(小~大) 微量 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小~中) 少量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
708	SX02	弥生土器 甕	口縁部25% 口径15.0cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部ヘラ削り	にぶい黄褐(10Y R5/3)+灰黄(2.5Y 6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
709	SX02	弥生土器 甕	体部75%	外：刷毛目 内：指押さえ，ナデ	外：灰黄褐(10Y R4/2)+黒(N21)+明赤褐(5Y R5/6)内：にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量 雲母(小)微量	
710	SX02	弥生土器 (底部)	底部50% 底径6.0cm	外：ヘラ磨き 内：板ナデ	灰黄褐(10Y R5/2)+黄灰(2.5Y 4/1) 内断：黄灰(2.5Y 5/1)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
711	SX02	弥生土器 (底部)	底部45% 底径7.3cm	外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	外：灰黄褐(10Y R4/2)+褐灰(10Y R4/1) 内断：灰黄褐(10Y R6/2)+にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中～大)微量	
712	SX02	弥生土器 (底部)	底部90% 底径6.0cm	外：ナデ 内：指押さえ，ナデ	外：にぶい黄褐(10Y R4/3)内：にぶい黄橙(10Y R6/4) 断：灰白(10Y R8/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
713	SX02	弥生土器 (底部)	底部80% 底径6.6cm	外内：ナデ	オリーブ黒(5Y 3/1)+黄灰(2.5Y 4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
714	SX02	弥生土器 製塩土器	底部65% 底径5.5cm	外：刷毛目 内：指ナデ	外：にぶい黄褐(10Y R5/3) 内断：オリーブ黒(5Y 3/1)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
715	SX02	弥生土器 高杯	底部25% 底径12.0cm	円孔 外：ナデ，凹線文1条 内：ヘラ削り，ナデ	にぶい黄褐(10Y R6/6) 断：灰(5Y 4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小～大)多量	
716	SX02	弥生土器 高杯	底部20% 底径11.3cm	円孔(2個1単位) 外：横ナデ，ヘラ描き文 内：板ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小)少量	
717	SX02	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径24.4cm	外：体部横ナデ，口縁端部凹線文2条 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
718	SX02	弥生土器 鉢	口縁部15% 口径14.0cm	外内：指押さえ，ナデ	外断：にぶい褐(7.5Y R5/4)+にぶい黄褐(10Y R5/3) 内：橙(5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
719	SX02	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径33.2cm	外：口縁部横ナデ，体部へラ磨き 内：横ナデ	オリーブ黒(5Y 3/1)+(2.5Y6/ 3)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(小)微量	
720	SX02	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径37.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(中～大)多量 赤色粒子(小～中)微量	
721	SX02	弥生土器 器台	口縁部20% 口径15.3cm 器高9.5cm 底径13.6cm	方形透し 外内：横ナデ	にぶい赤褐(5Y R4/4)+黄褐 (2.5Y5/4)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
730	SX02	弥生土器 ～土師器 壺	口縁部40% 口径28.8cm	外内：横ナデ	黄褐(2.5Y5/3) +黄灰(2.5Y4/ 1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
731	SX02	弥生土器 ～土師器 壺	口縁部35% 口径12.3cm	外：横ナデ，刷毛目 内：ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)+橙 (2.5Y R6/6)+ 灰(5Y4/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 少量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
732	SX02	土師器 壺	口縁部10% 口径27.0cm	外内：摩滅のため調整不明	黄褐(2.5Y5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量	733と同 一物体？
733	SX02	土師器 壺	底部完存	外内：摩滅のため調整不明	黄褐(2.5Y5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量	732と同 一物体？
734	SX02	土師器 甕	口縁部85% 口径11.6cm 器高18.3cm 底径3.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部刷毛目，体部指押さ え，ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)+暗灰 (N3/)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
735	SX02	須恵器 甕	口縁部20% 口径14.6cm	外：回転ナデ，タタキ 内：回転ナデ，同心円タタキ	灰白(2.5Y8/1)	透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～中)微量 赤色粒子(小～大)微量	
736	SX02	須恵器 甕または壺	口縁部20% 口径13.9cm	外内：回転ナデ	外内：灰(N5/)+ オリーブ灰(2.5 G Y6/1) 断：褐 灰(5Y R6/1)	白色砂粒(小～中)少量	
737	SX02	須恵器 杯蓋	口縁部破片	外：回転ナデ，回転へラ削り， へラ記号 内：回転ナデ	灰色(N7/)	白色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小～中)微量	
738	SX02	須恵器 杯身	口縁部65% 口径13.3cm	外：回転ナデ，回転へラ削り 内：回転ナデ	灰白(10Y7/1) +灰(N6/)	透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～大)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
739	SX02	須恵器 杯身	口縁部40% 口径12.2cm 器高4.2cm 底径7.4cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰(5Y6/1) +灰(N6/)内： 灰(N5/)断：灰 褐(5YR5/2)	白色砂粒(小～大)少量	
740	SX02	須恵器 杯身	口縁部25% 口径12.2cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(N6/)	白色砂粒(小～中)少量	
743	SD13	弥生土器 壺	口縁部5% 口径15.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 YR7/3～7/4)	胎土3類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小)微量	
744	SD13	弥生土器 甕	口縁部5% 口径16.0cm	外内：横ナデ，刷毛目	暗灰黄(2.5Y5/ 2)+オリーブ黒 (5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中)微量	
745	SD13	弥生土器 (底部)	底部30% 底径6.7cm	外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	暗灰黄(2.5Y5/ 2～4/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
746	SD13	弥生土器 (底部)	底部25% 底径5.7cm	外：指押さえ，ナデ 内：ナデ	外：黒(7.5Y2/1) 内断：にぶい黄 (2.5Y6/3)+黄 褐(2.5Y5/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)少量	
747	SD13	弥生土器 甕 (底部)	底部完存 底径4.9cm	外：刷毛目 内：ヘラ削り	黄灰(2.5Y5/1 ～4/1)	胎土3類 透明砂粒(小～大) 多量 白色砂粒(小～大)多量 灰色砂粒(小)多量	
748	SD13	弥生土器 壺 (底部)	底部40% 底径13.0cm	外：摩滅のため調整不明 内：板ナデ	にぶい黄褐(10 YR5/3～5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～大)少量	
749	SD13	弥生土器 高杯	体部10%	外内：ナデ	外断：明褐(7.5 YR5/6) 内：にぶい黄橙 (10YR6/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
750	SD13	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径21.0cm	外：摩滅のため調整不明 内：横ナデ	にぶい黄褐(10 YR5/4)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 微量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(中)微量	
751	SD13	弥生土器 高杯	脚部15% 底径18.0cm	円孔 外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 YR6/3)+暗灰 (N3/)	胎土1類 白色砂粒(中～大) 微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中)微量	
752	SD13	弥生土器 高杯	口縁部破片	外：横ナデ，刷毛目 内：横ナデ	外断：にぶい黄 褐(10YR5/3～ 5/4)断：黄灰 (2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～大)少量	
753	SD13	弥生土器 高杯	脚部完存	円孔(1カ所) 外内：ナデ	にぶい黄褐(10 YR5/3)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)少量 雲母(小～中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
755	SD14	弥生土器 壺	口縁部10% 口径26.6cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/4)+黄灰(2.5 Y5/1)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小~大)少量 黑色砂粒(小~大)多量	
756	SD14	弥生土器 壺	口縁部20% 口径15.0cm	外：口縁部凹線文，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さ え，刷毛目	にぶい黄褐(10 Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(小~大)少量 白色砂粒(小~大)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
757	SD14	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 透明砂粒(中)多量 白色砂粒(小~大)多量 黑色砂粒(小)少量	
758	SD14	弥生土器 壺	口縁部20% 口径16.7cm	外：口縁部横ナデ，頸部刷毛目 内：口縁部横ナデ，指押さえ， ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3~6/4) +オリーブ黒 (7.5Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小~中)多量 黑色砂粒(小)多量 赤色粒子(中~大)微量	
759	SD14	弥生土器 壺	口縁部10% 口径16.0cm	外内：横ナデ	外断：にぶい黄 橙(10Y R7/4) 内：灰黄(2.5Y7 /2)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黑色砂粒(小~中)微量	
760	SD14	弥生土器 壺	口縁部破片	外：凹線文 内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小~大) 微量 茶色砂粒(中)微量 黑色砂粒(小~大)微量	
761	SD14	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中~大) 微量 白色砂粒(小~大)少量 茶色砂粒(小)多量 黑色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(中~大)微量	
762	SD14	弥生土器 壺	口縁部10% 口径14.7cm	外：凹線文 内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小~中) 少量 黑色砂粒(小~中)多量 赤色粒子(小)微量	
763	SD14	弥生土器 壺	口縁部10% 口径14.7cm	外：口縁部凹線文，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部刷毛目	灰黄褐(10Y R5 /2)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
764	SD14	弥生土器 壺	口縁部10% 口径16.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小~大) 少量 白色砂粒(小~大)少量 黑色砂粒(小)少量 赤色粒子(小~大)少量 角閃石(小~大)少量	
765	SD14	弥生土器 壺	口縁部20% 口径14.8cm	外：口縁部凹線文，横ナデ 内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/4)+黄灰(2.5 Y6/1)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中~大)少量 黑色砂粒(小~中)少量	
766	SD14	弥生土器 壺	口縁部20% 口径14.4cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部刷毛目，横ナデ，体 部指ナデ	橙(7.5Y R7/6)	胎土1類 透明砂粒(小~大) 少量 白色砂粒(小~大)少量 黑色砂粒(小)少量 赤色粒子(中~大)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
767	SD14	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.6cm	外：口縁端部凹線文，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+オリーブ 黒(5Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小〜大)少量 黒色砂粒(小)少量	
768	SD14	弥生土器 甕	口縁部10% 口径15.8cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ，ナデ	橙(7.5Y R6/6)	胎土1類 透明砂粒(中〜大) 少量 白色砂粒(小〜大)少量 茶色砂粒(小〜大)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小〜大)少量	
769	SD14	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.3cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部へら削り	明黄褐(10Y R6 /6)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小〜中)少量	
770	SD14	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.1cm	外内：横ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)多量	
771	SD14	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)+オリ ーブ黒(5Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(中〜大) 微量 白色砂粒(小〜大)微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小〜中)微量	
772	SD14	弥生土器 甕	口縁部15% 口径12.2cm	外内：横ナデ	明黄褐(10Y R6 /6)	胎土1類 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小〜中)少量 赤色粒子(小〜大)微量	
773	SD14	弥生土器 甕 (底部)	底部完存 底径6.0cm	外：ナデ 内：指押さえ，板ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+灰(5Y4/ 1)	胎土1類 白色砂粒(中〜大) 少量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中)微量	
774	SD14	弥生土器 甕 (底部)	底部25% 底径4.8cm	外：摩滅のため調整不明 内：へら削り	灰黄(2.5Y6/2) +オリーブ黒 (7.5Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(小〜大) 少量 白色砂粒(小〜大)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小〜大)微量	黒斑
775	SD14	弥生土器 甕 (底部)	底部完存 底径3.7cm	外：刷毛目 内：板ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)+黒 (N2/)	胎土1類 白色砂粒(小〜大) 多量 黒色砂粒(小〜中)少量 灰色砂粒(小)多量	黒斑
776	SD14	弥生土器 甕 (底部)	底部80% 底径3.5cm	外：ナデ 内：指押さえ	外：にぶい橙 (2.5Y R6/3) 内断：灰黄(2.5 Y7/2)	胎土3類 透明砂粒(小〜中)少量 白色砂粒(小〜大)少量	
777	SD14	弥生土器 甕 (底部)	底部25% 底径4.5cm	外内：摩滅のため調整不明	灰黄(2.5Y7/2) +黒褐(2.5Y3/ 1)	胎土3類 白色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)少量 雲母(小)少量	
778	SD14	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径23.2cm	外内：横ナデ	黄褐(2.5Y5/3) +にぶい黄(2.5 Y6/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小〜中)微量	
779	SD14	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径21.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小〜中) 多量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小〜中)少量 雲母(中)少量 赤色粒子(中〜大)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
780	SD14	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径16.1cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
781	SD14	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径20.2cm	外内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(大)少量 茶色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)少量	
782	SD14	弥生土器 高杯	口縁部20% 口径20.4cm	外：横ナデ, ヘラ磨き 内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 多量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)多量	
783	SD14	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径18.4cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 多量 黒色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小)微量	
784	SD14	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径16.9cm	外内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R6/4)+にぶい 褐(7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(大)少量 茶色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(中)微量 赤色粒子(小)少量	
785	SD14	弥生土器 高杯	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
786	SD14	弥生土器 高杯	杯部破片	外：ヘラ磨き 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小)多量 茶色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)少量	
787	SD14	弥生土器 円盤状 土製品 (底部)	底部完存 底径4.6cm	外内：ナデ	外内：にぶい黄 褐(10Y R5/3) 断：黒(N2/)	胎土1類 透明砂粒(小～中) 微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
788	SD14	弥生土器 高杯	口縁部10%	外内：ヘラ磨き	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
789	SD14	弥生土器 高杯	底部15% 底径15.1cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	黄褐(2.5Y5/3) +黄灰(2.5Y5/ 1)	白色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)少量 雲母(小)微量	
790	SD14	弥生土器 高杯	底部25% 底径11.6cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小～大) 少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)微量	
791	SD14	弥生土器 高杯	脚部15% 底径10.7cm	円孔 外：横ナデ 内：指押さえ, 横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(大)微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
792	SD14	弥生土器 高杯	胴のみ完存	外内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/4~6/3)	胎土1類 白色砂粒(中~大) 微量 茶色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小)少量	
793	SD14	弥生土器 鉢	口縁部5% 口径14.0cm	外：摩滅のため調整不明 内：横ナデ	浅黄(2.5Y7/3) +黒褐(2.5Y3/ 1)	胎土1類 白色砂粒(中~大)微量 灰色砂粒(中)微量 赤色粒子(中)微量	
794	SD14	弥生土器 鉢	口縁部60% 口径9.1cm	外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	外内：灰(N6/ 断：橙(7.5Y R7 /6)	胎土1類 白色砂粒(中~大)微量 黒色砂粒(中)微量 赤色粒子(中)微量	
795	SD14	弥生土器 鉢	口縁部破片	外：刷毛目 内：横ナデ	にぶい赤褐(5Y R5/4)+暗灰黄 (2.5Y5/2)+黄 灰(2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(大)微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小~大)微量 灰色砂粒(中)微量 赤色粒子(小~中)微量	
796	SD14	弥生土器 製塩土器	底部完存 底径6.0cm	外内：ナデ, 指ナデ	浅黄(2.5Y7/3) +にぶい黄(2.5 Y6/3)	胎土3類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中~大)少量 黒色砂粒(中)微量 雲母(小)微量	
798	SD14	土師器 壺	頸部60%	外内：ナデ	浅黄橙(7.5Y8/ 6)+橙(7.5Y R 7/6)	透明砂粒(中~大)少量 白色砂粒(小~中)少量 茶色砂粒(中)微量	
799	SD14	土師器 甕	口縁部10% 口径15.5cm	外内：横ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	透明砂粒(中)少量 白色砂粒 (中)多量 茶色砂粒(中)微量 雲母(中)微量	
800	SD14	土師器 甕	口縁部10% 口径16.0cm	外：横ナデ 内：横ナデ, 摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中~大)多量 黒色砂粒(小)微量 雲母(中)微量	
801	SD14	土師器 甕	口縁部15% 口径12.9cm	外内：横ナデ	橙(7.5Y R6/6)	白色砂粒(小~大)多量 灰色砂粒(小~大)少量	
802	SD14	土師器 甕	口縁部10% 口径12.1cm	外内：横ナデ	浅黄(2.5Y7/3) +黄灰(2.5Y5/1)	透明砂粒(大)少量 白色砂粒(小~中)多量	
803	SD14	土師器 甕	口縁部20% 口径12.3cm	外：横ナデ 内：横ナデ, 板ナデ	外内：にぶい黄 (2.5Y6/3) 断：黄灰(2.5Y4 /1)	胎土1類 白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小)微量	
804	SD14	土師器 高杯	口縁部30% 口径10.9cm	外：ナデ 内：板ナデ	浅黄(2.5Y7/3) +オリーブ黒(5 Y3/1)	白色砂粒(小~大)多量 灰色砂粒(小~中)少量	黒斑
805	SD14	土師器 高杯	底部5% 底径10.0cm	円孔 外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	橙(7.5Y R7/6)	透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
806	SD14	土師器 高杯	底部5% 底径10.4cm	円孔 外：摩滅のため調整不明 内：絞り目、摩滅のため調整不明	外内：にぶい黄 橙(10Y R 6/3) 断：にぶい橙 (7.5Y R 7/4)	透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小～大)少量	
807	SD14	土師器 (把手)	把手破片	外：刷毛目 内：ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+黒褐(2.5 Y 3/1)	透明砂粒(小～大)多量 白色砂粒(小～大)多量	
808	SD14	須恵器 杯蓋	口縁部15% 口径14.0cm	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰白(10Y 7/1) +灰(N6/)	透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中)多量 茶色砂粒(小)少量	
809	SD14	須恵器 杯蓋	口縁部25% 口径12.2cm 器高5.5cm	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(N6/)+緑灰 (10G Y 5/1)	白色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(中)微量	
810	SD14	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径13.0cm	外内：回転ナデ	外：灰(5Y 6/1) 内：灰白(N8/~ 7/) 断：灰(N6/)	白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量	自然釉
811	SD14	須恵器 杯蓋	口縁部15% 口径11.9cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)+灰 (N6/)	白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量	
812	SD14	須恵器 杯蓋	口縁部5% 口径10.9cm	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰白(5Y 7/ 1) 内断：灰白(N7/)	白色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)少量 雲母(小)少量	
813	SD14	須恵器 杯身	口縁部10% 口径11.3cm 器高5.0cm	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰白(2.5Y 8 /2)+灰黄(2.5 Y 7/2) 内断：黄 灰(2.5Y 5/1)	白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(中)少量	
814	SD14	須恵器 杯身	口縁部10% 口径13.0cm 器高3.3cm	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(N5/)	白色砂粒(中～大)微量	
815	SD14	須恵器 杯身	底部20%	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰(10Y 5/1) +灰(N4/) 内断：灰黄(2.5 Y 7/2)	白色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小～大)微量	
816	SD14	須恵器 高杯	口縁部30% 口径17.5cm	外：回転ナデ、波状文 内：回転ナデ	外：灰(5Y 6/1)+ オリーブ黒(5Y 3/1) 内：灰白(2.5 Y 7/1)+黄灰 (2.5Y 6/1～5/ 1) 断：灰(N6/)	透明砂粒(大)少量 白色砂粒(中～大)多量	自然釉
817	SD14	須恵器 高杯	口縁部70% 口径17.0cm	外：回転ナデ、波状文 内：回転ナデ	外：灰(N6/) 内：灰白(5Y 7/1) 断：紫灰(5P 6/ 1)	白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小～中)少量	自然釉



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
818	SD14	須恵器 高杯	体部30%	外：回転ナデ，波状文 内：回転ナデ	外内：青灰(5P B5/1) 断：灰白(N7/)	白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(大)微量	
819	SD14	須恵器 短頸壺	口縁部5% 口径8.4cm	外内：回転ナデ	外断：赤灰(5R6 /1)+灰白(5Y7 /1) 内：灰(N6/)	白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量	
820	SD14	須恵器 甕	口縁部15% 口径14.3cm	外：回転ナデ，波状文 内：回転ナデ	外内：灰(N6/) 断：赤灰(2.5Y R6/1)	白色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小)少量	
821	SD14	須恵器 甕	体部30%	外：回転ナデ，波状文，沈線 内：回転ナデ	外：灰(N6/)+ 褐灰(10Y R6/1) 内断：褐灰(5Y R6/1～5/1)	白色砂粒(小)多量 茶色砂粒(小)微量	
822	SD14	須恵器 樽形甕	口縁部60% 口径9.2cm 器高17.9cm	外：回転ナデ，沈線 内：回転ナデ，波状文	外：灰白(7.5Y7 /1)+灰(7.5Y6 /1) 内断：灰白(N7/) 釉：オリーブ灰 (10Y5/2～4/2)	白色砂粒(小～中)少量	自然釉
823	SD15	弥生土器 壺	口縁部5% 口径24.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+オリーブ 黒(5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
824	SD15	弥生土器 壺	口縁部25% 口径18.0cm	外：横ナデ，刷毛目 内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土3類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(中～大)多量	
825	SD15	弥生土器 壺	口縁部15% 口径16.0cm	外：横ナデ，刷毛目 内：横ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
826	SD15	弥生土器 壺	口縁部25% 口径16.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)+黄灰 (2.5Y5/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 微量 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
827	SD15	弥生土器 壺	頸部15%	外：横ナデ，摩滅のため調整不明 内：指押さえ，ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土3類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中～大)多量 赤色粒子(大)微量	
828	SD15	弥生土器 壺	口縁部15% 口径21.2cm	外：口縁端部凹線文2条，頸部 ナデ 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+にぶい黄 褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
829	SD15	弥生土器 壺	口縁部15% 口径19.1cm	外内：横ナデ	橙(7.5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
830	SD15	弥生土器 甕	口縁部30% 口径12.8cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部へラ削り	外内：浅黄(2.5 Y7/3) 断：黄灰(2.5Y5/1)	胎土3類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
831	SD15	弥生土器 壺	口縁部20% 口径13.7cm	外：口縁端部凹線文1条1，頸部横ナデ 内：横ナデ	外：にぶい黄橙(10Y R5/3) 内断：暗灰黄(2.5Y5/2)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(中～大)微量	
832	SD15	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)微量 赤色粒子(中)微量	
833	SD15	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～大)少量	
834	SD15	弥生土器 甕	口縁部25% 口径13.8cm	外：口縁端部凹線文，体部タキ，刷毛目 内：口縁部横ナデ 体部削り，指押さえ，刷毛目	褐(10Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)少量	
835	SD15	弥生土器 甕	口縁部25% 口径14.0cm	外内：横ナデ	明褐(7.5Y R5/6)+暗灰黄(2.5Y5/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～大)微量	
836	SD15	弥生土器 甕	口縁部10% 口径15.8cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3～5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
837	SD15	弥生土器 甕	口縁部40% 口径16.0cm	外：口縁部横ナデ，体部ヘラ磨き 内：口縁部刷毛目，体部板ナデ	黄褐(2.5Y5/4)	胎土1類 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(中)微量	
838	SD15	弥生土器 甕	口縁部10% 口径19.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中～大)微量	
839	SD15	弥生土器 甕	口縁部10% 口径17.0cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+黄灰(2.5Y5/1)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
840	SD15	弥生土器 甕	口縁部15% 口径15.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
841	SD15	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部板ナデ	外：にぶい黄橙(10Y R6/4) 内断：浅黄(2.5Y7/2)	胎土1類 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
842	SD15	弥生土器 甕	口縁部40% 口径14.3cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目，ナデ 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
843	SD15	弥生土器 甕	口縁部破片	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ヘラ削り	外：にぶい黄褐(10Y R5/4) 内断：黄褐(2.5Y5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
844	SD15	弥生土器 (底部)	底部30% 底径6.0cm	外内：指ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)+灰(5 Y 4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
845	SD15	弥生土器 (底部)	底部35% 底径7.2cm	外内：ナデ	浅黄(2.5Y7/3) +黄灰(2.5Y6/ 1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
846	SD15	弥生土器 (底部)	底部完存 底径3.7cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	外：赤褐(2.5Y R4/6) 内断：褐灰(10Y R5/1～4/1)+ 黒褐(10Y R3/ 1)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小)少量 白色砂粒(小～大)少量	
847	SD15	弥生土器 (底部)	底部25% 底径8.9cm	外内：ナデ	黄褐(10Y R5/ 6)+灰黄(2.5Y 6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
848	SD15	弥生土器 (底部)	底部完存 底径4.8cm	外：刷毛目 内：板ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 多量 黒色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小)少量	
849	SD15	弥生土器 甕	口縁部20% 口径21.5cm	外：横ナデ 内：横ナデ、板ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)+明赤 褐(2.5Y R5/6)	胎土1類 灰色砂粒(小)少量 透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
850	SD15	弥生土器 (底部)	底部完存 底径14.0cm	外：ナデ、指押さえ 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)+褐灰 (10Y R5/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
851	SD15	弥生土器 (底部)	底部40% 底径6.7cm	外：ヘラ削り 内：ヘラ磨き	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
852	SD15	弥生土器 (底部)	底部30% 底径5.5cm	外：刷毛目 内：ヘラ削り	外：にぶい黄褐 (10Y R5/3)+ 黒(N2/) 内断：にぶい黄 褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中～大)少量	黒斑
853	SD15	弥生土器 (底部)	底部50% 底径5.8cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +にぶい黄(2.5 Y6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～大)少量	
854	SD15	弥生土器 (底部)	底部30% 底径5.6cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	外：にぶい褐 (7.5Y R5/3)+ 黄灰(2.5Y4/1) 内断：黄灰(2.5 Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
855	SD15	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径26.2cm	外：横ナデ 内：横ナデ、ヘラ磨き	にぶい黄褐(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(小～中)少量	
856	SD15	弥生土器 高杯	口縁部25% 口径23.8cm	外：横ナデ 内：横ナデ、ヘラ磨き	外内：にぶい黄 橙(10Y R5/4) +褐(10Y R4/4) 断：黄灰(2.5Y4 /1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
857	SD15	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径20.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
858	SD15	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径19.5cm	外：横ナデ 内：刷毛目、横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 多量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(大)微量	
859	SD15	弥生土器 高杯	頸部完存	外内：ヘラ磨き	外断：にぶい黄 橙(10Y R6/4) 内：にぶい褐 (7.5Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中～大)微量	
860	SD15	弥生土器 高杯	頸部75%	外：摩滅のため調整不明 内：ヘラ磨き	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大) 少量 白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)多量	
861	SD15	弥生土器 高杯	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
862	SD15	弥生土器 高杯	口縁部破片	外内：横ナデ	褐(10Y R4/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 微量 茶色砂粒(小)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
863	SD15	弥生土器 高杯	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
864	SD15	弥生土器 高杯	脚部	円孔 外：沈線、刷毛目 内：ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～大) 微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(大)微量	
865	SD15	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径19.5cm	外：ナデ 内：板ナデ	橙(7.5Y R7/6)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
866	SD15	弥生土器 高杯	底部15% 底径16.4cm	外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	橙(7.5Y R7/6 ～6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 少量 黒色砂粒(小～大)少量 灰色砂粒(小)微量	
867	SD15	弥生土器 高杯	底部25% 底径17.0cm	円孔(2カ所) 外内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
868	SD15	弥生土器 器台	口縁部15% 口径16.4cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+黄灰(2.5Y5/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
869	SD15	弥生土器 甕または鉢	口縁部20% 口径49.8cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部板ナデ	外内：にぶい黄橙(10Y R6/4) 断：灰(5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
870	SD15	弥生土器 鉢または鉢	口縁部10% 口径36.0cm	外：口縁部横ナデ, 体部板ナデ 内：口縁部横ナデ, 体部板ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +暗灰黄(2.5Y5/2)+オリーブ黒(7.5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量	
871	SD15	弥生土器 鉢	口縁部10% 口径42.0cm	外内：横ナデ	浅黄(2.5Y7/3) +灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
872	SD15	土師器 甕	口縁部40% 口径14.0cm	外内：横ナデ, ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	白色砂粒(中～大)少量	
873	SD15	土師器 甕	口縁部25% 口径17.0cm	外内：横ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(中～大)多量 茶色砂粒(中～大)少量	
874	SD15	土師器 甕	口縁部10% 口径16.8cm	外内：横ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 雲母(小)微量 赤色粒子(中～大)微量	
875	SD15	土師器 壺	口縁部10% 口径8.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/4)+明黄褐(10Y R7/6)	透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(中)少量 灰色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)少量	
876	SD15	須恵器 甕	体部完存 口径9.6cm 器高12.2cm	円孔 外：回転ナデ, 波状文, 沈線2条 内：回転ナデ	灰白(2.5Y7/1) +黄灰(2.5Y6/1)	白色砂粒(小～中)微量 灰色砂粒(小～中)微量	
879	SD16	弥生土器 高杯	口縁部10%	外：横ナデ 内：ヘラ磨き	にぶい黄褐(10Y R5/4)+にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)微量	
880	SD16	弥生土器 (底部)	底部50% 底径7.9cm	外：ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄(2.5Y6/3)+オリーブ黒(5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
881	SD17	弥生土器 壺	口縁部10% 口径25.3cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+黒(N2/)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
882	SD17	弥生土器 壺	口縁部10% 口径14.4cm	外内：横ナデ	外：にぶい黄橙(10Y R6/3～6/4) 内断：灰黄(2.5Y7/2)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小)少量 茶色砂粒(中)微量 雲母(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
883	SD17	弥生土器 壺	口縁部20% 口径14.4cm	外：口縁部横ナデ，頸部刷毛目 内：指押さえ，板ナデ，刷毛目	にぶい黄褐(10 Y R5/3～5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(大)微量	
884	SD17	弥生土器 壺	口縁部20% 口径15.8cm	外：口縁部横ナデ，頸部刷毛目 内：横ナデ，指押さえ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小～中) 少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
885	SD17	弥生土器 壺	底部10% 底径8.4cm	外：ヘラ磨き 内：ヘラ削り	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小)少量	
886	SD17	弥生土器 甕	口縁部破片	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	にぶい黄橙(10 Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小～大)微量	
887	SD17	弥生土器 甕	口縁部10% 口径16.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	にぶい黄褐(10 Y R5/3～5/4)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
888	SD17	弥生土器 甕	口縁部30% 口径15.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	橙(7.5Y R7/6 ～6/6)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(中)微量 赤色粒子(中)微量	
889	SD17	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.7cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ	にぶい黄橙(10 Y R6/3) + 黒褐 (2.5Y 3/1)	胎土1類 透明砂粒(中)少量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
890	SD17	弥生土器 甕	口縁部10% 口径14.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	灰黄(2.5Y 6/2)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小)微量	
891	SD17	弥生土器 甕	口縁部5% 口径15.8cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
892	SD17	弥生土器 甕	口縁部30% 口径13.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目， ヘラ磨き 内：口縁部横ナデ，体部指押さ え，ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小～大)微量	
893	SD17	弥生土器 甕	ほぼ完存 口径14.4cm 器高25.7cm 底径5.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目， ヘラ磨き 内：口縁部横ナデ，体部指ナデ， ナデ	褐(7.5Y R4/3) + 赤(10R 5/6) + 黒褐(7.5Y R 3/1)	胎土1類 透明砂粒(中～大) 微量 白色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(大)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
894	SD17	弥生土器 甕	頸部10%	外内：ナデ，刷毛目	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)微量	
895	SD17	弥生土器 甕	口縁部15% 口径11.8cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
896	SD17	弥生土器 甕	口縁部25% 口径13.4cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(中～大)微量	
897	SD17	弥生土器 甕	口縁部10% 口径13.8cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)+褐(10Y R4/4)	胎土1類透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小)多量	
898	SD17	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径40.2cm	外内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R7/4)+橙(7.5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(中～大)微量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(中～大)少量	
899	SD17	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径35.2cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ	にぶい黄(10Y R6/4)	胎土1類 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 角閃石(小)少量	
900	SD17	弥生土器 高杯	口縁部15% 口径26.1cm	外：口縁部横ナデ，体部ヘラ削り，ヘラ磨き 内：横ナデ	外：にぶい褐(7.5Y R5/4) 内断：橙(5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小)少量 雲母(小)少量 赤色粒子(中～大)微量	
901	SD17	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径21.1cm	外内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)	胎土1類 透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
902	SD17	弥生土器 鉢	口縁部破片	外：ナデ，ヘラ削り 内：ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)少量	
903	SD17	弥生土器 鉢	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)+黄灰(2.5Y5/1～4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)微量	
904	SD17	弥生土器 高杯	底部10% 底径13.8cm	外：刷毛目 内：ナデ，指押さえ	明褐(7.5Y R5/8)+にぶい黄橙(10Y R6/4)+オリブ黒(5Y3/0)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小)少量	
905	SD17	弥生土器 小型丸底壺	口縁部40% 口径7.6cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：ナデ，指押さえ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+にぶい黄(2.5Y6/3)	胎土1類 透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 雲母(小)微量 赤色粒子(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
906	SD17	弥生土器 ミニチュア甕	底部完存 底径2.2cm	外：刷毛目 内：ナデ	灰黄(2.5Y7/2 ~6/2)+黒褐 (2.5Y3/1)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小~大)多量	
907	SD17	弥生土器 (底部)	底部20% 底径4.0cm	外：ヘラ磨き 内：板ナデ	黒褐(10Y R3/1 ~3/2)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小~大)微量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
908	SD17	弥生土器 (底部)	底部完存 底径4.1cm	外：ヘラ磨き 内：板ナデ	灰黄褐(10Y R4 /2)	胎土1類 白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(中~大)微量	
909	SD17	弥生土器 (底部)	底部完存 底径4.0cm	外：ナデ 内：指ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	
910	SD17	弥生土器 (底部)	底部70% 底径6.0cm	外内：ナデ	外：オリブ黒 (5Y3/1)+にぶ い黄褐(10Y R5 /4)内断：にぶい 黄(2.5Y6/4)	胎土1類 透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小~大)微量 茶色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小~中)少量	
911	SD17	弥生土器 (底部)	底部完存 底径5.6cm	外内：ナデ	外：黒(7.5Y2/ 1)+にぶい黄褐 (10Y R5/4) 内断：にぶい黄 褐(10Y R5/4)	胎土1類 透明砂粒(中~大)微量 白色砂粒(小~中)少量 茶色砂粒(中~大)微量 黒色砂粒(小~中)少量	
912	SD17	弥生土器 (底部)	底部完存 底径6.9cm	外内：ナデ	灰白(2.5Y8/2)	胎土3類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小~大)少量 灰色砂粒(中)微量	
913	SD17	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径12.2cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(中)微量 灰色砂粒(小)多量	
915	SD18	弥生土器 壺	口縁部20% 口径13.5cm	外：口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き 内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3~5/4)	胎土1類 白色砂粒(中~大) 少量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(小~中)微量	
918	SD19	弥生土器 壺	口縁部10% 口径18.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R6/3~6/4)	胎土1類 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小~中)少量	
919	SD19	弥生土器 壺	口縁部破片	外内：横ナデ	外内：にぶい黄 橙(10Y R6/4) 断：黄灰(2.5Y6 /1)	胎土1類 透明砂粒(小~大)少量 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小~中)少量	
920	SD19	弥生土器 (体部)	頸部20%	外：ナデ、ヘラ削り 内：ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+オリブ 黒(5Y3/1)	胎土1類 透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中~大)多量 茶色砂粒(中~大)微量 黒色砂粒(小~中)多量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
921	SD19	弥生土器 甕	口縁部10% 口径14.0cm	外：横ナデ 内：横ナデ, 指ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/4)+灰黄 (2.5Y6/2)	胎土1類 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
922	SD19	弥生土器 甕	頸部10%	外内：ナデ	橙(7.5Y R6/6)	胎土1類 白色砂粒(小～中) 多量 茶色砂粒(中～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
923	SD19	弥生土器 (底部)	底部完存 底径4.6cm	外内：ナデ	灰黄褐(10Y R6 /2)+オリーブ 黒(5Y3/1)	胎土3類 白色砂粒(大)少量	
924	SD19	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径29.8cm	外内：横ナデ	外内：にぶい黄 褐(10Y R5/3) 断：黄灰(2.5Y4 /1)	胎土1類 透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～大)微量	
925	SD19	弥生土器 高杯	口縁部5% 口径19.9cm	外：横ナデ 内：横ナデ, ヘラ磨き	にぶい黄橙(10Y R6/3～6/4)+ 黄灰(2.5Y4/1)	胎土1類 白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)少量	
926	SD19	弥生土器 高杯	口縁部10% 口径20.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 白色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
927	SD20	弥生土器 壺	頸部10%	外：突帯, ナデ 内：刷毛目, ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
928	SD20	土師器 壺	口縁部50% 口径9.5cm 器高14.9cm	外：ヘラ磨き 内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/2～7/4)+ 黄灰(2.5Y6/1)	透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)少量 赤色粒子(小)微量	
929	SD20	弥生土器 (底部)	底部ほぼ完存 底径4.8cm	外：ナデ 内：板ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +にぶい黄(2.5 Y6/3)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小～中)微量	
930	SD20	弥生土器 (底部)	底部完存 底径7.4cm	外：板ナデ 内：ヘラ削り	にぶい黄橙(10Y R6/3)	胎土1類 透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
931	SH02	土師器 甕	口縁部20% 口径16.6cm	外：横ナデ, 摩滅のため調整不明 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ナデ	外：灰黄褐(10Y R5/2) 内断：褐 灰(10Y R4/1) +にぶい黄橙 (10Y R7/4)	白色砂粒(小～中)多量 赤色粒子(小～中)微量	
932	SH02	土師器 甕	口縁部20% 口径16.6cm	外：口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内：口縁部横ナデ, 体部指押さ え, ナデ	外：にぶい黄橙 (10Y R6/3)+ 黒(N2/)内：黄 灰(2.5Y5/1)	透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～大)多量 雲母(小～中)微量 赤色粒子(小～中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
933	SH02	土師器 甕	口縁部25% 口径14.8cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ，体部刷毛目	外：灰黄(2.5Y6/2)+にぶい黄(2.5Y6/3)内：黄灰(2.5Y4/1)	透明砂粒(中)多量 白色砂粒(小～大)多量 雲母(小～中)微量	
934	SH02	土師器 甕	口縁部15% 口径17.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	外内：浅黄(2.5Y7/3) 断：暗灰(N3/)	透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 灰色砂粒(中)少量 雲母(小)微量	
935	SH02	土師器 甕	口縁部10% 口径14.0cm	外内：口縁部横ナデ，体部ナデ	外：灰黄(2.5Y7/2～6/2)+黒褐(2.5Y3/1)内：浅黄(2.5Y7/3)+黒褐(2.5Y3/1)	透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(中～大)多量 灰色砂粒(小～中)微量	
936	SH02	土師器 甕	口縁部25% 口径15.0cm	外内：口縁部横ナデ，体部ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3～6/3)+灰黄褐(10Y R6/2)	白色砂粒(小～中)多量 雲母(小)少量	
937	SH02	土師器 甕	口縁部40% 口径16.2cm	外内：口縁部横ナデ，体部ナデ	外内：にぶい黄橙(10Y R7/4～6/4) 断：暗灰(N3/)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(大)微量 赤色粒子(中)微量	
938	SH02	土師器 甕	口縁部30% 口径15.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/3)+灰黄褐(10Y R5/2)	透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
939	SH02	土師器 甕	口縁部10% 口径10.9cm	外内：横ナデ	外断：にぶい黄(2.5Y6/3) 内：黄灰(2.5Y5/1～4/1)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)多量 雲母(小)微量	
940	SH02	土師器 甕	口縁部30% 口径16.2cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(中)少量 赤色粒子(中)少量	
941	SH02	土師器 甕	口縁部10% 口径17.0cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目 内：横ナデ	外内：浅黄(2.5Y7/3～7/4) 断：黒(N2/)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(中)少量 雲母(小)微量 赤色粒子(大)微量	
942	SH02	土師器 甕	口縁部30% 口径15.4cm	外：口縁部横ナデ，体部ナデ 内：口縁部横ナデ，体部指押さえ，ナデ	外断：灰黄(2.5Y6/2) 内：にぶい黄橙(10Y R8/4～6/4)	透明砂粒(小～大)多量 白色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(大)微量	
943	SH02	土師器 甕	口縁部10% 口径15.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/4)+橙(5Y R6/6)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(中～大)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
944	SH02	土師器 甕	口縁部5% 口径16.6cm	外内：横ナデ	外：黄灰(2.5Y6/1~4/1)+浅黄(2.5Y7/3) 内：黄灰(2.5Y6/1~4/1)	透明砂粒(中~大)多量 白色砂粒(小~大)多量 灰色砂粒(小~中)多量	
945	SH02	土師器 甕	口縁部80% 口径13.9cm	外内：横ナデ	橙(7.5Y R6/6)	白色砂粒(中~大)微量 茶色砂粒(中~大)少量 黒色砂粒(小~中)微量 赤色粒子(中)少量	
946	SH02	土師器 甕	口縁部10% 口径15.7cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3~6/3)+灰黄褐(10Y R6/2~5/2)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小~大)多量 灰色砂粒(小)多量 雲母(小)少量	
947	SH02	土師器 甕	口縁部25% 口径15.0cm	外：口縁部横ナデ, 体部刷毛目 内：口縁部横ナデ, 体部指押さえ, ナデ	外：橙(2.5Y R6/6)+明赤褐(2.5Y R5/6)+にぶい黄橙(10Y R6/3)内：浅黄(2.5Y7/3)+黒褐(2.5Y3/1)	透明砂粒(小~中)微量 白色砂粒(小~大)少量 灰色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(小)微量	
948	SH02	土師器 甕	口縁部完形 口径18.4cm	外：口縁部横ナデ, 体部指押さえ, 刷毛目 内：口縁部横ナデ, 体部ナデ	外断：灰(5Y5/1)+浅黄橙(10Y R8/4)+橙(2.5Y R7/6) 内：にぶい黄橙(10Y R7/2~7/3)+にぶい橙(2.5Y R6/4)	透明砂粒(小~大)少量 白色砂粒(小~大)少量 黒色砂粒(小~大)微量 灰色砂粒(小~中)少量 赤色粒子(小~大)微量	
949	SH02	土師器 甕	口縁部10% 口径12.0cm	外内：横ナデ	橙(5Y R6/6)+橙(7.5Y R6/6)	透明砂粒(中~大)少量 白色砂粒(中~大)多量 灰色砂粒(中)微量 赤色粒子(中~大)微量	
950	SH02	土師器 甕	口縁部10% 口径12.6cm	外内：横ナデ	外断：浅黄橙(10Y R8/4)+にぶい橙(7.5Y R7/4) 内：浅黄橙(10Y R8/4)+灰(N5/)	透明砂粒(中~大)微量 白色砂粒(小~大)微量 黒色砂粒(大)微量 雲母(中)微量	
951	SH02	土師器 甕	口縁部25% 口径13.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+黄灰(2.5Y4/1)	透明砂粒(中~大)微量 白色砂粒(小~大)少量 雲母(小)少量 赤色粒子(小~中)微量	
952	SH02	土師器 甕	口縁部30% 口径13.6cm	外内：横ナデ	浅黄橙(10Y R8/3)+浅黄(2.5Y8/3)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小~大)少量 灰色砂粒(中~大)少量 赤色粒子(中~大)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
953	SH02	土師器 壺	口縁部20% 口径9.9cm	外：刷毛目 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R 7/3)+褐灰(10Y R 5/1)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(中～大)微量	
954	SH02	土師器 壺	口縁部50% 口径11.2cm	外内：横ナデ	外内：灰白(5Y 7/1)断：にぶい橙(5Y R 7/4)	白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(小)微量	
955	SH02	土師器 壺	体部35%	外内：摩滅のため調整不明	外断：灰白(10Y R 8/2)+にぶい橙(7.5Y R 7/3) 内：にぶい黄橙(10Y R 7/2)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 灰色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(小～中)少量	
956	SH02	土師器 高杯	口縁部25% 口径24.0cm	外内：摩滅のため調整不明，刷毛目	外内：にぶい黄橙(2.5Y 6/3) 断：灰(5Y 4/1)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(中～大)微量	
957	SH02	土師器 高杯	口縁部15% 口径13.4cm	外：ナデ 内：ナデ，ヘラ磨き	外：にぶい黄(2.5Y 6/3)+にぶい黄橙(10Y R 6/3) 内：にぶい黄(2.5Y 6/3)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～大)多量 黒色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小)微量	
958	SH02	土師器 高杯	口縁部5% 口径13.6cm	円孔 外内：整摩滅のため調整不明	橙(7.5Y R 7/6～6/8)+明赤褐(5Y R 5/6)	白色砂粒(小～大)微量	
959	SH02	土師器 高杯	口縁部65% 口径12.0cm 器高10.8cm 底径10.0cm	円孔 外：摩滅のため調整不明 内：摩滅のため調整不明，ナデ	浅黄橙(10Y R 8/3)+浅黄橙(7.5Y R 8/6)	透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～大)少量	
960	SH02	土師器 高杯	ほぼ完形 口径13.4cm 器高10.8cm 底径9.5cm	円孔 外：ナデ 内：杯部ヘラ磨き，体部ナデ	にぶい黄橙(10Y R 7/2～6/3)+橙(5Y R 6/6)+黒褐(7.5Y R 3/1)	白色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(小～中)微量	
961	SH02	土師器 高杯	ほぼ完形 口径14.7cm 器高10.6cm 底径10.8cm	円孔 外：横ナデ，摩滅のため調整不明 内：横ナデ	橙(5Y R 6/6)+灰黄褐(10Y R 5/2)+にぶい黄褐(10Y R 5/3)	白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(中～大)微量	
962	SH02	土師器 甌 (把手)	把手部破片	外：指押さえ 内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R 6/3～6/4)	白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(小～大)多量	
963	SH02	須恵器 杯蓋	口縁部30% 口径13.3cm 器高4.0cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰白(N 7/) 内：灰褐(7.5Y R 6/2)+黄灰(2.5Y 6/1)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(大)微量	
964	SH02	須恵器 杯蓋	口縁部75% 口径12.8cm 器高4.1cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰白(N 7/)+灰(N 4/) 内：灰(N 6/～5/)	白色砂粒(小～大)微量 黒色砂粒(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
965	SH02	須恵器 杯身	完形 口径10.7cm 器高4.3cm 底径7.3cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	にぶい褐(7.5Y R5/3)+灰白 (2.5Y7/1)+黄 灰(2.5Y6/1)	白色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小～中)微量	
966	SH02	須恵器 杯身	口縁部25% 口径9.9cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外内：灰(N6/ より緑味がかかる 断：灰褐(7.5Y R6/2)	白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量	
967	SH02	須恵器 高杯	ほぼ完形 口径11.4cm 器高9.6cm 底径10.0cm	外：回転ナデ，手持ちヘラ削り 内：回転ナデ，回転ヘラ削り	外内：灰(N6/ +灰白(5Y7/1) 断：灰褐(7.5Y R6/2)	白色砂粒(小～大)少量	
968	SH02	須恵器 高杯	口縁80% 口径11.0cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)微量	
969	SH02	須恵器 甕	体部完存	外：回転ナデ，波状文，ヘラ記 号，回転ヘラ削り 内：回転ナデ，ナデ	灰白(5Y7/1)+ 灰(5Y6/1～5/ 1)	白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(中)微量	
970	SH02	須恵器 壺	口縁部80% 口径12.5cm	外：回転ナデ，波状文 内：回転ナデ	外：灰白(2.5Y7 /2)+黄灰(2.5 Y6/1)+灰(N5 /)内断：明青灰 (5P B7/1)+灰 (5Y6/1～5/1)	白色砂粒(小～中)多量 黒色砂粒(小～中)微量	
971	SH02	須恵器 壺	口縁部30% 口径12.8cm	外：回転ナデ，波状文 内：回転ナデ	暗灰オリーブ(5 G Y4/1～3/1)	白色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)微量	
974	SH03	土師器 甕	口縁部10% 口径14.8cm	外内：横ナデ	灰黄(2.5Y6/2) +暗灰黄(2.5Y 5/2)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)微量	
975	SH03	土師器 甕	口縁部10% 口径15.7cm	外内：横ナデ	外：灰黄(2.5Y6 /2)+にぶい黄 (2.5Y6/3)断： 黄灰(2.5Y5/1)	透明砂粒(大)多量 白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(大)微量 雲母(中)微量	
976	SH03	土師器 甕	口縁部15% 口径16.0cm	外内：横ナデ	外：にぶい黄褐 10Y R5/3) 内断：浅黄(2.5 Y7/3)	透明砂粒(中～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(中)微量	
977	SH03	土師器 高杯	杯部40%	外：刷毛目，ナデ 内：ナデ	外内：灰白(10Y R8/2)+浅黄橙 (10Y R8/3)断： 橙(5Y R6/6)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)微量 赤色粒子(中)少量	
978	SH03	土師器 高杯	底部20% 底径9.4cm	円孔 外内：ナデ	浅黄橙(10Y R8 /4)	透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中)多量 茶色砂粒(中)少量 黒色砂粒(小)少量 赤色粒子(小～大)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
979	SH03	土師器 高杯	口縁部50% 口径13.0%	外：ナデ 内：へら磨き	にぶい黄橙(10 Y R 7/2)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)微量 赤色粒子(中)微量	黒斑
980	SH03	須恵器 (口縁部)	口縁部10% 口径17.0cm	外：回転ナデ、波状文 内：回転ナデ	外：緑灰(7.5G Y 5/1)+暗緑灰 (7.5G Y 4/1)	白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)微量	
982	SH04	土師器 甕	口縁部10% 口径17.8cm	外：横ナデ、刷毛目 内：口縁部横ナデ、刷毛目、体 部指押さえ、ナデ	外：明赤褐(2.5 Y R 5/6)内：に ぶい黄褐(10Y R 5/3)+にぶい 褐(7.5Y R 5/4) 断：灰(5Y 4/1) +オリーブ黒(5 Y 3/1)	透明砂粒(小～大)多量 白色砂粒(小～大)多量 灰色砂粒(小～大)微量 雲母(中)微量 赤色粒子(中)微量	
983	SH04	土師器 甕	口縁部25% 口径19.0cm	外内：横ナデ	外内：明赤褐 (2.5Y R 5/6)+ 浅黄(2.5Y 7/3) 断：黒(7.5Y 2/ 1)	透明砂粒(中)少量 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(中)微量	
984	SH04	土師器 甕	口縁部10% 口径16.0cm	外内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R 6/4)+浅黄(2.5 Y 7/3)+黒(N2/)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)多量 赤色粒子(大)微量	
985	SH04	土師器 甕	口縁部60% 口径14.0cm	外：横ナデ 内：口縁部横ナデ、体部指押さえ	にぶい黄橙(10 Y R 7/3)+黄灰 (2.5Y 6/1～4/ 1)+黒褐(2.5Y 3/1)	透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～中)少量 黒色砂粒(小)少量	
986	SH04	土師器 高杯	口縁部10% 口径16.0cm	外内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R 7/3)+黄灰 (2.5Y 4/1)	透明砂粒(小～大)多量 白色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小～大)微量 赤色粒子(小～大)微量	
987	SH04	土師器 高杯	口縁部10% 口径14.4cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10 Y R 7/2)	透明砂粒(小～中)微量 白色 砂粒(大)微量 茶色砂粒(大) 微量 黒色砂粒(小～中)微量 雲母(小)微量	
988	SH04	土師器 高杯	口縁部75% 口径13.7cm	外内：横ナデ	外断：灰白(2.5 Y 8/1)+橙(5Y R 6/6)内：灰白 (2.5Y 8/2)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 茶色砂粒(中)微量 赤色粒子(小～中)微量	
989	SH04	土師器 高杯	口縁部ほぼ完 存 口径13.8cm	円孔(3カ所) 外内：指押さえ、へら磨き、指 ナデ	外断：灰黄褐(10 Y R 6/2～5/2) +にぶい黄橙 (10Y R 7/2)内： にぶい黄橙(10 Y R 7/3～6/3)	透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
990	SH04	土師器 高杯	底部完存 底径9.1cm	円孔(4カ所) 外内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R6/4)+にぶい黄橙(10Y R7/3)+黒(N2/)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(中)微量	
991	SH04	土師器 高杯	底部25% 底径10.6cm	円孔 外内：横ナデ	外内：灰黄(2.5 Y7/2)断：橙(5 Y R7/6)	白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小～中)微量 赤色粒子(小～大)微量	
992	SH04	土師器 高杯	脚部ほぼ完存 底径9.6cm	円孔(3カ所) 外内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/3)+橙(7.5Y R7/6)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)微量 灰色砂粒(中)微量	
993	SH04	土師器 鉢	口縁部55% 口径12.4cm 器高6.0cm 底径3.5cm	外：摩滅のため調整不明 内：ナデ	にぶい黄橙(10 Y R7/3)+橙(2.5Y R6/6)	白色砂粒(小～大)微量 赤色粒子(中～大)微量	
994	SH04	土師器 鉢	ほぼ完形 口径10.5cm 器高6.4cm	外内：摩滅のため調整不明	橙(2.5Y R7/8)+灰白(2.5Y8/2)+暗灰(N3/)	透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)少量 赤色粒子(小～中)少量	
995	SH04	土師器 鉢	口縁部5% 口径17.8cm	外内：ナデ	灰白(2.5Y8/2)+褐灰(10Y R6/1)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)少量 灰色砂粒(大)微量	
996	SH04	土師器 鉢	口縁部15% 口径17.6cm	外内：ナデ	灰黄(2.5Y7/2)+黄灰(2.5Y5/1)	透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小～中)多量 雲母(小)微量	
997	SH04	土師器 鉢	口縁部10% 口径17.8cm	外：口縁部横ナデ, 体部指押さえ 内：横ナデ, 摩滅のため調整不明	浅黄(2.5Y7/3)+黄灰(2.5Y6/1)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)多量 雲母(中)微量	
998	SH04	土師器 鉢	口縁部10% 口径17.0cm	外：ヘラ磨き 内：横ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)少量	
999	SH04	土師器 甌	口縁部70% 口径26.4cm	円孔 外内：ナデ	浅黄(2.5Y7/3～7/4)+橙(5Y R6/6)+黒(N2/)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(大)少量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(中)微量	
1000	SH04	土師器 鍋	口縁部20% 口径30.9cm	外：横ナデ, 体部刷毛目 内：刷毛目, 指押さえ	にぶい黄橙(10Y R6/3)+にぶい黄橙(10Y R5/3)+橙(5Y R6/6)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(大)微量 雲母(小)微量	
1001	SH05	土師器 高杯	底部15% 底径9.8cm	外内：ナデ	橙(5Y R6/8)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(中)微量 赤色粒子(小～中)微量	
1002	SH05	須恵器 (底部)		外：平行タタキ 内：タタキ後ナデ	灰(N6/～4/)	白色砂粒(小～中)少量	
1006	SH06	土師器 甕	口縁部90% 口径18.0cm	外内：摩滅のため調整不明	灰(5Y5/1)+灰オリブ(5Y5/2)+橙(5Y R7/6)	透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～中)多量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1007	SH06	土師器 甕	口縁部25% 口径18.0cm	外：刷毛目 内：摩滅のため調整不明	外内：にぶい黄褐(10Y R5/3) +明赤褐(5Y R5/6) 断：灰(5Y 4/1)	白色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(中～大)微量	
1008	SH06	土師器 甕	口縁部15% 口径15.6cm	外内：横ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)	透明砂粒(中)多量 白色砂粒(中～大)多量 黒色砂粒(小)少量	
1009	SH06	土師器 高杯	口縁部25% 口径16.0cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄橙(10Y R7/3)	白色砂粒(小～中)微量 茶色砂粒(中)微量 赤色粒子(中)微量	
1010	SH06	土師器 高杯	口縁部15% 口径14.0cm	円孔 外：横ナデ, ヘラ磨き 内：摩滅のため調整不明	橙(5Y R7/6)+ 橙(7.5Y R7/6)	白色砂粒(小～中)微量	
1011	SH06	土師器 高杯	口縁部85% 口径14.3cm	外内：ヘラ磨き, ナデ	浅黄橙(10Y R8/3～8/4)+にぶい橙(7.5Y R7/4)	透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)微量	
1012	SH06	土師器 高杯	底部25% 底径9.0cm	円孔 外内：ナデ	にぶい橙(7.5Y R6/4)	透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小～中)少量 茶色砂粒(中～大)微量 赤色粒子(中～大)微量	
1013	SH06	須恵器 杯身	口縁部25% 口径11.0cm 器高4.2cm 底径7.7cm	外：回転ナデ, 回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(N6/～5/)	白色砂粒(小～大)微量 灰色砂粒(中～大)微量	
1015	SB10	土師器 甕	口縁部20% 口径15.6cm	外内：摩滅のため調整不明	にぶい黄(2.5Y 6/3)	透明砂粒(小～中)微量 白色砂粒(小～中)多量 雲母(小)微量	
1019	SK24	土師器 甕	口縁部15% 口径14.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R5/4)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中～大)微量 赤色粒子(中)微量	
1020	SK24	土師器 甕	口縁部20% 口径13.0cm	外：横ナデ 内：剥落のため調整不明	外：黄灰(2.5Y 4/1)+黒(N2/) 内断：橙(7.5Y R6/6)+黄灰(2.5Y 4/1)	透明砂粒(中～大)多量 白色砂粒(中～大)多量	
1021	SK24	土師器 高杯 または鉢	口縁部20% 口径13.9cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10Y R7/4)+褐灰(10Y R4/1)	白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(中)微量 黒色砂粒(中)微量	
1022	SX01	土師器 甕	口縁部10% 口径12.1cm	外内：横ナデ	外内：にぶい黄橙(10Y R6/3) 断：灰(N4/)	透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(大)少量 茶色砂粒(大)微量 黒色砂粒(小)微量 雲母(小)微量 赤色粒子(中～大)微量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1023	SX01	土師器 高杯	脚部完存	外内：ナデ	浅黄橙(7.5Y R 8/6)+浅黄橙 (10Y R8/3)	白色砂粒(小～中)微量 赤色粒子(中～大)少量	
1024	SD21	土師器 壺	口縁部40% 口径10.6cm	外：口縁部横ナデ，体部～頸部 付近刷毛目，ヘラ磨き 内：口 縁部刷毛目，ナデ，体部指ナデ	暗灰黄(2.5Y4/ 2)	白色砂粒(小～大)微量 雲母(小)少量	
1025	SD21	土師器 高杯	口縁部20% 口径15.8cm	外：横ナデ 内：刷毛目，口縁部横ナデ，底 部ナデ	灰黄(2.5Y7/2) ～黄褐(10Y R5 /6)	白色砂粒(中)少量 灰色砂粒(中)少量	
1026	SD21	土師器 高杯	脚部完存	外内：摩滅のため調整不明	橙(5Y R6/6)～ 褐灰(5Y R5/1)	白色砂粒(大)多量 灰色砂粒(大)少量	
1027	SD21	土師器 高杯	脚部完存	外内：ナデ	にぶい黄褐(10 Y R7/4)～明褐 (7.5Y R5/6)	白色砂粒(小)少量	
1028	SD21	土師器 鉢	口縁部90% 口径11.2cm 器高5.6cm	外：摩滅のため調整不明 内：ヘラ磨き(わずかに痕が残 る)	橙(5Y R7/6)	白色砂粒(小)微量	
1029	SD21	蛸壺	体部完存 器高9.2cm	外内：指ナデ	灰白(2.5Y8/1)	白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(中)多量 灰色砂粒(中)少量	土師質
1030	SD21	須恵器 杯	口縁部破片	外内：回転ナデ	灰白(N8/ 灰(N5/)	灰色砂粒(中)少量	
1032	SD22	弥生土器 甕	底部30% 底径8.6cm	外：指押さえ，ナデ 内：ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	透明砂粒(大)少量 白色砂粒(大)多量 黒色砂粒(小)少量	
1033	SD22	弥生土器 壺	口縁部10% 口径26.0cm	外内：横ナデ	にぶい黄褐(10 Y R5/3)	胎土1類 透明砂粒(大)少量 白色砂粒(中)多量 黒色砂粒(小～中)多量	
1034	SD22	弥生土器 壺	口縁部破片	外：口縁部退化凹線文2条， 口頸部横ナデ，内：横ナデ	灰黄褐(10Y R4 /2)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(中)少量	
1035	SD22	弥生土器 甕	底部30% 底径4.6cm	外内：ナデ	黒褐(10Y R3/ 1)	胎土1類 白色砂粒(中～大)少量 赤色粒子(中～大)少量	
1036	SD22	須恵器 杯身	体部破片	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(N5/)	白色砂粒(小)微量	
1037	包含層	土師器 甕	口縁部5% 口径15.0cm	外内：横ナデ	外内：にぶい黄 褐(10Y R5/3～ 5/4) 断：灰(5Y4/1)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～大)多量 赤色粒子(中)少量	
1038	包含層	土師器 甕	口縁部15% 口径13.8cm	外：横ナデ 内：横ナデ，摩滅のため調整不明	外内：にぶい黄 (2.5Y6/3) 断：橙(5Y R6/ 6)	透明砂粒(小～大)微量 白色砂粒(小～大)少量 雲母(小)微量 赤色粒子(中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1039	包含層	土師器 甕	口縁部10% 口径16.9cm	外内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R6/4)+橙 (2.5Y R6/6)	透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(大)多量 赤色粒子(中)微量	
1040	包含層	土師器 甕	口縁部20% 口径16.8cm	外内：横ナデ	外：灰黄褐(10Y R5/2) 内断：褐灰(10Y R4/1)	白色砂粒(小～大)多量 茶色砂粒(小～中)少量 雲母(小)微量	
1041	包含層	土師器 甕	口縁部30% 口径17.4cm	外：横ナデ 内：横ナデ, 摩滅のため調整不明	浅黄(2.5Y 7/3)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量	
1042	包含層	土師器 壺	口縁部80% 口径9.9cm 器高16.0cm	外：ナデ, 刷毛目 内：口頸部刷毛目, 体部指押さえ, ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)底：黒褐 (2.5Y R3/1)	透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～中)少量 赤色粒子(中～大)微量	
1043	包含層	土師器 壺	頸部完存	外内：ナデ	灰黄(2.5Y 7/2～6/2)	透明砂粒(小～大)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～大)少量 赤色粒子(中～大)少量	
1044	包含層	土師器 鉢	口縁部60% 口径13.4cm 器高4.5cm	外内：ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3)+にぶい橙 (7.5Y R7/4)	白色砂粒(中～大)微量 赤色粒子(中～大)微量	
1045	包含層	紡錘車	径3.0cm 孔径0.8cm	外内：摩滅のため調整不明	外内：橙(2.5Y R6/6)+灰(5Y5/1)	白色砂粒(小～中)少量 灰色砂粒(小)微量	土師質
1046	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部20% 口径14.2cm 器高4.2cm	外：回転ナデ, 回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰(N6/) 内：灰白(N7/)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(中)微量	
1047	包含層	須恵器 杯身	受部70% 口径12.5cm 器高5.0cm	ロクロ右回り 外：回転ナデ, 回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(N5/)	白色砂粒(小)少量	
1048	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径14.9cm	外内：回転ナデ	外：黄灰(2.5Y 6/1)内断：灰白(N7/)	白色砂粒(小～中)少量	
1049	包含層	須恵器 杯身	口縁部15% 口径12.1cm	外：回転ナデ, 回転ヘラ削り 内：回転ナデ	外：灰(N5/) 内：青灰(5B6/1)断：赤灰(5P6/1)	白色砂粒(小～大)少量	
1050	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径14.0cm	外内：回転ナデ	外：灰白(5Y8/1)+灰(5Y6/1) 内：灰白(N7/) 断：灰白(5Y8/1)	白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(中)微量	
1051	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部5% 口径13.0cm	外内：回転ナデ	外内：灰白(N7/)+灰白(5Y7/1)断：褐灰(5Y R5/1)	白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1052	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径12.9cm	外：回転ナデ, 回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰白(5Y7/1)+灰(N5/)	白色砂粒(中)微量 茶色砂粒(中)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1053	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部60% 口径12.2cm 器高4.0cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1054	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径12.0cm	外内：回転ナデ	灰(N6/~5/)	白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小)微量	
1055	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径13.8cm	外内：回転ナデ	灰白(N8/~7/)	白色砂粒(小)微量	
1056	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径14.8cm	外内：回転ナデ	青灰(5P B5/1)	白色砂粒(小)少量	
1057	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部20% 口径11.9cm	外内：回転ナデ	灰白(N8/~7/)	白色砂粒(中)多量 茶色砂粒(中)微量	
1058	包含層	須恵器 杯蓋	体部10%	外内：回転ナデ	外内:明青灰(5 P B7/1)+明紫 灰(5P 7/1)断: 赤灰(5R 6/1)	白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量	
1059	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径10.6cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(N6/)	透明砂粒(大)微量 白色砂粒(大)微量	
1060	包含層	須恵器 杯身	口縁部20% 口径12.6cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小~中)微量	
1061	包含層	須恵器 杯身	口縁部15% 口径12.7cm	外内：回転ナデ	外:灰白(2.5Y7 /1) 釉:オリ ーブ灰(2.5G Y6/ 1)内:灰白(2.5 Y7/1)断:黄灰 (2.5Y6/1)	白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量	
1062	包含層	須恵器 杯身	口縁部5% 口径11.2cm 器高4.2cm	外：回転ナデ，回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰白(N7/)+灰 (N6/)+暗灰 (N3/)	白色砂粒(中~大)微量	
1063	包含層	須恵器 杯身	口縁部10% 口径9.9cm	外内：回転ナデ	青灰(5P B6/1)	白色砂粒(中~大)多量	
1064	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部50% 口径6.0cm	外内：回転ナデ	灰白(N8/)	白色砂粒(小~中)微量 黒色砂粒(小~中)微量	
1065	包含層	須恵器 高杯	底部20% 底径9.3cm	方形透し? 外内：回転ナデ	オリーブ灰(2.5 G Y6/1)+緑灰 (75G Y6/1)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小)微量	
1066	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部破片	外：波状文 内：回転ナデ	外断:灰白(N7 /)内:灰白(N7 /)+灰(10Y5/ 1)	白色砂粒(小)少量	
1067	包含層	須恵器 高杯 (脚部)?	底部破片	外内：回転ナデ	外:灰(10Y5/1) +オリーブ黒(7.5 Y3/1)内:灰(5 Y6/1~5/1)断: 灰白(5Y7/1)	白色砂粒(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1069	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部5% 口径15.7cm	外:回転ナデ, 波状文 内:回転ナデ	外:灰(N6/~4 /)内:灰白(5Y 7/1)断:褐灰 (7.5Y R6/1)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中)微量 黒色砂粒(中)微量	
1070	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部15% 口径15.7cm	外:回転ナデ, 波状文 内:回転ナデ	灰白(N6/)	白色砂粒(小)少量	
1071	包含層	須恵器 (体部)	頸部15%	外:タタキ 内:指押さえ, ナデ	外:灰白(N7/ )内:灰白(N7/ )断:灰褐(7.5Y R6/2)	白色砂粒(中)微量 灰色砂粒(中)微量	自然釉
1072	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部20% 口径23.8cm	外:回転ナデ, 波状文 内:回転ナデ	外:オリーブ黒 (7.5Y3/1)+灰 (N6/)内断:灰 白(5Y7/1)	白色砂粒(中~大)微量 茶色砂粒(中)微量	
1073	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部10% 口径20.0cm	外:波状文, 回転ナデ 内:回転ナデ	外:オリーブ黒 (5Y3/1) 内:灰(5Y6/1) 断:灰白(N8/)	白色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1074	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部10% 口径18.0cm	外:回転ナデ, 波状文 内:回転ナデ	外内:灰(10Y6/ 1~5/1)+灰 (7.5Y4/1)断: 灰白(2.5Y8/1)	白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量	
1075	包含層	須恵器 (口縁部)	口縁部5% 口径13.1cm	外内:回転ナデ	外:青灰(5P B6 /1)内断:明青 灰(5P B7/1)	白色砂粒(中)微量 灰色砂粒(小)微量	
1076	包含層	須恵器 (頸部)	頸部35%	外:回転ナデ, 波状文 内:回転ナデ	灰白(N7/)+浅 黄(7.5Y7/3)	白色砂粒(小)少量 茶色砂粒 (小)微量 黒色砂粒(中)微量 灰色砂粒(小)多量	
1077	SD26	弥生土器 高杯	脚部完存	外内:摩滅のため調整不明	にぶい黄褐(10 Y R5/4)	胎土1類 白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量 赤色粒子(小)微量	
1078	SD26	土師器 皿	口縁部30% 口径21.2cm 器高3.8cm	外内:ナデ	外:橙(5Y R6/ 6)~灰白(10Y R8/2)内:灰白 (10Y R8/2)	赤色粒子(小)微量	
1079	SD27	土師器 小皿	底部25% 底径8.7cm	外:体部ナデ, 底部ヘラ切り, ナデ 内:ナデ	にぶい橙(5Y R 6/4)	白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(小)微量	
1080	SD28	土師器 杯	口縁部45% 口径13.4cm 器高3.1cm 底径7.6cm	外:体部回転ナデ, 底部ヘラ切 り, ナデ 内:回転ナデ	浅黄橙(7.5Y R 8/4)	白色砂粒(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1081	SD28	土師器 椀	底部破片	外：回転ナデ 内：摩滅のため調整不明	外断：灰白(10Y R7/1) 内：黒(7.5Y R2/1)	白色砂粒(小)微量	
1082	SD28	土師器 羽釜	口縁部破片	外内：横ナデ	浅黄橙(10Y R8/3)	白色砂粒(中)多量 赤色粒子(中)少量	羽部に煤付着
1083	SD28	黒色土器 A類 椀	底部破片	外：回転ナデ 内：摩滅のため調整不明	外断：灰黄(2.5 Y7/2) 内：灰色(7.5Y4/1)	白色砂粒(小)微量	
1084	SD28	土師器 土鍋	口縁部10% 口径36.2cm	外：口縁部横ナデ、体部指押さえ、刷毛目 内：横ナデ	褐灰(10Y R4/1)	白色砂粒(中)多量 茶色砂粒(小)少量	
1085	SD28	黒色土器 B類 椀	口縁部破片	外：ヘラ磨き 内：摩滅のため調整不明	黒褐(2.5Y3/1)	白色砂粒(小)微量	
1086	SD28	黒色土器 B類 椀	底部20% 底径7.4cm	外：底部回転ナデ 内：体部摩滅のため調整不明	外内：暗灰(N3/) 断：灰(N6/)	白色砂粒(中)少量	
1087	SD31	土師器 小皿	底部破片	外内：摩滅のため調整不明	にぶい橙(5Y R6/3)	透明砂粒(小)微量 白色砂粒(小)微量	
1088	SD32	須恵器 皿	口縁部20% 口径16.6cm	外内：回転ナデ	灰(10Y6/1)	白色砂粒(小)少量	
1089	SD33	須恵器 杯蓋	口縁部破片	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量	
1090	SD34	須恵器 壺	口縁部20% 口径9.0cm	外：回転ナデ、波状文 内：回転ナデ	灰(N6/)+オリ ープ灰(2.5GY6/)	白色砂粒(小~中)少量 黒色砂粒(小)少量	
1091	SD34	須恵器 杯蓋	口縁部5% 口径16.0cm	外内：回転ナデ	灰白(5Y8/1~7/1)	白色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1092	SD34	須恵器 杯	口縁部20% 口径14.0cm 器高2.1cm 底径10.6cm	外：回転ナデ、ヘラ切り 内：回転ナデ	灰白(7.5Y8/1~7/1)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中~大)微量 黒色砂粒(中)微量	
1093	SD34	須恵器 杯	口縁部10% 口径13.4cm 器高2.3cm 底径10.3cm	外内：回転ナデ	灰白(5Y8/1~7/1)	白色砂粒(小~中)少量	
1094	SD34	須恵器 杯	底部20% 底径9.5cm	外内：回転ナデ	外：灰(N5/) 内：灰(N6/) 断：灰褐(7.5Y R4/2)	白色砂粒(小~大)少量	
1097	SR05	須恵器 杯蓋	つまみ部完存 口径15.4cm 器高1.7cm	外：自然釉のため調整不明 内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)少量	
1098	SR05	須恵器 杯	底部破片	外内：回転ナデ	外：暗灰(N3/) 内：灰(N6/)	白色砂粒(小)微量	
1099	SR05	須恵器 皿	底部破片 底径11.5cm	外：体部回転ナデ、底部ヘラ切り 内：回転ナデ、ナデ	灰白(2.5Y7/1)	灰色砂粒(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1100	SR05	土師器 杯	底部45% 底径6.1cm	外：体部回転ナデ，底部ヘラ切り，ナデ 内：回転ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3)	白色砂粒 (小) 少量	
1101	SR05	土師器 杯	底部完存 口径12.2cm 器高4.0cm 底径6.0cm	外：体部回転ナデ，底部ヘラ切り，ナデ 内：回転ナデ	灰白(2.5Y8/2)	白色砂粒 (小) 微量	
1102	SR05	土師器 杯	底部30% 底径6.2cm	外：回転ナデ，底部ヘラ切り，ナデ 内：回転ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	白色砂粒 (小) 微量	
1103	SR05	土師器 杯	底部25% 底径7.0cm	外：回転ナデ，底部ヘラ切り，ナデ 内：回転ナデ	灰白(2.5Y8/2)	灰色砂粒 (中) 微量	
1104	SR05	土師器 杯	底部20% 底径7.9cm	外：回転ナデ，底部ヘラ切り 内：回転ナデ	灰白(2.5Y8/1)	白色砂粒 (中) 微量 灰色砂粒 (中) 少量	
1105	SR05	土師器 椀	底部20% 底径7.3cm	外内：回転ナデ	灰白(10Y R8/2)	黒色砂粒 (小) 微量	
1106	SR05	土師器 椀	底部完存 底径7.3cm	外内：回転ナデ	灰白(2.5Y8/2)	白色砂粒 (小) 微量 赤色粒子 (小) 微量	
1107	SR05	土師器 羽釜	口縁部破片	外：指押さえ 内：ナデ	黄褐(10Y R5/6)	白色砂粒 (中) 少量 茶色砂粒 (小) 微量	
1108	SR05	土師器 羽釜	口縁部15% 口径24.0cm	外：口縁部横ナデ，体部指押さえ，刷毛目 内：板ナデ	褐灰(10Y R6/1)	白色砂粒(中)多量 茶色砂粒(中)少量 灰色砂粒(小)少量 雲母(中)微量	
1109	SR05	土師器 羽釜	口縁部15% 口径18.7cm	外：口縁部横ナデ，体部指押さえ，指ナデ 内：板ナデ，横ナデ	外：にぶい黄橙(10Y R7/2) 内：褐灰(10Y R4/1)	茶色砂粒 (中) 少量 灰色砂粒 (中) 少量	外：煤付着
1110	SR05	土師器 土鍋	頸部45% 口径25.1cm	外：口縁部横ナデ，体部指押さえ，刷毛目 内：口縁部刷毛目，体部指押さえ，刷毛目	暗灰黄(2.5Y6/2)	白色砂粒 (中～大) 少量 茶色砂粒 (小) 微量 黒色砂粒 (小～中) 少量 灰色砂粒 (中) 多量	
1111	SR05	土師器 土鍋	口縁部20% 口径30.6cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目，指押さえ，指ナデ 内：口縁部横ナデ 体部板ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	白色砂粒 (中) 少量 茶色砂粒 (中) 少量 灰色砂粒 (小) 少量	体部煤付着
1112	SR05	土師器 土鍋	口縁部破片	外：口縁部横ナデ，体部指押さえ，刷毛目 内：横ナデ	にぶい黄橙(10Y R7/3)	白色砂粒 (中) 少量 茶色砂粒 (中) 多量 灰色砂粒 (中) 少量	
1113	SR05	土師器 土鍋	口縁部10% 口径30.1cm	外：口縁部横ナデ，体部指押さえ，指ナデ 内：口縁部横ナデ 体部ナデ	灰黄(2.5Y7/2) ～黄灰(2.5Y4/1)	透明砂粒 (中) 少量 茶色砂粒 (中～大) 多量 灰色砂粒 (小) 少量	
1114	SR05	土師器 土鍋	口縁部15% 口径34.2cm	外：口縁部横ナデ，体部刷毛目，指押さえ，指ナデ 内：板ナデ，横ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	灰色砂粒 (中) 多量 赤色粒子 (中) 多量	
1115	SR05	須恵器 杯	口縁部20% 口径11.5cm 器高3.8cm 底径7.0cm	外：体部回転ナデ，底部ヘラ切り，ナデ 内：回転ナデ	灰(N6/)	白色砂粒 (小) 少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1116	SR05	須恵器 杯	口縁部15% 口径11.8cm	外内：回転ナデ	灰(N5/)	白色砂粒(小)微量	
1117	SR05	須恵器 杯	底部25% 底径8.7cm	外：体部回転ナデ，底部ヘラ切り，ナデ 内：回転ナデ	灰(N6/)	白色砂粒(中)少量	
1118	SR05	須恵器 杯	底部20% 底径9.0cm	外：体部回転ナデ，底部ヘラ切り 内：回転ナデ	外：灰(N5/) 内：灰白(N7/)	白色砂粒(小)少量 灰色砂粒(中)少量	
1119	SR05	須恵器 杯	口縁部60% 口径13.0cm 器高3.3cm 底径6.3cm	外：体部回転ナデ，底部ヘラ切り 内：回転ナデ	灰白(7.5Y8/1)	灰色砂粒(小)微量	外内：火 燻
1120	SR05	須恵器 杯	底部80% 底径6.5cm	外：体部回転ナデ，底部ヘラ切り，ナデ 内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(中)微量	
1121	SR05	須恵器 壺	肩部20%	外：回転ヘラ削り 内：回転ナデ	灰(7.5Y6/1)	透明砂粒(大)少量 白色砂粒(中)少量 灰色砂粒(小～中)少量	
1122	SR05	黒色土器 A類 碗	底部30% 底径6.8cm	外：回転ナデ 内：ヘラ磨き(わずかに痕が残る)	外断：灰白(10Y R8/2) 内：暗灰(N3/)	白色砂粒(小)微量	
1123	SR05	黒色土器 A類 碗	底部90% 底径7.0cm	外：体部ヘラ磨き，底部回転ナデ 内：摩滅のため調整不明	外断：灰白(2.5 Y7/1) 内：黒(N2/)	白色砂粒(小)微量	
1124	SR05	黒色土器 A類 碗	底部30% 底径6.5cm	外：回転ナデ 内：摩滅のため調整不明	外断：灰白(2.5 Y8/2) 内：暗灰(N3/)	白色砂粒(小)微量 雲母(小)微量	
1125	SR05	黒色土器 B類 碗	口縁部20% 口径16.4cm 器高6.2cm 底径7.6cm	外内：ヘラ磨き	外内：黒(N2/) 断：灰(N5/)	白色砂粒(小)微量	
1126	SR05	緑釉陶器 碗	体部破片	外：陰刻文様，施釉 内：施釉	釉：灰オリーブ (7.5Y5/3) 断：灰白(7.5Y7 /1)	白色砂粒(小)微量	
1165	包含層	土師器 碗	底部40% 底径8.0cm	外：ヘラ磨き 内：摩滅のため調整不明	灰白(2.5Y8/2)	白色砂粒(小～中)微量	
1166	包含層	土師器 羽釜	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい橙(7.5Y R7/3)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(中)少量	
1167	包含層	土師器 羽釜	口縁部破片	外：横ナデ，指押さえ，刷毛目 内：横ナデ	灰黄褐(10Y R5 /2)	透明砂粒(中)多量，白色砂粒 (中)少量，茶色砂粒(中)少量 灰色砂粒(小)少量	
1168	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部30% 口径21.0cm	外内：回転ナデ	灰(10Y5/1)	白色砂粒(中～大)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1169	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部45% 口径19.7cm	外内：回転ナデ	灰(N5/)+灰白 (N7/)	白色砂粒(中)微量 灰色砂粒(小)微量	
1170	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径14.6cm 器高1.4cm	外内：回転ナデ	外内：灰白(N7 /)+灰(N6/ 断：褐灰(10Y R 6/1)	白色砂粒(小～中)多量 茶色砂粒(小)少量 黒色砂粒(小)多量	
1171	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部20% 口径14.0cm	外内：回転ナデ	灰(N6/)	白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1172	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部10% 口径15.0cm	外内：回転ナデ	外断：灰白(5Y7 /)+灰(5Y6/1) 内：灰白(5Y7/ )+灰(5Y6/1)+ 灰(N5/)	白色砂粒(小～中)微量 黒色砂粒(小)微量	
1173	包含層	須恵器 杯蓋	口縁部5% 口径18.0cm	外内：回転ナデ	灰(5Y6/1)	白色砂粒(小～中)少量	
1174	包含層	須恵器 壺 (底部)	底部10% 底径10.5cm	外内：回転ナデ	外内：灰(N6/~ 5/ 断：黄灰(2.5Y6 /1~5/1)	白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(小～中)微量	
1175	包含層	須恵器 壺 (底部)	底部15% 底径8.0cm	外内：回転ナデ	青灰(5P B5/1)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中～大)微量	
1176	包含層	須恵器 壺 (底部)	底部20% 底径9.4cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(小～中)少量	
1177	包含層	須恵器 杯	口縁部5% 口径17.8cm	外内：回転ナデ	釉：オリーブ黄 (7.5Y6/3)断： 灰白(5Y7/1)	白色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1178	包含層	須恵器 杯	底部25% 底径8.1cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(中)微量 灰色砂粒(中)微量	
1179	包含層	須恵器 杯	底部15% 底径7.6cm	外：体部回転ナデ、底部ナデ 内：回転ナデ	灰(N5/~6/)	白色砂粒(小)微量 黒色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1180	包含層	須恵器 (底部)	底部50% 底径9.9cm	外：体部回転ナデ、底部ナデ 内：回転ナデ	オリーブ灰(2.5 G Y6/1)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(小～大)微量 茶色砂粒(中)微量	
1181	包含層	須恵器 (底部)	底部25% 底径11.8cm	外内：回転ナデ	外：灰(7.5Y5/ 1)内：青灰(10 B G6/1~5/1) 断：ぶい黄橙 (10Y R7/3)	白色砂粒(小～大)多量 灰色砂粒(小～中)少量	
1182	包含層	須恵器 杯	口縁部20% 口径16.0cm	外内：回転ナデ	外：灰(N5/ 内断：灰白(N7/)	白色砂粒(大)微量 茶色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)多量	



番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1183	包含層	須恵器 杯	底部25% 口径18.0cm 器高6.0cm 底径14.0cm	外内：回転ナデ	外内：青灰(5B5/1)+暗青灰(5B4/1) 断：灰褐：(7.5YR4/2)	白色砂粒(小～大)多量	
1184	包含層	須恵器 杯	底部5% 底径11.0cm	外内：回転ナデ	外断：明青灰(5P B7/1)+赤灰(5R6/1) 内断：灰白(N8/~7)	白色砂粒(小～中)微量 黑色砂粒(中)微量	
1185	包含層	須恵器 杯	底部25% 底径11.0cm	外内：回転ナデ	外断：灰(N5/) 内断：灰(N6/)	白色砂粒(小)微量	
1186	包含層	須恵器 杯	底部20% 底径9.9cm	外内：回転ナデ	灰(N6/)	白色砂粒(小)微量	
1187	包含層	須恵器 杯	口縁部25% 口径11.7cm 器高3.9cm 底径9.4cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(大)微量 茶色砂粒(中)微量 黑色砂粒(中)微量	
1188	包含層	須恵器 杯	底部60% 底径9.1cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)+灰(N6/)	白色砂粒(小)微量 黑色砂粒(小)微量	
1189	包含層	須恵器 杯	底部50% 底径10.8cm	外内：回転ナデ	灰(10Y5/1)	白色砂粒(小～中)少量	
1190	包含層	須恵器 杯	底部70% 底径11.0cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(中)微量 黑色砂粒(中)微量	
1191	包含層	須恵器 杯	底部10% 底径6.1cm	外内：回転ナデ	灰(N6/~7/)	白色砂粒(大)微量 黑色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)多量	
1192	包含層	須恵器 杯	底部完存 口径6.8cm	外内：回転ナデ	灰(N5/)	白色砂粒(中)少量	
1193	包含層	須恵器 杯	底部破片	外内：回転ナデ	灰色(N6/)	白色砂粒(中)微量	
1194	包含層	須恵器 杯	口縁部10% 口径11.5cm 器高2.9cm 底径6.6cm	外内：回転ナデ	灰白(N7/)	白色砂粒(小)微量	
1195	包含層	須恵器 不明	口縁部破片	外内：回転ナデ	オリープ灰(2.5GY6/1)+灰(N6/)	白色砂粒(中～大)微量 黑色砂粒(中)微量 灰色砂粒(小)多量	
1196	SB21	土師器 椀	底部20% 底径6.7cm	外内：回転ナデ	灰白(10YR8/2)	白色砂粒(中)少量 茶色砂粒(中)微量	
1197	SB28	土師器 (脚部)	脚部50%	外内：ナデ	灰黄(2.5Y7/2～6/2)	白色砂粒(小～大)多量	
1198	SP02	土師器 小皿	底部20% 底径5.1cm	外：体部回転ナデ、底部ヘラ切り、ナデ 内：回転ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	茶色砂粒(小)少量 灰色砂粒(小)少量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1199	SP02	瓦器 椀	底部40% 底径2.2cm	外内：摩滅のため調整不明	外内：灰(N4/ 断：灰白(N8/)	灰色砂粒(小)少量	
1200	SP03	弥生土器 円盤状 土製品	ほぼ完存 径6.7cm	外内：ナデ	明黄褐(10Y R 6 /6)+黄灰(2.5 Y 5/1)	白色砂粒(中～大)少量 灰色砂粒(小)少量 赤色粒子(小)微量	底部片
1201	SK27	瓦器 椀	口縁部20% 口径16.8cm 器高5.3cm 底径4.3cm	外：口縁部横ナデ，体部指押さえ 内：平行暗文，らせん状暗文	外内：灰(N5/ 断：灰白(N8/)	白色砂粒(小)微量	
1202	SD群	土師器 椀	底部20% 底径6.2cm	外：横ナデ 内：ナデ	明黄褐(10Y R 7 /6)	白色砂粒(小～中)微量	
1203	包含層	土師器 椀	底部20% 底径5.2cm	外内：ナデ	浅黄橙(10Y R 8 /3)断：暗灰色 (N3/)	透明砂粒(小～中)微量	
1204	包含層	土師器 椀	底部25% 底径5.2cm	外：回転ナデ 内：摩滅のため調整不明	外：にぶい黄橙 (10Y R 6/3) 内：灰黄褐(10Y R 5/2)	白色砂粒(小)微量	
1205	包含層	土師器 椀	底部70% 底径3.9cm	外：回転ナデ 内：ナデ	浅黄橙(10Y R 8 /3)	白色砂粒(小)少量	
1206	包含層	土師器 椀	底部破片	外内：ナデ	明黄褐(10Y R 6 /6)	白色砂粒(小)少量 茶色砂粒(小)微量 灰色砂粒(小)微量	
1207	包含層	土師器 羽釜	口縁部破片	外内：横ナデ	にぶい褐(7.5Y R 5/4)	透明砂粒(小)少量 白色砂粒(小)少量	
1208	包含層	土師器 羽釜	体部10%	外内：ナデ	にぶい黄(2.5Y 6/3)+黄灰(2.5 Y 4/1)	白色砂粒(中～大)少量 茶色砂粒(小～中)微量	
1209	包含層	土師器 土鍋	口縁部破片	外：横ナデ，指押さえ 内：横ナデ，ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/4)	透明砂粒(小)少量 白色砂粒(中)多量	
1210	包含層	土師器 羽釜	脚部破片	ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/4)	透明砂粒(小～中)少量 白色砂粒(小～大)少量 黒色砂粒(小～中)少量	
1211	包含層	土師器 羽釜	脚部破片	ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 5/3)	白色砂粒(中)少量	
1212	包含層	黒色土器 B類 椀	底部30% 底径6.6cm	外：ナデ 内：摩滅のため調整不明	外内：暗灰(N3 /)断：灰白(7.5 Y 8/1)	白色砂粒(小)少量	
1213	包含層	瓦器 椀	底部50% 口径14.6cm 器高4.3cm 底径5.8cm	外：指押さえ，板ナデ 内：摩滅のため調整不明	外内：黒(2.5Y 2 /1) 断：灰(N6/)	白色砂粒(小)微量	
1214	包含層	瓦器 椀	口縁部15% 口径14.9cm	外：口縁部横ナデ，体部指押さえ 内：へら磨き，一部摩滅のため 調整不明	外内：暗灰(N3 /) 断：灰白(5Y 8/1)	白色砂粒(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1215	包含層	瓦器 碗	口縁部20% 口径15.1cm	外内：摩滅のため調整不明	外内：暗灰(N3 /) 断：灰白(N8/)	白色砂粒(小)微量	
1216	包含層	中国産 白磁 碗	底部破片	外：露胎 内：施釉	釉：灰灰(5Y7/ 1) 断：灰白(5Y 8/1)	黒色砂粒(小)微量	
1217	包含層	中国産 青磁 碗	口縁部破片	外：雷文帯，施釉 内：印刻文様	釉：緑灰(7.5G Y6/1)断：灰白 (N7/)	白色砂粒(小)少量	
1218	包含層	中国産 青磁 皿	口縁部破片	外：陰刻文様，施釉 内：陰刻文様，施釉	釉：灰オリーブ (7.5Y6/2) 断：灰白(7.5Y8 /1)	精良	
1219	包含層	中国産 青磁 碗	体部破片	外：施釉 内：陰刻文様，施釉	釉：灰オリーブ (5Y5/3) 断：黄 灰(2.5Y6/1)	精良 黒色砂粒(小)微量	
1220	包含層	中国産 青磁 碗	底部20% 底径6.6cm	外：回転ナデ 体部～畳付施釉 内：回転ナデ，施釉	釉：灰オリーブ (7.5Y6/2)断： 灰白(5Y7/1)	精良	
1221	SK29	肥前染付 皿	口縁部破片	外：染付，施釉 内：染付(唐草文)，施釉	釉：灰白(7.5Y R7/1) 断：灰白(N8/)	黒色砂粒(小)微量	
1222	SK31	土師器 釜	口縁部15% 口径13.9cm	外：指押さえ，ナデ 内：ナデ，指押さえ，板ナデ	灰黄褐(10Y R5 /2)+黒(5Y2/ 1)	白色砂粒(小～中)少量	
1224	SK33	唐津 刷毛目鉢	底部35% 底径15.6cm	外：回転ナデ，体部上半施釉 内：回転ナデ，刷毛目，施釉	にぶい赤褐(2.5 Y R5/3)釉：灰 オリーブ(5Y4/ 2)	白色砂粒(小)微量	
1225	SK34	唐津 皿	口縁部45% 口径12.9cm 器高3.2cm 底径3.9cm	外内：回転ナデ 口縁部体部施釉	黄灰(2.5Y5/1 ～4/1) 釉：灰白(2.5Y8 /1)	白色砂粒(大)微量 茶色砂粒(中)微量	
1226	包含層	土師器 釜	口縁部破片	外：つまみ，横ナデ 内：横ナデ	褐灰(10Y R5/ 1)	透明砂粒(中～大)微量 白色砂粒(小～中)少量	
1227	包含層	唐津 青緑釉皿	底部60% 底径4.8cm	外：回転ナデ，削り出し高台， 露胎 内：施釉(蛇の目釉剥ぎ)	灰白(10Y R8/ 2) 釉：緑灰(5G 6/1)	白色砂粒(小～中)微量	
1228	包含層	唐津 刷毛目鉢	底部25% 底径8.0cm	外：高台部中位まで施釉 内：刷毛目，施釉	外釉：黒褐(5Y R3/1) 内釉：暗 灰黄(2.5Y4/2) 灰白(2.5Y8/2) 断：にぶい赤褐 (2.5Y R5/3)	白色砂粒(小)微量	

番号	出土位置	器種	残存率・法量	整形・調整	色調	胎土	備考
1229	包含層	国産 青磁 鉢	体部破片	外内：回転ナデ，施釉	釉：オリーブ黄 (5Y6/3) 断：灰白(5Y7/ 1)	精良	
1230	包含層	国産 白磁 皿	口縁部10% 口径8.4cm	外内：施釉	釉：灰白(7.5Y7 /1) 断：灰白 (2.5Y8/1)	精良	
1231	包含層	軒平瓦	破片	外：ナデ 内：板ナデ，ナデ	灰(5Y6/1)	透明砂粒(中)微量 白色砂粒(中)微量	

第13表 石器観察表

番号	出土位置	種類	法	量	重量	材質・産出地	備考	
18	S H01	石鏃	現存長 4.1cm	最大幅 2.5cm	最大厚 0.5cm	4.2g	サヌカイト	
19	S H01	石庖丁	現存長 6.4cm	最大幅 2.9cm	最大厚 1.0cm	18.5g	サヌカイト	
21	S B03	石庖丁	現存長10.0cm	最大幅 4.8cm	最大厚 1.2cm	56.5g	サヌカイト	
25	S B07	削器	現存長 6.3cm	最大幅 4.7cm	最大厚 1.1cm	32.0g	サヌカイト	
39	S K15	砥石	現存長33.9cm	最大幅17.4cm	最大厚12.4cm	10785.0g	砂岩	
40	S K15	石鏃	現存長 2.7cm	最大幅 1.9cm	最大厚 0.4cm	1.3g	サヌカイト	
62	S D03	石鏃	現存長 2.9cm	最大幅 1.8cm	最大厚 0.5cm	1.8g	サヌカイト	
63	S D03	打製石斧	現存長 6.2cm	最大幅 5.0cm	最大厚 0.9cm	33.4g	サヌカイト	
64	S D03	石小刀	現存長 3.9cm	最大幅 3.5cm	最大厚 0.9cm	14.8g	サヌカイト	
65	S D03	剝片	現存長 5.1cm	最大幅 2.2cm	最大厚 0.6cm	4.9g	サヌカイト	
66	S D03	剝片	現存長 4.3cm	最大幅 3.8cm	最大厚 1.0cm	12.2g	サヌカイト	
84	S D05	楔形石器	現存長 3.7cm	最大幅 3.4cm	最大厚 0.7cm	11.3g	サヌカイト	
88	S D07	石鏃	現存長 2.6cm	最大幅 1.6cm	最大厚 0.3cm	1.0g	サヌカイト	
97	S D08	石庖丁	現存長 8.8cm	最大幅 4.1cm	最大厚 1.2cm	54.3g	サヌカイト	
98	S D08	石斧	現存長 6.8cm	最大幅 4.5cm	最大厚 1.6cm	47.7g	サヌカイト	
99	S D08	石斧	現存長 2.1cm	最大幅 5.3cm	最大厚 0.9cm	16.9g	サヌカイト	
100	S D11	砥石	現存長19.9cm	最大幅13.3cm	最大厚 8.5cm	2785.0g	砂岩	
322	S R02	ナイフ形石器	現存長 3.8cm	最大幅 1.9cm	最大厚 0.5cm	3.74g	サヌカイト	
323	S R02	石鏃	現存長 3.7cm	最大幅 1.8cm	最大厚 0.4cm	2.6g	サヌカイト	
324	S R02	石鏃	現存長 2.6cm	最大幅 1.5cm	最大厚 0.4cm	1.7g	サヌカイト	
325	S R02	石鏃	現存長 1.7cm	最大幅 1.8cm	最大厚 0.3cm	0.7g	サヌカイト	
326	S R02	石庖丁	現存長 5.5cm	最大幅 4.8cm	最大厚 0.7cm	25.2g	サヌカイト	
327	S R02	石庖丁	現存長 4.7cm	最大幅 4.7cm	最大厚 0.9cm	23.1g	サヌカイト	
328	S R02	石庖丁	現存長 5.3cm	最大幅 4.3cm	最大厚 1.3cm	36.7g	サヌカイト	
329	S R02	石庖丁	現存長 3.6cm	最大幅 4.8cm	最大厚 0.7cm	13.9g	サヌカイト	
330	S R02	石庖丁	現存長 5.6cm	最大幅 3.7cm	最大厚 0.8cm	15.6g	サヌカイト	
331	S R02	石庖丁	現存長 5.1cm	最大幅 4.4cm	最大厚 1.1cm	33.1g	サヌカイト	
332	S R02	石庖丁	現存長 8.7cm	最大幅 4.4cm	最大厚 0.9cm	40.2g	サヌカイト	
333	S R02	石庖丁	現存長 7.3cm	最大幅 4.2cm	最大厚 0.7cm	22.2g	サヌカイト	
334	S R02	石鏃	現存長25.5cm	最大幅14.2cm	最大厚 2.5cm	782.1g	サヌカイト	
335	S R02	石斧	現存長 5.6cm	最大幅 5.1cm	最大厚 1.0cm	34.6g	サヌカイト	
336	S R02	削器	現存長10.9cm	最大幅 7.1cm	最大厚 1.5cm	132.5g	サヌカイト	
337	S R02	削器	現存長14.2cm	最大幅 5.7cm	最大厚 1.8cm	144.7g	サヌカイト	
338	S R02	削器	現存長 8.7cm	最大幅 6.1cm	最大厚 1.4cm	86.9g	サヌカイト	
339	S R02	削器	現存長 8.3cm	最大幅 4.0cm	最大厚 0.8cm	33.4g	サヌカイト	
340	S R02	削器	現存長 7.3cm	最大幅 5.8cm	最大厚 0.8cm	33.3g	サヌカイト	
341	S R02	削器	現存長 5.9cm	最大幅 6.1cm	最大厚 1.4cm	60.7g	サヌカイト	
342	S R02	削器	現存長 6.7cm	最大幅 3.5cm	最大厚 0.6cm	14.4g	サヌカイト	
343	S R02	削器	現存長 6.7cm	最大幅 3.8cm	最大厚 1.3cm	31.3g	サヌカイト	
344	S R02	削器	現存長 5.1cm	最大幅 3.9cm	最大厚 0.8cm	16.1g	サヌカイト	
345	S R02	槍先形先頭器	現存長11.1cm	最大幅 4.0cm	最大厚 0.8cm	37.1g	サヌカイト	
346	S R02	楔形石器	現存長 7.9cm	最大幅 7.2cm	最大厚 2.9cm	161.3g	サヌカイト	
347	S R02	磨石	現存長 6.2cm	最大幅 8.7cm	最大厚 7.2cm	560.1g	花崗閃緑岩ボーフィリー（流紋岩系斑岩） 各地で岩脈となって露	

番号	出土位置	種類	法	量	重量	材質・産出地	備考
						出している 段丘に露出	
348	S R02	石錘	現存長 6.5cm	最大幅 4.7cm	最大厚 3.4cm	139.7g	砂岩 推定産出地：阿讃山脈
349	S R02	砥石	現存長 9.9cm	最大幅 5.0cm	最大厚 1.7cm	128.1g	(斜方輝石)安山岩 五色台の安山岩と同系列
384	S R03	削器	現存長 8.1cm	最大幅 5.1cm	最大厚 0.5cm	35.0g	サヌカイト
513	S R04	打製石鏃	現存長 9.9cm	最大幅11.2cm	最大厚2.0cm	245.0g	サヌカイト
514	S R04	打製石斧	現存長 5.5cm	最大幅 3.8cm	最大厚 1.3cm	40.0g	サヌカイト
515	S R04	削器	現存長 4.1cm	最大幅 5.7cm	最大厚 1.5cm	25.0g	サヌカイト
516	S R04	削器	現存長 7.3cm	最大幅10.5cm	最大厚 1.2cm	90.0g	サヌカイト
517	S R04	石庖丁	現存長 4.9cm	最大幅 9.0cm	最大厚 1.7cm	90.0g	サヌカイト
518	S R04	石庖丁	現存長 4.1cm	最大厚 7.4cm	最大厚 1.0cm	35.0g	サヌカイト
519	S R04	石庖丁	現存長 4.1cm	最大幅 9.7cm	最大厚 0.8cm	40.0g	結晶片岩
520	S R04	磨石	現存長 5.6cm	最大幅 5.9cm	最大厚 4.3cm	170.0g	安山岩
549	包含層	横長剝片	現存長 2.7cm	最大幅 6.1cm	最大厚 0.7cm	10.7g	サヌカイト
550	包含層	石鏃	現存長 1.7cm	最大幅 1.8cm	最大厚 0.3cm	0.6g	サヌカイト
551	包含層	石鏃	現存長 2.5cm	最大幅 1.4cm	最大厚 0.3cm	1.1g	サヌカイト
552	包含層	石庖丁	現存長 4.0cm	最大幅 3.9cm	最大厚 1.1cm	16.8g	サヌカイト
553	包含層	石庖丁	現存長 5.3cm	最大幅 4.7cm	最大厚 1.1cm	34.8g	サヌカイト
554	包含層	石庖丁	現存長 2.9cm	最大幅 7.9cm	最大厚 0.7cm	23.3g	サヌカイト
555	包含層	石庖丁	現存長 8.1cm	最大幅 5.9cm	最大厚 0.9cm	52.2g	サヌカイト
556	包含層	石庖丁	現存長 4.4cm	最大幅 6.7cm	最大厚 1.2cm	45.0g	サヌカイト
557	包含層	石庖丁	現存長 4.3cm	最大幅 4.7cm	最大厚 1.0cm	15.0g	サヌカイト
558	包含層	石庖丁	現存長 4.6cm	最大幅 5.3cm	最大厚 1.1cm	30.0g	サヌカイト
559	包含層	石庖丁	現存長 4.3cm	最大幅 5.0cm	最大厚 0.9cm	25.0g	サヌカイト
560	包含層	石庖丁	現存長 4.5cm	最大幅 7.8cm	最大厚 1.0cm	45.0g	結晶片岩
561	包含層	石庖丁	現存長 3.6cm	最大幅 5.0cm	最大厚 0.7cm	25.0g	サヌカイト
562	包含層	石庖丁	現存長 5.6cm	最大幅 4.6cm	最大厚 1.0cm	45.0g	サヌカイト
563	包含層	石庖丁	現存長 3.5cm	最大幅 4.8cm	最大厚 0.6cm	10.0g	サヌカイト
564	包含層	石庖丁	現存長 4.6cm	最大幅 4.7cm	最大厚 1.0cm	25.0g	サヌカイト
565	包含層	石庖丁	現存長 3.9cm	最大幅 4.2cm	最大厚 0.5cm	10.0g	結晶片岩
566	包含層	石鏃	現存長 5.9cm	最大幅 5.9cm	最大厚 1.0cm	44.2g	サヌカイト
567	包含層	打製石斧	現存長 5.7cm	最大幅 3.5cm	最大厚 1.5cm	32.4g	サヌカイト
568	包含層	打製石斧	現存長 5.5cm	最大幅 3.7cm	最大厚 1.0cm	25.4g	サヌカイト
569	包含層	打製石斧	現存長 6.1cm	最大幅 3.6cm	最大厚 1.1cm	25.7g	サヌカイト
570	包含層	打製石斧	現存長 9.1cm	最大幅 5.3cm	最大厚 1.6cm	75.0g	サヌカイト
571	包含層	打製石斧	現存長 5.6cm	最大幅 5.3cm	最大厚 1.5cm	50.0g	サヌカイト
572	包含層	打製石斧	現存長 3.8cm	最大幅 4.9cm	最大厚 1.3cm	20.0g	サヌカイト
573	包含層	打製石斧	現存長 6.4cm	最大幅 5.7cm	最大厚 1.5cm	65.0g	サヌカイト
574	包含層	削器	現存長 9.8cm	最大幅 5.7cm	最大厚 1.8cm	89.5g	サヌカイト
575	包含層	削器	現存長 9.3cm	最大幅 5.9cm	最大厚 1.0cm	56.0g	サヌカイト
576	包含層	削器	現存長 7.0cm	最大幅 4.4cm	最大厚 0.5cm	14.4g	サヌカイト
577	包含層	楔形石器	現存長 3.8cm	最大幅 2.9cm	最大厚 1.0cm	12.8g	サヌカイト
578	包含層	削器	現存長 8.3cm	最大幅 7.8cm	最大厚 1.1cm	85.0g	サヌカイト
579	包含層	石鏃	現存長 5.8cm	最大幅 3.9cm	最大厚 0.6cm	10.0g	サヌカイト

番号	出土位置	種類	法	量	重量	材質・産出地	備考
580	包含層	楔形石器	現存長 3.9cm	最大幅 2.0cm	最大厚 1.5cm	16.8g	サヌカイト
581	包含層	砥石	現存長 4.2cm	最大幅 2.1cm	最大厚 1.5cm	19.9g	流紋岩 推定産出地：阿讃山脈
582	包含層	石錘	現存長 9.4cm	最大幅 9.4cm	最大厚 2.3cm	254.7g	砂岩 推定産出地：阿讃山脈
583	包含層	磨石	現存長 5.0cm	最大幅 8.5cm	最大厚 5.0cm	314.0g	花崗閃緑岩ポーフィリー（流紋岩系斑岩）各地で岩脈となって露出している 段丘に露出
584	包含層	砥石	現存長29.5cm	最大幅11.4cm	最大厚10.5cm	4578.0g	砂岩 推定産出地：阿讃山脈
585	包含層	砥石	現存長10.4cm	最大幅 4.7cm	最大厚 3.5cm	235.0g	安山岩
586	包含層	敲石	現存長11.1cm	最大幅 8.5cm	最大厚 4.7cm	680.0g	安山岩
671	S X 02	打製石斧	現存長 6.3cm	最大幅 4.8cm	最大厚 1.6cm	60.0g	サヌカイト
672	S X 02	打製石斧	現存長 6.0cm	最大幅 5.0cm	最大厚 1.1cm	30.0g	サヌカイト
673	S X 02	不明	現存長 4.0cm	最大幅 3.1cm	最大厚 0.7cm	10.0g	サヌカイト
674	S X 02	打製石斧	現存長12.2cm	最大幅 4.7cm	最大厚 3.1cm	185.0g	サヌカイト
675	S X 02	打製石斧	現存長 5.2cm	最大幅 4.9cm	最大厚 1.2cm	25.0g	サヌカイト
676	S X 02	打製石斧	現存長 3.6cm	最大幅 5.0cm	最大厚 1.5cm	30.0g	サヌカイト
677	S X 02	削器	現存長 5.6cm	最大幅11.4cm	最大厚 1.9cm	140.0g	サヌカイト
678	S X 02	削器	現存長 5.9cm	最大幅 4.6cm	最大厚 1.1cm	35.0g	サヌカイト
679	S X 02	石庖丁	現存長 5.0cm	最大幅 5.5cm	最大厚 1.5cm	45.0g	サヌカイト
680	S X 02	石庖丁	現存長 3.2cm	最大幅 6.7cm	最大厚 0.5cm	10.0g	サヌカイト
681	S X 02	石庖丁	現存長 4.1cm	最大幅 5.0cm	最大厚 1.3cm	25.0g	サヌカイト
682	S X 02	石鏃	現存長 4.3cm	最大幅 2.3cm	最大厚 0.4cm	5.0g	サヌカイト
683	S X 02	石鏃	現存長 2.3cm	最大幅 1.3cm	最大厚 0.3cm	1.0g	サヌカイト
684	S X 02	石鏃	現存長 2.1cm	最大幅 1.4cm	最大厚 0.3cm	0.7g	サヌカイト
685	S X 02	石鏃	現存長 1.9cm	最大幅 1.7cm	最大厚 0.2cm	0.5g	サヌカイト
686	S X 02	敲石	現存長 8.8cm	最大幅 6.5cm	最大厚 5.4cm	440.0g	安山岩
687	S X 02	敲石	現存長21.4cm	最大幅 7.3cm	最大厚 6.1cm	1540.0g	砂岩
688	S X 02	敲石	現存長 6.9cm	最大幅 2.4cm	最大厚 1.7cm	45.0g	安山岩
689	S X 02	敲石	現存長 4.8cm	最大幅 7.8cm	最大厚 5.2cm	280.0g	花崗岩
690	S X 02	砥石	現存長 9.2cm	最大幅 4.6cm	最大厚 3.0cm	170.0g	砂岩
691	S X 02	不明	現存長 7.7cm	最大幅 6.7cm	最大厚 1.4cm	100.0g	安山岩
692	S X 02	不明	現存長13.1cm	最大幅 7.5cm	最大厚 3.0cm	410.0g	花崗岩
722	S X 02	打製石斧	現存長 4.7cm	最大幅 3.5cm	最大厚 1.0cm	25.0g	サヌカイト
723	S X 02	打製石斧	現存長 8.7cm	最大幅 5.5cm	最大厚 2.6cm	120.0g	サヌカイト
724	S X 02	打製石斧	現存長 5.5cm	最大幅 6.5cm	最大厚 1.1cm	50.0g	サヌカイト
725	S X 02	石庖丁	現存長 4.9cm	最大幅 9.9cm	最大厚 1.1cm	80.0g	結晶片岩
726	S X 02	石鏃	現存長 4.2cm	最大幅 2.0cm	最大厚 0.4cm	5.0g	サヌカイト
727	S X 02	石鏃	現存長 3.0cm	最大幅 2.6cm	最大厚 0.4cm	5.0g	サヌカイト
728	S X 02	石庖丁	現存長 4.4cm	最大幅 5.5cm	最大厚 0.8cm	30.0g	サヌカイト
729	S X 02	敲石	現存長18.8cm	最大幅 6.0cm	最大厚 5.2cm	765.0g	砂岩
754	S D 13	削器	現存長 7.5cm	最大幅 3.7cm	最大厚 1.4cm	35.0g	サヌカイト
797	S D 14	石庖丁	現存長 6.7cm	最大幅 5.5cm	最大厚 1.3cm	55.0g	サヌカイト
877	S D 15	石鏃	現存長 5.6cm	最大幅 1.8cm	最大厚 0.6cm	5.0g	サヌカイト
981	S H 03	勾玉	現存長 3.6cm	最大幅 2.4cm	最大厚 0.4cm	5.5g	滑石
1003	S H 05	敲石	現存長18.3cm	最大幅 5.5cm	最大厚 4.2cm	570.0g	砂岩

番号	出土位置	種類	法	量	重量	材質・産出地	備考	
1014	S H06	勾玉	現存長 1.7cm	最大幅 1.1cm	最大厚 0.8cm	0.9g	琥珀	
1031	S D21	石鏃	現存長 1.4cm	最大幅 1.6cm	最大厚 0.3cm	0.7g	サヌカイト	
1068	包含層	紡錘車	現存長 4.6cm	最大幅 4.9cm	最大幅 1.3cm	35.0g	滑石	
1095	S D34	打製石斧	現存長 4.1cm	最大幅 5.2cm	最大厚 1.0cm	25.0g	サヌカイト	
1096	S D34	石庖丁	現存長 4.5cm	最大幅 4.1cm	最大厚 1.5cm	40.0g	サヌカイト	
1223	S K32	不明	現存長11.2cm	最大幅 8.6cm	最大厚 2.3cm	370.0g	安山岩	



第14表 木器観察表

番号	出土位置	種類	法 量	木取り	材 質	備 考
385	S R 03	横槌	現存長 26.6cm 最大幅 9.8cm 最大厚 9.2cm	芯持材		
386	S R 03	杭	現存長 43.8cm 最大幅 6.7cm 最大厚 5.4cm	芯持材		
387	S R 03	板材 (不明)	現存長 30.5cm 最大幅 2.5cm 最大厚 2.0cm	征目取		
388	S R 03	板材 (不明)	現存長 22.3cm 最大幅 2.9cm 最大厚 1.5cm	征目取		
389	S R 03	板材 (不明)	現存長 58.9cm 最大幅 4.3cm 最大厚 1.4cm	征目取		
390	S R 03	曲物	現存長 25.4cm 最大幅 2.8cm 最大厚 0.2cm	板目取	ヒノキ属の一種	
395	S R 03	板	現存長 28.0cm 最大幅 4.2cm 最大厚 45.0cm	板目取		ほぞ穴
396	S R 03	板 (鍬?)	現存長 40.4cm 最大幅 19.0cm 最大厚 3.2cm	板目取		
397	S R 03	不明	現存長 15.3cm 最大幅 11.0cm 最大厚 3.2cm	征目取		
398	S R 03	建築部材	現存長 8.4cm 最大幅 2.5cm 最大厚 0.9cm	板目取		ほぞ穴
399	S R 03	木材	現存長 15.6cm 最大幅 2.0cm 最大厚 2.3cm	板目取		
400	S R 03	板材?	現存長 23.0cm 最大幅 3.1cm 最大厚 8.0cm	征目取		
401	S R 03	板材?	現存長 13.5cm 最大幅 4.0cm 最大厚 7.0cm	征目取		円孔
402	S R 03	板材 (不明)	現存長 29.0cm 最大幅 5.9cm 最大厚 2.1cm	板目取		
403	S R 03	籠状木製品?	現存長 17.6cm 最大幅 4.2cm 最大厚 0.7cm	征目取		
404	S R 03	鍬	現存長 32.4cm 最大幅 8.2cm 最大厚 1.2cm	征目取		
521	S R 04	茄子形木製品 (鍬身)	現存長 35.4cm 最大幅 15.3cm 最大厚 2.2cm	征目取		
522	S R 04	梯子	現存長 30.1cm 最大幅 12.7cm 最大厚 13.1cm	芯持材		
523	S R 04	独楽状木製品	現存長 4.4cm 最大幅 5.7cm 最大厚 4.4cm	芯持材		
524	S R 04	板材 (不明)	現存長 26.0cm 最大幅 16.8cm 最大厚 2.1cm	征目取		
525	S R 04	板材	現存長 19.0cm 最大幅 11.0cm 最大厚 2.0cm	板目取		
526	S R 04	杭	現存長 28.4cm 最大幅 2.1cm 最大厚 2.1cm	芯去材		
527	S R 04	杭	現存長 128.6cm 最大幅 4.8cm 最大厚 5.0cm	芯持材		
694	S X 02	底板	現存長 10.9cm 最大幅 2.0cm 最大厚 0.4cm	板目取		円孔
741	S X 02	茄子形木製品 (柄)?	現存長 34.0cm 最大幅 6.7cm 最大厚 2.7cm	征目取		
742	S X 02	不明 (柄)	現存長 30.9cm 最大幅 5.0cm 最大厚 2.5cm	征目取	コウヤマキ	
878	S D 15	杭	現存長 15.1cm 最大幅 6.5cm 最大厚 5.6cm	芯持材		
914	S D 17	杭	現存長 33.0cm 最大幅 2.9cm 最大厚 2.1cm	芯持材		
916	S D 14, 15, 18, 19	建築部材?	現存長 125.7cm 最大幅 11.0cm 最大厚 5.9cm	板目取		ほぞ穴
917	S D 14, 15, 18, 19	木槌	現存長 345.0cm 最大幅 32.5cm 最大厚 1.1cm	芯去材		
972	S H 02	柱材	現存長 31.4cm 最大幅 7.0cm 最大厚 6.0cm	芯持材		
973	S H 02	柱材	現存長 16.4cm 最大幅 6.2cm 最大厚 6.3cm	芯持材		
1004	S H 05	柱材	現存長 51.2cm 最大幅 13.4cm 最大厚 11.3cm	芯持材		
1005	S H 05	柱材	現存長 41.5cm 最大幅 11.3cm 最大厚 11.9cm	芯持材	コナラ属コナラ亜属フタギ節の 一種	
1016	S B 12	柱材	現存長 33.3cm 最大幅 13.4cm 最大厚 11.1cm	芯持材	コナラ属コナラ亜属フタギ節の 一種	
1017	S B 12	柱材	現存長 33.4cm 最大幅 10.1cm 最大厚 8.5cm	芯持材		
1018	S B 12	柱材	現存長 27.1cm 最大幅 9.8cm 最大厚 6.8cm	芯持材		
1127	S R 05	斎串	現存長 11.8cm 最大幅 2.1cm 最大厚 0.2cm	板目取		

番号	出土位置	種類	法 量			木取り	材 質	備 考
1128	S R05	齋串	現存長 11.0cm	最大幅 1.0cm	最大厚 0.1cm	不明		
1129	S R05	齋串	現存長 6.8cm	最大幅 1.4cm	最大厚 0.2cm	板目取		
1130	S R05	齋串	現存長 4.4cm	最大幅 1.6cm	最大厚 0.3cm	不明		
1131	S R05	齋串	現存長 23.8cm	最大幅 1.8cm	最大厚 0.2cm	不明		
1132	S R05	齋串	現存長 29.8cm	最大幅 6.7cm	最大厚 0.6cm	板目取		
1133	S R05	齋串	現存長 5.7cm	最大幅 1.7cm	最大厚 0.4cm	板目取		
1134	S R05	齋串	現存長 6.0cm	最大幅 2.0cm	最大厚 0.2cm	板目取		
1135	S R05	齋串	現存長 10.0cm	最大幅 3.7cm	最大厚 0.7cm	板目取		
1136	S R05	齋串	現存長 4.8cm	最大幅 1.3cm	最大厚 0.5cm	板目取		
1137	S R05	齋串	現存長 24.3cm	最大幅 1.5cm	最大厚 0.4cm	板目取		
1138	S R05	齋串	現存長 18.9cm	最大幅 0.7cm	最大厚 0.4cm	不明		
1139	S R05	齋串	現存長 7.6cm	最大幅 0.5cm	最大厚 0.4cm	征目取		
1140	S R05	齋串	現存長 11.5cm	最大幅 1.5cm	最大厚 0.2cm	板目取		
1141	S R05	齋串	現存長 6.0cm	最大幅 0.9cm	最大厚 0.2cm	不明		
1142	S R05	齋串	現存長 4.9cm	最大幅 0.7cm	最大厚 0.3cm	板目取		
1143	S R05	櫛	現存長 3.0cm	最大幅 2.5cm	最大厚 0.8cm	不明		
1144	S R05	櫛	現存長 2.0cm	最大幅 1.3cm	最大厚 0.6cm	不明	ツゲ	
1145	S R05	底板	径 16.6cm		最大厚 0.6cm	板目取		一部炭化
1146	S R05	板材	現存長 9.9cm	最大幅 3.6cm	最大厚 0.3cm	板目取		
1147	S R05	板材	現存長 9.7cm	最大幅 3.3cm	最大厚 0.4cm	板目取		
1148	S R05	板材	現存長 9.4cm	最大幅 1.9cm	最大厚 0.2cm	板目取		
1149	S R05	板材	現存長 8.5cm	最大幅 1.9cm	最大厚 0.2cm	不明		
1150	S R05	板材	現存長 9.4cm	最大幅 1.5cm	最大厚 0.3cm	板目取		
1151	S R05	板材	現存長 9.6cm	最大幅 1.5cm	最大厚 0.2cm	不明		
1152	S R05	板材	現存長 13.0cm	最大幅 1.4cm	最大厚 0.2cm	不明		
1153	S R05	板材	現存長 5.8cm	最大幅 1.2cm	最大厚 0.2cm	不明		
1154	S R05	板材	現存長 5.3cm	最大幅 0.8cm	最大厚 0.3cm	板目取		
1155	S R05	板材	現存長 5.2cm	最大幅 2.2cm	最大厚 0.3cm	板目取		
1156	S R05	板材	現存長 11.2cm	最大幅 1.0cm	最大厚 0.3cm	板目取		
1157	S R05	板材	現存長 7.5cm	最大幅 1.3cm	最大厚 0.1cm	不明		
1158	S R05	板材	現存長 7.2cm	最大幅 1.0cm	最大厚 0.2cm	板目取		
1159	S R05	板材	現存長 21.1cm	最大幅 5.7cm	最大厚 2.1cm	板目取		
1160	S R05	板材	現存長 26.0cm	最大幅 4.3cm	最大厚 1.8cm	板目取		
1161	S R05	板材	現存長 26.0cm	最大幅 5.4cm	最大厚 3.6cm	芯去材		
1162	S R05	板材	現存長 59.8cm	最大幅 8.6cm	最大厚 6.2cm	芯去材		
1163	S R05	棒	現存長 29.5cm	径 1.6cm		芯持材		
1164	S R05	杭	現存長 20.6cm	最大幅 3.2cm	最大厚 3.2cm	芯持材		

# 版 図



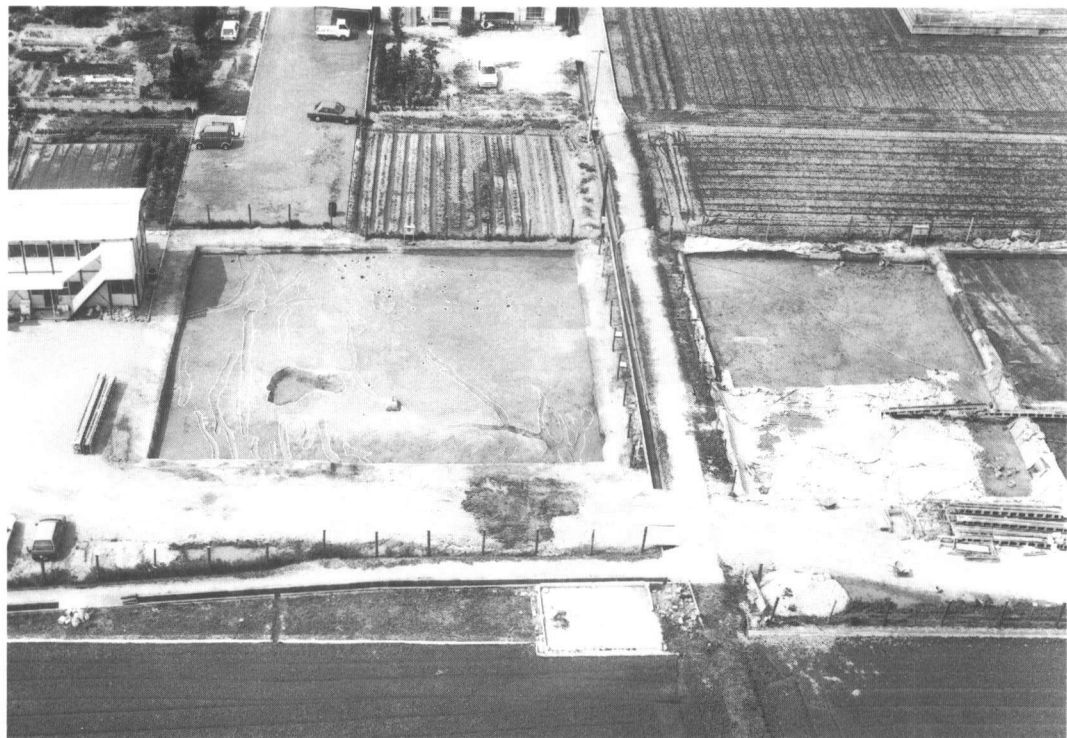


写真1 A地区全景(南より)

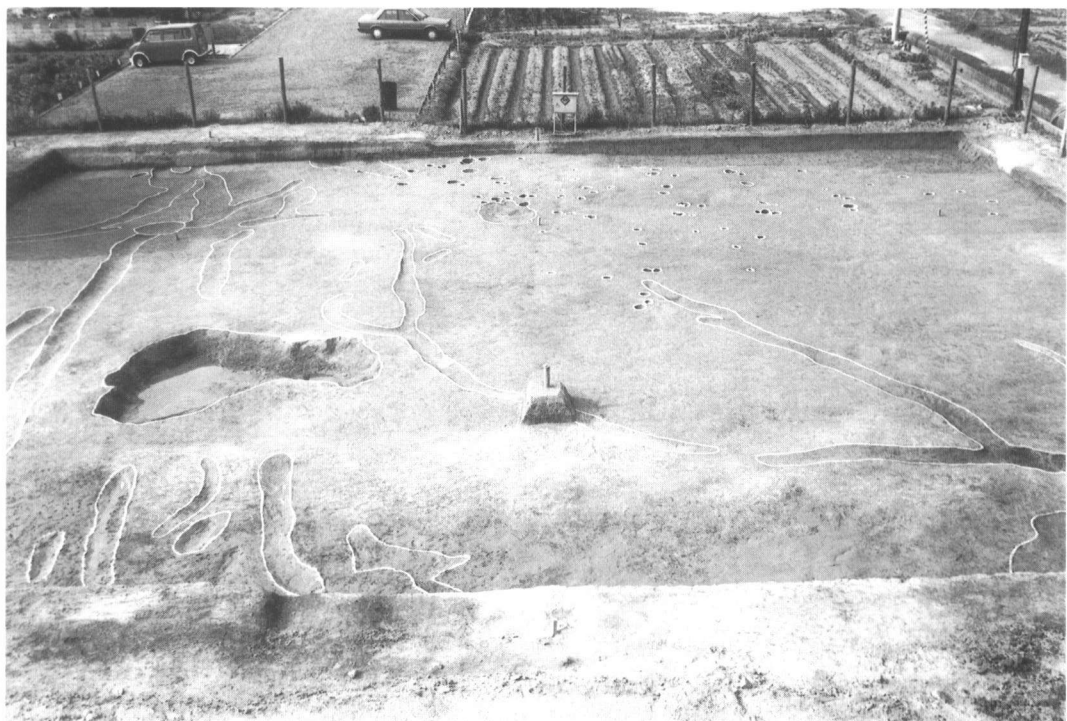


写真2 A地区全景(南より)